小阪合遺跡

—八尾市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—

〈昭和61年度第８次　昭和62年度第10・13次　昭和63年度第16次調査報告〉

(本文編)

1990年

(財)八尾市文化財調査研究会

小　阪　合　遺　跡

—八尾市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—

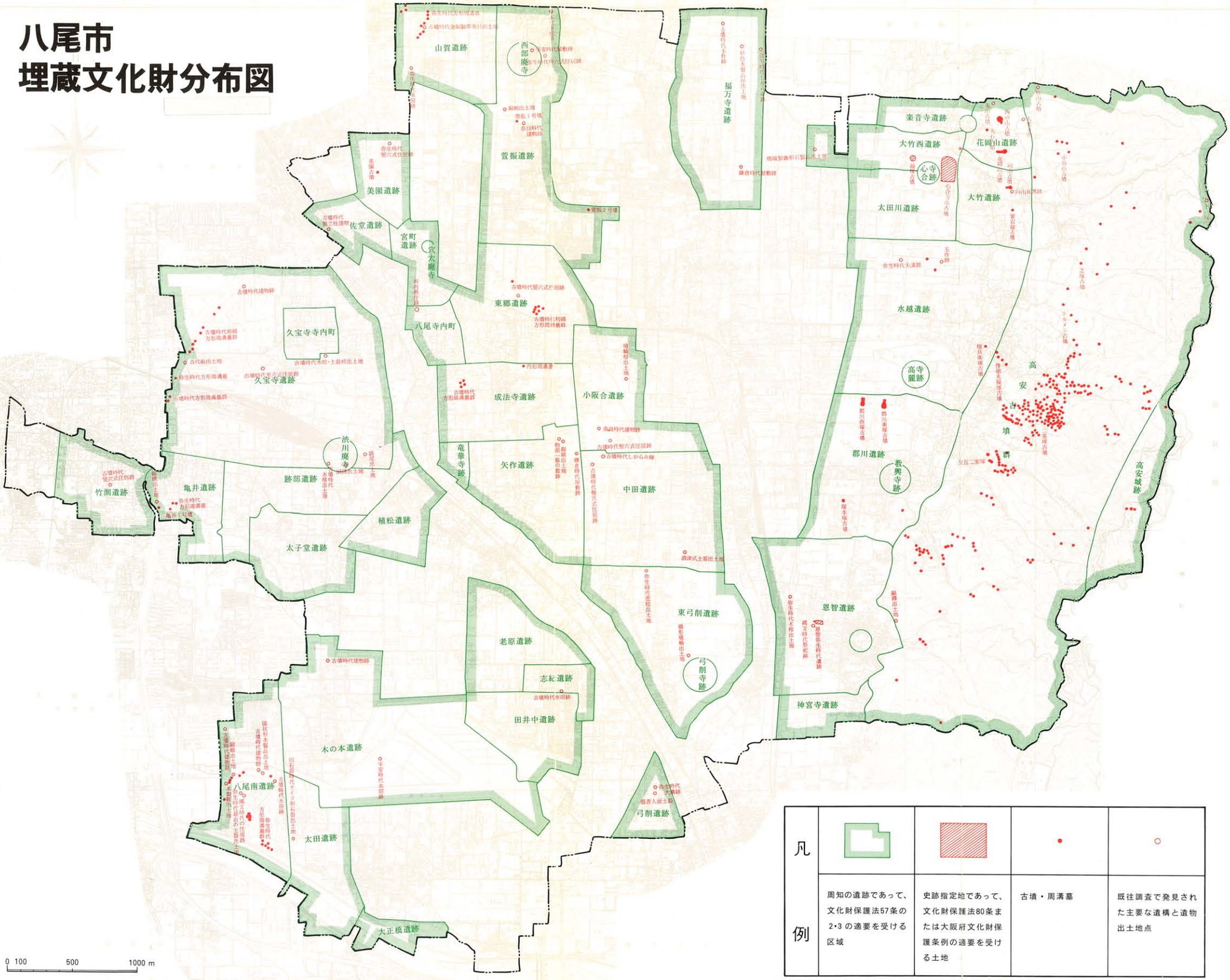
〈昭和61年度第８次　昭和62年度第10・13次　昭和63年度第16次調査報告〉

(本文編)

1990年

(財)八尾市文化財調査研究会

八尾市
埋蔵文化財分布図



凡例				
	周知の遺跡であって、文化財保護法57条の2・3の適要を受ける区域	史跡指定地であって、文化財保護法80条または大阪府文化財保護条例の適要を受ける土地	古墳・周溝墓	既往調査で発見された主要な遺構と遺物出土地点

序　　文

八尾市は、河内平野の中央部よりやや南寄りに位置し、西に生駒山脈の景観を見る温暖で肥沃な土壌を有する地域であり、古代から人々が生活の場として住みはじめたところです。それらの先人が残した大切な遺産（遺構・遺物）が多く存在しております。

今回の報告は、小阪合遺跡範囲内で昭和57年度より実施してきました八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業の幹線通路・区画街路・公共施設等の建設工事に伴う発掘調査であります。昭和61年度第８次調査、昭和62年度第10・第13次調査、昭和63年度第16次調査の結果報告を集録したものであります。小阪合遺跡では、当区画整理事業に伴う発掘調査の結果報告を現在までに５冊刊行しました。今回が最後報告となり、当遺跡の総括的なものとしてまとめました。その成果は本市の政治、文化の歴止を研究する上で重要な資料になるものと確信しております。この報告書が、学問の発展と文化財保護への啓発に広く活用されることを願うものであります。

当遺跡は八尾市の中央部にあたり、古くは旧大和川の幾多の洪水等により沖積された河内平野上に位置します。現在までの発掘調査によって弥生時代中期～中近世に至る遺構・遺物が多量に検出しており、当遺跡の変遷が明らかにされつつあります。

ここに改めて、事業者をはじめとし関係各位の文化財保護の立場から充分ご理解賜わり、ご協力いただきましたことを、ここに感謝を申し上げます。

今後、この書が広く文化財保護にご活用していただければ、この上もない幸せに存じます。共に、当調査研究会に対して尚一層とご協力を賜わりますようにお願い申し上げます。

なお、本書作成にあたって、御協力・御指導をいただいた関係各位に感謝の意を表します。

平成２年３月

財団法人　八尾市文化財調査研究会

理事長　　福　島　　孝

例　　言

1．本書は、大阪府八尾市南小阪合町・青山町・山本町南に所在する八尾都市計画事業南小阪合土地区画事業に伴う昭和61・62・63年度の小阪合遺跡の第８・10・13・16次調査の報告書である。

1．本書で報告する発掘調査は、八尾市教育委員会の指示のもとで財団法人八尾市文化調査研究会が八尾都市整備室南小阪合土地区画整理事務所の委託を受けて実施したものである。

1．本書に要した費用は、すべて八尾都市整備室南小阪合土地区画整理事務所が負担した。

1．本調査は、昭和61年８月１日～同年12月１日の期間で実施した第８次調査、昭和62年10月１日～同年11月31日の期間で実施した第10次調査、昭和62年12月１日～同年28の期間で実施した第13次調査、昭和63年８月１日～同年10月31日で実施した第16次調査の発掘調査である。出土遺物の整理作業及び報文作成業務は、昭和64年１月６日～平成元年３月18日、平成元年８月１日～平成２年３月10日の期間で実施した。

1．本調査並びに本報告に関係した者は下記のとおりである。

理事長　　山脇　悦司（昭和62年８月６日まで）
　　福島　　孝（昭和62年８月７日～平成２年３月現在）
事務局長　市森　管萱（昭和61年４月１日～昭和63年３月31日）
　　堀内　　馨（昭和63年４月１日～平成元年11月10日故）
　　森田　　（平成２年１月５日～平成２年３月現在）
事務員　　富田　　よしの
　　永井　　暁子

1・本調査の各年度の参加諸氏は、表のとおりである。

1．本調査に関わる労務関係は、第８次調査－㈱島田組、第10次調査－㈱坂上工務店、第13次調査－㈱辻本工務店、第16次調査－㈱中川建鉄が請け負った。

1・本書の執筆は高萩が負担したが、出土遺物観察表は村田行った。

1・本書の作成に当たり、遺物写真撮影は高萩、トレースは岩本・村田が行った。

1・全体編集構成は、全員が共同で行った。

本　文　目　次

八尾市埋蔵文化財分布図

序文

例言

第１章　はじめに …… 1

第２章　調査の結果 …… 3

第３章　遺跡の概要 …… 6

　第１節　調査の成果 …… 6

第４章　第８次調査 …… 11

　第１節　調査の概要 …… 11

　第２節　第１調査区 …… 17

　　Ⅰ　基本層序 …… 14

　　Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 17

　第３節　第２調査区 …… 42

　　Ⅰ　基本層序 …… 42

　　Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 47

　第４節　第３調査区 …… 85

　　Ⅰ　基本層序 …… 85

　　Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 86

　第５節　第４調査区 …… 90

　　Ⅰ　基本層序 …… 90

　　Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 90

　第６節　第５調査区 …… 120

　　Ⅰ　基本層序 …… 120

　　Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 120

　第７節　出土遺物観察表 …… 136

第５章　第10次調査 …… 204

　第１節　調査の概要 …… 204

　第２節　第１調査区 …… 208

　　Ⅰ　基本層序 …… 208

Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 208
第３節　第２調査区 …… 214
Ⅰ　基本層序 …… 214
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 214
第４節　第３調査区 …… 234
Ⅰ　基本層序 …… 234
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 234
第５節　節４調査区 …… 240
Ⅰ　基本層序 …… 240
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 242
第６節　第５調査区 …… 243
Ⅰ　基本層序 …… 243
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 243
第７節　第６調査区 …… 247
Ⅰ　基本層序 …… 247
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 247
第８節　第７調査区 …… 250
Ⅰ　基本層序 …… 250
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 250
第９節　第８調査区 …… 258
Ⅰ　基本層序 …… 258
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 258
第10節　第９調査区 …… 265
Ⅰ　基本層序 …… 265
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 265
第11節　第11調査区 …… 284
Ⅰ　基本層序 …… 284
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 284
第12節　出土遺物観察表 …… 291
第６章　第13次調査区 …… 320
第１節　調査の概要 …… 320
第２節　調査の結果 …… 322

Ⅰ　基本層序 …… 322
Ⅱ　第1調査区 …… 331
Ⅲ　第2調査区 …… 341
Ⅳ　第3調査区 …… 352
第3節　出土遺物観察表 …… 368
第7章　第16次調査 …… 390
第1節　調査の概要 …… 390
第2節　第1調査区 …… 392
Ⅰ　基本層序 …… 392
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 392
第3節　第2調査区 …… 394
Ⅰ　基本層序 …… 394
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 394
第4節　第3調査区 …… 397
Ⅰ　基本層序 …… 397
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 397
第5節　第4調査区 …… 400
Ⅰ　基本層序 …… 400
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 403
第6節　第5調査区 …… 405
Ⅰ　基本層序 …… 405
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 406
第7節　第6調査区 …… 406
Ⅰ　基本層序 …… 406
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 407
第8節　第7調査区 …… 412
Ⅰ　基本層序 …… 412
Ⅱ　検出遺構・出土遺物 …… 412
第9節　出土遺物観察表 …… 415
第8章　土器胎土の砂礫 …… 418
第9章　まとめ …… 425

挿　入　目　次

第１図　調査地位図 …… 2
第２図　調査区配置図及び区割図 …… 4
＜第８次調査＞
第３図　遺構配置図１ …… 12
第４図　遺構配置図２ …… 13
＜第８次調査　第１調査区＞
第５図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 14
第６図　第１調査区遺構平面図 …… 15.16
第７図　ＳＫ１平断面図 …… 17
第８図　ＳＫ１出土遺物実測図 …… 17
第９図　ＳＫ３出土遺物実測図 …… 17
第10図　ＳＫ４出土遺物実測図 …… 18
第11図　ＳＫ５出土遺物実測図 …… 18
第12図　ＳＫ６平面図 …… 19
第13図　ＳＫ６出土遺物実測図 …… 20
第14図　ＳＤ２出土遺物実測図 …… 21
第15図　ＳＥ１平断面図 …… 22
第16図　ＳＥ１出土遺物実測図 …… 23
第17図　ＳＥ２平断面図 …… 23
第18図　ＳＥ３平断面図 …… 24
第19図　ＳＥ３出土遺物実測図 …… 24
第20図　ＳＥ４平断面図 …… 25
第21図　ＳＥ５平断面図 …… 25
第22図　ＳＥ６平断面図 …… 25
第23図　ＳＥ６出土遺物実測図 …… 26
第24図　ＳＥ７平断面図 …… 26
第25図　ＳＥ８平断面図 …… 26
第26図　ＳＥ９平断面図 …… 27
第27図　ＳＥ８出土遺物実測図 …… 28
第28図　ＳＥ９出土遺物実測図 …… 28

第29図　ＳＥ10平断面図 …… 29
第30図　ＳＥ10出土遺物実測図 …… 30
第31図　ＳＥ７出土遺物実測図 …… 30
第32図　ＳＰ55平断面図 …… 31
第33図　ＳＰ69（86）・ＳＰ２（87）・ＳＰ120（88）出土遺物実測図 …… 31
第34図　遺構に伴わない出土遺物実測図１ …… 38
第35図　遺構に伴わない出土遺物実測図２ …… 39
第36図　遺構に伴わない出土遺物実測図３ …… 40
第37図　遺構に伴わない出土遺物実測図４ …… 41
＜第８次調査　第２調査区＞
第38図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 42
第39図　第２調査区北部遺構平面図 …… 43.44
第40図　第２調査区南部遺構平面図 …… 45.46
第41図　ＳＤ１出土遺物実測図 …… 48
第42図　ＳＤ１検出遺物平断面図及び断面図 …… 49.50
第43図　ＳＥ１平断面図 …… 51
第44図　ＳＥ１井戸枠実測図１ …… 52
第45図　ＳＥ１井戸枠実測図２ …… 53
第46図　ＳＰ４（20）・ＳＰ６（19）出土遺物実測図 …… 56
第47図　ＳＫ３平断面図 …… 56
第48図　ＳＫ４平断面図 …… 56
第49図　ＳＫ３出土遺物実測図 …… 57
第50図　ＳＫ４出土遺物実測図 …… 57
第51図　ＳＤ３出土遺物実測図１ …… 58
第52図　ＳＤ３出土遺物実測図２ …… 59
第53図　ＳＤ３出土遺物実測図３ …… 60
第54図　ＳＤ３平断面図 …… 61
第55図　ＳＥ２平断面図 …… 63
第56図　ＳＥ２出土遺物実測図 …… 64
第57図　ＳＥ３平断面図 …… 65
第58図　ＳＥ３出土遺物実測図１ …… 66
第59図　ＳＥ３出土遺物実測図２ …… 67

第60図　ＳＰ31（146）・ＳＰ58（147）出土遺物実測図 …… 68
第61図　ＳＰ59出土遺物実測図 …… 70
第62図　石集積１平断面図 …… 70
第63図　石集積１出土遺物実測図 …… 71
第64図　池状遺構１出土遺物実測図１ …… 72
第65図　池状遺構１検出遺物平断面図 …… 73.74
第66図　池状遺構１出土遺物実測図２ …… 75
第67図　池状遺構１出土遺物実測図３ …… 76
第68図　池状遺構１出土遺物実測図４ …… 77
第69図　遺構に伴わない出土遺物実測図１ …… 79
第70図　遺構に伴わない出土遺物実測図２ …… 80
第71図　遺構に伴わない出土遺物実測図３ …… 81
第72図　遺構に伴わない出土遺物実測図４ …… 82
第73図　遺構に伴わない出土遺物実測図５ …… 83
第74図　遺構に伴わない出土遺物実測図６ …… 84
＜第８次調査　第３調査区＞
第75図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 85
第76図　第３調査区遺構平面図 …… 87.88
第77図　遺構に伴わない出土遺物実測図 …… 89
＜第８次調査　第４調査区＞
第78図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 90
第79図　第４調査区遺構平面図 …… 91.92
第80図　第４調査区遺構平面図 …… 93.94
第81図　ＳＫ４出土遺物実測図 …… 95
第82図　ＳＫ11検出遺物平面図及び断面図 …… 97
第83図　ＳＫ11出土遺物実測図１ …… 98
第84図　ＳＫ11出土遺物実測図２ …… 99
第85図　ＳＰ30（30）・ＳＰ31（31）・ＳＰ50（32）・ＳＰ４（33）・ＳＰ23（34）
出土遺物実測図 …… 99
第86図　ＳＤ１出土遺物実測図 …… 101
第87図　ＳＤ５検出遺物平面図及び断面図 …… 102
第88図　ＳＤ５出土遺物実測図１ …… 103

第89図　ＳＤ５出土遺物実測図２ …… 104
第90図　ＳＤ５出土遺物実測図３ …… 105
第91図　ＳＤ６検出遺物平断面図 …… 106
第92図　ＳＤ６出土遺物実測図１ …… 107
第93図　ＳＤ６出土遺物実測図２ …… 108
第94図　ＳＥ１平断面図 …… 109
第95図　ＳＥ１出土遺物実測図 …… 109
第96図　ＳＥ２平断面図 …… 110
第97図　ＳＥ２出土遺物実測図 …… 110
第98図　ＳＥ３平断面図 …… 111
第99図　ＳＥ３出土遺物及び井戸枠実測図 …… 112
第100図　ＳＥ４平断面図 …… 113
第101図　ＳＫ18平断面図 …… 114
第102図　遺構に伴わない出土遺物実測図１ …… 117
第103図　遺構に伴わない出土遺物実測図２ …… 118
第104図　遺構に伴わない出土遺物実測図３ …… 119
＜第８次調査　第５調査区＞
第105図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 120
第106図　第５調査区遺構平面図 …… 121.122
第107図　第５調査区遺構平面図 …… 123.124
第108図　ＳＫ１平断面図 …… 125
第109図　ＳＫ１出土遺物実測図 …… 126
第110図　ＳＫ２平断面図 …… 127
第111図　ＳＫ２出土遺物実測図 …… 127
第112図　ＳＫ３平断面図 …… 128
第113図　ＳＫ３出土遺物実測図 …… 128
第114図　ＳＫ４平断面図 …… 130
第115図　ＳＫ４出土遺物実測図 …… 130
第116図　ＳＫ５検出遺物平断面図 …… 131
第117図　ＳＫ５出土遺物実測図１ …… 132
第118図　ＳＫ５出土遺物実測図２ …… 133
第119図　石集積２平面図 …… 133

第120図　遺構に伴わない出土遺物 …… 135
＜第10次調査＞
第121図　遺構配置図１ …… 205
第122図　遺構配置図２ …… 206
第123図　遺構配置図３ …… 207
＜第10次調査　第１調査区＞
第124図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 208
第125図　第１調査区遺構平面図 …… 209.210
第126図　ＳＫ１平断面図 …… 211
第127図　ＳＥ１平断面図 …… 211
第128図　遺構に伴わない出土遺物実測図 …… 213
＜第10次調査　第２調査区＞
第129図　基本層序柱状図（Ｓ＝４／40） …… 214
第130図　第２調査区遺構平面図 …… 215.216
第131図　第２調査区遺構平面図 …… 217.218
第132図　ＳＷ１出土遺物実測図１ …… 220
第133図　ＳＷ１平面図 …… 221.222
第134図　ＳＷ１出土遺物実測図２ …… 223
第135図　ＳＷ１出土遺物実測図３ …… 224
第136図　ＳＷ１出土遺物実測図４ …… 225
第137図　河川１断面図 …… 226
第138図　河川１出土遺物実測図 …… 227
第139図　河川２断面図 …… 227
第140図　河川２出土遺物実測図 …… 228
第141図　河川３断面図 …… 229
第142図　河川４断面図 …… 230
第143図　河川４出土遺物実測図 …… 230
第144図　遺構に伴わない出土遺物実測図１ …… 232
第145図　遺構に伴わない出土遺物実測図２ …… 233
＜第10次調査　第３調査区＞
第146図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 234
第147図　第３調査区遺構平面図 …… 235.236

第148図　河川５断面図 …… 237
第149図　河川５出土遺物実測図 …… 237
第150図　河川６断面図 …… 238
第151図　ＳＫ３平断面図 …… 238
第152図　ＳＫ３出土遺物実測図 …… 239
第153図　ＳＤ39出土遺物実測図 …… 239
第154図　遺構に伴わない出土遺物実測図 …… 240
＜第10次調査　第４調査区＞
第155図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）
第156図　第４調査区遺構平面図 …… 241
第157図　遺構に伴わない出土遺物実測図 …… 242
＜第10次調査　第５調査区＞
第158図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 243
第159図　ＳＰ54出土遺物実測図 …… 244
第160図　ＳＰ56出土遺物実測図 …… 244
第161図　ＳＰ55出土遺物実測図 …… 244
第162図　第５調査区遺構平面図 …… 245.246
＜第10次調査　第６調査区＞
第163図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 247
第164図　第６調査区遺構平面図 …… 248
＜第10次調査　第７調査区＞
第165図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 250
第166図　第７調査区遺構平面図 …… 251.252
第167図　第７調査区遺構平面図 …… 253.254
第168図　河川７断面図 …… 255
第169図　河川７出土遺物実測図 …… 255
第170図　ＳＥ２平断面図 …… 256
＜第10次調査　第８調査区＞
第171図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 258
第172図　第８調査区遺構平面図 …… 259
第173図　ＳＫ４検出遺物平面図及び断面図 …… 260
第174図　ＳＫ４出土遺物実測図 …… 260

＜第10次調査　第９調査区＞
第175図　第９調査区遺構平面図 …… 261.262
第176図　第９調査区遺構平面図 …… 263.264
第177図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 265
第178図　ＳＫ６出土遺物実測図 …… 266
第179図　ＳＫ７平断面図 …… 266
第180図　ＳＫ５検出遺物平面図 …… 267
第181図　ＳＫ５出土遺物実測図 …… 268
第182図　ＳＫ８検出遺物平面図及び断面図 …… 269
第183図　ＳＫ８出土遺物実測図 …… 270
第184図　ＳＫ９平断面図 …… 271
第185図　ＳＫ11平断面図 …… 271
第186図　ＳＫ10平断面図 …… 271
第187図　ＳＫ12平断面図 …… 272
第188図　ＳＫ12出土遺物実測図 …… 272
第189図　ＳＤ70断面図 …… 273
第190図　ＳＤ70出土遺物実測図 …… 273
第191図　ＳＤ71断面図 …… 273
第192図　ＳＤ71出土遺物実測図 …… 274
第193図　ＳＤ73断面図 …… 274
第194図　ＳＤ73出土遺物実測図 …… 275
第195図　ＳＤ77出土遺物実測図 …… 275
第196図　ＳＤ78出土遺物実測図 …… 275
第197図　ＳＤ79出土遺物実測図 …… 276
第198図　第４層土器集積平面図 …… 278
第199図　遺構に伴わない出土遺物実測図１ …… 279
第200図　遺構に伴わない出土遺物実測図２ …… 280
第201図　遺構に伴わない出土遺物実測図３ …… 281
第202図　遺構に伴わない出土遺物実測図４ …… 282
第203図　遺構に伴わない出土遺物実測図５ …… 283
＜第10次調査　第10調査区＞
第204図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 284

第205図　ＳＰ11出土遺物実測図 …… 285
第206図　ＳＤ93平断面図 …… 285
第207図　第10調査区遺構平面図 …… 287.288
第208図　遺構に伴わない出土遺物実測図１ …… 289
第209図　遺構に伴わない出土遺物実測図２ …… 290
＜第13次調査＞
第210図　遺構配置図 …… 321
第211図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 322
第212図　第１調査区遺構平面図 …… 323.324
第213図　第２調査区遺構平面図 …… 325.326
第214図　第３調査区遺構平面図１ …… 327.328
第215図　第３調査区遺構平面図２ …… 329.330
＜第13次調査　第１調査区＞
第216図　ＳＷ１平断面図 …… 332
第217図　ＳＷ１出土遺物実測図 …… 333
第218図　ＳＫ４平断面図 …… 334
第219図　ＳＫ９出土遺物実測図 …… 335
第220図　ＳＰ68出土遺物実測図 …… 338
第221図　ＳＰ69出土遺物実測図 …… 338
第222図　ＳＰ10出土遺物実測図 …… 338
第223図　ＳＤ10出土遺物実測図 …… 338
第224図　遺構に伴わない出土遺物実測図１ …… 339
第225図　遺構に伴わない出土遺物実測図２ …… 340
＜第13次調査　第２調査区＞
第226図　ＳＰ34出土遺物実測図 …… 341
第227図　ＳＰ39出土遺物実測図 …… 342
第228図　ＳＤ６断面図 …… 343
第229図　ＳＤ６出土遺物実測図 …… 343
第230図　ＳＫ13平断面図 …… 344
第231図　ＳＫ13出土遺物実測図 …… 345
第232図　ＳＰ71平断面図 …… 346
第233図　ＳＫ17平断面図 …… 346

第234図　ＳＫ17出土遺物実測図 …… 347
第235図　ＳＰ69出土遺物実測図 …… 347
第236図　ＳＰ98出土遺物実測図 …… 347
第237図　ＳＰ79出土遺物実測図 …… 347
第238図　ＳＤ12出土遺物実測図 …… 347
第239図　遺構に伴わない出土遺物実測図１ …… 351
第240図　遺構に伴わない出土遺物実測図２ …… 352
＜第13次調査　第３調査区＞
第241図　ＳＫ18検出遺構平面図及び断面図 …… 354
第242図　ＳＫ18出土遺物実測図 …… 355
第243図　ＳＫ19平断面図 …… 356
第244図　ＳＫ19出土遺物実測図 …… 356
第245図　ＳＫ21平断面図 …… 357
第246図　ＳＫ21出土遺物実測図 …… 357
第247図　ＳＫ22平断面図 …… 357
第248図　ＳＫ22出土遺物実測図 …… 357
第249図　ＳＤ13検出遺物平面図及び断面図 …… 359
第250図　ＳＤ13出土遺物実測図 …… 360
第251図　ＳＤ35出土遺物実測図 …… 361
第252図　河川１断面図 …… 362
第253図　河川１出土遺物実測図１ …… 363
第254図　河川１出土遺物実測図２ …… 364
第255図　遺構に伴わない出土遺物実測図１ …… 366
第256図　遺構に伴わない出土遺物実測図２ …… 367
＜第16次調査＞
第257図　遺構配置図 …… 391
＜第16次調査　第１調査区＞
第258図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 392
第259図　第１調査区遺構平面図 …… 393
第260図　遺構に伴わない出土遺物実測図 …… 393
＜第16次調査　第２調査区＞
第261図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 394

第262図　第２調査区遺構平面図 …… 395
第263図　第２調査区遺構平面図 …… 396
＜第16次調査　第３調査区＞
第264図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 397
第265図　第３調査区遺構平面図 …… 398
第266図　河川３出土遺物実測図 …… 399
第267図　河川４出土遺物実測図 …… 399
第268図　遺構に伴わない出土遺物実測図 …… 400
＜第16次調査　第４調査区＞
第269図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 400
第270図　第４調査区遺構平面図 …… 401
第271図　第４調査区遺構平面図 …… 402
第272図　河川３断面図 …… 403
第273図　河川３出土遺物実測図 …… 403
第274図　河川５出土遺物実測図 …… 404
＜第16次調査　第５調査区＞
第275図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 405
第276図　第５調査区遺構平面図 …… 406
＜第16次調査　第６調査区＞
第277図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 407
第278図　第１調査面遺構平面図 …… 408
第279図　第２調査面遺構平面図 …… 409
第280図　ＳＤ６検出遺構及び断面図 …… 410
第281図　ＳＤ６出土遺物実測図 …… 410
第282図　遺構に伴わない出土遺物実測図 …… 411
＜第16次調査　第７調査区＞
第283図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） …… 412
第284図　第７調査区遺構平面図 …… 413
第285図　ＳＫ３出土遺物実測図 …… 414
第286図　ＳＫ３出土銅鏃実測図 …… 414
第287図　遺構に伴わない出土遺物実測図 …… 415

＜まとめ＞
第288図　小阪合遺跡出土遺物年表１ …… 429.430
第289図　小阪合遺跡出土遺物年表２ …… 431.432
第290図　小阪合遺跡出土遺物年表３ …… 433.434

表　目　次

第１表　小阪合遺跡発掘調査一覧表 …… 1
＜第８次調査＞
第２表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 32～35
第３表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 36
第４表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 54.55
第５表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 62
第６表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 69
第７表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 100
第８表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 115.116
＜第10次調査＞
第９表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 212
第10表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 219
第11表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 231
第12表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 239
第13表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 242
第14表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 244
第15表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 256
第16表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 256
第17表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 257
第18表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 276
第19表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 277
第20表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 286
＜第13次調査＞
第21表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 332

第22表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 336
第23表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 337
第24表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 342
第25表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 348
第26表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 349.350
第27表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 353
第28表　小穴（ＳＰ）一覧表 …… 358
第29表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 361
第30表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 365
＜第16次調査＞
第31表　溝　（ＳＤ）一覧表 …… 411
＜土器胎土の砂礫＞
第32表　土器表面の砂礫種観察表

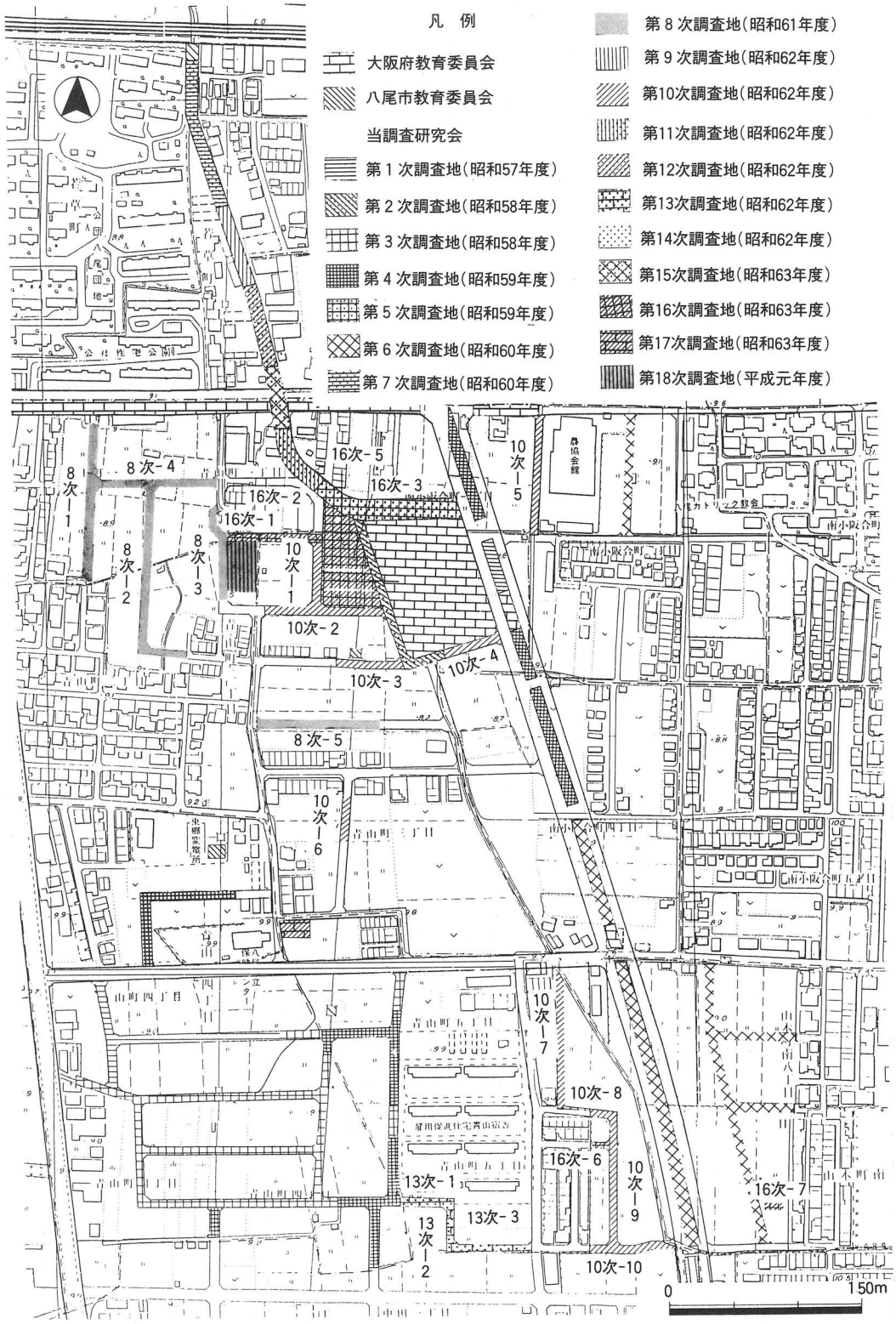
第１章　はじめに

小阪合遺跡は、大阪府八尾市の中央部に位置する遺跡で、旧大和川の主流であった玉串川と長瀬川に挟まれた沖積地にあたる。当遺跡の発見の経緯は、昭和30年の大阪府営住宅供給公社建設工事の掘削中に古墳時代の遺物が多量に出土されたことによる。その後、八尾市教育委員会文化財室が数回の試掘調査・立会調査を実施しているが、遺構・遺物の確認が明確にできなかった。このような状況下、昭和56年度に当遺跡を中心とした大規模な土地区画整理事業が施工された。文化財室は、当遺跡推定範囲にあり、その実態を把握する目的で、工事による掘削が実施される部分を対象にした発掘調査を昭和57年度から実施することになった。しかし、その年の７月に埋蔵文化財調査を目的とした財団法人八尾市文化財調査研究会が発足し、区画整理事業の発掘調査は当調査研究会が担当することになった。そして、昭和57年11月、第１次の発掘調査を実施した。その結果、古墳時代～鎌倉時代に至る遺構・遺物が多量に検出した。その後、昭和63年度第16次調査を最後に土地区画整理事業関係の発掘調査が終了し、多大な成果を得ることが出来た。

内業整理については、土地区画整理事業の関係上、発掘調査した翌年に実施し、報告書はさらに翌年に刊行することになった。今回の報告が最終報告書となる。

第１表　小阪合遺跡発掘調査一覧表

年　度	調　査　地	調　査　原　因	調　査　主　体	備　考
S，57	青山町４、南小阪合町１	区画整理事業	当調査研究会（第１次）	当調査研究会報告９
S，58	南小阪合町１	楠根川切替工事	当調査研究会（第２次）	当調査研究会報告10
	青山町４	区画整理事業	当調査研究会（第３次）	当調査研究会報告10
	南小阪合町１	小阪合ポンプ場	大阪府教育委員会	報告
S，59	青山町４、南小阪合町１・４	区画整理事業	当調査研究会（第４次）	当調査研究会報告15
	南小阪合町１	松原・八尾幹線下水管	大阪府教育委員会	
	青山町４	関西電力鉄塔建替	八尾市教育委員会	八尾市文化財報告11
	南小阪合町１	流域下水道	当調査研究会（第５次）	当調査研究会報告８
S，60	山本町南８、南小阪合町４	区画整理事業	当調査研究会（第６次）	当調査研究会報告９
	南小阪合町１・４	流域下水道	大阪府教育委員会	
	小阪合町１	小阪合ポンプ場放流	八尾市教育委員会	
	小阪合町１	小阪合ポンプ場放流	当調査研究会（第７次）	当調査研究会報告14
S，61	青山町１・３	区画整理事業	当調査研究会（第８次）	当報告
S，62	小阪合町１・２	小阪合ポンプ場放流	当調査研究会（第９次）	当調査研究会報告15
	南小阪合町１、青山町３・５	区画整理事業	当調査研究会（第10次）	当報告
	南小阪合町１	小阪合ポンプ場放流	当調査研究会（第11次）	当調査研究会報告15
	小阪合町２	小阪合ポンプ場放流	当調査研究会（第12次）	当調査研究会報告15
	青山町５	区画整理事業	当調査研究会（第13次）	当報告
	南小阪合町４	特殊人孔築造	当調査研究会（第14次）	当調査研究会報告15
	青山町１	平野中高安線府道拡張	大阪府教育委員会	
S，63	小阪合２	小阪合ポンプ場放流	当調査研究会（第15次）	当調査研究会報告25
	南小阪合２～５、山本町南８	区画整理事業	当調査研究会（第16次）	当報告
	青山町５	共同住宅	当調査研究会（第17次）	当調査研究会報告25
	南小阪合１	平野中高安線府道拡張	大阪府教育委員会	
H，１	青山町２	共同住宅	当調査研究会（第18次）	
	南小阪合１	平野中高安線府道拡張	大阪府教育委員会	


凡　例
大阪府教育委員会
八尾市教育委員会
当調査研究会
第１次調査地（昭和57年度）
第２次調査地（昭和58年度）
第３次調査地（昭和58年度）
第４次調査地（昭和59年度）
第５次調査地（昭和59年度）
第６次調査地（昭和60年度）
第７次調査地（昭和60年度）
第８次調査地（昭和61年度）
第９次調査地（昭和62年度）
第10次調査地（昭和62年度）
第11次調査地（昭和62年度）
第12次調査地（昭和62年度）
第13次調査地（昭和62年度）
第14次調査地（昭和62年度）
第15次調査地（昭和63年度）
第16次調査地（昭和63年度）
第17次調査地（昭和63年度）
第18次調査地（平成元年度）
8次-1
8次-2
8次-3
8次-4
8次-5
16次-1
16次-2
16次-3
16次-5
10次-1
10次-2
10次-3
10次-4
10次-5
10次-6
10次-7
10次-8
10次-9
10次-10
13次-1
13次-2
13次-3
16次-6
16次-7
0
150m

第１図　調査地位置図

第２章　調査の経過

この報告は、南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査の報告書で、小阪合遺跡で実施した第８次・第10次・第13次・第16次を集録してまとめたものである。この報告により区画整理事業関係に伴う発掘調査はこれをもって最終となった。そこで、これまでに報告されている小阪合遺跡の報告書をもう一度振り返って各年度ごと整理してみる。

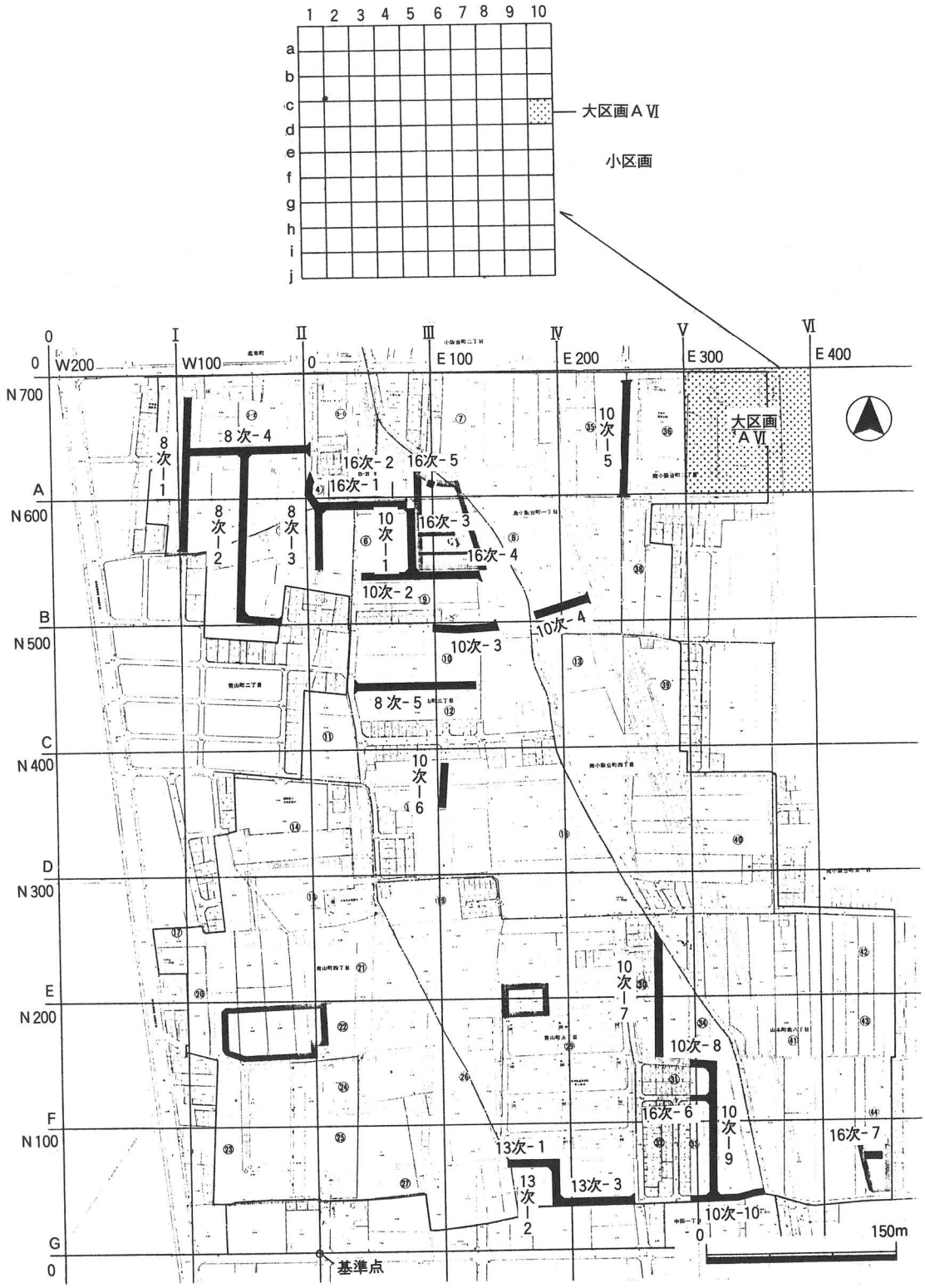
昭和57年度

７月１日に財団法人八尾市文化財調査研究会が発足した年である。当調査研究会は、埋蔵文化財の一部（主に発掘調査）を八尾市教育委員会の指示のもとで実施することとなった。当初、区画整理事業に伴う発掘調査は八尾市教育委員会が実施する予定であったが、当調査研究会が担当することになった。そこで、区画整理事業・八尾市教育委員会・当調査研究会の三者で協議を重ね、協定書を締結し、11月８日から発掘調査を開始した。その結果、古墳時代前期～鎌倉時代に至る遺構・遺物が多量に検出された。特に古墳時代前期（庄内式～布留式）の遺物が多量に出土している。しかし、調査区が計画道路敷下で細長いトレンチであるため、遺構の性格が把握することが出来なかった。

昭和58年度

この年は、二次にわたる発掘調査（第２・３次調査）を実施した。まず、第２次調査は、区画整理事業区域内の北東部に建設する南部寝屋川流域下水道小阪合ポンプ場の予定地を縦断する楠根川の迂回路の調査である。調査は６月21日から３週間の期間で実施した。その結果、発掘調査では、仮設河川であり、掘削深度が浅いという制限があるため、鎌倉時代までの調査に留まった。そして調査及び迂回工事終了後の９月１日から大阪府教育委員会が大阪府の公共事業である小阪合ポンプ場の建設に伴う発掘調査が実施された。

第３次調査は、区画整理事業区域内の南西部に位置する区画街路の調査である。調査は10月27日から約４カ月の期間で実施した。その結果、第１次調査と同様、古墳時代前期（庄内式～布留式古相）の遺構とそれに伴い多量の遺物（ほとんど土器）が出土した。その他、奈良時代の建物跡・井戸、鎌倉時代の水田遺構が検出した。この調査地は、昭和47～49年度に実施された曙川区画整理に伴うの発掘調査で、古墳時代～鎌倉時代に至る大規模な複合遺跡であると認識されている中田遺跡の北部に隣接する。その成果を一般の方々に知っていただくため、２月６日に一般公開した。しかし、その現地説明会の日、10年ぶりの大雪が降り、調査区一面が雪一色となったにもかかわらず、多数の市民の方々が見学に来られた。



第２図　調査区配置図及び区別図

昭和59年度

6月15日から5ヶ月間で実施した第4次調査は、区画整理事業区域内の南西部に位置する第1・3次調査地と隣接する調査地と、区画整理事業区域内の北東部の調査地の2箇所の調査であった。その結果、南西部の調査区では、既往調査で検出した遺構の広がりを確認することができた。特に古墳時代前期（庄内式～布留式）の遺構・遺物を検出した。

また、北東部の調査では、古墳時代中期の埴輪棺が検出され、この時期の墓域が低平地でも多く存在することが確認された。

昭和60年度

8月1日から第6次調査を実施した。調査区は、区画整理事業区域内の東側を縦断する幹線道路及び南東部の区画街路の調査で、当遺跡の東側の遺跡の状況を確認することとなった。その結果、当遺跡内で実施した中で一番広い面積の調査であったにもかかわらず、遺構・遺物が最も気薄な所であった。遺構は、古墳時代のものはほとんどなく、鎌倉時代の水田が広がっているのを確認した。第3調査区では、当遺跡の中心を縦断している楠根川の旧河川と考えられる室町時代に埋没した河川を確認している。また南東部の第5調査区では、古墳時代初頭（庄内式古相）の遺構が新たに検出した。

昭和61年度

区画整理事業区域内の北東部で第8次調査を実施した。その結果、平安時代末期～鎌倉時代の曲物を備えた井戸や多数の柱穴などの住居遺構を検出し、現在の小阪合村が約400年前に移動したと言い伝えられており、その旧小阪合村の位置が確認された。また、旧小阪合村は、整地した上に築造されており、その下層から奈良時代前期の溝内から一括遺物が多量に出土しており、旧小阪合村が古くから存在していたことが窺える。

昭和62年度

区画整理事業区域内の中央部の第10次調査を実施している。その結果、弥生時代後期・古墳時代前期の遺構・遺物が検出され、当遺跡内に広く分布していることが改めて確認された。

また、同年に第13次調査を区画整理事業区域内の南部で実施した。この調査区は、中田遺跡に隣接する箇所で、中田遺跡の既往調査で検出されている遺構のつながりが認められた。古墳時代前期・中期の遺構・遺物が濃厚に存在していることが判明した。

昭和63年度

第10次調査の調査区と隣接する調査区であった第16次調査である。この調査が区画整理事業の最終調査となった。調査の結果では、既往調査で検出した遺構の延長部が確認された調査であった。

以上、区画整理事業に伴う調査の経緯である。その間、第1表に掲載している公共下水道・民間事業に伴う調査が実施されており、小阪合遺跡の変遷が着実に明らかになってきている。

第３章　遺跡の概要

第１節　調査の成果

当遺跡は、前章でも記述しているように南小阪合土地区画整理事業に関連する発掘調査を昭和57年度から実施し、その結果は、既往の報告（第１表）でも掲載しているように多大な成果が得られている。それにより、当遺跡の広がり、各時代の遺跡の状況、旧地形の状況が点と線の断続的な調査であるが、ほぼ当遺跡の全域がある程度まで把握するまでに至った。

以下、各年度で検出した遺構・遺物について記す。

昭和57年度（第１次調査）

調査地　　青山町４丁目・南小阪合１丁目

調査面積　　1900㎡

調査期間　　昭和57年11月８日～昭和59年３月25日

検出遺構　　弥生時代後期末－土坑２基・溝15条・小穴１個、古墳時代前期－井戸１基・溝、古墳時代中期－土坑・溝・自然河川１条、奈良時代－掘立柱建物２棟・井戸１基、平安時代－井戸１基溝１条、鎌倉時代－井戸１基・溝10条、自然河川２条

出土遺物　　出土量　　コンテナ100箱

時期別　　弥生土器（Ⅴ様式）・庄内式土器・布留式土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦・磁器・石器・木製品

昭和58年度（第２・３次調査）

第２次調査

調査地　　青山町３丁目

調査面積　　390㎡

調査期間　　昭和58年６月21日～同年７月14日

検出遺構　　鎌倉時代－土坑１基・小穴１個、溝４条、近世－自然河川１条

出土遺物　　出土量　　コンテナ半分箱

時期別　　鎌倉時代－瓦器・江戸時代－磁器・瓦

第３次調査

調査地　　青山町４丁目・南小阪合町１丁目

調査面積　　1800㎡

調査期間　　昭和58年10月27日～昭和59年２月29日

検出遺構　　弥生時代後期

出土遺物　　出土量　　コンテナ60箱

時期別　　弥生時代後期－土坑７基・小穴８個・落ち込み状遺構４箇所・溝７条、古墳時代前期－土坑10個・溝13条・土器集積・方形周溝墓１条、古墳時代中期－土坑３基・古墳の周濠１条・落込み状遺構13基・河川１条、奈良時代－井戸１基、平安時代－井戸２基・小穴列２箇所・小穴66個・溝13条・自然河川１条、鎌倉時代－井戸４基・土坑１基・落ち込み状遺構１箇所・小穴７個・溝170条、江戸時代－溝

昭和59年度（第４次調査）

調査地　　青山町４丁目・南小阪合町１丁目

調査面積　　約987㎡

調査期間　　昭和59年６月15日～同年11月15日

検出遺構　　古墳時代前期－井戸１基・土坑５基・小穴列２基・小穴８個・溝10条、古墳時代中期－埴輪棺１基・溝１条、鎌倉時代－井戸１基・土坑12基・小穴20個・溝67条

出土遺物　　出土量　　コンテナ80箱

時期別　　古墳時代前期－庄内式土器・布留式土器、古墳時代中期－土師器、須恵器、鎌倉時代－瓦器・瓦

昭和60年度（第５・６次調査）

第５次調査

調査地　　南小阪合町１丁目

調査面積　　約636㎡

調査期間　　昭和60年１月25日～同年３月20日

検出遺構　　古墳時代前期－溝、平安時代後期－井戸・小穴・溝、鎌倉時代－溝。

出土遺物　　出土量　　コンテナ５箱

時期別　　古墳時代前期－庄内式土器、平安時代後期～鎌倉時代－土師器、瓦器

第６次調査

調査地　　南小阪合町４丁目・山本町南８丁目

調査面積　　約2743㎡

調査期間　　昭和60年７月15日～同年12月28日

検出遺構　　古墳時代前期－土坑７基・小穴３個・溝11条、古墳時代中期－井戸１基・土坑３基・溝７条、鎌倉時代－土坑１基・水田２筆・溝28条、室町時代－自然河川１条

出土遺物　　出土量　　コンテナ10箱

時期別　　弥生式土器－畿内第Ⅱ様式・畿内第Ⅲ様式・畿内第Ⅳ様式・畿内第Ⅴ様式、庄内式土器・布留式土器・土師器・黒色土器・瓦器・磁器、

昭和61年度（第７・８次調査）

第７次調査

調査地　　小阪合町１丁目

調査面積　　約480㎡

調査期間　　昭和61年４月５日～同年８月８日

検出遺構　　室町時代－河川１条

出土遺物　　出土量　　コンテナ２箱

時期別　　弥生時代中期－畿内第Ⅲ・Ⅳ様式、弥生時代後期－畿内第Ⅴ様式、古墳時代前期－庄内式土器、古墳時代中期－土師器・須恵器、鎌倉時代～室町時代－瓦器・磁器

第８次調査

調査地　　青山町１・２丁目

調査面積　　約998㎡

調査期間　　昭和61年８月25日～同年12月10日

検出遺構　　弥生時代後期－土坑、古墳時代前期－土坑・溝、古墳時代中期－土坑・溝・自然河川、奈良時代－溝、平安時代後期～鎌倉時代前期－井戸・土坑・小穴・溝、鎌倉時代後期～室町時代－井戸・小穴・溝

出土遺物　　出土量　　コンテナ60箱

時期別　　弥生時代後期－畿内第Ⅴ様式、古墳時代前期－庄内式土器・布留式土器、古墳時代中期－土師器・須恵器、古墳時代後期－土師器・須恵器、

平安時代前期－黒色土器、平安時代～鎌倉時代－土師器・瓦器・磁器、

昭和62年度（第10・13・16次調査）

第10次調査

調査地　　南小阪合町1丁目・青山町3・5丁目

調査面積　　1023㎡

調査期間　　昭和62年8月1日～同年10月31日

検出遺構　　弥生時代後期－土坑・溝、古墳時代前期－土坑・溝・土器集積、自然河川、古墳時代中期－土坑・小穴・溝、平安時代－土坑

出土遺物　　出土量　コンテナ20箱

時期別　畿内第Ⅴ様式・庄内式土器・布留式土器・土師器・須恵器・瓦器・青銅品

第13次調査

調査地　　青山町5丁目

調査面積　　約300㎡

調査期間　　昭和62年11月9日～同年12月28日

検出遺構　　弥生時代後期－小穴3個、溝4条、古墳時代前期－土坑8基・溝25条・土器集積1箇所、小穴51個、自然河川1条、古墳時代中期－土坑12基・小穴55個・溝6条、平安時代－土坑1基、鎌倉時代－土坑1基、溝52条、江戸時代1条

出土遺物　　出土量　コンテナ15箱

時期別　弥生時代後期－畿内第Ⅴ様式、古墳時代前期－庄内式土器・布留式土器、古墳時代中期－土師器・須恵器、鎌倉時代－瓦器

第16次調査

調査地　　青山町4・5丁目、山本町南8丁目

調査面積　　約500㎡

調査期間　　昭和63年8月1日～10月1日

検出遺構　　弥生時代後期－土坑2基、溝3条、古墳時代前期－河川7条・土器集積遺構1箇所、鎌倉時代－溝16条、江戸時代－土坑1基、溝1条

出土遺物　　出土量　コンテナ7箱

時期別　古墳時代前期－庄内式土器・布留式土器、中期－土師器、須恵

器、平安時代－土師器、鎌倉時代－土師器、瓦器

以上、当遺跡で実施した発掘調査の成果である。

これらの調査成果によって、当遺跡の各時代に歩んできた痕跡が大間かなではあるが明らかになった。その成果について最終報告でまとめてみた。今後、当遺跡を調査するに当り、その資料となればと考える。

第４章　第８次調査

第１節　調査の概要

今回の発掘調査は、昭和57年度から継続事業として実施している八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴うもので、当調査研究会が小阪合遺跡内で実施した第８次調査に当たる。

調査地は、区画整理事業区域内の北西部に当たる青山町１・２丁目内に所在する。旧地名では、成法寺・屋敷跡の小字名がみられるところである。調査区は区画街路計画予定地の第１号線（第１調査区）・第２号線（第２調査区）・第３号線（第３調査区）・第４－１号線（第４調査区）・第13号線（第５調査区）の５箇所である（第３・４図)。調査は、道路敷下の中心にした2.5m幅のトレンチを設定した。各調査区の長さ・面積などは、第１章の第１表のとおりである。調査区では、現状の土地利用の条件により、発掘調査ができなかった箇所が一部ある。まず、第１調査区は、北部で農業用水として使用している井戸小屋があり、その部分を外してトレンチを設定した。第２調査区と第３調査区では、トレンチの中央部付近に東西方向の里道（幅１～1.5m）が横断し、その下にはガス・水道などの公共施設が埋設されており、調査の対象外とした。また、各調査区では、検出遺構の状況から一部拡張を実施している。第３調査区の南部・第４調査区の東部では最大限の拡張を実施した。以下、調査の結果について記す。

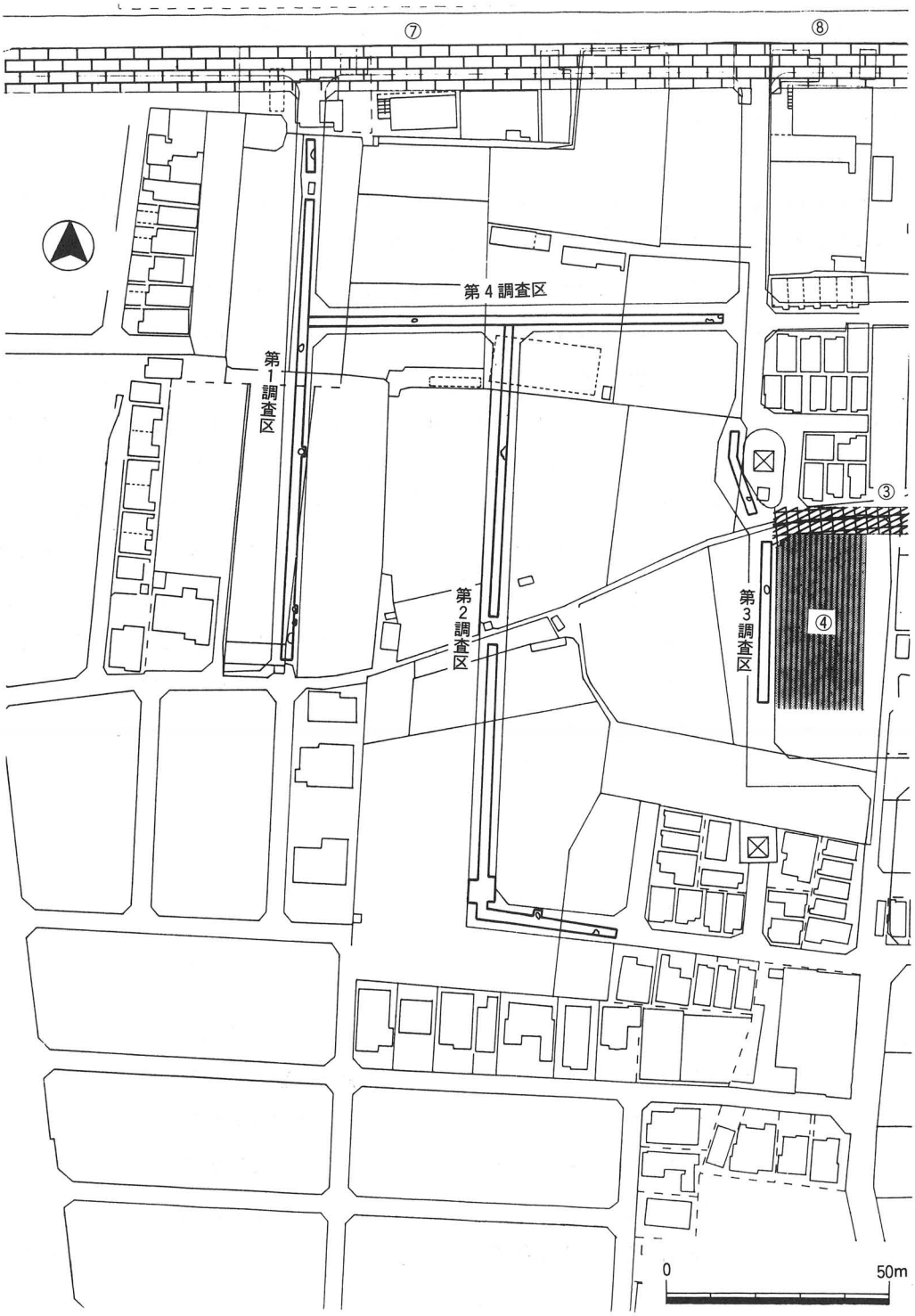
凡　　例

当調査研究会

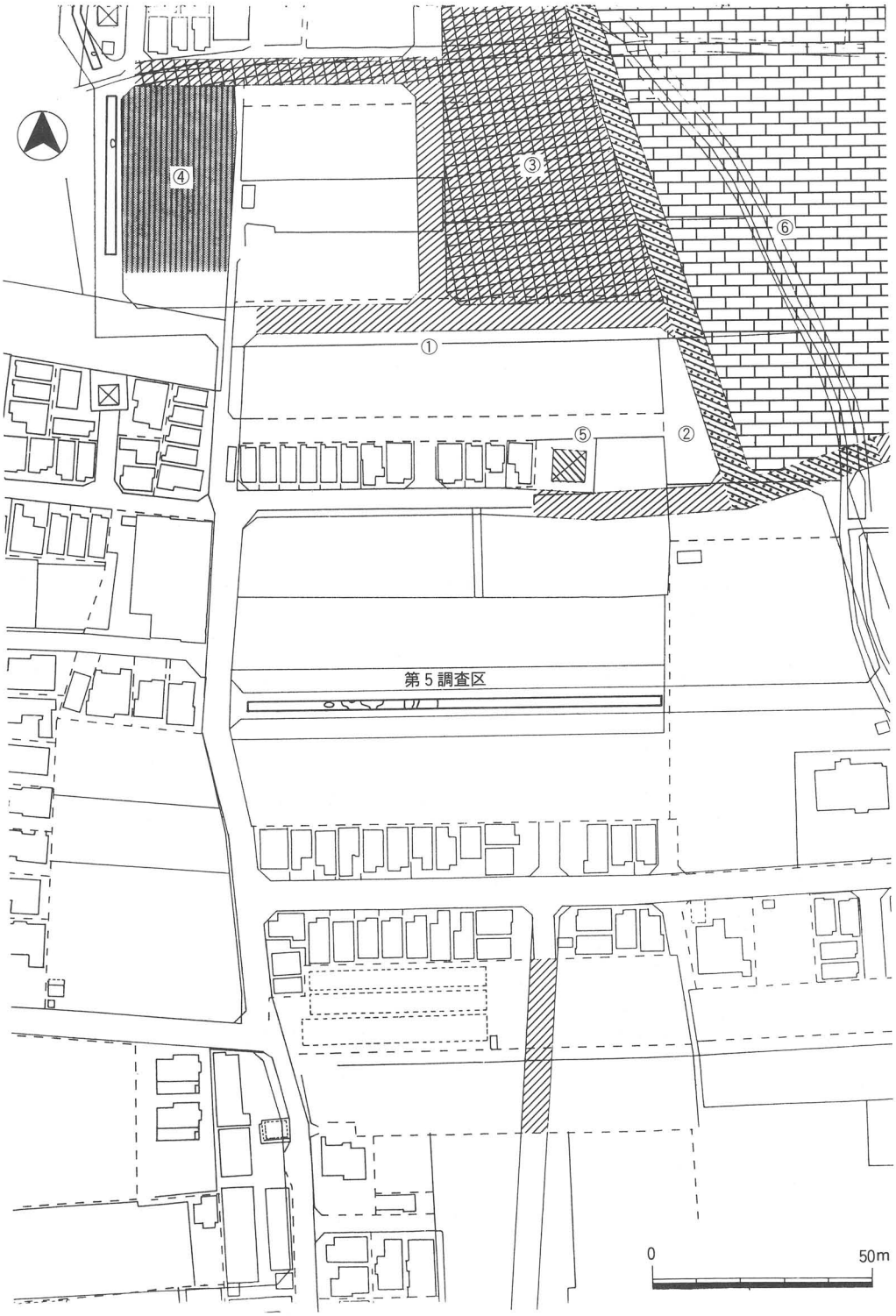
① 第10次調査（昭和62年度）
② 第12次調査（昭和62年度）
③ 第16次調査（昭和63年度）
④ 第18次調査（平成元年度）

大阪府教育委員会

⑤ 昭和59年度調査
⑥ 昭和58年度調査
⑦ 昭和61年度調査
⑧ 平成元年度調査



第3図　遺構配置図1



第４図　遺構配置図２

第２節　第１調査区

今回の調査で最も西側に設定した調査区で、区画整理事業区域内の北西部に位置する南北に長い調査区（約120ｍ）である。調査面積は約240㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区内で調査した現地表から約1.5ｍまでに存在する土層内で普遍的にみられる５層を摘出して基本層序とした（第５図）。現地表面は、標高8.3～8.4ｍを測る。以下、各層について記す。

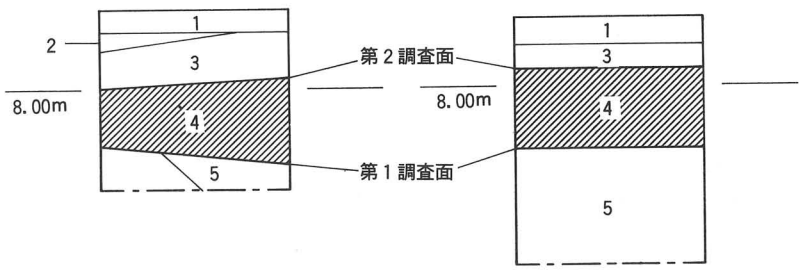
第１層　耕土：層厚20㎝。調査前までの耕作土である。

第２層　茶褐色微砂：層厚10～15㎝。南部にはなく、北部にだけ堆積する土層である。

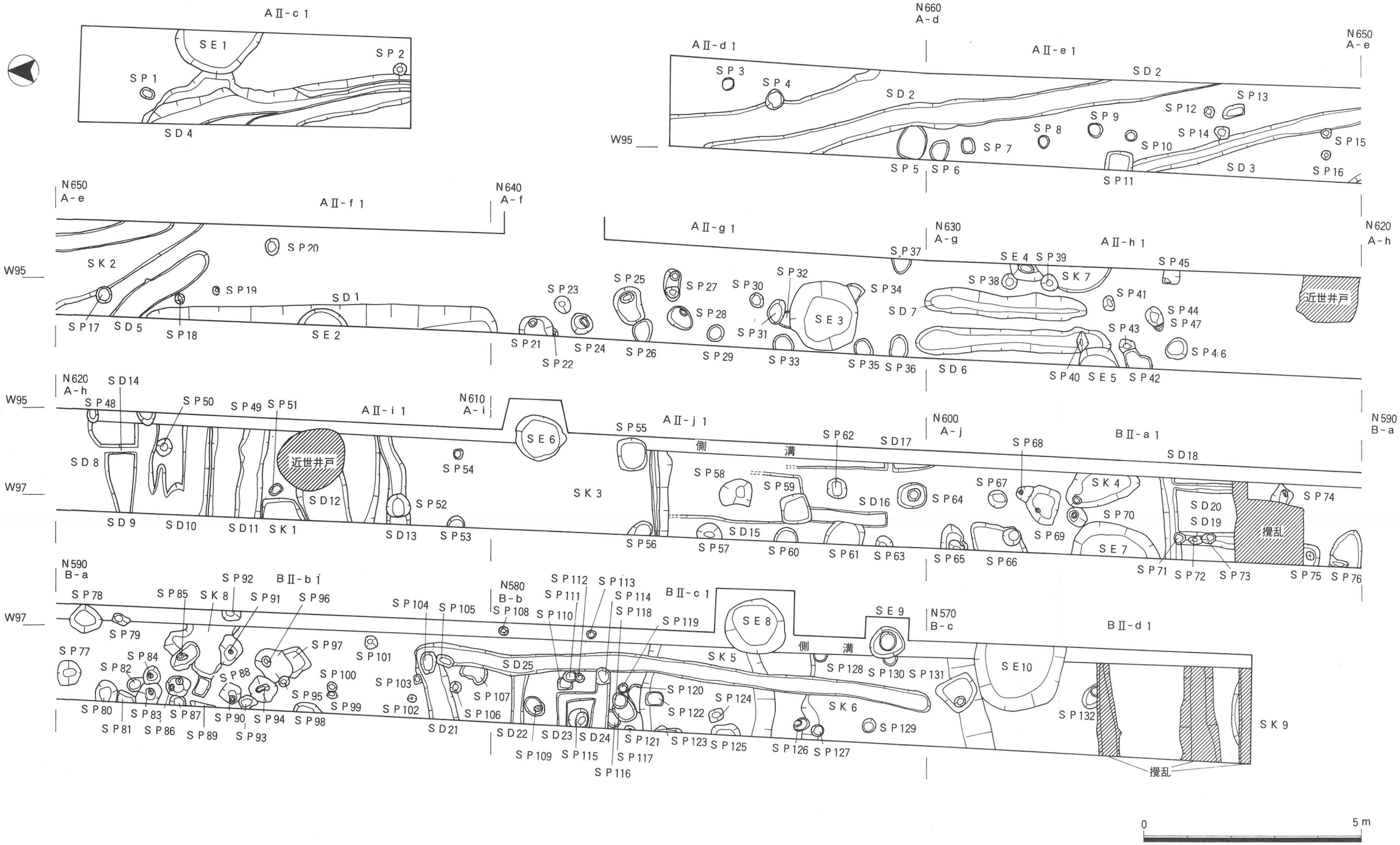
第３層　暗灰褐色砂礫混細砂：層厚10～15㎝。土層内には古墳時代～江戸時代に比定される遺物が含まれている。

第４層　黄灰色砂礫混砂質土～暗灰茶色砂質土：層厚25～50㎝。この上面から平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定される遺構を検出した。土層内には古墳時代～平安時代末期に至る土器類が多量に含まれている。土器には検出遺構とほぼ同時期のものが含まれており、この時期に整地したものであろう。標高は8.0～8.1ｍを測る。

第５層　暗灰茶色粗砂～黄灰色粘質シルト：層厚60㎝。この上面から古墳時代中期～平安時代末期に比定される遺構を検出した。標高は7.7ｍを測る。



第５図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）



第６図　第１調査区遺構平面図

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

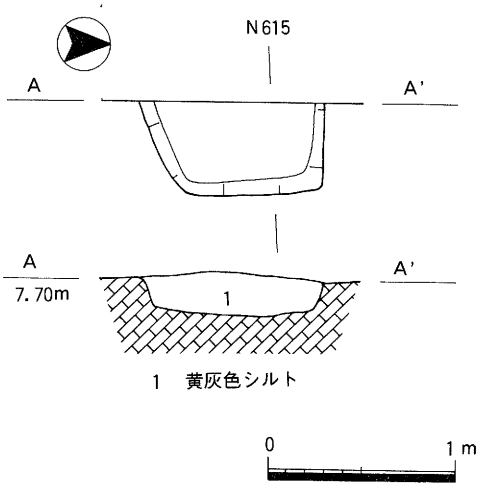
第５層上面（第１調査面）と第４層上面（第２調査面）の２面を調査した。その結果、第１調査面では、古墳時代前期に比定される土坑１基（ＳＫ１）、古墳時代中期から後期に比定される土坑５基（ＳＫ２～ＳＫ６）・溝１条（ＳＤ１）、奈良時代に比定される溝２条（ＳＤ２・ＳＤ３）を検出した。第２調査面では平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定される井戸10基（ＳＥ１～ＳＥ10）・土坑３基（ＳＫ７～ＳＫ９）・小穴132個（ＳＰ１～ＳＰ132）・溝22条（ＳＤ４～ＳＤ25）を検出した（第６図）。以下、各調査面で検出した遺構・遺物について記す。なお、個々の遺物については第６節　出土遺物観察表にまとめた。

1)　第１調査面（古墳時代前期～後期）

土坑（ＳＫ）

ＳＫ１

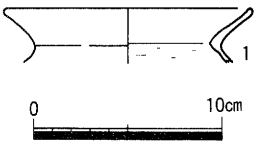
ＡⅡ－ｉ１区で検出した土坑である。西部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西１ｍ以上、南北1.04ｍ以上、深さ15ｍを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄灰色シルトの１層である（第７図）。遺物は、内部から古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）に比定される庄内式甕（１）の小片がごく少量出土している（第８図）。



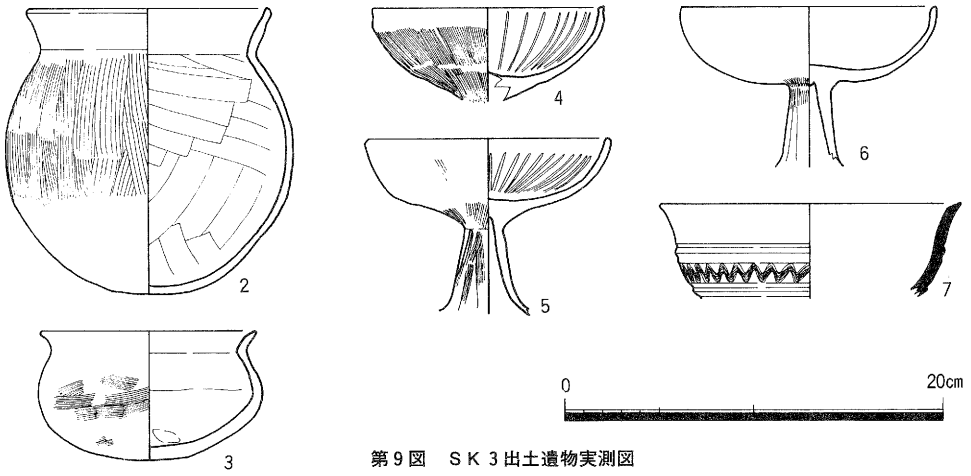
第７図　ＳＫ１平断面図

ＳＫ２

ＡⅡ－ｅ１区で検出した土坑で、ＳＤ３・ＳＰ17に切られている。東西はともに調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西２ｍ、南北1.9ｍ、深さ８～10cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、上方から黄褐灰色粗砂・褐灰色粗砂混粘土・黄灰色シルトの３層に分かれる。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の高杯・須恵器の甕などの小片が少量出土している。



第８図　ＳＫ１出土遺物実測図



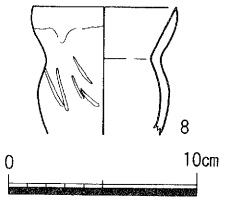
第９図　ＳＫ３出土遺物実測図

ＳＫ３

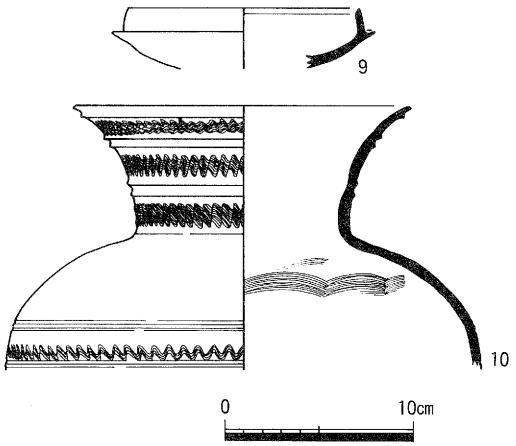
ＡⅡ－ｊ１区で検出した土坑で、ＳＥ６・ＳＰ55・ＳＰ56に切られている。東西はともに調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西２ｍ、南北4.4ｍ、深さ25cmを測る。堆積土は、暗灰茶色粘質土の１層である。遺物は北部の底面付近を中心として古墳時代中期に比定される土師器の壷・甕（２）・杯（３）・高杯（４～６）、須恵器（Ⅰ型式３～４段階）の鉢・高杯（７）等の小片が少量出土している（第９図）。

ＳＫ４

ＢⅡ－ａ１区で検出した土坑である。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、東西約２ｍ、南北1.7ｍ、深さ14cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰茶色粘質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代後期に比定される土師器の鉢（８）、須恵器の小片がごく少量出土している（第10図）。



第10図　ＳＫ４出土遺物実測図



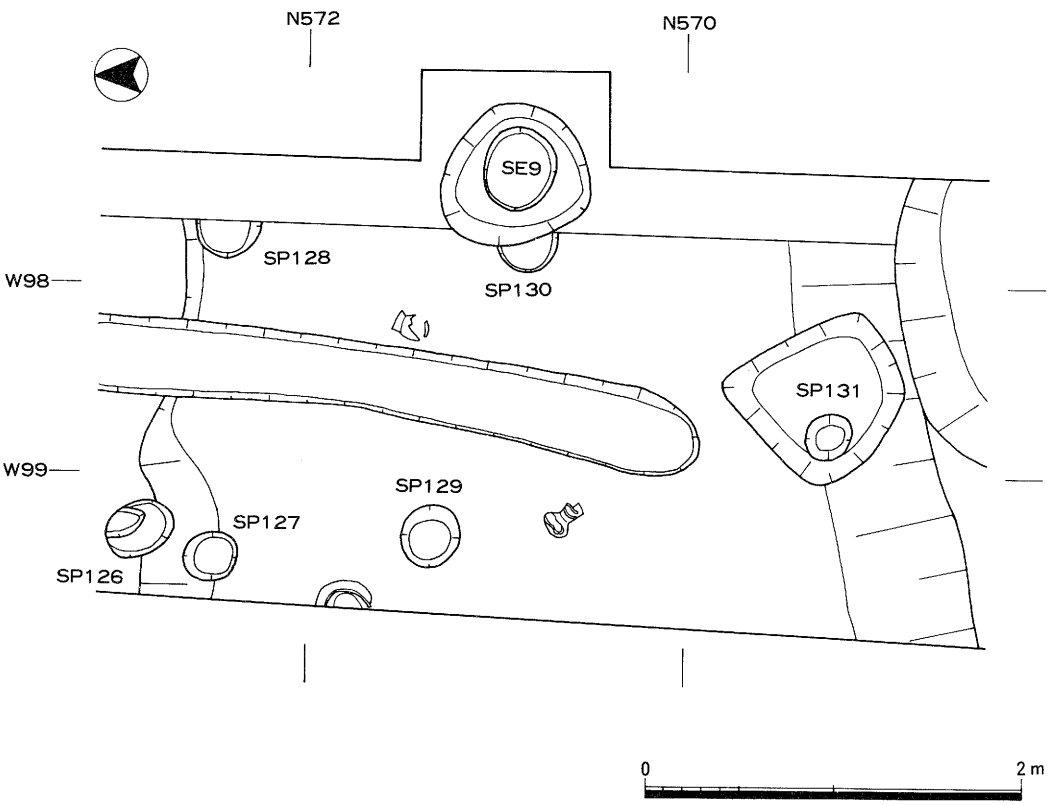
第11図　ＳＫ５出土遺物実測図

ＳＫ５

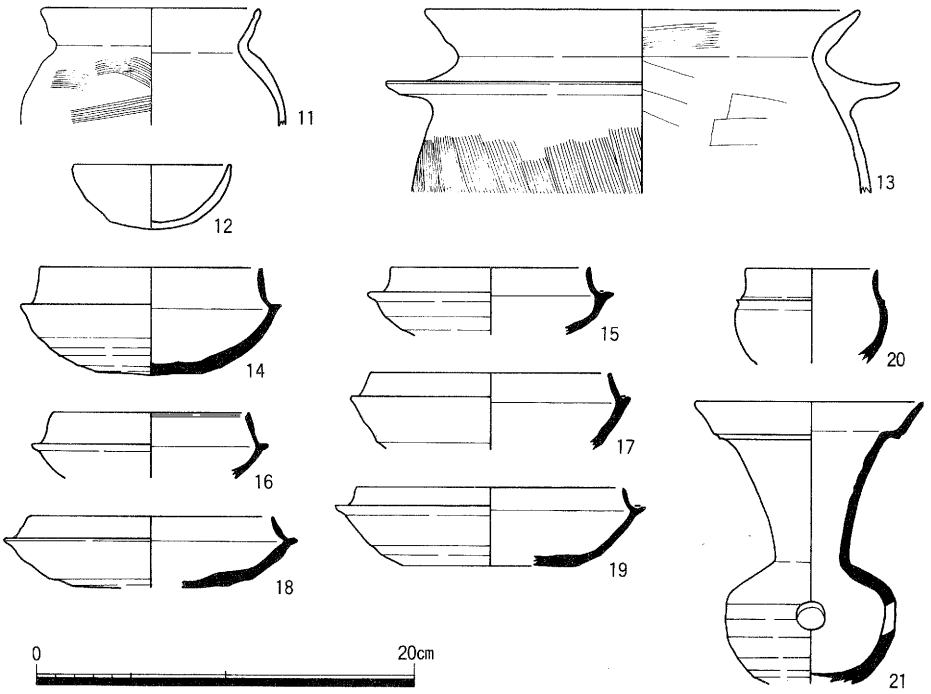
ＢⅡ－ｃ１区で検出した土坑である。ＳＥ８・ＳＰ122～ＳＰ125・ＳＤ25に切られている。東西は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西２ｍ、南北３ｍ、深さ10㎝を測る。断面は、浅い逆台形を呈する。堆積土は、茶灰色粘質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代後期に比定される土師器、須恵器（Ⅱ型式２～４段階）の杯身（９）・高杯・甕（10）の小片が少量出土している（第11図）。

ＳＫ６

ＢⅡ－ｃ１～ｄ１区で検出した土坑である。ＳＥ９・ＳＥ10・ＳＰ126～ＳＰ131・ＳＤ25に切られている。東西は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西２ｍ以上、南北4.46ｍ、深さ20㎝を測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、茶灰色砂質土の１層である（第12図）。遺物は、内部から古墳時代後期に比定される土師器の甕（11）・鉢（12）・羽釜（13）・甑、製塩土器、須恵器（Ⅱ型式２～４段階）の杯蓋・杯身（14～19）・高杯・鉢（20）・壺（21）などの小片が少量出土している（第13図）。



第12図　ＳＫ６平面図



第13図　ＳＫ６出土遺物実測図

溝（ＳＤ）

ＳＤ１

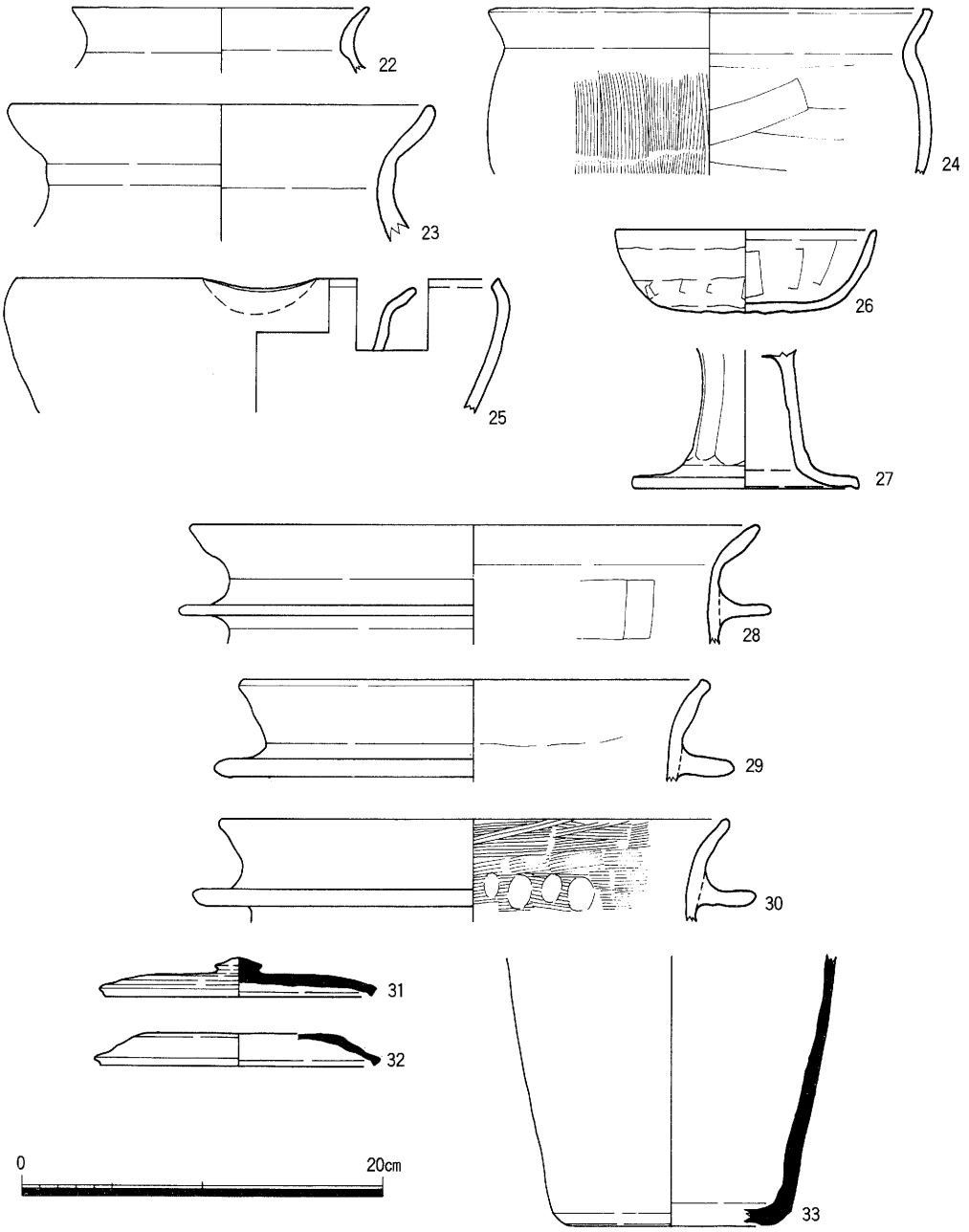
ＡⅡ－ｆ１区で検出した南北方向に伸びる溝である。規模は西側が調査区外に至り、溝幅は不明である。中央部付近でＳＥ２に切られている。深さは15㎝を測るが、西へ傾斜しており、最深はもっと西側で深くなるであろう。堆積土は、灰茶色細砂混シルトの１層である。遺物は、内部から古墳時代後期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

ＳＤ２

ＡⅡ－ｄ１・ｅ１区で検出した。方向は北より西へ10度振っており、南北はともに調査区外に至る。北東部ではＳＰ４に切られている。規模は検出部で、幅１～1.2ｍ、深さ20～25㎝を測り、東側が浅くテラス状になり、西側では、断面半円形で深くなっている。堆積土は、淡茶褐色粘質土・淡褐色粗砂・淡褐灰色細砂混シルトの３層に分かれ、底面付近には粗砂のブロックがいくつかみられる。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器の甕（22～24）・鉢（25）・杯（26）・高杯（27）・羽釜（28～30）、須恵器（Ⅳ型式１～３段階）の杯蓋（31・32）・壷（33）などの土器片が少量出土している（第14図）。

ＳＤ３

ＡⅡ－ｅ１・ｆ１区で検出した。方向はＳＤ２と同一方向である。ＳＫ２を切り、ＳＰ11・



第14図　ＳＤ２出土遺物実測図

ＳＰ14・ＳＰ15に切られる。南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅35～50cm、深さ10～15cmを測る。堆積土は、黄灰色粗砂混シルトの１層である。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

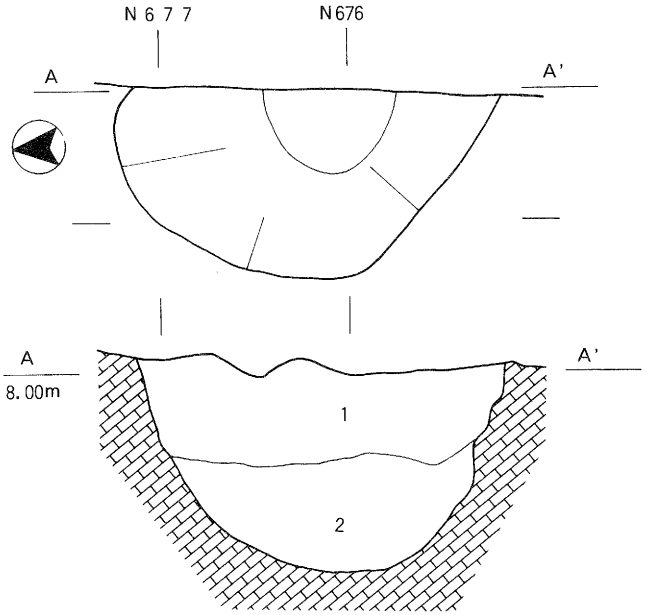
井戸（ＳＥ）

ＳＥ１

ＡⅡ－ｃ１区で検出した素掘り井戸で、ＳＤ４を切っている。平面は検出部で半円形を呈し、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西80cm、南北径1.56ｍ、深さ83～92cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰色粗砂混砂粘土・暗灰色シルト混粘土の２層である（第16図）。遺物は、堆積内から平安時代末期に比定される土師器の小皿（34～39）・鉢・瓦器の椀（40～48）などの破片が少量出土している（第15図）。瓦器椀はすべて和泉型である。

ＳＥ２

ＡⅡ－ｆ１区で検出した素掘り井戸で、ＳＤ１を切っている。平面は検出部で半円形を呈し、西部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西0.5ｍ以上、南北1.38ｍ、深さ60cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、上方から淡茶褐色砂礫混粘質土・黄褐色粗砂混粘質土・茶褐色シルト・淡灰色砂質土の４層に分かれる（第17図）。遺物は、内部から古墳時代後期に比定される土師器・須恵器、平安時代末期に比定される瓦器椀の小片がごく少量出土している。

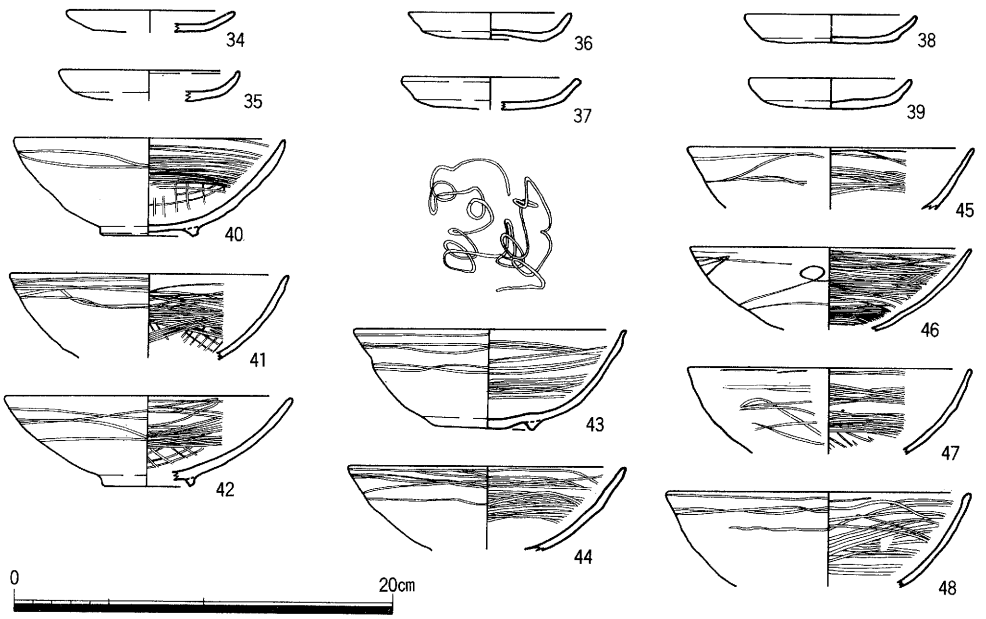


1　暗灰色粗砂混砂粘土

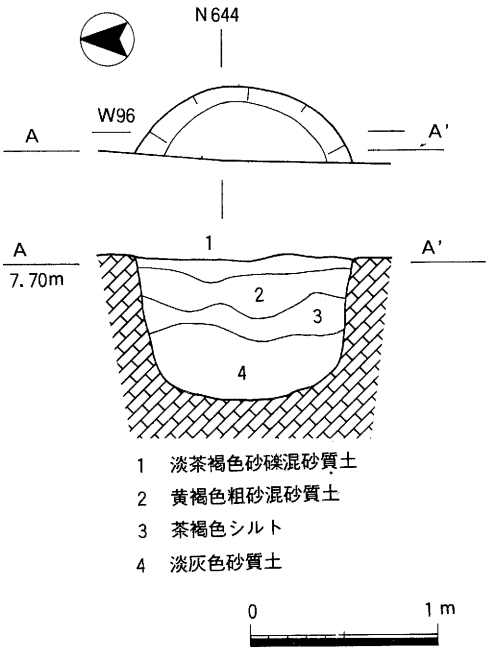
2　暗灰色粗シルト粘土

0　1m

第15図　ＳＥ１平断面図



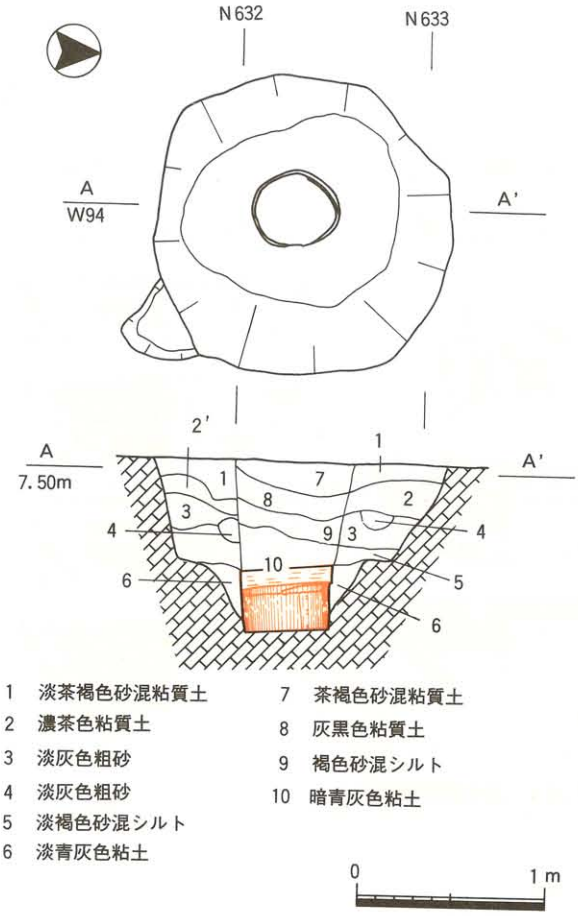
第16図　ＳＥ１出土遺物実測図



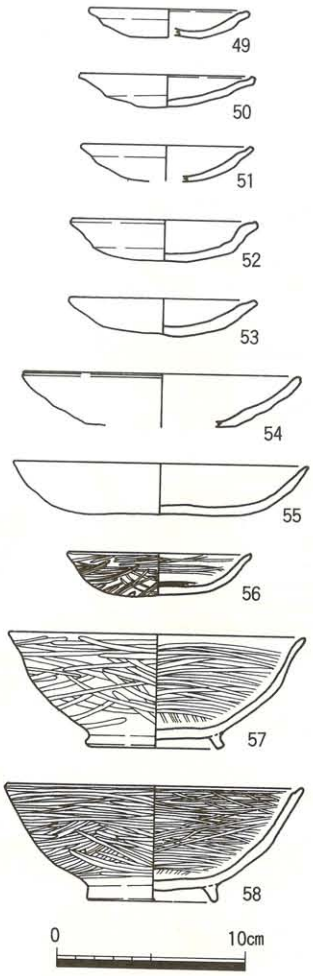
第17図　ＳＥ２平断面図

ＳＥ３

ＡⅡ－ｇ１区で検出した曲物を備えた井戸である。掘形の平面はほぼ八角形を呈し、ＳＰ32・ＳＰ34を切っている。規模は検出部で、東西径1.58ｍ、南北径1.59ｍ、深さ93㎝を測る。掘形の断面は逆台形を呈し、掘形の中央部付近には井戸側として曲物が設置している。曲物は平面円形を呈し、２段重ねである。規模は上段が径50㎝、高さ10㎝、厚み７㎜、下段が径50㎝、高さ25㎝、厚み７㎜をそれぞれ測



第18図　ＳＥ３平断面図

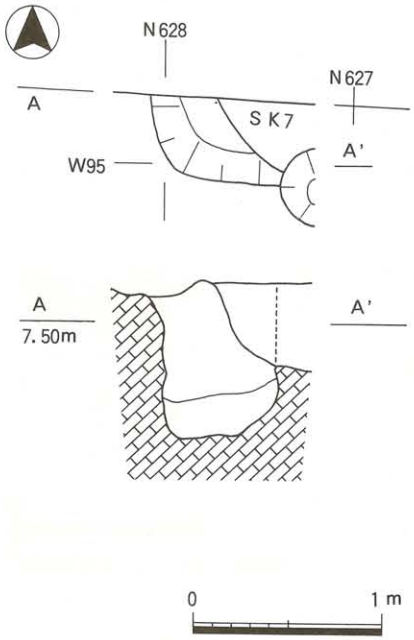


第19図　ＳＥ３出土遺物実測図

る。堆積土は、掘形が上方から淡茶褐色砂混粘質土・濃茶色粘質土・淡灰黒色粘質土・淡灰色粗砂・淡褐色砂混シルト・淡青灰色粘土の５層で構成され、曲物内も上方から茶褐色砂混粘質土・灰黒色粘質土・暗褐灰色粘質シルト・暗青灰色粘土の５層に分かれる（第18図）。遺物は、掘形内から土師器の小片、曲物内から平安時代末期に比定される土師器の小皿（49～53）・中皿（54・55）、瓦器の小皿（56）・椀（57・58）などの破片が少量出土している（第19図）。

ＳＥ４

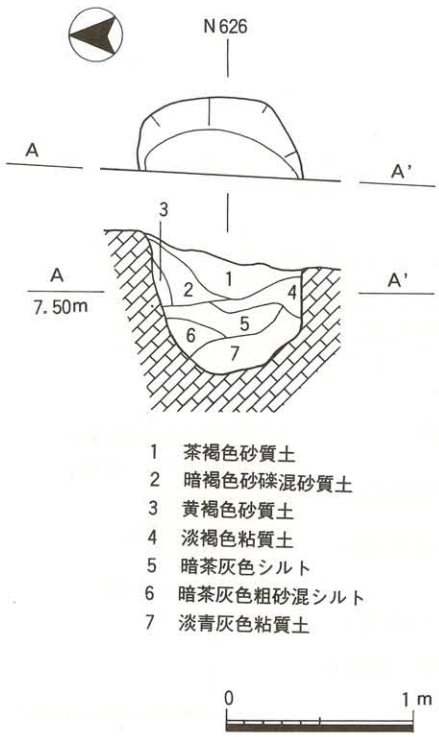
ＡⅡ－ｈ１区で検出した素掘り井戸である。平面は検出部で半円形を呈し、東部は調査区外に至る。ＳＫ７・ＳＰ39に切られ、ＳＰ38を切っている。規模は検出部で、東西径70㎝、南北径1.08ｍ、深さ54㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、茶灰褐色粘質土・黒灰色粘土の２層に分かれる（第20図）。遺物は、内部から古墳時代後期～平安時代末期に比定される土師器、須恵器の甕などの小片が少量出土している。



第20図　ＳＥ４平断面図

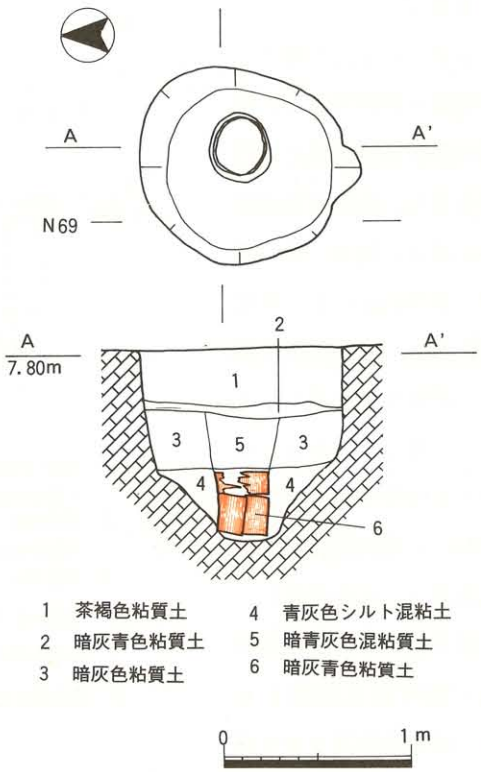
ＳＥ５

ＡⅡ－ｈ１区で検出した素掘り井戸である。平面は検出部で半円形を呈する。東部はＳＰ40・ＳＤ６を切り、西部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西42㎝以上、南北92㎝、深さ64㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、上方から茶褐色砂質土・暗褐色砂礫混砂質土・黄褐色砂質土・淡褐色粘質土・暗茶灰色シルト・暗茶灰色粗砂混シルト・淡青灰色粘土の７層で構成されている（第21図）。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器・瓦器の椀などの小片がごく少量出土している。



1　茶褐色砂質土
2　暗褐色砂礫混砂質土
3　黄褐色砂質土
4　淡褐色粘質土
5　暗茶灰色シルト
6　暗茶灰色粗砂混シルト
7　淡青灰色粘質土

第21図　ＳＥ５平断面図

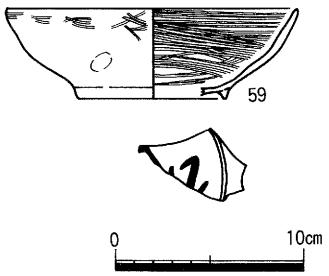


1　茶褐色粘質土
2　暗灰青色粘質土
3　暗灰色粘質土
4　青灰色シルト混粘土
5　暗青灰色混粘質土
6　暗灰青色粘質土

第22図　ＳＥ６平断面図

ＳＥ６

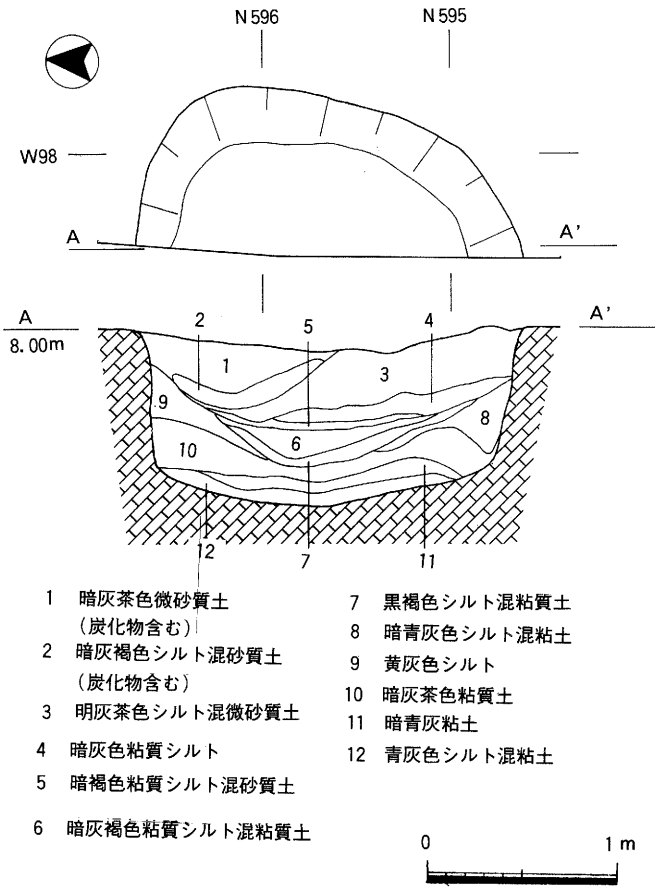
ＡⅡ－ｊ１区の東壁付近で検出した。東部は調査区外に至るため、この井戸の部分だけの拡張を実施した。その結果、曲物を備えた井戸であった。掘形の平面はほぼ円形を呈し、中央部付近には井戸側として曲物が設置されていた。曲物の平面は円形を呈し、二段重ねである。規模は検出部で、掘形は上段が径40㎝、高さ20㎝、厚み６㎜、下段が径40㎝、高さ20㎝、厚み６㎜をそれぞれ測る。堆積土は、掘形が上方から茶褐色粘質土・暗灰青色粘土・暗灰色粘土・青灰色シルト混粘土の４層で、曲物内が暗青灰色粘質土・暗灰青色粘質土の２層に分かれる（第22図）。遺物は、曲物内から平安時代中期に比定される黒色土器の椀（59）などの小片がごく少量出土している。59の底部の外面には墨書が記されているが、一部分であるため、解読は不明である（第23図）。



第23図　ＳＥ６出土遺物実測図

ＳＥ７

ＢⅡ－ａ１区で検出した素掘り井戸である。平面の形状は検出部で半円形を呈し、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西80㎝以上、南北径2.08m、深さ60㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、上方から暗灰茶色微砂質土（炭を含む）・暗灰褐色シルト混砂質土（炭を含む）・明灰茶色シルト混微砂質土・暗灰褐色粘質シルト・暗褐色粘質シルト混砂質土・暗灰褐色粘質シ



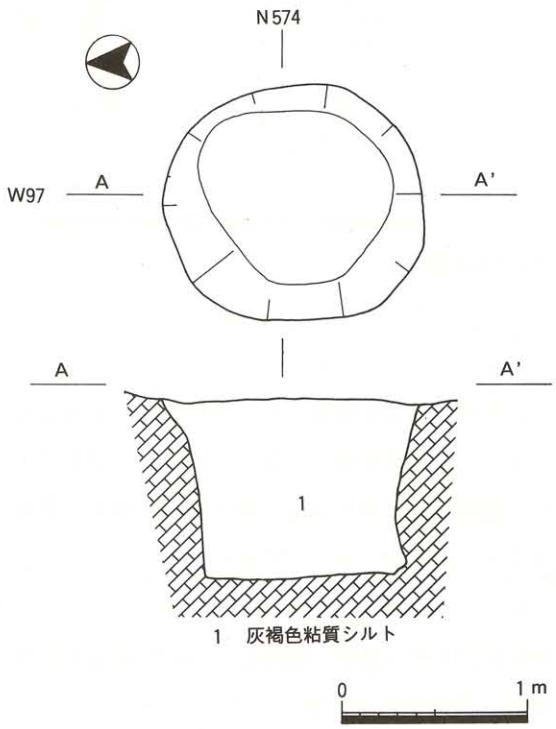
1　暗灰茶色微砂質土（炭化物含む）
2　暗灰褐色シルト混砂質土（炭化物含む）
3　明灰茶色シルト混微砂質土
4　暗灰色粘質シルト
5　暗褐色粘質シルト混砂質土
6　暗灰褐色粘質シルト混粘質土
7　黒褐色シルト混粘質土
8　暗青灰色シルト混粘土
9　黄灰色シルト
10　暗灰茶色粘質土
11　暗青灰粘土
12　青灰色シルト混粘土

第24図　ＳＥ７平断面図

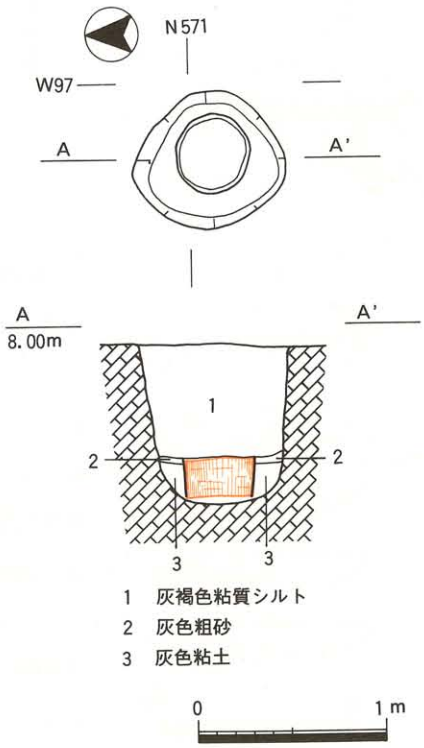
ルト混砂質土・黒褐色シルト混粘質土・暗青灰色シルト混粘土・黄灰色シルト・暗灰茶色粘質土・青灰色シルト混粘土の12層に分かれる（第24図）。これらは薄い三日月形に堆積している。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器の甕、須恵器の甕、瓦器の小片が少量出土している。

ＳＥ８

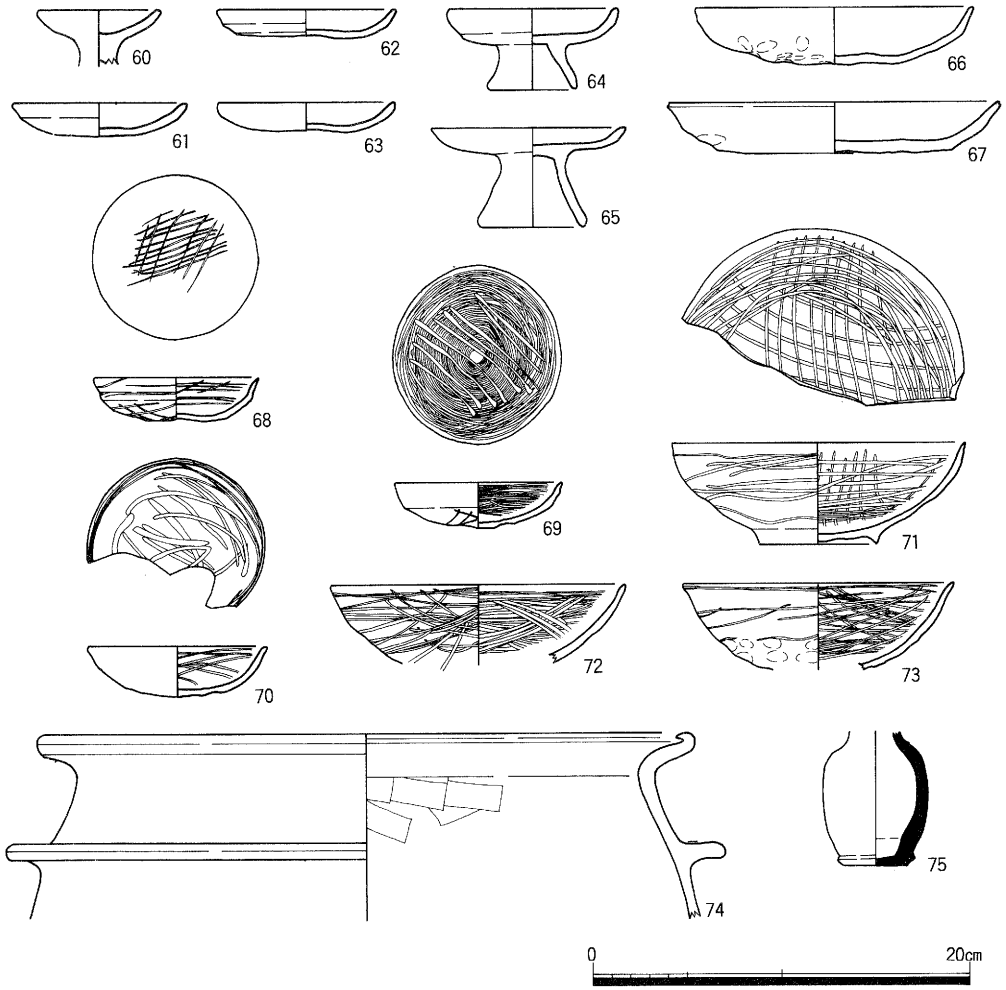
ＢⅡ－ｃ１区で検出した素掘り井戸で、ＳＫ５を切っている。調査区内では半分の検出であり、この井戸の全容を掴むため東側へ拡張した。その結果、平面の形状は、ほぼ円形を呈する。規模は検出部で、東西1.07m以上、南北径1.39m、深さ96cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面付近には帯水があったようで、その水位によって一部えぐれた部分がみられる。堆積土は、灰褐色粘質シルトの１層である（第25図）。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器のミニチュアの高杯（60）・小皿（61～63）・台付小皿（64・65）・中皿（66・67）・壷・羽釜（74）、須恵器のミニチュアの壷（75）・甕、瓦器の小皿（68～70）・椀（71～73）の破片が少量出土している（第27図）。出土遺物内にはミニチュア土器が含まれており、この井戸が廃絶される時に行われた祭祀用土器ではないかと考えられる。



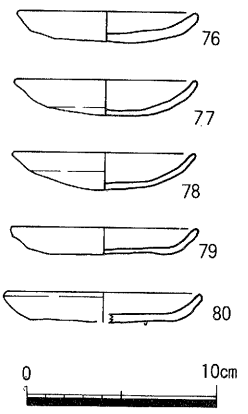
第25図　ＳＥ８平断面図



第26図　ＳＥ９平断面図



第27図　ＳＥ８出土遺物実測図



第28図　ＳＥ９出土遺物実測図

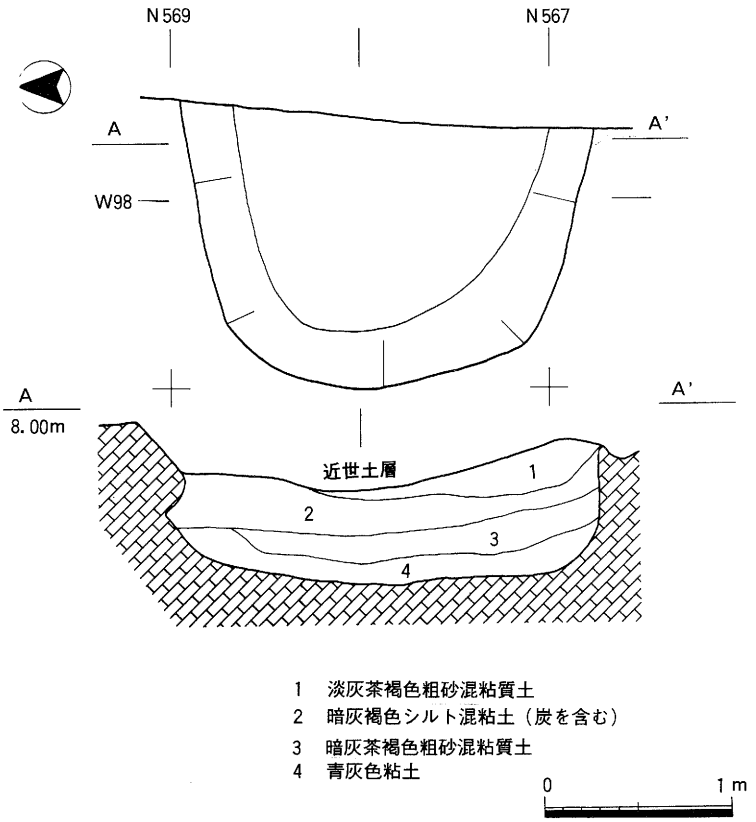
ＳＥ９

ＢⅡ－ｃ１区で検出した素掘り井戸で、古墳時代後期のＳＫ６を切っている。東部は拡張を実施して井戸の全容を完掘した。その結果、井戸側として曲物を備えた井戸であった。掘形の平面は円形を呈し、東西78㎝、南北80㎝、深さ80㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。曲物は一段だけの検出である。平面は円形で、径40㎝、高さ20㎝を測る。厚みは６㎜である。堆積土は、井戸側内が灰黒色粘泥土の１層で、掘形が上方から灰褐色粘質シルト・灰色粗砂・灰色粘土の３層に分かれる（第26図）。遺物は、掘形から古墳時代後期に比定される土師器の高杯、須恵

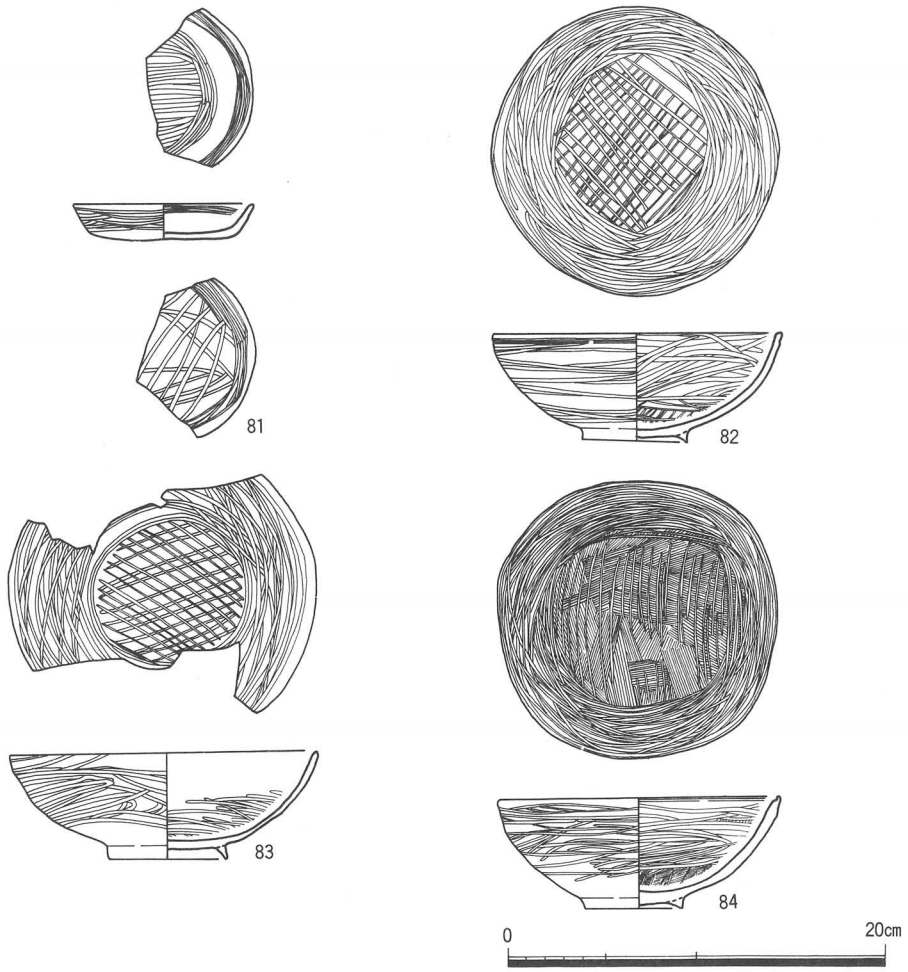
器の杯蓋・甕、井戸側内から平安時代末期に比定される土師器の小皿（76～80）などの小片が少量出土している（第28図）。

ＳＥ10

ＢⅡ－ｄ１区で検出した素掘り井戸である。北部はＳＫ６を切り、東部は調査区外に至る。平面は検出部で半円形を呈し、東西1.45m以上、南北2.2m、深さ71cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、淡灰茶褐色粗砂混粘質土・暗灰褐色シルト混粘土（炭を含む）・暗灰茶褐色粗砂混粘質土・青灰色粘土の４層で、底部付近に径20cm前後の石が４点検出している（第29図）。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器の小皿、瓦器の小皿（81）・椀（82～84）などの小片が少量出土している（第30図）。



第29図　ＳＥ10平断面図

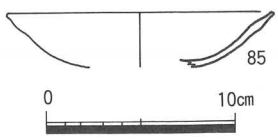


第30図　ＳＥ10出土遺物実測図

土坑（ＳＫ）

ＳＫ７

ＡⅡ－ｈ１区で検出した土坑である。ＳＰ39に切られ、ＳＥ４を切り、東部は調査区外に至る。平面は検出部で半円形を呈し、東西58㎝、南北1.28ｍ、深さ20㎝を測る。断面は逆台形を呈し、底面に若干の起伏が見られる。堆積土は、暗灰褐色砂質土である。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器の杯(85)などの小片が少量出土している(第31図)。



第31図　ＳＥ７出土遺物実測図

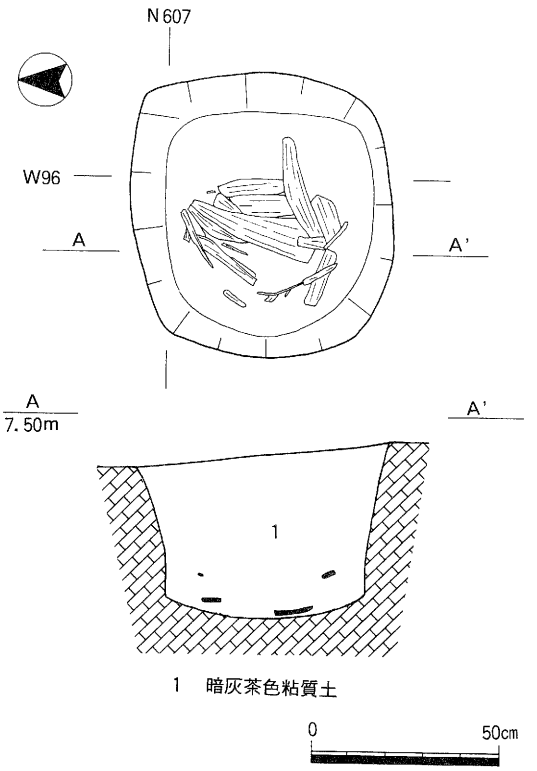
ＳＫ８

ＢⅡ－ｂ１区で検出した土坑で、ＳＰ85・ＳＰ88・ＳＰ91・ＳＰ92に切られる。平面は不定形を呈し、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西1.6ｍ、南北1.4ｍ、深さ11㎝を測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰黄褐色シルトである。遺物は出土していない。

小穴（ＳＰ）

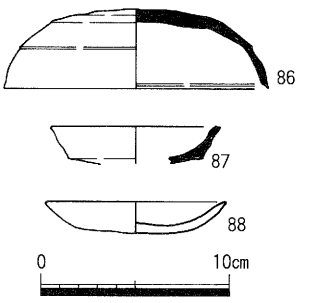
ＳＰ１～ＳＰ132

調査区で132個を検出した。平面の形状には円形のもの31個、楕円形のもの21個、隅丸方形のもの３個、方形のもの24個、不定形のもの１個、不明（調査区外に至る）のもの52個がある。規模は20～35㎝の小さいものと、36～74㎝の大きいものに分けられる。断面の形状には、逆台形と逆凸形を呈する２つの形がある。逆凸形のものは柱の抜き穴と考えられる柱痕で、構造物に関連するものであろう。しかし、調査区が小規模で限定されているため、規則的な配列は見られなかった。また、ＡⅡ－ｊ１区で検出したＳＰ55は、他の小穴とはやや異なる（第32図）。底面にはチョンナのようなもので削ってできた木屑が敷き詰めており、性格としては貯蔵庫のような機能もつものである。敷かれている木屑は貯蔵物のクッション的な役目と保存する２つの機能があるものと考えられる。



第32図　ＳＰ55平断面図

遺物は、小穴内から古墳時代後期～鎌倉時代初頭に至る土器の小片がごく少量の出土であり、詳細なことは不明であるが、これらの小穴のかなり時期幅があり、大きく２つに分かれる。古墳時代後期～奈良時代に比定されるものと平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定さ



第33図　ＳＰ69（86）ＳＰ13（87）
ＳＰ120（88）出土遺物実測図

れるものである。図示できたものは第33図の３点だけである。ＳＰ69（86）は古墳時代後期に比定される須恵器（Ⅱ型式４段階）の杯蓋、ＳＰ13（87）とＳＰ120（88）は鎌倉時代初頭に比定される土師質小皿である。

なお、個々の小穴の法量などについては第２表に記した。

第２表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ１	ＡⅡ－ｃ１	楕円形	逆台形	25～35	13	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ２	ＡⅡ－ｃ１	円形	逆台形	30	12	暗灰褐色細砂混シルト	ＳＤ１を切る。
ＳＰ３	ＡⅡ－ｄ１	隅丸方形	逆台形	26～30	10	暗灰褐色細砂混シルト	根石(18×9×4)
ＳＰ４	ＡⅡ－ｄ１	楕円形	逆台形	42～46	15	暗灰褐色細砂混シルト	ＳＤ２を切る。
ＳＰ５	ＡⅡ－ｄ１	―――	逆凸形	60以上	40	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ６	ＡⅡ－ｅ１	―――	逆台形	42以上	20	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ７	ＡⅡ－ｅ１	隅丸方形	逆台形	36～38	11	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ８	ＡⅡ－ｅ１	楕円形	逆凸形	26～30	16	暗灰褐色細砂混シルト	柱根(径10)
ＳＰ９	ＡⅡ－ｅ１	円形	逆台形	32	17	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ10	ＡⅡ－ｅ１	円形	逆台形	24	29	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ11	ＡⅡ－ｅ１	―――	逆台形	64	34	暗灰褐色細砂混シルト	ＳＤ３を切る。
ＳＰ12	ＡⅡ－ｅ１	円形	逆台形	24	10	暗灰褐色細砂混シルト	ＳＤ３を切る。
ＳＰ13	ＡⅡ－ｅ１	隅丸方形	逆台形	28～54	12	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ14	ＡⅡ－ｅ１	楕円形	逆台形	30～36	15	暗灰褐色細砂混シルト	ＳＤ３を切る。
ＳＰ15	ＡⅡ－ｅ１	円形	逆台形	24	13	暗灰褐色細砂混シルト	ＳＤ３を切る。
ＳＰ16	ＡⅡ－ｅ１	円形	逆台形	22	8	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ17	ＡⅡ－ｆ１	円形	逆台形	36	16	暗灰褐色細砂混シルト	ＳＫ１を切る。
ＳＰ18	ＡⅡ－ｆ１	楕円形	逆台形	20～24	12	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ19	ＡⅡ－ｆ１	楕円形	逆台形	15～20	9	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ20	ＡⅡ－ｆ１	楕円形	逆台形	30～38	15	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ21	ＡⅡ－ｇ１	―――	逆台形	78	38	暗灰褐色細砂混シルト	ＳＰ22を切る。
ＳＰ22	ＡⅡ－ｇ１	―――	逆台形	20以上	10	暗茶灰色粘質シルト	
ＳＰ23	ＡⅡ－ｇ１	円形	逆台形	34	19	暗茶灰色粘質シルト	
ＳＰ24	ＡⅡ－ｇ１	円形	逆凸形	48～50	24	茶灰色砂質土	柱根(径14～20)
ＳＰ25	ＡⅡ－ｇ１	―――	逆台形	64～92	30	茶灰色砂質土	ＳＤ26と切り合う。
ＳＰ26	ＡⅡ－ｇ１	―――	逆台形	48以上	14	暗灰褐色シルト	柱根(径21～31)
ＳＰ27	ＡⅡ－ｇ１	長楕円形	逆凸形	40～74	20	暗灰褐色シルト	ＳＤ25と切り合う。
ＳＰ28	ＡⅡ－ｇ１	円形	逆台形	52～58	25	暗灰褐色シルト	
ＳＰ29	ＡⅡ－ｇ１	円形	逆台形	40	20	暗灰褐色シルト	
ＳＰ30	ＡⅡ－ｇ１	円形	逆台形	30	20	暗灰褐色シルト	
ＳＰ31	ＡⅡ－ｇ１	楕円形	逆台形	40～48	18	暗灰褐色シルト	ＳＰ32を切る。
ＳＰ32	ＡⅡ－ｇ１	―――	逆台形	40以上	17	暗灰褐色砂質シルト	ＳＥ３・ＳＰ31に切られる。
ＳＰ33	ＡⅡ－ｇ１	―――	逆台形	48	15	黄褐色シルト	調査区外に至る。
ＳＰ34	ＡⅡ－ｇ１	―――	逆台形	48	18	暗灰褐色シルト	ＳＥ３に切られる。
ＳＰ35	ＡⅡ－ｇ１	―――	逆台形	44	20	明黄褐色砂質土	調査区外に至る。
ＳＰ36	ＡⅡ－ｇ１	楕円形	逆台形	40	15	黄褐色砂質土	調査区外に至る。
ＳＰ37	ＡⅡ－ｇ１	―――	逆台形	44	11	黄灰色砂質土	調査区外に至る。
ＳＰ38	ＡⅡ－ｈ１	―――	逆台形	34～36	14	暗茶色シルト	

＊　単位：cm

遺構番号	地　　区	平 面 形	断面形	径	深さ	堆　積　土	備　　考
ＳＰ39	ＡⅡ－h1	―――	逆台形	38以上	21	暗茶灰色シルト	ＳＥ４・ＳＫ７にられる。
ＳＰ40	ＡⅡ－h1	方形	逆台形	25～48	20	暗茶灰色シルト	ＳＥ５に切られる。
ＳＰ41	ＡⅡ－h1	楕円形	逆台形	24～34	20	暗茶灰色シルト	
ＳＰ42	ＡⅡ－h1	―――	逆台形	60	12	黄褐色粘質シルト	ＳＰ43を切る。
ＳＰ43	ＡⅡ－h1	―――	逆台形	38	15	暗茶灰色シルト	調査区外に至る。
ＳＰ44	ＡⅡ－h1	―――	逆台形	40～44	28	暗茶灰色シルト	ＳＰ42に切られる。
ＳＰ45	ＡⅡ－h1	―――	逆台形	28以上	8	暗茶灰色シルト	ＳＰ47を切る。
ＳＰ46	ＡⅡ－h1	―――	逆台形	48	18	茶灰褐色粘質土	調査区外に至る。
ＳＰ47	ＡⅡ－h1	―――	逆台形	22	10	茶褐色シルト	調査区外に至る。
ＳＰ48	ＡⅡ－i1	―――	逆台形	28	20	淡黄灰色粘質土	ＳＰ44に切られる。
ＳＰ49	ＡⅡ－i1	―――	逆台形	42	15	暗茶灰色シルト	ＳＤ８を切る。
ＳＰ50	ＡⅡ－i1	円形	逆台形	38	18	暗茶灰色シルト	ＳＤ９に切られる。
ＳＰ51	ＡⅡ－i1	楕円形	逆台形	24～32	12	暗茶灰色シルト	
ＳＰ52	ＡⅡ－i1	円形	逆台形	58	28	暗茶灰色シルト	ＳＤ13を切る。
ＳＰ53	ＡⅡ－i1	―――	逆台形	40	18	淡黄灰色粘質土	調査区外に至る。
ＳＰ54	ＡⅡ－i1	隅丸方形	逆台形	22	9	暗灰茶色粘質土	
ＳＰ55	ＡⅡ－j1	隅丸方形	逆台形	68	38	暗灰茶色粘質土	底面に木くず。
ＳＰ56	ＡⅡ－j1	―――	逆台形	56	12	暗灰茶色シルト	
ＳＰ57	ＡⅡ－j1	―――	逆台形	58	11	暗灰茶色シルト	ＳＤ15底面で検出。
ＳＰ58	ＡⅡ－j1	隅丸方形	逆台形	58～76	28	暗褐灰色シルト	
ＳＰ59	ＡⅡ－j1	隅丸方形	逆台形	68～70	18	暗褐灰色シルト	ＳＤ15・16を切る。
ＳＰ60	ＡⅡ－j1	―――	逆台形	56	16	暗灰茶色シルト	ＳＤ15に切られる。
ＳＰ61	ＡⅡ－j1	―――	逆凸形	90	18	暗灰茶色シルト	ＳＤ15に切られる。 柱痕(径23)。
ＳＰ62	ＡⅡ－j1	隅丸方形	逆台形	44～48	17	暗灰茶色シルト	ＳＤ16に切られる。
ＳＰ63	ＡⅡ－j1	―――	逆台形	40	20	暗褐灰茶色シルト	ＳＤ15・17に切られる。
ＳＰ64	ＡⅡ－j1	隅丸方形	逆凸形	54～56	33	暗茶灰色シルト	ＳＤ16に切られる。
ＳＰ65	ＡⅡ－a1	―――	逆凸形	60	20	明黄褐色微砂混粘質土	
ＳＰ66	ＡⅡ－a1	―――	逆凸形	124	35	明黄褐色微砂混粘質土	調査区外に至る。
ＳＰ67	ＡⅡ－a1	円形	逆台形	40	14	暗茶灰色シルト	
ＳＰ68	ＡⅡ－a1	―――	逆凸形	38	24	暗茶灰色シルト	ＳＰ69に切られる。
ＳＰ69	ＡⅡ－a1	隅丸方形	逆台形	78～88	27	暗茶褐色シルト	ＳＤ16に切られる。
ＳＰ70	ＡⅡ－a1	円形	逆凸形	44～46	27	暗茶灰色シルト	
ＳＰ71	ＡⅡ－a1	円形	逆台形	26～28	18	暗茶灰色シルト	ＳＤ19に切られる。
ＳＰ72	ＡⅡ－a1	隅丸方形	逆台形	20～30	13	暗茶灰色シルト	ＳＤ19に切られる。
ＳＰ73	ＡⅡ－a1	隅丸方形	逆台形	22～32	21	暗茶灰色シルト	ＳＤ19に切られる。
ＳＰ74	ＡⅡ－a1	―――	逆凸形	42	20	暗茶灰色シルト	西部は撹乱している
ＳＰ75	ＡⅡ－a1	―――	逆凸形	50以上	27	暗茶灰色シルト	北部は撹乱している

＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
SP76	AⅡ－a1	―――	逆台形	80	23	暗茶灰色シルト	調査区外に至る。
SP77	BⅡ－b1	円形	逆台形	54	26	暗茶灰色粘質シルト	
SP78	BⅡ－b1	隅丸方形	逆台形	68～76	32	暗茶灰色シルト	
SP79	BⅡ－b1	長方形	逆台形	30～42	24	暗茶灰色シルト	
SP80	BⅡ－b1	―――	逆台形	48	30	暗茶灰色シルト	SP81を切り、西部は調査区外に至る。
SP81	BⅡ－b1	―――	逆台形	44	15	暗茶褐色細砂混シルト	SP80・83に切られる
SP82	BⅡ－b1	―――	逆台形	32	14	暗茶灰色シルト	SP83・84に切られる
SP83	BⅡ－b1	―――	逆台形	48	29	暗茶褐色細砂混シルト	SP82を切りSP83切られる。
SP84	BⅡ－b1	―――		44	15	暗茶褐色細砂混シルト	SP82・83を切られる。
SP85	BⅡ－b1	楕円形	逆凸形	43～76	37	暗茶灰色シルト	SK8を切る。
SP86	BⅡ－b1	隅丸方形	逆方形	46～56	38	暗茶灰色シルト	SP87を切る。
SP87	BⅡ－b1	―――		38	12	暗茶灰色シルト	SP86に切られ、西部は調査区外に至る。
SP88	BⅡ－b1	長方形	逆台形	38～48	15	暗茶灰色シルト	SK8を切る。
SP89	BⅡ－b1	―――	逆台形	58	10	暗茶灰色シルト	調査区外に至る。
SP90	BⅡ－b1	方形	逆台形	50	24	暗茶灰色シルト	
SP91	BⅡ－b1	不定形	逆台形	54～70	35	暗茶褐色シルト	SK8を切る。
SP92	BⅡ－b1	―――	逆台形	44	33	暗茶褐色シルト	調査区外に至る。
SP93	BⅡ－b1	隅丸方形	逆台形	36～42	9	暗茶褐色シルト	
SP94	BⅡ－b1	隅丸方形	逆台形	60～66	24	暗茶褐色シルト	
SP95	BⅡ－b1	円形	逆台形	24	16	暗茶褐色シルト	SP96を切る。
SP96	BⅡ－b1	楕円形	逆凸形	74～88	30	暗茶灰色シルト	SP97を切る。
SP97	BⅡ－b1	―――	逆台形	74	14	暗茶褐色シルト	SP96に切られる。
SP98	BⅡ－b1	―――	逆台形	70	33	淡灰茶色シルト 暗灰黒色シルト	調査区外に至る。
SP99	BⅡ－b1	楕円形	逆台形	18～20	6	暗茶灰色シルト	SP100を切る。
SP100	BⅡ－b1	楕円形	逆台形	22	8	暗茶灰色シルト	SP99に切られる。
SP101	BⅡ－b1	円形	逆台形	28	21	暗茶灰色シルト	
SP102	BⅡ－b1	円形	逆台形	18～20	8	暗茶灰色シルト	
SP103	BⅡ－b1	隅丸方形	逆台形	20～24	9	暗茶褐色シルト	SD21を切る。
SP104	BⅡ－b1	隅丸方形	逆台形	36～52	18	暗茶灰色シルト	SD21を切る。
SP105	BⅡ－b1	隅丸方形	逆台形	26～40	15	暗茶褐色シルト	SD21を切る。
SP106	BⅡ－b1	円形	逆台形	26	32	暗茶褐色シルト	SD21を切る。
SP107	BⅡ－b1	―――	逆台形	50	8	暗茶灰色シルト	SD21に切られる。
SP108	BⅡ－c1	円形	逆凸形	20～22	35	暗茶灰色シルト	
SP109	BⅡ－c1	楕円形	逆台形	44～46	17	暗茶褐色シルト	
SP110	BⅡ－c1	隅丸方形	逆台形	28～32	10	暗茶褐色シルト	SP111に切られる。

＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
SP111	BⅡ－c1	楕円形	逆台形	24	20	暗茶灰色シルト	SP110を切り、SP112に切られる。
SP112	BⅡ－c1	円形	逆台形	20～22	14	暗茶褐色シルト	SP111に切られる。
SP113	BⅡ－c1	円形	逆台形	18～20	34	暗茶褐色シルト	
SP114	BⅡ－a1	楕円形	逆台形	32～38	17	暗灰褐色シルト	SD21・24を切る
SP115	BⅡ－c1	円形	逆凸形	48～50	35	暗茶褐色シルト	
SP116	BⅡ－c1	―――	逆台形	42	10	茶灰色砂質土	SP117に切られる。
SP117	BⅡ－c1	―――	逆台形	54	13	暗茶灰色シルト	SP116をきり、SP118に切られる。
SP118	BⅡ－c1	円形	逆台形	36	10	暗茶褐色シルト	SP117を切る。
SP119	BⅡ－c1	円形	逆台形	22	10	暗灰褐色シルト	
SP120	BⅡ－c1	―――	逆台形	62	12	暗灰褐色シルト	SK5を切る。
SP121	BⅡ－c1	―――	逆台形	26	10	暗茶灰色微砂混粘質土	調査区外に至る。
SP122	BⅡ－c1	隅丸方形	逆台形	32～42	13	暗茶灰色シルト	SK5を切る。
SP123	BⅡ－c1	―――	逆台形	66	22	暗茶灰色シルト	SK5を切る。
SP124	BⅡ－c1	隅丸方形	逆台形	28～34	21	暗茶灰色シルト	SK5を切る。
SP125	BⅡ－c1	―――	逆台形	66	26	暗茶灰色シルト	SK5を切る。
SP126	BⅡ－c1	楕円形	逆凸形	28～36	24	暗茶灰色シルト	SK6を切る。
SP127	BⅡ－c1	円形	逆凸形	24～28	20	暗茶灰色シルト	SK6を切る。
SP128	BⅡ－c1	円形	逆台形	36	14	暗茶灰色シルト	SK6を切る。
SP129	BⅡ－c1	円形	逆台形	32	31	暗灰褐色シルト	SK6を切る。
SP130	BⅡ－c1	―――	逆台形	32	25	暗茶灰色シルト	SK6を切り、SEに切られる。
SP131	BⅡ－d2	隅丸方形	逆凸形	92～94	39	暗茶灰色シルト	SK6を切る。
SP132	BⅡ－d2	楕円形	逆凸形	46～68	31	暗茶灰色粘質シルト	近代の溝に切られる。

溝（ＳＤ）

ＳＤ４～ＳＤ25

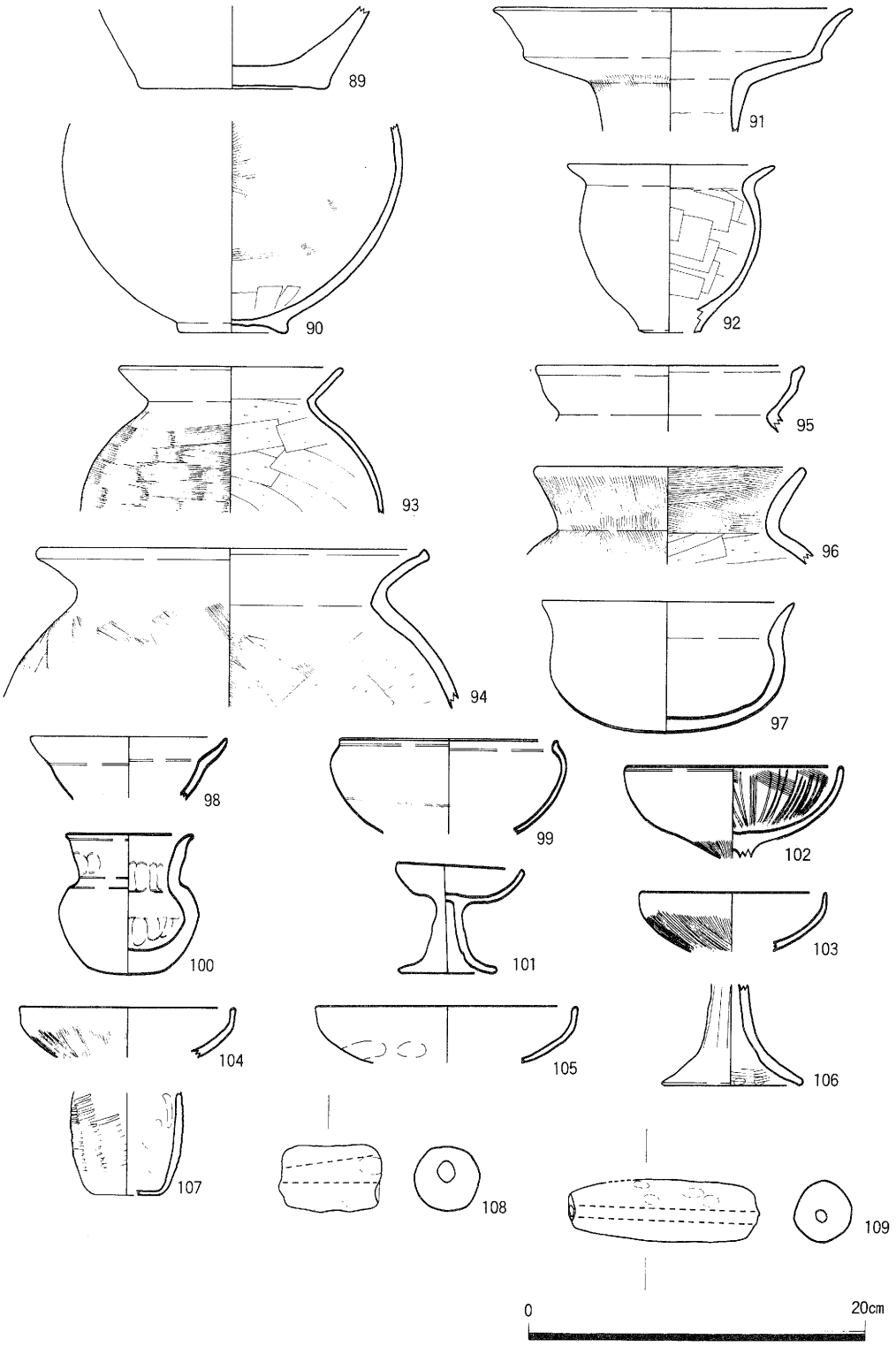
調査区で22条を検出した。方向は東－西方向のもの（11条）、南－北方向のもの（８条）、南東－北西方向のもの（１条）、Ｌ字形のもの（１条）がある。規模は検出部で、幅20～190㎝、深さ５～34㎝を測る。断面は逆台形及び逆凸形を呈し、平安時代末期の整地層から切り込んでいる。堆積土は、暗灰褐色細砂混シルトである。遺物は、溝内から古墳時代中期～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。これらの溝は住居に関連する排水溝・雨水溝などが考えられる。時期は平安時代末期から鎌倉時代初頭に至るものがある。以下、個々の溝について第３表に記す。

第３表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：㎝

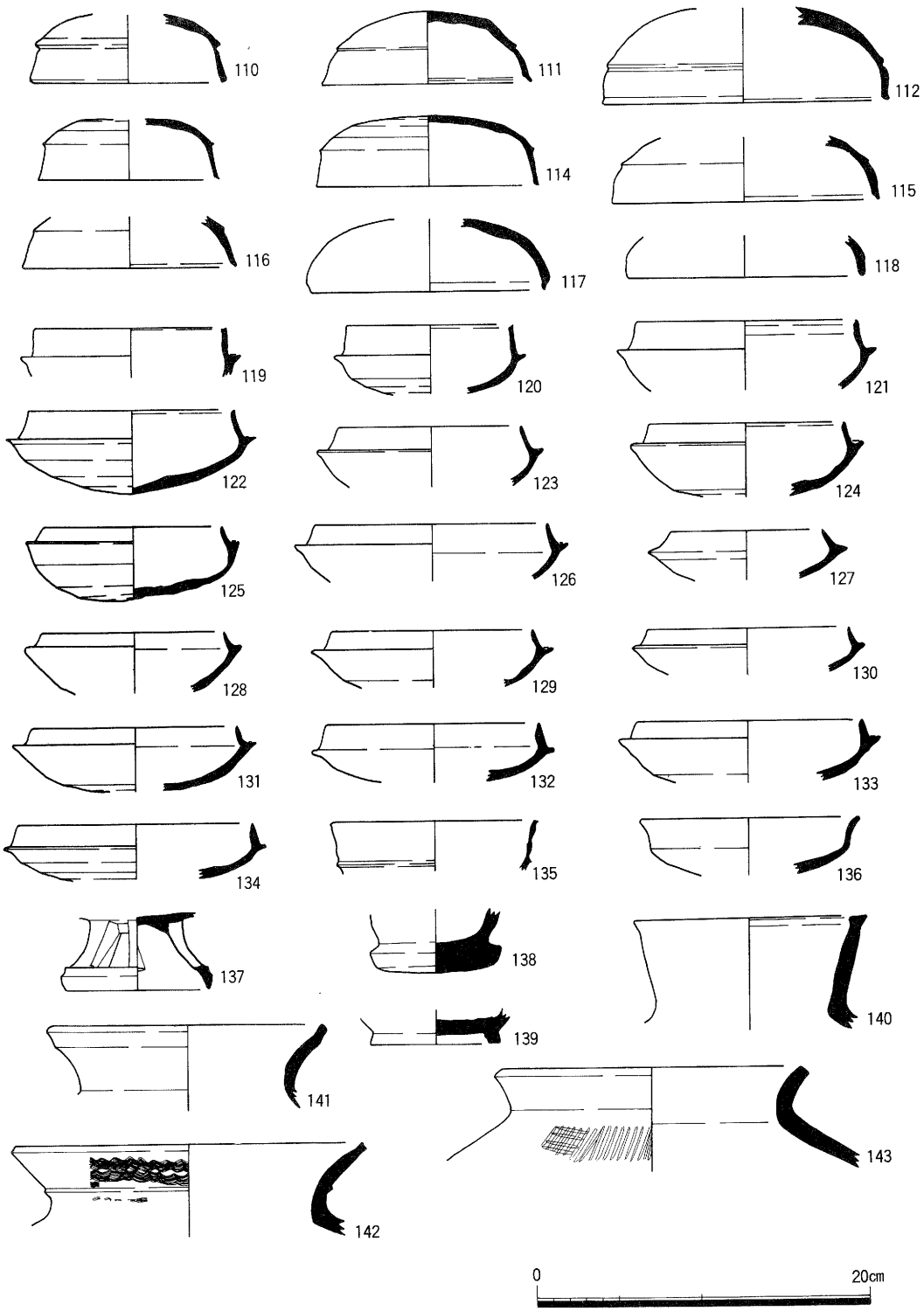
遺構番号	地区	平面形	断面形	幅	深さ	堆積土	備考
ＳＤ４	ＡⅡ－ｃ１	南－北	逆凸形	60～120	30～34	暗灰茶色細砂	ＳＥ１・ＳＰ2を切る。
ＳＤ５	ＡⅡ－ｆ１	南東－北西	逆台形	52	6～9	黄褐色細砂混粘質土	
ＳＤ６	ＡⅡ－ｈ１	南－北	逆凸形	50～60	8～11	暗黄褐色シルト混粘質土	
ＳＤ７	ＡⅡ－ｈ１	南－北	逆凸形	46～56	6～12	暗黄褐色シルト混粘質土	
ＳＤ８	ＡⅡ－ｉ１	東－西	逆台形	84～98	10～16	暗黄褐色シルト混粘質土	ＳＰ48に切られ、ＳＤ14が合流。
ＳＤ９	ＡⅡ－ｉ１	東－西	逆台形	42～56	6～14	暗黄褐色微砂混粘質土	ＳＰ49を切り、ＳＤ14が合流。
ＳＤ10	ＡⅡ－ｉ１	東－西	逆台形	60	6～10	暗黄褐色微砂混粘質土	
ＳＤ11	ＡⅡ－ｉ１	東－西	逆台形	64	6～9	暗黄褐色微砂混粘質土	
ＳＤ12	ＡⅡ－ｉ１	東－西	逆台形	150～190	10～12	暗黄褐色微砂混粘質土	
ＳＤ13	ＡⅡ－ｉ１	東－西	逆台形	30～50	8～10	暗黄褐色微砂混粘質土	ＳＰ52
ＳＤ14	ＡⅡ－ｉ１	南－北	逆台形	20	8	暗黄褐色微砂混粘質土	ＳＤ８・９に合流
ＳＤ15	ＡⅡ－ｊ１	南－北	逆台形	48	13	茶灰色砂質土	ＳＤ17と合流、ＳＰ59を切る。
ＳＤ16	ＡⅡ－ｊ１	南－北	逆台形	106	8～11	茶灰色砂質土	ＳＤ17と合流、ＳＰ62・64を切る。
ＳＤ17	ＡⅡ－ｊ１	東－西	逆台形	20	9	暗灰茶色粘質土	ＳＤ15・16と合流。
ＳＤ18	ＡⅡ－ａ１	東－西	逆台形	32	7～11	暗灰茶色粘質土	ＳＤ19・20と合流。ＳＰ17に切られる。
ＳＤ19	ＡⅡ－ａ１	南－北	逆台形	30	6～8	暗灰茶色粘質土	ＳＤ18と合流、ＳＰ71～73に切られる。
ＳＤ20	ＡⅡ－ａ１	南－北	逆台形	14～24	5	暗灰茶色粘質土	ＳＤ18と合流。
ＳＤ21	ＢⅡ－ｂ１	東－西	逆台形	56	23～25	暗オリーブ色シルト	ＳＰ103～106に切られる。
ＳＤ22	ＢⅡ－ｃ１	東－西	逆台形	25～50	8～12	茶灰色砂質土	ＳＤ18と合流。
ＳＤ23	ＢⅡ－ｃ１	Ｌ字形(東西と南北)	逆台形	15～24	7～9	茶灰色砂質土	ＳＤ25に切られる。
ＳＤ24	ＢⅡ－ｃ１	東－西	逆台形	32～42	6～8	茶灰色砂質土	ＳＰ114に切られ、ＳＤ23と合流。
ＳＤ25	ＢⅡ－ｂ１～ｃ１	南－北	逆台形	32～70	7～9	暗オリーブ色シルト	ＳＫ５・６・ＳＰ107・ＳＰ22を切る。ＳＰ103～106・114に切られ、ＳＤ21と合流。

3）遺構に伴わない出土遺物

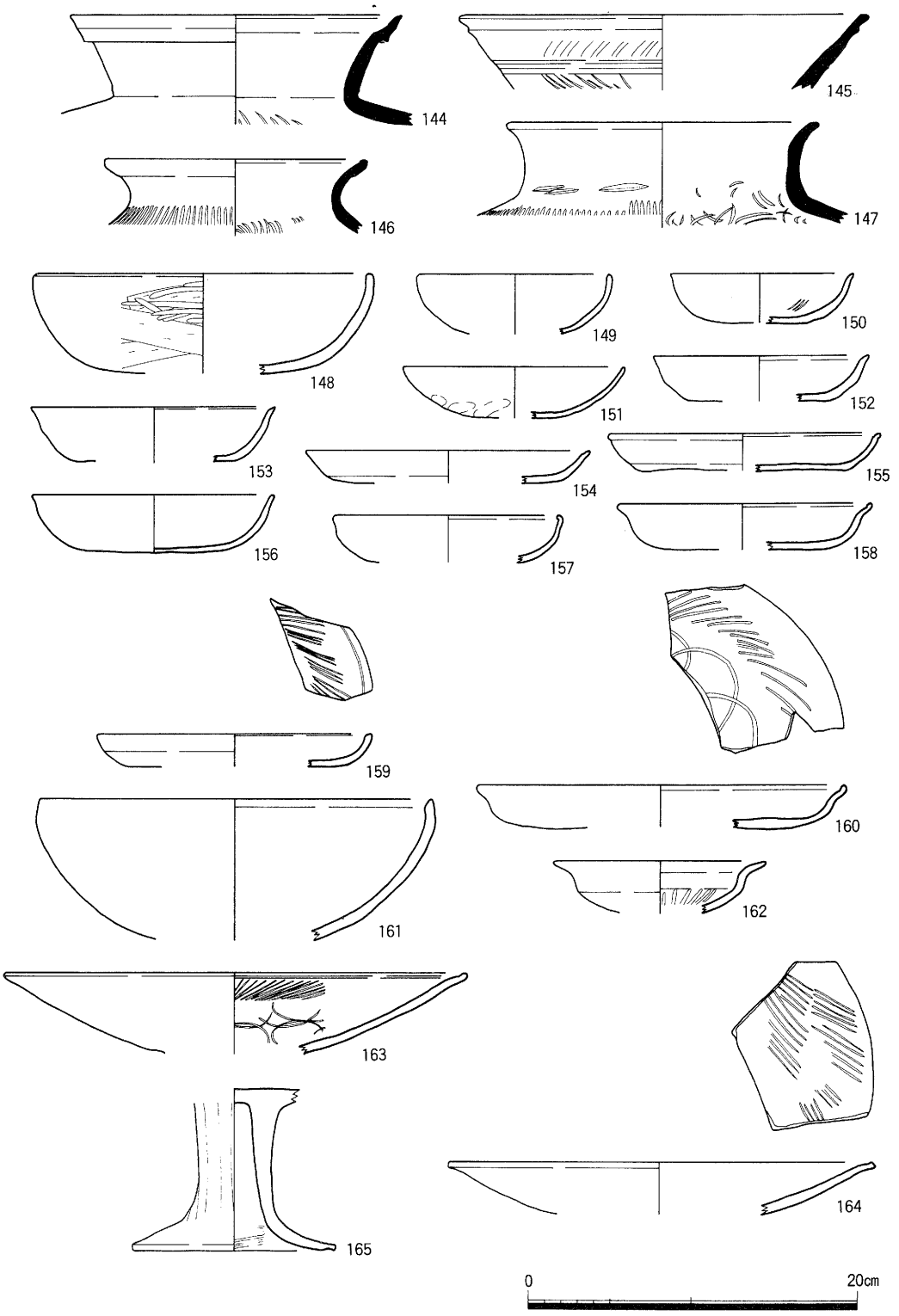
第3・4層内から弥生時代中期～鎌倉時代に至る遺物が出土している。出土量はコンテナ箱にして約4箱分で、ほとんどが平安時代末期の整地層（第4層）内から出土した。以下、図示できたものについて記す。弥生時代のものは、畿内第Ⅳ様式の壷（89）、畿内第Ⅴ様式の壷（90）・甕（92）である。古墳時代前期のものは、布留式古相の複合口縁壷（91）・甕（93）・土錘（108・109）である。古墳時代中期のものは、甕（94～96）・鉢（97・98）・杯（99）・ミニチュアの壷（100）と高杯（101）・高杯（102～106）・製塩土器（107）、須恵器（Ⅱ型式2～4段階）の杯蓋（110～114）・杯身（119～121）・高杯（135～137）・甕（140）である。古墳時代後期のものは、須恵器（Ⅱ型式1～4段階）の杯蓋（115～118）・杯身（122～134）・甕（141～147）である。奈良時代のものは、土師器の鉢（148～153・161）・皿（154～160）・高杯（162～165）・甕（166～170）、須恵器（Ⅳ型式2～4段階）の杯蓋（171・172）・杯身（173）・壷（138・139）である。鎌倉時代のものは、土師器の小皿（174～188）・中皿（189～194）・羽釜（195）・瓦器の椀（196～202）・青磁器の椀（203）である（第34～37図）。



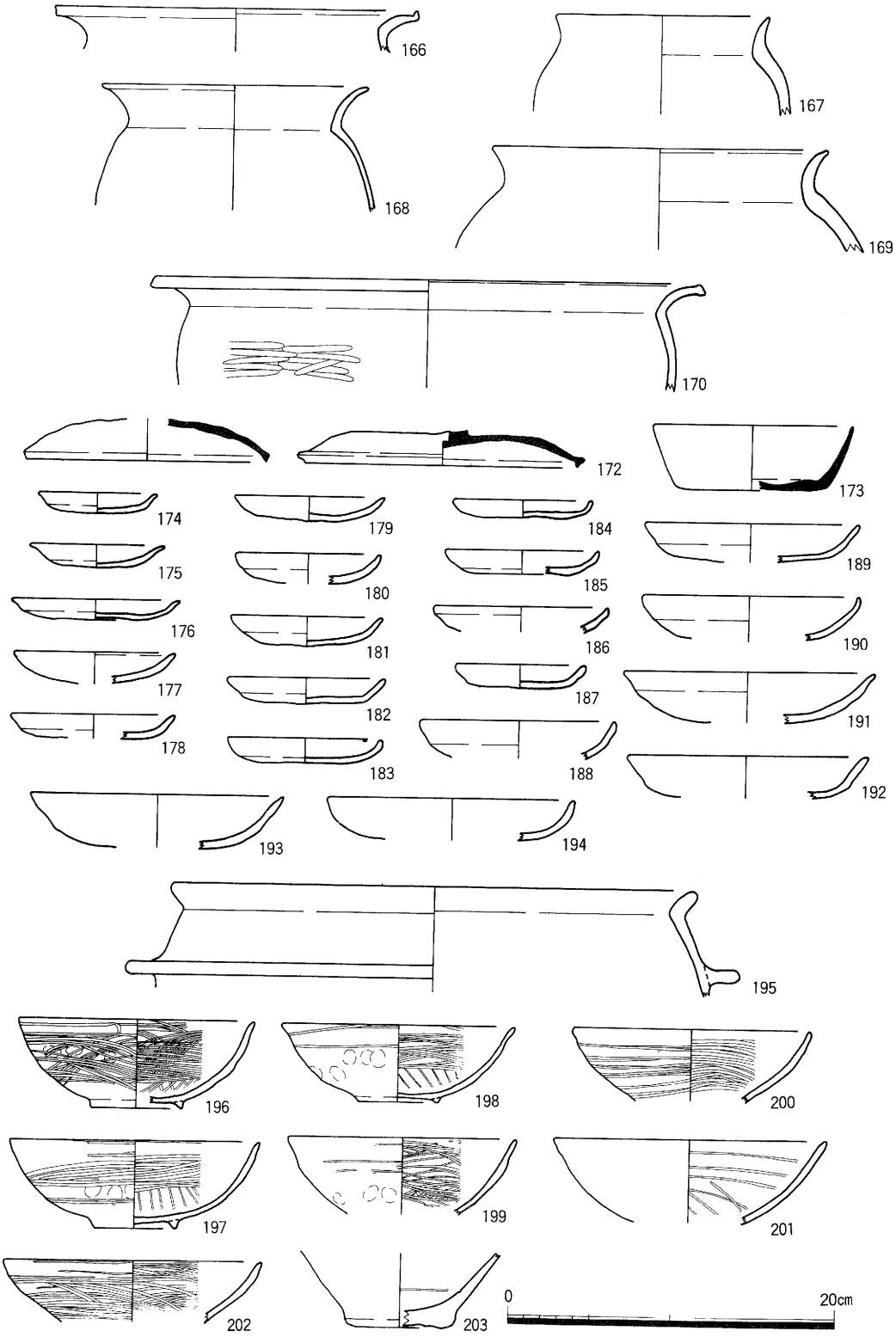
第34図　遺構に伴わない出土遺物実測図１



第35図　遺構に伴わない出土遺物実測図２



第36図　遺構に伴わない出土遺物実測図 3



第37図　　遺構に伴わない出土遺物実測図４

第３節　第２調査区

第１調査区から東へ50ｍに設定した調査区で、第４調査区の中央部から南へ約120ｍ伸びた後屈曲し、東へ約40m伸びるＬ字形の調査区である。調査面積は約320㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表下約1.5ｍに存在する土層内から普遍的に見られる７層を摘出して基本層序とした（第38図）。現地表高は、標高8.2～8.6ｍを測る。以下、各層について記す。

第１層　盛土：層厚60cm。南部の東西トレンチの東部のみの堆積である。

第２層　耕土：層厚15～20cm。現在までの耕作土である。

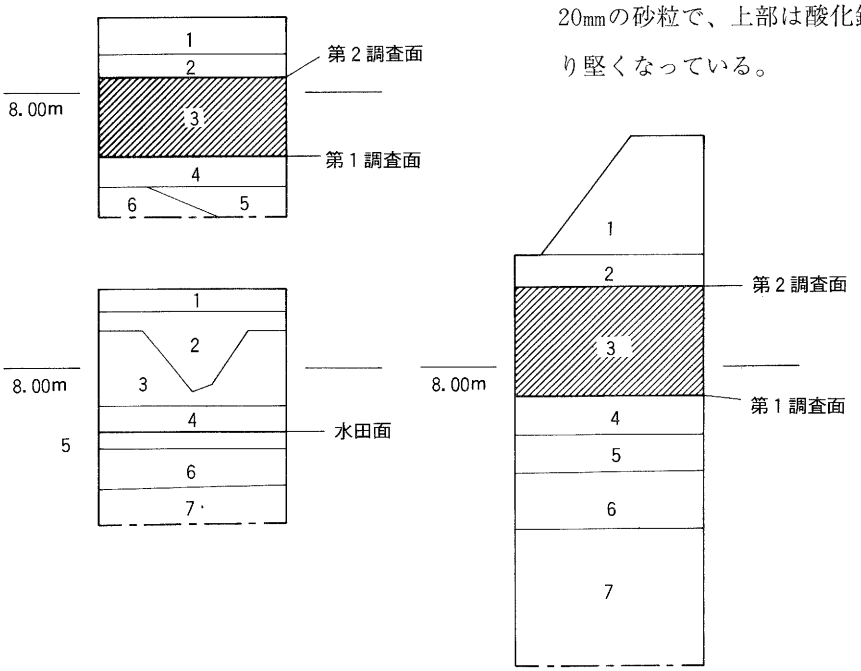
第３層　淡茶灰色～暗茶灰色砂質土：層厚30～40cm。この土層は平安時代末期に整地されたもので、内部から古墳時代から平安時代末期に比定される遺物が含まれている。上面の標高は8.2ｍを測る。

第４層　淡灰茶色シルト混粘質土：層厚10～20cm。

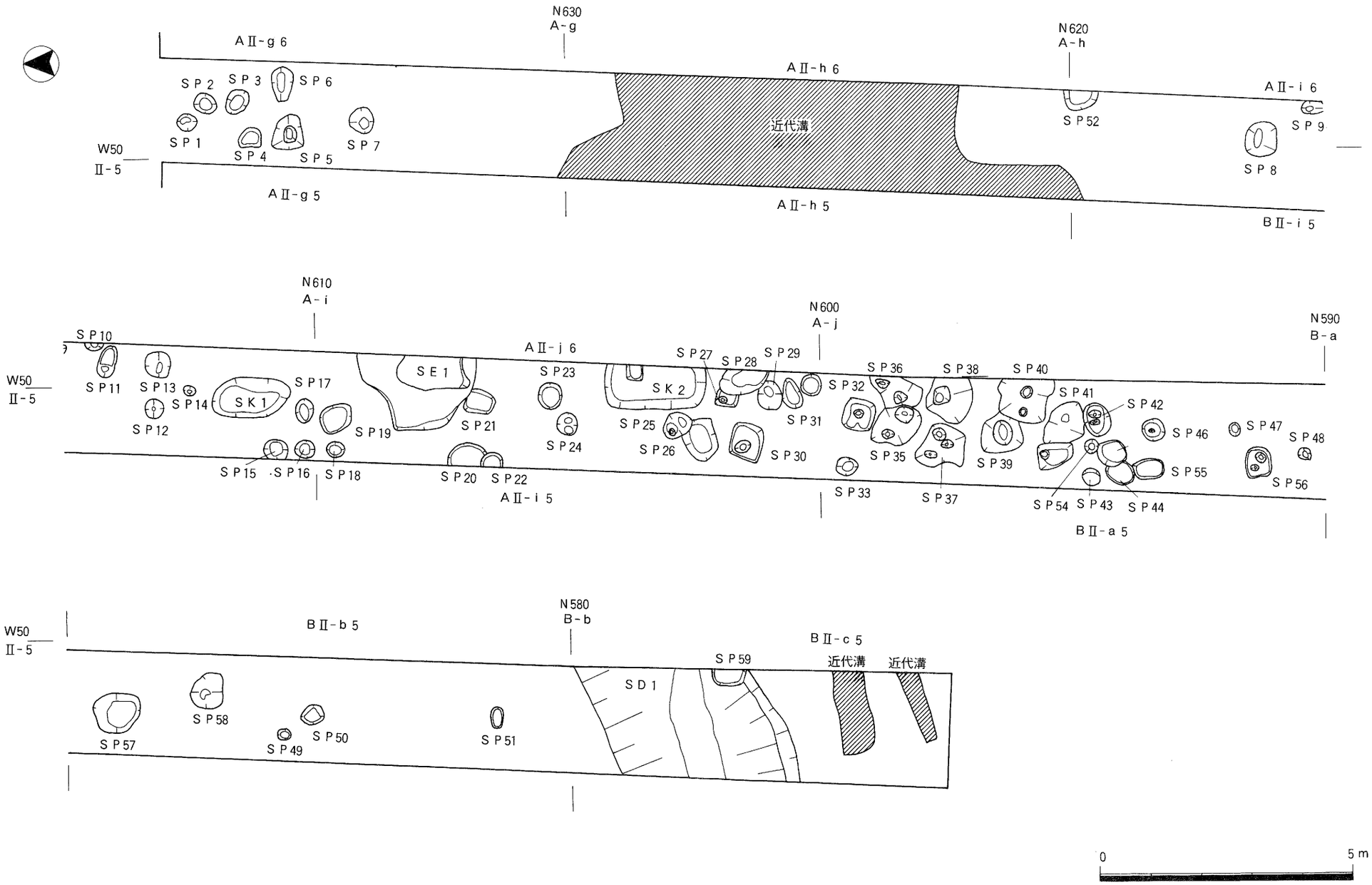
第５層　淡灰色粘質土：層厚10～15cm。

第６層　淡茶灰色微砂粘土：20～30cm。

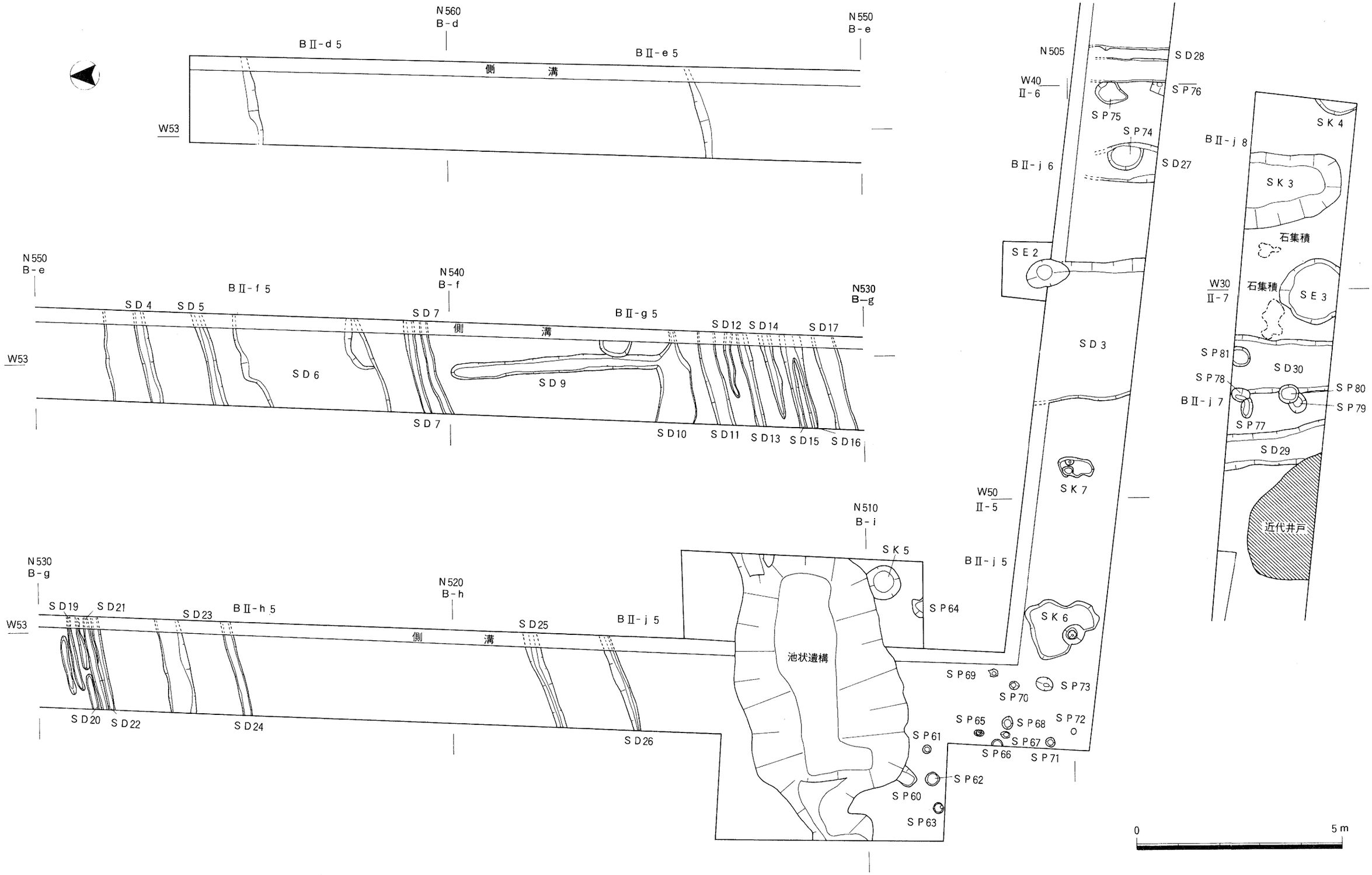
第７層　淡灰茶色粗砂：20cm以上。径５～20mmの砂粒で、上部は酸化鉄分により堅くなっている。



第38図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）



第39図　第２調査区北部遺構平面図



第40図　第２調査区南部遺構平面図

Ⅱ　検出遺物・出土遺物

第３層（第２調査面）・第４層（第１調査面）上面の２面を調査面とした。その結果、第１調査面では、北部の調査区から古墳時代前期に比定される溝１条（ＳＤ１）、古墳時代中期に比定される井戸１基（ＳＥ１）・土坑２基（ＳＫ１・ＳＫ２）・小穴51個（ＳＰ１～ＳＰ51）、南部の調査区から奈良時代に比定される溝１条（ＳＤ３）を検出した。第２調査面では、北部・南部の調査区から平安時代末期から鎌倉時代に至る井戸２基（ＳＥ２・ＳＥ３）・土坑５基（ＳＫ３～ＳＫ７）・小穴47個（ＳＰ52～ＳＰ82）・溝26条（ＳＤ４～ＳＤ30）・池状遺構１基を検出した（第39～40図）。遺構に伴わない出土遺物としては、特に整地層（第３層）内から多量に出土している。出土量は、コンテナ箱にとて約６箱分が出土している。以下、当調査区で検出した各時代の遺構に記す。

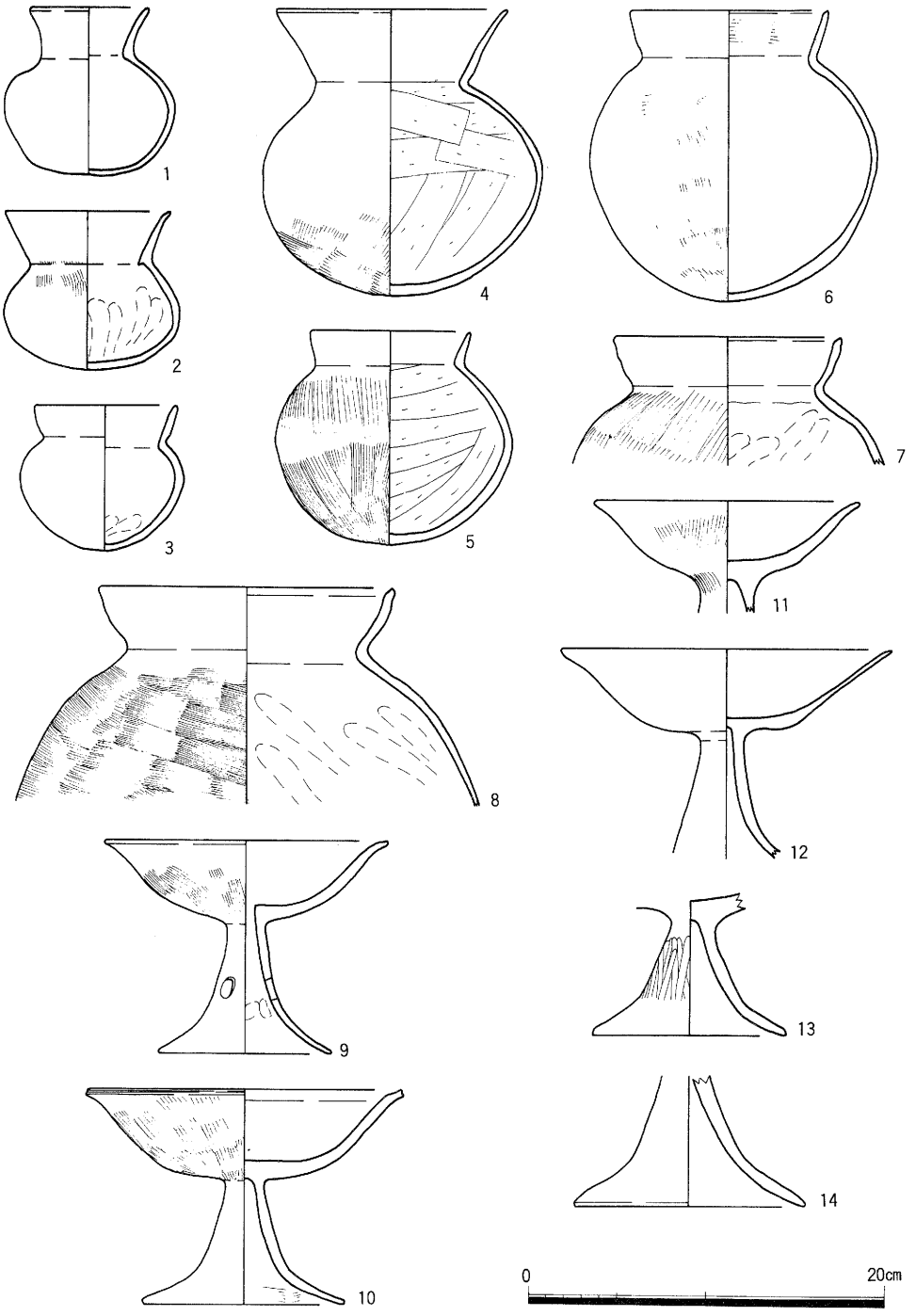
１）第１調査面（古墳時代前期）

溝（ＳＤ）

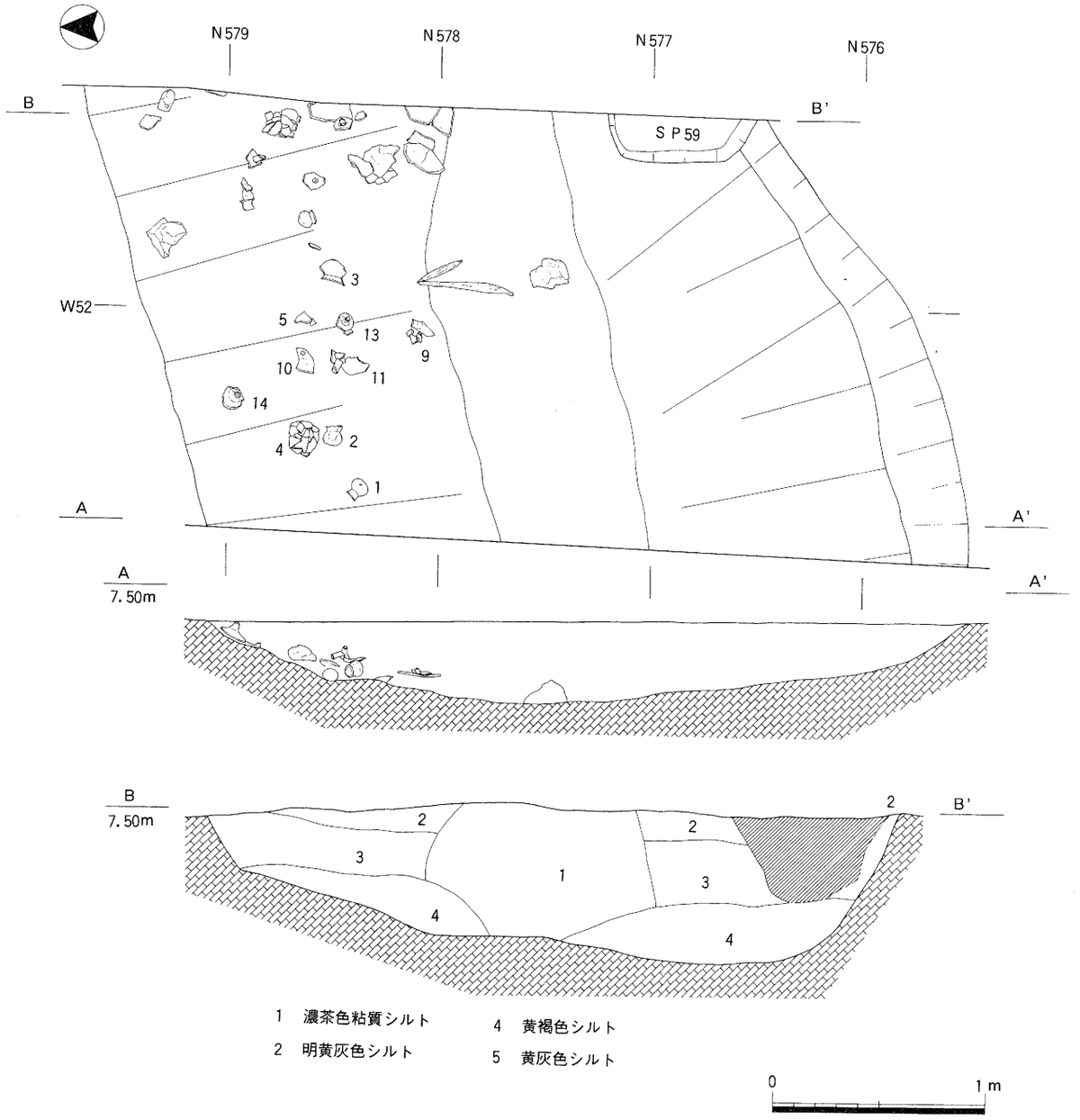
ＳＤ１

ＢⅡ－ｃ５区で検出した。上部は江戸時代以降の溝状遺構で削平されている。方向はほぼ東西方向を示し、東西はともに調査区外に至る。東西に隣接する第１・２調査区には、この溝と継続するものが確認できなかった。また、東南の一部では鎌倉時代初頭に比定されるＳＰ59が溝の堆積土を切り込んでいる。規模は検出部で、幅３～3.52ｍ、深さ34㎝を測る。断面は浅い半円形を呈し、北側斜面が南側斜面に比べやや緩やかな傾斜をもっている。堆積土は、上方から第１層：濃茶色粘質土シルト・第２層：明黄灰色シルト・第３層：黄褐色シルト・第４層：黄灰色シルトの４層で構成されている。断面観察からみると第１層は、第２～４層を切っているようであるが酸化鉄分により色調が濃厚になっており、分層が明確にできなかった。堆積土は、上層と下層に時期的な差はない（第42図）。

遺物は、北側から人為的に投げ込まれたようで、北斜面上に集中して出土している。出土している土器には完形又は完形に近いのものが含まれており、使用不能になったものを破棄するごみ捨て場とは考え難く、何にかの祭祀的なものが想定される。出土遺物は、コンテナ箱にして約２箱分出土している。そのうち、大半を占めるものが土器である。構成は壷１・小型丸底壷３・甕４・高杯６の割合であった。しかし、検出した溝が一部だけであり、詳細なことは不明である。図示できたものは、布留式新相に比定される土師器の壷（１～４）・甕（５～８）・鉢・高杯（９～14）である（第41図）。その他の遺物では、木片２片（長さ25㎝、径４㎝・長さ43㎝、径３～８㎝）・自然石（径20×17×10㎝）が底面付近で検出している。



第41図　ＳＤ１出土遺物実測図



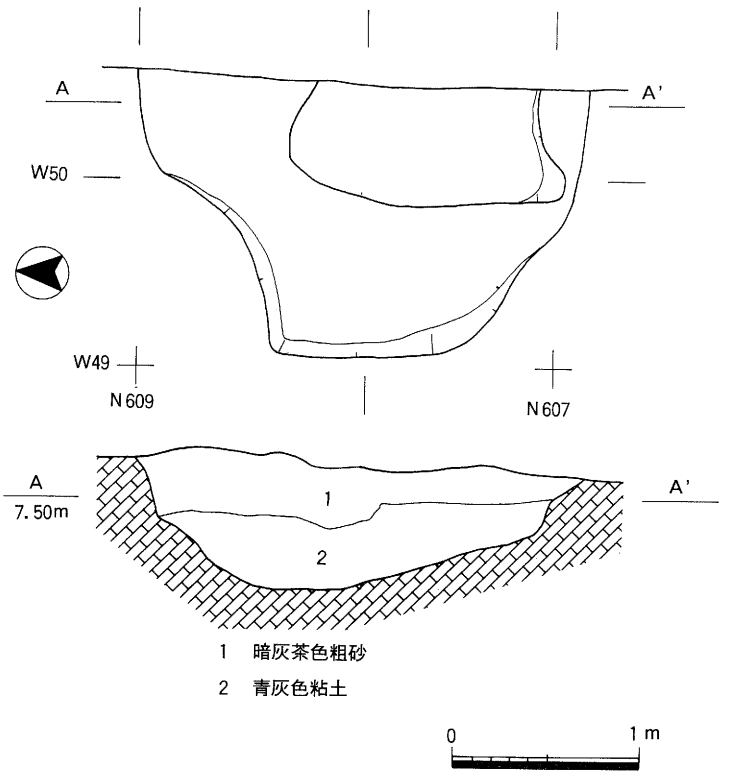
第42図　ＳＤ１検出遺物平断面図及び断面図

２）古墳時代中期

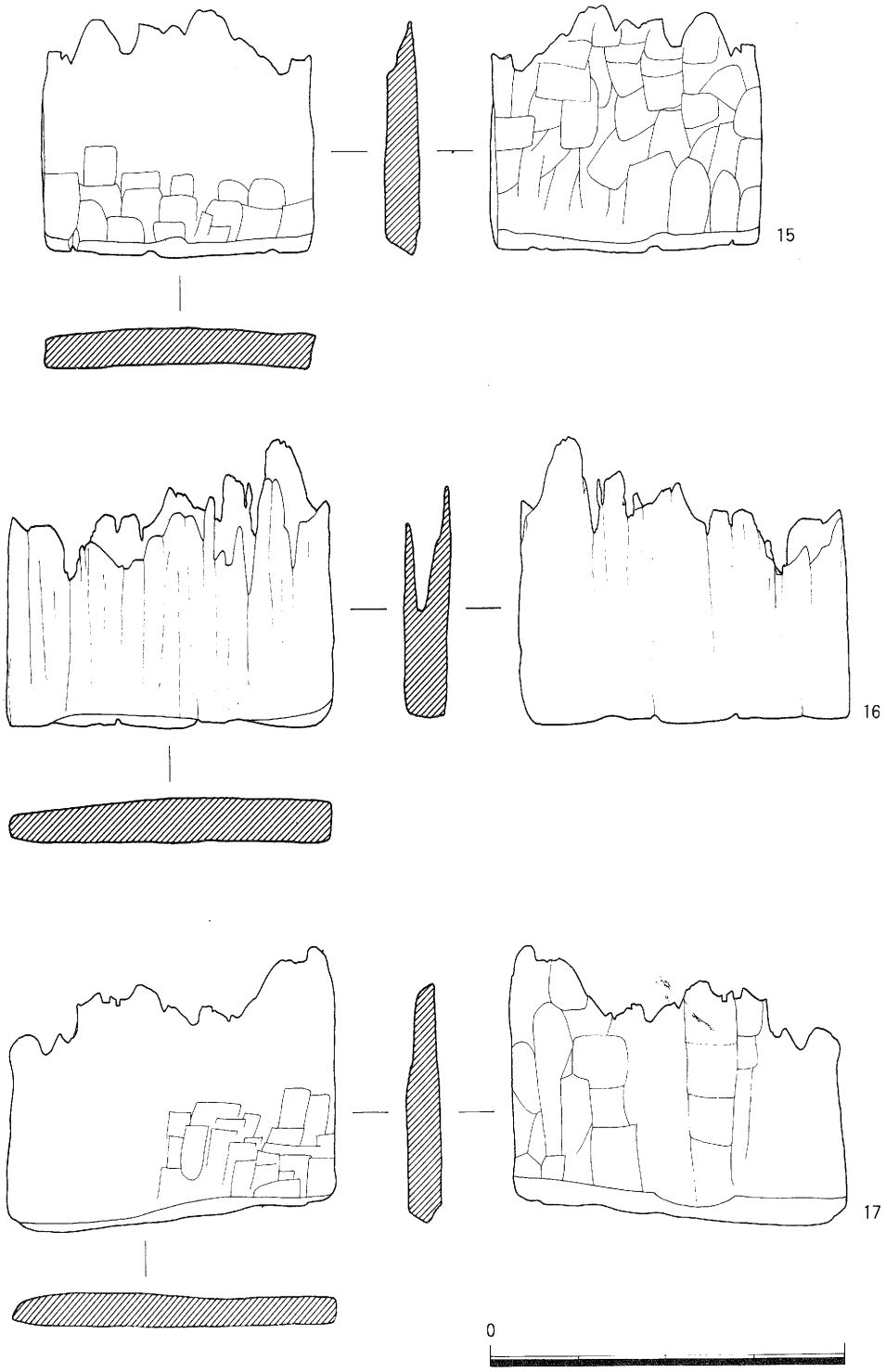
井戸（ＳＥ）

ＳＥ１

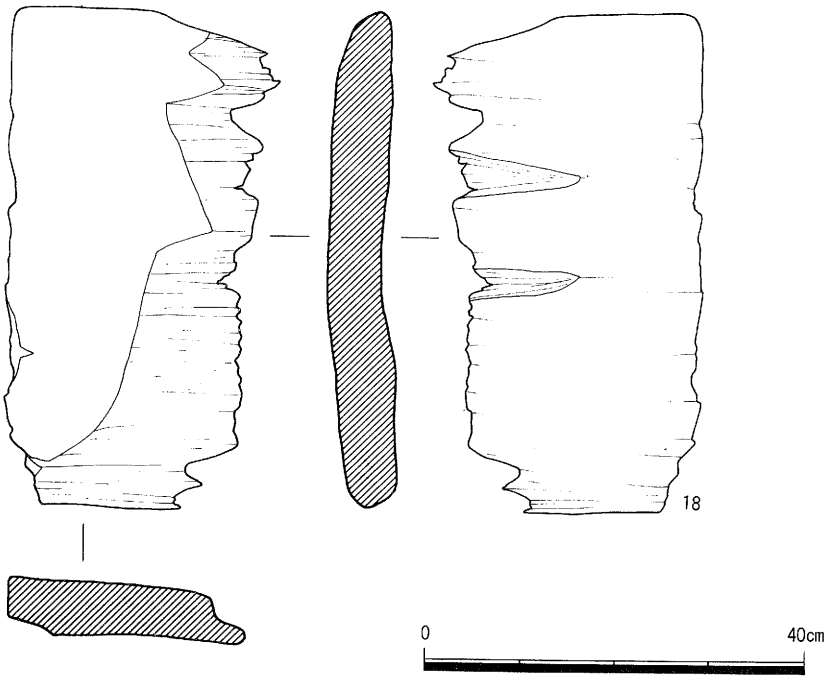
ＡⅡ－ｊ６区で検出した。調査区では西半分の検出であり、東半分を確認するため、拡張を実施した。その結果、井戸側を備えた井戸であるとこが判明した。この井戸は、上部が平安時代末期の整地層と江戸時代によって削平されており、正確な掘り込み面のレベル高は不明である。掘形の平面は検出部で、ほぼ楕円形を呈する。規模は検出部で、東西３ｍ、南北3.2ｍ、深さ70㎝を測る。断面は逆台形を呈する。井戸側は掘形の検出面より30㎝下側の中央で、４枚の板材を平面方形に組み合せており、一辺は約40㎝を測る。辺側は東西・南北を向き、北（15）は幅30㎝、高さ28㎝、厚み40㎜、東（16）は幅37㎝、高さ32㎝、厚み48㎜、南（17）は



第43図　ＳＥ１平断面図



第44図　ＳＥ１井戸枠実測図１



第45図　ＳＥ１井戸枠実測図２

幅36cm、高さ30cm、厚み36mm、西（18）は幅53cm、高さ28cm、厚み56mmをそれぞれ測る。堆積土は、掘形内が暗灰褐色粗砂・青灰色粘土の２層で、井戸側内も暗灰茶色粗砂・青灰色粘質土の２層である（第43図）。遺物は、掘形及び井戸側内から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器などの小片が少量出土している（第44・45図）。

土坑（ＳＫ）

ＳＫ１

ＡⅡ－ｉ５～ｉ６区で検出した。上部は江戸時代の溝で削平されている。平面の形状は検出部で、南北に長い楕円形を呈する。規模は検出部で、東西0.8m、南北1.56m、深さ21cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗茶灰色シルトの１層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の壷、須恵器の杯身などの小片が少量出土している。

ＳＫ２

ＡⅡ－ｊ６区で検出した。平面は半円形を呈し、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西1.6m、南北1.6m、深さ20cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗茶灰色砂質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片が少量出土している。

小穴（ＳＰ）

ＳＰ１～ＳＰ51

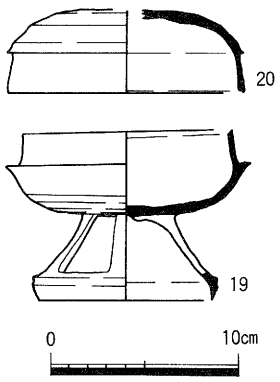
当調査区の北部で古墳時代中期に比定される小穴51個を検出した。検出面は平安時代末期の整地層（第３層）下部で、平安時代末期の遺構とともに検出した。小穴の平面形状には円形のもの（７個）、楕円形のもの（19個）、隅丸方形のもの（８個）、不定形のもの（６個）、方形のもの（１個）、不明のもの（10個）がある。規模は検出部で、径15～92㎝、深さ８～40㎝を測る。断面の形状には逆台形のもの（37個）、逆凸形のもの（14個）がある。堆積土は、暗灰褐色粘質シルト及び暗灰褐色粘質土の２つがある。遺物は、ほとんど小穴内部から出土していないが、ごく一部の小穴から出土したものには、古墳時代中期に比定される須恵器（Ｉ型式２～４段階）の杯蓋・杯身・高杯などの小片がある。図示できたものは、ＳＰ４の高杯（19）、ＳＰ６の杯蓋（20）である（第46図）。以下、各小穴の法量については第４表に記す。

第４表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ１	ＡⅡ－ｇ６	楕円形	逆台形	34～38	22	暗灰褐色粘質シルト	
ＳＰ２	ＡⅡ－ｇ６	楕円形	逆台形	38～44	8	暗灰褐色粘質シルト	
ＳＰ３	ＡⅡ－ｇ６	楕円形	逆台形	44～48	8	暗灰褐色細砂シルト	
ＳＰ４	ＡⅡ－ｇ６	不定形	逆台形	38～46	9	暗茶灰色粘質シルト	
ＳＰ５	ＡⅡ－ｇ６	不定形	逆凸形	60～70	20	暗茶灰色粘質シルト	
ＳＰ６	ＡⅡ－ｇ６	―――	逆台形	42	10	暗茶灰色粘質シルト	
ＳＰ７	ＡⅡ－ｇ６	楕円形	逆台形	48～50	10	暗茶灰色粘質シルト	
ＳＰ８	ＡⅡ－ｉ６	楕円形	逆台形	62～68	23	暗灰褐色粘質土	
ＳＰ９	ＡⅡ－ｉ６	楕円形	逆台形	28～50	16	暗灰褐色粘質シルト	
ＳＰ10	ＡⅡ－ｉ６	―――	逆台形	38	12	暗灰褐色シルト	
ＳＰ11	ＡⅡ－ｉ６	楕円形	逆凸形	34～66	5	暗灰褐色粘質土	
ＳＰ12	ＡⅡ－ｉ６	円形	逆台形	38	8	暗灰褐色粘質土	
ＳＰ13	ＡⅡ－ｉ６	楕円形	逆台形	50	16	暗灰褐色粘質土	
ＳＰ14	ＡⅡ－ｉ５	楕円形	逆台形	20～22	10	暗灰褐色粘質土	
ＳＰ15	ＡⅡ－ｉ５	円形	逆台形	48	9	暗灰褐色粘質土	
ＳＰ16	ＡⅡ－ｉ５	―――	逆台形	36	10	暗灰褐色細砂シルト	
ＳＰ17	ＡⅡ－ｊ５	楕円形	逆台形	30～48	12	暗灰褐色細砂シルト	
ＳＰ18	ＡⅡ－ｊ５	楕円形	逆台形	30～34	9	暗灰褐色細砂シルト	
ＳＰ19	ＡⅡ－ｊ５	方形	逆台形	32～34	28	暗茶灰色シルト混粘土	

＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ20	ＡⅡ－ｊ５	―――	逆台形	80	9	暗灰褐色シルト	
ＳＰ21	ＡⅡ－ｊ５	―――	逆台形	48～60	24	暗灰色褐色シルト	ＳＥ１に切られる
ＳＰ22	ＡⅡ－ｊ５	―――	逆台形	42	21	暗茶灰色細砂混シルト	ＳＰ20を切る。
ＳＰ23	ＡⅡ－ｊ５	円形	逆台形	50	21	暗灰褐色シルト	
ＳＰ24	ＡⅡ－ｊ５	楕円形	逆凸形	42～44	20	暗灰褐色シルト	
ＳＰ25	ＡⅡ－ｊ５	楕円形	逆台形	48～54	17	暗灰褐色シルト	ＳＰ25を切る。
ＳＰ26	ＡⅡ－ｊ５	―――	逆凸形	64～86	14	暗茶灰色シルト	ＳＰ25に切られる
ＳＰ27	ＡⅡ－ｊ６	―――	逆台形	48	22	暗灰褐色シルト	柱痕１個（径15）
ＳＰ28	ＡⅡ－ｊ６	―――	逆台形	90	46	暗灰褐色シルト	
ＳＰ29	ＡⅡ－ｊ５	楕円形	逆台形	48	20	暗灰褐色シルト	
ＳＰ30	ＡⅡ－ｊ５	隅丸方形	逆凸形	64～74	28	暗茶灰色シルト	柱痕１個（23～32）
ＳＰ31	ＡⅡ－ｊ５	楕円形	逆台形	40～70	14	暗灰褐色シルト	
ＳＰ32	ＡⅡ－ｊ５	円形	逆台形	44	15	暗灰褐色シルト	
ＳＰ33	ＡⅡ－ａ５	楕円形	逆台形	34～42	12	暗灰褐色シルト	
ＳＰ34	ＡⅡ－ａ５	隅丸方形	逆凸形	64～66	25	暗灰褐色シルト	
ＳＰ35	ＡⅡ－ａ５	隅丸方形	逆凸形	80～12	32	暗灰褐色シルト	柱痕１個（径15）
ＳＰ36	ＡⅡ－ａ５	―――	逆凸形	88	29	暗灰褐色シルト	柱痕４個（径18～30）
ＳＰ37	ＡⅡ－ａ５	不定形	逆凸形	84～96	27	暗灰褐色シルト	柱痕３個（径10～25）
ＳＰ38	ＡⅡ－ａ５	不定形	逆凸形	94	34	暗灰褐色シルト	柱痕３個（径15～30）
ＳＰ39	ＡⅡ－ａ５	不定形	逆台形	80～96	34	暗灰褐色シルト	柱痕２個（径15～30）
ＳＰ40	ＡⅡ－ａ５	不定形	逆凸形	95	40	暗灰褐色シルト	
ＳＰ41	ＡⅡ－ａ５	隅丸方形	逆凸形	84	37	暗灰褐色シルト	柱痕２個（径13～25）
ＳＰ42	ＡⅡ－ａ５	楕円形	逆凸形	52～66	36	暗灰褐色シルト	柱痕３個（径15～25）
ＳＰ43	ＡⅡ－ａ５	円形	逆台形	34～36	12	暗灰褐色シルト	柱痕２個（径15～25）
ＳＰ44	ＡⅡ－ａ５	楕円形	逆台形	47～60	20	暗灰褐色シルト	
ＳＰ45	ＡⅡ－ａ５	隅丸方形	逆台形	52～56	15	暗灰褐色シルト	
ＳＰ46	ＡⅡ－ａ５	円形	逆凸形	46	20	暗灰褐色シルト	柱痕１個（径８）
ＳＰ47	ＡⅡ－ａ５	円形	逆台形	24～26	8	暗灰褐色シルト	
ＳＰ48	ＡⅡ－ａ５	隅丸方形	逆台形	25～30	15	暗灰褐色シルト	
ＳＰ49	ＡⅡ－ｂ５	楕円形	逆台形	22～26	22	暗灰褐色シルト	
ＳＰ50	ＡⅡ－ｂ５	隅丸方形	逆台形	40～46	10	暗灰褐色シルト	
ＳＰ51	ＡⅡ－ｂ５	隅丸方形	逆台形	24～40	8	暗灰褐色シルト	



第46図　ＳＰ４(19)・ＳＰ６(20)
出土遺物実測図

３）第２調査面（古墳時代後期～奈良時代）

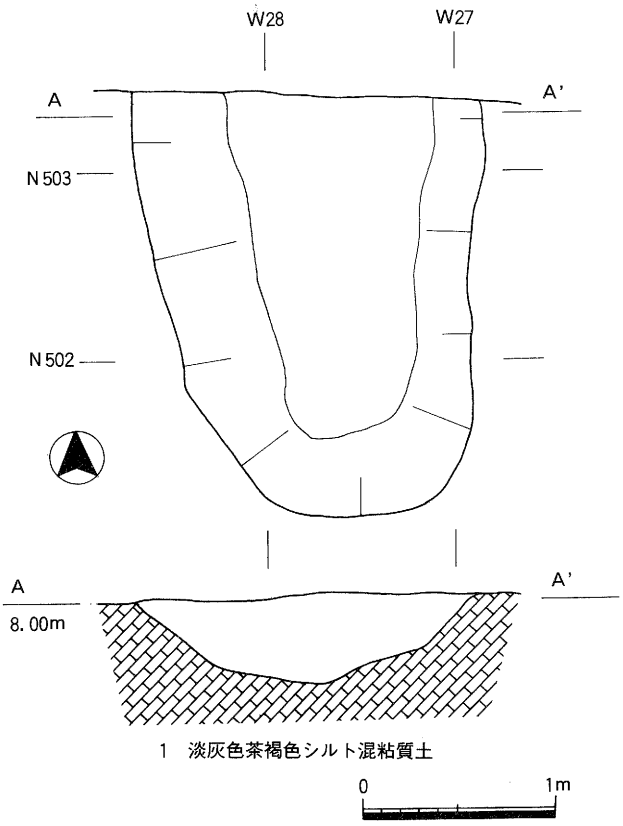
土坑（ＳＫ）

ＳＫ３

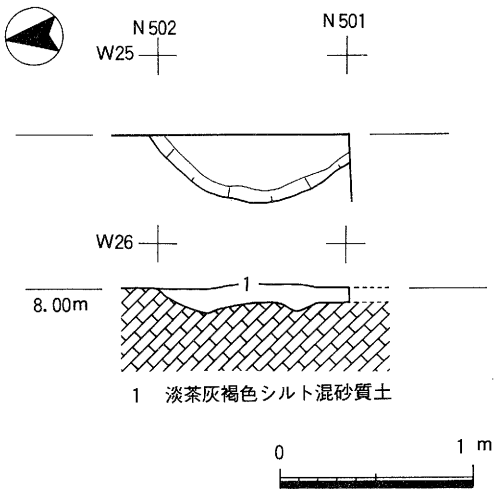
ＢⅡ－ｊ８区で検出した。平面は検出部で半楕円形を呈し、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西2.1ｍ、南北2.2ｍ以上、深さ56㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰茶褐色シルト混粘質土の１層である(第47図)。遺物は、内部から古墳時代後期～奈良時代に比定される土師器の杯(21～26)・高杯(27)・甕(28・29)・須恵器の杯蓋(30)・杯身(31～33)などの破片が少量出土している(第49図)。

ＳＫ４

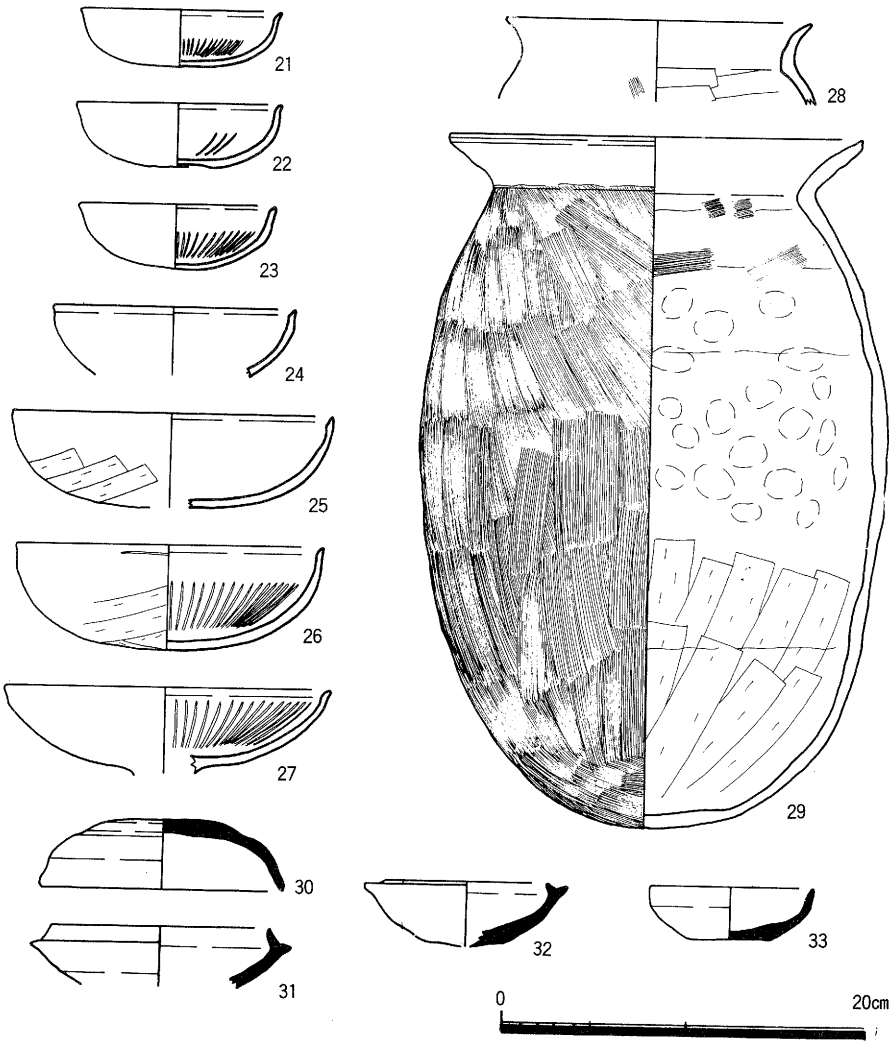
ＢⅡ－ｊ８区の南東隅で検出した。東部は調査区外に至り、平面の形状などは不明である。規模は検出部で、東西1.05ｍ、南北0.35ｍ以上、深さ15㎝を測る。堆積土は、淡茶灰褐色シルト混砂質土の１層である



第47図　ＳＫ３平断面図

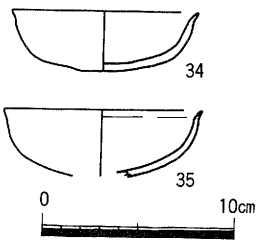


第48図　ＳＫ４平断面図



第49図　ＳＫ３出土遺物実測図

（第48図）。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器の杯（34・35）、須恵器（Ⅳ型式２～４段階）の杯蓋などの小片がごく少量出土している（第50図）。

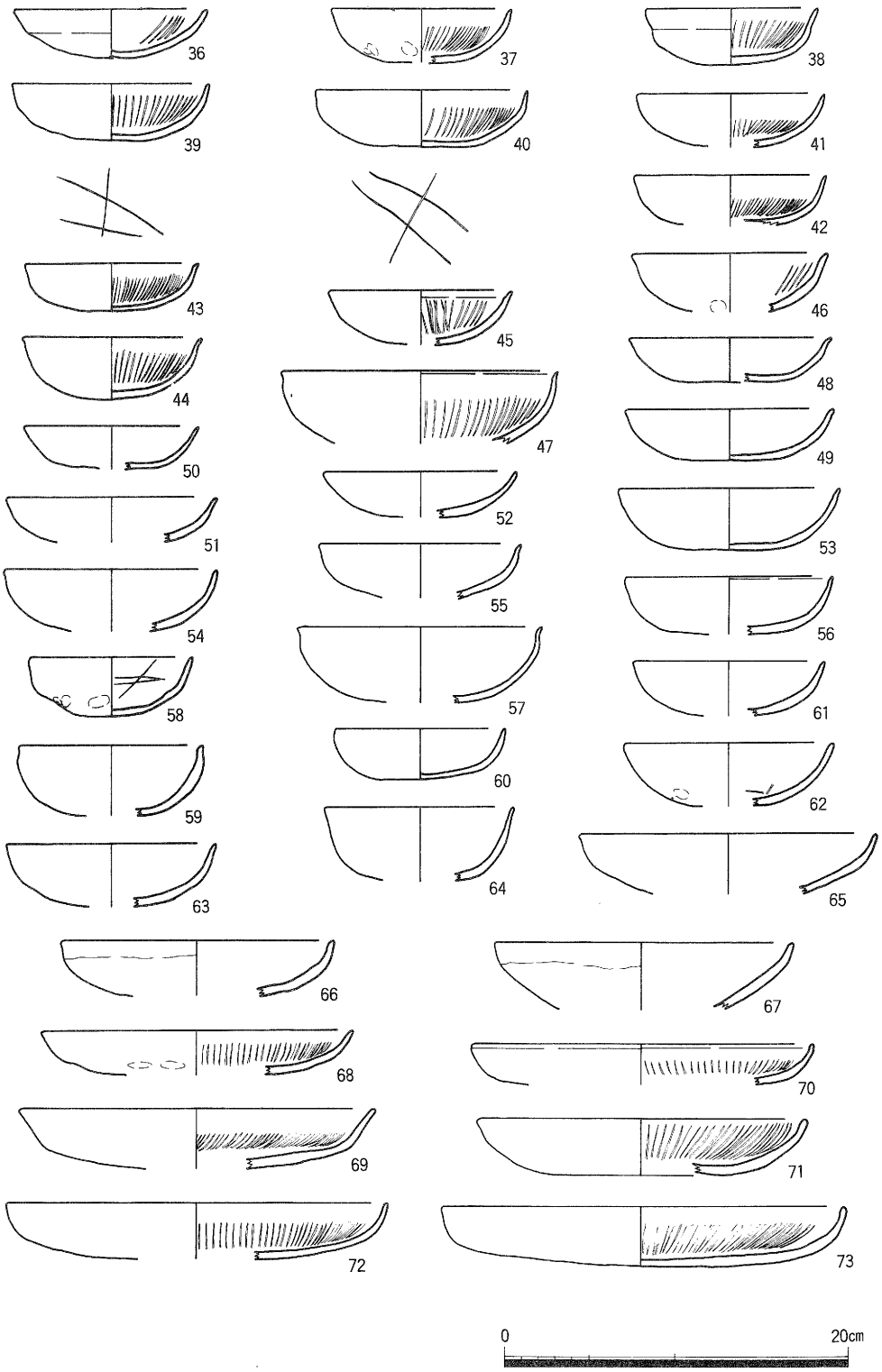


第50図　ＳＫ４出土遺物実測図

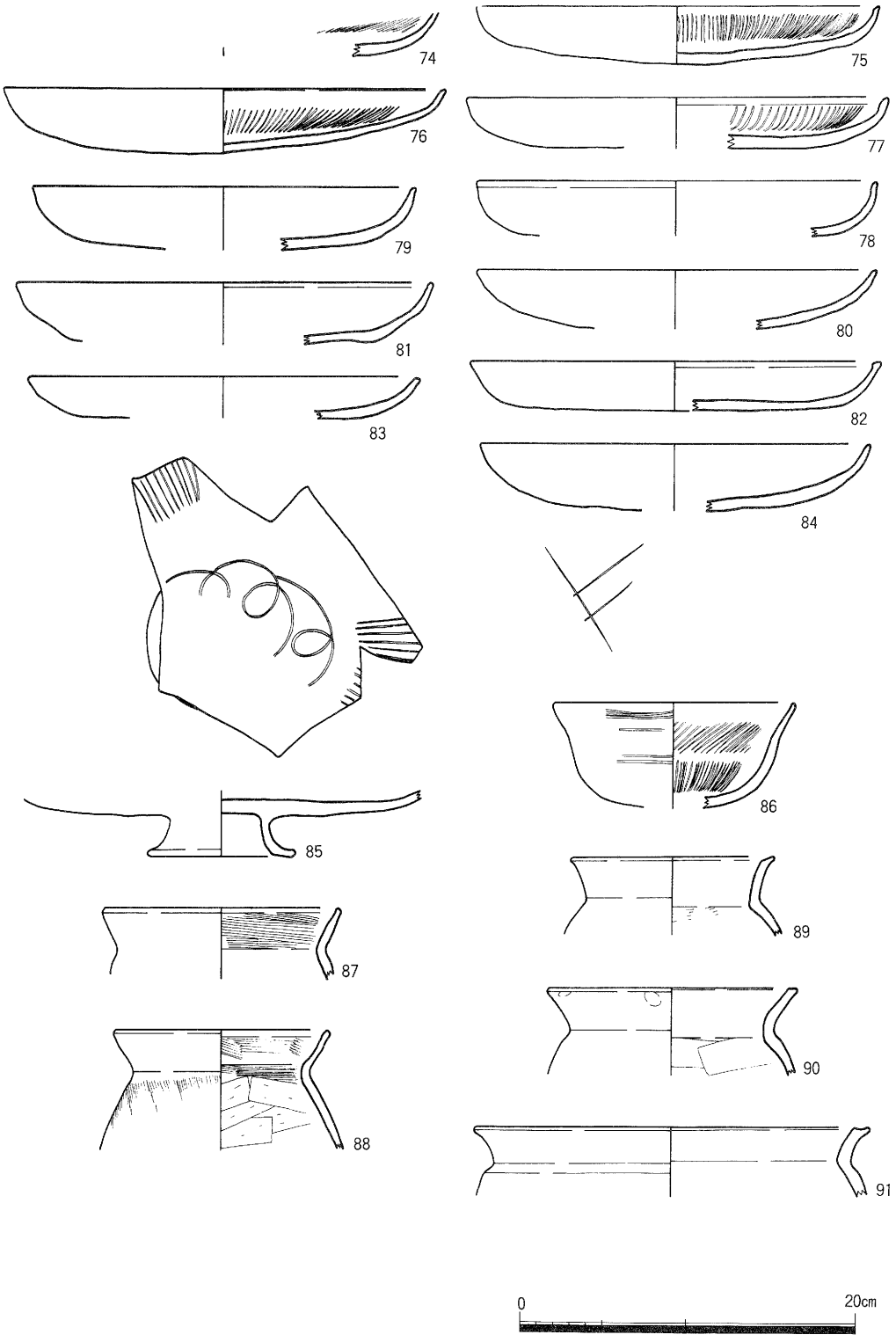
溝（ＳＤ）

ＳＤ３

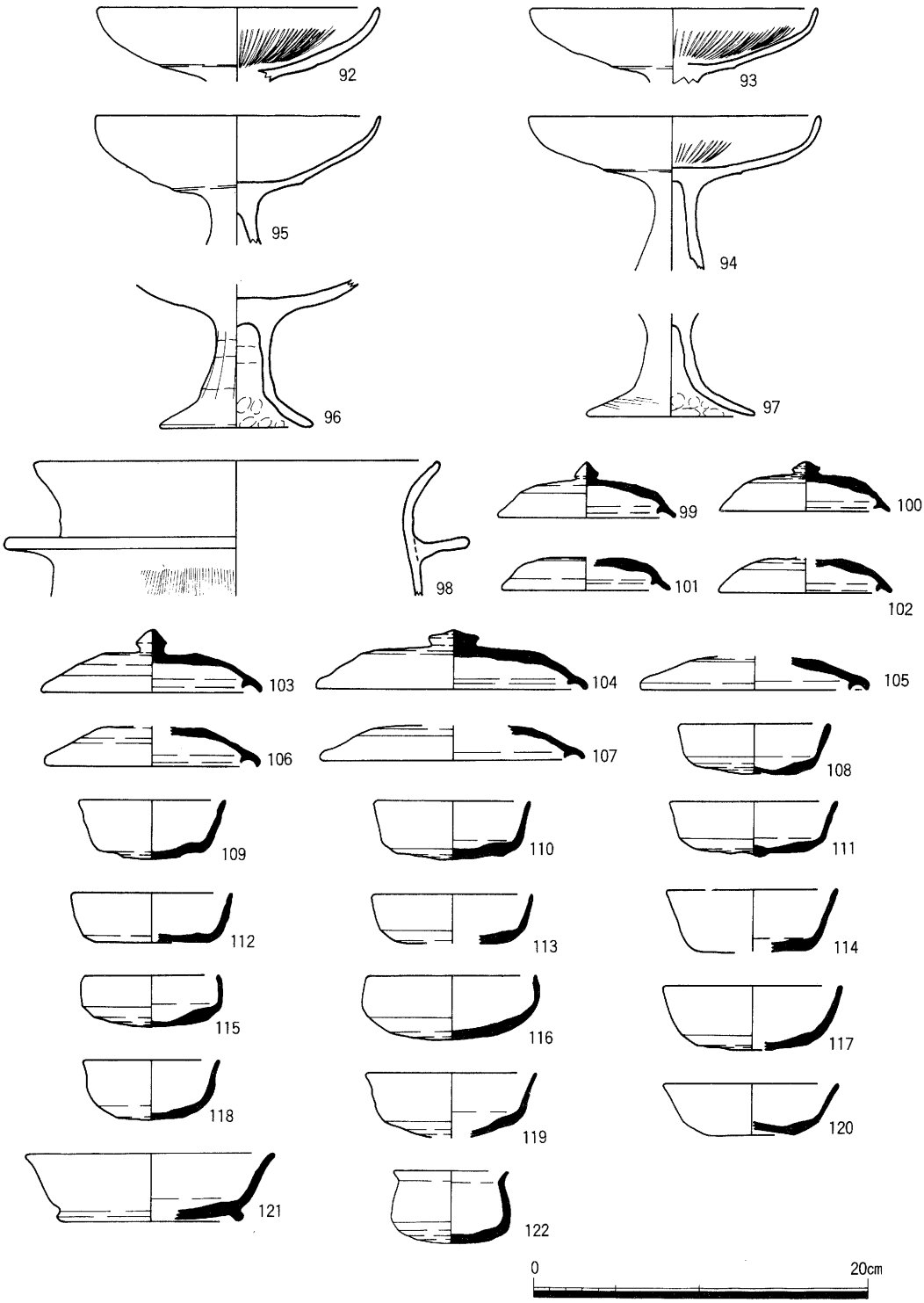
ＢⅡ－ｊ６区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。北東部の一部はＳＥ２に切られている。規模は検出部で、幅3.3～3.5ｍ、深さ30㎝を測る。断面は浅い逆台形を呈する。堆積土は、暗茶灰色砂質土の１層である（第54図）。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器の杯（36～67）・皿（68～84）・脚台付皿（86）・鉢（85）・甕（87～91）・高杯（92～97）・



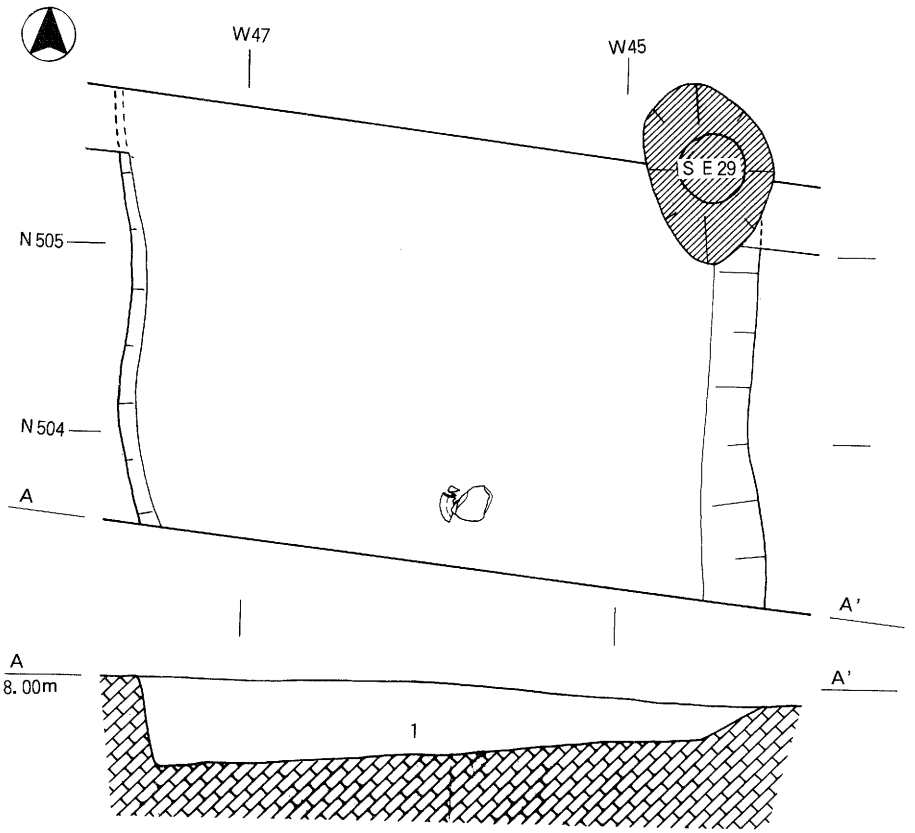
第51図　ＳＤ３出土遺物実測図１



第52図　ＳＤ３出土遺実測図２



第53図　ＳＤ３出土遺物実測図３



第54図　ＳＤ３平断面図

羽釜（98）、須恵器の杯蓋（99～107）・杯身（108～121）・鉢（122）などの破片がコンテナ箱にして２箱分出土している（第51～53図）。

ＳＤ４～ＳＤ28

調査区の南部（ＢⅡ－ｆ５～ｊ７区）で25条を検出した。方向は南北方向を示すＳＤ９の１条だけで、その他すべて東西方向（24条）を示す。規模は検出部で、幅３ｍを測る大きいものから、幅10cmを測る小さいものまで見られる。深さは５～15cmで比較的浅いものばかりである。これらの溝は、農耕に関連するもので、鋤溝・畝溝の底の一部が遺存したものであろう。堆積土は、淡灰茶色シルト混粘質土・淡灰色砂質土・淡黄茶色シルト混砂質土の３つの土層がみられ、若干の時期差が考えられる。時期は、奈良～平安時代に比定される。遺物は、溝内から土師器・須恵器の小片をごく少量出土している。以下、各溝の法量などについて第５表に記す。

第5表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＤ4	ＢⅡ－f5	東－西	逆台形	28	8	淡灰茶色シルト混粘質土	
ＳＤ5	ＢⅡ－f5	東－西	逆台形	24～32	4	淡灰茶色シルト混粘質土	
ＳＤ6	ＢⅡ－f5	東－西	逆台形	290～314	15	淡灰茶色シルト混粘質土	
ＳＤ7	ＢⅡ－f5	東－西	逆台形	16～42	7	淡灰茶色シルト混粘質土	
ＳＤ8	ＢⅡ－f5	東－西	逆台形	16～20	4	淡灰茶色シルト混粘質土	
ＳＤ9	ＢⅡ－g5	南－北	逆台形	32～38	8	淡灰色砂質土	ＳＤ10と合流。
ＳＤ10	ＢⅡ－g5	東－西	逆台形	78～92	3	淡灰色砂質土	ＳＤ９と合流。
ＳＤ11	ＢⅡ－g5	東－西	逆台形	40～44	6	淡灰色砂質土	
ＳＤ12	ＢⅡ－g5	東－西	逆台形	10～16	5	淡灰色砂質土	
ＳＤ13	ＢⅡ－g5	東－西	逆台形	16～28	11	淡灰色砂質土	
ＳＤ14	ＢⅡ－g5	南－北	逆台形	16～28	4	淡灰色砂質土	
ＳＤ15	ＢⅡ－g5	南－北	逆台形	14～20	9	淡灰色砂質土	
ＳＤ16	ＢⅡ－g5	南－北	逆台形	12～16	5	淡灰色砂質土	
ＳＤ17	ＢⅡ－g5	東－西	逆台形	40～54	8	淡灰色砂質土	
ＳＤ18	ＢⅡ－h5	東－西	逆台形	14～16	5	淡灰色砂質土	
ＳＤ19	ＢⅡ－h5	東－西	逆台形	10～14	6	淡灰色砂質土	
ＳＤ20	ＢⅡ－h5	南－北	逆台形	10～18	5	淡灰色砂質土	
ＳＤ21	ＢⅡ－h5	東－西	逆台形	16～20	7	淡灰色砂質土	
ＳＤ22	ＢⅡ－h5	東－西	逆台形	16～20	4	淡灰色砂質土	
ＳＤ23	ＢⅡ－h5	東－西	逆台形	58～62	8	淡灰色砂質土	
ＳＤ24	ＢⅡ－h5	東－西	逆台形	22～24	4	淡灰色砂質土	
ＳＤ25	ＢⅡ－i5	東－西	逆台形	24～32	10	淡灰色砂質土	
ＳＤ26	ＢⅡ－i5	東－西	逆台形	24～28	14	淡灰色砂質土	
ＳＤ27	ＢⅡ－j6	南－北	逆台形	84～94	9	淡灰茶色砂質土	ＳＰ74を切る
ＳＤ28	ＢⅡ－j6	南－北	逆台形	54	8	淡灰茶色砂質土	ＳＰ74を切る。
ＳＤ29	ＢⅡ－j7	南－北	逆台形	89～104	18	淡黄茶色混砂質土	
ＳＤ30	ＢⅡ－j5	南－北	逆台形	124～140	14	淡黄茶色混砂質土	

ＳＤ29

ＢⅡ－ｊ７区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。南西の一部は近代の井戸で切られている。規模は検出部で、幅0.86～1.04ｍ、深さ18cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡黄茶色粘質シルトの１層である。遺物は、内部から古墳時代後期～奈良時代に至る土師器・須恵器の小片が少量出土している。

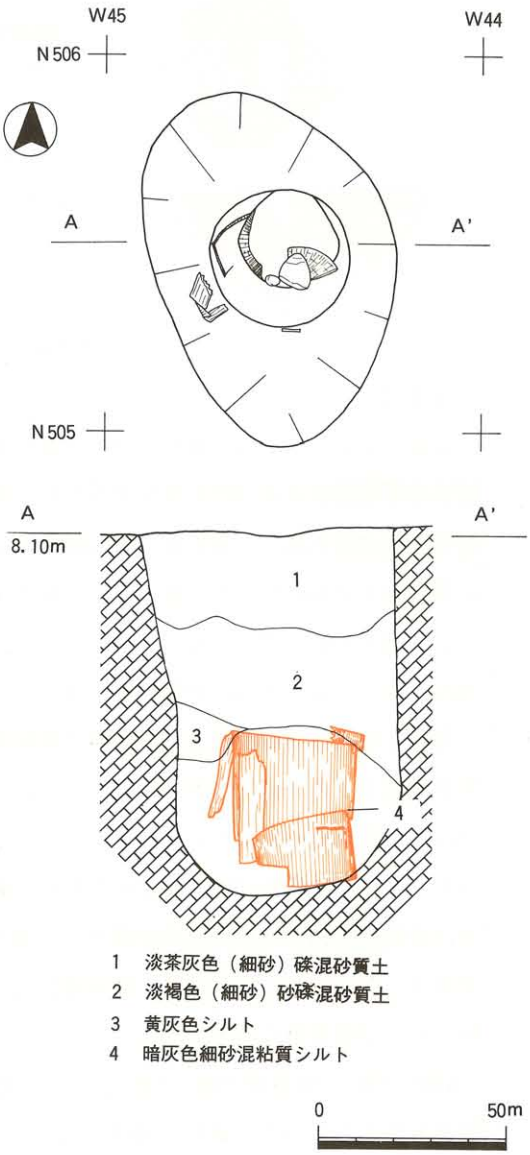
ＳＤ30

ＢⅡ－ｊ７区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。ＳＰ78・ＳＰ79～ＳＰ81に切られる。規模は検出部で、幅1.24～1.4ｍ、深さ14cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰茶色砂質土の１層である。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器の皿、須恵器の杯身などの小片が少量出土している。

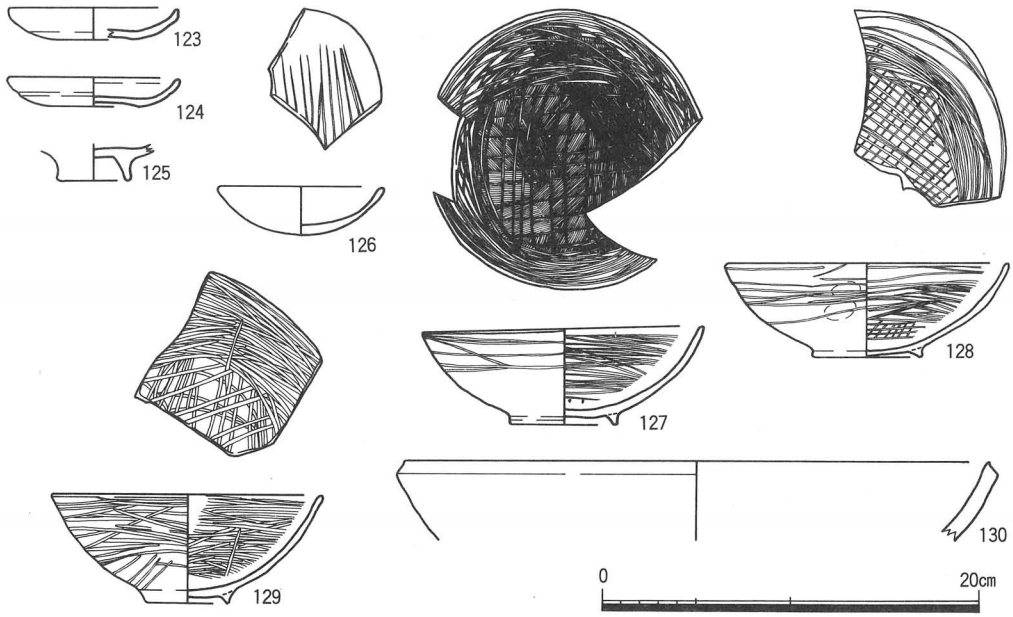
井戸（ＳＥ）

ＳＥ２

ＢⅡ－ｊ６区の北壁付近で検出した井戸側を備えた井戸で、北部は拡張を実施して完掘した。井戸は、下層で検出したＳＤ３の北東部を切っている。掘形の平面形状は、南北にやや長い楕円形を呈する。規模は検出部で、東西径0.68ｍ、南北径1.2ｍ、深さ80㎝を測る。井戸側は掘形の検出面より約40㎝下で、曲物を検出した。曲物は２段で、上段が大きく、下段が小さい径のものを積み重ねている。上段は径33㎝、高さ29㎝、厚み６㎜を測る。下段は径26㎝、高さ17㎝、厚み６㎜を測る。曲物の外縁には補強したものと考えられる長方形の板材５枚（長さ20～30㎝、幅８～12㎝、厚み９㎜）が立て長にして並べられている。また、内側にも補強したと考えられる長方形の板材（長さ30㎝、幅９㎝、厚み９㎜）１枚が上段と下段の間に差し込まれている。堆積土は、井戸側が暗灰色細砂混粘質土の１層で、掘形が淡茶灰色礫混砂質土・淡褐色砂礫混砂質土・黄灰色シルト・暗灰色細砂混粘質シルトの４層で構成されている（第55図）。遺物は、掘形内から奈良時代・平安時代末期に比定される土師器・瓦器の小片がごく少量と、井戸側内から平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定される土師器の小皿（123・124）・脚台付小皿（125）、瓦器の小皿（126）・椀（127～129）・鉢（130）などの破片が少量出土している（第56図）。井戸の築造は不明であるが、廃絶時期は、井戸側内の出土遺物からみて鎌倉時代初頭であろう。



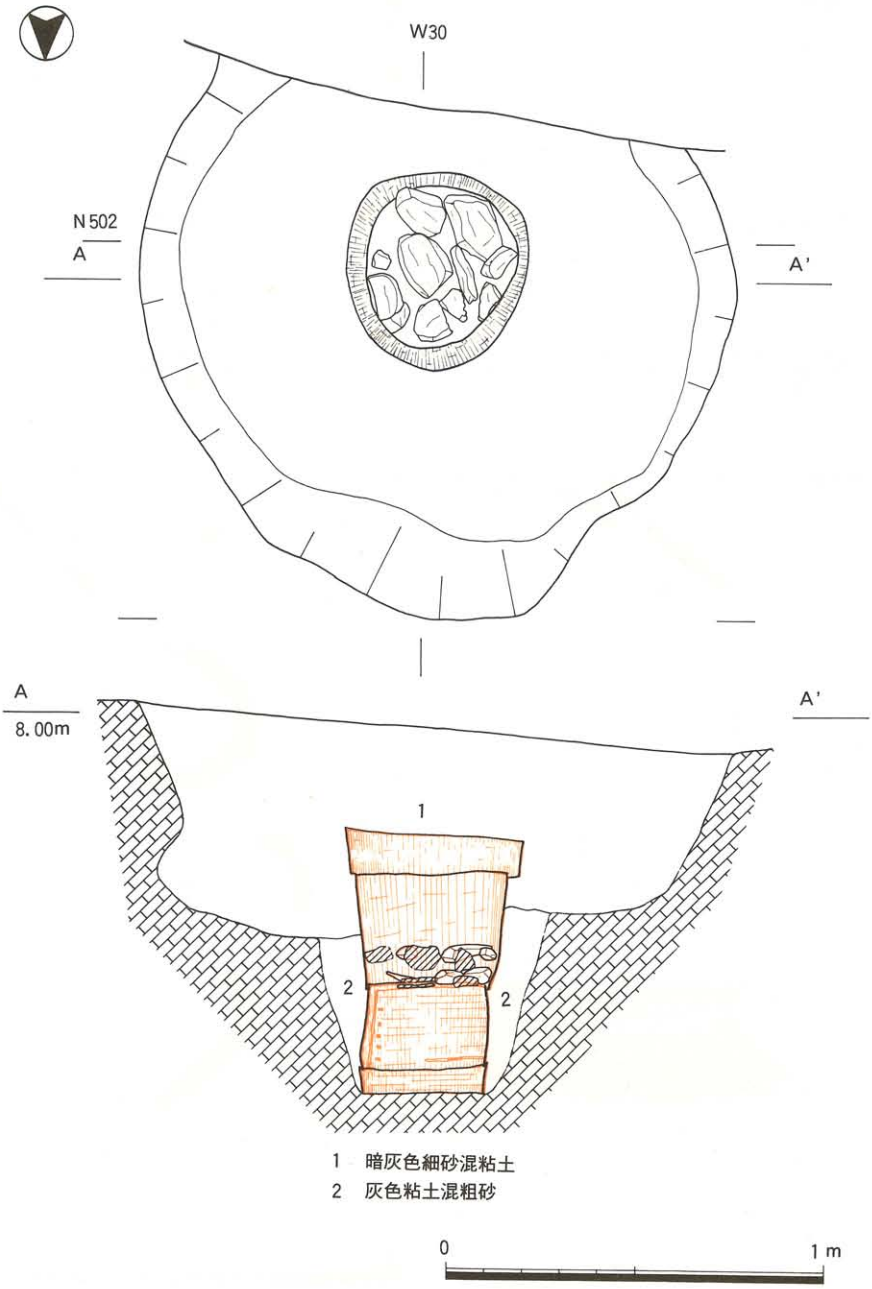
第55図　ＳＥ２平断面図



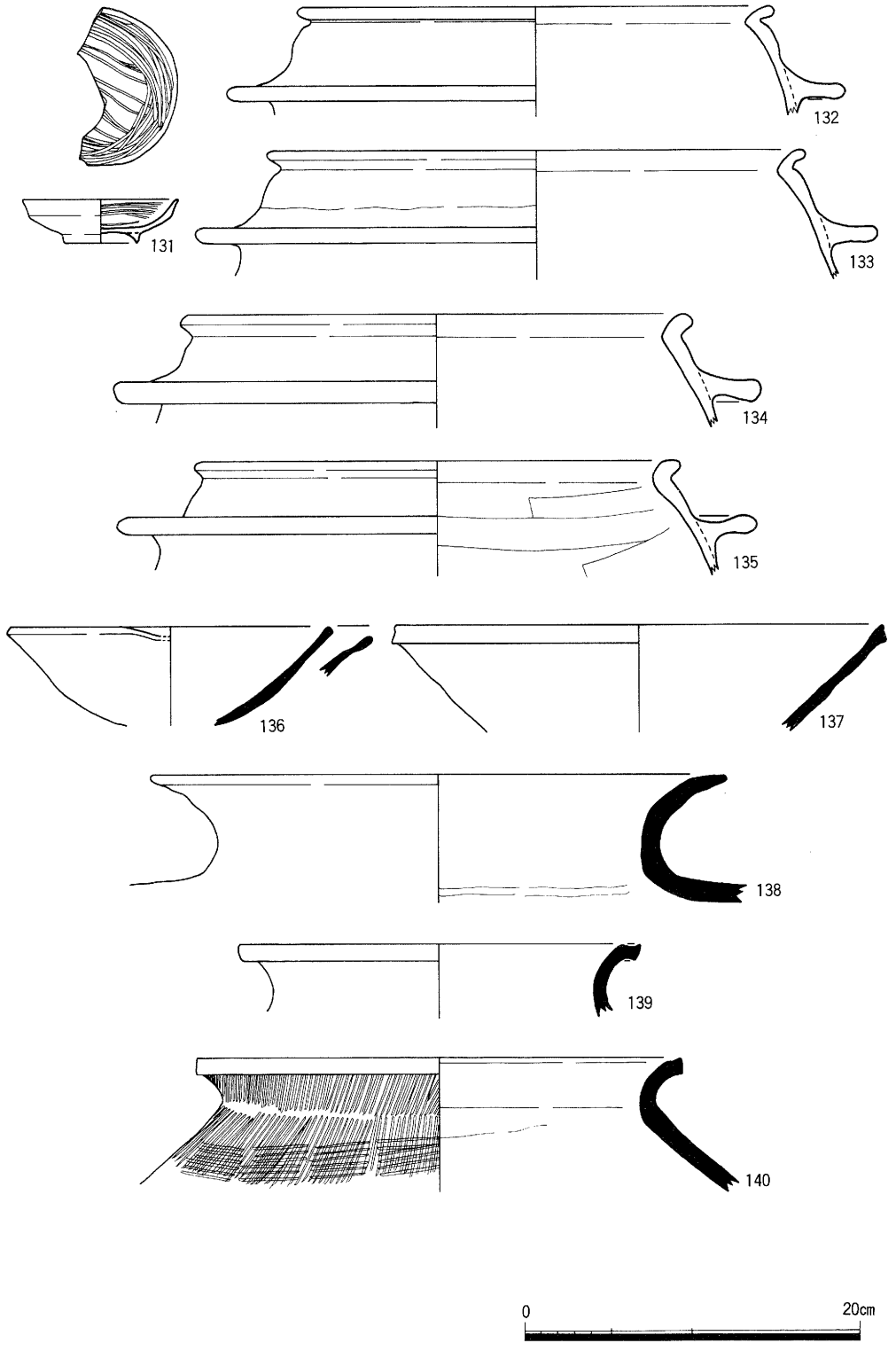
第56図　ＳＥ２出土遺物実測図

ＳＥ３

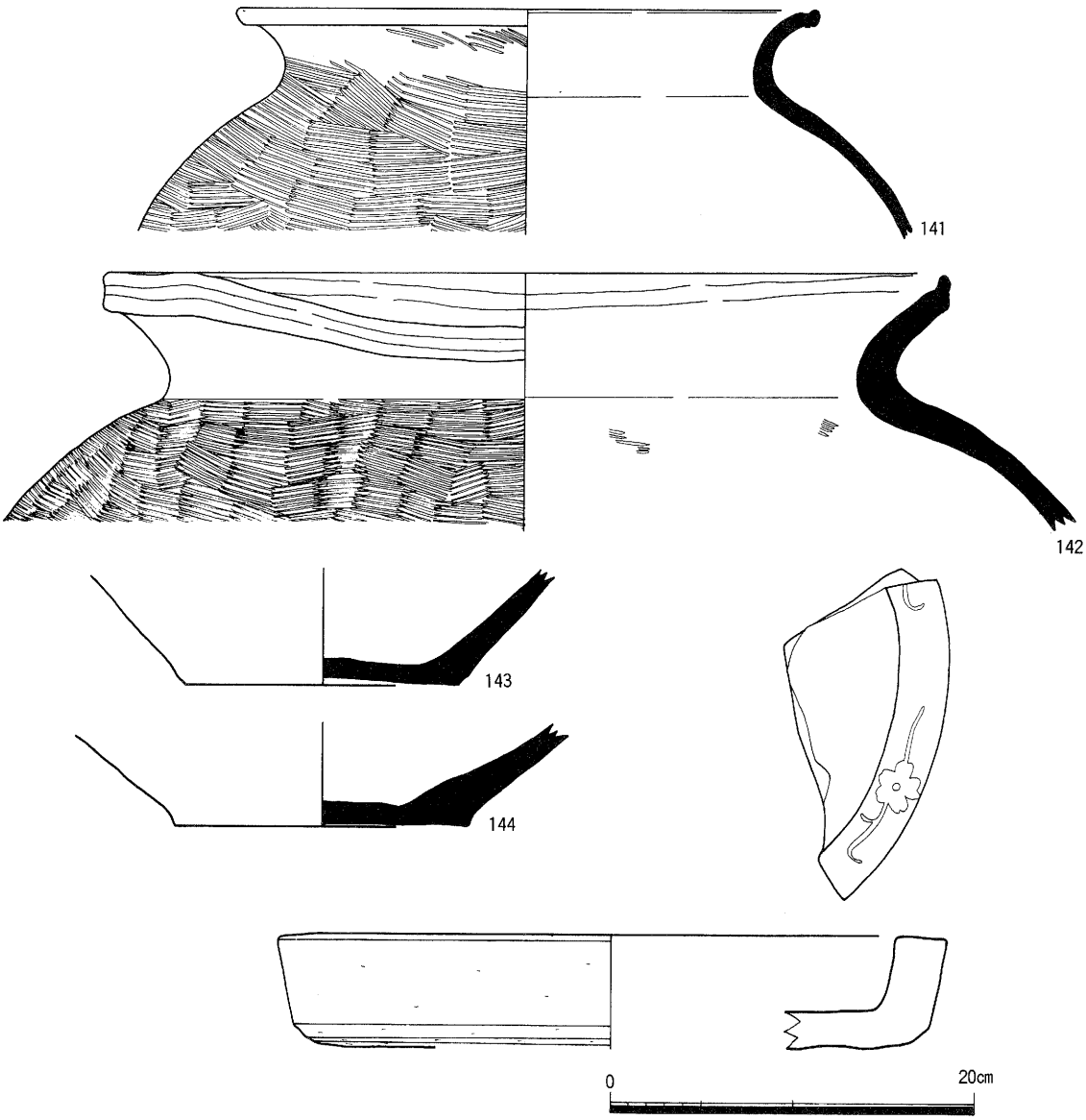
ＢⅡ－ｊ７・ｊ８区で検出した井戸側を備えた井戸である。南部の一部は調査区外に至るが、掘形の平面形状はほぼ円形を呈するものと考えられる。規模は検出部で、径1.56ｍ前後を測る。断面は逆台形を呈し、曲物は４段に積み重ねたもので、径の大きいものが上段で、下段に行くに従い小さいものになり、最下段だけは３段よりやや径が大きい。規模は上段から１段目が径45㎝、高さ12㎝、厚み７㎜、２段目が径40㎝、高さ30㎝、厚み７㎜、３段目が径31㎝、高さ22㎝、厚み７㎜、４段目が径34㎝、高さ７㎝、厚み７㎜をそれぞれ測る。堆積土は、掘形内が上方から暗灰色細砂混粘土・灰色粘土混粗砂の２層で構成されている。曲物内には暗灰褐色細砂混粘質土・黒灰褐色粗砂混粘質土の２層が堆積し、この土層の間には拳大の石12個（径６～15㎝）が敷き詰めたように検出されたが、これは井戸側の縁に並べられていたものが落ちたものか、井戸の廃絶時に投げ込まれたものであろう。このことから、曲物内の堆積土は、下層が井戸の使用期間内に堆積した土層で、上層が廃絶後に堆積した土層と考えられる（第57図）。遺物は、掘形内から奈良時代～鎌倉時代に至る土師器・須恵器の小片が少量出土している。曲物内からは鎌倉時代後期に比定される瓦器の小皿（131）・椀・鉢等が下層で、土師質の羽釜（132～135）、須恵器の鉢（136・137）・甕（138～144）、瓦質の不明容器（145）の破片が上層から出土している（第58・59図）。この井戸の使用期間を遺物から考察すると鎌倉時代後期に作られ、室町時代中ごろに廃絶したようである。



第57図　ＳＥ３平断面図



第58図　ＳＥ３出土遺物実測図１



第59図　ＳＥ３出土遺物実測図２

土坑（ＳＫ）

ＳＫ５

ＢⅡ－ｊ５区で検出した。北部は池状遺構で切られている。平面は、円形を呈する。規模は検出部で、径79㎝、深さ45㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗褐灰色細砂混粘質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代～平安時代末期に比定される須恵器・瓦器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ６

ＢⅡ－ｊ５区で検出した。平面は、不定形を呈する。規模は検出部で、最大幅1.78ｍ、最小幅1.46ｍ、深さ20～30㎝を測る。断面は逆台形を呈し、底面には凹凸が見られる。堆積土は、茶灰色砂質土の１層である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・瓦器の椀などの小片がごく少量出土している。

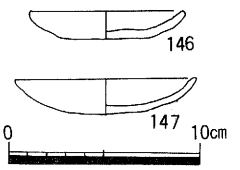
ＳＫ７

ＢⅡ－ｊ６区で検出した。平面は、南北に長い楕円形を呈する。規模は検出部で、東西径44㎝、南北径86㎝、深さ14㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、茶灰色砂質土・茶灰色シルト混砂質土の２層である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される瓦器の椀の小片がごく少量出土している。

小穴（ＳＰ）

ＳＰ52～ＳＰ81

ＢⅡ－ａ５～ｂ５区で８個、ＢⅡ－ｊ５～ｊ７区で22個を検出した。これらの小穴は前者が平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定されるもの、後者が鎌倉時代後期～室町時代に比定されるものに分かれる。前者の小穴は江戸時代の溝で削平されている。平面の形状は検出部で隅丸方形のもの、楕円形のものに分かれる、断面は、逆台形と逆凸形を呈する。規模は径50～70㎝、深さ18～30㎝を測る。堆積土は、暗灰褐色細砂混シルトである。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器・瓦器の椀などの小片がごく少量出土している。後者の小穴は、平面の形状が円形のもの、楕円形のもの、隅丸方形のもの、不明のものに分かれる。断面は、逆台形を呈する。規模は径16～106㎝、深さ10～30㎝を測る。堆積土には暗灰褐色シルトと暗灰褐色粘土質がある。遺物は、内部から古墳時代後期～鎌倉時代後期に至る土師器・須恵器・瓦器の小穴がごく少量出土している。図示できたものは、ＳＰ31内から土師器の小皿（146）、ＳＰ58内から土師器の小皿（147）、ＳＰ59内から土師器の小皿（148～150）・中皿（151）、瓦器の小皿（152）・椀（153）、土師器の羽釜（154）である（第60・

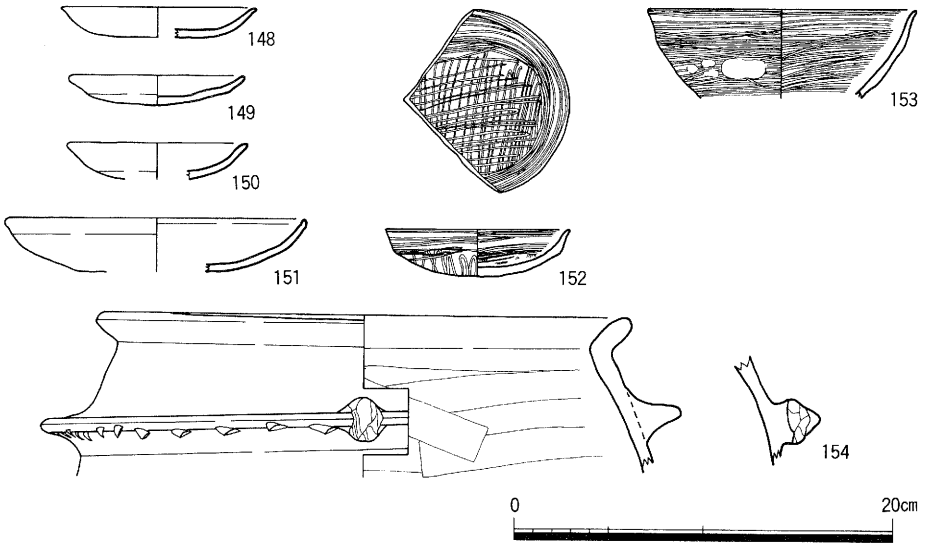


第60図　ＳＰ31(146) ＳＰ58(147)
出土遺物実測図

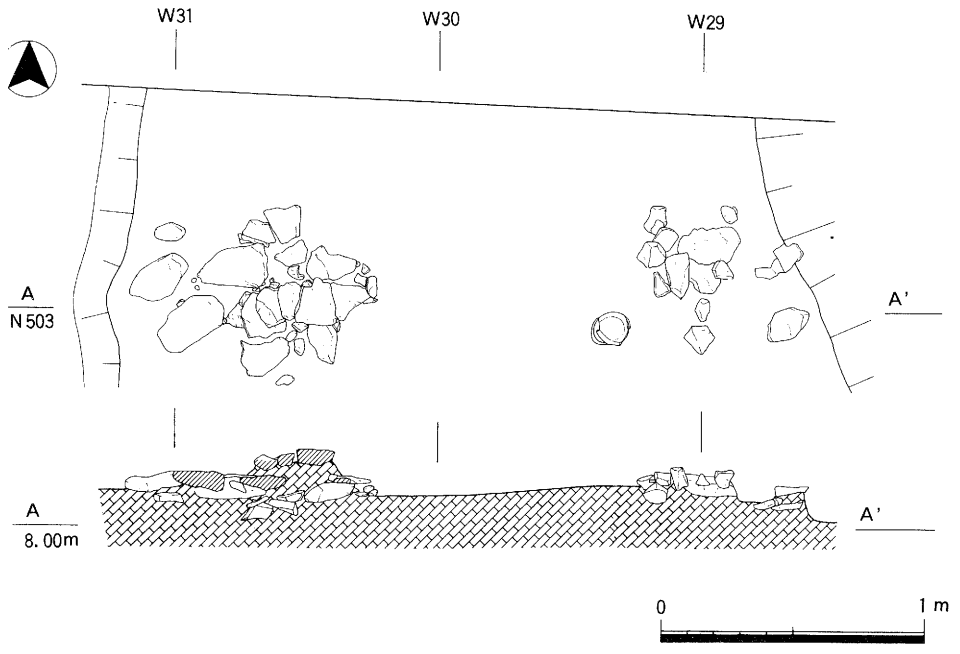
61図)。以下、各小穴の法量などについて第6表に記す。

第6表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
ＳＰ52	ＡⅡ－ｉ6	楕円形	逆台形	38～44	12	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ53	ＢⅡ－ａ5	楕円形	逆台形	44～48	8	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ54	ＢⅡ－ａ5	楕円形	逆凸形	38～46	9	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ55	ＢⅡ－ａ5	隅丸方形	逆台形	60～70	20	暗灰褐色細砂混シルト	柱痕1個(径25)
ＳＰ56	ＢⅡ－ａ5	楕円形	逆台形	42	10	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ57	ＢⅡ－ｂ5	円　形	逆台形	48～50	10	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ58	ＢⅡ－ｂ5	隅丸方形	逆台形	62～68	23	暗灰褐色粘土質	
ＳＰ59	ＢⅡ－ｃ5	楕円形	逆台形	28～50	16	暗灰褐色粘土質	
ＳＰ60	ＢⅡ－ｊ5	―――	逆台形	38	12	暗灰褐色粘土質	
ＳＰ61	ＢⅡ－ｊ5	長楕円形	逆凸形	34～66	17	暗灰褐色粘土質	
ＳＰ62	ＢⅡ－ｊ5	円　形	逆台形	38	11	暗灰褐色粘土質	柱痕1個(径25)
ＳＰ63	ＢⅡ－ｊ5	円　形	逆台形	50	47	暗灰褐色粘土質	
ＳＰ64	ＢⅡ－ｊ5	円　形	逆台形	20～22	10	暗灰褐色粘土質	
ＳＰ65	ＢⅡ－ｊ5	円　形	逆台形	48	11	暗灰褐色粘土質	
ＳＰ66	ＢⅡ－ｊ5	円　形	逆台形	36	13	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ67	ＢⅡ－ｊ5	楕円形	逆台形	30～48	18	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ68	ＢⅡ－ｊ5	方　形	逆台形	30～34	12	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ69	ＢⅡ－ｊ5	円　形	逆台形	32～34	28	暗茶灰色シルト混粘土	
ＳＰ70	ＢⅡ－ｊ5	―――	逆台形	80	12	暗灰褐色シルト	
ＳＰ71	ＢⅡ－ｊ5	隅丸方形	逆台形	48～60	24	暗灰褐色シルト	
ＳＰ72	ＢⅡ－ｊ5	―――	逆台形	42	9	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ73	ＢⅡ－ｊ5	円　形	逆台形	50	21	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ74	ＢⅡ－ｊ6	円　形	逆台形	42～44	20	暗灰褐色シルト	柱痕1個(径24)
ＳＰ75	ＢⅡ－ｊ6	楕円形	逆台形	48～54	21	暗灰褐色シルト	柱痕1個(径10)
ＳＰ76	ＢⅡ－ｊ6	楕円形	逆台形	64～86	26	暗灰褐色シルト	柱痕2個(径20)
ＳＰ77	ＢⅡ－ｊ7	隅丸方形	逆台形	48	22	暗灰褐色シルト	柱痕1個(径15)
ＳＰ78	ＢⅡ－ｊ7	―――	逆台形	90	46	暗灰褐色シルト	
ＳＰ79	ＢⅡ－ｊ7	楕円形	逆台形	48	20	暗灰褐色シルト	
ＳＰ80	ＢⅡ－ｊ7	隅丸方形	逆凸形	64～74	28	暗茶灰色シルト	柱痕1個(径25)
ＳＰ81	ＢⅡ－ｊ7	楕円形	逆台形	40～70	14	暗灰褐色シルト	



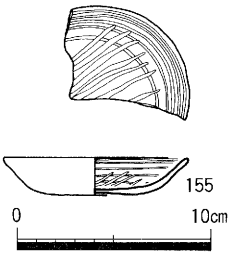
第61図　ＳＰ59出土遺物実測図



第62図　石集積１平断面図

石集積１

ＢⅡ－ｊ８区のＳＥ３の北部で検出した石集積で、２箇所を確認した。石は５～30㎝の大きさのもので約13～16個が集積する。間隔は集積した中心から中心まで約1.8ｍを測る。この遺構は掘形の輪郭・埋土は明確にできず、上層に堆積する鎌倉時代の整地層下で検出した（第62図）。性格として考えられるのは、柱穴の根石で、井戸（ＳＥ３）を覆う建物のものではないかと思われる。遺物は石集積に混入した状態で、鎌倉時代後期の瓦器の小皿（155）・椀の小片が少量含まれていた（第63図）。

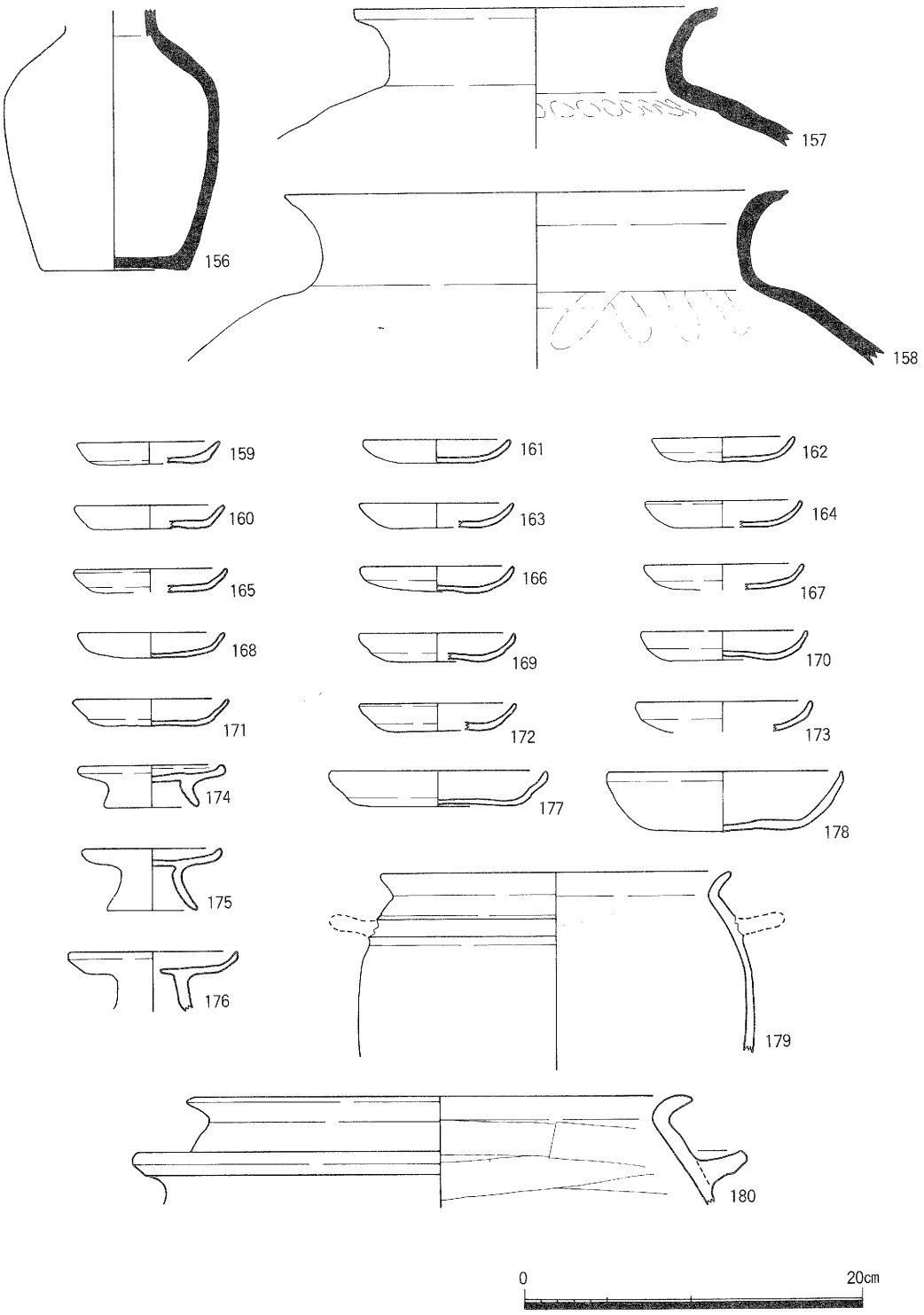


第63図　石集積１出土遺物実測図

池状遺構

ＢⅡ－ｉ５区で検出した池状遺構で、東西部はともに拡張してほぼ遺構の全容を完掘した。ＳＫ５・ＳＰ60を切っている。平面は東西に長い楕円形を呈し、東西部にはともに溝が伸びている。規模は検出部で、東西径６ｍ、南北径４ｍ、深さ60㎝を測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、上方から淡灰色砂質土・淡褐色シルト混砂質土・灰褐色微砂混粘質土・灰黒色粘土の４層に分かれる。遺物は、ほとんど中層～上層にかけて出土している。特に北側の斜面上には、土器とともに拳大ほどの大きさの焼けた石（約100個）が投げ捨てられた状態で検出している（第65図）。出土遺物は、須恵器の壷（156）・甕（157・158）、土師器の小皿（159～173）・脚台付小皿（174～176）・中皿（177・178）・羽釜（179・180）、瓦器の小皿（181～190）・椀（191～220）、青磁器の小皿（221）・陶磁器の椀（222～225）、軒丸瓦（226）などの破片がコンテナ箱にして約３箱分出土している（第64・66～68図）。その他には木製の板１点が出土している。大きさは、長さ45㎝、幅10㎝、厚み１㎝を測る。

当初、この調査区の付近が屋敷跡の小字名が残っており、この遺構が住居区域と水田区域の境で、屋敷を巡る堀ではないかと考えられた。そこで、東西に拡張を実施し、遺構の性格を確認した。その結果、東西拡張部には堀状に巡る遺構はなく、途切れており、池状遺構として捉えた。

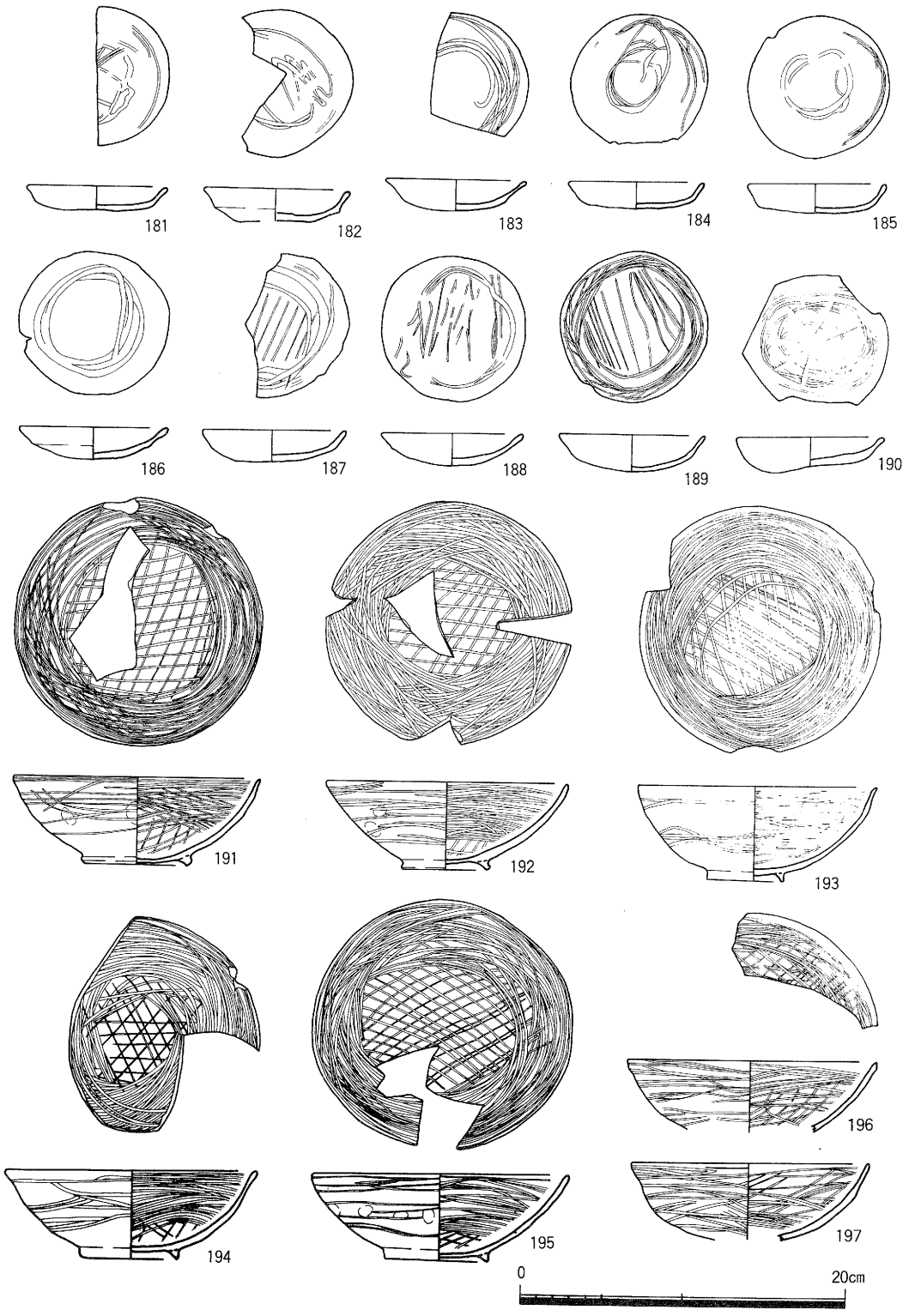


第64図　池状遺構１出土遺物実測図１

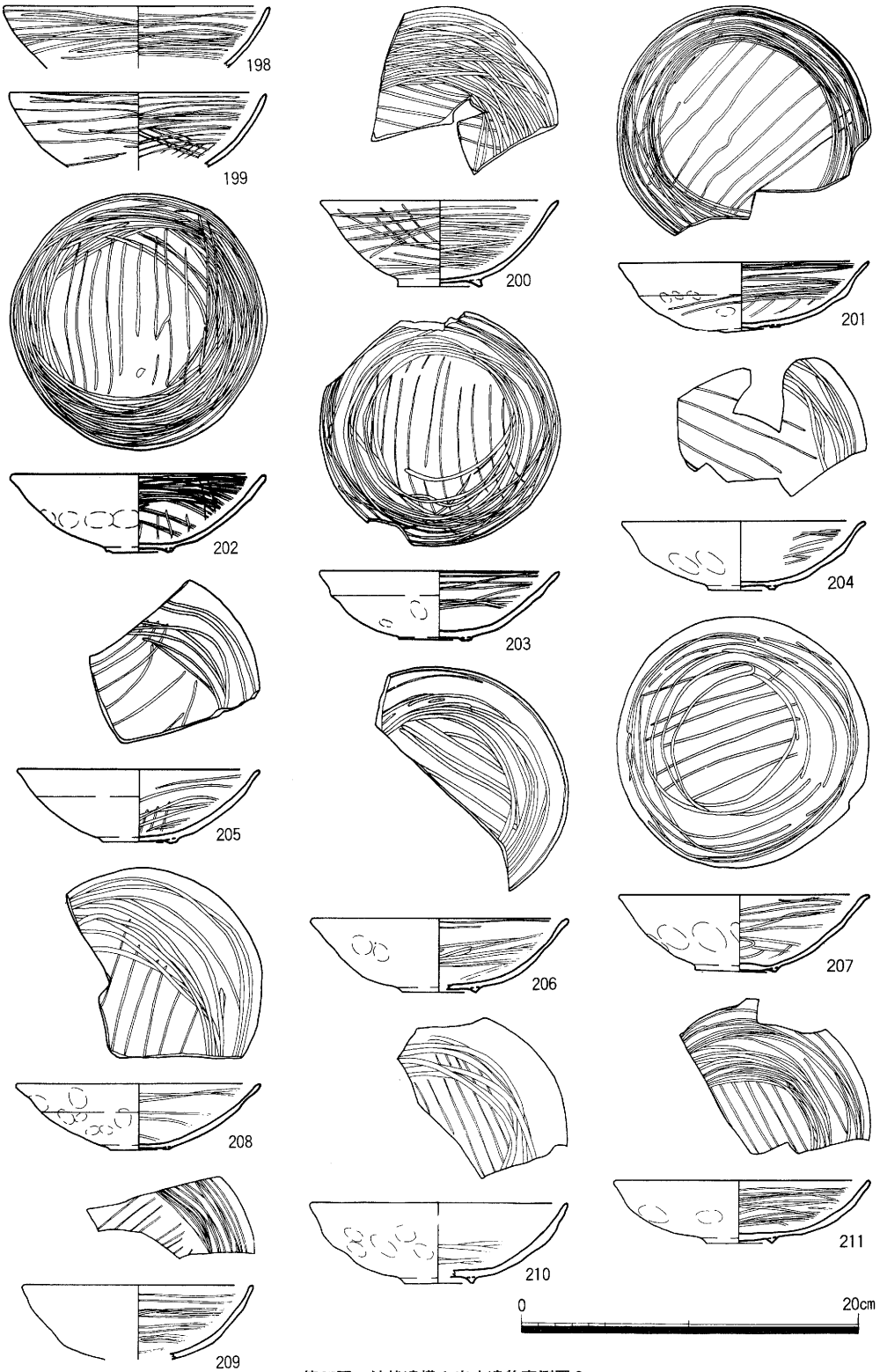
1.淡灰色砂質土
2.淡褐色シルト混砂質土
3.灰褐色微砂混粘質土
4.灰黒色粘土

0　1m

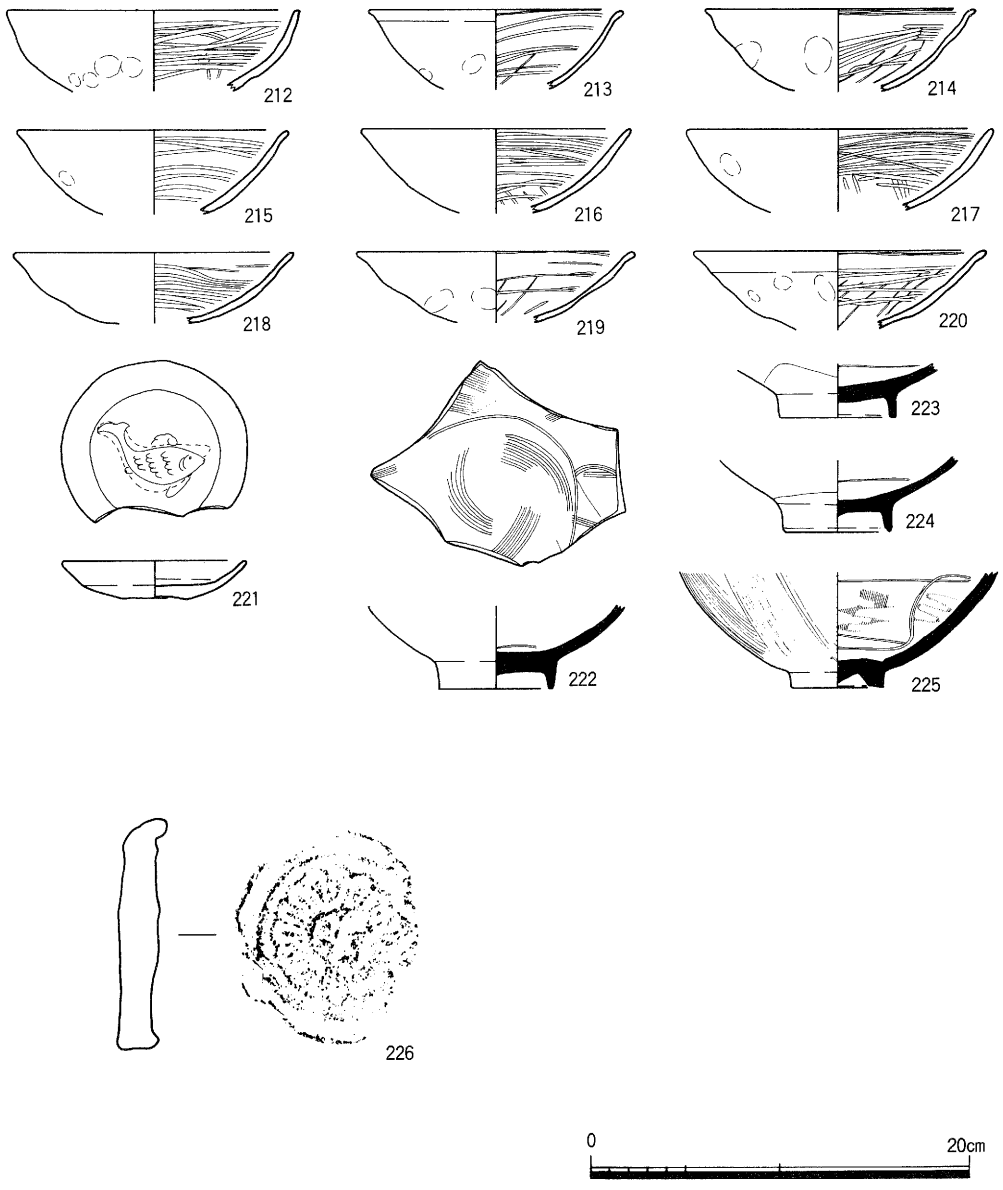
第65図　池状遺構1検出遺物平断面図



第66図　池状遺構１出土遺物実測図２



第67図　池状遺構１出土遺物実測図３



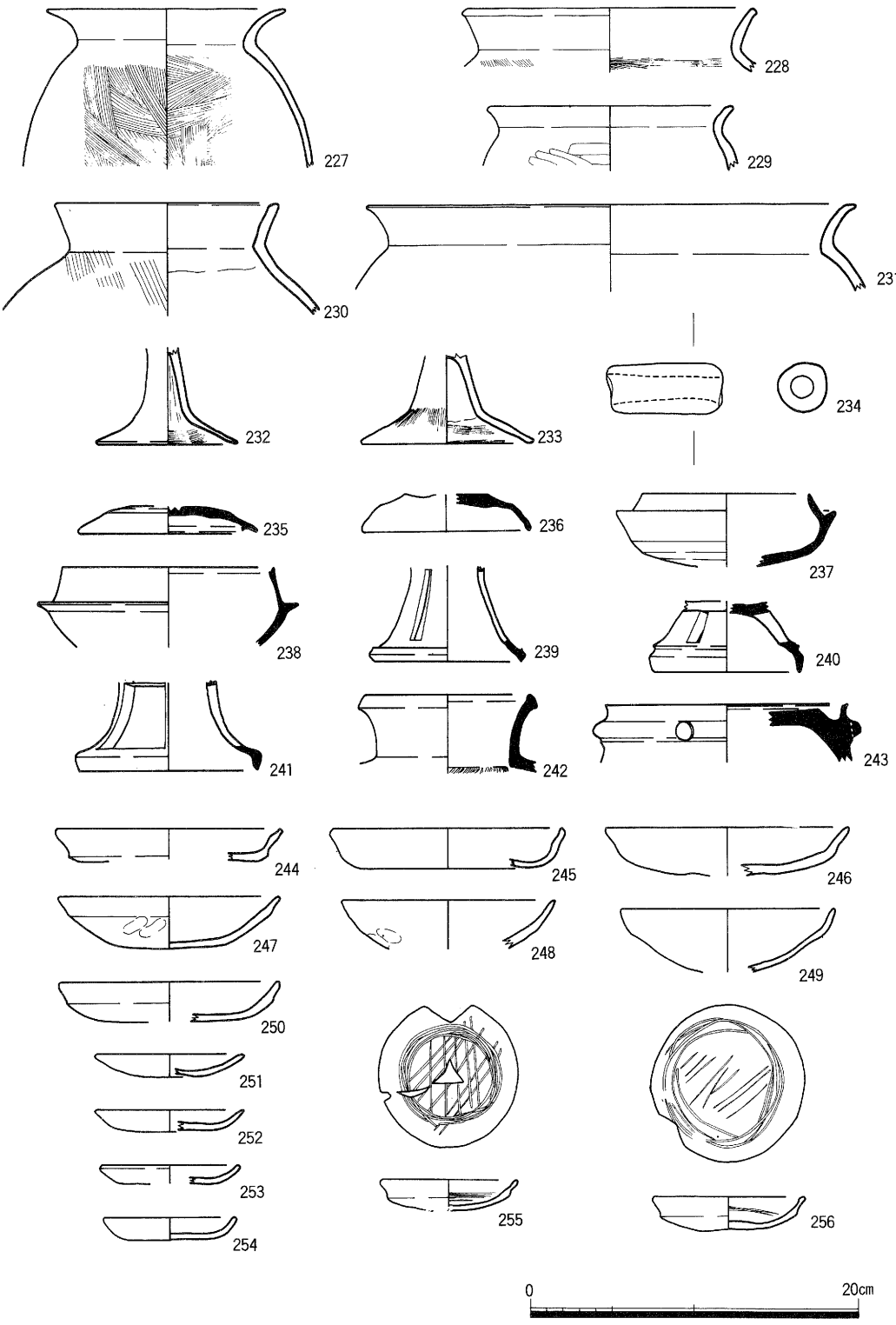
第68図　池状遺構１出土遺物実測図４

3）遺構に伴わない出土遺物

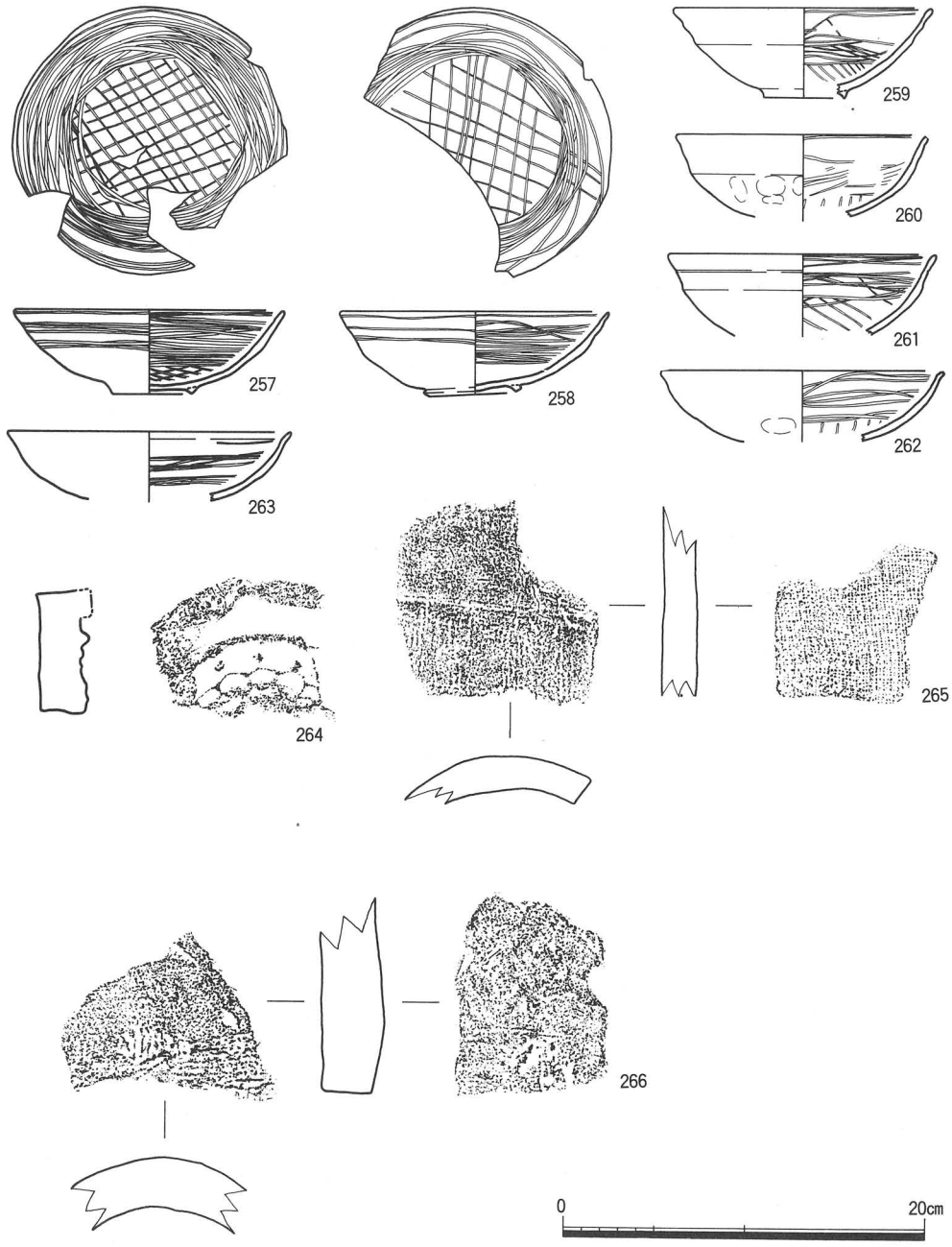
第3・4層内から古墳時代前期～鎌倉時代に至る遺物を出土した。出土量はコンテナ箱にして約6箱分で、北部調査区が2箱、南部調査区が4箱である。これらの遺物はほとんどのものが平安時代末期の整地層（第4層）内からの出土である。以下、図示できた（すべて第4層内出土）ものについて記す。

北部の調査区では、古墳時代前期に比定される土錘（234）、古墳時代中期に比定される土師器の甕（227～231）・高杯（232・233）、須恵器（Ⅰ型式4～5段階）の杯蓋（235・236）・高杯（239～241）、古墳時代後期に比定される須恵器（Ⅱ型式2～6段階）の杯身（237・238）・甕（242）・硯（243）、奈良時代に比定される土師器の皿（244・245）、平安時代中期の杯（247～250）、鎌倉時代に比定される土師器の小皿（251～254）・中皿（246）・瓦器の小皿（255・256）・椀（257～262）、軒丸瓦（264・266）である。

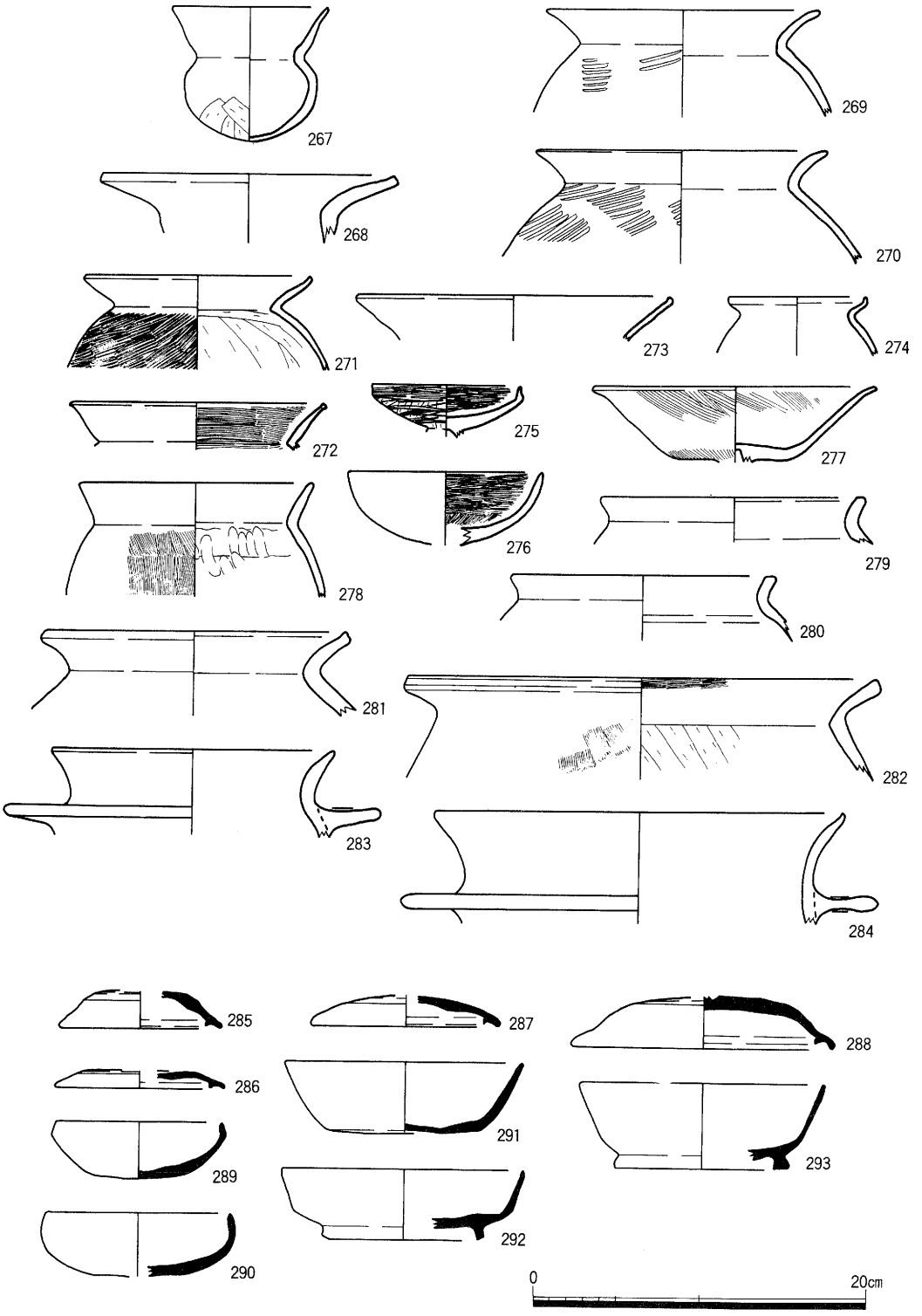
南部の調査区では、古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）に比定される小型丸底壷（267）・瀬戸内系の壷（268）・Ⅴ様式系甕（269・270）・庄内式甕（271～273）・器台（274）・高杯（276）、布留式新相に比定される高杯（277）、古墳時代中期に比定される土師器の甕（278～282）、古墳時代後期～奈良時代前期に比定される土師器の羽釜（283・284）、須恵器（Ⅲ型式1段階～Ⅳ型式4段階）の杯蓋（285～290）・杯身（291～299）・鉢（300～304）・甕（305～309）、土師器（藤原京Ⅰ～Ⅲ・平城京Ⅰ～Ⅲ）の鉢（310～330）・皿（331～333）・台付皿（334）、平安時代中期の鉢（335）、平安時代末期～鎌倉時代初頭に比定される土師器の小皿（336～346）・中皿（347～349）・甕（350）・羽釜（351）、瓦器の小皿（352～361）・椀（364～368）・磁器の小皿（369）・椀（370）、軒平瓦（371）である（第69～74図）。



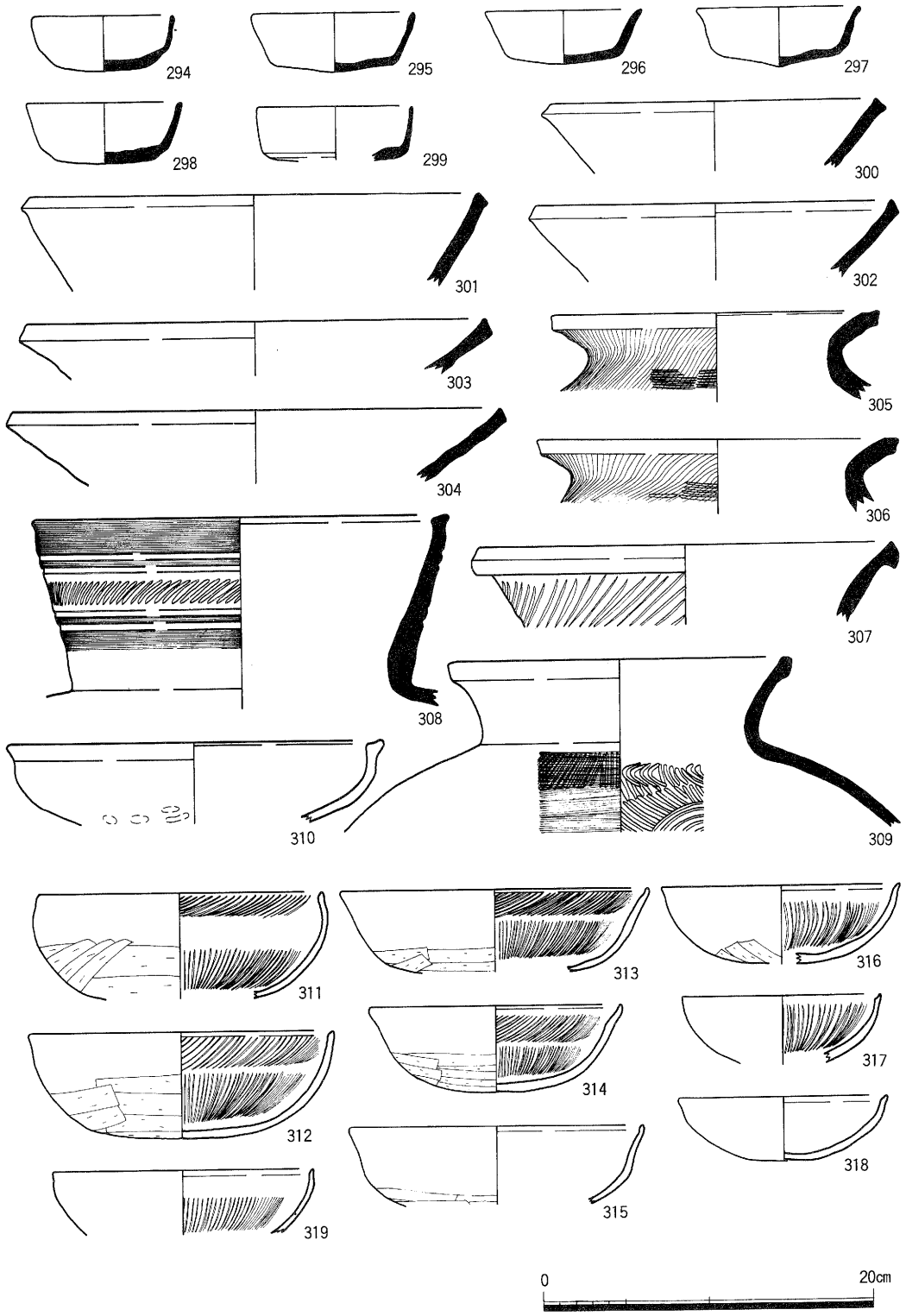
第69図　遺構に伴わない出土遺物実測図1



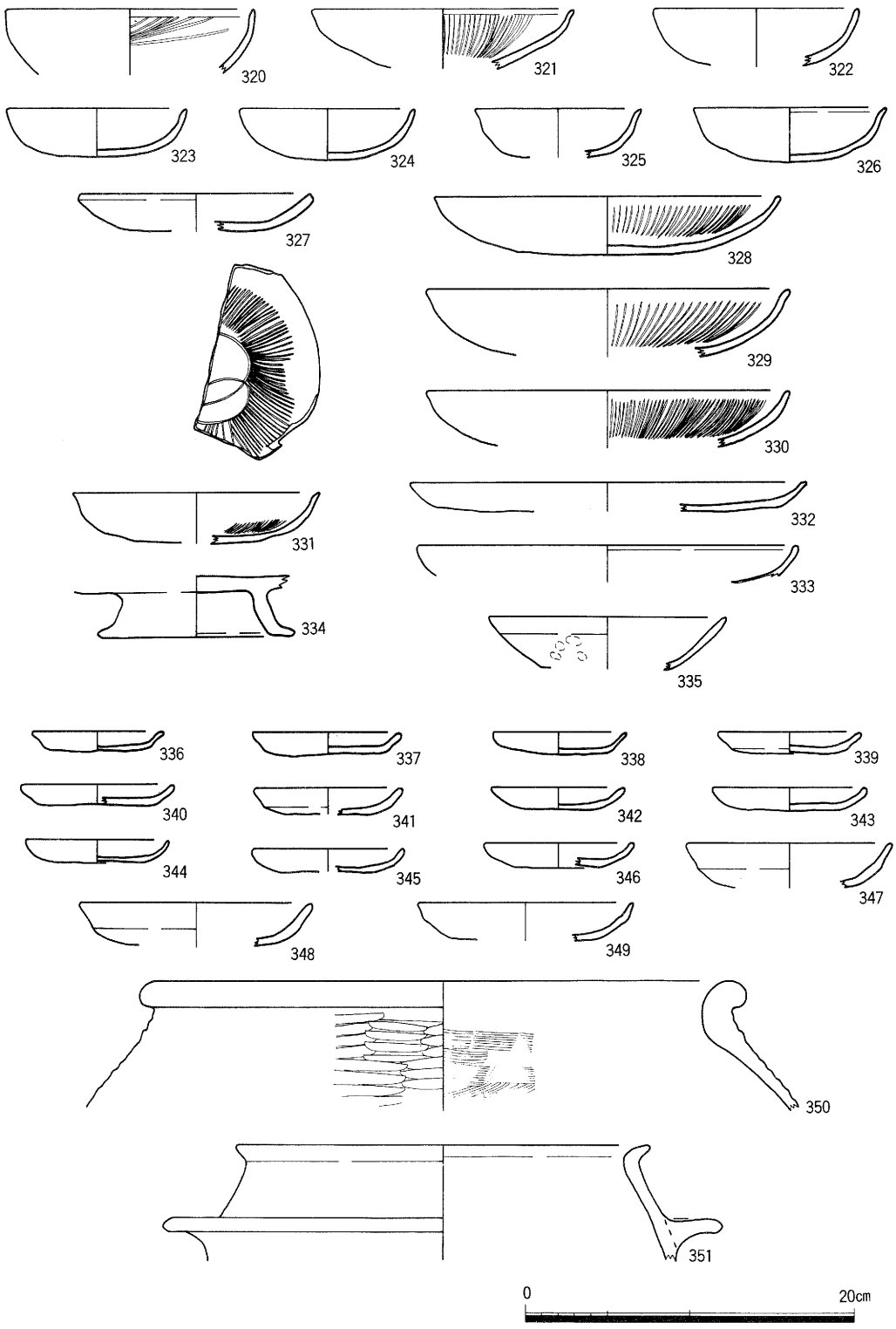
第70図　遺構に伴わない出土遺物実測図 2



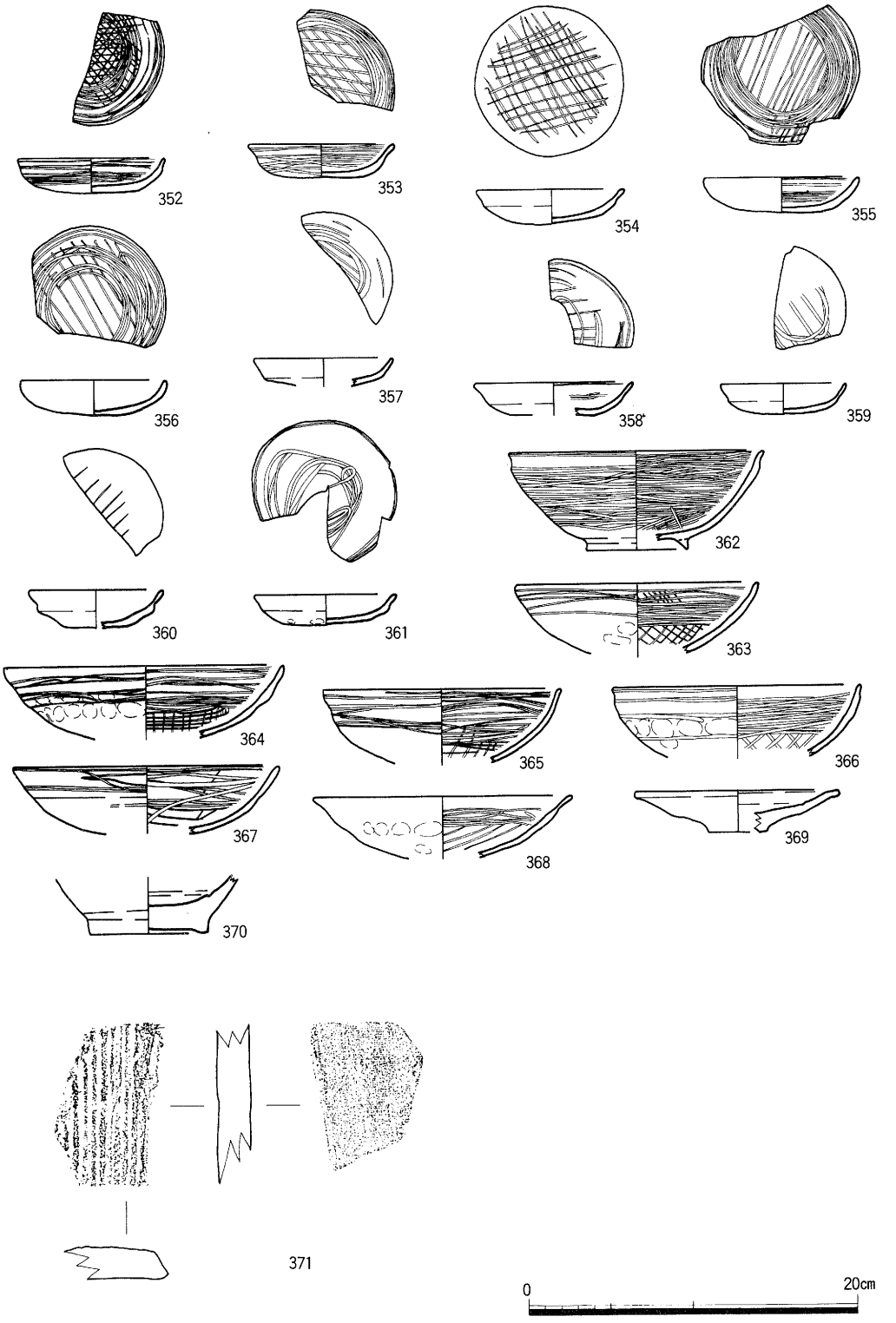
第71図　遺構に伴わない出土遺物実測図3



第72図　遺構に伴わない出土遺物実測図 4



第73図　遺構に伴わない出土遺物実測図５



第74図　遺構に伴わない出土遺物実測図 6

第4節　第3調査区

第2調査区から約60m東に設定した南北に長い調査区である。当調査区の中央にはガス・水道が埋設している里道が横断しており、南部（長さ36m）と北部（20m）に二分して調査した。北部の調査区は平面の形状がやや「く」字形を呈する。調査面積は約112㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.5mまでに存在する土層内から6層を摘出して基本層序とした（第75図）。現地表高は、南部8.05m、北部8.2mを測る。以下、各層について記す。

第0層　盛土：層厚20～30cm。関西電力の鉄塔が東部に隣接しており、その工事によって盛り土したものである。

第1層　耕土：層厚15～20cm。調査前までの耕作土である。

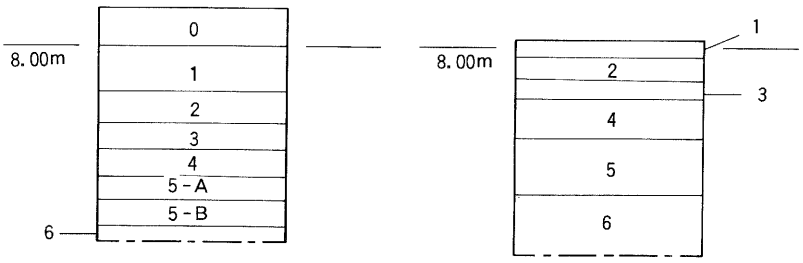
第2層　黄灰色～暗灰色粘質土：層厚15～30cm。耕土の床土である。

第3層　淡灰茶色～灰茶色粘質土：層厚10～25cm。江戸時代の遺物が含まれる。

第4層　淡茶灰色～濃茶灰色粗砂混粘質土：層厚20～30cm。北部で酸化鉄の斑点が上部にみられる。

第5層　灰茶色～暗灰色シルト混粘質土：層厚10～40cm。この土層は北部で2層に分かれる。上層（第5A層）が粘土で、下層（第5B層）がシルト質粘土である。江戸時代の遺物は、ごく少量含まれている。

第6層　茶灰色粗砂：層厚30cm以上。この土層は古墳時代中期の自然河川の堆積と考えられる。



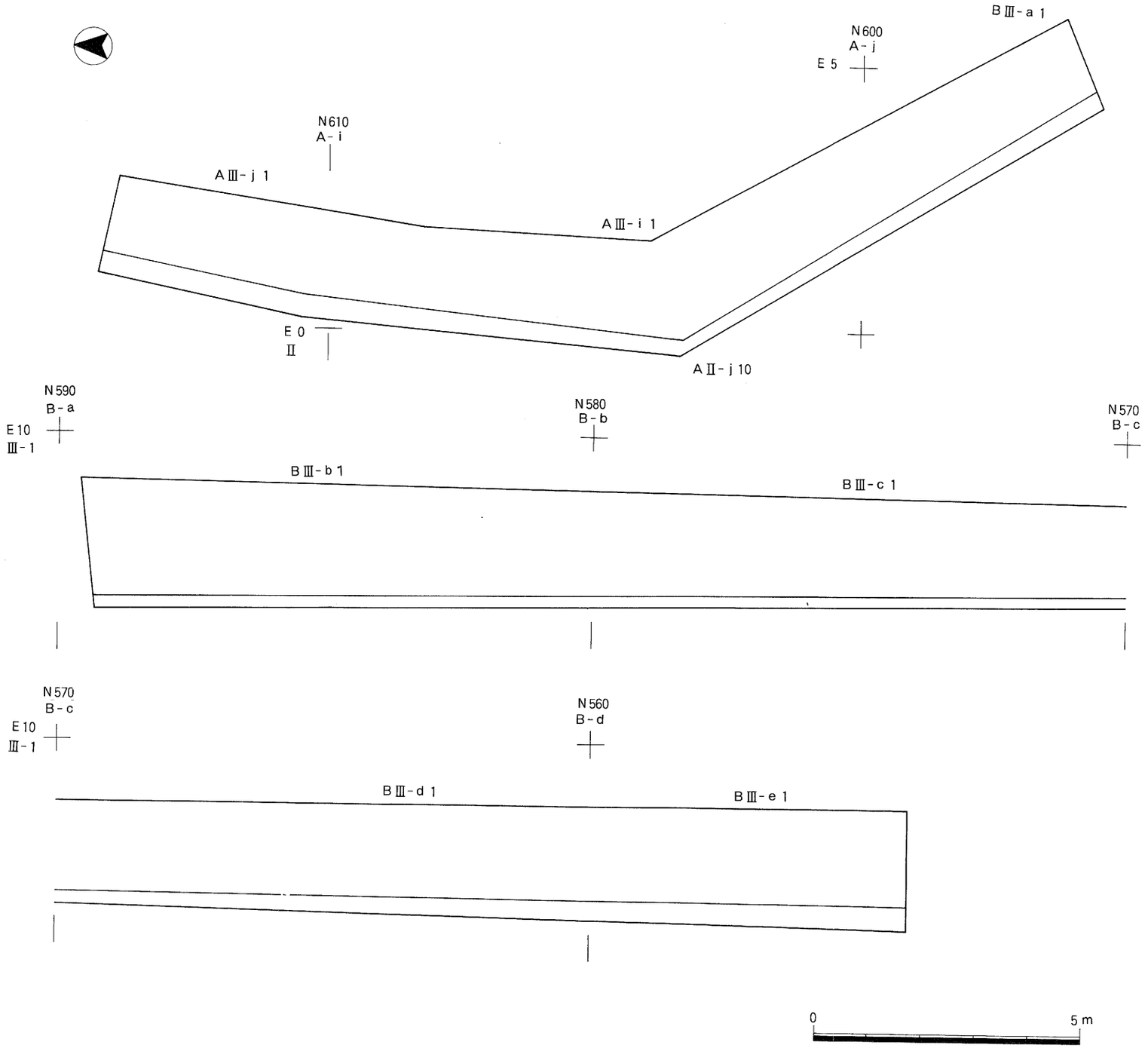
第75図　基本層序柱状図（S＝1／40）

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

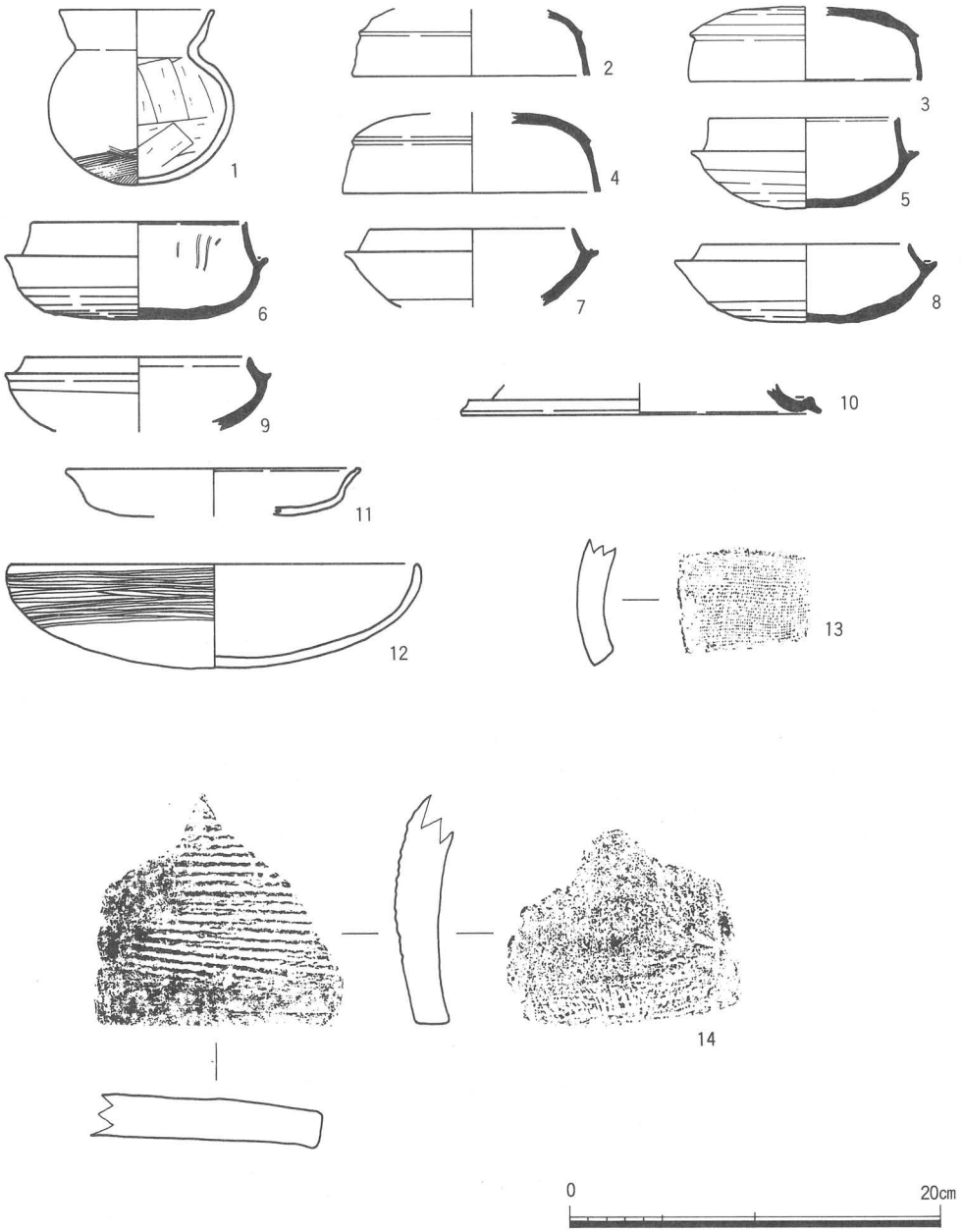
第６層の上面を調査した。その結果、古墳時代中期に埋没したと考えられる自然河川を検出した（第76図）。この自然河川には砂層を基調とした土層が堆積しており、調査中においても、湧水が多く、調査区の壁面崩壊が著しく認められた。その状況から、掘削作業をこれ以上行うのは危険であると判断し、河川の調査を残念した。

１）遺構に伴わない遺物

第５層～第７層から古墳時代前期～鎌倉時代に至る遺物を出土した。出土量はコンテナ箱にして約１箱分で、ほとんどのものは小片で南部の調査区からであった。時期別に分けると、第６・７層内から出土した遺物は、大半が古墳時代中期もの、第５層内から出土した遺物は中世のものを中心としたものである。以下、図示できたものについて記す。第６・７層から出土したものは、古墳時代前期（布留式新相）に比定される小型壺（１）、古墳時代中期に比定される須恵器（Ⅰ型式２～４段階）の杯蓋（２～４）・杯身（５・６）である。第５層内から出土したものは、古墳時代後期に比定される須恵器（Ⅱ型式２～４段階）の杯身（７～９）、高杯（10）、奈良時代に比定される皿（11）・鉢（12）、鎌倉時代に比定される軒丸瓦（13）・軒平瓦（14）である（第77図）。



第76図　第3調査区遺構平面図



第77図　遺構に伴わない出土遺物実測図

第５節　第４調査区

第１調査区のＡⅡ－ｆ１区から東に設定した東西に長い調査区（長さ98ｍ）である。この調査区ではＡⅡ－ｆ８・ｆ９区で北部へ拡張を実施している。調査面積は236㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表面から約１ｍまでに存在する土層内から普遍的に見られる５層を基本層序とした（第78図）。現地表高は、標高8.4ｍを測る。以下、各層について記す。

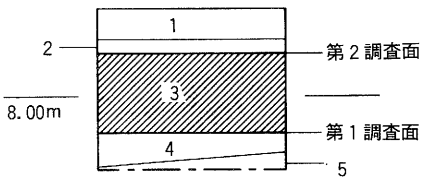
第１層　耕土：層厚15～20㎝。調査前までの耕土である。

第２層　黄褐色粗砂混砂質土：層厚５～20㎝。耕土の床土である。

第３層　暗茶灰色砂質土：層厚40～60㎝。古墳時代～鎌倉時代に至る遺物が含まれている。特に古墳時代中期～後期に比定される須恵器の破片が多量に含まれていた。上面は標高8.2ｍを測り、平安時代末期～江戸時代に至る遺構が切り込まれている。

第４層　淡黄灰色～濃黄灰色粘質シルト：層厚10～20㎝。この上面では、古墳時代中期～平安時代末期に至る遺構を検出した。上面は標高7.8ｍを測る。

第５層　層厚10㎝以上。この土層は自然河川の堆積と考えられる。



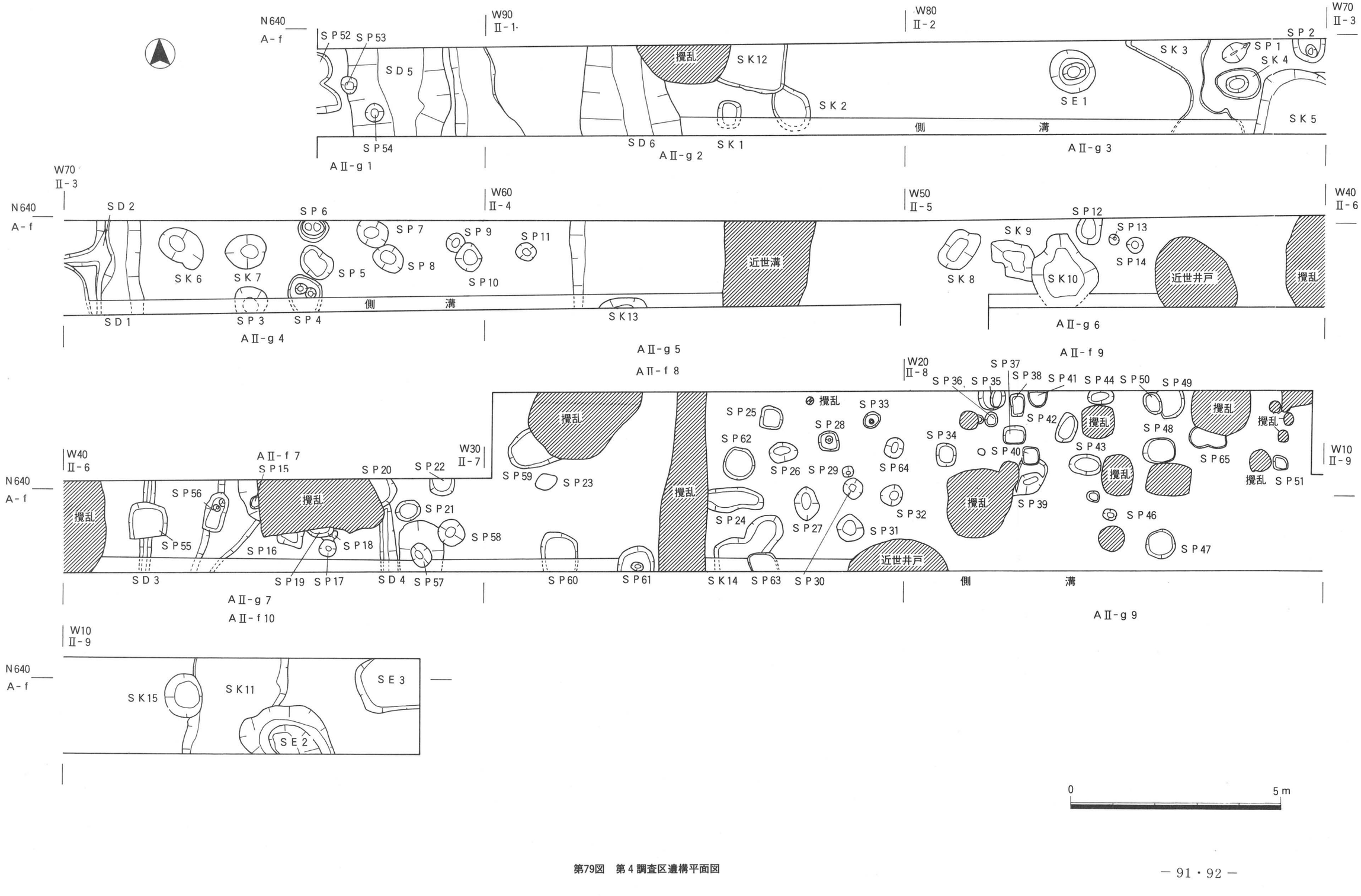
第78図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

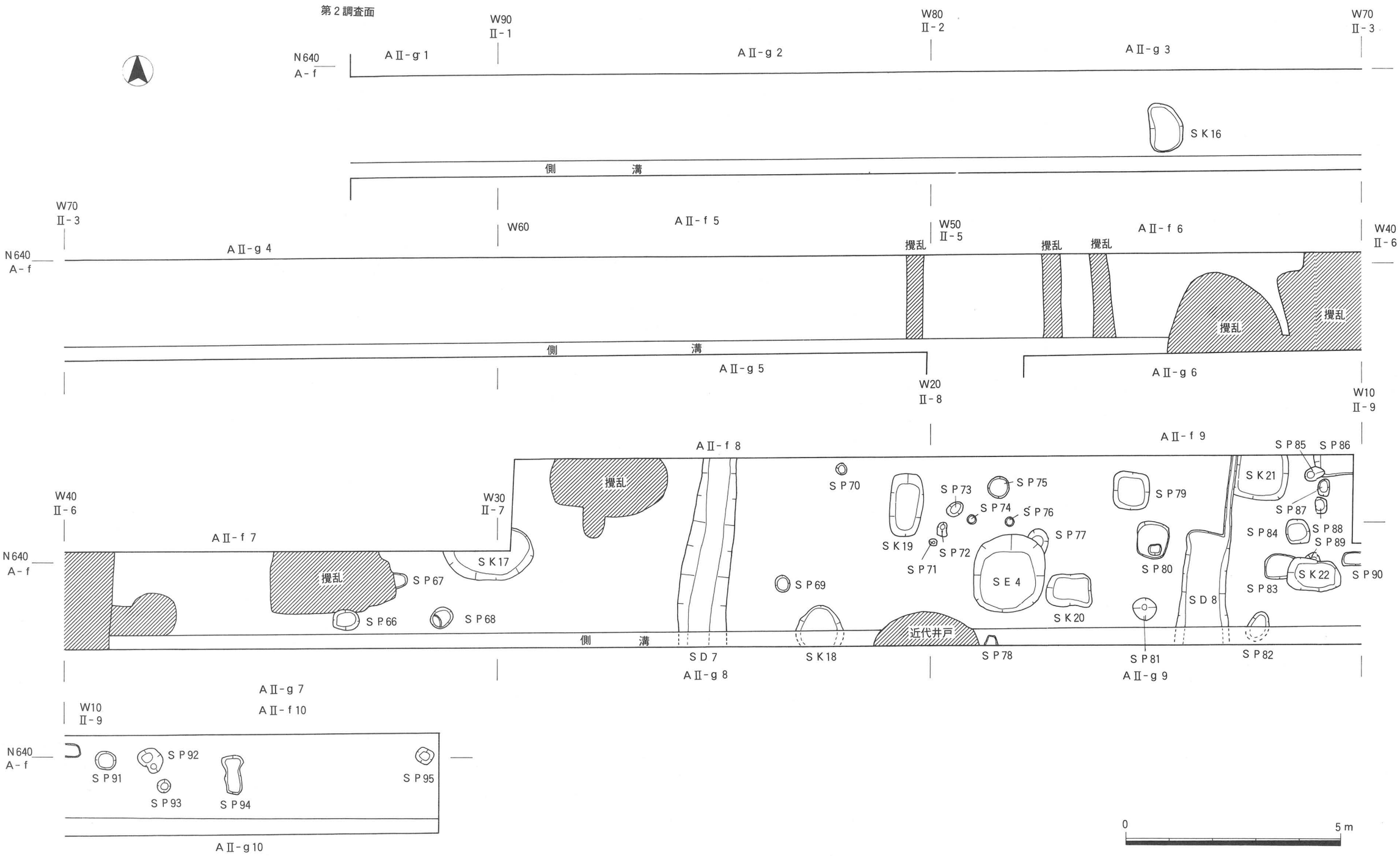
第３層上面（第２調査面）と第４層上面（第１調査面）の２面の調査を実施した。その結果、第１調査面では、古墳時代中期～平安時代末期に比定される遺構を検出した。遺構は古墳時代中期の土坑11基（ＳＫ１～ＳＫ11）・小穴51個（ＳＰ１～ＳＰ51）・溝４条（ＳＤ１～ＳＤ４）、奈良時代の溝１条（ＳＤ５・ＳＤ６）、平安時代末期の井戸３基（ＳＥ１～ＳＥ３）・土坑４基（ＳＫ12～ＳＫ15）・小穴13個（ＳＰ52～ＳＰ64）である。第２調査面では、平安時代末期～江戸時代に比定される遺構を検出した。遺構は、平安時代末期～鎌倉時代の井戸１基（ＳＥ４）・土坑７基（ＳＫ16～ＳＫ22）・小穴31個（ＳＰ65～ＳＰ95）・溝２条（ＳＤ７・ＳＤ８）、江戸時代以降の溝である（第79・80図）。

以下、各時代の遺構について記す。

第1調査面



第79図　第4調査区遺構平面図



第80図　第4調査区遺構平面図

１）第１調査面（古墳時代中期）

土坑（ＳＫ）

ＳＫ１

ＡⅡ－ｇ２区で検出した土坑で、上部は江戸時代に削平されている。平面は、円形を呈する。規模は検出部で、径56㎝、深さ10㎝を測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、黄褐色粘質土である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ２

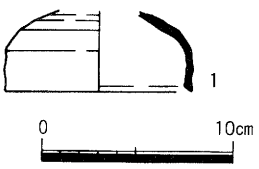
ＡⅡ－ｇ２区で検出した土坑で、上部は江戸時代に削平されている。北部はＳＫ12に切られている。平面は、円形を呈する。規模は検出部で、径88㎝、深さ22㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、黄褐色細砂混シルトの１層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ３

ＡⅡ－ｇ３区で検出した土坑で、南北はともに調査区外に至る。平面は、不定形を呈する。規模は検出部で、最大２ｍ、最小24㎝、深さ24㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄褐色砂質土・暗茶灰色砂質土の２層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ４

ＡⅡ－ｇ３区で検出した土坑である。平面は、楕円形を呈する。規模は検出部で、東西径1.1ｍ、南北径0.96ｍ、深さ34㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄灰色砂質土・黄褐色粘質シルト・暗灰色シルト混粘質土の３層に分かれる。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の杯蓋（１）の小片がごく少量出土している（第81図）。



第81図　ＳＫ４出土遺物実測図

ＳＫ５

ＡⅡ－ｇ３～ｇ４区で検出した土坑で、ＳＤ２を切り、南部は調査区外に至る。平面は検出部で、半円形を呈し、東西2.22ｍ、南北1.54ｍ、深さ30㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄灰色粘質シルト・暗灰色粗砂の２層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ６

ＡⅡ－ｇ４区で検出した土坑である。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、最大径

1.14ｍ、最小0.82ｍ、深さ35㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰色砂質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ７

ＡⅡ－ｇ４区で検出した土坑である。平面は、楕円形を呈する。規模は検出部で、東西96ｍ、南北82㎝、深さ35㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰色砂質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ８

ＡⅡ－ｇ６区で検出した土坑である。平面は、隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西72㎝、南北1.12ｍ、深さ10㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄褐色砂質土である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片が少量出土している。

ＳＫ９

ＡⅡ－ｇ６区で検出した土坑で、東部はＳＫ10に切られている。平面は、不定形を呈する。規模は検出部で、最大１ｍ、最小86㎝、深さ25㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄褐色砂質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片が少量出土している。

ＳＫ10

ＡⅡ－ｇ６区で検出した土坑で、ＳＫ９を切っている。平面は、不定形を呈する。規模は検出部で、東西1.58ｍ、南北1.4ｍ、深さ38㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、黄褐色砂質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

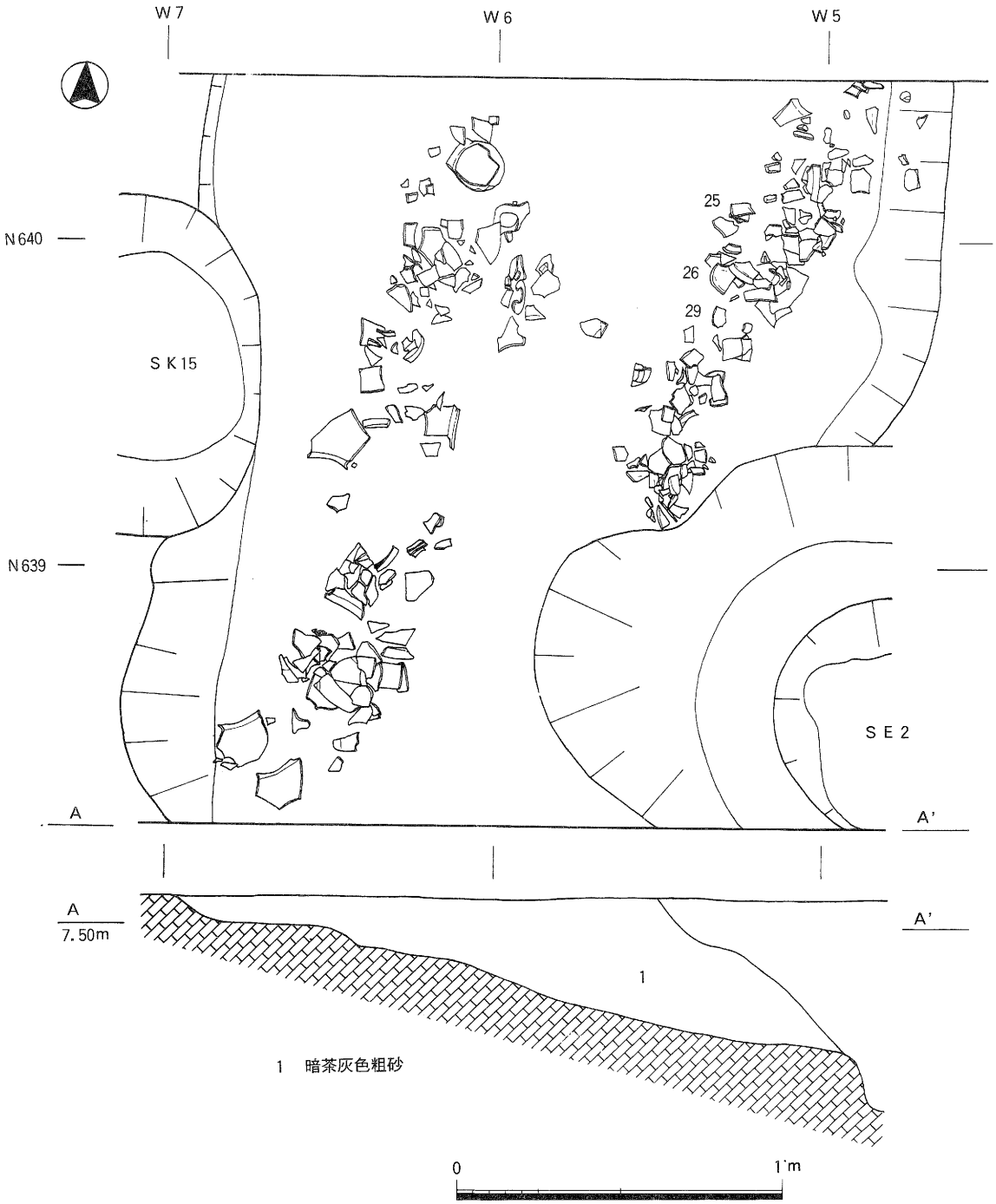
ＳＫ11

ＡⅡ－ｇ10区で検出した土坑で、ＳＥ２・ＳＫ15に切られている。南北はともに調査区外に至る。平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西2.26ｍ、南北2.3ｍ以上、深さ20㎝を測る。断面の形状は北側が逆台形を呈し、南西側へ傾斜しながら深くなる。堆積土は、暗灰色砂質土の１層である（第82図）。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の甕（２～12）・甑（13）、須恵器の杯蓋（24・25）・杯身（26～29）・甕（23）、製塩土器（14～22）が細かく砕けた状態で出土している（第83・84図）。

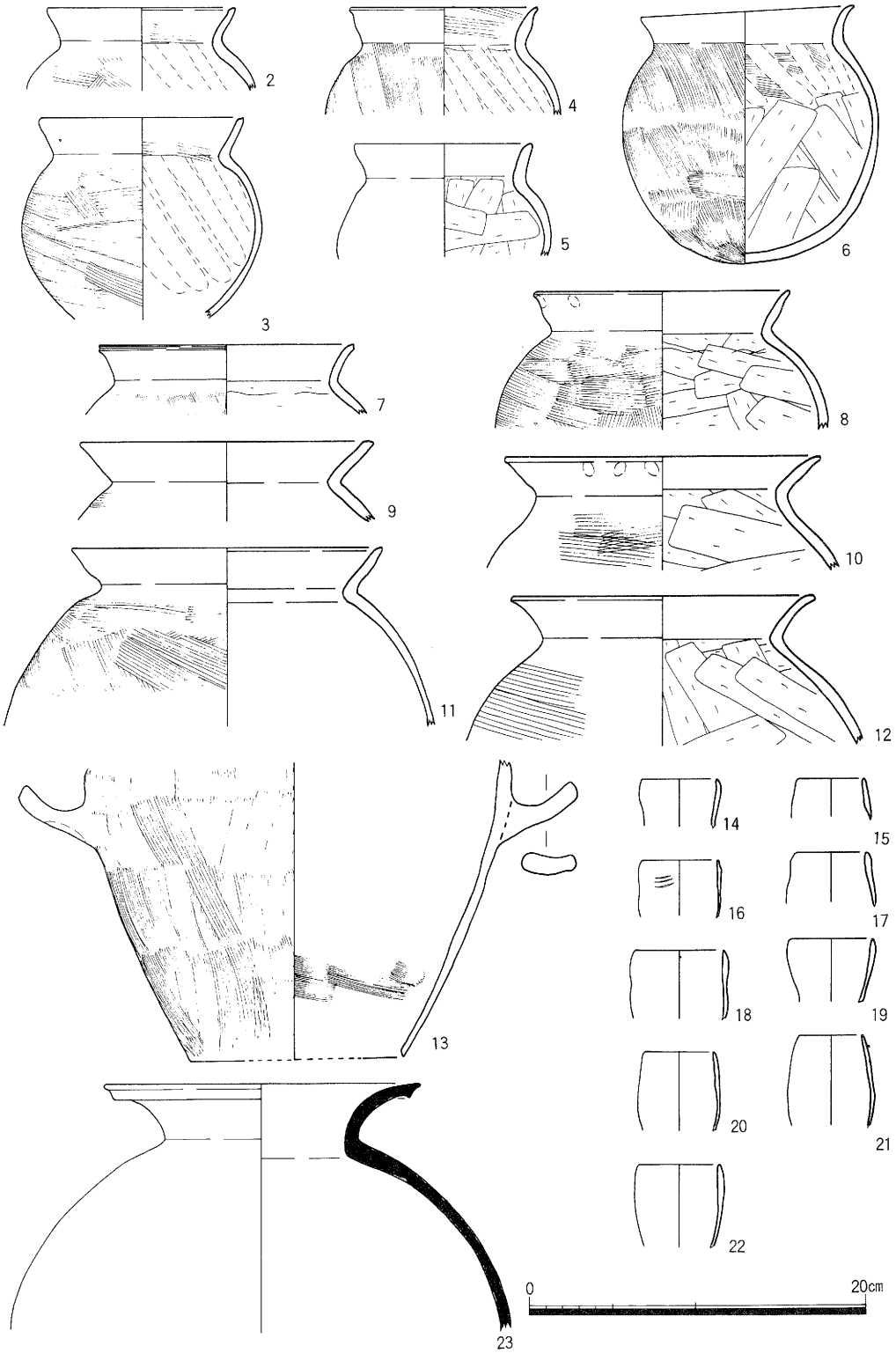
小穴（ＳＰ）

ＳＰ１～ＳＰ51

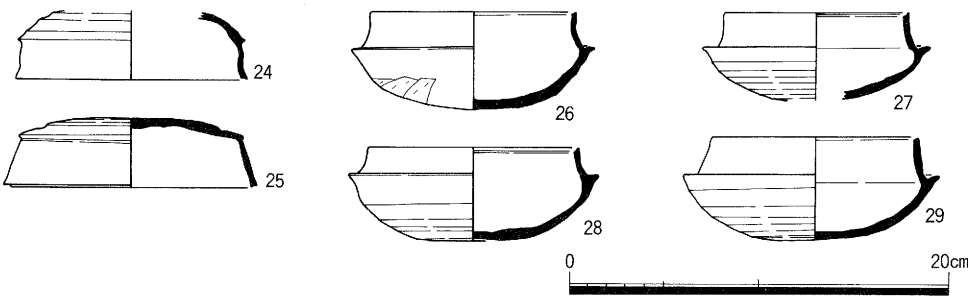
調査区で51個を検出した。平面の形状には円形のもの（９個）、楕円形のもの（15個）・不定形のもの（３個）・方形のもの（９個）・不明のもの（15個）あり、径50～102㎝の大きい



第82図　ＳＫ11検出遺物平面図及び断面図



第83図　ＳＫ11出土遺物実測図１



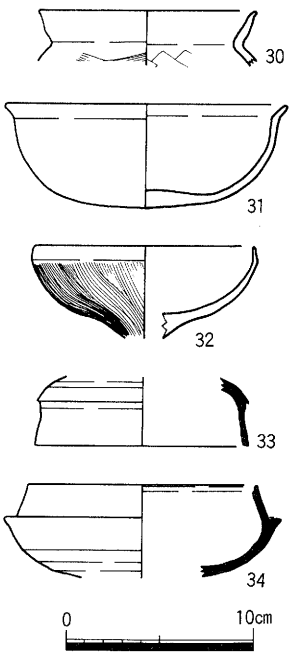
第84図　ＳＫ11出土遺物実測図２

もの、径17～48cmの小さいものがある。断面は逆台形を呈し、深さ３～52cmを測る。堆積土は、暗灰色砂質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器の小片がごく少量出土している。図示できたものは、ＳＰ30が土師器の甕（30）、ＳＰ31が土師器の杯（31）、ＳＰ50が土師器の高杯（32）、ＳＰ４が須恵器の杯蓋（33）、ＳＰ24が須恵器の杯身（34）である（第85図）。これらの小穴は調査区内で配列するものがみられなかったが、建物の関連する柱穴と考えられるものがある。以下、各小穴の法量について第７表に記す。

溝（ＳＤ）

ＳＤ１

ＡⅡ－ｇ４区で検出した。方向は東南方向を示し、南北はともに調査区外に至る。西部はＳＤ２が合流する。規模は検出部で、幅１ｍ、深さ25cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗茶灰色砂質土・暗灰色粘

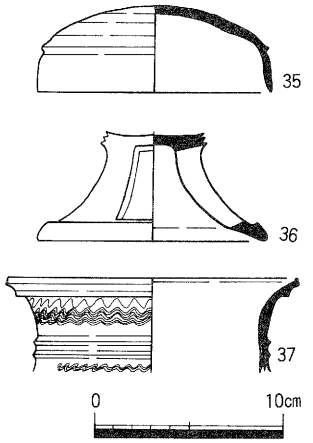


第85図　ＳＰ30(30)・ＳＰ31(31)・ＳＰ50(32)ＳＰ４(33)・ＳＰ23(34)出土遺物実測図

第7表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ27	ＡⅡ－ｇ8	隅丸方形	逆台形	48	22	暗灰褐色シルト	柱痕１個(径15)
ＳＰ28	ＡⅡ－ｆ8	―――	逆台形	90	46	暗灰褐色シルト	
ＳＰ29	ＡⅡ－ｆ8	楕円形	逆台形	48	20	暗灰褐色シルト	
ＳＰ30	ＡⅡ－ｆ8	隅丸方形	逆凸形	64～74	28	暗茶灰色シルト	柱痕１個(径23～32)
ＳＰ31	ＡⅡ－ｇ8	楕円形	逆台形	40～70	14	暗灰褐色シルト	
ＳＰ32	ＡⅡ－ｇ8	円　形	逆台形	44	15	暗灰褐色シルト	
ＳＰ33	ＡⅡ－ｆ8	楕円形	逆台形	34～42	12	暗灰褐色シルト	
ＳＰ34	ＡⅡ－ｆ9	隅丸方形	逆凸形	64～66	25	暗灰褐色シルト	
ＳＰ35	ＡⅡ－ｆ9	隅丸方形	逆凸形	80～12	32	暗灰褐色シルト	柱痕１個(径15)
ＳＰ36	ＡⅡ－ｆ9	―――	逆凸形	88	29	暗灰褐色シルト	柱痕４個(径18～30)
ＳＰ37	ＡⅡ－ｆ9	不定形	逆凸形	84～96	27	暗灰褐色シルト	柱痕３個(径10～25)
ＳＰ38	ＡⅡ－ｆ9	不定形	逆凸形	94	34	暗灰褐色シルト	柱痕３個(径15～30)
ＳＰ39	ＡⅡ－ｆ9	不定形	逆台形	30～96	34	暗灰褐色シルト	柱痕２個(径15～30)
ＳＰ40	ＡⅡ－ｆ9	不定形	逆凸形	95	40	暗灰褐色シルト	
ＳＰ41	ＡⅡ－ｆ9	隅丸方形	逆凸形	84	37	暗灰褐色シルト	柱痕２個(径13～25)
ＳＰ42	ＡⅡ－ｆ9	楕円形	逆凸形	52～66	36	暗灰褐色シルト	柱痕３個(径15～25)
ＳＰ43	ＡⅡ－ｆ9	円　形	逆台形	34～36	12	暗灰褐色シルト	柱痕２個(径15～25)
ＳＰ44	ＡⅡ－ｆ9	楕円形	逆台形	47～60	20	暗灰褐色シルト	
ＳＰ45	ＡⅡ－ｇ9	隅丸方形	逆台形	52～56	15	暗灰褐色シルト	
ＳＰ46	ＡⅡ－ｇ9	円　形	逆凸形	46	20	暗灰褐色シルト	柱痕１個(径８)
ＳＰ47	ＡⅡ－ｇ9	円　形	逆台形	24～26	8	暗灰褐色シルト	
ＳＰ48	ＡⅡ－ｆ9	隅丸方形	逆台形	25～30	15	暗灰褐色シルト	
ＳＰ49	ＡⅡ－ｆ9	楕円形	逆台形	22～26	22	暗灰褐色シルト	
ＳＰ50	ＡⅡ－ｆ9	隅丸方形	逆台形	40～46	10	暗灰褐色シルト	
ＳＰ51	ＡⅡ－ｆ9	隅丸方形	逆台形	24～40	8	暗灰褐色シルト	

土の２層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される須恵器（Ⅰ型式３～４段階）の杯蓋（35）・高杯（36）甕（37）の小片がごく少量出土している。（第86図）。



第86図　ＳＤ１出土遺物実測図

ＳＤ２

ＡⅡ－ｇ４区で検出した。方向は東西方向を示し、東部はＳＤ１に合流し、西部はＳＫ５に切られる。規模は検出部で、幅30cm、深さ13cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰色砂質土である。遺物は、出土していないが、ＳＤ１と合流する関係にあることから古墳時代中期に比定されよう。

ＳＤ３

ＡⅡ－ｇ７区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。中央部はＳＰ55に切られ、切断されている。規模は検出部で、幅28cm、深さ６cmを測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰色茶色粘質シルトの１層である。遺物は出土していない。

ＳＤ４

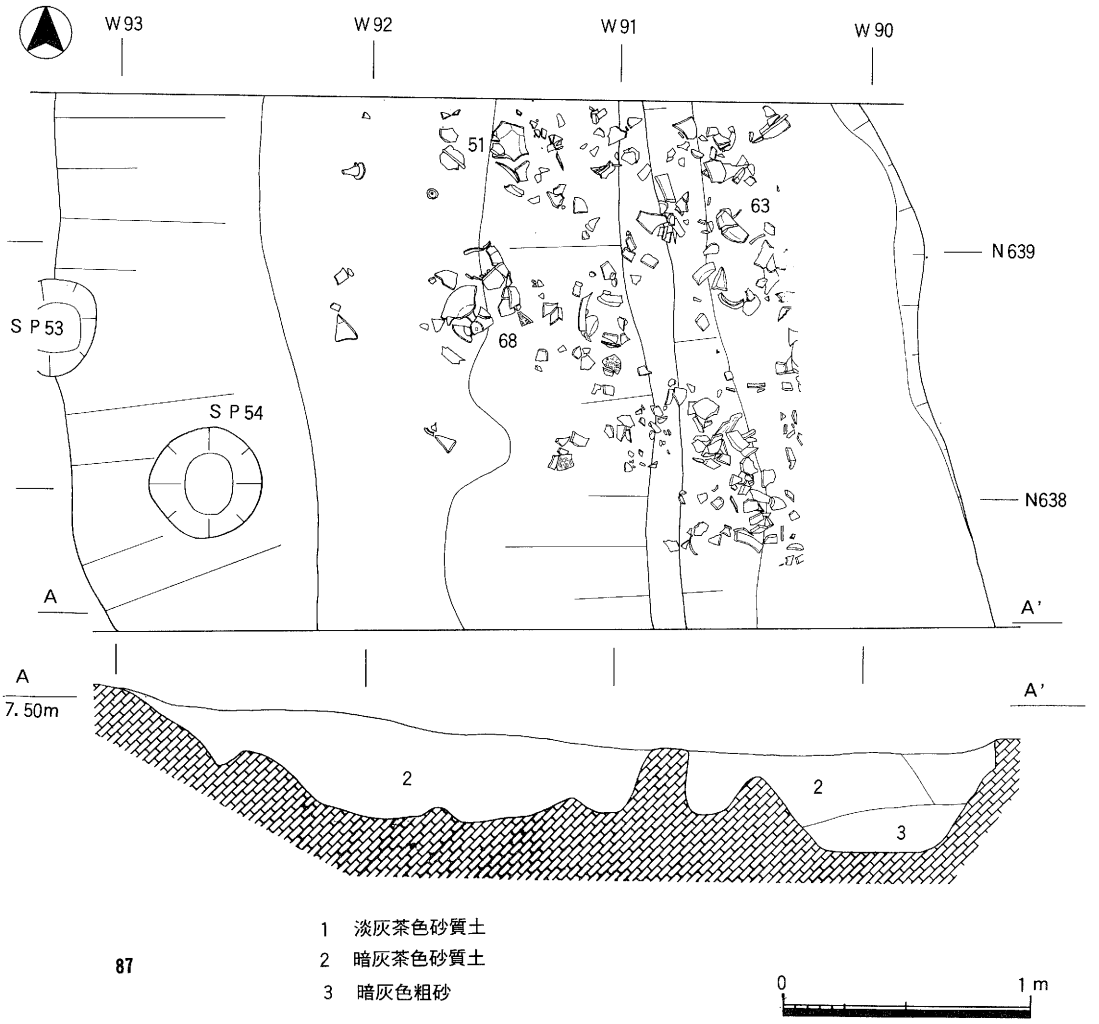
ＡⅡ－ｇ７区で検出した。方向は南北方向を示し、北部はＳＰ20に切られ、西部は攪乱されている。南部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅30～40cm、深さ７～８cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗灰茶色粘質シルトの一層である。遺物は出土していない。

２）奈良時代

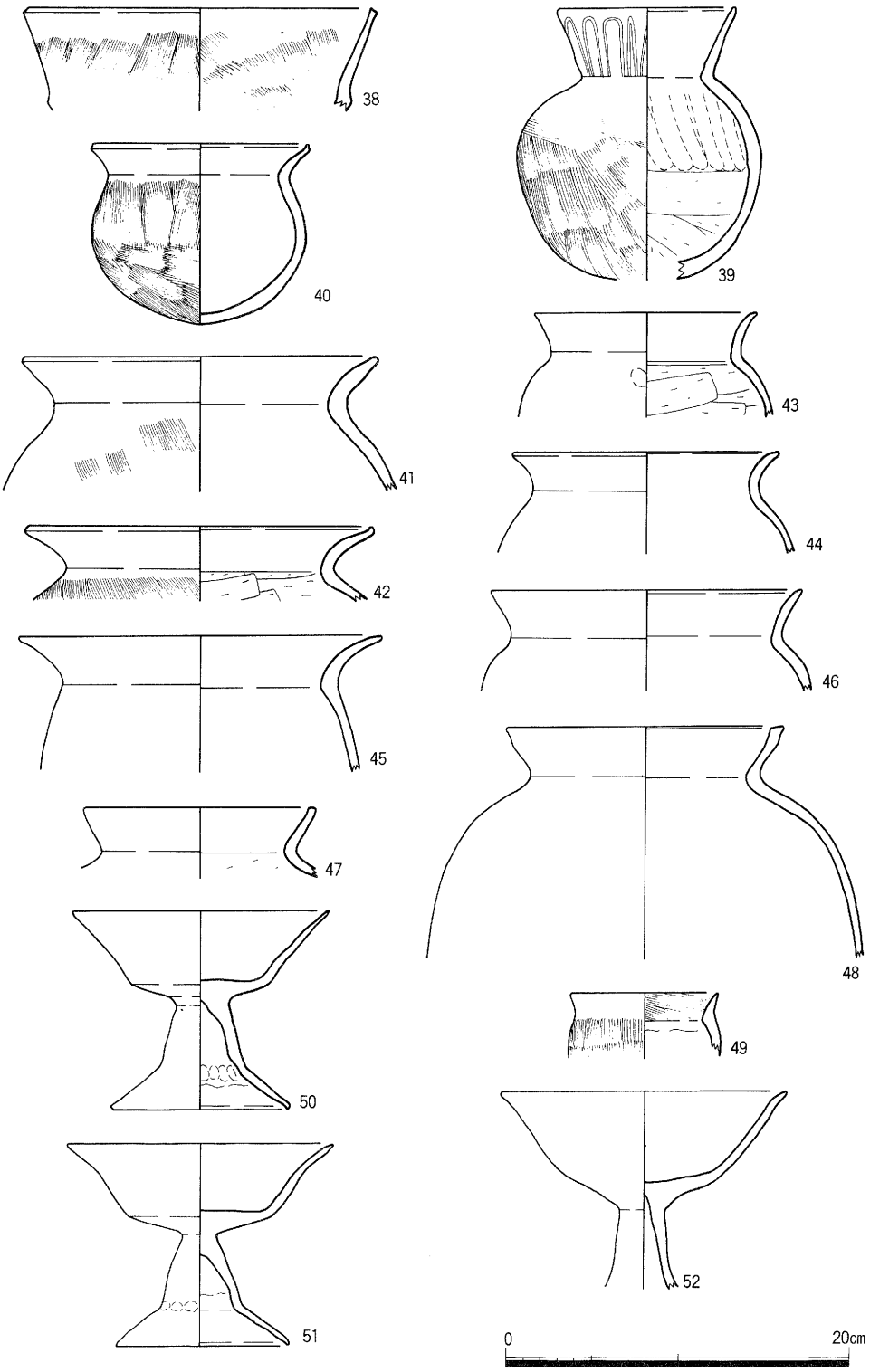
溝（ＳＤ）

ＳＤ５

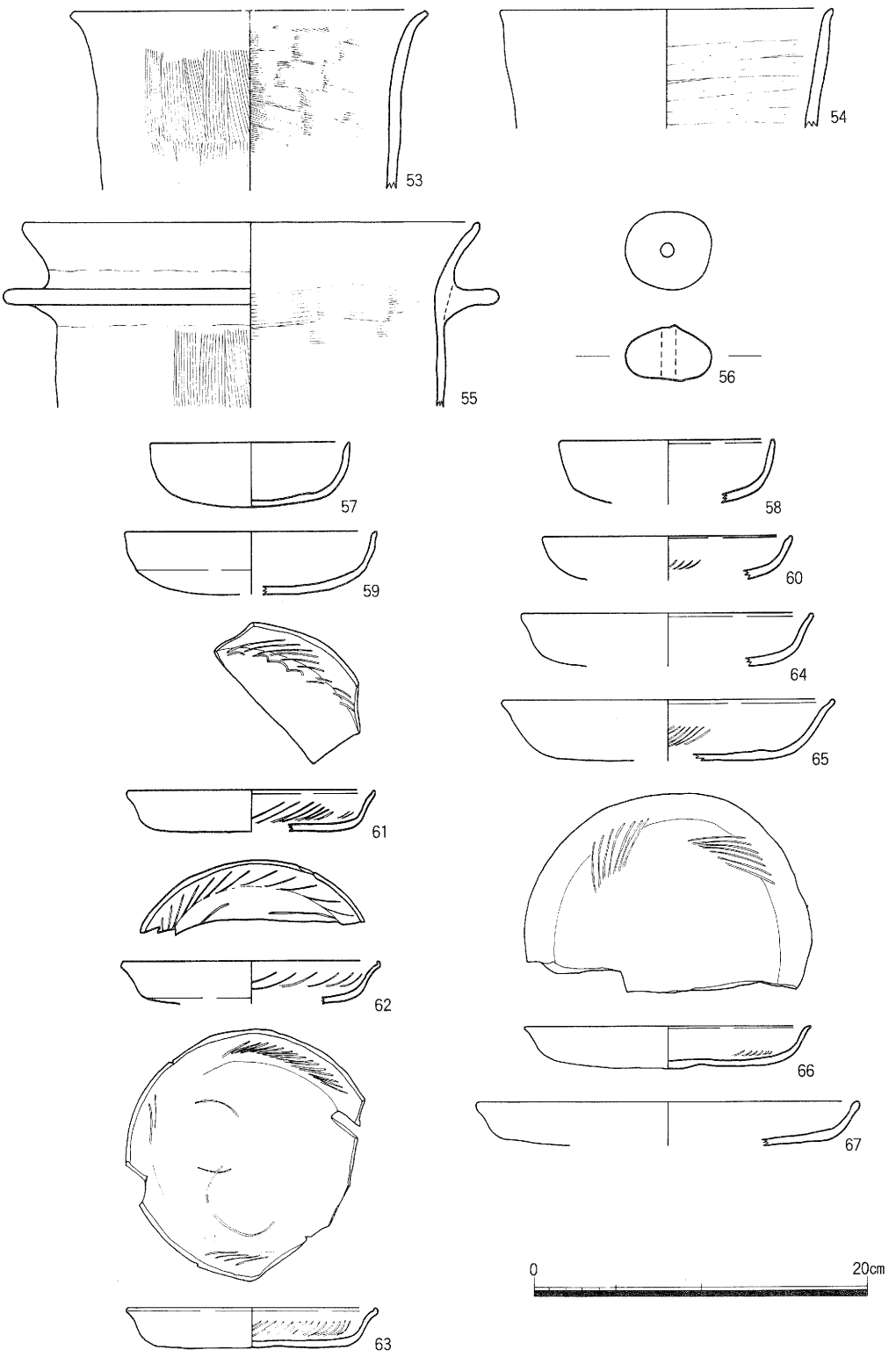
ＡⅡ－ｇ１区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。上面は江戸時代の土層によって削平されている。規模は検出部で、幅3.3～3.5m、深さ16～47cmを測る。断面は緩やかなW形を呈し、底面には小さな起伏がいくつかみられる。堆積土は、第１層：淡灰茶色砂質土・第２層：暗灰茶色粘質土・第３層：暗灰色粗砂の３層で、西部の大半は第２層が堆積する単一層である（第87図）。遺物は、内部から古墳時代後期～奈良時代に比定される土師器・須恵器の小片がコンテナ箱にして約２箱分出土している。図示できたものは、土師器の壷（38）・甕（39～48）・鉢（49）・高杯（50～52）・甑（53・54）・羽釜（55）・土錘（56）・杯（57・58）・皿（59～68）・台付皿（69・70）、須恵器の杯身（71・72）・𤭯（73・74）・鉢（75・76）・甕（77・78）である（第88～90図）。土師器の皿は平城京Ⅱ～Ⅲ式に比定される。須恵器は、Ⅳ型式３～４段階に比定される。



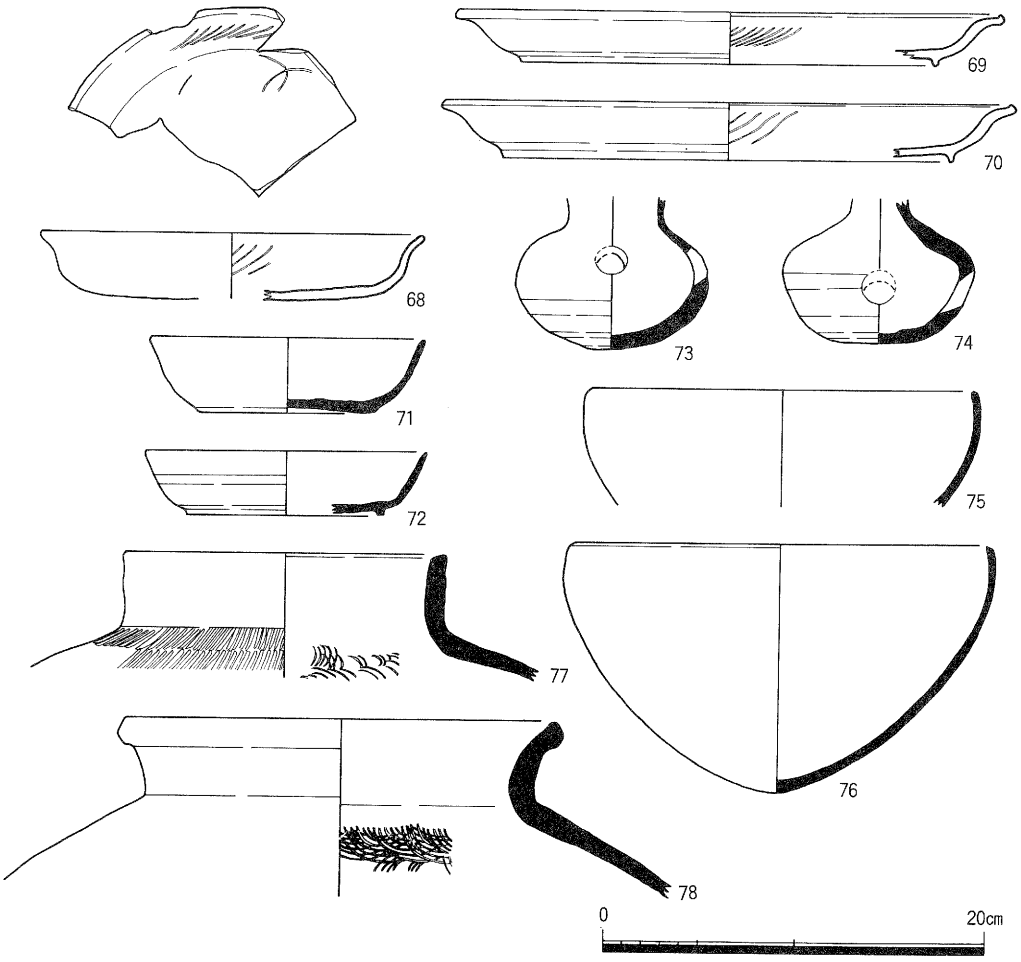
第87図　ＳＤ５検出遺物平面図及び断面図



第88図　ＳＤ５出土遺物実測図１



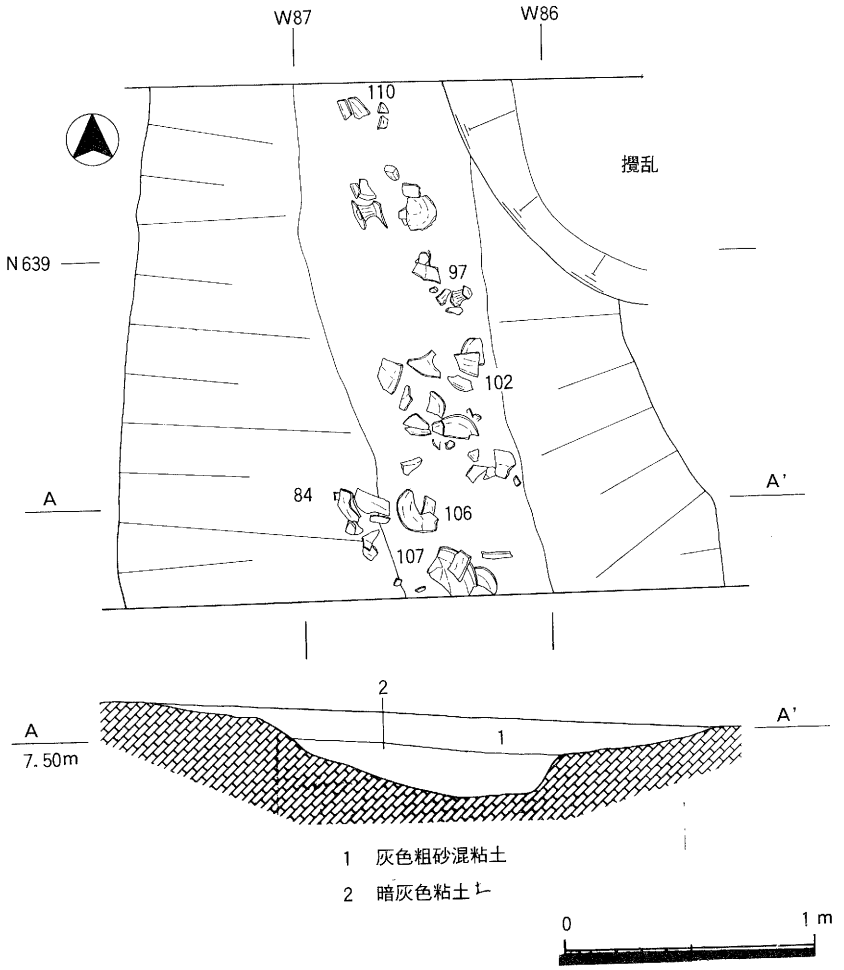
第89図　ＳＤ５出土遺物実測図２



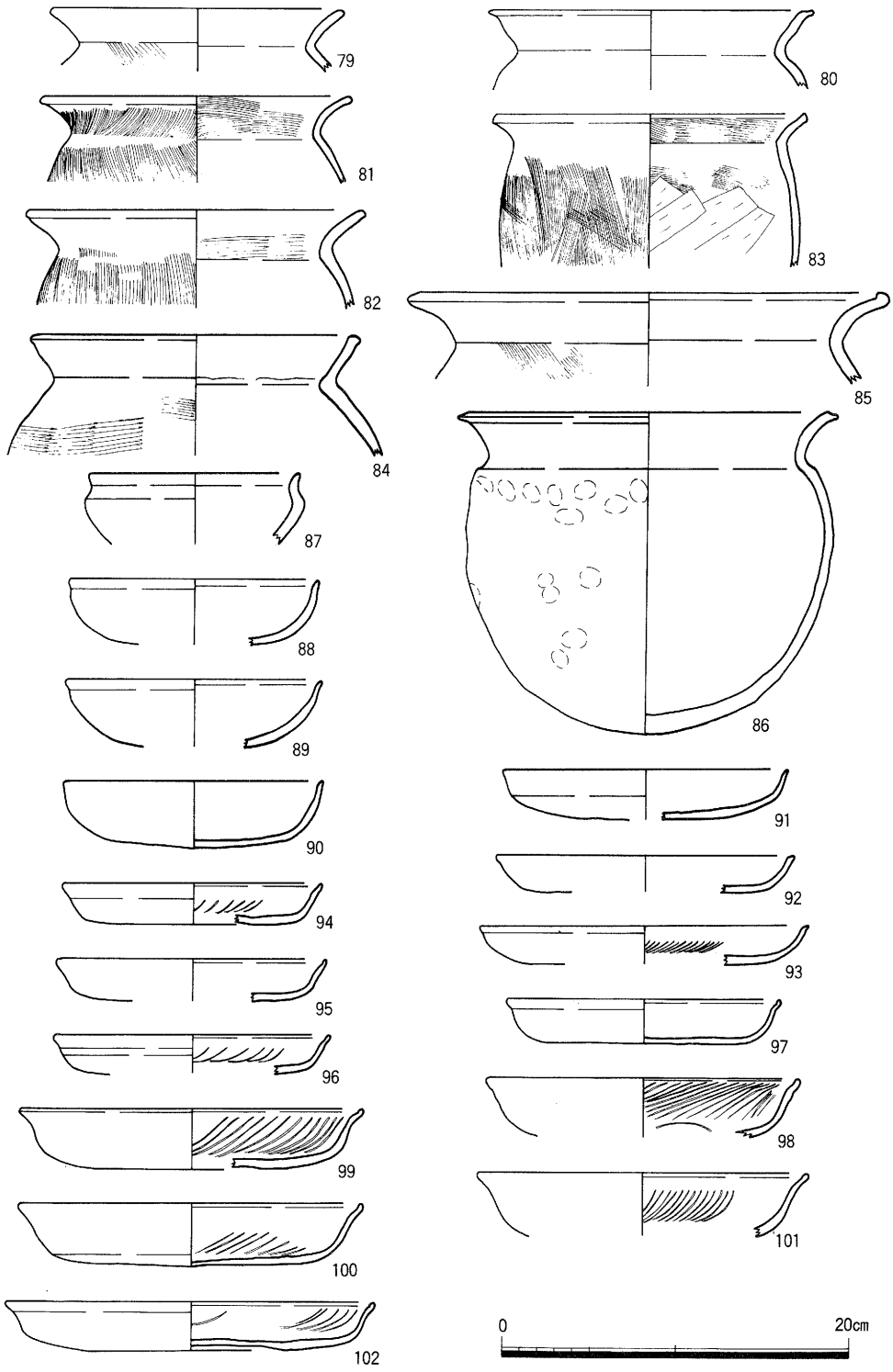
第90図　ＳＤ５出土遺物実測図３

ＳＤ６

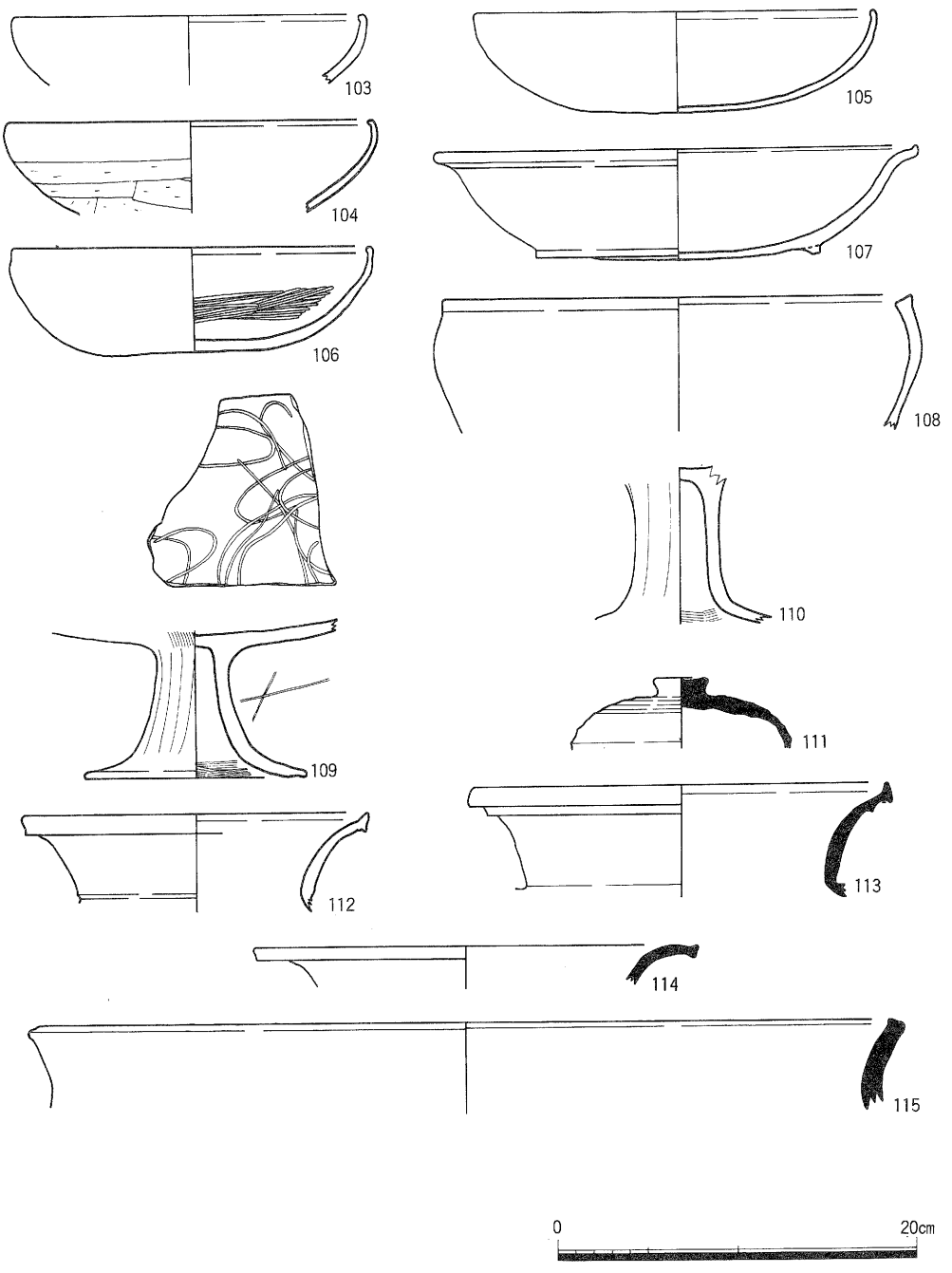
ＡⅡ－ｇ２区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。北東部の一部は撹乱されている。規模は検出部で、幅1.9～2.4ｍ、深さ32㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、灰色粗砂混粘土・暗灰色粘土の２層である（第91図）。遺物は、内部から奈良時代に比定される土師器の甕（79～86）・杯（87～90）・皿（91～102）・鉢（103～106・108）・台付鉢（107）・高杯（109・110）、須恵器の杯蓋（111）・甕（112～115）などの破片がコンテナ箱に１箱分出土している（第92・93図）。



第91図　ＳＤ６検出遺物平断面図



第92図　ＳＤ６出土遺物実測図１



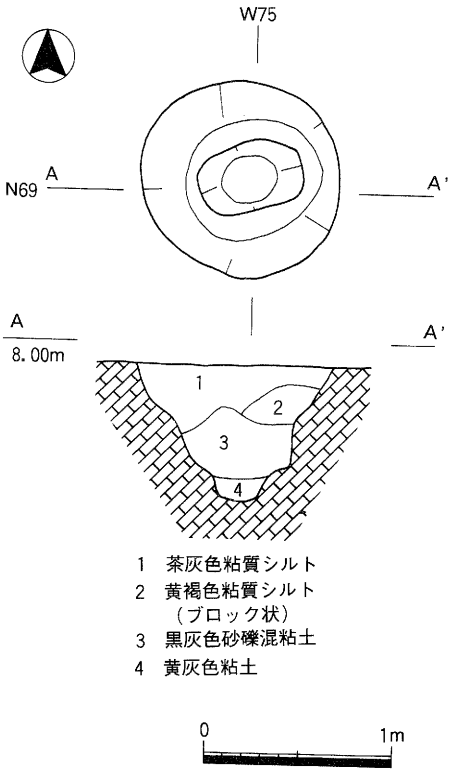
第93図　ＳＤ６出土遺物実測図２

3）平安時代末期～鎌倉時代

井戸（ＳＥ）

ＳＥ１

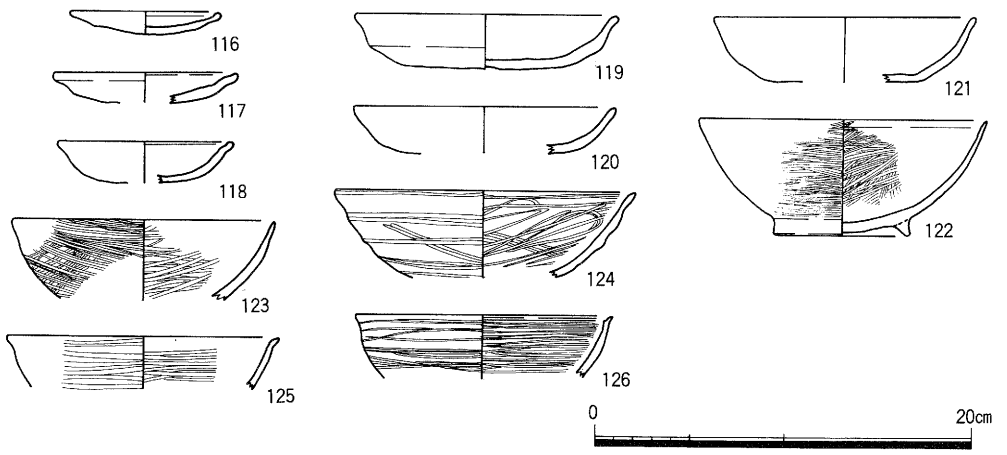
ＡⅡ－ｇ３区で検出した素掘りの井戸である。平面は、円形を呈する。規模は検出部で、径1.06ｍ、深さ68㎝を測る。断面は、逆凸形を呈する。堆積土は、上方から茶灰色粘質シルト・黄褐色粘質シルト・黒灰色砂礫粘混土・黄灰色粘土の４層に分かれる（第94図）。遺物は、内部から平安時代末期に比定される土師器の小皿（116～118）・中皿（119～121）・瓦器の椀（122～126）の小片が少量出土している（第95図）。



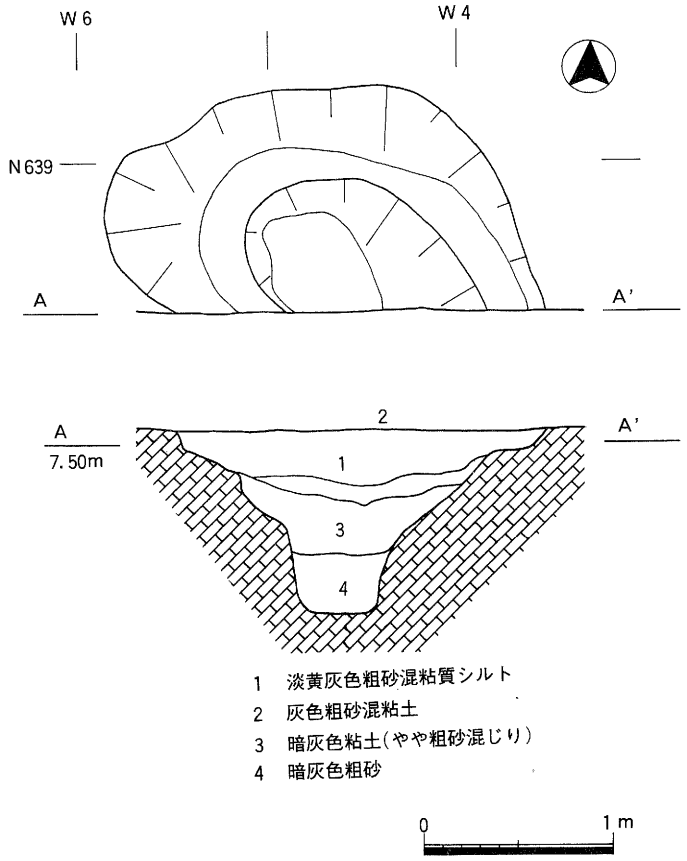
第94図　ＳＥ１平断面図

ＳＥ２

ＡⅡ－ｇ10区で検出した曲物を備えた井戸で、ＳＫ11を切り、南部はともに調査区外に至る。掘形の平面形状は検出部で、半円形を呈し、東西2.6ｍ、南北1.2ｍ、深さ84㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。井戸側は掘形

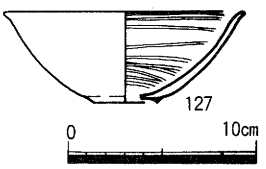


第95図　ＳＥ１出土遺物実測図



第96図　ＳＥ２平断面図

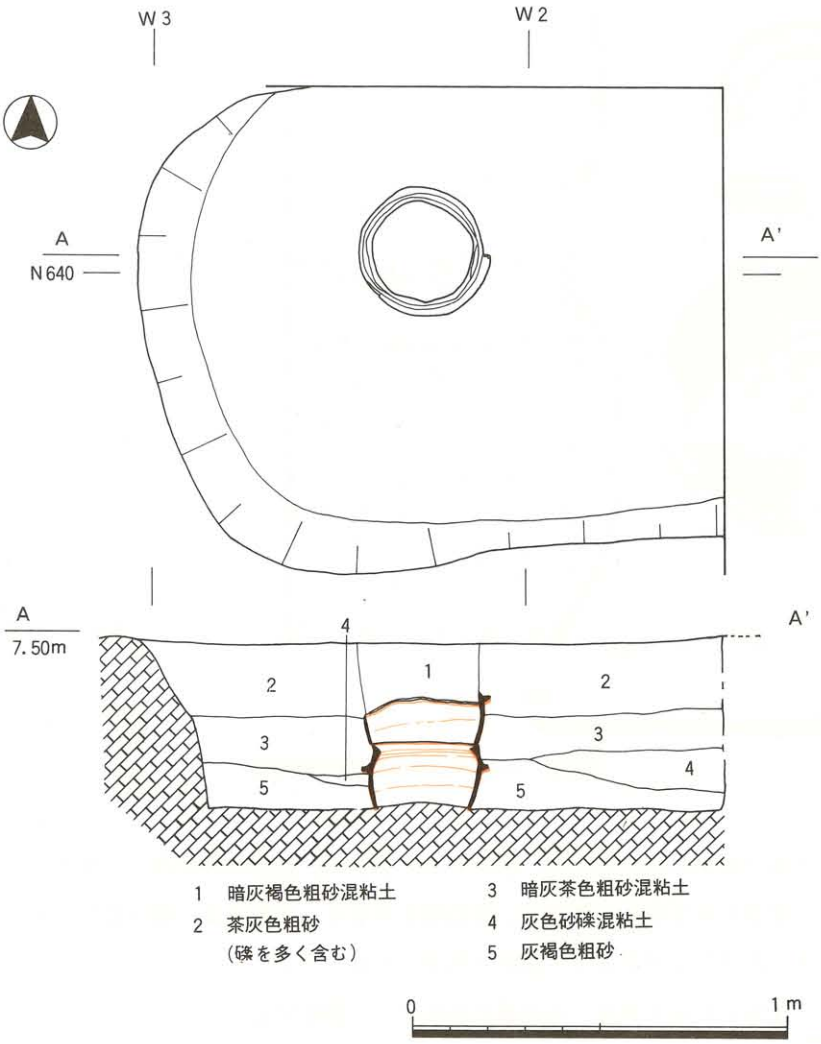
の底面付近で１段の曲物を検出した。曲物はほとんど腐敗しており、半円部分が残存していたのみである。大きさは、復元径40㎝、高さ15㎝、厚み７㎜を測る。堆積土は、淡黄灰色粗砂混粘質シルト・灰色粗砂混粘土・暗灰色粘土・暗灰色粗砂である(第96図)。遺物は、曲物内から鎌倉時代初頭に比定される土師器・瓦器の椀(127)などの小片が少量出土している(第97図)。



第97図　ＳＥ２出土遺物実測図

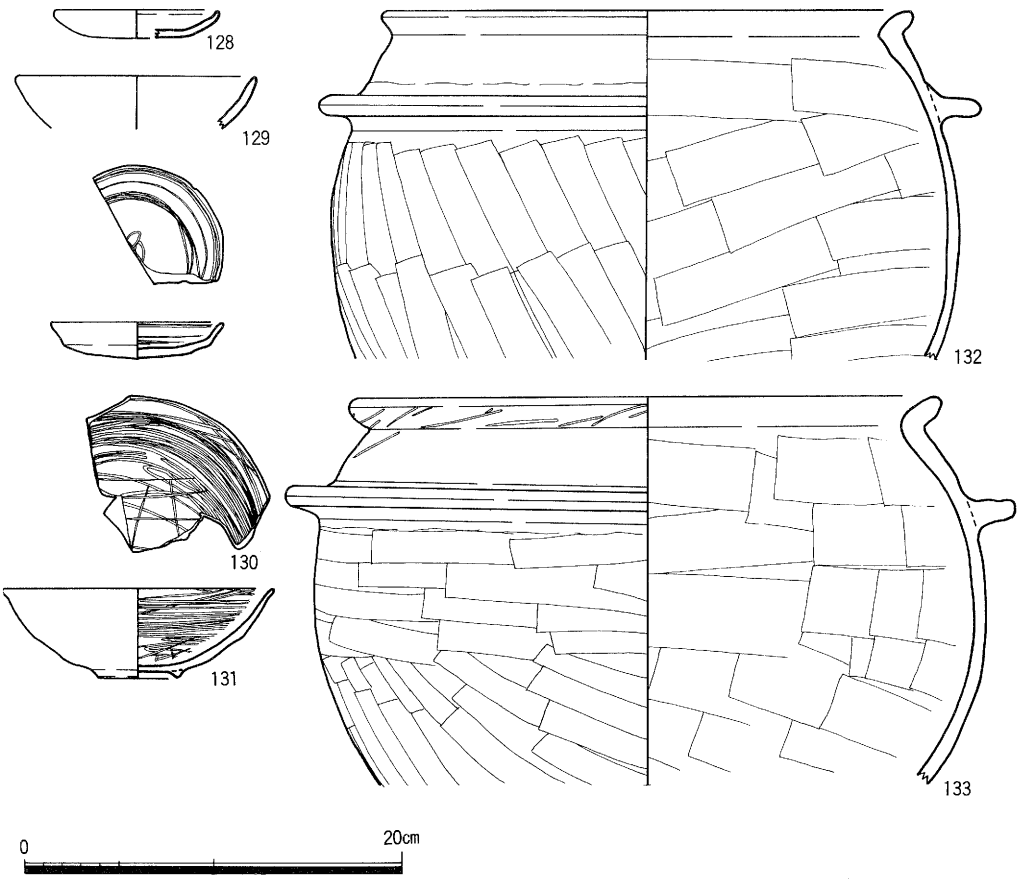
ＳＥ３

ＡⅡ－ｇ10区で検出した井戸側を備えた井戸である。掘形は北東側が調査区外に至り、掘形の平断面の形状は不明である。規模は検出部で、東西1.5ｍ、南北1.3ｍ、深さ48㎝を測る。井戸側は底部が穿孔した羽釜を２段に積み重ねたもので、掘形の中央部で検出した。羽釜は上段(132)が口径27.5㎝、下段(133)が口径32㎝で、上段に小径のものを備えている。堆積土は、井戸側内が



第98図　ＳＥ３平断面図

暗灰褐色粗砂混粘質土の１層で、掘形が茶灰色粗砂（礫を多く含む）・暗灰茶色粗砂混粘土・灰色砂礫混粘土・灰褐色粗砂の４層に分かれる（第98図）。遺物は、掘形内から古墳時代中期～鎌倉時代に至る土器の小片がごく少量出土している。井戸側内から鎌倉時代に比定される土師器の小皿（128）・中皿（129）、瓦器の小皿（130）・椀（131）の破片がごく少量出土している（第99図）。



第99図　ＳＥ３出土遺物及び井戸枠実測図

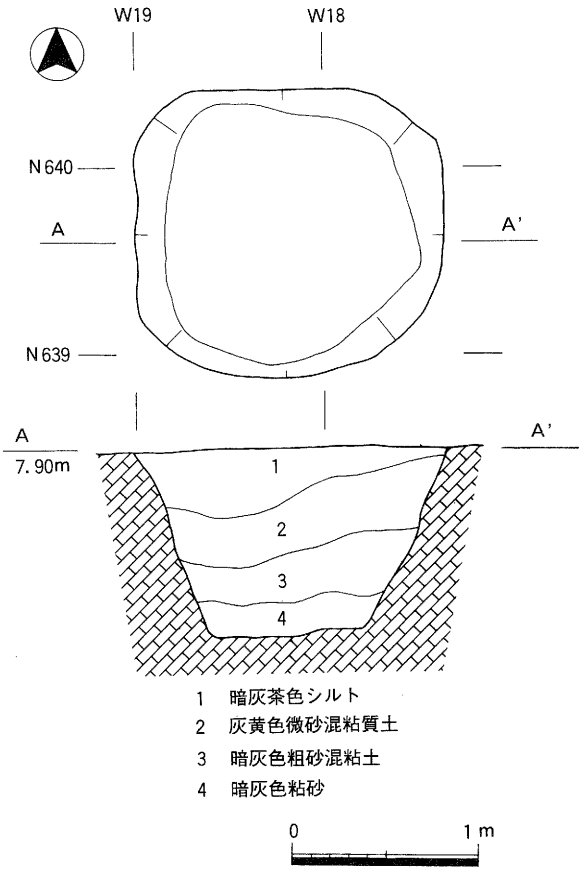
ＳＥ４

ＡⅡ－ｇ９区で検出した。平面は、隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西径1.64ｍ、南北径1.52ｍ、深さ１ｍを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰茶色シルト・灰黄色微砂混粘質土・暗灰色粗砂混粘土・暗灰色粘砂の４層に分かれる（第100図）。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

土坑（ＳＫ）

ＳＫ12

ＡⅡ－ｇ２区で検出した土坑で、上部は、江戸時代の土層に削平されている。北部は調査区外に至り、西部は撹乱されている。ＳＫ２を切っている。規模は検出部で、東西2.1ｍ、南北1.08ｍ、深さ38㎝を測り、平断面の形状は、不明である。堆積土は、暗褐色シルトと灰茶色粘質土のブロックである。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される瓦器の椀の小片がごく少量出土している。



第100図　ＳＥ４平断面図

瓦器の椀の小片がごく少量出土している。

ＳＫ15

ＡⅡ－ｇ10区の拡張部で検出した。平面は、長方形を呈する。規模は検出部で、東西78㎝、南北1.4ｍ、深さ25㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰褐色シルトの１層である。遺物は、内部から古墳時代後期～鎌倉時代に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

４）第２調査面（鎌倉時代）

ＳＫ16

ＡⅡ－ｇ３区で検出した。平面は、ほぼ楕円形を呈する。規模は検出部で、東西0.74ｍ、南北1.12ｍ、深さ15㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡茶灰色細砂の１層である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・瓦器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ13

ＡⅡ－ｇ５区で検出した。上面は撹乱しており、南部は調査区外に至る。平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.2ｍ、南北28㎝以上、深さ24㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰色粘質土の１層である。遺物は、内部から平安時代末期に比定される瓦器の椀の小片がごく少量出土している。

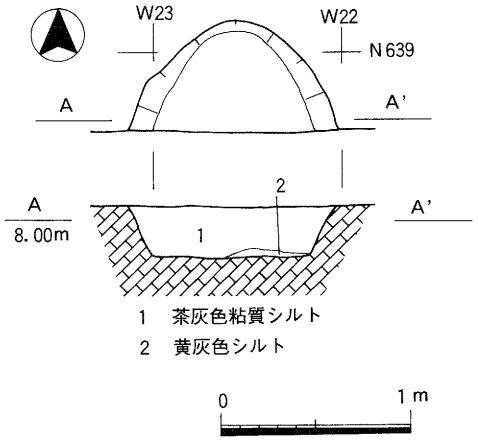
土坑（ＳＫ）

ＳＫ14

ＡⅡ－ｇ８区で検出した。南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.12ｍ、南北0.94ｍ、深さ23㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は茶灰色シルトの１層である。遺物は、内部から古墳時代後期～鎌倉時代に比定される土師器・須恵器・

ＳＫ17

ＡⅡ－ｆ７・ｆ８区で検出した。北部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西2.1ｍ、南北1.2ｍ、深さ20㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、灰褐色シルト・茶灰色粘質シルトの２層である。遺物は出土していない。



第101図　ＳＫ18平断面図

ＳＫ18

ＡⅡ－ｇ８区で検出した。南部の一部は調査区外に至る。平面は、円形を呈する。規模は検出部で、東西1.1ｍ、南北92㎝、深さ30㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、茶灰色粘質シルト・黄灰色シルトの２層である（第101図）。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される瓦器の椀の小片がごく少量出土している。

ＳＫ19

ＡⅡ－ｆ８区で検出した。平面は、南北に長い隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西78㎝、南北1.4ｍ、深さ25㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗灰褐色シルトの１層である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・瓦器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ20

ＡⅡ－ｇ９区で検出した。平面は、隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西1.04ｍ、南北92㎝、深さ25㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰青色シルト・茶褐色粘質シルトである。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・瓦器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ21

ＡⅡ－ｆ９区で検出した。北部は調査区外に至る。平面は検出部で、隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西1.4ｍ、南北1.06ｍ、深さ35㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡茶灰色砂質土の１層である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・瓦器の小片が少量出土している。

ＳＫ22

ＡⅡｇ９区で検出した。平面は東西に長い楕円形を呈し、ＳＰ83・ＳＰ89を切る。規模は検出部で、東西径1.08ｍ、南北径0.76ｍ、深さ21㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗褐灰色砂混シルト・暗茶灰色粗砂混シルトの２層である。遺物は、内部から古墳時代後期～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器の小片がごく少量出土している。

小穴（ＳＰ）

ＳＰ52～ＳＰ95

調査区の東部で44個を検出した。平面の形状には円形のもの（9個）、楕円形のもの（12個）、隅丸方形のもの（5個）、不明のもの（18個）がある。規模は大きいものが48～74cm、小さいものが20～46cmを測る。これらの小穴内には柱痕や根石などがみられ、建物に関連する柱穴と考えられるが、調査区で一部拡張を実施したが、相互関係をもつ配列は調査区内で検出できなかった。以下、各小穴の法量などについて第8表に記す。

第8表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：cm

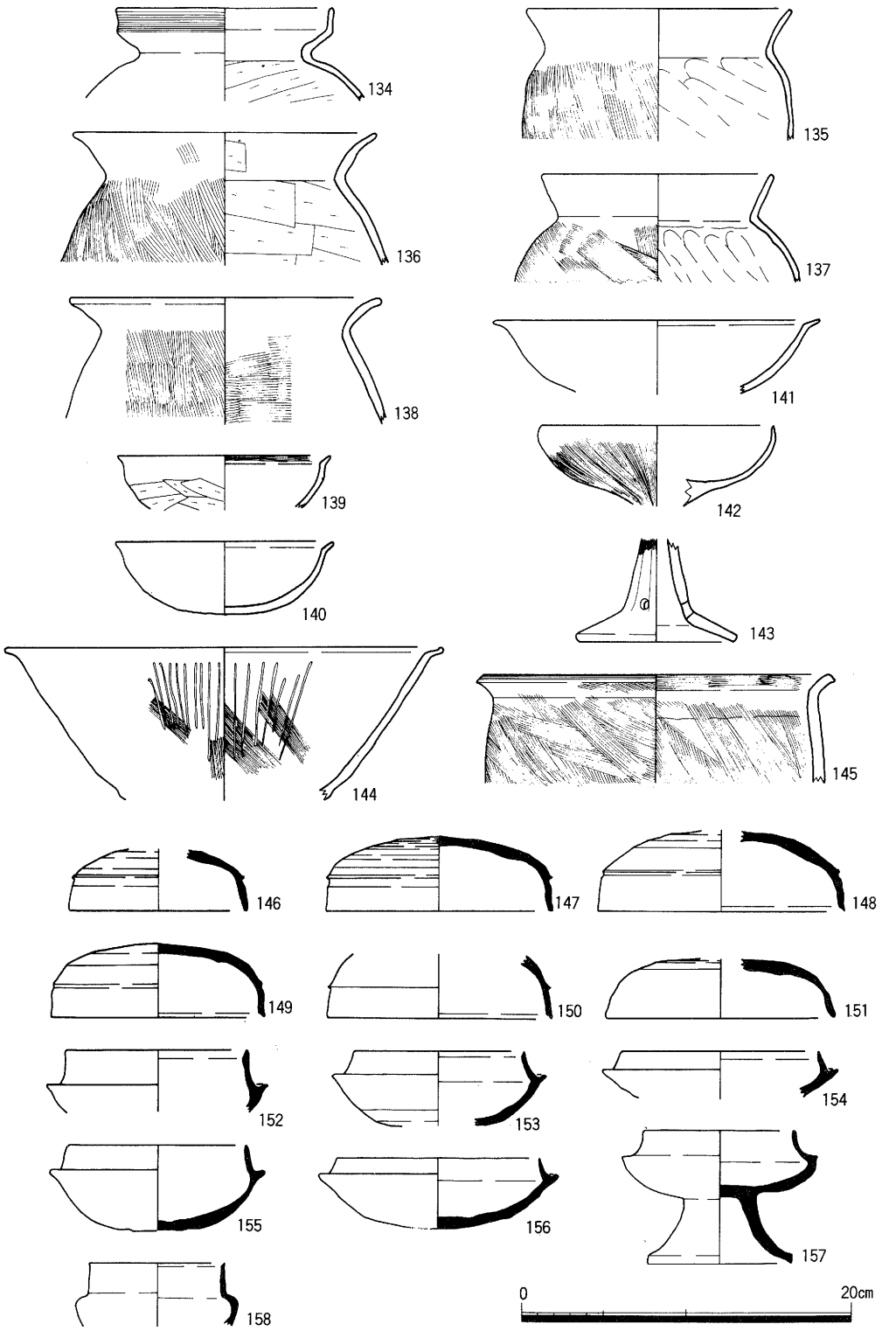
遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ52	ＡⅡ－ｇ1	楕円形	逆台形	44～76	22	暗灰色砂質土	
ＳＰ53	ＡⅡ－ｇ1	楕円形	逆凸形	38～42	44	暗灰褐色シルト	
ＳＰ54	ＡⅡ－ｇ1	円　形	逆台形	42	26	暗灰褐色シルト	
ＳＰ55	ＡⅡ－ｆ7	―――	逆台形	92	13	暗灰褐色シルト	
ＳＰ56	ＡⅡ－ｆ7	不安定	逆台形	56～92	16	暗灰褐色シルト	
ＳＰ57	ＡⅡ－ｇ7	―――	逆台形	102	52	暗灰褐色シルト	
ＳＰ58	ＡⅡ－ｇ7	楕円形	逆台形	64～66	13	暗灰褐色シルト	
ＳＰ59	ＡⅡ－ｆ8	―――	逆台形	96	32	暗灰褐色シルト	
ＳＰ60	ＡⅡ－ｇ8	―――	逆台形	88	15	褐灰色粘土	
ＳＰ61	ＡⅡ－ｇ8	―――	逆台形	86	25	暗灰茶色粘質シルト	
ＳＰ62	ＡⅡ－ｆ8	楕円形	逆台形	76～78	18	暗茶灰色砂混シルト	
ＳＰ63	ＡⅡ－ｇ8	―――	逆台形	64以上	26	淡灰茶色砂質土	
ＳＰ64	ＡⅡ－ｆ8	―――	逆台形	48	29	暗茶灰色砂混シルト	
ＳＰ65	ＡⅡ－ｆ9	―――	逆台形	88	9	暗茶褐色砂混シルト	
ＳＰ66	ＡⅡ－ｇ7	楕円形	逆台形	48～60	14	暗灰色シルト	北部は攪乱する。
ＳＰ67	ＡⅡ－ｇ7	―――	逆台形	38	16	暗茶灰色シルト	西部は攪乱する。
ＳＰ68	ＡⅡ－ｇ7	楕円形	逆台形	46～54	17	暗茶灰色シルト	
ＳＰ69	ＡⅡ－ｇ8	楕円形	逆台形	34～38	13	暗灰褐色シルト	
ＳＰ70	ＡⅡ－ｆ8	円　形	逆台形	28	38	暗灰褐色シルト	
ＳＰ71	ＡⅡ－ｇ9	楕円形	逆台形	17～20	14	暗灰褐色シルト	
ＳＰ72	ＡⅡ－ｆ9	楕円形	逆台形	22～24	18	暗灰褐色シルト	
ＳＰ73	ＡⅡ－ｆ9	楕円形	逆台形	28～42	24	暗灰褐色シルト	
ＳＰ74	ＡⅡ－ｆ9	円　形	逆台形	20	41	暗灰褐色シルト	
ＳＰ75	ＡⅡ－ｆ9	円　形	逆台形	48	44	暗灰褐色シルト	
ＳＰ76	ＡⅡ－ｆ9	円　形	逆台形	20	33	暗灰褐色シルト	
ＳＰ77	ＡⅡ－ｇ9	―――	逆台形	50	46	暗茶灰色砂混シルト	ＳＥ4に切られる
ＳＰ78	ＡⅡ－ｇ9	―――	逆台形	58以上	16	黄褐色砂混砂質土	根石1個(26×30)
ＳＰ79	ＡⅡ－ｆ9	隅丸方形	逆台形	86～88	40	暗灰褐色砂混シルト	
ＳＰ80	ＡⅡ－ｇ9	隅丸方形	逆台形	72～86	32	暗茶灰色粘質シルト	柱痕1個(径25)

＊　単位：cm

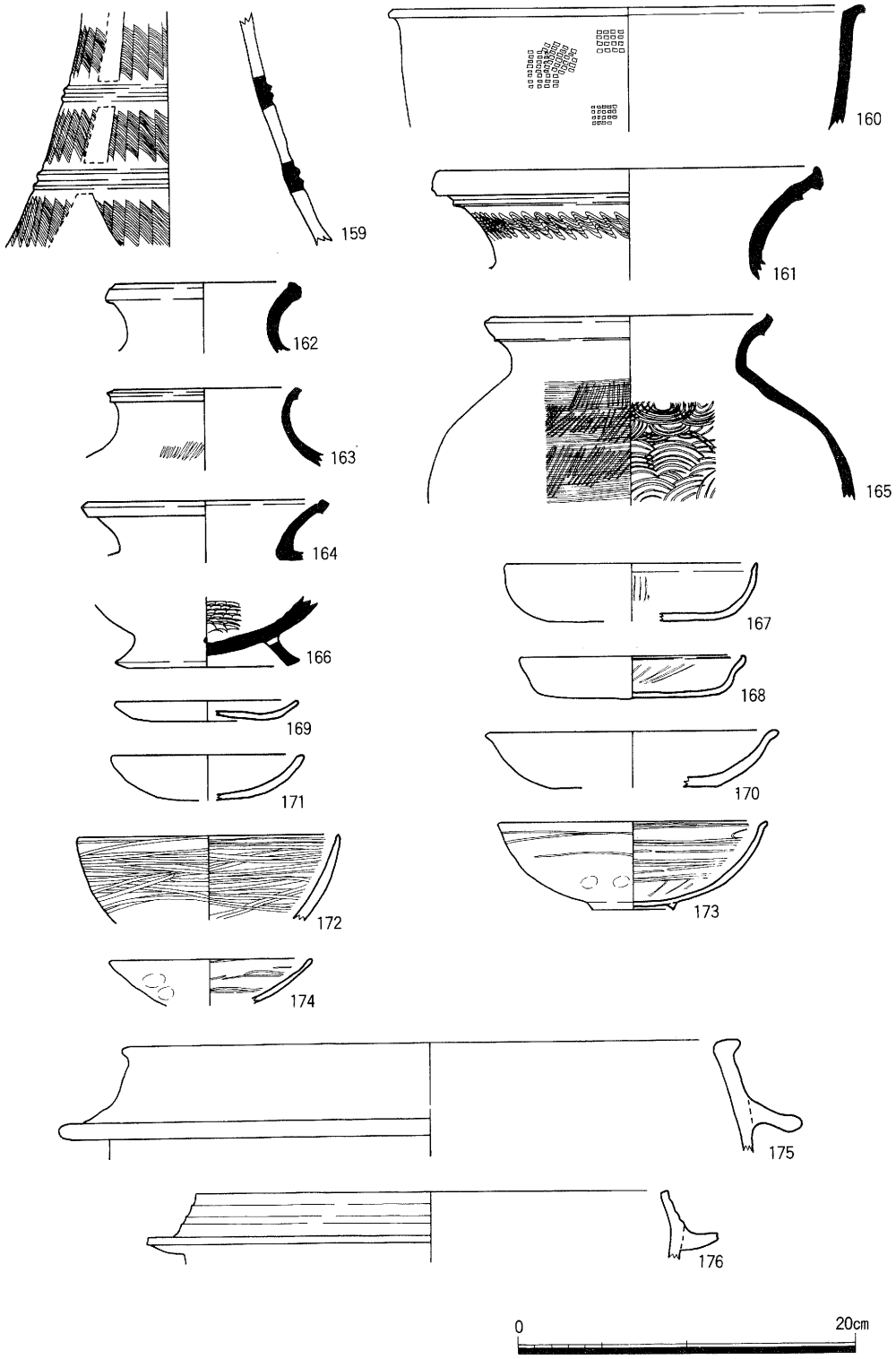
遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ81	ＡⅡ－ｇ９	円形	逆台形	52～54	25	淡茶灰色砂質土	
ＳＰ82	ＡⅡ－ｇ９	―――	逆台形	54以上	15	暗灰褐色砂混シルト	根石１個(25×15)
ＳＰ83	ＡⅡ－ｇ９	―――	逆台形	58	23	淡茶灰色砂質土	ＳＫ22に切られる。
ＳＰ84	ＡⅡ－ｇ９	円形	逆台形	56	31	暗灰褐色砂混シルト	根石２個(20×12)
ＳＰ85	ＡⅡ－ｆ９	楕円形	逆台形	32～48	50	暗灰褐色砂混シルト	ＳＰ86を切る。
ＳＰ86	ＡⅡ－ｆ９	―――	逆台形	96	40	淡黄褐色砂混シルト	ＳＰ85に切られ、北部はは調査区外。
ＳＰ87	ＡⅡ－ｆ９	隅丸方形	逆台形	24～40	43	暗灰褐色砂混シルト	
ＳＰ88	ＡⅡ－ｆ９	隅丸方形	逆台形	32～76	48	暗灰褐色砂混シルト	
ＳＰ89	ＡⅡ－ｇ９	―――	逆台形	40以上	8	暗灰褐色砂混シルト	ＳＫ22に切られる。
ＳＰ90	ＡⅡ－ｇ９	楕円形	逆台形	32～76	15	淡黄褐色砂混シルト	
ＳＰ91	ＡⅡ－ｇ10	隅丸方形	逆台形	38～44	20	暗灰褐色砂混シルト	柱痕１個(径16)
ＳＰ92	ＡⅡ－ｇ10	不定形	逆台形	58	23	暗灰褐色砂混シルト	
ＳＰ93	ＡⅡ－ｇ10	円形	逆台形	32	7	暗灰褐色砂混シルト	
ＳＰ94	ＡⅡ－ｇ10	不定形	逆台形	50～90	30	暗灰褐色砂混シルト	
ＳＰ95	ＡⅡ－ｇ10	円形	逆台形	40	3	暗灰褐色砂混シルト	

５）遺構に伴わない出土遺物

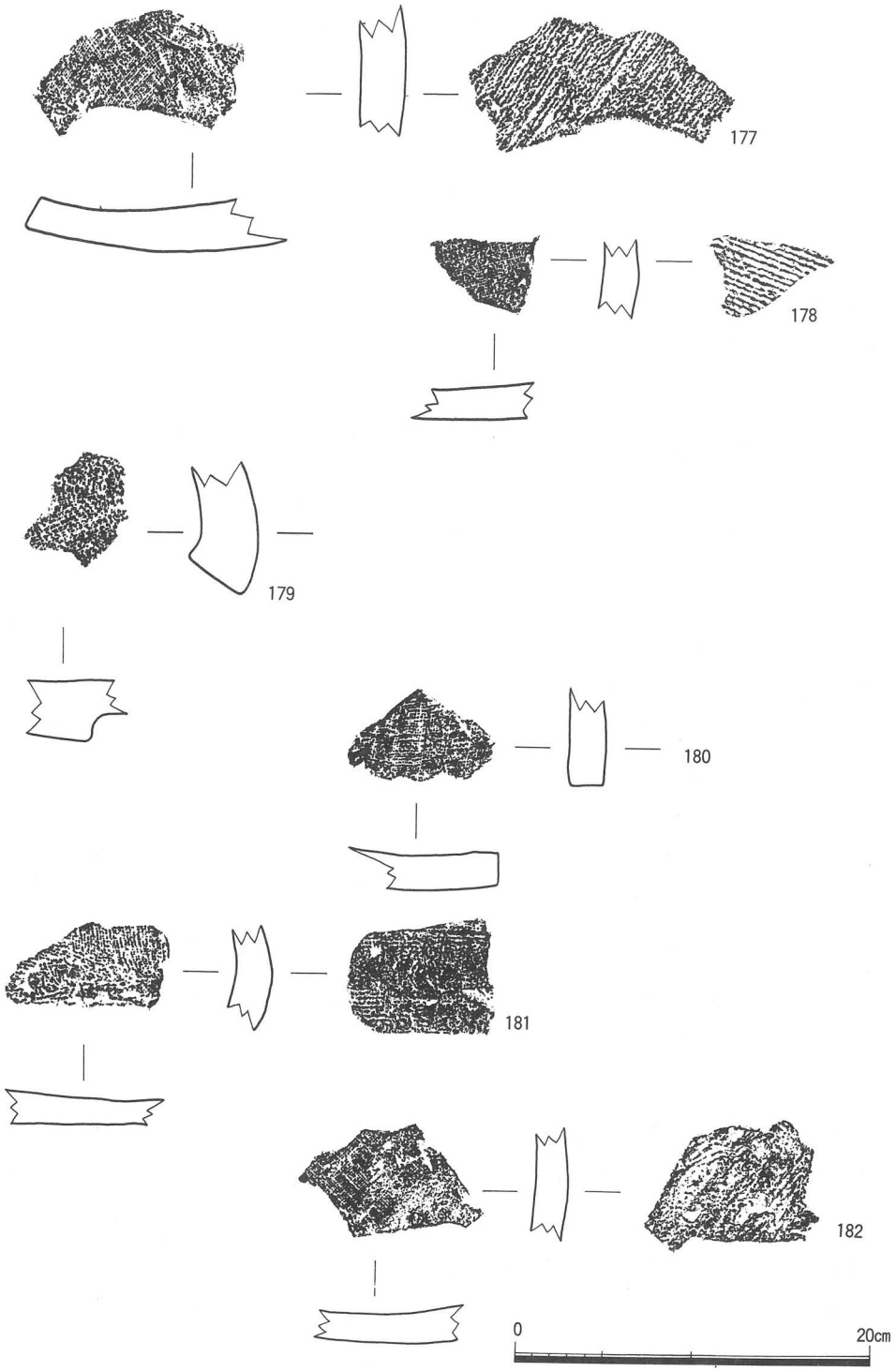
第３・４層から出土している。第３層は平安時代末期の整地層で、古墳時代～平安時代末期に至る遺物が含まれている。出土量は、コンテナ箱にして約３箱分で、ほとんどが土器片である。時期別では、古墳時代前期に比定される庄内式土器・布留式土器、古墳時代中期に比定される土師器・須恵器（Ⅰ段階２～４段階）、古墳時代後期に比定される土師器・須恵器（Ⅱ型式４段階～Ⅲ型式３段階）、奈良時代に比定される土師器・須恵器（Ⅳ型式２～４段階）、平安時代末期～鎌倉時代に比定される土師器皿・瓦器椀・瓦などである。以下、図示できたものについて記す。古墳時代前期のものは、布留式古相に比定される吉備系甕（134）、古墳時代中期に比定される土師器の甕（135～138）・杯（139～141）・高杯（142～144）・甑（145）、須恵器の杯蓋（146～150）・杯身（152）・高杯（157）・甑（160）・甕（161）である。古墳時代後期に比定される須恵器の杯蓋（151）・杯身（153～156）・鉢（158）・大型器台（159）・甕（162～165）である。奈良時代に比定される須恵器の壷（166）、土師器の皿（167・168）である。平安時代後期に比定される土師器の小皿（169）・中皿（170）、瓦器の小皿（171）・椀（172）・軒平瓦（177・178）・軒丸瓦（179）、鎌倉時代前期～室町時代に比定される瓦器の椀（173・174）・土師器の羽釜（175）・瓦質の羽釜（176）・軒平瓦（180～182）である（第102～104図）。



第102図　遺構に伴なわない出土遺物実測図1



第103図　遺構に伴なわない出土遺物実測図２



第104図　遺構に伴なわない出土遺物実測図3

第６節　第５調査区

第４調査区から南東約200ｍに設定した東西に長い調査区（長さ94ｍ）である。調査面積は約188㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した土層内から普遍的にみられる９層を摘出して基本層序とした。現地表面は標高8.4ｍを測る（第105図）。以下、各土層について記す。

第１層　耕土：層厚15～20㎝。調査前までの耕作土である。

第２層　淡黄褐色シルト：層厚10～15㎝。耕土の床土である。

第３層　茶灰色細砂：層厚０～10㎝。中央部にだけ堆積する土層である。

第４層　暗青灰色粘土：層厚10～35㎝。鎌倉時代の水田土で、東部と西部は江戸時代の土層によって削平されている。調査区の中央では足跡がみられる水田面を検出している。この上面を調査面（第２調査面）とした。標高は8.0ｍを測る。

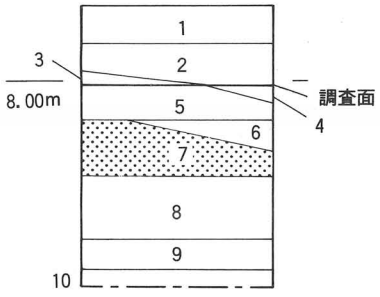
第５層　暗灰色粘土混細砂：層厚５～15㎝。東部に堆積する土層で、東部に行くに従い厚く堆積している。

第６層　淡灰褐色シルト混粘土：層厚20～40㎝。

第７層　暗灰褐色細砂混粘土：層厚30～40㎝。この上面を調査面（第１調査面）とした。弥生時代後期～古墳時代前期に至る遺構を検出している。

第８層　淡黄褐色粘土：層厚15～25㎝。

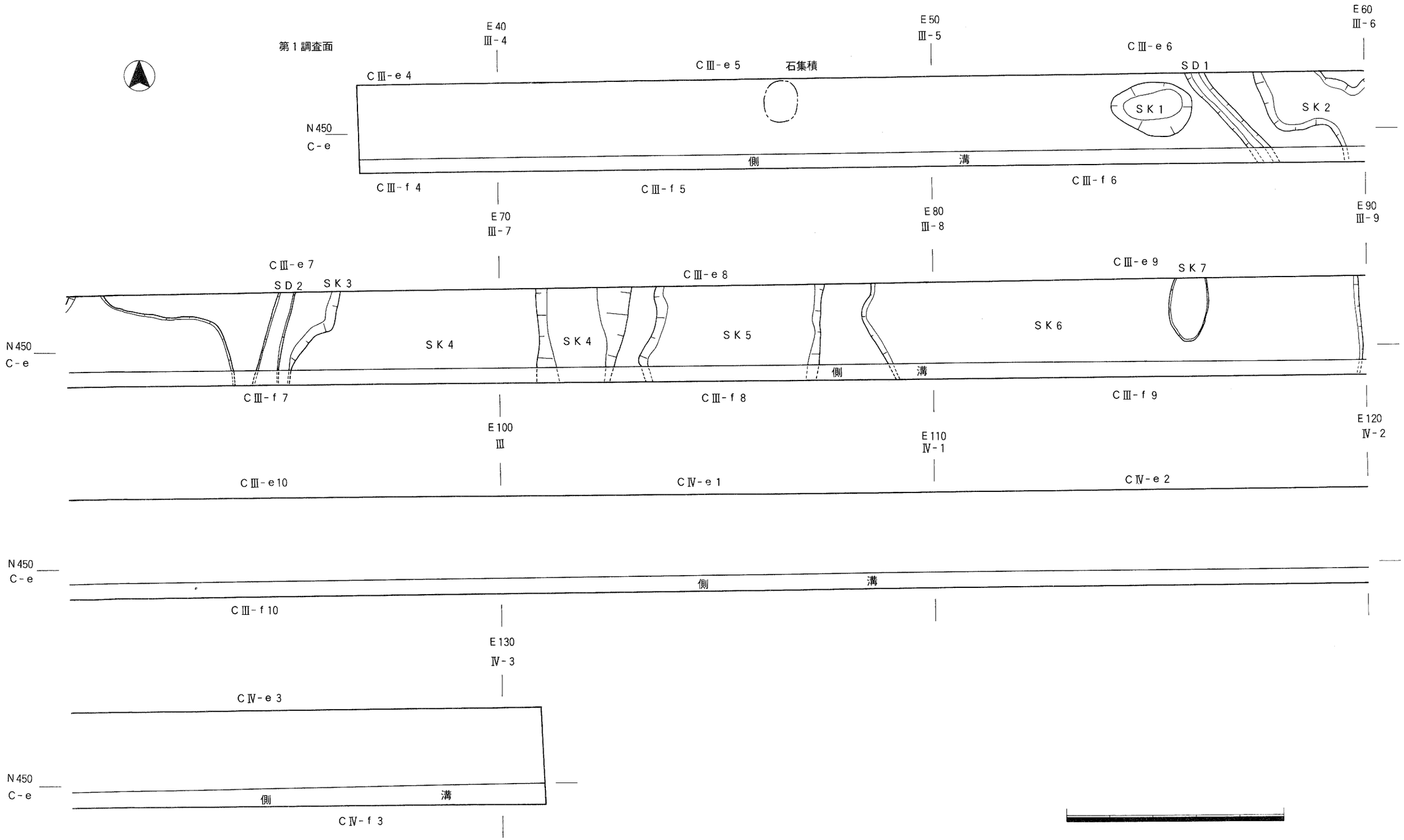
第９層　青灰色粘土：層厚10㎝。層厚10㎝以上。



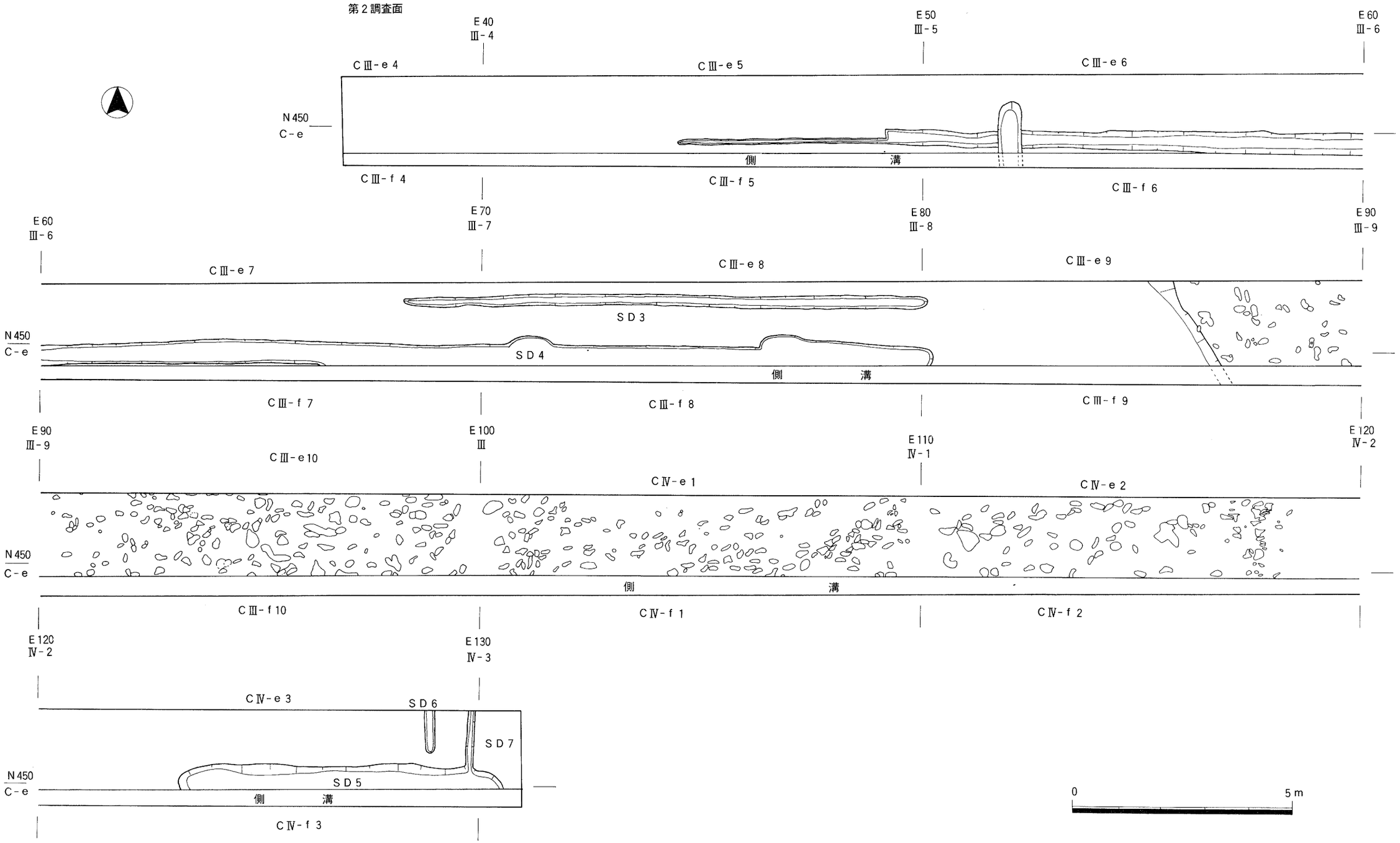
第105図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

第４層上面（第２調査面）と第７層上面（第１調査面）の２面の調査面を実施した。その結果、第１調査面では、弥生時代後期～古墳時代前期に比定される土坑７基（ＳＫ１～ＳＫ７）・溝２条（ＳＤ１・ＳＤ２）・石集積１箇所を検出した。第２調査面では、鎌倉時代に比定される水田１筆・溝４条（ＳＤ３～ＳＤ７）を検出した（第106・107図）。以下、各調査面の遺構について記す。



第106図　第5調査区遺構平面図



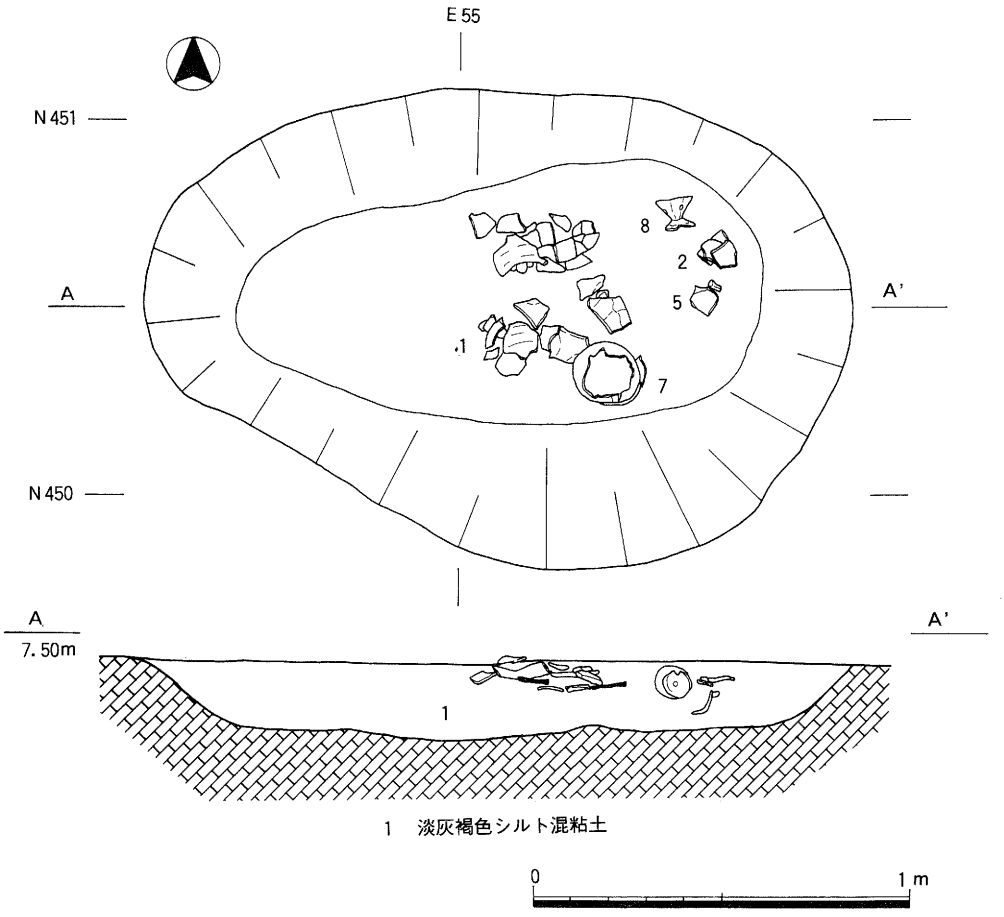
第107図　第5調査区遺構平面図

１）第１調査面（弥生時代後期～古墳時代前期）

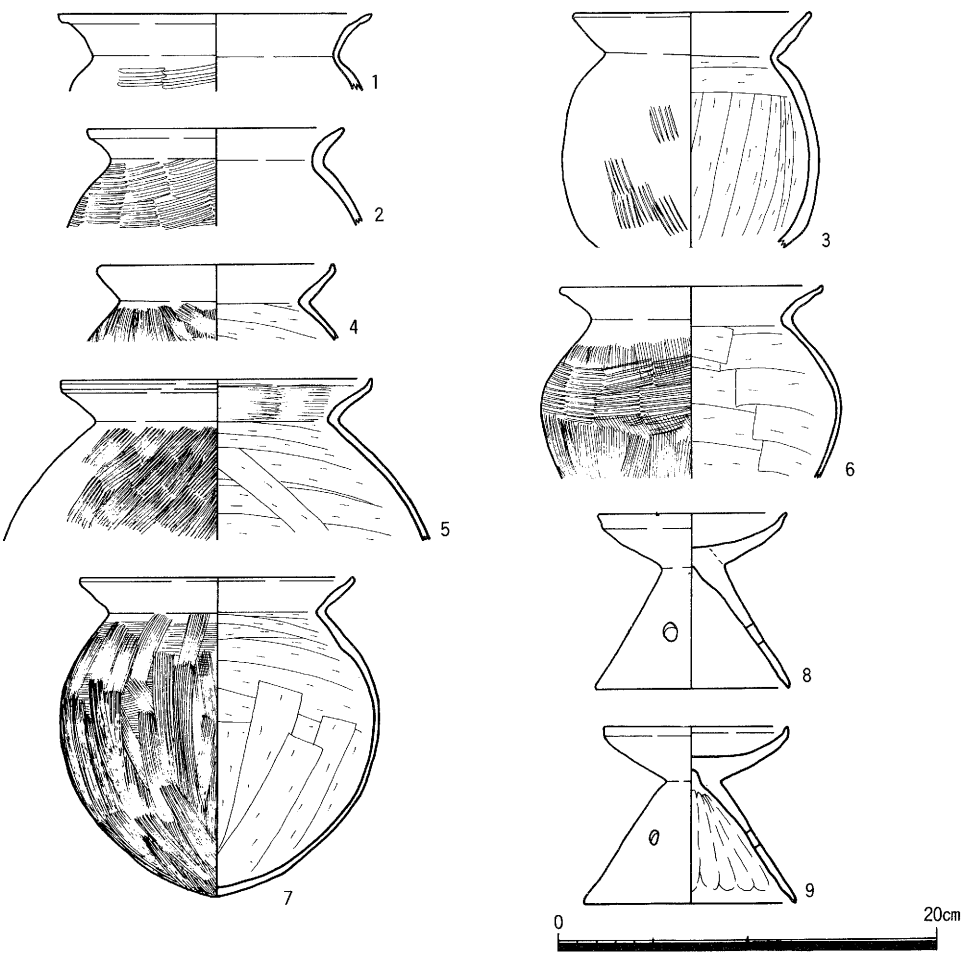
土坑（ＳＫ）

ＳＫ１

ＣⅢ－ｅ６区で検出した。平面は、楕円形を呈する。規模は検出部で、東西径1.88ｍ、南北径　1.24ｍ、深さ16㎝を測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土の１層である（第108図）。遺物は、内部から古墳時代前期（庄内式古相）に比定されるＶ様式系甕（１～３）・庄内式甕（４～７）・器台（８・９）・高杯などの破片が少量出土している（第109図）。



第108図　ＳＫ１平断面図



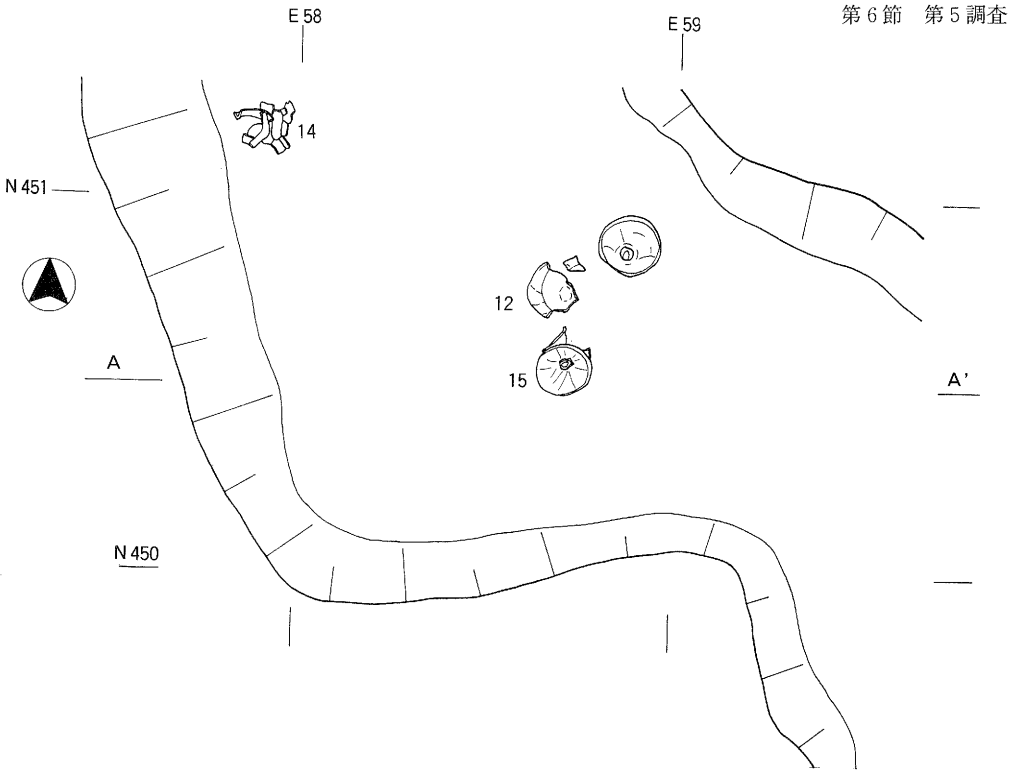
第109図　ＳＫ１出土遺物実測図

ＳＫ２

ＣⅢ－ｅ６～ｆ６区で検出した。南北はともに調査区外に至る。平面は、不定形を呈する。規模は検出部で、東西5.9ｍ、南北2.1ｍ、深さ15㎝を測る。断面は、浅い逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土である（第110図）。遺物は、内部から古墳時代前期（庄内式古相）に比定されるＶ様式系甕（10）・庄内式甕（11）・鉢（12～14）・高杯（15・16）の破片が少量出土している（第111図）。

ＳＫ３

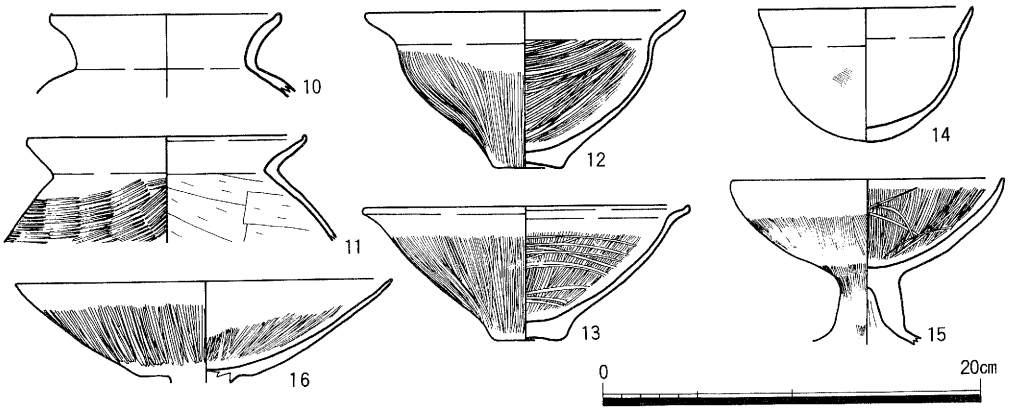
ＣⅢ－ｅ７～ｆ７区で検出した。ＳＤ２が縦断するかたちで切っており、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、東西96㎝、南北２ｍ以上、深さ16㎝を測る。平断面の形状は、



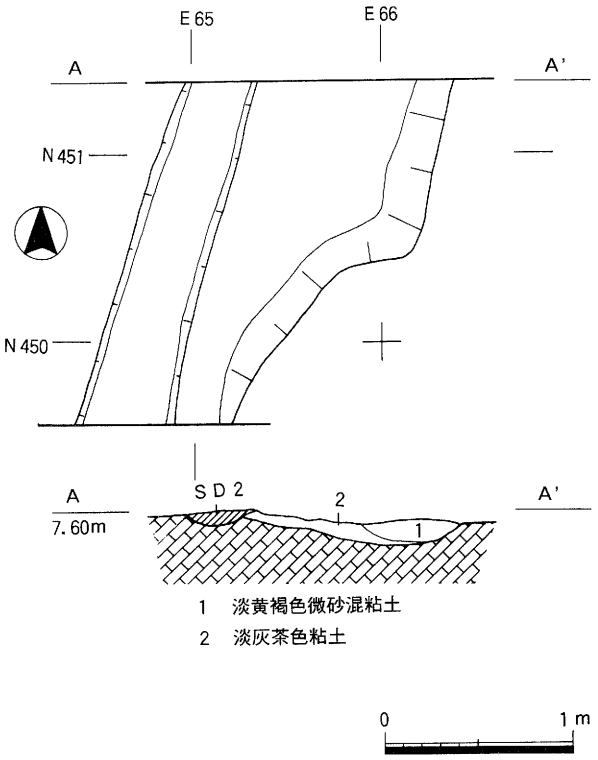
1　淡灰褐色シルト混粘土

0　1 m

第110図　ＳＫ２平断面図



第111図　ＳＫ２出土遺物実測図

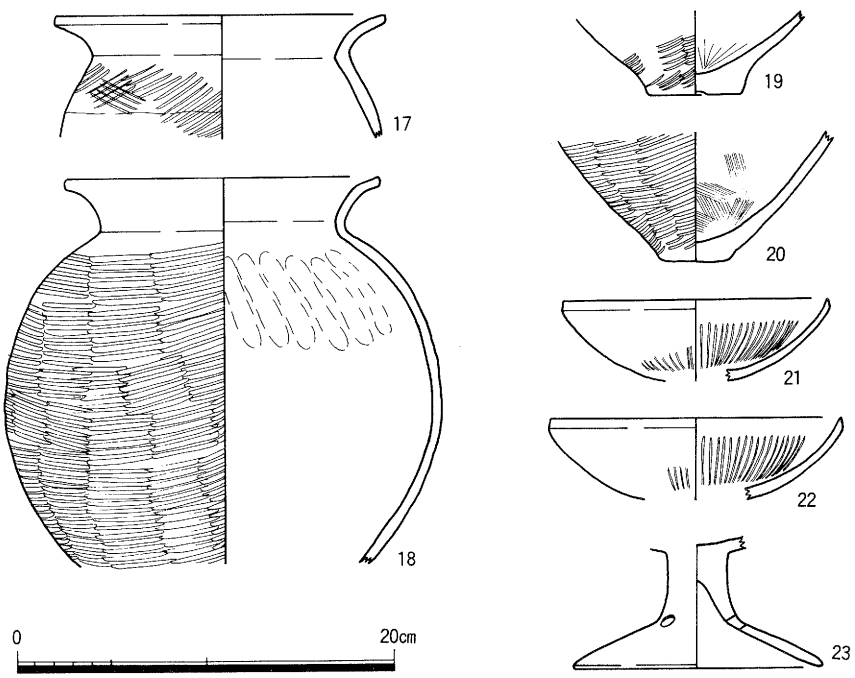


第112図　ＳＫ３平断面図

不明である。堆積土は、淡黄褐色微砂混粘土・淡灰茶色粘土の２層である（第112図）。遺物は、内部から古墳時代前期に比定されるＶ様式系甕（17～20）・鉢（21・22）・高杯（23）などの破片が少量出土している（第113図）。

ＳＫ４

ＣⅢ－ｅ８～ｆ８区で検出した。南北はともに調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西1.8～2.2ｍ、南北2.2ｍ以上、深さ20㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土である（第



第113図　ＳＫ３出土遺物実測図

114図)。遺物は、内部から古墳時代前期に比定されるＶ様式系甕（24）などの小片がごく少量出土している（第115図)。

ＳＫ５

ＣⅢ－ｅ８～ｆ８区で検出した。南北はともに調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西3.76～4.16ｍ、東西2.2ｍ以上、深さ25㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土の１層である（第116図)。遺物は、中央の北壁から古墳時代前期に比定される壷（25・26）２点と木片１点が出土している（第117・118図)。

ＳＫ６

ＣⅢ－ｅ９～ｆ９区で検出した。北部はともに調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.4～1.8ｍ、南北2.2ｍ、深さ12㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土である。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ７

ＣⅢ－ｅ９区で検出した。北部は調査区外に至る。平面は検出部で、半楕円形を呈する。規模は検出部で、東西0.92ｍ、南北３ｍ、深さ14㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土である。遺物は出土していない。

溝（ＳＤ）

ＳＤ１

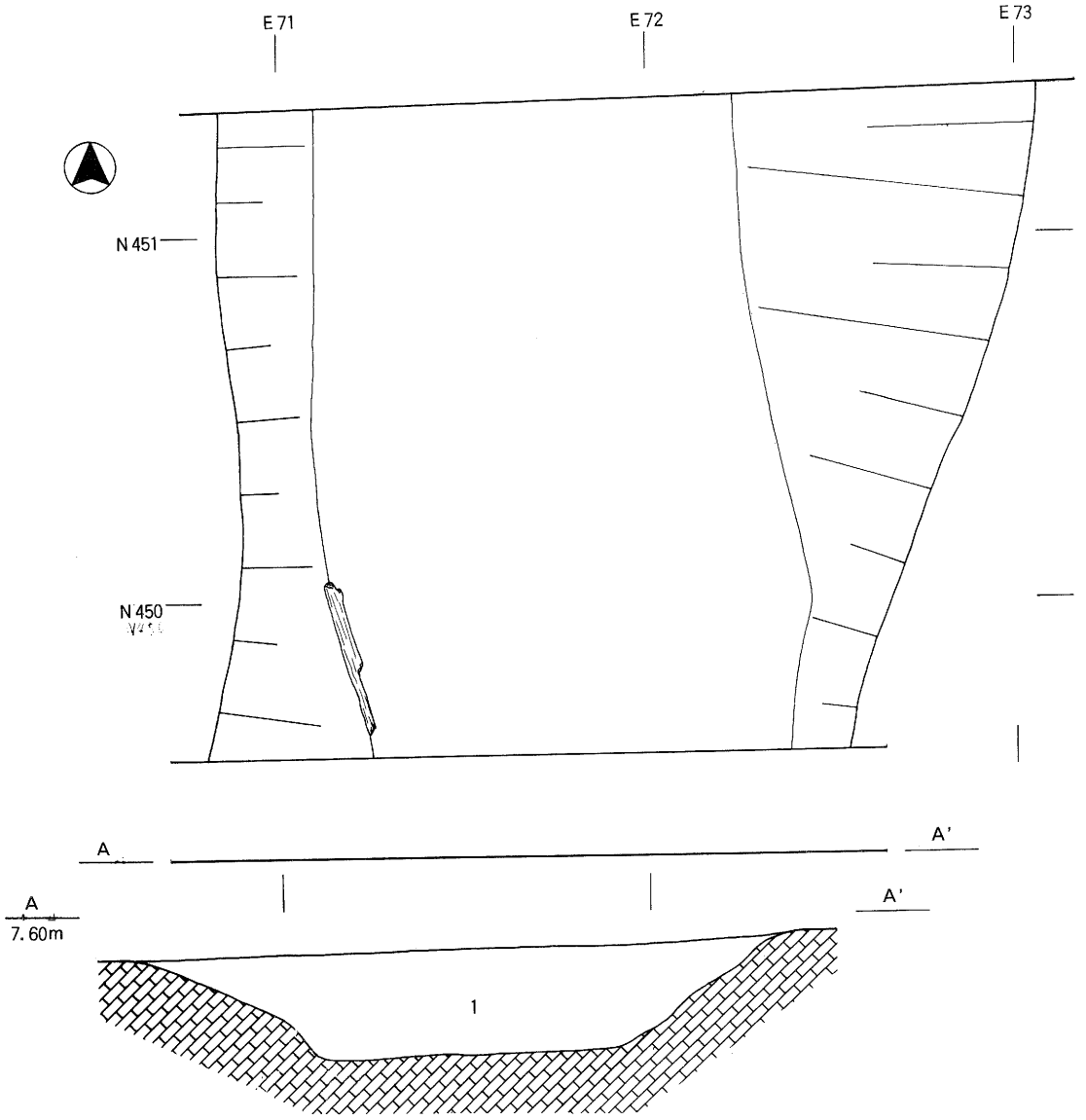
ＣⅢ－ｅ６～ｆ６区で検出した。方向は南東－北西方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅34～40㎝、深さ９㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色シルト混粘土の１層である。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片がごく少量出土している。

ＳＤ２

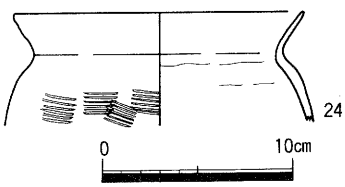
ＣⅢ－ｅ７～ｆ７区で検出した。方向は、ほぼ南北方向を示す。ＳＫ３を切り、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅40㎝、深さ７㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰色シルトである。遺物は出土していない。

石集積

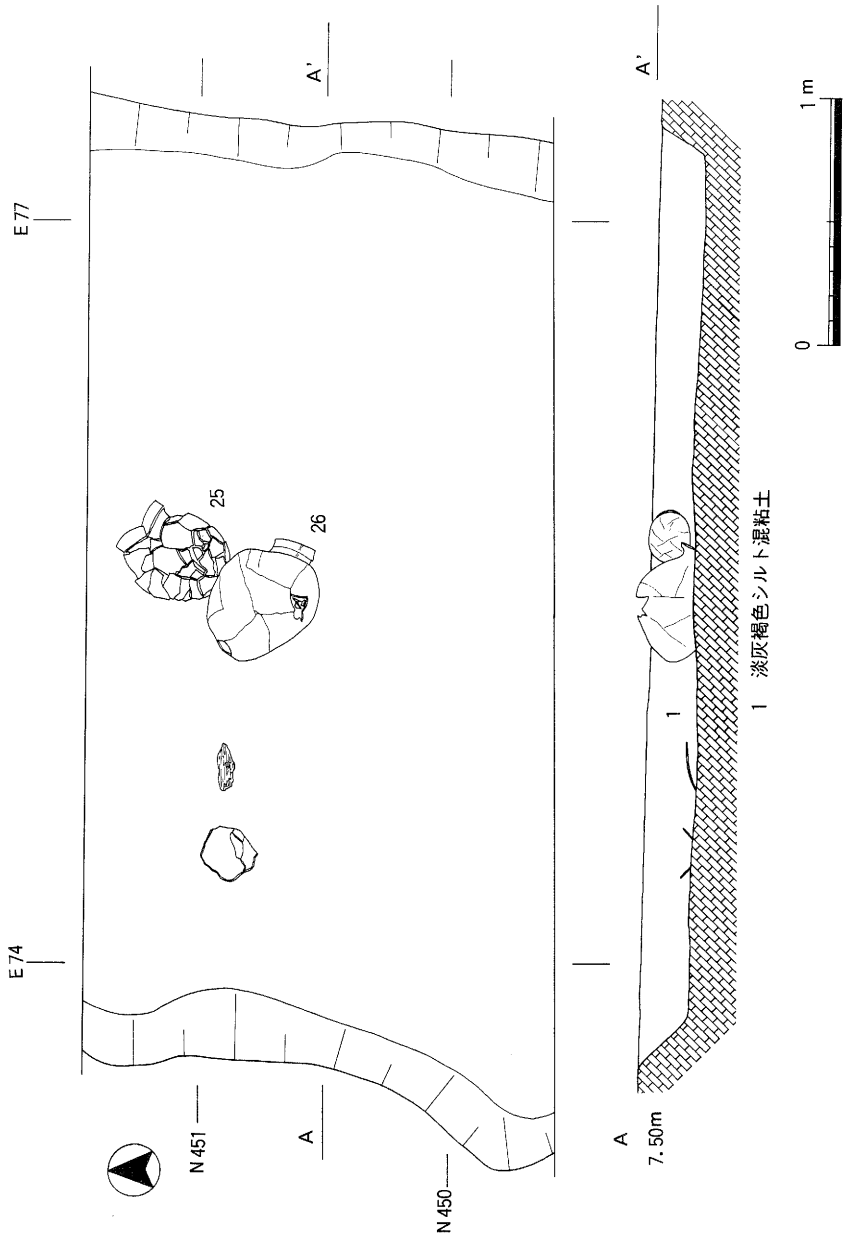
ＣⅢ－ｅ５区で検出した。平面の形状は楕円形で、平らな石（径20～25㎝、厚み５㎝）１個と、その周囲に数十個の小石（径２～８㎝）が集積しているのを検出した。東西約70㎝、南北約85㎝を測る。検出面は、古墳時代前期の遺構面と同じ第６層上面である。小石内に混ざっている土層は、灰褐色細砂混粘質土である（第119図)。遺物は、小石に混ざっている土師器の小片がごく少量出土している。



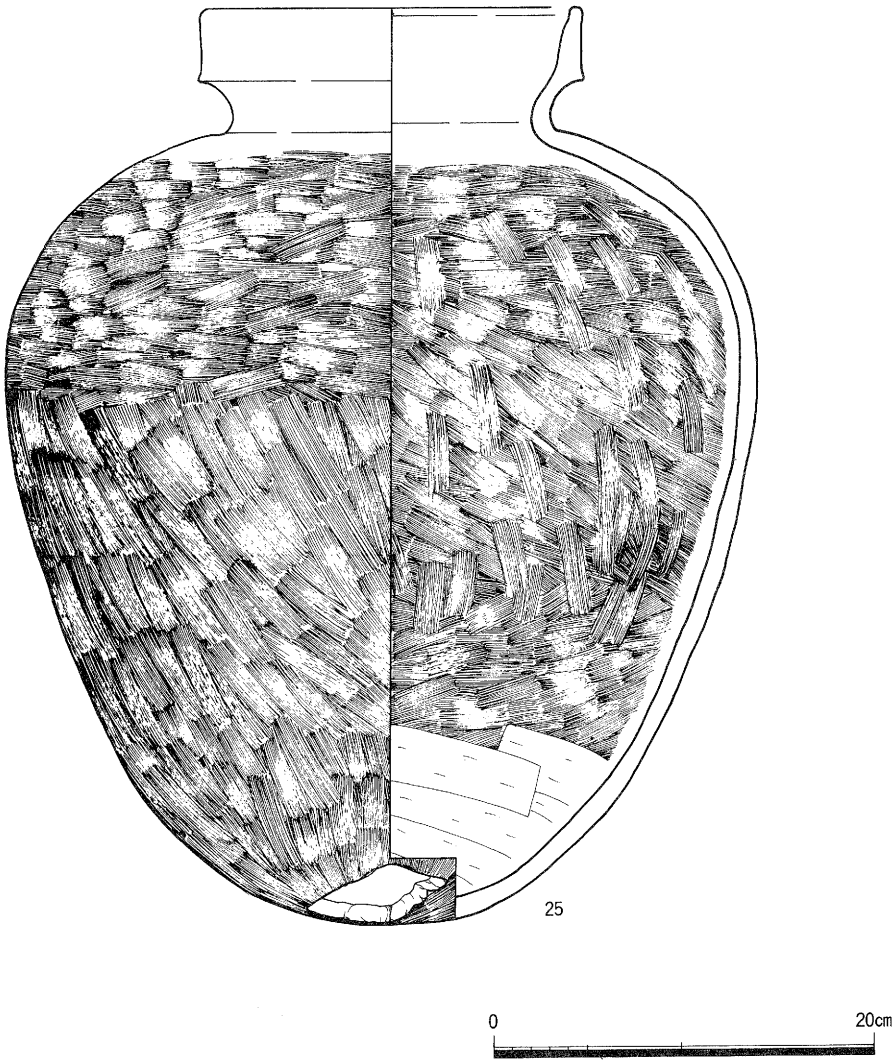
第114図　ＳＫ４平断面図



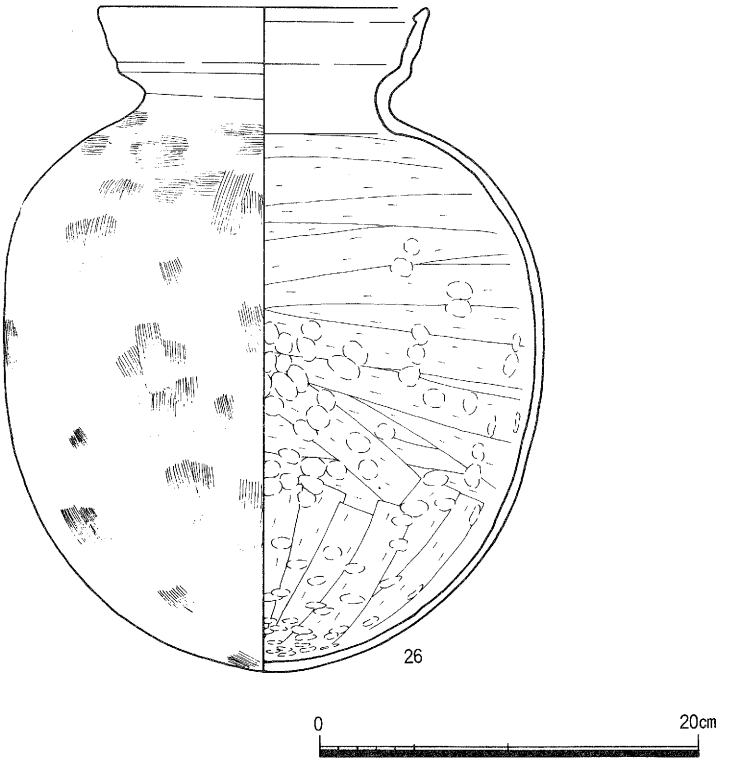
第115図　ＳＫ４出土遺物実測図



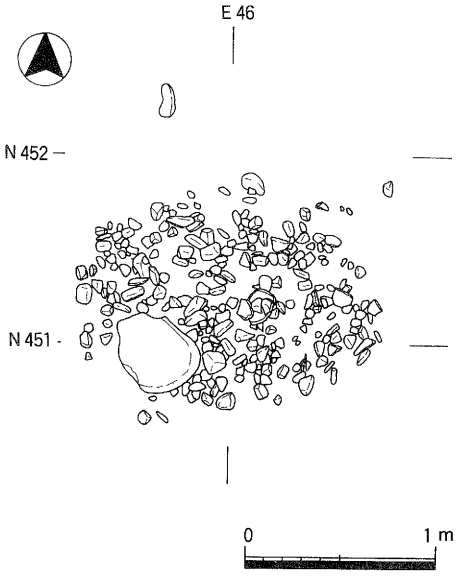
第116図　ＳＫ５検出遺物平断面図



第117図　ＳＫ５出土遺物実測図１



第118図　ＳＫ５出土遺物実測図２



第119図　石集積平面図

２）第２調査面（鎌倉時代）

水田

調査区の中央部で検出した。東西はともに江戸時代以降の土層できられており、水田面は東西約23ｍの部分だけが遺存していた。水田面には無数の足跡が見られたが、水田を区画する畦畔は調査区内では検出しなかった。足跡の形状には円形・楕円形・不定形などさまざまな形があり、大きさは５～30㎝を測る。深さは３～15㎝を測り、深いものが多い。これらの足跡には人のものと考えられる足跡がいくつか見られた。

ＳＤ３

ＣⅢ－ｅ７～ｅ８区で検出した。方向は東西

方向を示し、西部の一部が撹乱されている。規模は検出部で、検出長36ｍ、幅10～80㎝、深さ８～16㎝を測り、西側に行くに従い細くなっている。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色細砂混粘質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。

ＳＤ４

ＣⅢ－ｆ５～ｆ８区で面出した。方向は、東西方向を示する。規模は検出部で、検出長12ｍ、幅18～30㎝、深さ10～15㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色細砂混粘質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。

ＳＤ５

調査区の東部ＣⅣ－ｅ３で検出した。方向は東西方向を示し、北東部でＳＤ７が合流している。規模は検出部で、検出長約7.4ｍ、幅70～80㎝、深さ８～10㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色細砂混粘質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。

ＳＤ６

調査区の東部ＣⅣ－ｅ３区で検出した。方向は南北方向を示し、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、検出長95㎝、幅20～24㎝、深さ５㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色細砂混粘質土の１層である。遺物は出土していない。

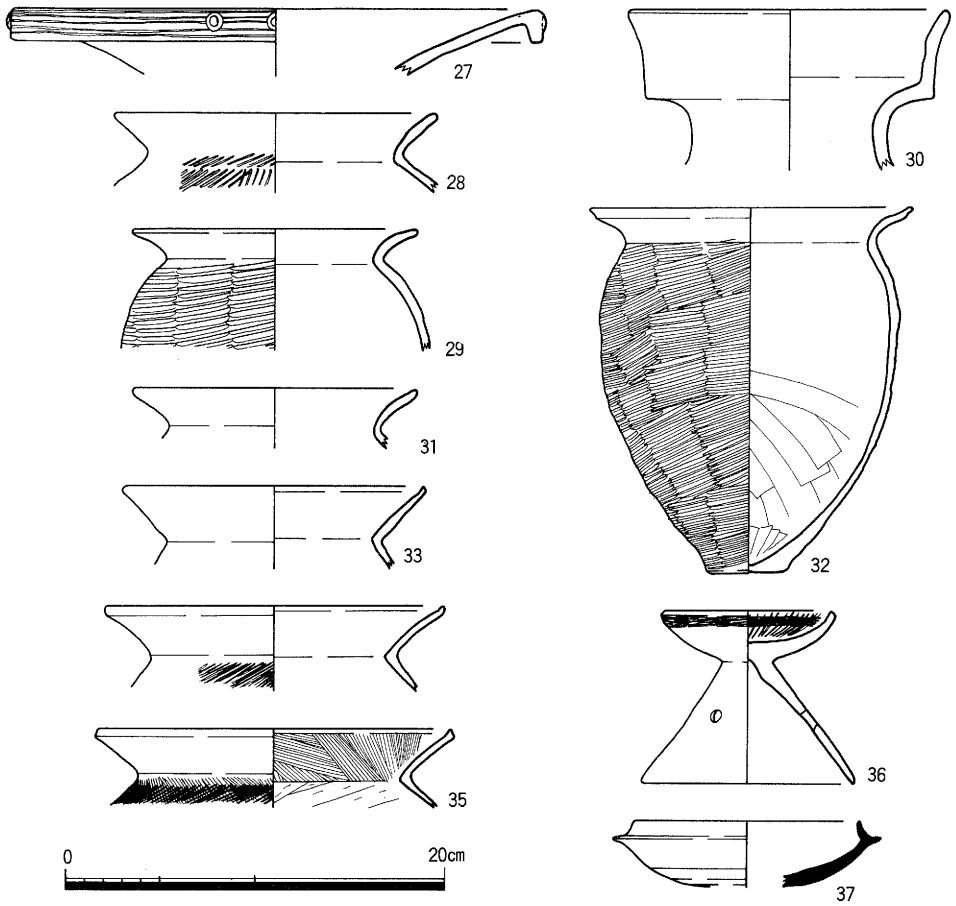
ＳＤ７

ＣⅣ－ｅ３区で検出した。方向は南北方向を示し、南部はＳＤ５に合流し、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅16～18㎝、深さ８㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、灰褐色細砂混粘質土の１層である。遺物は出土していない。

3）遺構に伴わない出土遺物

第３・５層から出土している。時期は、弥生時代後期～鎌倉時代に至るものである。出土量は、コンテナ箱にして約１箱分で、ほとんどが第５層からの出土である。以下、図示できた遺物について記す。

第５層内から出土したものは、弥生時代後期に比定される壷（27）・甕（28・29・31・32）、古墳時代前期に比定される複合口縁壷（30）・庄内式甕（33～35）・器台（36）である。第３層内から出土したものは、古墳時代後期に比定される須恵器（Ⅱ型式１段階）の杯身（37）である（第120図）。



第120図　遺構に伴なわない出土遺物実測図

第１調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	甕 (土師器)	口径 13.0	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡灰褐色	1.5 ㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
2 三一	同上 SK３	口径 12.6 器高 15.2 最大径 15.3	球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（６本）、内面ヘラナデ。	茶褐色～暗茶灰色	4.5 ㎜以下の長石・石英・チャート・角閃石雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
3 三一	同上 SK３	口径 11.3 器高 6.9	偏平な地形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。体部内面中位に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ後ハケナデ、内面ナデ・指頭痕。	外　淡茶灰色 内　淡灰茶色	１㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
4 三一	高杯 (土師器) SK３	口径 12.2	浅い半球形の杯部から上方へ内湾する口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。脚部は欠損。 杯部外面ハケナデ（12本）、内面放射状暗文。	赤褐色	３㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を含む。	良好	
5 三一	同上 SK３	口径 12.6	浅い半球形の杯部で、口縁端部は丸く終わる。脚部は下外方へ伸びる。裾部は欠損。 杯部外面ナデ後ハケナデ（10本）、内面ナデ後放射状暗文、脚部外面ハケナデ（10本）、内面しぼり目。	外　淡茶灰色 内　茶灰色	２㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
6 三一	同上 SK３	口径 13.4	浅い半球形の杯部から上方へ内湾する口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。脚部は下外方へ伸びる。裾部は欠損。 杯部外面ナデ、内面剝離の為調整不明、脚部外面上位ハケナデ（８本）、中位以下ヘラによる面とり、内面くりぬき。	赤褐色	２㎜以下の長石・チャート・赤褐色酸化粒・雲母等の砂粒を含む。	良好	
7	高杯 (須恵器) SK３	口径 15.8	杯部は上外方へ内湾して伸びた後上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。杯底部・脚部は欠損。杯部外面下位に10条１帯の波状文を施す。 杯部内外面回転ナデ。	淡灰色	１㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	杯部内面上位に灰かぶり。 ロクロ左方向。
8	小型壺 (土師器) SK３	口径 7.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。口縁部外面に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ナデ。	淡灰茶色～淡茶色	２㎜以下の砂粒を多量に含む。	良	
9	杯身 (須恵器) SK５	口径 12.2 受部径 14.0 立ち上がり高 1.2	底体部は上外方へ内湾気味に伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は平らで内傾する面をもつ。 内外面回転ナデ。	乳灰色	３㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	底体部外面に自然釉付着。
10 三一	壺 (須恵器) SK５	口径 17.7	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。体部中位以下は欠損。口縁部外面には２条対の稜が２箇所と、端部外面に１条の稜が巡る。その稜の間にはそれぞれ上から８条・９条・11条３帯の波状文が施されている。体部外面では２条の稜があり、その間に４条１帯の波状文を施す。 体部内面上位ハケナデ（11本）、他は回転ナデ。	淡灰色～灰黒色	２㎜以下の砂粒を含む。	良好	ロクロ右方向。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
11 三一	甕 (土師器) ＳＫ６	口径 11.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(11本)、内面ナデ。	茶褐色	５㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
12 三一	鉢 (土師器) ＳＫ６	口径 8.2 器高 3.5	半球形の杯部で、口縁端部は丸い。 外面ナデ、内面ヨコナデ。	淡茶灰色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。
13 三一	羽釜 (土師器) ＳＫ６	口径 22.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。頸部外面には鍔が付く。鍔部は水平に伸び、端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(９本)、体部外面ハケナデ(10本)、内面ヘラナデ。	乳茶灰色	１㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
14 三一	杯身 (須恵器) ＳＫ６	口径 11.8 器高 5.7 受部径 13.8 立ち上がり高 1.9	やや深く丸味をもつ底体部から下外方へ伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ外反し伸び、端部は丸い。 底体部外面1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
15	同上 ＳＫ６	口径 10.7 受部径 14.9 立ち上がり高 7.4	上外方へ内湾して伸びる杯体部から受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。底部は欠損。 体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	２㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	底体部外面灰かぶり。ロクロ左方向。
16	同上 ＳＫ６	口径 10.4 受部径 12.6 立ち上がり高 1.7	上外方へ内湾して伸びる杯体部から受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	淡灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
17	同上 ＳＫ６	口径 12.7 受部径 14.9 立ち上がり高 1.4	上外方へ伸びる杯体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
18 三二	同上 ＳＫ６	口径 13.0 器高 3.8 受部径 15.6 立ち上がり高 1.2	やや浅い底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。底部は欠損。 底体部外面1/6 回転ヘラ削り、内面1/6 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰黒色	１㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
19	同上 ＳＫ６	口径 14.1 受部径 16.4 立ち上がり高 1.0	やや深く平らな底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。底部の一部は欠損。 底体部外面約1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	底体部外面約1/3 灰かぶり。ロクロ方向不明。
20 三二	鉢 (須恵器) ＳＫ６	口径 0.7	上内方へ内湾して伸びる体部から上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は尖る。底部は欠損。体部外面には１条の稜がある。 体部外面下位不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	微砂粒を微量に含む。	良好	ロクロ方向不明。
21 三二	甑 (須恵器) ＳＫ６	口径 12.2	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。体部中位には円孔１個が穿かれている。 体部外面中位以下回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	２㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	ロクロ方向不明。
22	甕 (土師器) ＳＤ２	口径 16.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	灰茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
23	甕 (土師器) SD2	口径 23.1	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は内方へ肥厚し、丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	3㎜以下の雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
24 三二	鉢 (土師器) SD2	口径 23.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、外傾する面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)、内面ヘラナデ。	暗茶褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
25 三二	同上 SD2	口径 26.7	体部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもち、1箇所に注ぎ口がみられる。体部下位は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳茶橙色	微砂粒を少量含む。	良好	
26	杯 (土師器) SD2	口径 14.3 器高 4.6	平らに近い底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部外面に2本の接合痕を有する。 端部内外面ヨコナデ、口縁部・体部内外面ヘラナデ。	乳茶橙色	細砂粒を少量含む。	良好	
27 三二	高杯 (土師器) SD2	底径 12.4	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びた後屈曲し、外下方へ外反して開く裾部に至る。端部は下方へつまみ出す。 柱状部外面ヘラ削りによる面とり、内面くりぬき、裾部内外面ヨコナデ。	乳茶赤色	微砂粒を微量に含む。	良好	
28 三二	羽釜 (土師器) SD2	口径 31.2	上方へ伸びる体部から屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部は水平に伸び、丸い。体部は欠損。 口縁部内外面・体部外面ヨコナデ、内面ヘラナデ。	茶灰色	3㎜以下の雲母等の砂粒を少量に含む。	良好	鍔部外面下位に煤付着
29 三二	同上 SD2	口径 25.4	体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ若干肥厚する。鍔部は水平に伸び、丸い。体部は欠損。内面に1本の接合痕を有する。 内外面ヨコナデ。	淡茶赤色	3㎜以下の雲母等の砂粒を微量に含む。	良好	
30 三二	同上 SD2	口径 28.2	体部は上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部は水平に伸び、丸い。体部は欠損。 外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)・指頭痕	茶橙色	細砂粒を多量に含む。	良好	
31	杯蓋 (須恵器) SD2	口径 14.8 器高 2.2 つまみ径 2.6	平坦で低い天井部から外下方へ直線的に伸びる口縁部に至る。端部は下方へつまむ。天井部には偏平な宝珠状のつまみがある。 天井部外面回転ヘラ削り、つまみ・端部内外面回転ナデ、内面不定方向のナデ。	外 淡灰色 内 乳灰色	微砂粒を微量に含む。	良好	ロクロ右方向。
32	同上 SD2	口径 15.2	天井部は斜下方へ伸びる口縁部に至る。端部は下方へつまむ。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、口縁部外面回転ナデ、内面不定方向のナデ。	灰青色	微砂粒を少量に含む。	良好	ロクロ左方向。
33 三二	壺 (須恵器) SD2	底径 10.8	体部上位以上は欠損。平底の底部から屈曲し、上外方へ伸びる。 内外面不定方向のナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	底部内面灰かぶり。 ロクロ方向不明。
34	小皿 (土師器) SE1	口径 9.0	平らと思われる底部から外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰褐色	0.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
35	同上	口径 9.4	やや丸味をもつと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	淡灰褐色	0.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
36 三三	小皿 (土師器) SE1	口径 8.6 器高 1.5	やや窪んだ底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰褐色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
37	同上 SE1	口径 9.2	丸味のある底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰褐色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
38 三三	同上 SE1	口径 9.0 器高 1.5	平坦な底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰褐色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。
39	同上 SE1	口径 8.5 器高 1.2	丸味のある底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰褐色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
40	椀 (瓦器) SE1	口径 14.2 器高 5.2 底径 5.6	半球形の杯体部で、口縁端部は丸く終わる底部外面には断面逆台形の高台が付く。 外面ナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、高台外面ヨコナデ。	灰褐色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
41	同上 SE1	口径 14.6	杯体部は上外方へ内湾して伸び、口縁部は僅かに外反する。端部は丸い。底部は欠損。 外面ナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、見込みは格子状暗文。	灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量に含む。	良好	
42	同上 SE1	口径 15.1 器高 4.8 底径 4.5	やや浅い半球形の杯体部で、口縁端部は丸く終わる。底部外面には断面逆台形の高台が付く。底部の一部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ、高台外面ヨコナデ、見込みは格子状暗文。	乳灰色	0.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
43 三三	同上 SE1	口径 14.3 器高 5.4 底径 5.2	半球形の杯体部で、口縁部が僅かに外反し端部は丸く終わる。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 端部内面ヨコナデ、内外面ナデ後ヘラミガキ、見込みは不定形の螺旋状暗文。	乳灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
44	同上 SE1	口径 14.6	半球形と思われる杯体部で、口縁端部は丸く終わる。底部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	乳灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
45	同上 SE1	口径 15.0	杯体部は上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。体部中位以下は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	灰黒色	1㎜以下の砂粒を少量に含む。	良好	
46	同上 SE1	口径 14.8	半球形と思われる杯体部で、口縁端部付近では器肉を減じて鈍く尖る。底部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	淡灰色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
47	同上 SE1	口径 14.8	半球形と思われる杯体部で、口縁部は僅かに外反し、端部は丸く終わる。底部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	灰褐色	0.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
48	同上 SE1	口径 15.0	半球形と思われる杯体部で、口縁端部は内方へ肥厚し、丸い。底部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	黒灰色	0.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
49	小皿 (土師器) SE3	口径 8.5 器高 1.5	若干窪みをもつ底部から外上方へ伸びた後外上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、丸く終わる。 口縁部外面・内面ヨコナデ、底部外面ナデ。	乳茶色	微砂粒を少量含む。	良好	
50 三三	同上 SE3	口径 9.4 器高 1.7	丸味をもつ底部から外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	微砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
51	小皿 (土師器) SE3	口径 9.2 器高 2.0	丸みのある浅い底部から外上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部の一部は欠損。 口縁部外面・内面ヨコナデ、底部外面ナデ。	乳茶色	微砂粒を微量に含む。	良好	口縁部外面上位に黒斑有。
52	同上 SE3	口径 10.0 器高 2.3	丸味をもつ底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶色	微砂粒を少量含む。	良好	底部内外面に煤付着。
53 三三	同上 SE3	口径 10.0 器高 2.0	丸味をもつ底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	微砂粒を少量含む。	良好	底部内外面に煤付着。
54	中皿 (土師器) SE3	口径 14.7	上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は外に面をもち、沈線が巡る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳茶色	微砂粒を少量含む。	良好	
55 三三	同上 SE3	口径 15.7 器高 2.8	広く平坦な体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶色	微砂粒を少量含む。	良好	
56 三三	小皿 (瓦器) SE3	口径 9.8 器高 2.3	丸味をもつ底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ出し、丸く終わる。 内面ヘラミガキ。	黒灰色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。
57 三三	椀 (瓦器) SE3	口径 15.8 器高 6.0 底径 7.2	底部が平坦な半球形の杯体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 内外面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状ヘラミガキ、高台ヨコナデ、底部外面ナデ。	黒灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
58 三三	同上 SE3	口径 15.9 器高 6.1 底径 6.9	深い半球形の杯体部から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面U字形の高台が付く。 内外面ナデ後密なヘラミガキ、高台ヨコナデ、底部外面ナデ。見込みは密な平行状暗文。	外 淡茶灰色 内 黒褐色	微砂粒を微量に含む。	良好	完形。
59 三三	椀 (黒色土器) SE6	口径 15.4 器高 4.8 底径 7.8	半球形の杯体部からそのまま口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 外面ナデ後ヘラミガキ、下位指頭痕、内面密なヘラミガキ、高台ヨコナデ。	外 灰褐色 内 黒灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	底部外面に墨書がみられる（解読不明）。
60 三四	ミニチュアの高杯 (土師器) SE8	口径 6.6	浅い半球形の杯体部から口縁端部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ナデ、内面ヘラナデ。	淡茶橙色	微砂粒を少量含む。	良好	
61 三四	小皿 (土師器) SE8	口径 9.2 器高 1.8	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、その他はナデ。	乳茶橙色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。
62 三四	同上 SE8	口径 9.4 器高 1.6	平らに近い底部から斜外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、その他はナデ。	乳茶褐色	0.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。
63 三四	同上 SE8	口径 9.4 器高 1.6	平らに近い底部から斜外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、その他はナデ。	乳茶色	微砂粒を微量含む。	良好	完形。
64 三四	台付小皿 (土師器) SE8	口径 9.2 器高 4.4 底径 4.5	杯部は平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。高台は下外方へ直線的に伸びる。端部は丸い。 内外面ヨコナデ。	乳茶色	微砂粒を含む。	良好	完形。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
65 三四	台付小皿 (土師器) SE8	口径 10.3 器高 5.3 底径 5.4	杯部は平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。高台は下外方へ外反気味に伸びる。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ、高台内外面ヨコナデ。	乳茶色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。
66	中皿 (土師器) SE8	口径 14.8 器高 3.1	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	淡茶灰色	微砂粒を含む。	良好	完形。
67	同上 SE8	口径 17.7 器高 2.7	平坦な底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	乳茶黄色	微砂粒を少量含む。	良好	
68 三四	小皿 (瓦器) SE8	口径 8.8 器高 2.4	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部内外面ナデ後ヘラミガキ、見込み斜格子状暗文。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。
69 三四	同上 SE8	口径 8.9 器高 2.5	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	黒灰色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。
70 三四	同上 SE8	口径 9.4 器高 2.7	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ヘラミガキ。	黒灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
71 三四	椀 (瓦器) SE8	口径 15.6 器高 5.4 底径 6.2	半球形の杯体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 内外面ヘラミガキ、高台ヨコナデ、底部外面ナデ、見込みは格子状暗文。	黒灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
72	同上 SE8	口径 15.7	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	外　乳灰色 内　黒灰色	微砂粒を微量に含む。	良好	
73	同上 SE8	口径 14.4	半球形の体部から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 外面ナデ・指頭痕後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	黒灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
74 三四	羽釜 (土師器) SE8	口径 34.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方へつまみ上げる。鍔部は水平に伸び、端部は丸い。体部中位以下は欠損。 外面・口縁部内面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ。	乳茶褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
75 三四	小型壺 (須恵器) SE8	底径 3.5	口縁部は欠損。楕円形の体部で、底部は平底。 内外面回転ナデ。	乳灰褐色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方面不明。
76 三五	小皿 (土師器) SE9	口径 9.4 器高 1.6	若干丸味をもつ底部から外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	4.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
77 三五	同上 SE9	口径 9.5 器高 1.9	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。
78 三五	同上 SE9	口径 9.5 器高 2.0	丸い底部から斜上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	3㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
79 三五	小皿 (土師器) SE9	口径 9.7 器高 1.4	広く平坦な底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
80 三五	同上 SE9	口径 10.2 器高 1.6	平らに近い底部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
81 三五	小皿 (瓦器) SE10	口径 9.4 器高 1.9	広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面ヘラミガキ、内面ナデ後ヘラミガキ。	灰黒色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
82 三五	椀 (瓦器) SE10	口径 15.2 器高 5.7 底径 5.6	半球形の杯体部で、口縁端部は丸く終わる。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。口縁端部外面に沈線が巡る。 内外面やや粗いヘラミガキ、高台外面ヨコナデ、底部外面ナデ、見込みは格子状暗文。	黒灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
83 三五	同上 SE10	口径 16.3 器高 5.7 底径 6.2	半球形の杯体部で、口縁端部は丸く終わる。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 内外面ナデ後粗いヘラミガキ。高台ヨコナデ、底部外面ナデ、見込みは斜格子状暗文。	黒灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
84 三五	同上 SE10	口径 14.8 器高 5.9 底径 5.3	半球形の杯体部で、口縁端部は上外方へ外反して丸く終わる。内側には沈線が巡る。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 内面ハケナデ後細かいヘラミガキ、外面粗いヘラミガキ、高台ヨコナデ、底部外面ナデ、見込みは平行状暗文。	淡灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	完形。
85 三五	杯 (土師器) SK7	口径 14.2	丸味をもつと思われる底部から外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は僅かにつまみ上げ、外傾する小さな面をもつ。底部の一部は欠損。 口縁部外面・内面ヨコナデ、体部外面ナデ。	外 乳灰茶色 内 乳茶灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
86	杯蓋 (須恵器) SP69	口径 14.0 器高 4.2 稜径 12.4	やや高く丸味をもつ天井部から外下方へ伸び、稜に至る。稜は鈍い。口縁部は下外方へ内湾して伸び、端部は内傾し、段をもつ。 天井部約1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 灰褐色 内 淡灰色	3㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	ロクロ右方向。
87	杯 (須恵器) SP13	口径 8.7	平らと思われる底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 底部外面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	淡灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	内面灰かぶり。 ロクロ方向不明。
88 三五	小皿 (土師器) SP120	口径 9.6 器高 1.7	丸味をもつ底部から斜上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ。	乳茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
89	壺 (土師器) 包含層	底径 10.6	体部以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出しない平底。 内外面磨耗の為調整不明瞭。	乳茶橙色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
90	同上 包含層	底径 6.0 最大径 20.3	体部中位以上は欠損。体部は偏平な球形と思われる。底部は突出した窪み底。 外面磨耗の為調整不明瞭、内面ハケナデ（7本）後ヘラナデ。	乳灰橙色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
91	同上 包含層	口径 21.0	上方へ伸びる頸部から屈曲し、外上方へ伸びた後屈曲して上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。頸部内面に1本の接合痕を有する。 頸部外面ハケナデ（8本）後ヨコナデ、他はヨコナデ。	外 茶褐色 内 淡灰茶色～淡茶褐色	3.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
92	甕 (土師器) 包含層	口径 12.2 器高 10.1 底径 3.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出した平底と思われる。頸部に１本の接合痕を有する。 口縁部外面ハケナデ（10本）後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面調整不明瞭、内面ヘラナデ。	外　淡茶色 内　淡茶褐色～茶褐色	２㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	内面の一部に煤付着。
93	同上 包含層	口径 13.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	外　乳茶色 内　淡茶橙色	１㎜以下の長石・雲母石英・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
94	同上 包含層	口径 22.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（９本）、内面ハケナデ（10本）後ヘラ削り。	淡茶色	4.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
95	同上	口径 15.8	口縁部は上外方へ内湾して伸び、端部は内方へ肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶色	２㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
96	同上 包含層	口径 15.8	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ（５本）後ヨコナデ、内面・体部外面ハケナデ（８本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	３㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
97	鉢 (土師器) 包含層	口径 15.0 器高 7.6	偏平か半球形の杯体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	淡茶橙色	1.5 ㎜以下の長石・チャート・赤褐色酸化粒雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
98	同上 包含層	口径 11.6	上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヨコナデ。	乳茶灰色	３㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
99	同上 包含層	口径 12.6	上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。体部外面下位に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外　赤褐色～灰褐色 内　淡灰茶色	1.5 ㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
100 三五	小型壺 (土師器) 包含層	口径 7.2 器高 8.4 最大径 8.4	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外方へ僅かにつまみ出す。底部は丸底。体濫内面に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面指頭痕後ヨコナデ、体部外面・内面上位ナデ、下位指ナデ。	外　淡茶褐色 内　淡茶色	４㎜以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を微量含む。	良好	
101 三六	ミニチュアの高杯 (土師器) 包含層	口径 3.7 器高 7.6 底径 5.6	外下方へ伸びる杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる裾部に至る。端部は丸い。 柱状部内面しぼり目、他はナデ。	茶橙色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
102	高杯 (土師器) 包含層	口径 12.6	平らに近い杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ヨコナデ、杯底部外面ハケナデ(10本)、内面ハケナデ(6本)後放射状暗文。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
103	同上 包含層	口径 10.9	杯部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。杯底部以下は欠損。 杯部外面ハケナデ(10本)、内面ヨコナデ。	淡茶灰色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
104	同上 包含層	口径 12.8	杯部は上外方へ内湾して伸び、端部は上に面をもつ。杯底部以下は欠損。 杯部外面ハケナデ(11本)、内面ヨコナデ。	乳茶色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
105	同上 包含層	口径 15.4	杯部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。杯底部以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面指頭圧痕、内面ナデ。	灰褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
106 三六	同上 包含層	底径 8.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反気味に伸びる柱状部から外下方へ伸びる裾部に至る。端部は外傾する面をもつ。 柱状部外面ヘラによる面とり、内面くりぬき、裾部外面ナデ、内面ハケナデ(4本)後ヨコナデ。	茶褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
107	製塩土器 包含層	底径 3.8	口縁部は欠損。平らな底部から屈曲し、上方へ内湾気味に伸びる体部に至る。 体部外面タタキ(4本)、底部外面ナデ、内面指ナデ。	乳灰橙色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
108 三六	土錘 (土師質) 包含層		管状形を呈する。 ナデ・指頭痕。	淡灰茶色～灰茶色	2㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
109 三六	同上 包含層		管状形を呈する。 ナデ・指頭痕。	灰褐色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
110	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径 11.3 稜径 11.2	やや高く丸みをもつ天井部から外下方へ伸び、稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は外傾する面をもつ。 天井部外面約2/3 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	外 灰色 内 灰青色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 天井部外面約2/3 に釉付着。
111	同上 包含層	口径 12.6 器高 4.4 稜径 10.8	やや深く丸みをもつ天井部から下外方へ伸び、稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下外方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 天井外面4/5 回転ヘラ削り、他は回転ナデ	外 淡灰色 内 淡灰色～灰褐色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。 天井部内面に炭化物付着。
112	同上 包含層	口径 17.0 器高 5.8 稜径 16.6	深く丸みをもつ天井部から下外方へ伸び、稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。 天井部外面6/7 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。
113	同上 包含層	口径 11.0 器高 3.8 稜径 10.4	やや低く平らな天井部から下外方へ伸び、稜に至る。稜は鋭く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。 天井外面1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ	外 乳灰色 内 灰青色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
114	同上 包含層	口径 13.4 器高 4.3 稜径 12.9	やや低く丸みをもつ天井部から下外方へ伸び、稜に至る。稜はやや鋭く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は内側に面をもつ。 天井部外面約1/2 回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	外 乳灰色 内 灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
115	杯蓋 包含層	口径 15.8 稜径 14.8	天井部から下外方へ伸び、稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下外方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する凹面をもつ。天井部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。
116	同上 包含層	口径 12.8 稜径 11.6	天井部から下外方へ伸び、稜に至る。稜は鈍い。口縁部は下外方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。天井部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 灰青色 内 青灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 外面灰かぶり。 天井部内面に炭化物付着。
117	同上 包含層	口径 14.0 器高 4.4	丸みをもつ天井部から外下方へ伸びる。稜は痕跡なし。口縁部は下外方へ伸び、端部は内方へつまみ下げる。 内外面回転ナデ。	外 灰褐色 内 灰青色	2㎜以下の長石・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	ロクロ右方向。
118	同上 包含層	口径 14.0	天井部は欠損。天井部から下外方へ伸びる稜は痕跡なし。口縁部は下外方へ伸び、端部は丸い。天井部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
119	杯身 (須恵器) 包含層	口径 11.6 受部径 13.4 立ち上がり高 1.8	受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	淡灰青色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	受部外面に釉付着。 ロクロ方向不明。
120	同上 包含層	口径 10.0 受部径 11.6 立ち上がり高 1.9	丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 底体部外面約1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
121	同上 包含層	口径 13.1 受部径 15.6 立ち上がり高 1.8	体部は上外方へ内湾気味に伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ伸びた後直立し、端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	青灰色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
122 三六	同上 包含層	口径 12.4 器高 5.1 受部径 15.2 立ち上がり高 1.7	深く丸い底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、鈍く尖る。立ち上がりは内上方へ外反して伸び、端部は内傾する面をもつ。 底体部外面2/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2㎜以下の長石・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	ロクロ右方向。
123	同上 包含層	口径 11.0 受部径 13.6 立ち上がり高 1.5	体部は上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰青色	精良。	良好	ロクロ左方向。
124	同上 包含層	口径 11.6 受部径 14.0 立ち上がり高 1.3	深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は上外方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は内傾する面をもつ。 底体部外面1/6 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰青色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
125 三六	同上 包含層	口径 10.8 器高 4.5 受部径 13.0 立ち上がり高 1.0	深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。 底体部外面3/5 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰青色	精良。	良好	ロクロ右方向。
126	同上 包含層	口径 14.0 受部径 16.4 立ち上がり高 1.2	体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
127	杯身 (須恵器) 包含層	口径 9.0 受部径 12.0 立ち上がり高 1.2	体部は上外方へ内湾気味に伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	外 灰青色 内 乳灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。 立ち上がり外面・内面灰かぶり。
128	同上 包含層	口径 11.0 受部径 13.2 立ち上がり高 0.9	体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。
129	同上 包含層	口径 12.0 受部径 14.6 立ち上がり高 1.2	体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。 底体部外面1/5 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰青色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
130	同上 包含層	口径 12.0 受部径 14.0 立ち上がり高 1.1	体部は上外方へ内湾気味に伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
131	同上 包含層	口径 12.4 器高 3.9 受部径 14.8 立ち上がり高 1.0	深く丸みをもつ底体部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。 底体部外面1/6 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 淡灰青色 内 灰青色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
132	同上 包含層	口径 12.7 受部径 14.6 立ち上がり高 1.7	やや浅く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	暗灰青色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	底体部外面灰かぶり。 ロクロ方向不明。
133	同上 包含層	口径 13.4 受部径 15.7 立ち上がり高 1.1	体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。 底体部外面約1/6 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 淡灰青色 内 暗灰青色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
134	同上 包含層	口径 14.2 受部径 16.0 立ち上がり高 1.5	やや深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は鈍く尖る。底部は欠損。 底体部外面1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 乳灰色 内 灰青色	精良。	良好	ロクロ方向不明。
135	高杯 (須恵器) 包含層	口径 12.0 稜径 11.8	杯部は上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。杯部中位に鈍い稜を有する。杯底部・脚部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰青色	2.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ方向不明。
136 三六	同上 包含層	口径 13.0	外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 内外面回転ナデ。	外 灰青色～淡灰色 内 淡灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
137	同上 包含層	底径 8.6	脚部は下外方へ伸びる裾部に至る。端部は凸面状を成す。杯部は欠損。脚部に三方孔の台形のスカシを有する。 内外面回転ナデ。	淡灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
138	鉢 (須恵器) 包含層		体部は上外方へ伸びる。底部はやや外方へ突出した平底。口縁部・体部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
139	同上 包含層	底径 6.4	底部は平らで、断面台形の高台が付く。口縁部・体部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
140	壺 (須恵器) 包含層	口径 13.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰青色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
141	同上 包含層	口径 16.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
142	甕 (須恵器) 包含層	口径 11.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する凹面をもつ。体部は欠損。口縁部外面中位に凸線が巡る。口縁部外面に1帯11本と12本と6本の3帯の波状文が巡る。 内外面回転ナデ。	外 淡灰青色 内 淡灰褐色	精良。	良好	ロクロ方向不明。
143	同上 包含層	口径 18.0	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 体部外面タタキ（3本）、他は回転ナデ。	灰青色	2㎜以下の長石・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面に自然釉付着。ロクロ方向不明。
144	同上 包含層	口径 20.4	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上外方へつまみ出し、下方に垂れ下がる。体部は欠損。 体部内面タタキ後回転ナデ、他は回転ナデ	灰青色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
145	同上 包含層	口径 24.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 外面タタキ（3本）、内面回転ナデ。	外 灰青色 内 乳灰色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
146	同上 包含層	口径 10.8	上内方へ伸びる体部から、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、上に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部外面タタキ（4本）、内面円弧タタキ（3本）。	乳灰色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ方向不明。
147	同上 包含層	口径 18.6	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上方へ伸びた後上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部外面タタキ（3本）、内面円弧タタキ。	乳灰青色	精良。	良好	ロクロ右方向。
148	杯 (土師器) 包含層	口径 20.2 器高 6.2	平らと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面ヘラ削り後ヘラミガキ、口縁部内面ヨコナデ、体部内面ナデ。	外 橙茶色 内 淡茶褐色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
149	同上 包含層	口径 11.6	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 乳茶灰色 内 淡茶灰色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
150	同上 包含層	口径 11.0	平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ、底部外面ハケナデ、内面放射状暗文。	乳茶色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
151	同上 包含層	口径 13.4 器高 3.2	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面指ナデ、内面ナデ。	外 赤褐色 内 乳茶色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
152	同上 包含層	口径 13.0	平らと思われる底部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	茶橙色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
153	杯 (土師器) 包含層	口径 15.1	平らと思われる底部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 底部外面ナデ、他はヨコナデ。	淡茶灰色	4㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	口縁部内面に煤付着。
154	中皿 (土師器) 包含層	口径 17.2 器高 2.0	平らと思われる底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
155	同上 包含層	口径 16.2 器高 2.3	平らな底部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、内傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰茶色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	底部内面に煤付着。
156	同上 包含層	口径 14.8 器高 3.6	平らに近い底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	茶褐色	6.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
157	同上 包含層	口径 13.6	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
158	同上 包含層	口径 15.2 器高 2.9	平らな底部から屈曲し、上外方へ伸びた後屈曲して外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
159	同上 包含層	口径 16.6 器高 2.0	平らと思われる底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	外 乳鼈茶色 内 暗灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
160	大皿 (土師器) 包含層	口径 22.2	やや丸みをもつと思われる底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内外方に肥厚し、つまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面螺旋状暗文・放射状暗文。	外 茶灰色 内 灰茶色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
161	鉢 (土師器) 包含層	口径 24.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	茶橙色	3.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
162	高杯 (土師器) 包含層	口径 13.0	外上方へ内湾して伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ伸びた後屈曲して外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯底部外面ナデ、内面放射状暗文。	外 乳灰褐色 内 赤褐色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
163	同上 包含層	口径 20.2	杯部は斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、つまみ上げる。杯底部以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面放射状暗文、体部外面ナデ、内面螺旋状暗文。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
164	同上 包含層	口径 26.0	口縁部は上外方へ内湾して伸び、端部は外傾する面をもつ。杯底部以下は欠損。 外面ナデ、内面暗文。	外 淡茶褐色 内 乳茶色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
165 三六	高杯 (土師器) 包含層	底径 12.4	脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ外反して伸びる裾部に至る。端部は下方へつまみ上げる。杯部は欠損。 柱状部外面ヘラによる面とり、内面くりぬき、裾部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ。	乳茶色	1㎜以下の長石・チャート・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
166	甕 (土師器) 包含層	口径 22.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 茶褐色 内 淡茶色	0.5 ㎜以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
167	同上 包含層	口径 13.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶色	1㎜以下の長石・赤褐色酸化粒・雲母・石英等の砂粒を多量に含む	良好	
168	同上 包含層	口径 16.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面・体部内面上位ヨコナデ、体部外面・内面下位ナデ。	外 茶色 内 淡茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
169	同上 包含層	口径 20.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 淡茶色 内 茶褐色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
170	鉢 (土師器) 包含層	口径 33.4	上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面・体部外面上位ヨコナデ、下位ヘラミガキ、内面ナデ。	茶褐色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
171	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径 14.8	平らな天井部から下外方へ伸びる口縁部に至る。端部は下につまみ上げる。つまみは欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
172	同上 包含層	口径 16.6 器高 2.2	平らな天井部から下外方へ伸びる口縁部に至る。端部は下につまみ上げる。つまみの痕跡有り。 外面回転ナデ、内面不定方向のナデ。	外 暗灰青色 内 灰青色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。 外面に釉付着。
173	杯身 (須恵器) 包含層	口径 12.0 器高 3.9	平らな底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	乳灰色	1.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
174	小皿 (土師器) 包含層	口径 7.3 器高 1.3	平らな底部から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
175	同上 包含層	口径 8.0 器高 1.5	平らな底部から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
176	同上 包含層	口径 10.0 器高 1.3	窪みをもつ底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
177 三六	同上 包含層	口径 9.7 器高 2.0	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
178	同上 包含層	口径 10.0 器高 1.5	平らな底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
179 三六	小皿 (土師器) 包含層	口径 9.1 器高 1.6	平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
180	同上 包含層	口径 8.8 器高 1.9	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
181	同上 包含層	口径 9.1 器高 1.9	丸みをもつ底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
182 三六	同上 包含層	口径 9.4 器高 1.6	平らな底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	完形。
183 三六	同上 包含層	口径 9.4 器高 1.6	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
184 三六	同上 包含層	口径 8.4 器高 1.1	平らに近い底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
185	同上 包含層	口径 7.4 器高 1.5	窪みをもつと思われる底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
186	同上 包含層	口径 10.6	口縁部は上外方へ伸び、端部は外側に面をもつ。底部は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
187	同上 包含層	口径 7.9 器高 1.4	平らに近い底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	3.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
188	同上 包含層	口径 11.8	口縁部は上外方へ内湾して伸び、端部は丸い。底部は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
189	中皿 (土師器) 包含層	口径 13.0	丸みをもつ底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡褐灰色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
190	同上 包含層	口径 13.0	上外方へ内湾気味に伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳茶灰色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
191	同上 包含層	口径 15.2	丸みをもつ底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
192	同上 包含層	口径 14.4	外上方へ伸びる底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
193	同上 包含層	口径 15.6	丸みをもつ底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 乳灰褐色 内 淡灰褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
194	同上 包含層	口径 15.0	丸みをもつと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
195	羽釜 (土師器) 包含層	口径 32.0 鍔径 37.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部外面に水平に伸びる鍔部が巡る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳灰茶色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
196	椀 (瓦器) 包含層	口径 14.4 器高 5.5 底径 5.6	椀形の底体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る　端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 外面指頭痕後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ見込みは斜格子状暗文、高台ヨコナデ。	灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
197	同上 包含層	口径 15.4 器高 5.4 底径 5.0	椀形の底体部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 外面指頭痕後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	乳灰黒色	精良。	良好	
198 三六	同上 包含層	口径 14.2 器高 4.8 底径 4.8	椀形の底体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 外面ナデ後ヘラミガキ・指頭痕、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	外　乳灰色 内　乳灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
199	同上 包含層	口径 13.8	球形と思われる底体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面指頭痕後ナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	外　乳灰色 内　灰黒色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
200	同上 包含層	口径 15.8	上外方へ伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	暗灰色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
201	同上 包含層	口径 16.6	半球形の底体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。外面ナデ、内面ヘラミガキ。	外　乳灰色 内　乳灰色～灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
202	同上 包含層	口径 15.8	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	乳灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
203	白磁器 包含層	底径 5.0	体部は上外方へ伸びる。底部はやや突出した上げ底。口縁部・体部は欠損。 内外面回転ナデ。	外　乳灰色 内　淡灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。 内面に釉付着。

第２調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 三七	小型壺 (土師器) ＳＤ１	口径　6.6 器高　9.4 最大径　9.6	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外　淡茶橙色～茶褐色 内　乳茶褐色	３㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
2 三七	同上 ＳＤ１	口径　9.2 器高　8.9 最大径　9.9	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。頸部内面に１本の接合痕を有する。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ（８本）、下位ナデ、内面指ナデ。	黒灰色	６㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良	
3 三七	小型壺 (土師器) ＳＤ１	口径　7.9 器高　8.2 最大径　9.2	最大径を上位にもつ偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面剝離の為調整不明、内面ナデ、底部内面指ナデ。	乳茶褐色	６㎜以下の長石･石英･角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	完形。
4 三七	壺 (土師器) ＳＤ１	口径　13.0 器高　16.1 最大径　15.7	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ､体部外面上位ナデ、下位ハケナデ（６本）、内面ヘラ削り。	外　乳茶色～黒灰色 内　乳茶橙色	３㎜以下の長石･雲母･チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面中位以下に黒班有。
5 三七	甕 (土師器) ＳＤ１	口径　8.9 器高　12.0 最大径　13.4	球形に近い体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。口縁部外面に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ（５本）、下位ハケナデ（８本）、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	２㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	完形。 体部外面中位に黒班有。
6 三七	同上 ＳＤ１	口径　11.0 器高　16.4 最大径　16.1	球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は丸底。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(５本)体部外面ハケナデ、内面ナデ。	乳茶褐色～黒灰色	２㎜以下の長石・角閃石・雲母・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
7 三七	同上 ＳＤ１	口径　12.6	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。頸部内面に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（３本）、内面指ナデ。	茶褐色	1.5 ㎜以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良	体部外面に煤付着。
8 三八	同上 ＳＤ１	口径　16.3	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、内傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面指ナデ。	淡茶灰色	４㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量含む。	良好	口縁部内面に黒班有。
9 三八	高杯 (土師器) ＳＤ１	口径　15.6 器高　12.0 最大径　9.6	平坦な杯底部から斜上方へ内湾気味に伸びた後外上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる柱状部から斜下方へ外反して伸びる裾部に至る。端部は丸い。脚部中位に三方孔を有する。 杯部外面上位ヨコナデ、中位以下ハケナデ(10本)、内面ナデ、脚部外面ナデ、柱状部内面しぼり目・指頭痕、裾部内面ナデ。	乳茶褐色	１㎜以下の石英・雲母等の砂粒を少量に含む。	良好	
10 三八	同上 ＳＤ１	口径　17.6 器高　12.1 最大径　11.2	広く平坦な杯底部から斜上方へ内湾して伸びた後外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもち、端面には沈線が巡る。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる裾部に至る。端部は丸い。 杯部外面ハケナデ（５本）、口縁部内面上位ヨコナデ、杯部内面ナデ、脚部外面ナデ、柱状部内面ヘラ削りによるくりぬき、裾部内面ハケナデ（５本）。	淡茶褐色	３㎜以下の雲母・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
11 三八	高杯 (土師器) SD1	口径 14.8	平坦な杯底部から外上方へ内湾気味に伸びた後屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ハケナデ（5本）後ナデ、内面ナデ、柱状部内面しぼり目。	淡茶褐色	2㎜以下の雲母・石英・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
12 三八	同上 SD1	口径 18.4	広く平坦な杯底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる。裾部は欠損。 杯部内外面・脚部外面ナデ、内面しぼり目。	外 茶赤色 内 赤茶色	4㎜以下の石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
13 三八	同上 SD1	底径 10.8	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反気味に伸びる柱状部から外下方へ外反して伸びる裾部に至る。端部は丸い。 杯底部内外面ナデ、柱状部外面ヘラナデ、内面しぼり目、裾部内外面ナデ。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・石英・赤褐色酸化粒・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
14 三八	同上 SD1	底径 12.8	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から斜下方へ外反気味に伸びる裾部に至る。端部は丸い。 端部外面・裾部内面ナデ、柱状部内面しぼり目。	乳茶褐色	3㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
19 SP19	有蓋高杯 (須恵器)	口径 11.0 器高 9.0 底径 9.2 受部径 13.0 立ち上がり高 1.8	やや深く丸みをもつ杯底部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は外上方へ鈍く尖る。立ち上がりは上方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。脚部は下外方へ伸び、端部は肥厚し、下方へつまみ、外面には稜がある脚部に三方孔のスカシを有する。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。 脚部外面灰かぶり。 ロクロ方向不明。
20 SP6	杯蓋 (須恵器)	口径 12.4 器高 4.4 稜径 12.6	やや高く丸味をもつ天井部から外外方へ内湾して伸び、稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する段をもつ。天井部の一部は欠損。 天井部外面約1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	微砂粒を微量に含む。	良好	天井部外面灰かぶり。 ロクロ左方向。
21 三九	杯 (土師器) SK3	口径 10.4 器高 3.0	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸び端部付近で、小さく斜外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳茶灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
22 三九	同上 SK3	口径 10.6 器高 3.4	やや窪む底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳茶灰色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
23 三九	同上 SK3	口径 10.2 器高 3.4	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳茶灰色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	外面に黒斑有。
24	同上 SK3	口径 12.6	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳茶灰色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
25	同上 SK3	口径 11.8	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、内面摩耗の為調整不明。	茶橙色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
26 三九	同上 SK3	口径 16.0 器高 5.6	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面ヘラ削り、内面放射状暗文。	淡茶灰色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
27	高杯 (土師器) SK3	口径 17.0	平らと思われる杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。杯底部・脚部は欠損。 杯部外面ナデ、端部内面ヨコナデ、杯部内面放射状暗文。	淡茶灰色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
28	甕 (土師器) SK3	口径 16.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
29 三九	同上 SK3	口径 21.7 器高 36.7 最大径 25.7	長楕円形の体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(9本)、内面上中位ナデ後ハケナデ(13本)、下位ヘラ削り。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む。	良好	体部外面中位以下に煤付着。
30	杯蓋 (須恵器) SK3	口径 12.8 器高 3.7	丸味をもつ天井部から下外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。稜はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
31	杯身 (須恵器) SK3	口径 11.6 受部径 13.8 立ち上がり高 0.9	体部は上外方へ伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、丸く終わる。立ち上がりは上方へ伸び、端部は丸い。底部は欠損。 体部外面下位回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
32	同上 SK3	口径 8.7 器高 3.5 受部径 10.8 立ち上がり高 0.3	深く丸い底体部から上外方へ内湾して伸び受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸く終わる。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。 底部外面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	2㎜以下の砂粒を少量に含む。	良好	底体部外面に自然釉付着。 ロクロ右方向。
33	鉢 (須恵器) SK3	口径 8.5 器高 2.8	平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
34	杯 (土師器) SK4	口径 9.8 器高 3.2	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 底体部外面ナデ、他はヨコナデ。	茶赤色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
35	同上 SK4	口径 10.4	丸い杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。脚部は欠損。 口縁部外面・端部内面ヨコナデ、他はナデ。	茶赤色	微砂粒を少量含む。	良好	
36	同上 SD3	口径 11.2 器高 2.9	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	外　茶褐色 内　乳茶色	1㎜以下の赤褐色酸化粒・石英・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
37	同上 SD3	口径 10.4 器高 3.2	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 外面ナデ・指頭痕、内面ナデ後放射状暗文。	灰褐色	1㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	
38	同上 SD3	口径 9.8 器高 3.3	丸味をもつ底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	淡灰褐色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
39 三九	同上 SD3	口径 11.4 器高 4.3	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面ナデ、内面放射状暗文。	茶橙色	微砂粒を少量含む。	良好	底部外面にヘラ記号有。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形・態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
40	杯 (土師器) SD3	口径 12.3 器高 3.3	広く平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面上位ヨコナデ、外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	茶橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	底部外面にヘラ記号有。
41	同上 SD3	口径 10.8	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部の一部は欠損。 外面ナデ、内面ナデ、後放射状暗文。	淡茶赤色	2.5 ㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良	
42	同上 SD3	口径 11.0	丸味をもつと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	灰褐色	2㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	
43	同上 SD3	口径 10.2 器高 2.8	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。 外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	暗灰褐色	0.5 ㎜以下の長石・石英・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量に含む。	良	
44 三九	同上 SD3	口径 10.4 器高 3.6	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	淡灰褐色	1㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	完形。
45	同上 SD3	口径 10.6 器高 3.2	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	外 淡茶褐色 内 茶橙色	1㎜以下の長石・石英等の砂粒を微量に含む。	良好	
46	同上 SD3	口径 11.2	丸味をもつと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 外面ナデ・指頭痕、内面放射状暗文後ナデ。	茶褐色	1㎜以下の長石・赤褐色酸化粒・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
47	同上 SD3	口径 16.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。端部内面には沈線が巡る。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	淡灰褐色	1㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良	
48	同上 SD3	口径 11.6 器高 2.6	僅かに窪む底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 内外面ナデ。	外 乳茶色～黒茶色 内 乳茶色	0.5 ㎜以下の赤褐色酸化粒・石英等の砂粒を少量含む。	良好	底体部外面に煤付着。
49	同上 SD3	口径 11.9 器高 3.0	平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ。	外 乳灰褐色 内 乳茶色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
50	同上 SD3	口径 10.2 器高 2.5	丸味をもつ底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶橙色	0.5 ㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
51	同上 SD3	口径 12.2	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳茶灰色	1㎜以下の砂粒を少量に含む。	良好	
52	同上 SD3	口径 11.1	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 内外面ナデ。	茶灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	底部外面に黒斑有。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
53	杯 (土師器) SD3	口径 12.7 器高 3.6	平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 端部内外面ヨコナデ、外面ナデ、内面摩耗の為調整不明。	茶橙色	1.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。
54 三九	同上 SD3	口径 12.4	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	外 茶橙灰色 内 茶橙色	1 mm以下の長石・雲母・チャート等の砂粒を少量含む。	良	体部外面下位に黒斑有。
55	同上 SD3	口径 11.8	外上方へ内湾気味に伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面・端部内面ヨコナデ、他はナデ。	淡茶橙色	微砂粒を少量含む。	良好	
56	同上 SD3	口径 11.9 器高 3.4	平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ、底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	淡橙茶色	微砂粒を少量含む。	良好	
57	同上 SD3	口径 14.0	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、他はナデ。	暗灰褐色	1 mm以下の長石・石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良	
58 三九	同上 SD3	口径 9.6 器高 3.5	丸味をもつ底部から斜上方へ伸びた後上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面ナデ・指押え、内面ナデ。	淡灰褐色	1 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	底部外面に黒斑有。 体部内面ヘラ記号有。
59	同上 SD3	口径 10.6	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は器肉を減じて丸く終わる。底部の一部は欠損。 端部内外面ヨコナデ、杯部内外面ナデ。	外 茶赤色 内 淡茶灰色	1.5 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	
60 三九	同上 SD3	口径 10.0 器高 3.0	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ。	淡灰褐色	1 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良	
61	同上 SD3	口径 11.0 器高 3.2	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 内外面ナデ。	茶橙色	2 mm以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
62	同上 SD3	口径 12.0 器高 3.7	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	茶褐色	1 mm以下の長石・赤褐色酸化粒・石英等の砂粒を少量含む。	良好	底部内面にヘラ記号有。
63	同上 SD3	口径 12.2 器高 3.8	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 端部内外面ヨコナデ、杯部内外面ナデ。	茶橙色	0.5 mm以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
64	同上 SD3	口径 11.0	丸味をもつと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	外 乳茶色 内 茶褐色	0.5 mm以下の石英等の砂粒を微量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
65	杯 (土師器) SD3	口径 17.0	外上方へ伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	外 茶橙灰色 内 茶橙色	2㎜以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良	
66	同上 SD3	口径 15.8	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。口縁部外面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	乳灰茶色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
67	同上 SD3	口径 17.2	上外方へ伸びる体部から直上して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。口縁部外面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
68	皿 (土師器) SD3	口径 18.2	外上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ・指頭痕、内面放射状暗文。	茶橙色	微量粒を少量含む。	良好	
69 四〇	同上 SD3	口径 20.7	丸味をもつ底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	茶橙色	微量粒を少量含む。	良好.	
70	同上 SD3	口径 19.8	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、丸い。底部は欠損。 外面・口縁部内部ヨコナデ、体部内面放射状暗文。	乳灰茶色	微量粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。
71	同上 SD3	口径 18.8 器高 3.3	やや窪む底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	淡赤褐色～灰褐色	2.5 ㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を含む。	良好	
72 四〇	大皿 (土師器) SD3	口径 22.2	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	茶橙色	微砂粒を微量に含む。	良好	
73 四〇	同上 SD3	口径 23.4 器高 3.5	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	茶赤褐色	3㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良	底部外面にヘラ記号有。
74	同上 SD3	口径 25.6	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	茶褐色～灰褐色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
75 四〇	同上 SD3	口径 24.0 器高 3.5	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部はやや外方へつまむ。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	茶橙色	0.5 ㎜以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
76 四〇	同上 SD3	口径 26.2 器高 3.9	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	淡灰褐色	2.5 ㎜以下の長石・石英・チャート等の砂粒を含む。	良好	完形。 底部外面に黒斑有。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
77	大皿 (土師器) SD3	口径 25.0	平らと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、丸い。底部の一部は欠損。 口縁部外面・端部内面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面放射状暗文。	外 乳茶灰色 内 乳灰茶色	0.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
78	同上 SD3	口径 23.8	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は僅かに外方へつまみ、丸く終わる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
79	同上 SD3	口径 22.8	丸味をもつと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部はごく僅かに外方つまみ丸く終わる。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	茶橙色	5㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
80	同上 SD3	口径 23.8	外上方へ内湾気味に伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は僅かに内方へ肥厚する。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	茶橙色	微砂粒を少量含む。	良好	
81	台皿 (土師器) SD3	口径 24.8	斜上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶橙色	微砂粒を少量含む。	良好	底部外面にヘラ記号有。
82	同上 SD3	口径 24.4 器高 2.5	広く平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	茶橙色	微砂粒を少量含む。	良好	
83	同上 SD3	口径 23.0	斜上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	茶褐色	長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良	
84 四〇	同上 SD3	口径 23.2 器高 4.0	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	茶橙色	微砂粒を少量含む。	良好	底部外面にヘラ記号有。
85	台付皿 (土師器) SD3	底径 8.4	杯部は欠損。底部は平坦である。脚部は下外方へ伸びた後、端部付近で外方へ短く伸びる。端部は丸い。 外面ナデ、内面放射状暗文・螺旋状暗文。	灰褐色	4㎜以下の長石・石英・チャート・赤褐色酸化粒等の砂粒を含む。	良	
86	鉢 (土師器) SD3	口径 14.2	半球形と思われる体部から屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は僅かに肥厚する。底部の一部は欠損。 口縁部外面ヘラミガキ、底体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	灰褐色	1㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
87	甕 (土師器) SD3	口径 14.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方へ肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(9本)。	外 淡茶赤色～灰褐色 内 茶褐色	3㎜以下の長石・石英・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
88 四〇	同上 SD3	口径 12.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方へ僅かに肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(10本)、体部外面ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り。	外 茶褐色 内 暗茶褐色～茶褐色	2㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
89	甕 (土師器) SD３	口径 12.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ出し、上に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ハケナデ後ナデ。	外 茶赤色 内 茶褐色	３㎜以下の長石・赤褐色酸化粒・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
90	同上 SD３	口径 14.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は肥厚し、上に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ・指頭痕、内面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ。	外 茶橙色～茶褐色 内 茶橙色	2.5 ㎜以下の長石・赤褐色酸化粒・石英・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	
91	同上 SD３	口径 23.6	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は肥厚し、上に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	３㎜以下の長石・石英・赤褐色酸化粒・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	
92	高杯 (土師器) SD３	口径 16.6	丸味をもつ杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	茶橙色～灰褐色	１㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
93	同上 SD３	口径 17.0	平らと思われる杯底部から外上方へ伸びた後、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	淡灰褐色	長石・雲母等の砂粒を含む。	良好	
94 四一	同上 SD３	口径 17.2	平坦な杯底部から外上方へ内湾気味に伸びた後、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる。裾部は欠損。 杯部・脚部外面ナデ、杯部内面放射状暗文後螺旋状暗文、脚部内面ナデ。	灰褐色	2.5 ㎜以下の長石・石英・チャート等の砂粒を含む。	良好	
95 四一	同上 SD３	口径 17.0	丸味をもつ杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ナデ、内面摩耗の為調整不明。	暗灰褐色～灰褐色	１㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良	
96	同上 SD３	底径 8.8	杯体部は欠損。杯底部は外上方へ内湾して伸びる。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、斜下方へ伸びる裾部に至る。端部は丸い。柱状部外面３本、内面に２本の接合痕を有する。 杯底部・裾部外面ナデ、杯底部内面ハケナデ、柱状部外面ヘラによる面とり、内面しぼり目、裾部内面指頭圧痕。	茶褐色	１㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
97 四一	同上 SD３	底径 9.8	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から外下方へ外反して伸びる裾部に至る。端部は丸い。 柱状部外面ナデ、内面しぼり目、裾部外面ナデ後ハケナデ、内面指頭圧痕。	外 茶橙色 内 淡茶橙色	0.5 ㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
98	羽釜 (土師器) SD３	口径 23.8	上内方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部は外上方へ伸び、丸い。体部は欠損。 口縁部外面・体部内面ナデ、口縁部内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（６本）。	淡茶灰色	３㎜以下の雲母・角閃石・長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
99 四ー	杯蓋 (須恵器) SD3	口径 10.6 器高 3.4 つまみ径 1.4	低く丸味をもつ天井部から外下方へ伸びた後下外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。かえりは下1方へ伸び、端部は丸い。宝珠状のつまみが付く。 天井部外面1/3 回転ヘラ削り、内面約1/3 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	ロクロ右方向。
100 四ー	同上 SD3	口径 10.2 器高 3.0 つまみ径 1.7	低く外下方へ内湾して伸びる天井部から下外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。かえり端部は鈍く尖る。偏平な宝珠状のつまみが付く。 天井部外面約1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	天井部外面約1/4 灰かぶり。 ロクロ方向不明。
101 SD3	同上 	口径 10.2	低く外下方へ内湾気味に伸びる天井部から下外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び、端部は丸い。 天井部外面1/10回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	ロクロ右方向。
102 四ー	同上 SD3	口径 10.0	低く斜下方へ伸びる天井部から下外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。かえりは内下方へ伸び、端部は丸い。 天井部外面約1/3 回転ヘラ削り、内面1/5 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
103 四ー	同上 SD3	口径 13.0 器高 3.8 つまみ径 1.8	低く平坦な天井部から斜下方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び、端部は丸い。宝珠状のつまみが付く。 天井部外面約1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	外面に自然釉付着。 ロクロ右方向。
104 SD3	同上 	口径 16.4 器高 3.6 つまみ径 3.0	低く平坦な天井部から外下方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び、端部は丸い。偏平な宝珠状のつまみが付く。 天井部外面約1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
105 SD3	同上 	口径 13.4	低い天井部から外下方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び、端部は丸い。天井部の一部は欠損。 天井部外面約1/5 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰青色	6㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	ロクロ右方向。
106 SD3	同上 	口径 12.6	低く平坦な天井部から斜下方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び、端部は丸い。天井部の一部は欠損。 天井部外面約1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	1㎜以下の長石等を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
107 SD3	同上 	口径 15.6	外下方へ内湾して伸びる天井部から口縁部に至る。端部は丸い。かえりは下内方へ伸び端部は鈍く尖る。天井部の一部は欠損。 天井部外面約1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。.	灰青色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
108 四ー	杯身 (須恵器) SD3	口径 8.8 器高 3.1	丸味をもつ低体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外面回転ヘラ削り・指頭痕、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	4㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
109 四ー	同上 SD3	口径 8.7 器高 3.6	平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰色	2.5 ㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
110 四一	杯身 (須恵器) ＳＤ３	口径 9.2 器高 3.6	やや丸味をもつ杯底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外面回転ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	黒灰色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明
111 四一	同上 ＳＤ３	口径 8.7 器高 3.3	平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	３㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
112	同上 ＳＤ３	口径 9.5 器高 3.0	平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	黒灰色	５㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
113 ＳＤ３	同上	口径 9.5	平らと思われる杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。稜は痕跡なし。底部の一部は欠損。 杯底部外面4/5 回転ヘラ削り、1/5 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	黒灰色	2.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
114 ＳＤ３	同上	口径 10.0 器高 3.8	平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、丸い。底部の一部は欠損。 内外面回転ナデ。	暗灰色	2.5 ㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
115 四二	同上 ＳＤ３	口径 8.1 器高 3.2	丸味をもつ杯底部から上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	暗灰褐色	３㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	ロクロ左方向。
116 四二	同上 ＳＤ３	口径 10.1 器高 3.9	丸味をもつ杯底部から上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外面回転ヘラ削り、内面約1/2 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰褐色	1.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。 底面にヘラ記号有り。
117 四二	同上 ＳＤ３	口径 10.2 器高 3.9	丸味をもつ杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 淡灰色 内 淡灰色～乳茶色	2.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	ロクロ右方向。
118	同上 ＳＤ３	口径 8.1 器高 3.7	丸味をもつ杯底部から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡黒灰色	４㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
119	同上 ＳＤ３	口径 10.2	丸い杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 乳灰色 内 乳灰色～乳茶色	２㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	ロクロ左方向。
120 四二	同上 ＳＤ３	口径 10.2 器高 3.1	やや窪む杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯底部内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	外 淡灰色 内 淡灰青色	２㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面灰かぶり。 ロクロ右方向。
121	同上 ＳＤ３	口径 14.6 器高 4.1 底径 10.4	平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面台形の高台が付く。底部の一部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰色	3.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
122 四二	鉢 (須恵器) ＳＤ３	口径 6.8 器高 4.4	やや平坦な底部から屈曲した後、上内方へ伸び体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	4.5 ㎜以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	体部外面灰かぶり。 ロクロ右方向。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
123	小皿 (土師器) SE2	口径 8.8 器高 1.9	僅かに窪む底部から上外方へ内椀して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 底部外面ナデ、他はヨコナデ。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
124	同上 SE2	口径 9.0 器高 1.4	僅かに窪む底部から上外方へ内椀して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
125	台付小皿 (土師器) SE2	底径 3.8	底部は平坦。脚部は下外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰黄色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
126	小皿 (瓦器) SE2	口径 8.6 器高 2.6	浅い半球形の底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ、見込みは平行状暗文。	淡灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
127 四二	椀 (瓦器) SE2	口径 14.8 器高 5.3 底径 7.6	半球形の杯体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 外面ナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ後ヘラミガキ、見込みは格子状暗文、高台ナデ。	灰青色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
128	同上 SE2	口径 14.7 器高 5.0 底径 5.8	半球形の杯体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台をもつ。 口縁部外面指頭圧痕後、ヘラミガキ底部外面ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは格子状暗文。	黒灰色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
129	同上 SE2	口径 14.2 器高 5.8 底径 4.2	半球形の杯体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 内外面ヘラミガキ、見込みは格子状暗文、高台ナデ。	外 淡灰色 内 暗灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
130	鉢 (土師器) SE2	口径 31.0	口縁部上外方へ伸び、端部は外傾する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 灰黒色 内 淡灰黒色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
131 四二	台付小皿 (瓦器) SE3	口径 9.1 器高 2.6 底径 4.1	平坦な底部から外上方へ内湾して伸びた後、上外方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 口縁部外面・高台ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	黒灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
132	羽釜 (土師器) SE3	口径 27.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は外方へ肥厚し、丸い。鍔部は水平に伸び、丸い。体部は欠損。 外面・口縁部内面ヨコナデ、体部内面ナデ。	茶橙色	4.5 ㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
133 四二	同上 SE3	口径 31.5	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部は水平に伸び、丸い。体部は欠損。体部外面に1本の接合痕を有する。 外面・口縁部内面ヨコナデ、体部内面ナデ。	茶橙黄色	4㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	体部内面に炭化物付着。
134	同上 SE3	口径 29.7	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部は外下方へ伸び、丸い。体部は欠損。 外面・口縁部内面ヨコナデ、体部内面ナデ。	茶橙色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	内面に炭化物付着。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
135	羽釜 (土師器) ＳＥ３	口径 28.1	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部は外上方へ伸び、丸い。体部は欠損。体部外面に１本の接合痕を有する。 外面・口縁部内面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ。	外　乳茶色～茶橙色 内　乳茶灰色	4.5 ㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	ロクロ方向不明。
136 四二	鉢 (須恵器) ＳＥ３	口径 19.1	上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。口縁端部の１箇所には注口がある。底部は欠損。 体部外面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰色	3.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
137	同上 ＳＥ３	口径 29.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は肥厚し、外傾する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	淡灰色	１㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
138 四二	甕 (須恵器) ＳＥ３	口径 34.1	口縁部は上外方へ大きく外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。頸部内面に２本の接合痕を有する。 口縁部内面下位不定方向のナデ、他は回転ナデ。	淡灰青色	5.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面下位に自然釉付着。ロクロ方向不明。
139	同上 ＳＥ３	口径 24.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は受口状で、外側に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	外　灰色 内　淡灰色	１㎜以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	ロクロ右方向。
140 四二	同上 ＳＥ３	口径 29.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや受口状で、外側に面をもつ。体部は欠損。体部内面につなぎ目を有する。 外面格子状タタキ（４本）、他は回転ナデ。	外　乳灰茶色 内　淡茶橙色	１㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	ロクロ方向不明。
141 四三	同上 ＳＥ３	口径 31.4	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は受口状である。体部中位以下は欠損。 端部外面・口縁部内面ヨコナデ、口縁部・体部外面タタキ（３本）、体部内面ナデ。	暗灰青色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
142 四三	同上 ＳＥ３	口径 45.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部内外面タタキ（外４本・内５本）。	灰色	4.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	体部外面に自然釉付着。ロクロ左方向。
143 四三	同上 ＳＥ３	底径 15.0	体部は上外方へ伸びる。底部は突出しない平底。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	淡灰色	１㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	底部外面に自然釉付着。ロクロ右方向。
144	同上 ＳＥ３	底径 16.0	体部は外上方へ伸びる。底部は突出しない平底。体部は欠損。 内面回転ナデ。	外　淡茶褐色～淡灰色 内　乳灰色	１㎜以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	
145 四三	鉢型土器 (瓦質) ＳＥ３	口径 37.0	平坦と思われる底部から屈曲し、上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもち花弁状の刻印がある。底部の一部は欠損。 外面ヘラ削り、内面ヨコナデ。	灰黒色	４㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
146	小皿 (土師器) ＳＰ31	口径 8.0 器高 1.5	平坦な底部から屈曲し、外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外　淡灰青色 内　灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	口縁部内面に煤付着。
147	同上 ＳＰ58	口径 9.4 器高 1.9	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びの口縁部に至る。端部は円い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳灰茶色	２㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
148	小皿 (土師器) SP59	口径 10.0 器高 1.6	僅かに窪む底部から外上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰黄色	5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
149	同上 SP59	口径 9.2 器高 1.6	丸味をもつ底部から外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰黄色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
150	同上 SP59	口径 9.4	丸味をもつと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳灰黄色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
151	同上 SP59	口径 15.6	外上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部の一部は欠損。 口縁部内外面・体部内面上位ヨコナデ、体部外面・内面下位ナデ。	乳灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
152	小皿 (瓦器) SP59	口径 9.8 器高 2.5	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸び器肉を減じて外反する口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 内外面ヘラミガキ、見込みは格子状暗文。	暗灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
153	椀 (瓦器) SP59	口径 14.1	上外方へ内湾して伸びる体部から、やや外反気味の口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面ヘラミガキ後指頭痕、内面ヘラミガキ。	外 灰黒色 内 乳灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
154	羽釜 (土師器) SP59	口径 27.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部は水平に伸び、丸い。体部は欠損。 口縁部内外面・体部外面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ。	淡橙茶色	4㎜以下の砂粒を含む。	良好	体部外面下位に煤付着。
155	小皿 (瓦器) 石集積	口径 9.6 器高 2.0	平らに近い底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
156 四三	壺 (須恵器) 池状遺構	底径 9.0	体部は上外方へ内湾気味に伸びた後内上方へ伸びる。底部は平底。口縁部は欠損。 底部内外面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰青色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
157 四三	同上 池状遺構	口径 21.6	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。体部は欠損。 体部内面不定方向のナデ・指押さえ、他は回転ナデ。	茶褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内面体部外面に自然釉付着。ロクロ右方向。
158 四三	同上 池状遺構	口径 29.6	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部は欠損。体部内面に1本の接合痕を有する。口縁部外面に沈線を有する。 口縁部内外面回転ナデ、体部外面タタキ、内面指押さえ。	外 茶赤色 内 茶褐色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内面上位に自然釉付着。体部外面灰かぶり。ロクロ方向不明。
159	小皿 (土師器) 池状遺構	口径 8.4 器高 1.3	平らに近い底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
160 四三	同上 池状遺構	口径 8.8 器高 1.5	広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	0.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
161 四三	同上 池状遺構	口径 8.6 器高 1.4	広く平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	2.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
162 四四	小皿 (土師器) 池状遺構	口径 8.2 器高 1.4	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	外 乳灰色 内 乳茶灰色	3㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。
163 四四	同上 池状遺構	口径 9.0 器高 1.5	平らと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	3㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
164 四四	同上 池状遺構	口径 9.0 器高 1.5	平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
165 四四	同上 池状遺構	口径 9.0 器高 1.4	広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
166 四四	同上 池状遺構	口径 8.9 器高 1.6	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
167 四四	同上 池状遺構	口径 9.2	丸味をもつ底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰褐色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
168 四四	同上 池状遺構	口径 8.6 器高 1.5	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
169	同上 池状遺構	口径 9.2 器高 1.5	僅かに窪む底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
170 四四	同上 池状遺構	口径 9.6 器高 1.8	僅かに窪む底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
171 四四	同上 池状遺構	口径 9.0 器高 1.6	平坦な底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰黄色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
172 四四	同上 池状遺構	口径 9.2 器高 1.7	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳灰茶色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
173	同上 池状遺構	口径 10.2	外上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
174 四四	台付小皿 (土師器) 池状遺構	口径 8.2 器高 2.5 底径 5.4	平らな底部から短く直上して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ外反して伸びる。端部は丸い。 底部内外面ナデ、他はヨコナデ。	乳灰黄色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
175 四四	同上 池状遺構	口径 8.0 器高 3.7 底径 5.4	平らな底部から上外方へ短く内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ外反して伸びる。端部は丸い。 底部内外面ナデ、他はヨコナデ。	乳灰黄色	微砂粒を少量含む。	良好	
176 四五	同上 池状遺構	口径 10.0	平らな底部から屈曲し上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる。端部は欠損。 底部内外面ナデ、他はヨコナデ。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	底部外面に煤付着。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
177 四五	皿 (土師器) 池状遺構	口径 12.8 器高 2.9	広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
178 四五	同上 池状遺構	口径 13.8 器高 3.6	広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 乳灰茶色 内 乳灰褐色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
179 四五	羽釜 (土師器) 池状遺構	口径 20.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部・体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 茶橙色 内 暗茶褐色	3.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面体部外面上位に煤付着。
180 四五	同上 池状遺構	口径 29.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部は外上方へ伸び、丸い。体部は欠損。 口縁部内外面・体部外面ヨコナデ、内面ヘラナデ。	茶橙色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
181 四五	小皿 (瓦器) 池状遺構	口径 8.5 器高 2.0	若干の窪みをもつ底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	暗灰青色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
182 四五	同上 池状遺構	口径 8.8 器高 2.0	やや丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	暗灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
183	同上 池状遺構	口径 8.4 器高 1.9	丸い底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
184 四五	同上 池状遺構	口径 8.2 器高 1.6	丸味をもつ底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
185 四五	同上 池状遺構	口径 8.2 器高 1.8	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。
186 四五	同上 池状遺構	口径 9.0 器高 2.0	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	完形。
187 四五	同上 池状遺構	口径 8.8 器高 2.0	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ・指頭痕、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	灰青色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
188 四六	同上 池状遺構	口径 8.6 器高 2.0	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みはジグザグ状暗文。	暗灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
189 四六	同上 池状遺構	口径 8.9 器高 2.3	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ後ヘラミガキ、平行状暗文。	暗灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
190 四六	同上 池状遺構	口径 8.6 器高 2.2	窪みをもつ底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ内面ヘラナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
191 四六	椀 (瓦器) 池状遺構	口径 15.0 器高 5.4 底径 6.8	半球形の杯体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 外面指頭痕後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、高台外面ヨコナデ、底部外面ナデ、見込みは斜格子状暗文。	暗灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
192 四六	同上 池状遺構	口径 14.8 器高 5.4 底径 5.4	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 口縁部外面ナデ後ヘラミガキ、底部外面ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは格子状暗文。	淡灰色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	
193 四七	同上 池状遺構	口径 14.6 器高 5.9 底径 4.8	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 内外面ナデ後ヘラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	暗灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
194 四七	同上 池状遺構	口径 15.6 器高 5.5 底径 5.7	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 外面ナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ高台外面ナデ、見込みは格子状暗文。	外 灰色～暗灰青色 内 灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
195 四七	同上 池状遺構	口径 15.6 器高 5.4 底径 6.2	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面U字形の高台が付く。 口縁部外面ナデ後ヘラミガキ・指頭圧痕、底部外面ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは格子状暗文。	外 灰色 内 灰茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
196	同上 池状遺構	口径 15.2	上外方へ内湾して伸びる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ、見込みは格子状暗文。	灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
197 四七	同上 池状遺構	口径 14.4	上外方へ内湾して伸びる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ、見込みは格子状暗文。	灰青色	1 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
198	同上 池状遺構	口径 15.8	上外方へ内湾して伸びる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
199	同上 池状遺構	口径 15.3	上外方へ内湾して伸びる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面ナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	灰色	精良。	良好	
200	同上 池状遺構	口径 14.0 器高 5.2 底径 5.0	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 内外面ヘラミガキ、高台ナデ、見込みは格子状暗文。	外 灰色 内 乳灰色	3 ㎜以下の長石・石英等の砂粒を微量に含む	良好	
201 四七	同上 池状遺構	口径 14.8 器高 3.2 底径 3.2	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭圧痕後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、高台ヨコナデ、見込みは平行状暗文。	暗灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
202 四八	同上 池状遺構	口径 15.0 器高 4.7 底径 3.3	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 外面ナデ・指頭圧痕、内面ヘラミガキ、高台ナデ、見込みは平行状暗文。	乳灰色～暗灰青色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。
203 四八	同上 池状遺構	口径 14.2 器高 4.1 底径 4.4	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には低い断面台形の高台が付く。 口縁部・高台外面ヨコナデ、体部外面指頭痕、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰黒色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
204	椀 (瓦器) 池状遺構	口径 14.4 器高 4.2 底径 4.0	半球形の杯体部から上外方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面指押え後ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
205	同上 池状遺構	口径 14.4 器高 4.4 底径 4.4	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 外面ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	乳灰色～灰色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	
206 四八	同上 池状遺構	口径 15.0 器高 4.5 底径 4.2	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 外面ナデ・指頭圧痕、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰青色～灰青色	4 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
207 四八	同上 池状遺構	口径 14.6 器高 4.7 底径 4.8	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 口縁部・体部外面ヨコナデ後指頭痕、高台ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文	暗灰青色	2 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
208 四九	同上 池状遺構	口径 14.6 器高 4.0 底径 3.4	浅い半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 外面ナデ後指頭痕、内面ナデ後ヘラミガキ高台外面ナデ、見込みは平行状暗文。	淡灰色	2 ㎜以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	
209	同上 池状遺構	口径 13.6	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は肥厚し、丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	灰青色～乳灰色	1 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
210	同上 池状遺構	口径 15.2 器高 4.9 底径 4.0	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 口縁部外面ヨコナデ,外面ナデ・指押さえ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	灰青色～灰褐色	精良。	良好	
211	同上 池状遺構	口径 15.0 器高 3.8 底径 4.0	浅い半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 口縁部外面ヨコナデ、外面指押さえ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰青色	1 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
212	同上 池状遺構	口径 15.2	斜上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面指押さえ後ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	灰青色	1 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
213	同上 池状遺構	口径 13.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至り、端部で外方へつまみ丸く終わる。底部は欠損。 端部外面ヨコナデ、外面ナデ・指頭痕、内面ヘラミガキ。	外 暗灰色～乳灰色 内 黒灰色	精良。	良好	
214	同上 池状遺構	口径 14.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭圧痕、内面ヘラミガキ。	外 暗灰青色～乳灰色 内 灰色～淡灰色	精良。	良好	
215	同上 池状遺構	口径 14.2	半球形と思われる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面上位ヨコナデ、下位・体部外面ナデ・指頭痕、内面ヘラミガキ。	外 灰色 内 乳灰色	1 ㎜以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
216	椀 (瓦器) 池状遺構	口径 14.0	半球形と思われる底体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	外 灰褐色～乳灰色 内 灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
217	同上 池状遺構	口径 16.0	半球形と思われる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面ナデ・指頭痕、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	外 灰褐色～乳灰色 内 灰褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
218	同上 池状遺構	口径 14.5	やや浅い半球形の体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰青色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
219	同上 池状遺構	口径 14.4	やや浅い半球形の体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面ナデ・指頭痕、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	外 暗灰色 内 灰色	精良。	良好	
220	同上 池状遺構	口径 15.2	やや浅い半球形の体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
221 四九	小皿 (青磁器) 池状遺構	口径 9.6 器高 2.1	平らに近い底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部内面に双魚文が描かれている。 内外面回転ナデ。	淡緑色	精良。	良好	釉を施す。 ロクロ方向不明。
222 四九	椀 (白磁器) 池状遺構	底径 6.0	口縁部は欠損。丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる。底部外面には断面U字形の高台が付く。底部内面には沈線とハケ状のもので模様が描かれている。 外面回転ナデ、内面ナデ後ハケナデ(10本)。	外 淡緑灰色～淡灰色 内 淡緑灰色	精良。	良好	釉を施す。 ロクロ方向不明。
223 四九	同上 池状遺構	底径 6.2	口縁部は欠損。底部は外上方へ内湾気味に伸びる。底部外面には断面長方形の高台が付く。底部内面に沈線が巡る。 内外面回転ナデ。	淡灰緑色～淡灰色	精良。	良好	内外面に釉施す。 ロクロ方向不明。
224 四九	同上 池状遺構	底径 5.5	口縁部は欠損。丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる。底部外面には断面U字形の高台が付く。底部内面に沈線が巡る。 内外面回転ナデ。	淡灰緑色～淡灰青色	精良。	良好	底部外面・内面に釉を施す。 ロクロ方向
225 四九	椀 (磁器) 池状遺構	底径 5.0	口縁部は欠損。平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる体部に至る。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 外面ハケナデ（６本）、内面回転ナデ。	灰緑色～灰青色	精良。	良好	内外面に釉を施す。
226 五〇	平瓦 池状遺構	厚さ 2.2	均整唐草文を施す。	淡茶灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
227	甕 (土師器) 包含層	口径 14.3	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ（外８本・内10本）。	明赤褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
228	同上 包含層	口径 17.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ（外11本）。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
229	甕 (土師器) 包含層	口径 14.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 体部外面ナデ、他はヨコナデ。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
230	同上 包含層	口径 13.3	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。体部は欠損。体部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(5本)、内面ナデ。	淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
231	同上 包含層	口径 29.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、上に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳茶橙色	0.5㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
232	高杯 (土師器) 包含層	底径 8.4	脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる裾部に至る。端部は外傾する面をもつ。杯部は欠損。 外面ナデ、柱状部内面しぼり目、裾部内面ハケナデ(11本)。	淡赤褐色	6.5㎜以下の長石・チャート・赤褐色酸化粒雲母等の砂粒を多量に含む。	良	
233	同上 包含層	底径 10.4	脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる裾部に至る。端部は丸い。杯部は欠損。裾部上位に三方孔を有する。裾部内面上位に1本の接合痕を有する。 外面ハケナデ(13本)、柱状部内面くりぬき、裾部内面ハケナデ。	明赤褐色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
234 五〇	土錘 包含層		管状形を呈する。 ナデ。	暗灰茶色	1㎜以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
235	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径 10.7	平らな天井部から下外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。内面にかえりを有し、かえり端部は鈍く尖る。つまみは欠損。 外面1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗青灰色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
236	同上 包含層	口径 10.6 器高 2.3	上面凹状の天井部から外下方へ伸びる。稜は痕跡なし。口縁部は下外方へ伸び、端部は丸い。 天井部外面糸切り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	明青灰色	5㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
237	杯身 (須恵器) 包含層	口径 10.2 受部径 13.4 立ち上がり高 1.2	深く丸みをもつ底体部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。 底体部外面約1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
238	同上 包含層	口径 12.9 受部径 16.0 立ち上がり高 2.3	体部は上外方へ内湾気味に伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	青灰色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
239	高杯 (須恵器) 包含層	底径 9.0	脚部は下外方へ外反気味に伸びる裾部に至る。端部は凸面状を成す。杯部は欠損。脚部に三方孔の方形スカシを有する。 内外面回転ナデ。	明青灰色	0.5㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
240	高杯 (須恵器) 包含層	底径 8.9	下外方へ伸びる裾部に至る。端部はゆるやかに下内方へ屈曲する。杯部は欠損。脚部に三方孔の方形スカシを有する。 内外面回転ナデ。	明青灰色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
241	同上 包含層	底径 10.9	脚部は下外方へ伸びた後外下方へ伸びる裾部に至る。端部はゆるやかに下内方へ屈曲する。杯部は欠損。脚部に三方孔の台形スカシを有する。 内外面回転ナデ。	暗青灰色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
242	甕 (須恵器) 包含層	口径 10.0	外下方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する凹面をもつ。体部は欠損。 体部内面タタキ（5本）、他は回転ナデ。	乳灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
243 五〇	硯 (須恵器) 包含層	口径 14.8	平らな底部から下外方へ短く伸びた後上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。脚部は下外方へ伸びる。 脚部内面調整不明瞭、他は回転ナデ。	淡灰青色	2㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	ロクロ左方向。
244	中皿 (土師器) 包含層	口径 13.8	平らと思われる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。底部は欠損。 底部外面ナデ、他はヨコナデ。	茶褐色	3㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
245	同上 包含層	口径 14.0 器高 3.0	下外方へ伸びると思われる底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 淡灰褐色 内 乳灰褐色	0.5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
246	同上 包含層	口径 13.0	丸みをもつ底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡赤褐色	0.5㎜以下の赤褐色酸化粒・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
247 五〇	杯 (土師器) 包含層	口径 13.4 器高 3.2	平らに近い底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面指ナデ、内面摩耗の為調整不明瞭。	乳灰茶色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
248	同上 包含層	口径 13.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	赤褐色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
249	同上 包含層	口径 14.8 器高 3.0	上外方へ伸びる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	淡赤橙色	0.5㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
250 五〇	同上 包含層	口径 13.3 器高 2.5	平らな底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶灰色	0.5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
251	小皿 (土師器) 包含層	口径 8.9 器高 1.4	下外方へ伸びる底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
252	同上 包含層	口径 9.0 器高 1.4	平らに近い底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶褐色	0.5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
253	小皿 (土師器) 包含層	口径 8.4 器高 1.2	平らな底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡赤褐色	0.5 ㎜以下の石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
254	同上 包含層	口径 8.0 器高 1.4	平らな底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰茶色	3㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
255 五〇	小皿 (瓦器) 包含層	口径 8.2 器高 1.9	丸みをもつ底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部丸い。 口縁部外面ナデ後ヘラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	淡灰青色	精良。	良好	
256 五〇	同上 包含層	口径 9.2 器高 2.1	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部内方に肥厚し、丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	乳灰色～灰青色	精良。	良好	
257 五〇	椀 (瓦器) 包含層	口径 14.8 器高 4.7 底径 4.4	椀形の底体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	灰黒色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
258 五〇	同上 包含層	口径 14.8 器高 4.7 底径 5.9	椀形の底体部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面台形の高台が付く。 外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	暗灰黒色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
259	同上 包含層	口径 14.2 器高 4.9 底径 4.4	椀形の底体部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
260	同上 包含層	口径 13.8	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面指押さえ後ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	暗灰色	精良。	良好	
261	同上 包含層	口径 14.8	上外方へ内湾して伸びる体部から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	淡灰黒色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
262	同上 包含層	口径 15.4	外上方へ内湾気味に伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面指押さえ後ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	灰褐色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
263	同上 包含層	口径 15.6	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	乳灰色	精良。	良好	
264 五〇	平瓦 包含層	厚さ 2.2	均整唐草文を施すと思われる。	淡灰茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
265	丸瓦 包含層	厚さ 1.8	凹面布目、凸面縄目	凹面 淡灰茶色 凸面 明褐灰色 断面 淡灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
266	同上 包含層	厚さ 3.3	凹面布目、凸面縄目	凹面 淡茶灰色 凸面 明赤褐色 断面 明赤褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
267 五〇	小型丸底壺 (土師器) 包含層	口径 9.2 器高 8.2	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位・内面ナデ、下位ヘラ削り。	淡茶橙色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
268	壺 (土師器) 包含層	口径 17.5	口縁部は上方へ伸びた後屈曲して上外方へ外反して伸び、端部は上につまみ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	茶橙色	5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
269	甕 (土師器) 包含層	口径 16.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 暗茶褐色 内 暗茶赤色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
270	同上 包含層	口径 17.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	褐灰色	2㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
271	同上 包含層	口径 13.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(7本)後ハケナデ(11本)、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	3㎜以下の角閃石・雲母・長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
272	同上 包含層	口径 15.1	口縁部は上外方へ伸び、端部は内外方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 外面ヨコナデ、内面ハケナデ(7本)。	淡茶灰色	2㎜以下の赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
273	同上 包含層	口径 18.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	灰茶色	5㎜以下の雲母・角閃石・チャート長石等の砂粒を少量含む。	良好	
274	同上 包含層	口径 8.2	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びつ口縁部に至る。端部は上方へ長く拡張する。体部は欠損。吉備地方の酒津式の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩耗の為調整不明瞭。	淡茶橙色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
275 五〇	器台 (土師器) 包含層	口径 9.0	上外方へ内湾して伸びる杯底部から口縁部に至る。端部は上方へ長くつまみ上げ、外側に凹面をもつ。脚部は欠損。 外側ヘラ削り後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	淡茶橙色	1㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
276 五〇	高杯 (土師器) 包含層	口径 17.7	平らに近い杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラミガキ。	淡茶褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
277 五一	同上 包含層	口径 18.8	平らに近い杯底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。脚部は欠損。 外面ヨコナデ後ハケナデ（8本）、内面上位ハケナデ（8本）、下位ナデ。	淡茶橙色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
278 包含層	甕 (土師器) 包含層	口径 13.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。体部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（14本）、内面指ナデ。	乳灰茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
279 包含層	同上 包含層	口径 15.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上に面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳茶褐色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
280 包含層	同上 包含層	口径 15.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	乳灰茶色	4.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
281 包含層	同上 包含層	口径 18.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ。	乳灰橙色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
282 包含層	同上 包含層	口径 28.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面ハケナデ（13本）、内面ヘラ削り。	乳灰橙色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
283 包含層	羽釜 (土師器) 包含層	口径 17.0 鍔部径 22.8	上内方へ内湾して伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部外面付近に外上方へ伸びる鍔が巡る。端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	茶褐色	2㎜以下の雲母・長石角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
284 包含層	同上 包含層	口径 24.6 鍔部径 29.0	上方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部外面付近に水平に伸びる鍔が巡る。端部は丸い。体部は欠損。 外面ナデ、内面ヨコナデ。	外　乳茶褐色～茶褐色 内　乳茶褐色	1㎜以下の雲母・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
285 包含層	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径 9.7	平らな天井部から下外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。内面にかえりを有し、かえり端部は鈍く尖る。つまみは欠損。 外面約1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗青灰色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
286 包含層	同上 包含層	口径 10.2	上面凹状の天井部から下外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。内面にかえりを有し、かえり端部は丸い。つまみは欠損。 外面1/5 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	明青灰色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
287	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径 11.2	丸みをもつ天井部から外下方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。内面にかえりを有し、かえり端部は鈍く尖る。つまみは欠損。 外面1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
288 五一	同上 包含層	口径 15.5	平らな天井部から外下方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。内面にかえりを有し、かえり端部は尖る。つまみは欠損。 外面1/6 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	明青灰色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
289 五一	同上 包含層	口径 10.0 器高 3.5	平らな天井部から外下方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。稜は痕跡なし。 内外面回転ナデ。	明青灰色	4㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
290	同上 包含層	口径 11.3 器高 3.9	丸みをもつ天井部から外下方へ伸びる。稜は痕跡なし。口縁部は下内方へ内湾して伸び端部は丸い。 天井部外面糸切り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	青灰色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
291	杯身 (須恵器高) 包含層	口径 14.4 器高 4.4	平らな底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗青灰色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
292	同上 包含層	口径 14.6 器高 4.3 底径 9.0	平らな底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面方形の高台が付く。 内外面回転ナデ。	乳灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
293	同上 包含層	口径 14.6 器高 5.2 底径 10.2	外上方へ伸びる底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面台形の高台が付く。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰青色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 外面に自然釉付着。
294	同上 包含層	口径 8.4 器高 3.4	丸みをもつ底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部外面調整不明瞭、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	淡灰茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
295	同上 包含層	口径 9.9 器高 3.7	外上方へ伸びる底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部外面糸きり、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	明青灰色	5㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ方向不明。
296 五一	同上 包含層	口径 9.4 器高 3.5	丸みをもつ底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面回転ナデ。	乳灰色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
297	同上 包含層	口径 9.7 器高 3.7	外上方へ伸びる底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部外面糸きり、他は回転ナデ。	青灰色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ方向不明。
298	同上 包含層	口径 9.3 器高 3.8	丸みをもつ底部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部外面糸きり、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	明青灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
299	同上 包含層	口径 9.3	丸みをもつと思われる底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗青灰色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
300	鉢 (須恵器) 包含層	口径 19.6	上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は外傾する凹面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
301	鉢 (須恵器) 包含層	口径 27.4	上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、外傾する面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
302	同上 包含層	口径 21.6	上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は欠損。 外面回転ナデ、内面不定方向のナデ。	灰青色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
303	同上 包含層	口径 28.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は外傾する凹面をもつ。底体部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
304	同上 包含層	口径 29.8	上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰青色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
305	同上 包含層	口径 19.6	上内方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ（5本）、体部外面タタキ（8本）後ハケナデ、他は回転ナデ。	明青灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
306	同上 包含層	口径 21.7	上内方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ（7本）、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ、他は回転ナデ。	明青灰色	4㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
307	同上 包含層	口径 25.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は下方にたれ下がり、外側に凸面をもつ。体部は欠損。 端部外面・内面回転ナデ、口縁部外面タタキ（3本）。	乳灰色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
308	同上 包含層	口径 25.2	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面回転カキ目、体部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	外　灰黒色 内　乳灰色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	口縁部内面灰かぶり。
309	同上 包含層	口径 20.1	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外面に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。体部外面タタキ(4本）後ハケナデ（9本）、内面円弧タタキ。	乳灰色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
310	鉢 (土師器) 包含層	口径 22.8	上外方へ伸びる体部から上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 体部外面ナデ・指頭痕、他はヨコナデ。	乳茶灰色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
311 五一	同上 包含層	口径 17.2	上外方へ内湾して伸びる体部から上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、内面放射状暗文。	乳茶橙色	0.5㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
312 五一	同上 包含層	口径 18.6 器高 6.5	やや丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面ヘラ削り、内面放射状暗文。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	完形。
313	同上 包含層	口径 18.8	外上方へ伸びる底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ヘラ削り、内面放射状暗文。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
314 五一	鉢 (土師器) 包含層	口径 15.4 器高 5.3	丸みをもつ底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面ヘラ削り、内面放射状暗文。	乳茶橙色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
315	同上 包含層	口径 18.0	上外方へ内湾して伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外　淡赤褐色 内　乳茶赤色	3㎜以下の赤褐色酸化粒等の砂粒を微量含む。	良好	
316	同上 包含層	口径 14.4 器高 4.8	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面ヘラミガキ、内面放射状暗文。	淡赤褐色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
317	同上 包含層	口径 12.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 外面ナデ、内面放射状暗文。	淡茶橙色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	底部外面に黒斑有。
318	同上 包含層	口径 10.6 器高 3.9	丸い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 内外面ナデ。	外　赤褐色 内　乳茶褐色	0.5 ㎜以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
319	同上 包含層	口径 15.8	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 外面ヨコナデ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
320	同上 包含層	口径 14.9	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 外面ヨコナデ、内面放射状暗文。	明赤褐色	2㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
321	同上 包含層	口径 15.8	斜上方へ伸びる底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面放射状暗文	乳灰茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
322	同上 包含層	口径 12.4	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶褐色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
323 五一	同上 包含層	口径 10.8 器高 3.0	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面剝離の為調整不明瞭。	明赤褐色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
324 五一	同上 包含層	口径 10.6 器高 3.2	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面ナデ。	茶赤褐色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
325	同上 包含層	口径 10.0 器高 3.0	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	淡茶橙色	1㎜以下の赤褐色酸化粒・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
326	同上 包含層	口径 12.0 器高 3.3	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内湾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	淡茶赤色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
327	同上 包含層	口径 14.0 器高 2.3	平らな底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰褐色	0.5 ㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
328 五一	鉢 (土師器) 包含層	口径 21.0 器高 3.6	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面ナデ・指頭痕、内面放射状暗文。	外 淡赤橙色 内 赤橙色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
329	同上 包含層	口径 22.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面調整不明瞭、内面放射状暗文。	淡赤褐色	0.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
330	同上 包含層	口径 22.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面放射状暗文。	淡赤橙色	1 ㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
331	皿 (土師器) 包含層	口径 15.0 器高 3.1	平らな底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面放射状暗文、見込みは螺旋状暗文。	淡赤橙色	2 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
332	同上 包含層	口径 24.0	平らな底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ。	赤橙色	1 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
333	同上 包含層	口径 23.0	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内方に肥厚し、丸い。底部は欠損。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	乳灰橙色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
334	台付皿 (土師器) 包含層	底径 11.6	底部は平らである。脚部は下外方へ伸びた後外下方へ短く伸びる裾部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 底部内面摩耗の為調整不明瞭、底面ナデ、他はヨコナデ。	乳茶橙色	2.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
335	鉢 (土師器) 包含層	口径 14.4	上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	乳灰褐色	2 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
336 五一	小皿 (土師器) 包含層	口径 7.8 器高 1.2	平らな底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ。	乳茶褐色	3 ㎜以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
337 五一	同上 包含層	口径 9.1 器高 1.9	平らな底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 淡灰茶色 内 乳灰茶色	3 ㎜以下の雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
338 五一	同上 包含層	口径 8.0 器高 1.4	丸みをもつ底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ。	茶灰褐色	1.5 ㎜以下の長石・雲母・石英・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
339	同上 包含層	口径 8.6 器高 1.3	平らに近い底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	0.5 ㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
340	同上 包含層	口径 9.2 器高 1.2	平らな底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡赤褐色	0.5 ㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)	器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
341	小皿 (土師器) 包含層	口径 器高	8.8 1.6	平らな底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡赤茶色	0.5 ㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
342	同上 包含層	口径 器高	9.8 1.5	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶灰色	0.5 ㎜以下の長石・雲母等の砂粒を微量含む。	良好	
343 五一	同上 包含層	口径 器高	9.2 1.4	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内面ヨコナデ、他はナデ。	外 乳灰茶色 内 淡灰茶色	5 ㎜以下の雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
344 五二	同上 包含層	口径 器高	8.6 1.4	やや外下方へ伸びる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。 内外面ナデ。	茶灰褐色	3 ㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
345	同上 包含層	口径 器高	9.0 1.4	やや外下方へ伸びる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ。	灰茶褐色	3 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
346	同上 包含層	口径 器高	9.0 1.6	外下方へ伸びる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶灰色	0.5 ㎜以下の石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
347	中皿 (土師器) 包含層	口径	12.4	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡灰褐色	0.5 ㎜以下の赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
348	同上 包含層	口径	14.0	上外方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。		0.5 ㎜以下の赤褐色酸化粒・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
349	同上 包含層	口径	13.0	上外方へ伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 体部外面ナデ、他はヨコナデ。	淡灰茶色	0.5 ㎜以下の赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
350	甕 (土師器) 包含層	口径	35.0	上外方へ伸びる体部から上外方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（２本）、内面ハケナデ（７本）。	乳灰橙色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
351	羽釜 (土師器) 包含層	口径 鍔部径	25.0 34.0	上外方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部外面には水平に伸びる鍔が巡る。端部は円い。体部中位以下は欠損。 内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳茶橙色	2 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
352	小皿 (瓦器) 包含層	口径 器高	8.8 2.2	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ後ヘラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	灰青色	精良。	良好	
353	同上 包含層	口径 器高	8.8 2.1	平らに近い底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ後ヘラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	青灰色	精良。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
354 五二	小皿 (瓦器) 包含層	口径 8.8 器高 2.1	丸みをもつ底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ、見込みは斜格子状暗文。	灰褐色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
355 五二	同上 包含層	口径 9.2 器高 2.1	平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	淡青灰色	精良。	良好	
356 五二	同上 包含層	口径 8.4 器高 2.2	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	灰青色	精良。	良好	
357	同上 包含層	口径 8.4	丸みをもつ底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	淡灰色	7㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
358	同上 包含層	口径 9.6 器高 2.0	平らな底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	青灰色	精良。	良好	
359	同上 包含層	口径 7.6 器高 1.9	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	淡灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
360	同上 包含層	口径 8.0 器高 2.3	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内外方に肥厚し、丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	灰褐色～乳灰色	精良。	良好	
361 五二	同上 包含層	口径 8.5 器高 1.9	丸みをもつ底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面指押さえ・ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	灰青色	精良。	良好	
362	椀 (瓦器) 包含層	口径 15.4 器高 6.0 底径 6.2	半球形の底体部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	暗灰褐色	精良。	良好	
363	同上 包含層	口径 14.6	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、体部外面指押さえ後ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	灰褐色	精良。	良好	
364	同上 包含層	口径 17.0	外上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面指押さえ後ヘラミガキ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは格子状暗文。	灰黒色～乳灰色	精良。	良好	
365	同上 包含層	口径 14.4	斜上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	灰黒色	精良。	良好	
366	同上 包含層	口径 15.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面指押さえ後ヘラミガキ、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは斜格子状暗文。	乳灰色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
367	椀 (瓦器) 包含層	口径 16.2	外上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	暗灰色	精良。	良好	
368	同上 包含層	口径 15.8	斜上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内面ナデ後ヘラミガキ。	灰黒色	精良。	良好	
369 五二	緑磁器 包含層	口径 12.4 器高 2.5 底径 3.6	外上方へ伸びる体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は突出した窪み底。 内外面ナデ。	緑灰色～茶灰色	精良。	良好	外面に鉄釉付着。 内面に釉付着。
370 五二	白磁器 包含層	底径 7.0	体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した窪み底。口縁部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	精良。	良好	内外面に釉付着。 ロクロ方向不明。
371	平瓦 包含層	厚さ 2.0	凹面布目、凸面縄目。	凹面 淡茶灰色 凸面 淡茶褐色 断面 淡茶褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

第３調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 五二	小型丸底壺 (土師器) 包含層	口径　8.2 器高　9.5 最大径　10.0	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ後ハケナデ（７本）、内面ヘラ削り。	外　淡茶褐色～黒茶色 内　淡茶褐色	２㎜以下の長石・石英雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
2 包含層	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径　12.8 稜径　12.1	天井部から下外方へ伸びる稜に至る。稜は鋭い。口縁部は下外方へ伸び、端部は下に凹面をもつ。天井部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
3 包含層	同上 包含層	口径　12.6 器高　4.0 稜径　12.4	低く平らに近い天井部から外下方へ伸びる稜に至る。稜は鈍い。口縁部は下外方へ伸び端部は内傾して凹面をもつ。 天井部外面2/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰褐色	３㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
4 五二	同上 包含層	口径　14.0 稜径　13.0	平らと思われる天井部から下外方へ内湾して伸びる稜に至る。稜は鋭い。口縁部は下外方へ伸び、端部は下に凹面をもつ。天井部は欠損。 天井部外面摩耗の為調整不明瞭、他は回転ナデ。	乳灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
5 五二	杯身 (須恵器) 包含層	口径　10.2 器高　4.9 受部径　12.4 立ち上がり高 2.0	深く丸みをもつ底体部から上外方へ内湾して伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、内傾して凹面をもつ。 底体部外面2/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　淡灰色 内　乳灰色	３㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。 ロクロ右方向。
6 五二	鉢 包含層	口径　11.6 器高　5.3 受部径　14.0 立ち上がり高 2.0	深く平らな底体部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は上外方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は内傾する凹面をもつ。端部内面に凸線が巡る。 底体部外面1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	3.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。 ロクロ左方向。 外面3/5 に灰かぶり。 立ち上がり内面にヘラ記号有。
7 包含層	同上 包含層	口径　13.8 受部径　13.8 立ち上がり高 1.3	体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
8 五二	同上 包含層	口径　11.2 器高　4.3 受部径　14.2 立ち上がり高 1.0	深く平らな底体部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。 底体部外面1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　暗灰褐色 内　乳灰青色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。 ロクロ左方向。 底体部外面に自然釉付着。
9 包含層	同上 包含層	口径　12.0 受部径　14.4 立ち上がり高 0.9	体部は上外方へ内湾して伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	外　淡灰青色 内　乳灰色	１㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
10 包含層	高杯 (須恵器) 包含層	底径　19.4	杯部は欠損。裾部は下外方へ伸び、端部は外下方へつまみ出し、外傾する凹面をもつ。脚部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。
11 包含層	皿 (土師器) 包含層	口径　15.8	平らと思われる底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、つまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	外　乳灰橙色 内　暗黒灰色	3.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
12	鉢 (瓦器) 包含層	口径 22.0 器高 5.6	椀形の底体部から上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面ヘラミガキ、口縁部内面ヨコナデ、底部内面ナデ。	外 灰青色～乳灰色 内 乳灰色	精良。	良好	
13	丸瓦 包含層	厚さ 1.4	凹面布目、凸面縄目。	凹面 乳灰色 凸面 灰褐色 断面 灰褐色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
14	同上 包含層	厚さ 2.2	凹面布目、凸面縄目。	凹面 乳灰褐色 凸面 淡灰褐色 断面 淡灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

第４調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	杯蓋 (須恵器) SK４	口径　9.8	丸味をもつ天井部から下外方へ内湾して伸び、稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する面をもつ天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
2	甕 (土師器) SK11	口径　11.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部外面ハケナデ（６本）後ナデ、内面指ナデ。	乳茶褐色	１㎜以下の石英等の砂粒を少量含む。	良好	
3 五三	同上 SK11	口径　12.0 最大径　14.4	最大径を中位よりやや上にもつ球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部外面ハケナデ（５本）、内面指ナデ。	外　乳茶褐色～茶橙色 内　乳茶褐色	1.5 ㎜以下の長石・雲母・石英・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む	良好	体部内外面下位に煤付着。
4 SK11	同上	口径　11.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。頸部内面に１本の接合痕を有する。 口縁部外面ヨコナデ．内面ヨコナデ後ハケナデ（５本）、体部外面ハケナデ（10本）、内面指ナデ。	淡茶褐色	２㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
5 五三	同上 SK11	口径　旭.4	上内方へ内湾して伸びる体部かろ屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	茶褐色	１㎜以下の雲母・角閃石等の砂粒少量含む。	良好	
6 五三	同上 SK11	口径　12.6 器高　15.5 最大径　15.2	球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ鈍く尖る。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面上位ハケナデ（10本）後指ナデ、中位以下ヘラ削り。	乳茶色	２㎜以下の長石・赤褐色酸化粒・石英等の砂粒を少量含む。	良好	完形。 体部外面中位以下・内面下位に煤付着。
7 SK11	同上	口径　15.2	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもち、沈線が巡る。体部は欠損。体部内面に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	外　乳茶色 内　茶褐色	２㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
8 SK11	同上	口径　15.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。頸部内面に１本の接合痕を有する。 口縁部外面ヨコナデ・指頭痕、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（７本）、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	１㎜以下の赤褐色酸化粒・石英・長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
9 SK11	同上	口径　17.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ナデ、内面ナデ。	茶橙色～茶褐色	1.5 ㎜以下の石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
10 SK11	同上	口径　18.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ・指押さえ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（５本）、内面ヘラ削り。	淡茶橙色	３㎜以下の長石･石英･雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
11 五三	甕 (土師器) SK11	口径 18.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は肥厚し、内側に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部・頸部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（6本）、内面ナデ。	淡茶褐色～茶橙色	2㎜以下の角閃石・雲母・長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
12 五三	同上 SK11	口径 18.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ後ハケナデ（3本）、内面ヘラ削り。	外　茶橙色 内　乳茶褐色～茶褐色	1㎜以下の雲母・石英・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
13 SK11	甑 (土師器)		口縁部・底部は欠損。体部は上外方へ内湾気味に伸びる筒形。把手は舌状形を呈する。 外面ハケナデ（8本）、内面ナデ後ハケナデ（14本）、把手外面ナデ。	乳茶褐色～茶褐色～暗灰褐色	2.5㎜以下の長石・角閃石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
14 SK11	製塩土器	口径 14.4	口縁部は上方へ内湾して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外　赤茶色 内　乳茶色 断　黒灰色	4.5㎜以下の石英等の砂粒を少量含む。	やや良	
15 五三	同上 SK11	口径 3.8	口縁部は上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ナデ。	乳褐色	2㎜以下の長石・雲母・チャート等の砂粒を少量含む。	やや良	
16 SK11	同上	口径 4.5	口縁部は上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 外面タタキ後ナデ、内面ナデ。	乳茶灰色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	やや良	
17 SK11	同上	口径 2.9	口縁部は上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ナデ。	乳茶色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	やや良	
18 SK11	同上	口径 5.3	上方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 内外面ナデ。	乳灰色～乳茶色	1.5㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	やや良	
19 五三	同上 SK11	口径 4.7	上外方へ伸びる体部から上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 内外面ナデ。	外　暗灰色 内　灰色	2㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	やや良	
20 SK11	同上	口径 4.1	上方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	乳茶色	2㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	やや良	
21 SK11	同上	口径 3.6	上方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 外面タタキ後ナデ、内面ナデ。	外　淡褐色～淡灰色 内　乳茶色 断　黒灰色	4㎜以下の長石・石英・チャート等の砂粒を多量に含む。	やや良	体部外面に黒斑有。
22 五三	同上 SK11	口径 4.9	上方へ内湾して伸びる体部から上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	外　乳茶灰色 内　乳灰茶色	2㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	やや良	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
23 五三	甕 (須恵器) SK11	口径 18.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は外へつまみ、外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部外面調整不明、内面不定方向のナデ。	灰青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内外面・体部外面に自然釉付着。 ロクロ方向不明。
24	杯蓋 (須恵器) SK11	口径 12.2 稜径 11.8	天井部は欠損。天井部は外下方へ内湾して伸び、稜に至る稜は鈍く尖る。口縁部は下方へ外反して伸びる。端部は面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰青色	1.5 ㎜以下の砂粒を含む。	良好	ロクロ左方向。
25 五三	同上 SK11	口径 13.3 器高 3.7 稜径 11.8	やや低い天井部から稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は面をもつ。 天井部外面約1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	天井部外面灰かぶり。 ロクロ左方向。
26	杯身 (須恵器) SK11	口径 10.8 器高 5.2 受部径 12.8 立ち上がり高 2.0	深く丸味をもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は内傾する面をもつ。 底体部外面約1/2 不定方向のヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
27	同上 SK11	口径 9.8 受部径 12.2 立ち上がり高 1.9	やや深く丸い底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ、底部の一部は欠損。 底体部外面約2/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	底体部外面灰かぶり。 ロクロ方向不明。
28 五三	同上 SK11	口径 11.0 器高 5.0 受部径 13.2 立ち上がり高 1.5	深く丸味をもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 底体部外面4/7 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形 ロクロ右方向。
29 五三	同上 SK11	口径 11.0 器高 5.5 受部径 13.2 立ち上がり高 2.1	深く丸味をもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内上方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。 底体部外面5/7 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色～淡灰青色	3.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
30	甕 (土師器) SP30	口径 11.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ。内面ヘラナデ。	淡茶灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
31 五四	杯 (土師器) SP31	口径 14.8 器高 5.5	半球形の杯部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	茶橙色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
32	高杯 (土師器) SP50	口径 11.6	半球形の杯部から口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面上位ヨコナデ、外面下位・杯体部ハケナデ（7本）、内面ナデ。	茶橙色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
33	杯蓋 (須恵器) SP4	口径 11.3 稜径 11.2	天井部は欠損。天井部から下外方へ内湾して伸び、稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。 天井部外面約1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	1.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34	杯身 (須恵器) SP23	口径 12.2 受部径 14.8 立ち上がり高 1.9	丸味をもつと思われる杯体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する段をもつ。底部は欠損。 底体部外面約1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
35	杯蓋 (須恵器) SD1	口径 12.4 器高 4.6 稜径 12.0	やや高く丸い天井部から稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は丸い。 天井部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	乳灰色	1㎜以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	ロクロ左方向。
36 五四	高杯 (須恵器) SD1	底径 12.2	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる。端部は外に肥厚し、丸い。脚部に四方孔の長方形スカシを有する。 内外面回転ナデ。	淡灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	杯部内面に自然釉付着。ロクロ方向不明。
37	壺 (須恵器) SD1	口径 15.2	口縁部は上方へ伸びた後、端部付近で上外方へ伸びる。端部は上につまむ。体部は欠損。口縁部外面上位に1条、下位に2条1組の稜が1帯遺存する。その間には8条1組と3条1組の波状文2帯が施されている。 口縁部内外面回転ナデ。	灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。
38	壺 (土師器) SD5	口径 20.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は外傾する凹面をもつ。口縁部下位・体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ(10本)後ヨコナデ。	乳茶褐色	1㎜以下の赤褐色酸化粒・雲母・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
39 五四	甕 (土師器) SD5	口径 10.2 器高 15.9 最大径 14.2	最大径を上位にもつ球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部は丸底と思われる。 口縁部外面ヨコナデ後暗文、内面・体部外面上位ヨコナデ、体部外面中位以下ハケナデ(8本)、内面上位指ナデ、下位ヘラ削り。	乳茶橙色	2㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
40 五四	同上 SD5	口径 12.4 器高 10.5 最大径 12.8	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する凹面をもつ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ナデ。	外 淡橙赤色 内 乳茶褐色	1㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	完形。
41	同上 SD5	口径 20.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)後ナデ、内面ナデ。	外 乳茶褐色～茶色 内 乳茶褐色	3㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
42	同上 SD5	口径 20.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り。	外 乳茶橙色 内 乳茶褐色	1.5 ㎜以下の石英等の砂粒を少量含む。	良好	
43	同上 SD5	口径 12.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ヘラ削り。	外 淡茶橙色～乳茶褐色 内 乳茶褐色	1㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む	良好	体部外面一部に黒斑有。
44	同上 SD5	口径 15.4	上内方へ内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸び謹口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面・体部外面ヨコナデ、内面ナデ。	外 茶赤褐色 内 茶褐色	1㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
45	甕 (土師器) SD5	口径 21.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳茶褐色～茶褐色	2㎜以下の赤褐色酸化粒・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
46 五四	同上 SD5	口径 19.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	暗茶釉色～淡灰褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
47 SD5	同上	口径 13.4	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	1㎜以下の石英・赤褐色酸化粒・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
48 五四	同上 SD5	口径 16.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面剝離の為調整不明。	外　茶橙色～淡茶褐色 内　乳茶褐色	3㎜以下の石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
49 SD5	鉢 (土師器)	口径 8.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。体部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部外面ヨコナデ、内面・体部外面ハケナデ（内7本・外8本）、内面ナデ。	乳茶色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
50 五四	高杯 (土師器) SD5	口径 15.0 器高 11.7 底径 10.2	平らに近い杯底部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ内湾気味に伸びる柱状部から屈曲し、斜下方へ開く裾部に至る。端部は内方へつまみ上げる。 杯部内外面・脚部外面ナデ、柱状部内面くりぬき・指頭痕、裾部内面ヨコナデ。	淡茶橙色	2㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
51 五四	同上 SD5	口径 15.6 器高 11.9 底径 10.0	平らに近い杯底部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ内湾気味に伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ内湾気味に開く裾部に至る。端部は丸い。柱状部内面に1本の接合痕を有する。 杯部内外面・裾部内面ナデ、柱状部外面ナデ・指頭痕、内面くりぬき、裾部外面ヨコナデ。	茶橙色	3㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
52 五四	同上 SD5	口径 16.6	丸味をもつ杯底部から上外方へ内湾して伸びた後外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる。裾部は欠損。脚部外面上位に1本の接合痕を有する。杯部内外面・脚部外面ナデ、内面くりぬき。	外　灰褐色 内　乳灰色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
53 SD5	甑 (土師器)	口径 11.0	上方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は若干上につまみ、外傾する凹面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面上位ヨコナデ、内外面ハケナデ（内9本・外7本）。	乳茶褐色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
54 SD5	同上	口径 19.8	上方へ僅かに外反気味に伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 外面・口縁部内面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	茶橙色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
55	羽釜 (土師器) SD5	口径 27.2	上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部は水平に伸び、丸い。体部中位以下は欠損。外面に2本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面・内面上位ハケナデ（内5本・外6本）、中位ナデ。	茶褐色	2㎜以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
56 五四	土錘 SD5	径 5.1 厚み 3.2	管状形。 外面ナデ。	茶橙色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
57	杯 (土師器) SD5	口径 11.9 器高 3.9	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面剝離の為調整不明。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
58	同上 SD5	口径 12.8	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面摩耗の為調整不明。	乳茶灰色	0.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
59 五五	皿 (土師器) SD5	口径 15.0 器高 3.8	丸味をもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部一部欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳橙茶色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
60	同上 SD5	口径 14.8	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳茶灰色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
61	同上 SD5	口径 14.8	広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	外 乳灰茶色 内 乳茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
62	同上 SD5	口径 15.4	外上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方へつまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面放射状暗文。	外 乳橙茶色 内 乳灰橙色	7㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
63 五五	同上 SD5	口径 14.9 器高 2.5	広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳橙茶色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
64	同上 SD5	口径 17.4	外上方へ内湾して伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面摩耗の為調整不明。	乳灰茶色	1.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
65	同上 SD5	口径 19.8	広く平坦な底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	2.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
66 五五	同上 SD5	口径 17.0 器高 2.6	広く丸味をもつ底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳橙茶色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
67 五五	同上 SD5	口径 22.8	外上方へ伸びる底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳橙茶色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
68	皿 (土師器) SD5	口径 20.0	広く平坦な底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部の一部は欠損。 口縁部外面・端部内面ヨコナデ、底部外面ナデ、口縁部・底部内面放射状暗文。	外 乳茶灰色 内 暗灰茶色	3㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
69	台付大皿 (土師器) SD5	口径 28.6 器高 2.8	上外方へ外反して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内方へつまみ上げる。底部外面には断面長方形の高台が付く。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面放射状暗文、高台ヨコナデ。	外 乳茶灰色 内 乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
70	同上 SD5	口径 29.8 器高 3.1	外上方へ伸びる底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方へつまみ上げる。底部外面には断面逆台形の高台が付く。底部の一部は欠損。 口縁部内外面・底部外面ヨコナデ、底体部内面放射状暗文。	乳茶灰色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
71 五五	杯身 (須恵器) SD5	口径 14.2 器高 4.0	僅かに窪む底体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部外面不定方向のナデ、内面回転ナデ後不定方向のナデ、他は回転ナデ。	淡灰青色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
72	同上 SD5	口径 14.6 器高 3.4	平らに近い底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。底部の一部は欠損。 体部・底部外面回転ヘラ削り、底部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	外 淡灰青色 内 乳灰色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
73 五五	甕 (須恵器) SD5	最大径 9.8	口縁部は欠損。偏平な球形の体部から上方へ伸びる。底部は丸底。体部中位よりやや上に円孔1個が穿かれている。 底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面上中位・内面に釉付着。 ロクロ右方向。
74 五五	同上 SD5	最大径 10.0	口縁部は欠損。最大径を中位よりやや上にもつ偏平な球形の体部から上方へ伸びる。底部はやや平坦な面をもつ。体部中位に円孔1個が穿かれている。 底体部外面約3/5 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
75	鉢 (須恵器) SD5	口径 20.0	上方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。体部下位以下は欠損。 内外面回転ナデ。	淡灰色	0.5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	ロクロ右方向。
76 五五	同上 SD5	口径 21.6 器高 10.2	尖り気味の底部から上外方へ内湾気味に伸び、口縁部付近で大きく内湾して口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。 外面回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向のナデ。	淡灰青色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。 ロクロ左方向。
77 五五	甕 (須恵器) SD5	口径 16.8	内上方へ伸びる体部から直上する口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部外面タタキ(4本)、内面円弧タタキ。	灰色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面・口縁部に釉付着。 ロクロ方向不明。
78 五五	同上 SD5	口径 22.4	内上方へ伸びる体部から上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面・体部外面回転ナデ、内面円弧タタキ。	灰青色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内面上位に釉付着。 ロクロ方向不明。
79	甕 (土師器) SD6	口径 16.5	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(6本)。	茶橙色	4㎜以下の長石・角閃石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
80	甕 (土師器) SD6	口径 18.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ出し、上に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 赤茶褐色 内 乳茶褐色	2.5㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
81	同上 SD6	口径 17.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ（9本）後ヨコナデ、内面ハケナデ（7本）、体部外面ハケナデ（9本）、内面ナデ。	乳褐色	1.5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	
82	同上 SD6	口径 19.1	上内方へ内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(5本)体部外面ハケナデ（7本）、内面ナデ。	乳茶褐色	2.5㎜以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良	
83 五六	同上 SD6	口径 11.0	上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(9本)体部外面ハケナデ（10本）、内面上位ナデ、中位ハケナデ後ヘラ削り。	外 茶橙色～淡茶灰色 内 淡褐色	1.5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
84	同上 SD6	口径 17.9	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方へ若干肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。頸部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（5本）、内面ナデ。	外 茶褐色 内 赤茶色～乳茶灰色	5㎜以下の長石・雲母角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
85	同上 SD6	口径 26.3	上内方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方につまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（8本）、内面ナデ。	外 乳茶色 内 淡茶褐色	2㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
86 五六	同上 SD6	口径 21.8 器高 18.6	半楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する凹面をもつ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	外 茶橙色～茶褐色 内 乳灰茶色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	外面に煤付着。
87	杯 (土師器) SD6	口径 12.0	上外方へ伸びた後屈曲して内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、他はナデ。	外 茶橙色 内 乳茶橙色	1.5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
88	同上 SD6	口径 14.2	浅い半球形の杯底部から上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 内外面ナデ。	外 乳茶褐色～茶褐色 内 乳茶褐色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
89	同上 SD6	口径 14.6	浅い半球形の杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ、内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 内外面ナデ。	乳茶橙色	3㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
90 五六	同上 SD6	口径 14.7 器高 3.9	浅い半球形の杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、他はナデ。	外 淡茶色 内 乳褐色	1.5㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	完形。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
91	皿 (土師器) SD6	口径 16.2 器高 2.9	丸味をもつ杯底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面摩滅の為調整不明。	乳灰橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
92	同上 SD6	口径 17.0	広く平らと思われる杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は外方へ肥厚し、上に面をもつ。底部の一部は欠損。 底部外面ナデ、他はヨコナデ。	外 淡赤褐色 内 乳茶灰色	0.5 ㎜以下の長石・雲母・チャート・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
93	同上 SD6	口径 18.8	広く平らと思われる底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
94	同上 SD6	口径 14.8	広く平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳灰橙色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
95 五六	同上 SD6	口径 15.4	平らと思われる底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 乳灰茶色 内 乳茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
96	同上 SD6	口径 15.8	外上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
97 五六	同上 SD6	口径 15.6 器高 2.6	広く平坦な底部から上外方へ内湾して伸びた後、口縁端部付近で斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面剝離の為調整不明。	乳灰茶色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
98	同上 SD6	口径 17.8	上外方へ内湾して伸びた後、口縁端部付近で屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は内方へ僅かに肥厚する。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文。	外 淡茶褐色 内 暗茶褐色	2㎜以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良	
99	同上 SD6	口径 19.8	平らな杯底部から上外方へ内湾して伸びた後、口縁端部付近で斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	1.5 ㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
100 五六	同上 SD6	口径 19.6 器高 3.7	平らな杯底部から上外方へ内湾気味に伸びた後屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面放射状暗文。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
101	同上 SD6	口径 19.0	上外方へ内湾して伸びる杯体部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面放射状暗文。	外 乳灰色 内 乳灰茶色	5㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形・態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
102 五六	皿 (土師器) SD6	口径 21.2 器高 2.9	平坦な杯底部から上外方へ内湾気味に伸びた後、口縁端部付近で斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。 口縁部外面・端部内面ヨコナデ、底部外面ナデ、底体部内面放射状暗文。	乳茶橙色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
103	鉢 (土師器) SD6	口径 19.4	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、上に面をもつ。底部は欠損。 外面ナデ、内面摩滅の為調整不明。	外 淡茶橙色～乳茶褐色 内 乳茶褐色	2㎜以下の赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む	良好	
104	同上 SD6	口径 20.2	上外方へ内湾して伸びる杯体部から口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、上に面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、内面剝離の為調整不明。	乳茶褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面下位に黒斑有。
105 五六	同上 SD6	口径 21.2 器高 7.6	浅い半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。 口縁部外面ヨコナデ、他は剝離の為調整不明。	外 乳茶色 内 乳褐色	2㎜以下の長石・赤褐色酸化粒・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
106 五六	同上 SD6	口径 19.8 器高 5.9	浅い半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部外面・底部内面ナデ、体部内面ヘラミガキ。	乳茶褐色～暗茶褐色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。
107 五六	台付鉢 (土師器) SD6	口径 26.6 器高 6.2 底径 15.8	浅い半球形の杯体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 口縁部・体部外面ヨコナデ、他はナデ。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
108	鉢 (土師器) SD6	口径 26.0	上方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 内外面ナデ。	外 乳茶褐色～茶橙色 内 乳茶褐色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
109 五六	高杯 (土師器) SD6	底径 12.2	底部は欠損。杯底部は平らで、脚部は下外方へ大きく外反して伸びる。端部は下方へ肥厚する。 杯底部外面ハケナデ後ナデ、内面螺旋状暗文、柱状部外面ヘラによる面とり、内面くりぬき、裾部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(9本)。	淡茶褐色	1㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	杯底部外面にヘラ記号有。
110	同上 SD6		杯部・脚部端部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から外下方へ伸びる。 杯底部内面ナデ、柱状部外面ヘラによる面とり、内面くりぬき、裾部外面ヨコナデ、内面ハケナデ。	外 乳茶褐色 内 淡茶橙色～乳茶褐色	3㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
111	杯蓋 (須恵器) SD6	つまみ径 2.8	低く丸味をもつ天井部から下外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は欠損。天井部には偏平な宝珠状のつまみが付く。 天井外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 灰青色 内 暗灰色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面灰かぶり。 ロクロ左方向。
112	壺 (須恵器) SD6	口径 19.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上下に肥厚し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	灰青色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内面灰かぶり。 ロクロ方向不明。
113	同上 SD6	口径 23.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上下に肥厚し、外に面をもつ。体部は欠損。口縁部外面上位には1条の稜が巡る。 口縁部内外面回転ナデ。	灰青色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面灰かぶり。 ロクロ方向不明。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
114	壺 (須恵器) SD6	口径 25.6	口縁部は外上方へ大きく外反して伸び、端部はつまみ上げ、外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	灰褐色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内面灰かぶり。ロクロ方向不明。
115	同上 SD6	口径 47.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は内方へ肥厚し、外傾する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	灰色～暗灰色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
116	小皿 (土師器) SE1	口径 7.8 器高 1.2	丸味をもつ浅い底部から僅かに屈曲し、外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。 内外面ナデ。	乳灰色	1.5 ㎜以下の赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良	
117	同上 SE1	口径 9.6	丸味をもつ浅い底部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
118	同上 SE1	口径 9.0	浅い半球形の杯底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は若干内方へ肥厚する。底部の一部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、他はナデ。	乳茶褐色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
119	中皿 (土師器) SE1	口径 13.8 器高 2.9	丸味をもつ底部から上外方へ伸びた後上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
120	同上 SE1	口径 14.0	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	茶灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
121	同上 SE1	口径 13.8	平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
122 五六	椀 (瓦器) SE1	口径 15.2 器高 6.2 底径 7.0	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸く、内側に沈線が巡る。底部外面には断面逆台形のがっちりした高台が付く。 内外面密なヘラミガキ、高台外面ヨコナデ。	外 乳灰褐色 内 乳灰黄色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
123	同上 SE1	口径 13.8	半球形と思われる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	灰青色	2㎜以下の砂粒を微量に含む。	良好	
124	同上 SE1	口径 16.0	半球形と思われる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	灰青色～乳灰褐色	精良。	良好	
125	同上 SE1	口径 14.3	上外方へ内湾気味に伸びる杯体部から口縁部に至る。端部は外方へつまみ、丸い。体部下位は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	乳灰茶色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
126	同上 SE1	口径 13.6	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸く、内側に沈線が巡る。体部下位は欠損。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	淡灰青色	精良。	良好	
127	同上 SE2	口径 12.6 器高 4.8 底径 3.4	半球形の底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ、丸い。底部外面には断面逆三角形の小さな高台が付く。 口縁部外面ヨコナデ、底体部外面ナデ、内面ヘラミガキ。	外 灰色～乳灰色 内 灰色	精良。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
128	小皿 (土師器) SE3	口径 8.6 器高 1.5	若干窪む底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
129	中皿 (土師器) SE3	口径 12.6	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面上位ヨコナデ、下位ナデ。	暗茶灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
130	小皿 (瓦器) SE3	口径 9.2 器高 2.0	丸味をもつ底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	灰青色	2.5㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
131	椀 (瓦器) SE3	口径 14.4 器高 4.8 底径 4.4	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は外上方へつまみ、丸い。底部外面には断面逆台形の高台が付く。 外面ナデ、内面ヘラミガキ、高台ヨコナデ、見込みは格子状暗文。	暗灰青色	0.5㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
132 五七	羽釜 (土師器) SE3	口径 27.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部は水平に伸び、丸い。底部は欠損。体部外面上位に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面・体部外面上位ヨコナデ、中位以下・体部内面ヘラナデ。	茶橙色	3.5㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	体部外面中位以下に煤付着。
133 五七	同上 SE3	口径 30.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。鍔部は水平に伸び、外側に凹面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ・ヘラ押さえ、内面・体部ケズリ上位ヨコナデ、中位以下・体部内面ヘラナデ。	茶橙色	3㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	体部外面中位以下に煤付着。
134	甕 (土師器) 包含層	口径 12.9	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上方へ長く拡張する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	茶褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
135	同上 包含層	口径 15.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(6本)、内面指ナデ。	褐灰色～赤褐色	3㎜以下の雲母・長石・石英・チャート等の砂粒を多量含む。	良	
136	同上 包含層	口径 18.1	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ハケナデ(6本)、後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(6本)、内面ヘラ削り。	淡茶赤色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
137	同上 包含層	口径 13.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。頚部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(11本)、内面指ナデ。	明赤褐色	0.5㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良	
138	同上 包含層	口径 18.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ(外8本・内7本)。	乳灰茶色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
139	杯 (土師器) 包含層	口径 12.8	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、端部内面ハケナデ、内面ナデ。	茶灰色	3㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良	
140 五七	同上 包含層	口径 13.0 器高 4.4	椀形の底体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 内外面ナデ。	明茶褐色	1㎜以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
141	同上 包含層	口径 19.8	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 体部外面ナデ、内面はヨコナデ。	明茶褐色	3㎜以下の雲母・長石・赤褐色酸化粒等の砂粒少量含む。	良	
142	高杯 (土師器) 包含層	口径 14.0	平らな杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 外面ナデ後ハケナデ（11本）、内面ナデ。	明茶褐色	1㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良	
143	同上 包含層	底径 9.6	脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる裾部に至る。端部は外傾する面をもつ。杯部は欠損。柱状部下位に三方孔を有する。 柱状部外面ヘラによる面とり、内面くりぬき、裾部内外面ナデ。	乳灰橙色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
144	同上 包含層	口径 26.2	杯部は上外方へ伸びた後屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。杯底部・脚部は欠損。 内外面ハケナデ（外13本・内10本）後放射状暗文。	明赤褐色	2㎜以下の長石・雲母・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
145	甑 (土師器) 包含層	口径 21.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。体部内面に1本の接合痕を有する。 内外面ハケナデ（内外8本）。	明茶褐色	3㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良	
146	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径 10.8 稜径 10.4	丸いと思われる天井部から下外方へ伸びる稜に至る。稜は鈍い。口縁部は下外方へ伸び、端部は下に面をもつ。天井部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
147 五七	同上 包含層	口径 13.6 器高 4.6 稜径 13.8	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ内湾気味に伸びる稜に至る。稜は鈍い、口縁部は下外方へ伸び、端部は下に面をもつ。 天井部外面4/5 回転ヘラ削り、天井部内面2/5 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	青灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
148 五七	同上 包含層	口径 15.0 器高 4.9 稜径 14.2	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ伸びる稜に至る。稜は鈍い。口縁部は下外方へ内湾して伸び、端秒は内傾する面もつ。 天井部外面2/5 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　乳灰色 内　灰色	3㎜以下の粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
149 五七	同上 包含層	口径 13.0 器高 4.5 稜径 12.6	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ伸びる稜に至る。稜は鈍い。口縁部は下外方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 天井部外面3/5 回転ヘラ削り、天井部内面3/5 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	外　乳灰色 内　灰色	7㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
150	同上 包含層	口径 18.6 稜径 13.4	天井部は下外方へ伸びる稜に至る。稜は鋭い。口縁部は下外方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。天井部は欠損 内外面回転ナデ。	青灰色	4㎜以下の石英等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
151	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径 13.8 器高 3.6	平らな天井部から下外方へ伸びる。稜は痕跡なし。口縁部は下外方へ伸び、端部は丸い。 外面1/7 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 天井部外面にヘラ記号有。
152	杯身 (須恵器) 包含層	口径 11.0 受部径 13.4 立ち上がり高 1.1	体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ方向不明。
153	同上 包含層	口径 10.2 受部径 13.0 立ち上がり高 1.4	体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 底体部外面1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
154	同上 包含層	口径 12.0 受部径 14.4 立ち上がり高 1.1	体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	青灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
155	同上 包含層	口径 10.8 器高 5.2 受部径 13.0 立ち上がり高 1.6	深く丸みをもつ底体部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。 底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
156 五七	同上 包含層	口径 12.2 器高 4.3 受部径 14.6 立ち上がり高 1.1	深く丸みをもつ底体部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。 底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良好	ロクロ右方向。
157 五七	高杯 (須恵器) 包含層	口径 9.1 器高 8.1 底径 8.8 受部径 11.9 立ち上がり高 1.6	平らな杯底部から上外方へ内湾して伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。脚部は下外方へ伸びた後、裾部で外下方へ開く。端部は下につまみ、外側に凹面をもつ。 杯底体部外面2/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	精良。	良好	ロクロ右方向。
158	鉢 (須恵器) 包含層	口径 8.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰青色	精良。	良好	口縁部外面・端部内面・体部内面の一部灰かぶり。
159 五七	器台 (須恵器) 包含層		脚部は下外方へ伸びる。受部・裾部は欠損。脚部に2つの三方向の長方形の透かしと、1つの三方孔の台形のスカシを有する。外面に4本の凸線が巡る。 外面櫛描き文、内面回転ナデ。	灰青色	精良。	良好	
160	甑 (須恵器) 包含層	口径 27.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は外傾する凸面をもつ。体部中位以下は欠損。 体部外面格子タタキ、内面下位不定方向のナデ、他は回転ナデ。	乳灰色	精良。	良	
161	同上 包含層	口径 22.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は内方へつまみ、外側に面をもつ。体部は欠損。口縁部外面には1帯8本の波状文が巡る。 内外面回転ナデ。	灰褐色	精良。	良好	ロクロ左方向。
162	甕 (須恵器) 包含層	口径 10.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は内方へつまみ上げる。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	精良。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
163	甕 (須恵器) 包含層	口径 10.8	内上方へ伸びる体部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部は欠損。 体部外面タタキ（4本）、他は回転ナデ。	灰褐色	精良。	良好	
164	同上 包含層	口径 14.0	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。体部は欠損。 体部内面同心円タタキ、他は回転ナデ。	灰青褐色～暗灰褐色	精良。	良好	ロクロ右方向。
165	同上 包含層	口径 16.3	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する凹面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部外面タタキ(4本)後ハケナデ（10本）、内面同心円タタキ。	灰青色	精良。	良好	
166 五八	壺 (須恵器) 包含層	底径 9.6	底部は上外方へ内湾して伸びる。脚部は下外方へ短く伸びる裾部に至る。端部は外傾する面をもつ。口縁部・体部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。
167 五八	皿 (土師器) 包含層	口径 14.8 器高 3.5	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 外面剝離の為調整不明瞭、内面放射状暗文。	褐灰色	1㎜以下の長石・赤褐色酸化粒・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
168 五八	同上 包含層	口径 13.2 器高 2.5	平らな底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。端部内面に1本の沈線が巡る。 外面ナデ、内面放射状暗文。	明褐灰色	3㎜以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
169	小皿 (土師器) 包含層	口径 10.7 器高 1.2	下外方へ伸びる底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	乳灰茶色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
170	中皿 (土師器) 包含層	口径 16.8	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	乳灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
171	小皿 (瓦器) 包含層	口径 11.2 器高 2.7	丸みをもつ底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、他はナデ。	灰褐色	1㎜以下の長石・雲母・チャート等の砂粒を少量含む。	良	
172	椀 (瓦器) 包含層	口径 15.4	上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。端部内面付近には1本の沈線が巡る。 内外面ナデ後ヘラミガキ。	灰褐色	精良。	良	
173 五八	同上 包含層	口径 15.8 器高 5.2 底径 4.8	椀形の底体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部外面には断面逆三角形の高台が付く。 外面ナデ後ヘラミガキ・指頭痕、内面ナデ後ヘラミガキ、見込みは平行状暗文。	明灰色	精良。	良	
174	同上 包含層	口径 12.0	上外方へ内湾気味に伸びる体部から口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、丸い。底部は欠損。 外面指頭痕後ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。	乳灰色～暗灰色	精良。	良	
175	羽釜 (土師器) 包含層	口径 35.6 鍔部径 44.0	上内方へ伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。口縁部外面付近に下外方へ伸びる鍔が巡る。端部は丸い。体部は欠損。 内外面ナデ。	明赤褐色	5㎜以下の長石・雲母・チャート等の砂粒を少量含む。	良	鍔部外面以下に煤付着。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
176	羽釜 (瓦質) 包含層	口径 28.0	体部は上内方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。口縁部外面付近に外上方へ伸びる鍔部が巡る。端部は面をもつ。体部は欠損。 内外面ナデ。	暗灰色	6㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
177	平瓦 包含層	厚さ 2.2	凹面布目、凸面縄目ナデ。	凹面 淡茶灰色 凸面 淡灰茶色 断面 淡灰茶色	0.5㎜以下の石英・チャート等の砂粒を少量含む。	良	
178	平瓦 包含層	厚さ 2.0	凹面布目、凸面縄目。	凹面 淡茶灰色 凸面 茶褐色 断面 淡茶褐色	1㎜以下のチャート・雲母等の砂粒を少量含む。	良	
179	丸瓦 包含層	厚さ 3.5	凹面布目、凸面ナデ。	凹面 淡灰色 凸面 淡茶色 断面 淡茶灰色	0.5㎜以下のチャート・石英等の砂粒を含む。	良	
180	平瓦 包含層	厚み 1.7	凹面布目、凸面縄目ナデ。	凹面 暗灰色 凸面 淡灰色 断面 暗灰色	1㎜以下の石英・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
181	丸瓦 包含層	厚さ 2.0	凹面布目ナデ、凸面ナデ。	凹面 淡灰色 凸面 淡茶灰色 断面 淡茶灰色	1㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良	
182	平瓦 包含層	厚さ 1.9	凹面布目、凸面ナデ。	凹面 乳灰褐色 凸面 灰褐色 断面 乳灰褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
183	丸瓦 包含層	厚さ 1.9	凹面布目、凸面縄目。	凹面 灰黒色 凸面 灰褐色 断面 灰褐色	2㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
184	平瓦 包含層	厚さ 2.7	凹面布目、凸面縄目。	凹面 淡灰茶色 凸面 淡茶灰色 断面 淡茶灰色	1㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

第５調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 器高(cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	甕 (土師器) SK１	口径 16.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）、内面ナデ。	外 橙褐色 内 乳茶色	２㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む	良好	
2	同上 SK１	口径 13.5	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（５本）、内面ナデ。	外 茶橙色 内 暗茶褐色	２㎜以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
3 五八	同上 SK１	口径 12.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は僅かに上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ナデ、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	1.5 ㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
4	同上 SK１	口径 12.3	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（９本）、内面ヘラ削り。	淡灰紫色	１㎜以下の雲母・角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	口縁部外面に煤付着。
5	同上 SK１	口径 16.3	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。口縁部外面に１本の接合痕を有する。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(9本)体部外面タタキ（８本）後ハデナデ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	１㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面に黒斑有。
6	同上 SK１	口径 13.7	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（５本）後ハケナデ（９本）、内面ヘラ削り。	外 暗茶褐色 内 暗褐色	５㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む	良好	体部外面に煤付着。
7 五八	同上 SK１	口径 14.2 器高 17.0 最大径 16.8	球形に近い体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は尖り気味底。 口縁部外面ヨコナデ､内面ハケナデ(12本)、体部外面上位タタキ（８本）後ハケナデ(12本)、中位以下ハケナデ（12本）、内面ヘラ削り。	黒褐色	1.5 ㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
8 五八	器台 (土師器) SK１	口径 10.0 器高 9.4 底径 10.1	受部は外上方へ内湾して伸びる浅い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。脚部は下外方へまっすぐ伸びる。端部は丸い。脚部中位に三方孔を有する。 受部内外面摩耗の為調整不明、脚部外面ヨコナデ、内面くりぬき。	乳茶橙色	2.5 ㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	完形。
9 五八	同上 SK１	口径 9.6 器高 9.5 底径 11.1	受部は浅くやや平坦な底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。脚部は下外方へまっすぐ伸びる。端部は丸い。脚部中位に三方孔を有する。 受部内外面摩耗の為調整不明、脚部外面ヨコナデ、内面指ナデ。	茶橙色	1.5 ㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
10	甕 (土師器) SK２	口径 12.0	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。体部は欠損。端部にヘラキザミを有する。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶橙色	３㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面に煤付着。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
11	甕 (土師器) SK2	口径 14.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘラ削り。	乳灰色	3.5㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
12 五九	鉢 (土師器) SK2	口径 17.0 器高 8.4 底径 4.2	偏平な半球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや突出した上げ底。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ヘラミガキ。	外 乳灰色 内 乳茶橙色	2㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
13 五九	同上 SK2	口径 17.2 器高 7.2 底径 4.0	偏平な半球形の体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部はやや突出した平底。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外ヘラミガキ。	灰茶色	5㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
14 五九	同上 SK2	口径 11.2 器高 7.1	半球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ナデ。	乳灰茶色	1.5㎜以下の長石・石英等の砂粒を微量に含む。	良好	
15 五九	高杯 (土師器) SK2	口径 14.4	丸い杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる。裾部は欠損。 杯部・脚部外面ハケナデ(10本)、杯部内面ヘラミガキ、脚部内面しぼり目。	外 暗灰橙色 内 乳灰橙色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
16	同上 SK2	口径 19.8	平らな杯底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ヘラミガキ。	暗灰茶色	1㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
17	甕 (土師器) SK3	口径 19.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。体部は欠損。体部外面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 茶橙色 内 淡灰茶色	2.5㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面・内面中位に煤付着。
18 五八	同上 SK3	口径 16.5 最大径 23.2	球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面上位指ナデ、中位以下ナデ。	外 茶橙色 内 淡茶褐色	5㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面に煤付着。
19	同上 SK3	底径 4.8	体部中位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部はやや突出した平底。 体部外面タタキ(4本)、内面ヘラナデ、底部外面ナデ。	外 茶褐色～暗茶褐色 内 暗褐色	4㎜以下の雲母・長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
20	同上 SK3	底径 3.1	体部中位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出しない平底。 体部外面タタキ(3本)、内面ヘラナデ(7本)、底部外面ナデ。	茶褐色	4㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	体部内面に煤付着。
21	鉢 (土師器) SK3	口径 14.0	やや浅い半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は上につまみ、鈍く尖る。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面放射状暗文。	外 乳灰茶色 内 乳茶灰色	3.5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
22	同上 SK3	口径 15.4	やや浅い半球形の底部から口縁部に至る。端部は上につまみ、鈍く尖る。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面放射状暗文。	外 乳橙茶色 内 乳灰茶色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
23	高杯 (土師器) SK3	底径 13.0	杯部は欠損。脚部は下方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる裾部に至る。端部は丸い脚部中位に三方孔を有する。 柱状部内面しぼり目、他はナデ。	乳灰橙色	4㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
24	甕 (土師器) SK4	口径 15.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。体部は丸い。体部は欠損。頸部内面に2本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ナデ。	外 淡茶色 内 乳茶色	4㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
25 五九	壺 (土師器) SK5	口径 17.2 器高 35.4 最大径 29.4	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、内側に面をもつ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り後指押さえ。	乳橙黄色	1.5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	完形。
26 五九	同上 SK5	口径 19.4 器高 49.0 最大径 39.8	最大径を上位にもつ卵形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部は丸底で焼成後の孔が穿かれている。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面・内面上中位ハケナデ(17本)、下位ヘラ削り。	乳茶色	1㎜以下の雲母・角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
27	同上 包含層	口径 27.6	口縁部は上外方へ伸び、端部は下方へたれ下がり、外側に凸面をもつ。端部外面には円形浮文と5本の沈線が巡る。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ナデ。	乳灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
28	同上 包含層	口径 16.4	口縁部は上外方へ外反して伸びた後屈曲して上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 摩耗の為調整不明瞭。	乳灰茶色	3㎜以下の長石・角閃石・石英・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
29	甕 (土師器) 包含層	口径 16.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ナデ。	乳灰褐色	0.5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
30	同上 包含層	口径 14.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 乳茶橙色 内 乳灰褐色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
31	同上 包含層	口径 14.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳灰茶色	2㎜以下の角閃石・雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
32	同上 包含層	口径 16.8 器高 19.5 底径 4.2	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びた後上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラナデ。	乳灰褐色	3㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
33	同上 包含層	口径 15.7	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳灰茶色	5㎜以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34	甕 (土師器) 包含層	口径 17.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(9本)、内面ナデ。	暗灰褐色	3㎜以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
35	同上 包含層	口径 18.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(7本)、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	暗灰褐色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
36	器台 (土師器) 包含層	口径 8.8 器高 9.2 底径 11.0	平らな杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる裾部に至る。端部は丸い。脚部中位に三方孔を有する。 杯部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文、脚部内外面ナデ。	乳灰茶色	2㎜以下の石英等の砂粒を微量含む。	良好	
37	杯身 (須恵器) 包含層	口径 11.8 受部径 14.2 立ち上がり高 0.9	深く丸みをもつ底体部から上外方へ伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。 底体部外面2/5 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰青色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

第４章　第１０次調査

第１節　調査の概要

今回の発掘調査は、昭和57年度から継続して実施している八尾市都市計画整備事業南小阪合土地区画整理事業に伴うもので、当調査研究会が当遺跡範囲内で実施した第10次調査にあたる（第121～123図）。

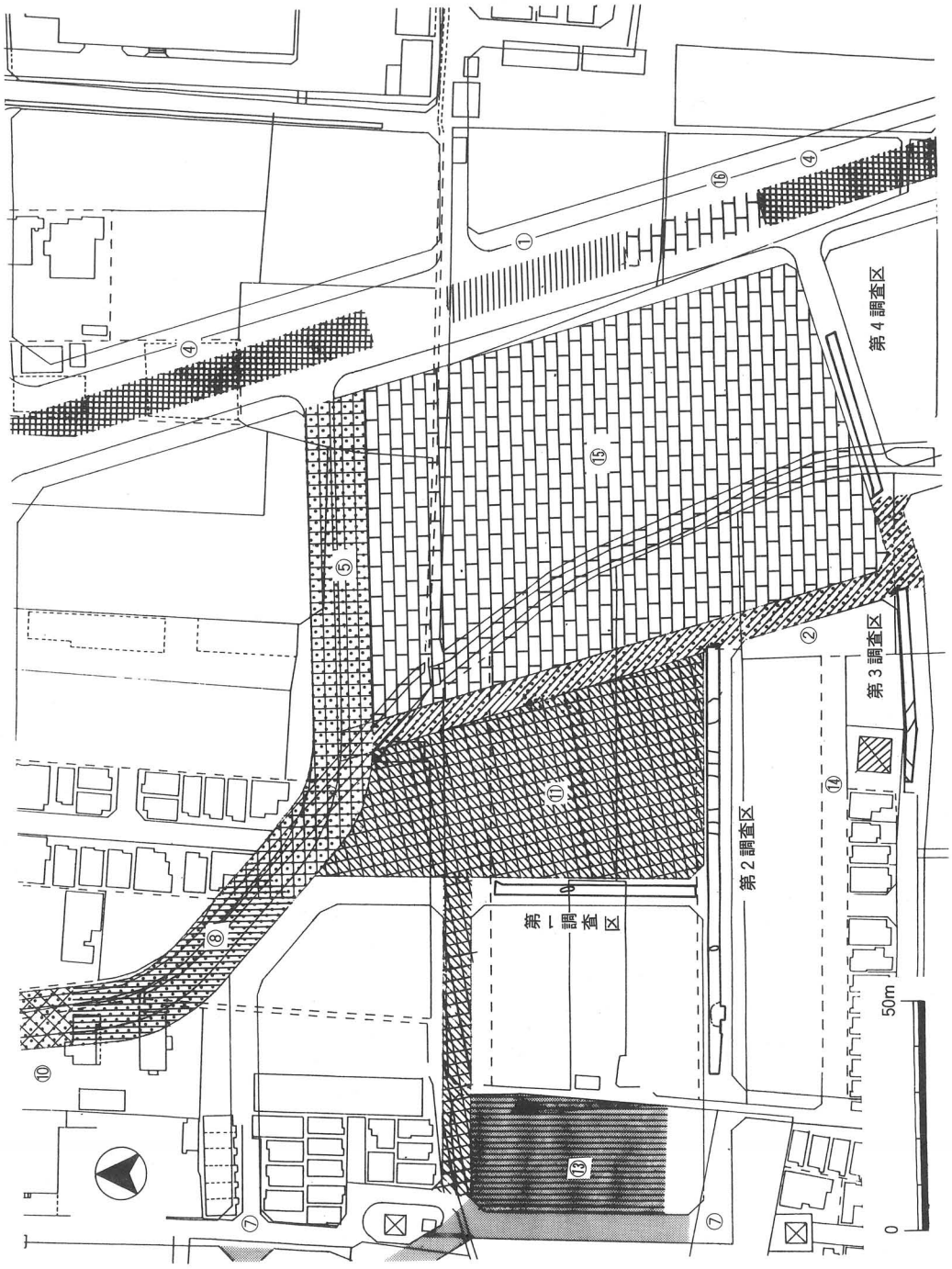
調査地は、当区画整理事業内の区画街路予定地（北部が４－２号線・９号線・12号線・17号線・38号線、南部が32号線・33号線・36号線・37号線）に計７箇所を設定した。これらの調査区は北から第１調査区～第７調査区と付称して調査を実施した（第121～123図）。総調査面積は約1,300を測る。掘削に際しては、既往調査の結果を参照し、現地表下0.3～0.5ｍ迄を機械で掘削した。以下0.4～0.5ｍ迄の土層を人力で掘削した。

地区割は、当区画整理事業に伴う既往の発掘調査で使用している地区割を活用した。基準点は当区画整理事業区域内の南部にあり、この点から東西・南北軸を設定している。この区割線から調査区へ移動し、調査を実施した。なお、地区割の詳細については第４次調査の報告書を参照されたい。

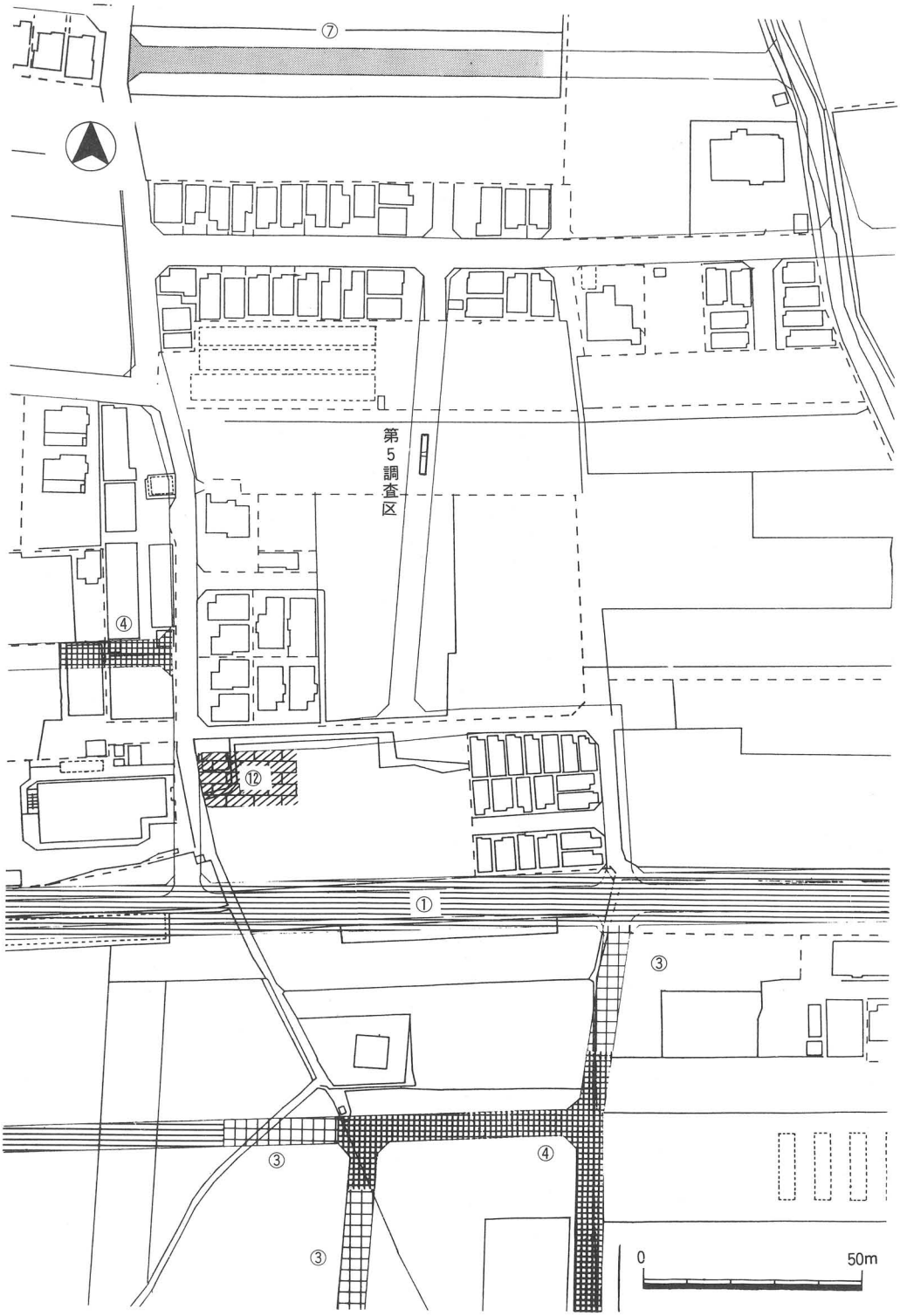
今回の調査では、弥生時代後期・古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）・鎌倉時代～室町時代・江戸時代の概ね４時期の遺構を検出した。遺物は弥生時代後期から江戸時代に至る土器・瓦・木製品などが出土している。出土量はコンテナ箱にして約６箱分を数える。以下、各調査区ごとに記す。

凡　　例

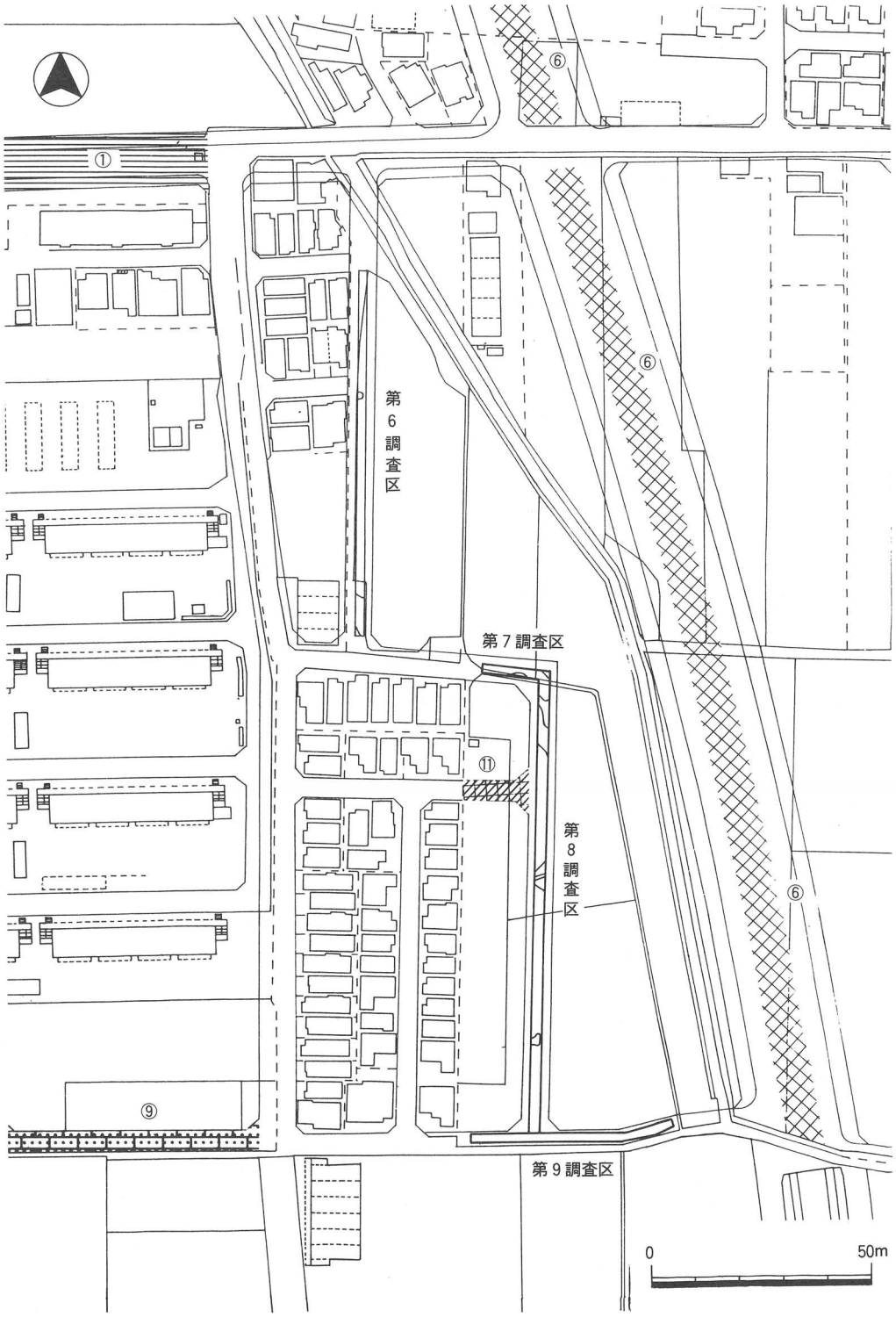
① 第１次調査地（昭和57年度）
② 第２次調査地（昭和58年度）
③ 第３次調査地（昭和58年度）
④ 第４次調査地（昭和59年度）
⑤ 第５次調査地（昭和59年度）
⑥ 第６次調査地（昭和60年度）
⑦ 第８次調査地（昭和61年度）
⑧ 第11次調査地（昭和62年度）
⑨ 第13次調査地（昭和62年度）
⑩ 第15次調査地（昭和63年度）
⑪ 第16次調査地（昭和63年度）
⑫ 第17次調査地（昭和63年度）
⑬ 第18次調査地（平成元年度）
⑭ 八尾市教育委員会（昭和59年度）
⑮ 大阪府教育委員会（昭和58年度）
⑯ 大阪府教員委員会（昭和60年度）



第121図　遺構配置図１



第122図　遺構配置図2



第123図　遺構配置図３

第２節　第１調査区

区画整理区域内の北部付近に設定した南北方向に長い調査区（幅2.5×長さ46ｍ）である。調査区の面積は115㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.5ｍまでに存在する土層内から普遍的に存在する６層を基本層序とした（第124図）。現地表面は、標高8.1ｍを測る。以下、各層について記す。

第１層　耕土：層厚10～15㎝。調査前までの耕作土である。

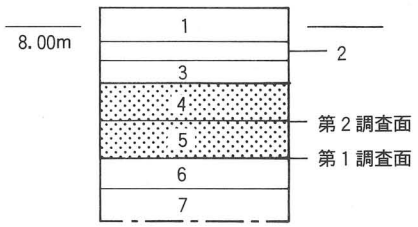
第２層　淡灰色粗砂混微砂：層厚15～20㎝。床土である。

第３層　淡灰褐色砂礫混微砂：層厚10～15㎝。古墳時代～近世に至る遺物がごく少量含まれている。

第４層　暗黒灰色粘質土：層厚15～20㎝。この土層は鎌倉時代以降の水田土である。上面は標高7.7ｍを測り、足跡状の窪み・溝が切り込まれている。この面を第２調査面とした。

第５層　褐灰色粘質土：層厚15～20㎝。古墳時代前期の遺構が含まれている。

第６層　灰褐色シルト混粘質土：層厚15～20㎝。この上面から古墳時代前期の遺構が切り込まれている。上面の標高は7.3ｍを測る。

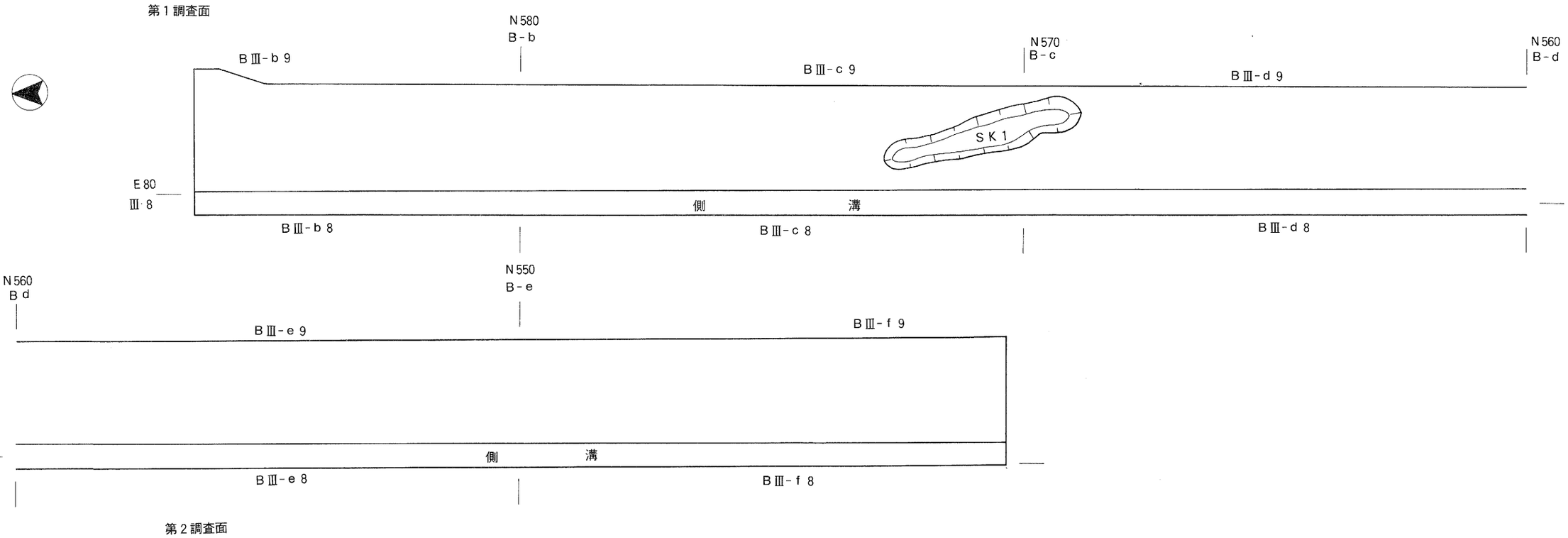


第124　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）

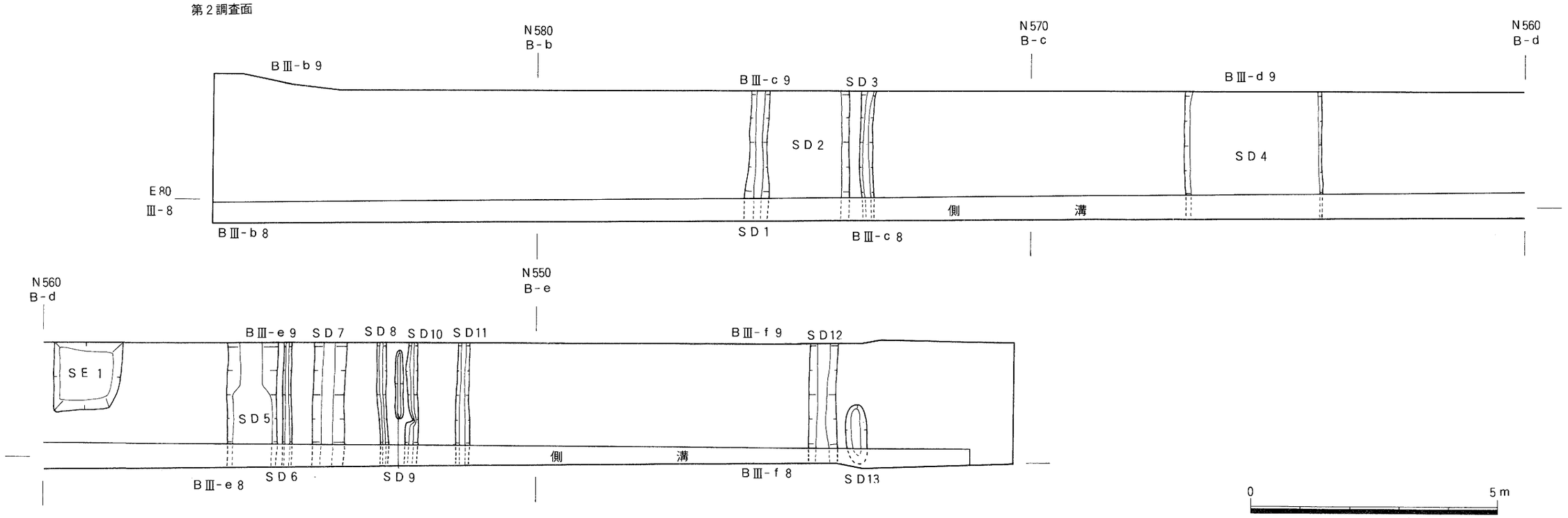
Ⅱ　検出遺構・出土遺物

第４層（第２調査面）と第６層（第１調査面）上面の２面を調査面とした。その結果、第１調査面では、古墳時代前期に比定される土坑１基（ＳＫ１）を検出した。第２調査面では、鎌倉時代に比定される溝11条（ＳＤ３～ＳＤ13）、江戸時代に比定される溝２条（ＳＤ１・ＳＤ２）を検出した。江戸時代の遺構は第３層からの切り込みである（第125図）。以下、各遺構の詳細について記す。

第１調査面



第２調査面



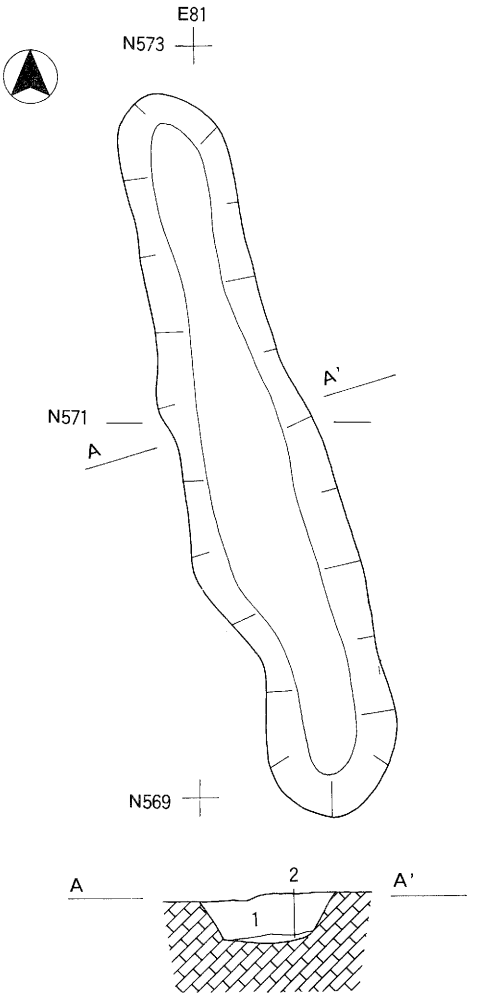
第125図　第１調査区遺構平面図

１）第１調査面（古墳時代前期）

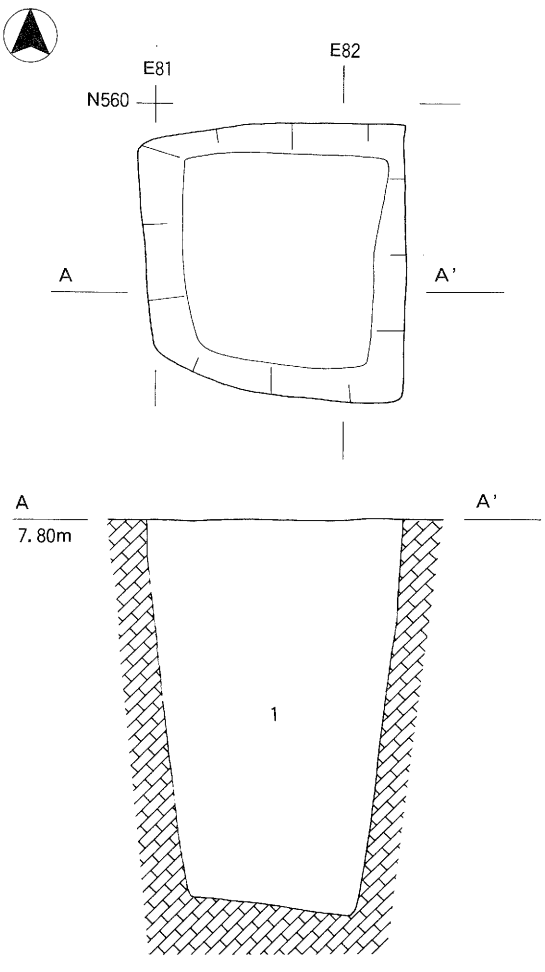
土坑（ＳＫ）

ＳＫ１

ＢⅢ－ｃ９～ｄ９区で検出した。平面は南北方向に長い楕円形を呈する。規模は検出部で、最大幅3.85ｍ、最小幅0.7ｍ、深さ10㎝を測る。断面は浅い半円形を呈し、内部には暗灰色粘質シルト・暗黒灰色粘質土（炭を多く含む）の２層が堆積している。底面下では焼土がみられないが、堆積土の下層と底面の間には、炭・灰が薄く（１～２㎝）敷き摘めたように検出している（第126図）。遺物は出土していないが層位的にみて布留式古相に比定されるであろう。



第126図　ＳＫ１平断面図



第127図　ＳＥ１平断面図

2）第2調査面（鎌倉時代～江戸時代）

井戸（ＳＥ）

ＳＥ１

ＢⅢ－ｅ９区で検出した素掘りの井戸である。平面の形状は東部のごく一部が調査区外に至るがほぼ方形を呈する。規模は検出部で、東西辺1.8ｍ、南北辺1.98ｍ、深さ1.2ｍを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は褐灰色粘質土と淡青灰色粘土がブロック状に混在している（第127図）。遺物は出土していないが、第３層上面からの切り込みであり、層位的にみて鎌倉時代以降のものであろう。

溝（ＳＤ）

ＳＤ１～ＳＤ13

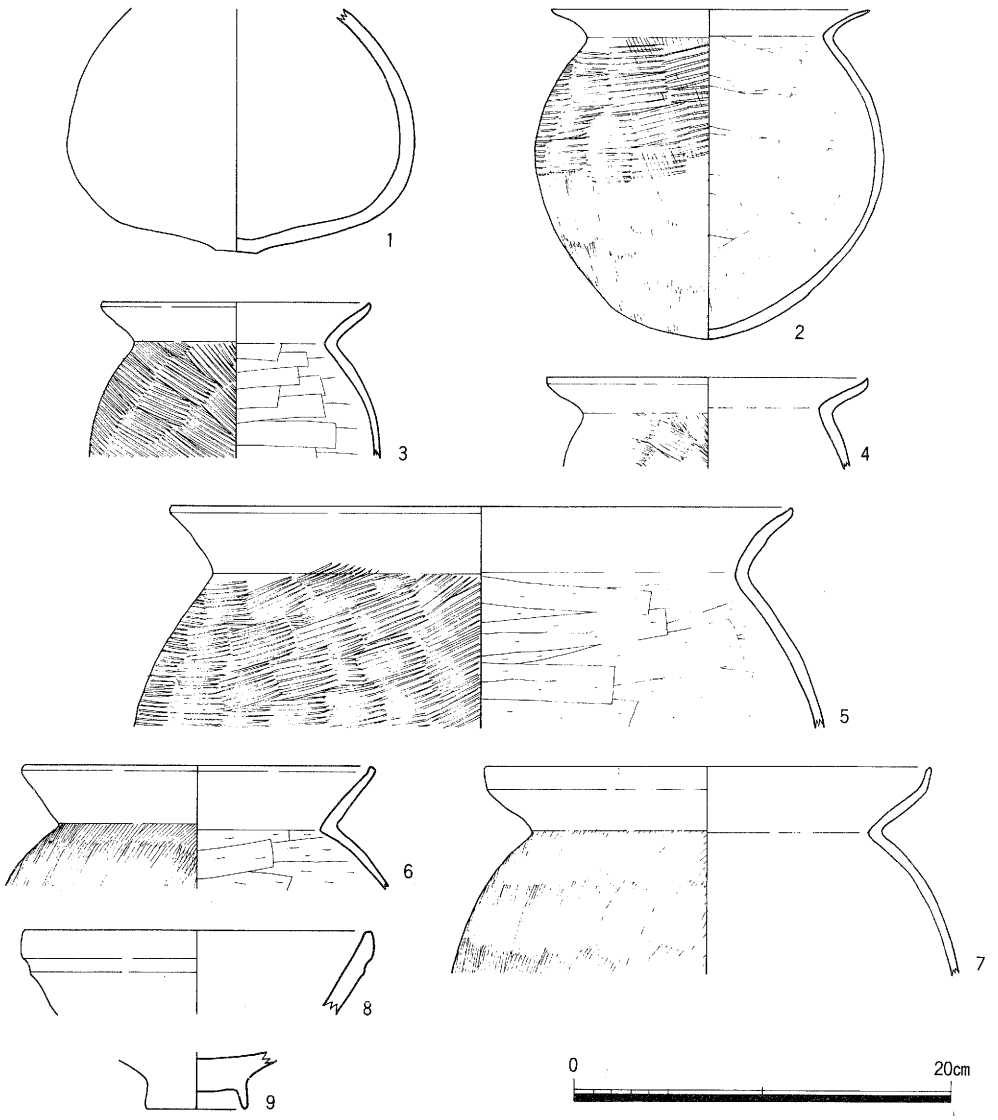
当調査区では12条を検出した。方向はすべて東西方向を呈する。ＳＤ３～ＳＤ13は第４層からの切り込み、ＳＤ１・ＳＤ２は第３層からの切り込みである。前者は鎌倉時代の土器のもの、後者が江戸時代の時期のものである。規模は検出部で、幅0.2～１ｍ、深さ５～15㎝を測る。断面は逆台形を呈し、堆積土は鎌倉時代のものが暗灰色粗砂混粘質土、江戸時代のものが淡灰褐色粗砂混砂質土である。遺物は、内部から土師器などの小片がごく少量出土している。以下、各溝の法量について第９表に記す。

第９表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＤ１	ＢⅢ－ｃ９	東－西	逆台形	35～51	６～12	淡灰褐色粗砂混砂質土	
ＳＤ２	ＢⅢ－ｃ９	東－西	逆台形	300以上	20	淡灰褐色粗砂混砂質土	
ＳＤ３	ＢⅢ－ｃ９	東－西	逆台形	26	９～11	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ４	ＢⅢ－ｄ９	東－西	逆台形	280	10～16	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ５	ＢⅢ－ｅ９	東－西	逆台形	103	11～14	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ６	ＢⅢ－ｅ９	東－西	逆台形	20	４～13	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ７	ＢⅢ－ｅ９	東－西	逆台形	65	10～15	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ９	ＢⅢ－ｅ９	東－西	逆台形	20	５	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ９	ＢⅢ－ｅ９	東－西	逆台形	16	４～６	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ10	ＢⅢ－ｅ９	東－西	逆台形	22	４～７	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ11	ＢⅢ－ｅ９	東－西	逆台形	25	７～12	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ12	ＢⅢ－ｆ９	東－西	逆台形	55	９～15	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ13	ＢⅢ－ｆ９	東－西	逆台形	43	７	暗灰色粗砂混粘質土	

３）遺構に伴わない出土遺物

第２～４層内で出土している。時期は古墳時代前期～鎌倉時代に至るもので、特に第４層内から出土する古墳時代前期（庄内式）に比定される土器が大半である。出土量は、コンテナ箱にして約１箱分である。以下、図示できたものについて記す。第４層内から出土した古墳時代前期（庄内式中相～新相）に比定される東海系の壺（１）・庄内式甕（２～７）である。第２層内から出土した鎌倉時代に比定される鉢（８）・青磁器の椀（９）である（第128図）。



第128図　遺構に伴わない出土遺物実測図

第３節　第２調査区

第１調査区の南端部に接したかたちで設定した東西方向に長い調査区（幅2.5ｍ×長さ94ｍ）である。面積は約235㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.7ｍまでに存在する土層内から普遍的に存在する６層を基本層序とした（第129図）。現地表面は、標高8.1ｍを測る。

第１層　耕土：10～15㎝。調査前までの耕作土である。

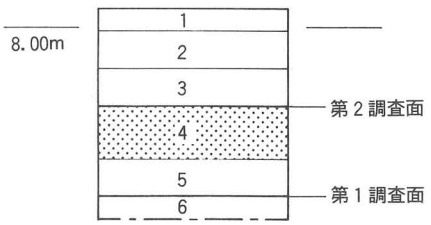
第２層　淡灰褐色砂礫混砂質土：層厚15～25㎝。耕土の床土である。

第３層　淡灰色砂礫混砂質土：層厚15～20㎝。古墳時代から鎌倉時代に至る土器の小片が少量含まれており、上面から近世以降の溝が切り込まれている。

第４層　灰褐色粘質土：層厚20～25㎝。古墳時代前期に比定される土器が含まれている土層で、上面には鎌倉時代の遺構が切り込まれている。標高7.6ｍを測る。

第５層　淡茶褐色シルト：層厚15～20㎝。この上面は標高7.3ｍを測り、古墳時代前期の遺構が切り込まれている。

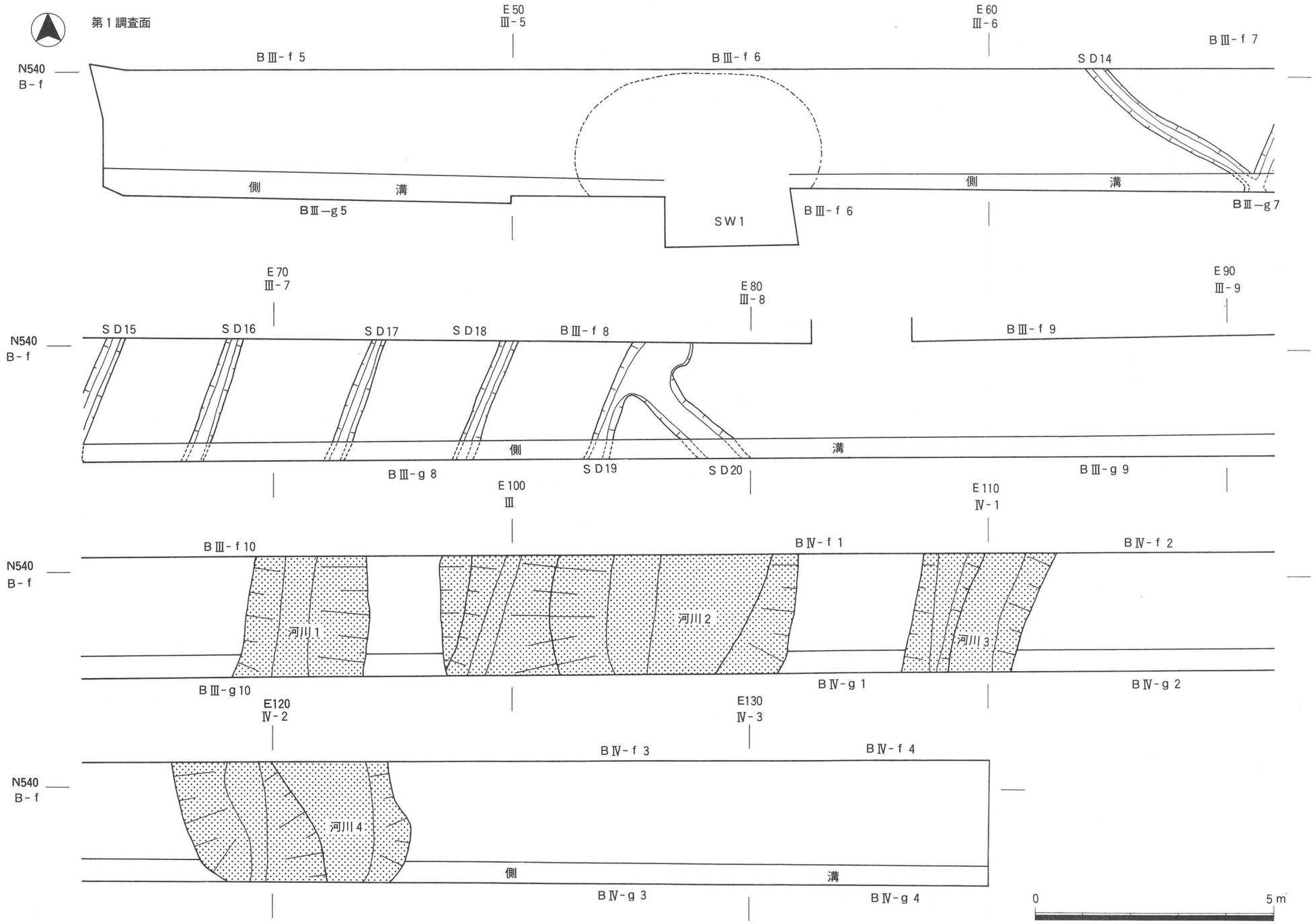
第６層　淡青灰色：層厚10㎝以上。



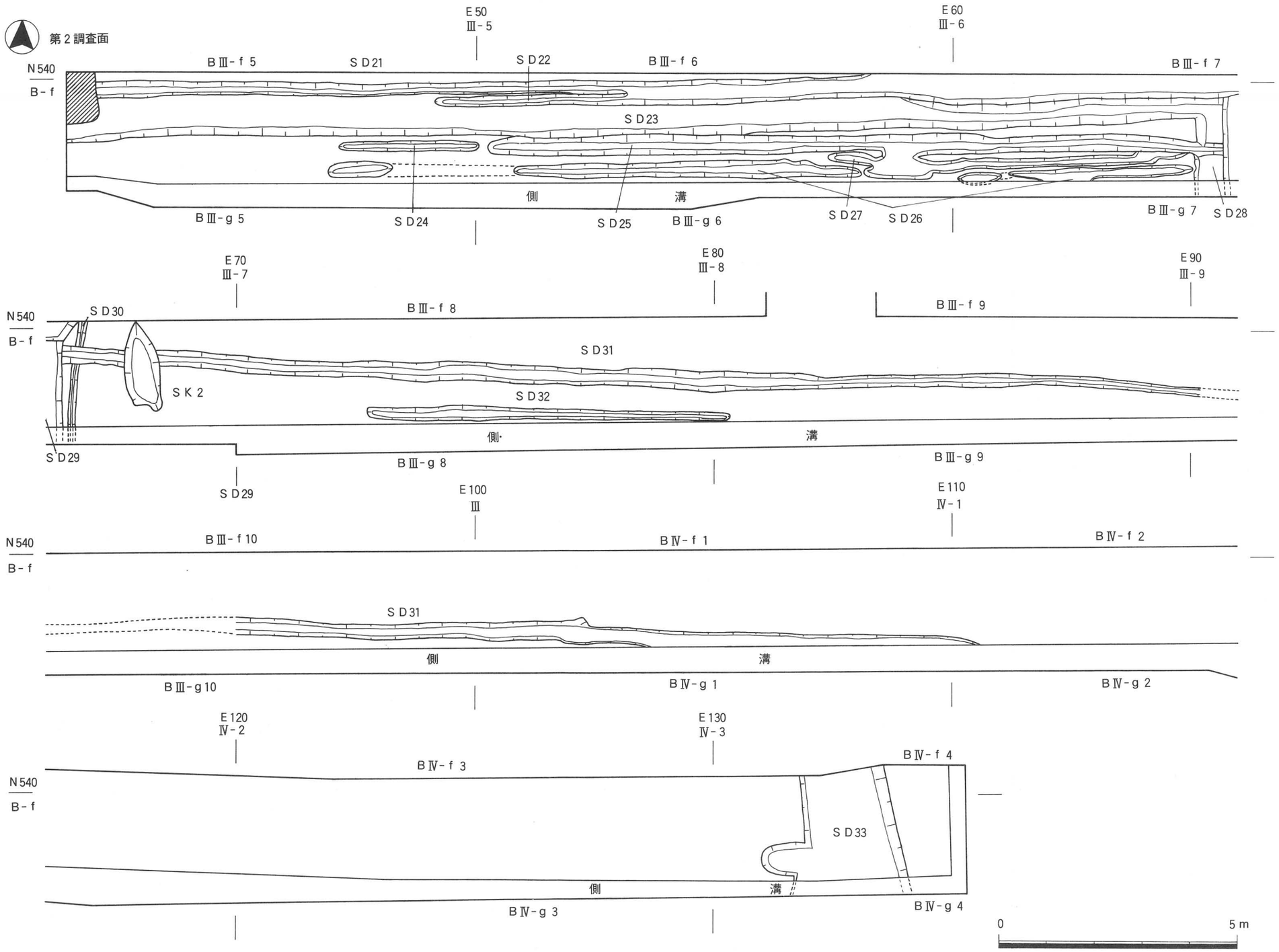
第129図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

当調査区は、第１調査区と隣接しており、遺構の検出状況はほぼ同じである。第４層（第２調査面）・第６層（第１調査面）の上面の２面を調査した。その結果、第１調査面では、古墳時代前期に比定される溝７条（ＳＤ14～ＳＤ20）・土器集積１箇所（ＳＷ１）・自然河川４条（河川１～河川４）を検出した。第２調査面では、鎌倉時代～室町時代に比定される土坑１基（ＳＫ２）・溝３条（ＳＤ30～ＳＤ32）、江戸時代に比定される溝10条（ＳＤ21～ＳＤ29・ＳＤ33）を検出した（第130・131図）。以下、各調査区について記す。



第130図　第2調査区遺構平面図



第131図　第２調査区遺構平面図

１）第１調査面（古墳時代前期）

溝（ＳＤ）

ＳＤ14～ＳＤ20

当調査区で４条を検出した。方向は南西－北東の方向に伸びるもので５条（SD15～SD19）、南東－北西の方向に伸びるもの２条（ＳＤ14・ＳＤ20）である。前者の溝は等間隔（約2.5ｍ）で、規則性がみられる。規模は検出部で、幅30～70㎝、深さ４～９㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗灰褐色粗砂混粘質土である。遺物は、内部から庄内式中相から新相に比定される土師器の小片がごく少量出土している。以下、各溝の法量等について第10表に記す。

第10表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：㎝

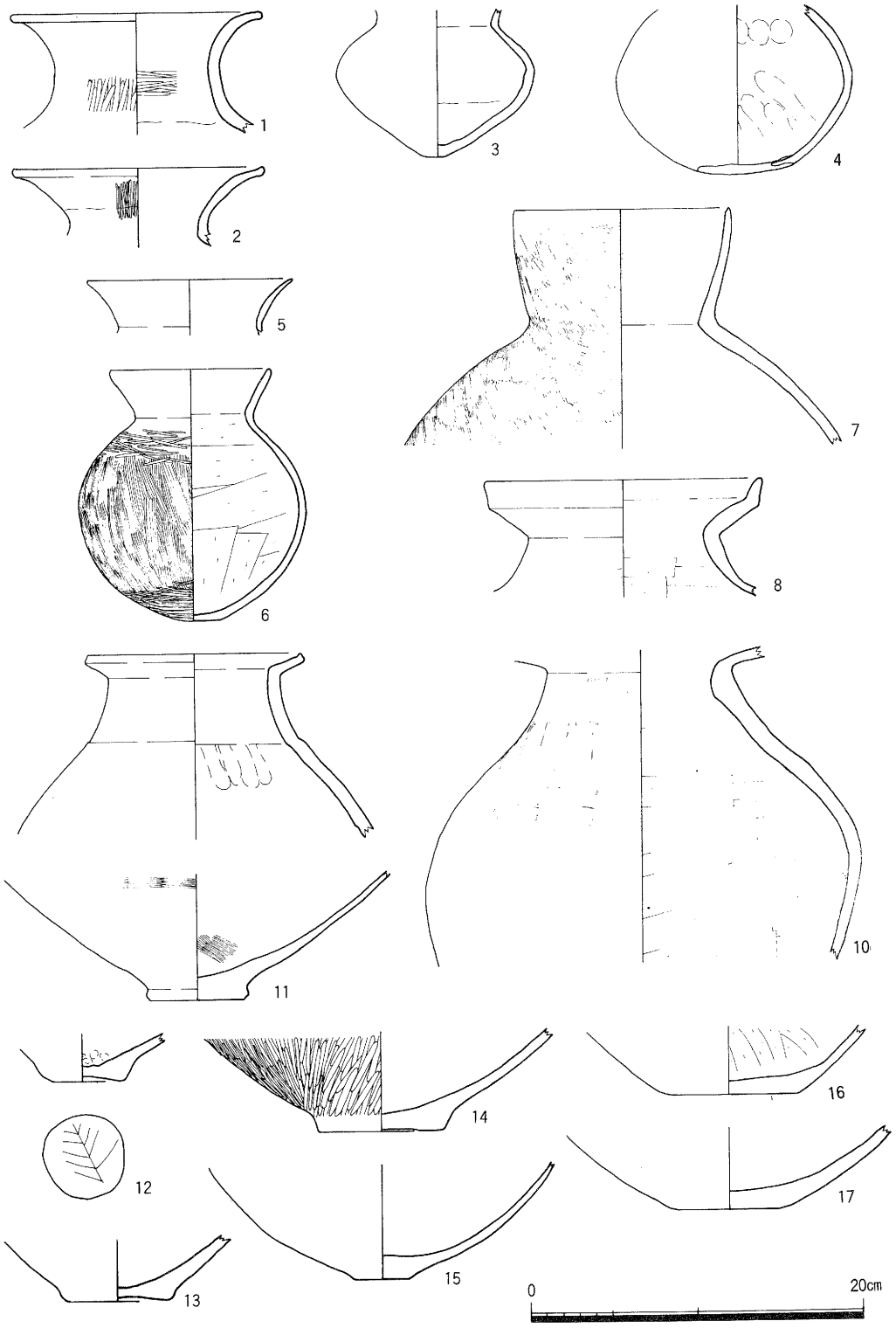
遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＤ14	ＢⅢ－ｇ７	南東－北西	半円形	35	7	淡灰褐色粗砂混粘質土	
ＳＤ15	ＢⅢ－ｇ７	南西－北東	半円形	40	9	淡灰褐色粗砂混粘質土	
ＳＤ16	ＢⅢ－ｇ７	南西－北東	半円形	40	4	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ17	ＢⅢ－ｇ８	南西－北東	半円形	30～40	4	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ18	ＢⅢ－ｇ８	南西－北東	半円形	37	7	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ19	ＢⅢ－ｇ８	南西－北東	半円形	40	9	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ20	ＢⅢ－ｇ８	南東－北西	半円形	70	6	暗灰色粗砂混粘質土	

土器集積（ＳＷ）

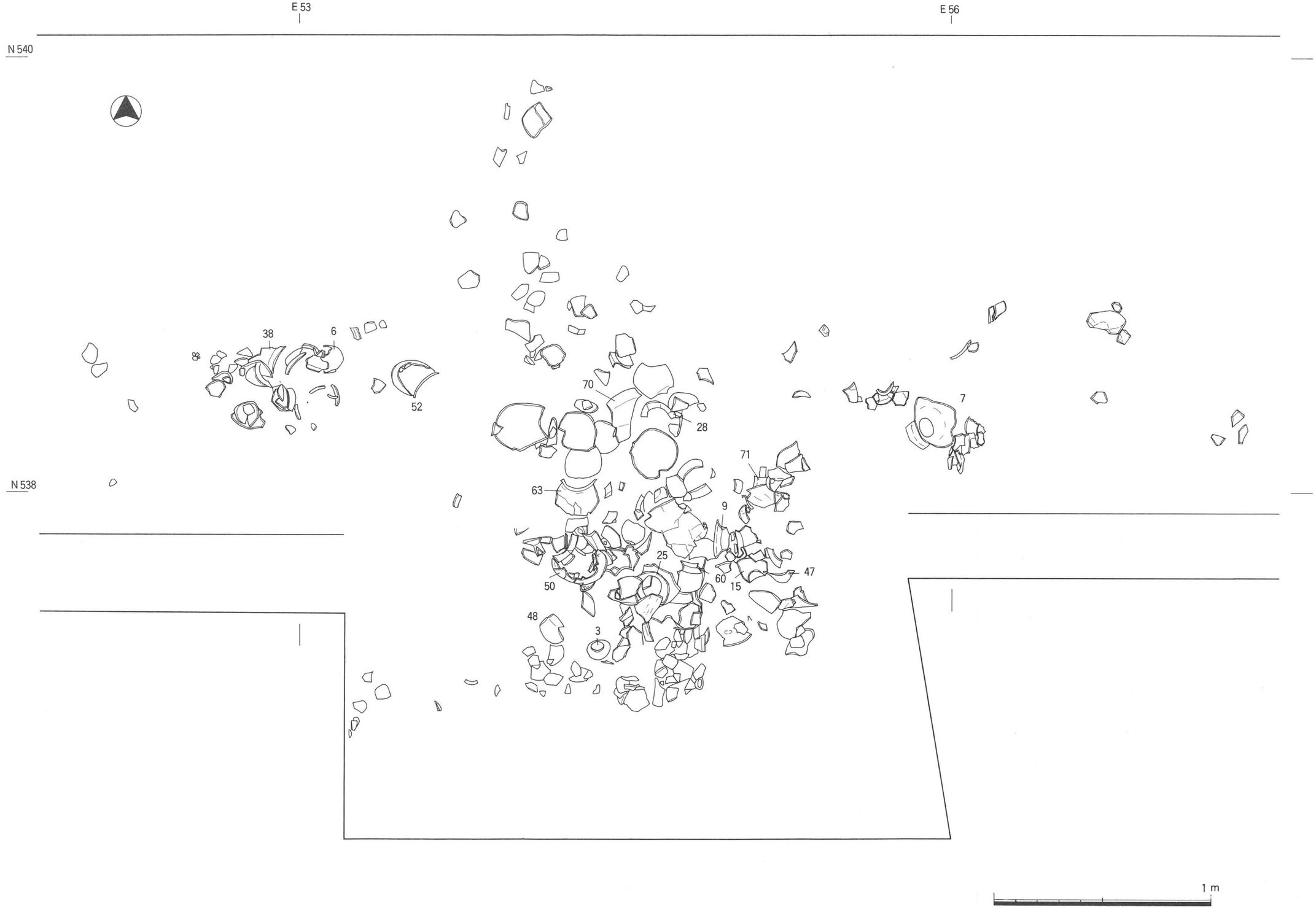
ＳＷ１

ＢⅢ－ｆ６・ｇ６区で検出した土器の集積である。土器は第４層上面に東西約４ｍ、南北約２ｍの範囲に集積するもので、平面の形状の輪郭や掘り込まれている形跡もない。土器の出土状況から大半が破片化している。土器の密集度は中央部からが最も多く、外側へ行くに従い希薄になっていく（第133図）。これらの出土土器はすべて古墳時代前期の庄内式中相～新相に比定されるものである。出土量はコンテナ箱にして約５箱分で、土器の個体数としては100個体を数える。以下、図示できたものを器種ごとに記す（第132・134～136図）。

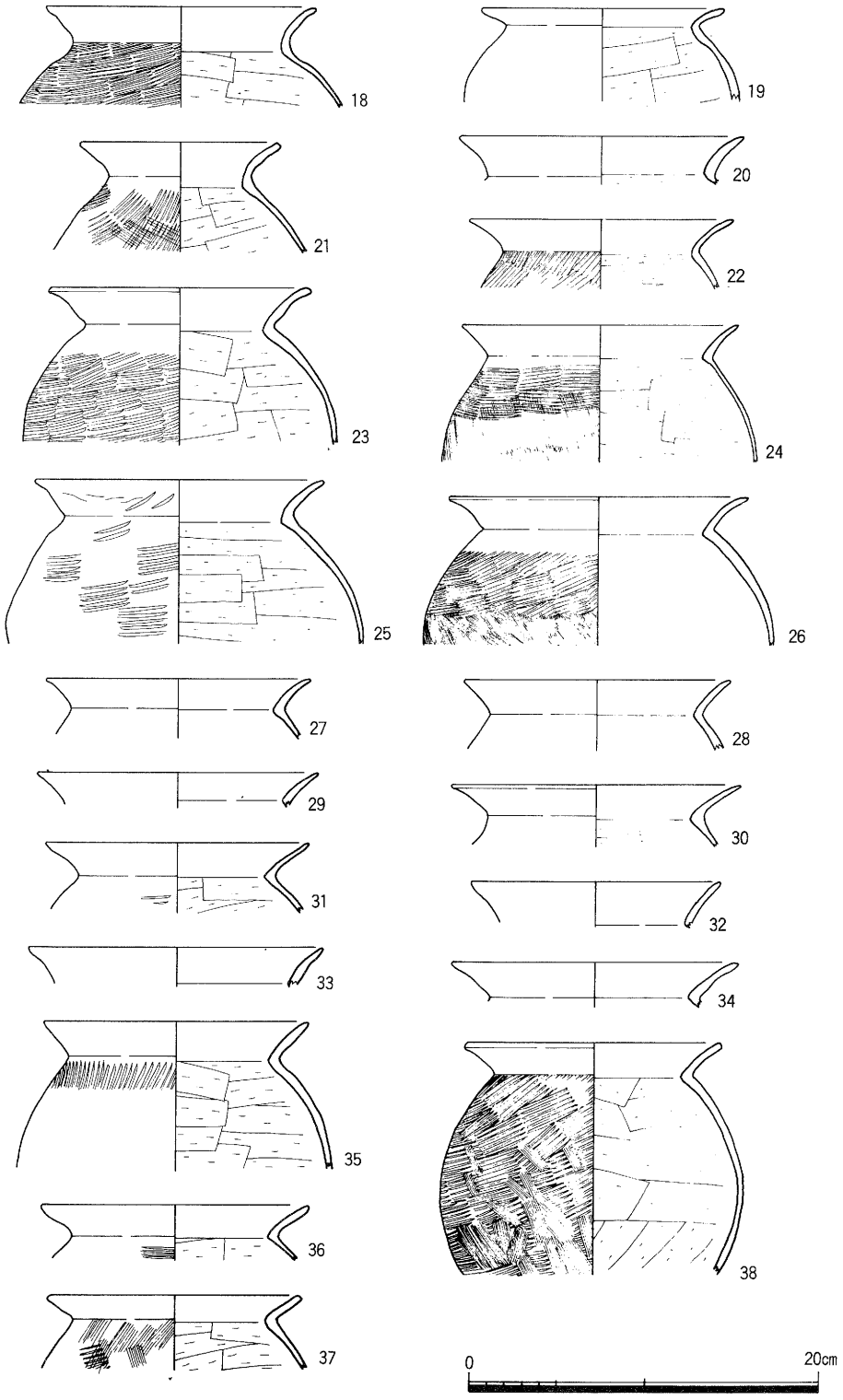
壷は20個体である。そのうち図示できたものが17点である。形態では口縁部が大きく外反するもの（１・２）、口縁が短くて小型のもの（３～６）、内湾気味に直上する口縁のもの（７）、口縁端部を大きくつまみ上げたもの（８）、大きく外方へ屈曲して短く納まるもの（９・10）、底部が突出した平底のもの（11～14）、底部が突出気味の小さな平底のもの（15）、底部が突出しない平底のもの（16・17）である。甕は、67個体で、そのうち図示できたものは、50点である。庄内式の甕（18～59）・布留式傾向の甕（60～63）・甕（64・65）・複合口縁の甕（66）、



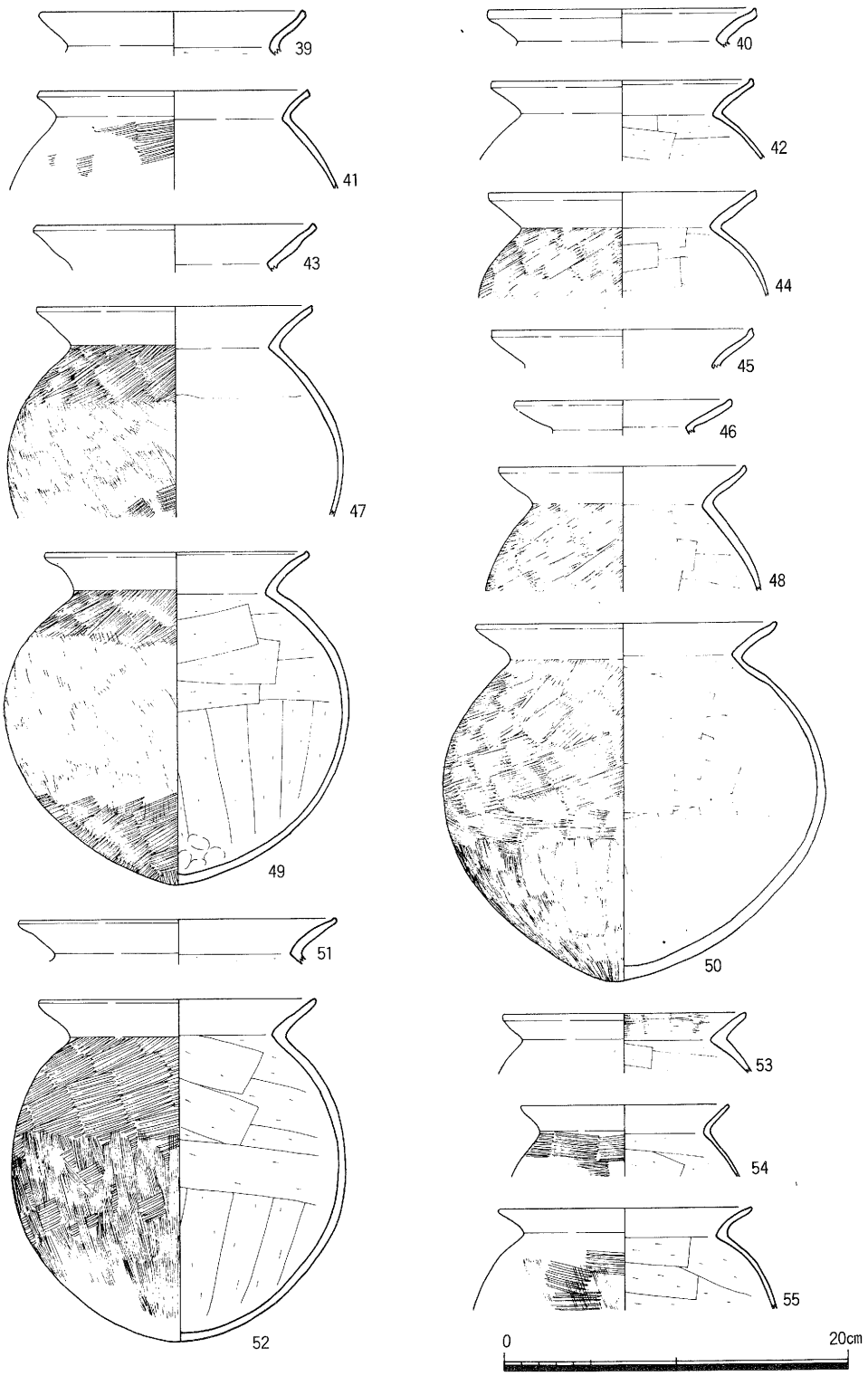
第132図　ＳＷ１出土遺物実測図１



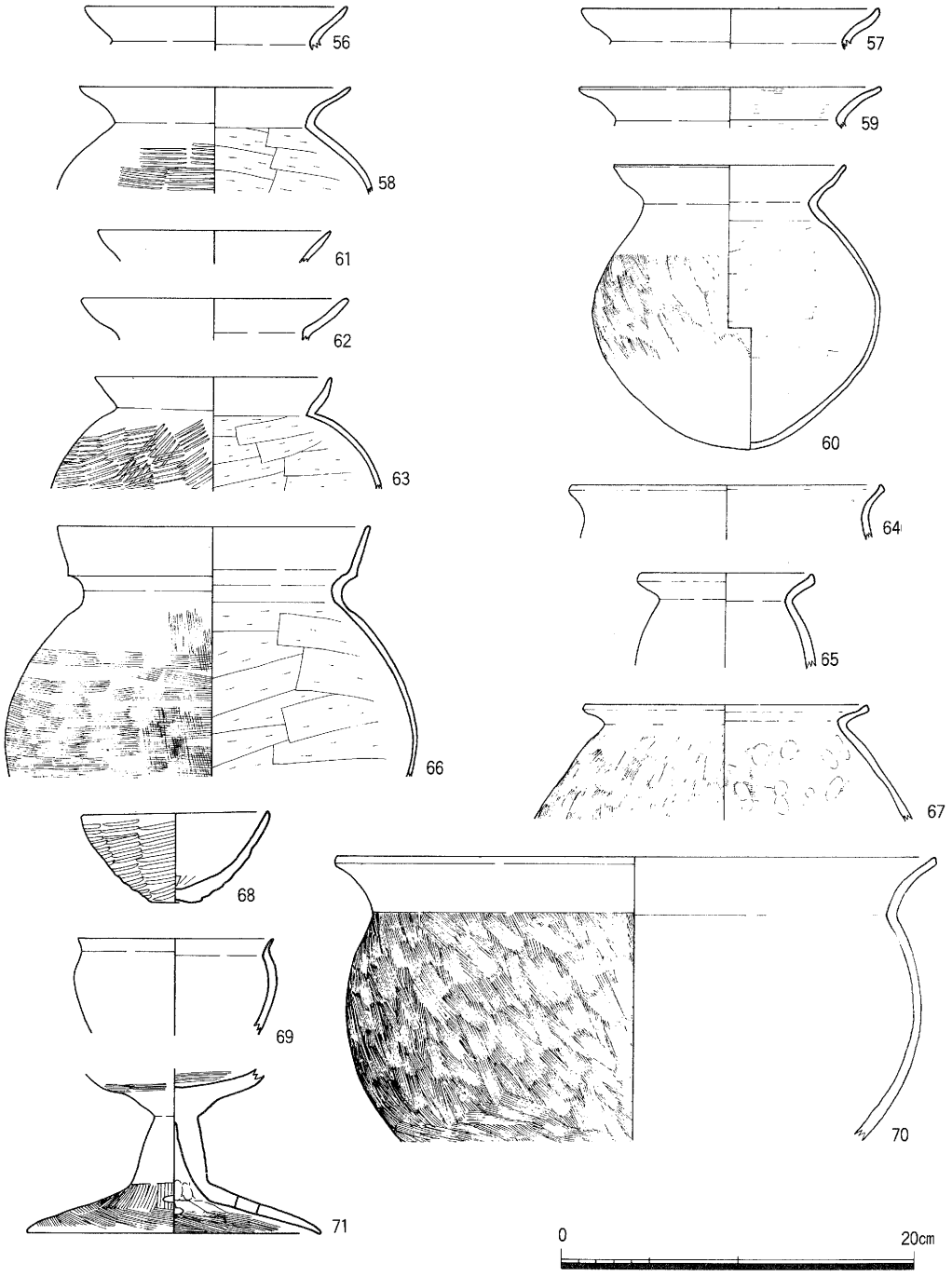
第133図　ＳＷ１平面図



第134　ＳＷ１出土遺物実測図２



第135図　ＳＷ１出土遺物実測図３



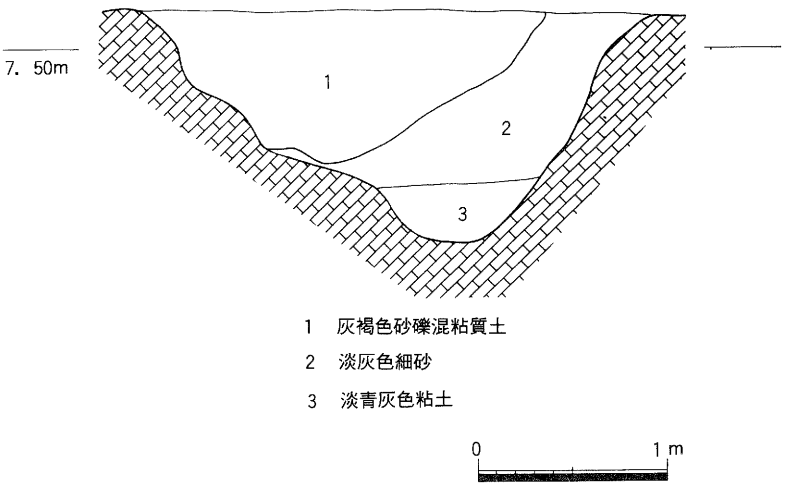
第136図　ＳＷ１出土遺物実測図４

瀬戸内系の甕（67）である。鉢は４個体で、図示できたものは３点である。椀形のもの（68）・端部付近で小さく屈曲するもの（69）・大型のもの（70）である。高杯は、４個体で、図示できたものは、１点である。柱状部から大きく外方へ開く裾部をもつもの（71）である。器種構成の比率は、甕70％：壷21％：鉢4.5％：高杯4.5％で、圧倒的に甕が多いことがわかる。また、ごく少量ではあるが他地方のものと考えられる土器６点があり、全体の比率の６％を占めている。この土器集積の性格を考えると、以下のことが考えられる。まず、第１に使用不能になった土器を捨てたごみ捨て場、第２に祭祀的なものではないかと考えられる。

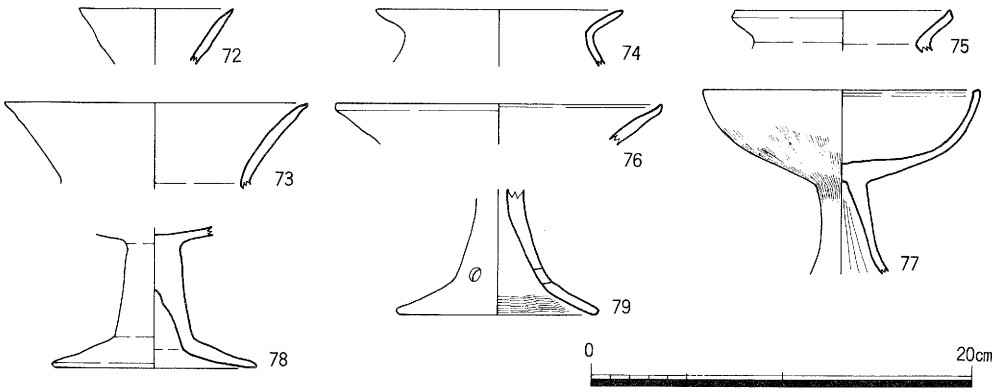
自然河川（河川）

河川１

ＢⅢ－ｇ10区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅2.6ｍ、深さ1.22ｍを測る。断面はすり鉢形を呈し、内部には砂層を基調とした灰褐色砂礫混粘質土・淡灰色細砂・淡青灰色粘土と微砂の互層が堆積している（第137図）。遺物は、内部から庄内式新相から布留式古相に比定される土師器の壷（72・73）・第Ⅴ様式系甕（74）・庄内式甕（75・76）・高杯（77～79）などの小片が少量出土している（第138図）。



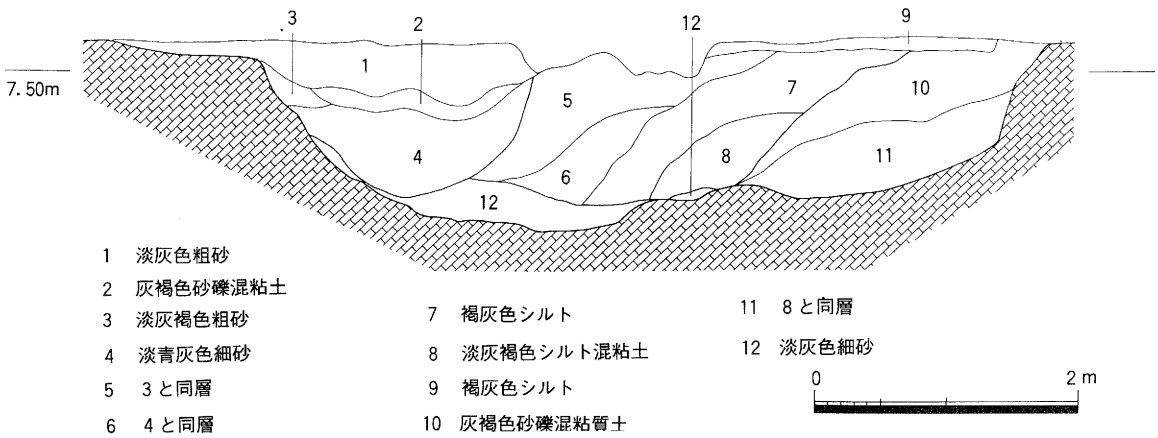
第137図　河川１断面図



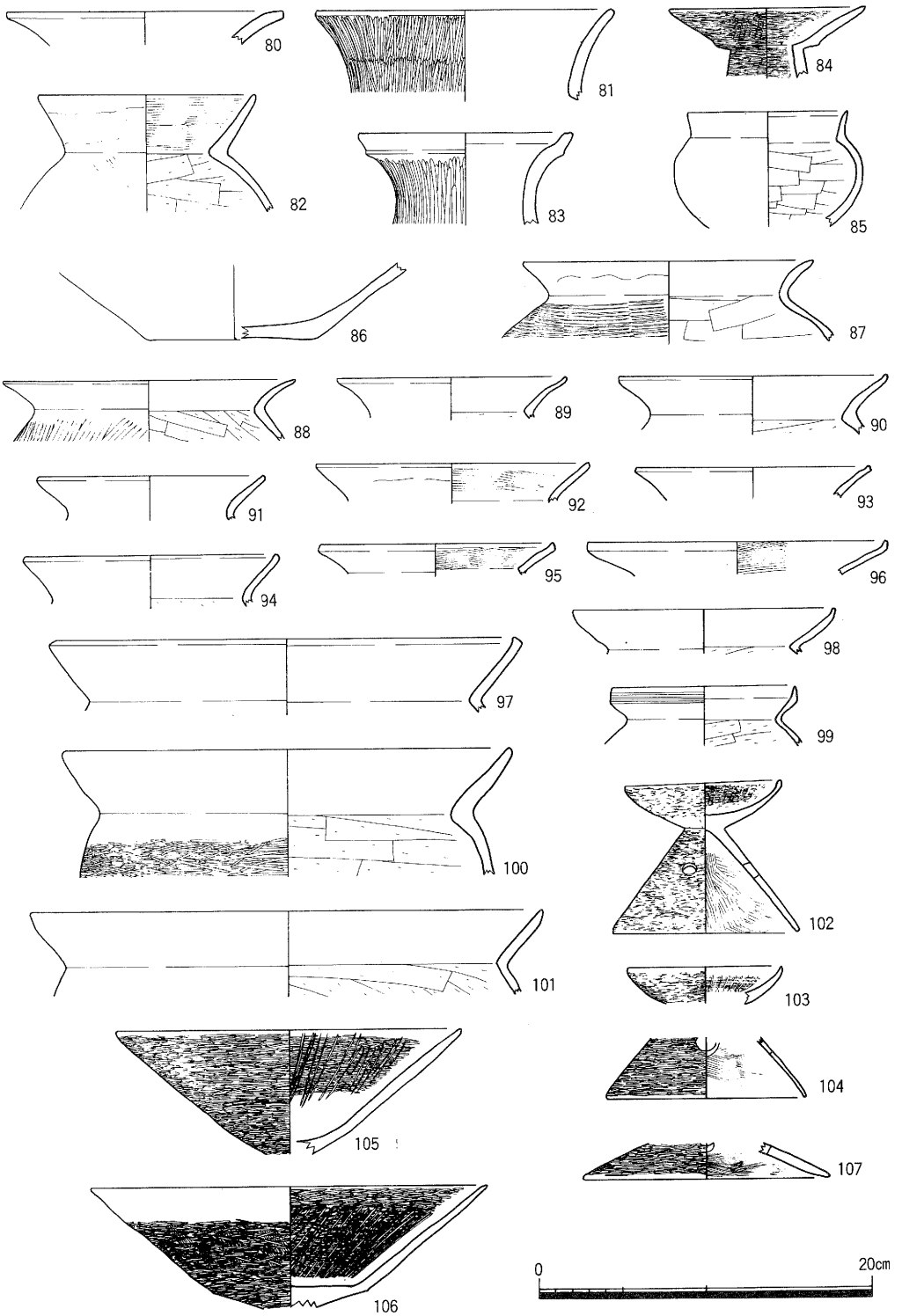
第138図　河川１出土遺物実測図

河川２

ＢⅣ－ｇ１区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅7.4ｍ、深さ１～1.4ｍを測る。断面は逆台形を呈し、底面中央にやや高まりがみられる。堆積土は、上方から第１層：淡灰色粗砂・第２層：灰褐色砂礫混粘土・第３層：淡灰褐色粗砂・第４層：淡青灰色細砂・第５層：淡灰褐色粗砂(第３層と同じ)・第６層：淡青灰色細砂(第４層と同じ)・第７層：褐灰色シルト・第８層：淡灰褐色シルト混粘土・第９層：褐灰色シルト(第７層と同じ)・第10層：灰褐色砂礫混粘質土・第11層：淡灰褐色シルト混粘土(第８層と同じ)・第12層：淡灰色細砂である(第139図)。土層の観察した結果では第１層～第４層、



第139図　河川２断面図

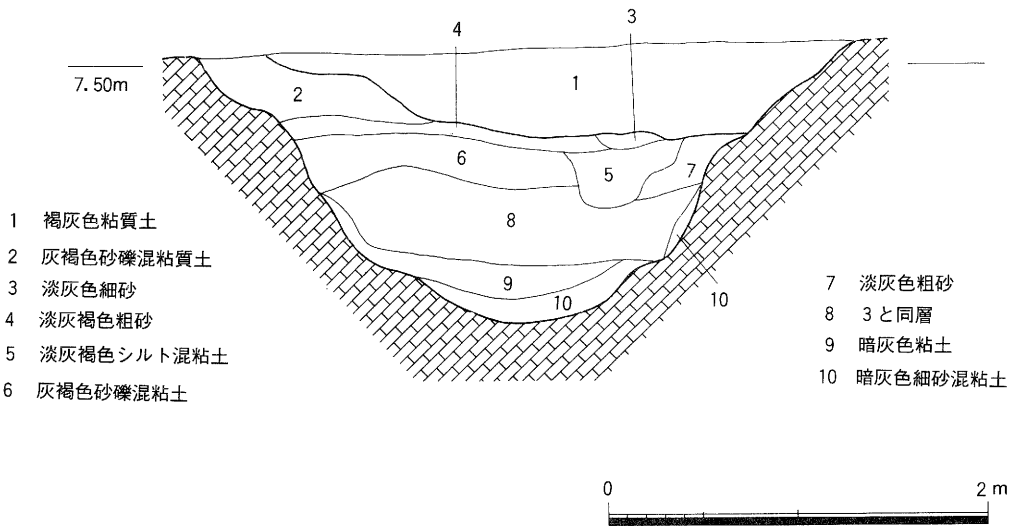


第140図　河川２出土遺物実測図

第５層～第８層、第９層～第12層と大きく３つに分かれる流れがあったものと考えられる。遺物は、内部から庄内式新相～布留式古相に比定される土師器の壷(80～86)・庄内式甕(87～98)・吉備系甕(99)・鉢(100・101)・器台(102～104)・高杯(105～107)などの小片が少量出土している(第140図)。その他には自然木などがみられる。

河川３

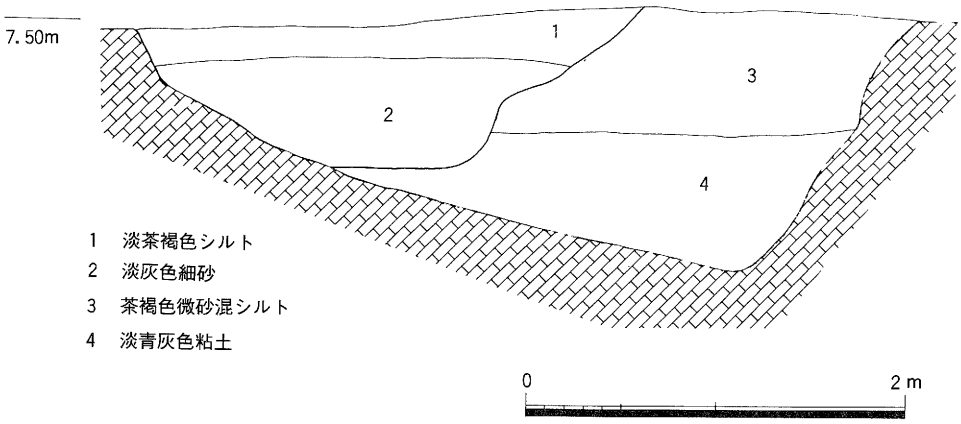
ＢⅣ－ｇ１・ｇ２区で検出した。方向は南北方向を呈し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅2.6～2.9ｍ、深さ1.45㎝を測る。断面は、すり鉢形を呈する。堆積土は、上方から第１層：褐灰色粘質土・第２層：灰褐色砂礫混粘質土・第３層：淡灰色細砂・第４層：淡灰褐色粗砂・第５層：淡灰褐色シルト混粘土・第６層：灰褐色砂礫シルト混粘土・第７層：淡灰色粗砂混細砂・第８層：淡灰色細砂(第３層と同じ)・第９層：暗灰色粘土・第10層：暗灰色細砂混粘土の10層に分けれる(第141図)。遺物は、内部から古墳時代前期(布留式古相)に比定される土師器の小片がごく少量出土している。



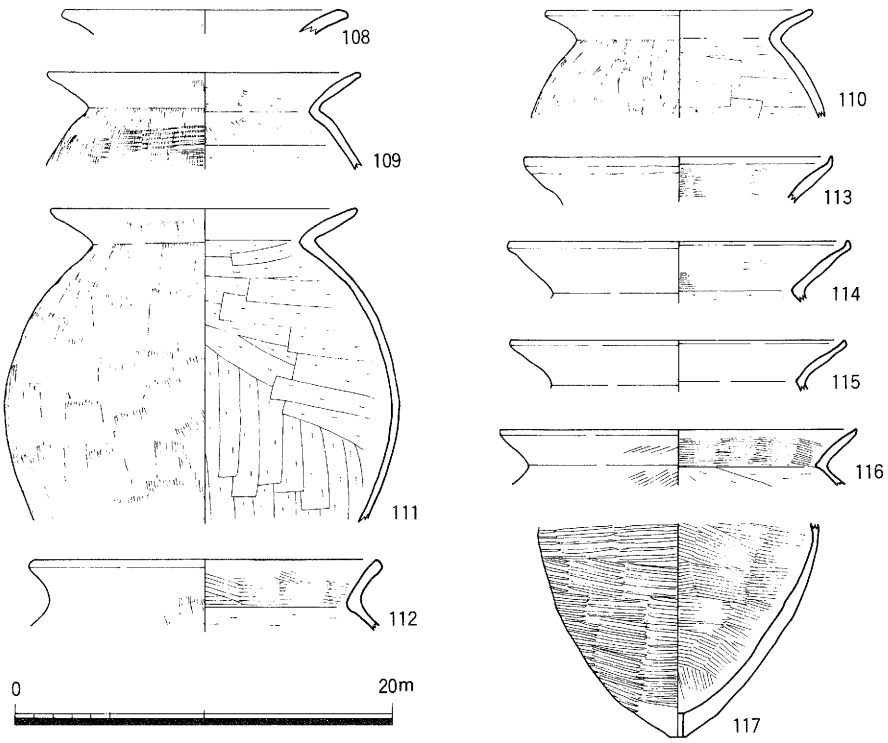
第141図　河川３断面図

河川４

ＢⅢ－ｇ２・ｇ３区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅3.6～4.6ｍ、深さ1.35㎝を測る。断面は、逆三角形を呈する。堆積土は、上方から第１層：淡茶褐色シルト・第２層：淡灰色細砂・第３層：茶褐色微砂混シルト・第４層：淡青灰色粘土の４層に分かれ、第１・２層が第３・４層を切っており、若干の流れに時期差が見られる（第142図)。遺物は、内部から庄内式新相～布留式古相に比定される壷・甕（108～112)・庄内式甕（113～116)・有孔鉢（117)・高杯などの小片が少量出土している（第143図)。



第142図　河川４断面図



第143図　河川４出土遺物実測図

２）第２調査面（鎌倉時代～江戸時代）

土坑（ＳＫ）

ＳＫ２

ＢⅢ－ｇ７区で検出した。平面は、楕円形を呈する。規模は検出部で、東西0.7ｍ、南北1.7ｍ、深さ８㎝を測る。ＳＤ31を切っている。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色粗砂混砂質土である。遺物は出土していないが、堆積土層や層位的にみて江戸時代ごろのものであろう。

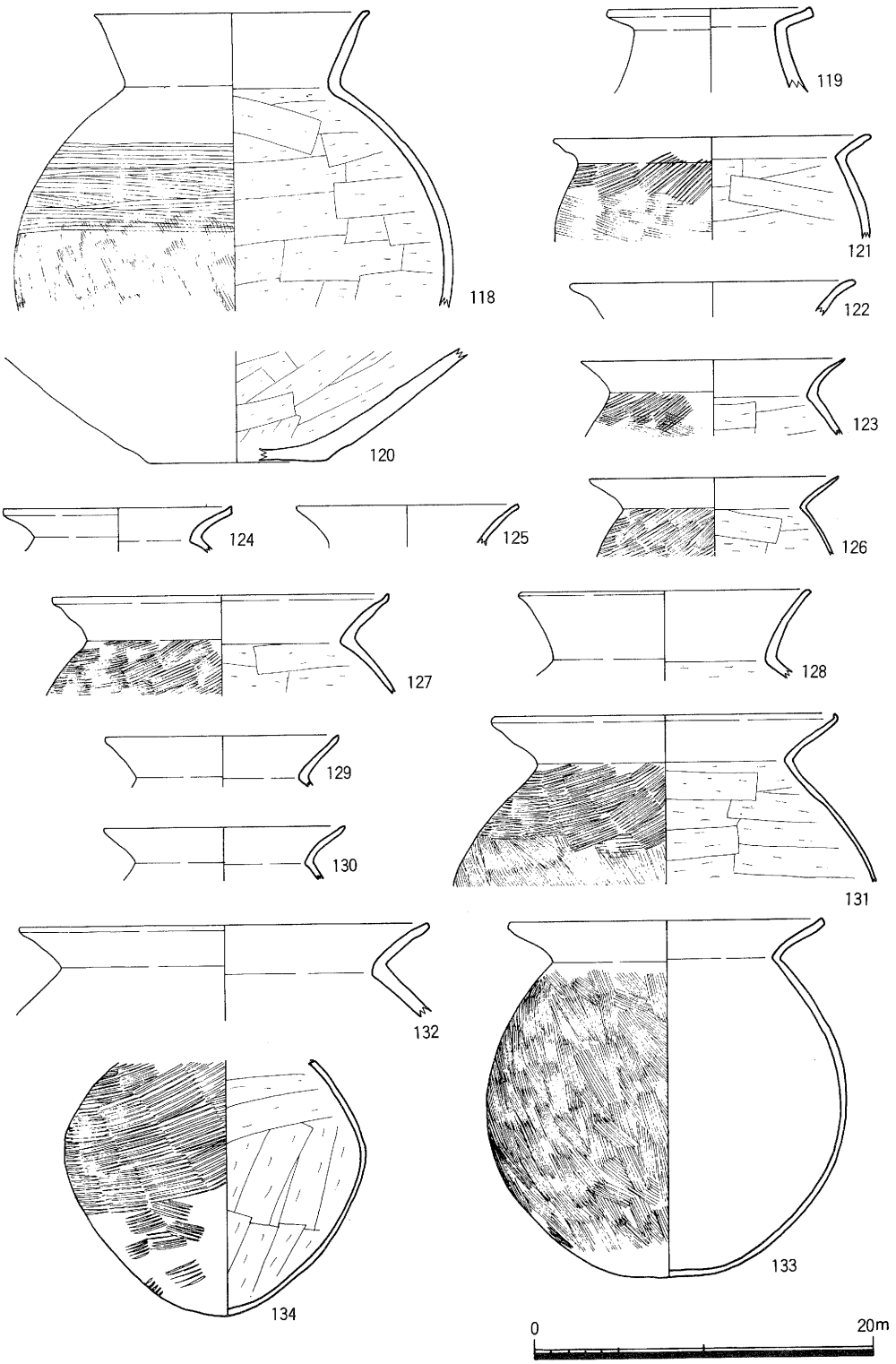
溝（ＳＤ）

ＳＤ21～ＳＤ33

11条を検出した。これらの溝は当調査区の西部に集中しており、東西方向に伸びるもの７条、南北方向に伸びるもの４条である。時期では鎌倉時代に比定されるもの３条（ＳＤ30～ＳＤ

第11表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＤ21	ＢⅢ－ｆ５～ｆ６	東－西	逆台形	22～36	５～13	淡灰褐色粗砂混砂質土	ＳＤ22と合流。ＳＤ28～30を切る
ＳＤ22	ＢⅢ－ｇ５～ｇ７	東－西	逆台形	23～50	３～11	淡灰褐色粗砂混砂質土	ＳＤ21と合流。
ＳＤ23	ＢⅢ－ｇ５～ｇ７	東－西	逆台形	65以上	６～17	淡灰褐色粗砂混砂質土	ＳＤ28・29に切られる。
ＳＤ24	ＢⅢ－ｇ５	東－西	逆台形	22	８～12	淡灰褐色粗砂混砂質土	
ＳＤ26	ＢⅢ－ｇ６～ｇ７	東－西	逆台形	24～40	２～６	淡灰褐色粗砂混砂質土	ＳＤ25・27と合流
ＳＤ27	ＢⅢ－ｇ７～ｇ７	東－西	逆台形	18～25	２～４	淡灰褐色粗砂混砂質土	ＳＤ25・26と合流。
ＳＤ28	ＢⅢ－ｇ７	東－西	逆台形	50以上	７	淡灰褐色粗砂混砂質土	ＳＤ23と合流。ＳＤ22・25・29に切られる。
ＳＤ29	ＢⅢ－ｇ７	東－西	逆台形	63	９	淡灰褐色粗砂混砂質土	ＳＤ23・25・28に切られ、ＳＤ31を切る。
ＳＤ30	ＢⅢ－ｇ７	東－西	逆台形	15	２～５	淡灰褐色粗砂混粘質土	ＳＤ31に切られる。
ＳＤ31	ＢⅢ－ｇ７ ＢⅣ－ｇ１	東－西	逆台形	15～40	２～８	淡灰褐色粗砂混粘質土	ＳＫ２に切られる。
ＳＤ32	ＢⅢ－ｇ８～ｇ８	東－西	逆台形	17～32	４～９	淡灰褐色粗砂混粘土質	
ＳＤ33	ＢⅣ～ｆ４	～ｇ４ 東－西	逆台形	10	11～17	淡灰褐色粗砂混砂質土	

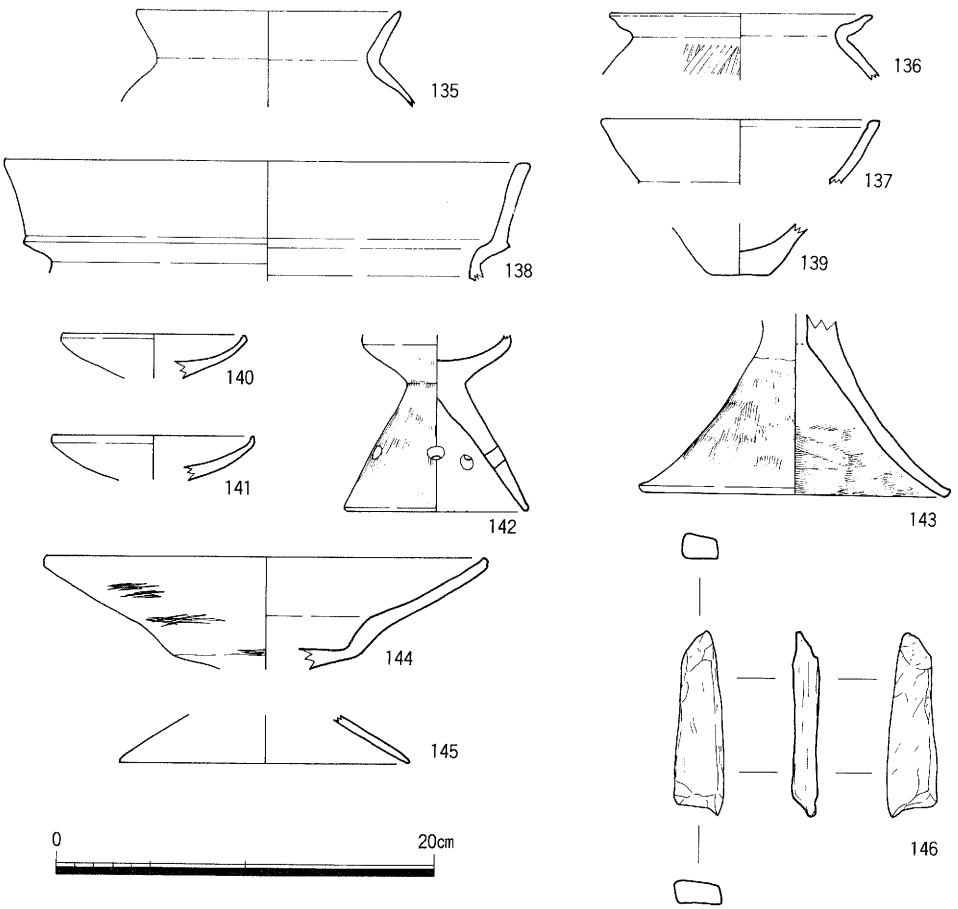


第144図　遺構に伴なわない出土遺物実測図1

32）である。他はすべて江戸時代に比定されるものである。規模は検出部で、幅0.2～１ｍ、深さ５～20cmを測り、断面の形状は、逆台形を呈する。堆積土は鎌倉時代の溝が暗灰色粗砂混粘質土、江戸時代の溝が淡灰褐色粗砂混砂質土である。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る土器の小片がごく少量出土している。以下、各溝の法量などについて第11表に記す。

３）遺構に伴わない出土遺物

第２～４層で出土している。時期は古墳時代前期から江戸時代に至る遺物である。出土量はコンテナ箱にして約２箱分である。この調査区も第１調査区と同じく、第４層内から古墳時代前期に比定される最も多く出土している。以下、図示できたものについて記す。古墳時代前期に比定される壷（118～120）、庄内式の甕（121～134）、甕（135・136）、布留式の甕（137）、複合口縁の甕（138）、鉢（139）、器台（140～143）、高杯（144・145）、砥石（146）である（第144・145図）。



第145図　遺構に伴なわない出土遺物実測図２

第４節　第３調査区

第２調査区東部の南側約40ｍに設定した東西方向に長い調査区（幅2.5ｍ×長さ43ｍ）で、東部には北方へ流れている楠根川がある。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表下約1.8ｍに存在する土層内から普遍的にみられる７層を摘出した基本層序とした（第146図）。現地表高は標高8.2ｍを測る。

第１層　耕土：層厚15～20㎝。調査前までの耕作土である。

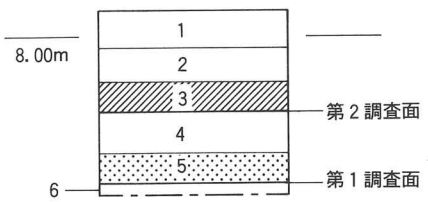
第２層　灰茶色細砂混砂質土：層厚15～20㎝。耕土の床土である。

第３層　暗灰褐色粘質土：層厚10～15㎝。古墳時代～鎌倉時代に至る土器の小片がごく少量含まれる。

第４層　茶褐色シルト：層厚20～25㎝。上面で古墳時代中期の遺構と鎌倉時代ごろの溝が切り込まれている。この上面を第２調査面とした。標高は7.6ｍを測る。

第５層　暗灰茶色細砂混シルト：層厚10～15㎝。古墳時代前期に比定される土器の小片がごく少量出土している。

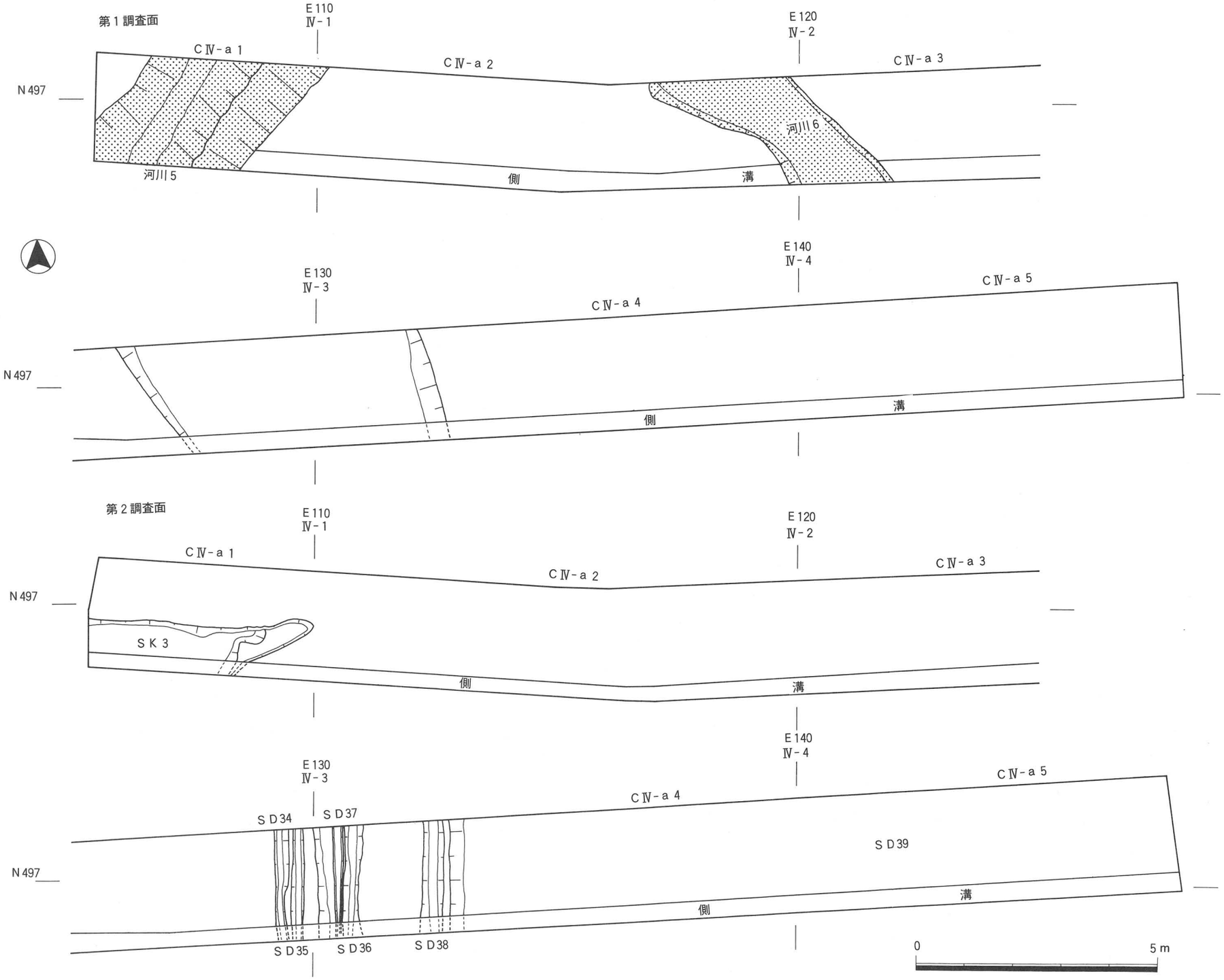
第６層　灰色粘土：この上面から切り込まれている古墳時代前期の自然河川を検出した。標高は7.2ｍを測る。



第146図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

第４層（第２調査面）と第６層（第１調査面）を調査面とした。その結果、第１調査面では、自然河川２条（河川５・河川６）を検出した。この河川は第２調査区で検出した自然河川に継続するものであろう。第２調査面では古墳時代中期に比定される土坑１基（ＳＫ３）、鎌倉時代に比定される溝５条（ＳＤ34～ＳＤ38）、第３層から切り込む江戸時代に比定される溝１条（ＳＤ39）を検出した（第147図）。遺構に伴わない遺物が第３層と第５層内からごく少量出土している。出土量はコンテナ箱にして約1/3程度である。以下、各遺構について記す。



第147図　第3調査区遺構平面図

１）第１調査面（古墳時代前期）

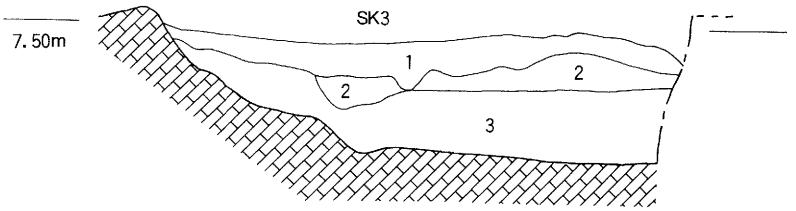
自然河川（河川）

河川５

ＣⅣ－ａ１区で検出した。方向は南西－北東方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅2.9ｍ、深さ80㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗灰茶色細砂混シルト・暗灰褐色粘質シルト・灰色細砂である（第148図）。遺物は、内部から庄内式新相～布留式古相に比定される壷（１）・庄内式甕（２）・器台（３）・高杯（４～６）等の小片がごく少量出土している（第149図）。なお、この河川は、北部にある第２調査区で検出した河川３に継続するものと考えられる。

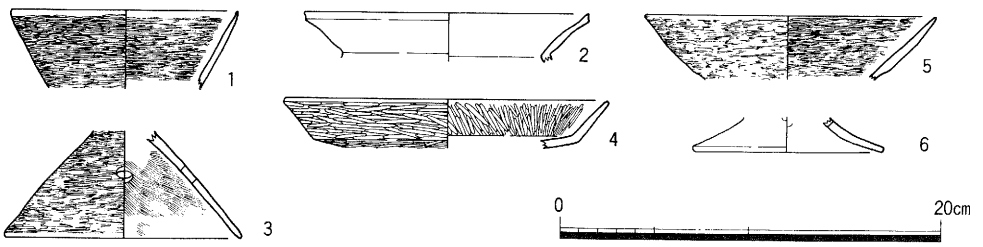
河川６

ＣⅣ－ａ２・ａ３区で検出した。方向は南東－北西方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅1.4～２ｍ、深さ70㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡茶褐色粘質土・暗灰褐色粘質シルト・淡茶褐色シルト（細砂礫が混じる）・暗灰褐色粘質シルト・淡灰褐色粘土・灰色細砂である（第150図）。遺物は、内部から庄内式新相～布留式古相に比定される壷・庄内式甕・高杯の小片がごく少量出土している。

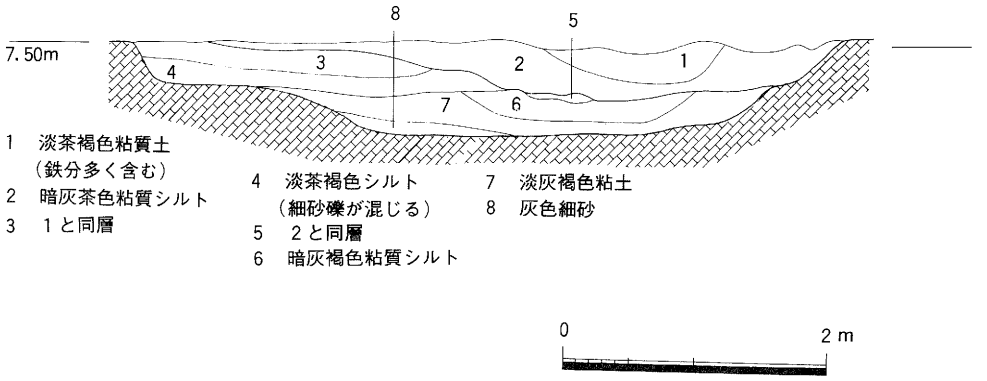


1　暗灰茶色細砂混シルト
2　暗灰褐色粘質シルト
3　灰色細砂

第148図　河川５断面図



第149図　河川５出土遺物実測図



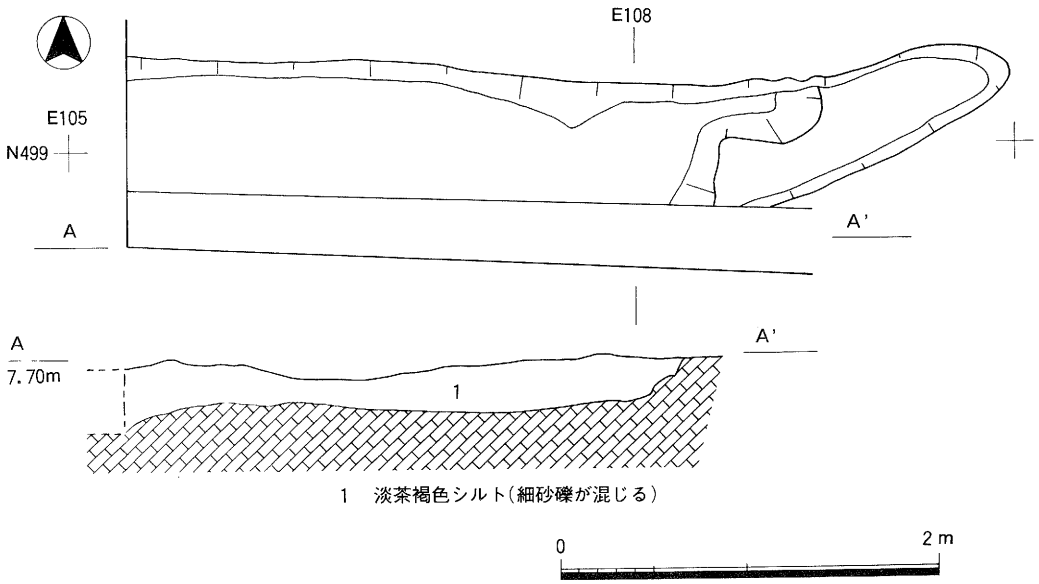
第150図　河川6断面図

2）第2調査面（古墳時代中期～江戸時代）

土坑（ＳＫ）

ＳＫ３

ＣⅣ－ａ１区で検出した。南部・西部が調査区外に至るため、平面・断面ともに不明である。規模は検出部で、東西4.7ｍ、南北1.1ｍ、深さ60㎝を測る。堆積土は、淡茶褐色シルト（細砂礫が混じる）である（第151図）。遺物は、内部から土師器の高杯（７・８）・壷（９）、須恵器の高杯などが少量出土している（第152図）。



第151図　ＳＫ３平断面図

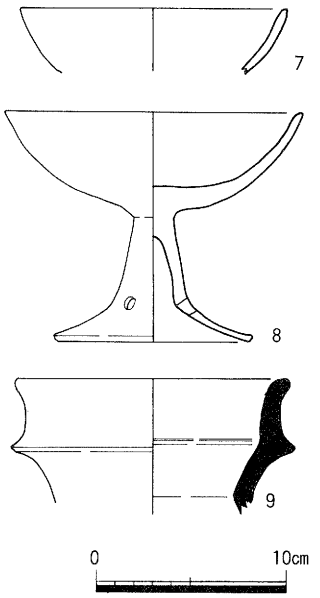
溝（ＳＤ）

ＳＤ34～ＳＤ38

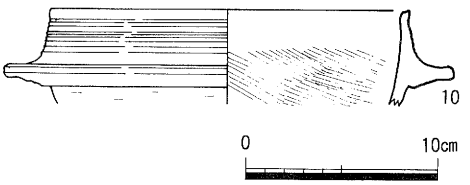
５条を検出した。方向は、すべて南北方向を示す。規模は検出部で、幅15～46cm、深さ６～27cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色粗砂混砂質土である。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土器の小片がごく少量出土している。以下、各溝については第12表に記す。

ＳＤ39

ＣⅣ－ａ４・ａ５区で検出した。方向は南北方向を示す溝状の遺構と考えられるが、東・南北は調査区外に至り、全容は不明である。規模は検出部で、幅15ｍ以上、深さ0.4～1.2ｍを測る。溝は西側がなだらかで浅く、東側では急斜面に落込み深くなっている。堆積土は淡茶褐色粘質土（酸化鉄を多く含む）・暗灰茶色粘質シルト・暗灰色細砂混粘土・淡黄茶色細砂・暗灰色シルト混粘土・灰色細砂で、底部付近は砂層を基調とする。底面の傾斜状況から東側（楠根川）に向い深くなるようで、非常に大きい規模をもつものであろう。遺物は、内部から室町時代に比定される瓦質の羽釜（10）などの小片がごく少量出土している（第153図）。



第152図　ＳＫ３出土遺物実図



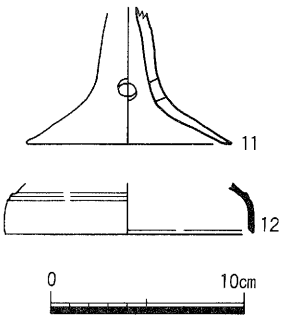
第153図　ＳＤ39出土遺物実測図

第12表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＤ34	ＣⅣ－ａ３	南－北	逆台形	46	18～27	淡灰褐色粗砂混砂質土	
ＳＤ34	ＣⅣ－ａ３	南－北	逆台形	46	18～27	淡灰褐色粗砂混砂質土	
ＳＤ35	ＣⅣ－ａ３	南－北	逆台形	40	９～17	淡灰褐色粗砂混砂質土	
ＳＤ36	ＣⅣ－ａ４	南－北	逆台形	42	８	淡灰褐色粗砂混砂質土	
ＳＤ37	ＣⅣ－ａ４	南－北	逆台形	15～31	６	淡灰褐色粗砂混砂質土	
ＳＤ38	ＣⅣ－ａ４	南－北	逆台形	200	14～21	淡灰褐色粗砂混砂質土	

3）遺構に伴わない出土遺物

第２層～第４層内から遺物が出土している。出土量はコンテナ箱にして約半分程度である。時期は古墳時代前期～江戸時代に至るものである。以下、図示できたものについて記す。第４層内から出土した古墳時代前期（布留式古相）に比定される土師器の高杯（11）の脚部、第３層内から出土した古墳時代後期に比定される須恵器（Ⅱ型式２段階）の杯蓋（12）である（第154図）。



第154図　遺構に伴なわない出土遺物実測図

第５節　第４調査区

第３調査区の東側（楠根川を挟む）約25ｍに位置する東西方向に長い調査区（幅2.5ｍ×長さ36ｍ）である。当調査区の東部では当調査研究会が実施した第３調査区の第１調査区があり、北部には大阪府教育委員会が調査した小阪合ポンプ場がある。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.7ｍに存在する土層内から９層を摘出して基本層序とした（第155図）。現地表面は、標高8.2ｍを測る。以下、各土層について記す。

第１層　盛土：層厚40～50㎝。小阪合ポンプ場建設工事に伴う整地層である。

第２層　旧耕土：層厚10～15㎝。昭和59年までの耕作土である。

第３層　茶褐色細砂混シルト：層厚15㎝。耕土の床土である。

第４層　淡灰色粘質土：層厚20～25㎝。

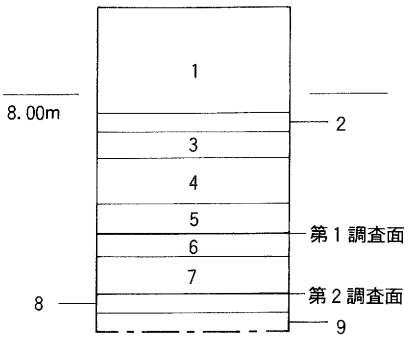
第５層　淡灰色粘質シルト：層厚10～15㎝。

第６層　灰褐色粘質土：層厚５～10㎝。この上面で鎌倉時代の溝が切り込まれている。

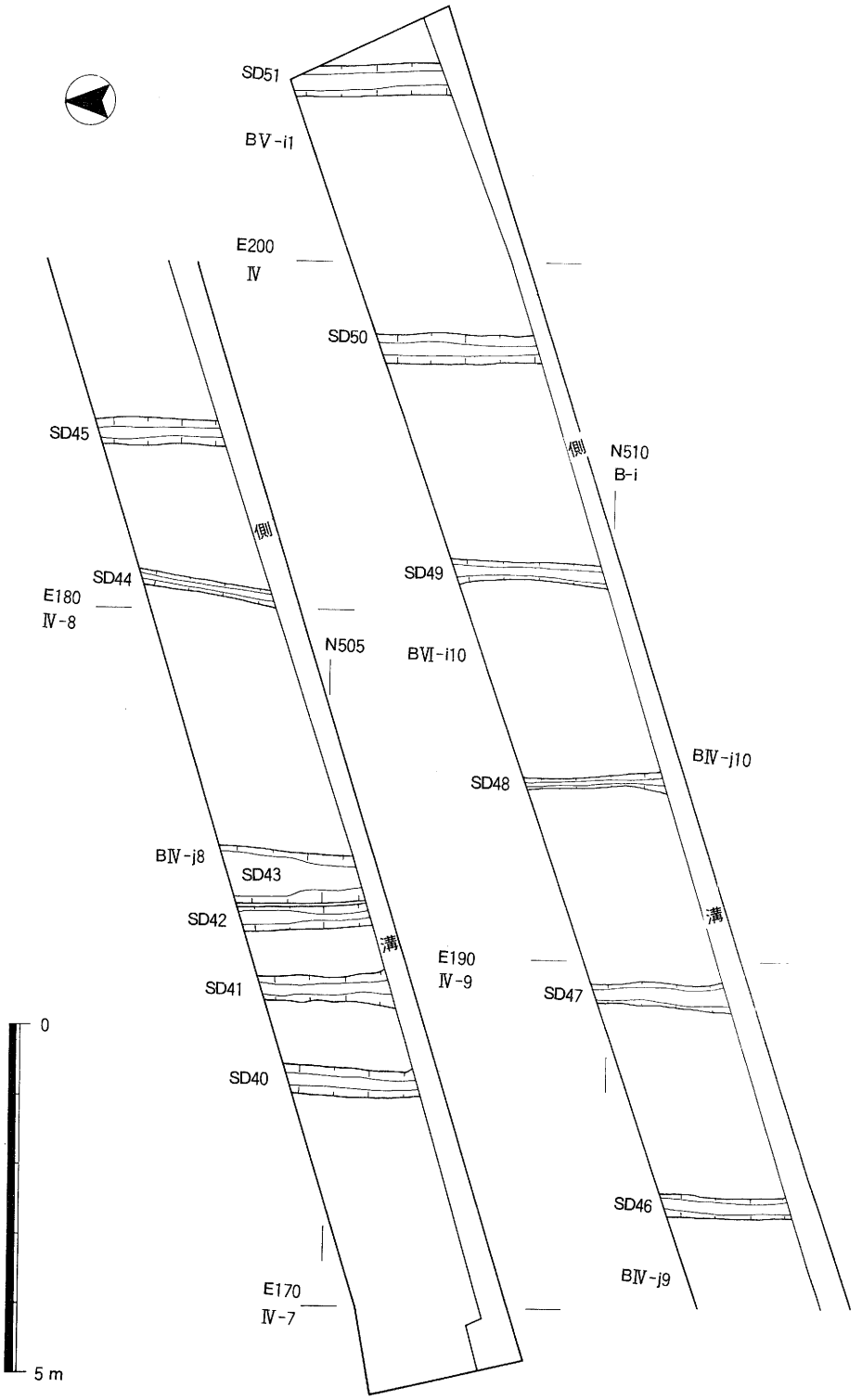
第７層　淡灰色細砂混粘土：層厚15～20㎝。

第８層　淡灰色細砂混シルト：層厚10㎝。

第９層　青灰色粘土：層厚15㎝。



第155図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）



第156図　第4調査区遺構平面図

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

第６層の上面を調査面とした。その結果、鎌倉時代に比定される溝12条（ＳＤ40～ＳＤ51）を検出した。

溝（ＳＤ）

ＳＤ40～ＳＤ51

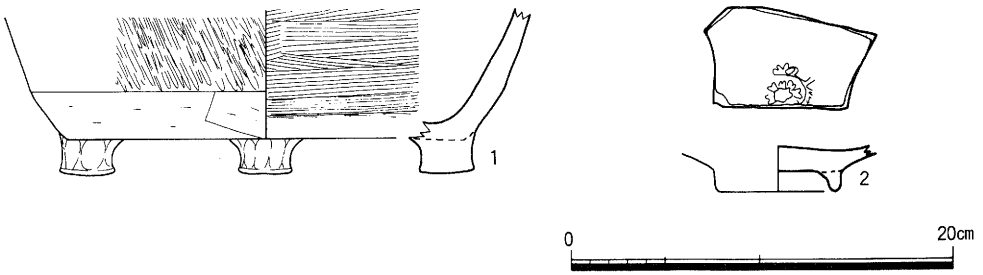
12条を検出した。これらの溝は農耕に関連するもので、方向は、すべて南北方を示すものである。規模は検出部で、幅20～80cm、深さ２～17cmを測り、断面の形状もすべて逆台形を呈する。堆積土は黄褐色粘質シルトで、内部から遺物は出土していない。以下、各溝の法量などについては第13表に記す。

第13表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＤ40	ＢⅣ－ｊ８	南－北	逆台形	40	10	黄褐色粘質シルト	
ＳＤ41	ＢⅣ－ｊ８	南－北	逆台形	35～55	15	黄褐色粘質シルト	
ＳＤ42	ＢⅣ－ｊ８	南－北	逆台形	35	12	黄褐色粘質シルト	
ＳＤ43	ＢⅣ－ｊ８	南－北	逆台形	80	17	黄褐色粘質シルト	
ＳＤ44	ＢⅣ－ｊ９	南－北	逆台形	20	3	黄褐色粘質シルト	
ＳＤ45	ＢⅣ－ｊ９	南－北	逆台形	40	12	黄褐色粘質シルト	
ＳＤ46	ＢⅣ－ｊ９	南－北	逆台形	30	5	黄褐色粘質シルト	
ＳＤ47	ＢⅣ－ｊ９	南－北	逆台形	35	3	黄褐色粘質シルト	
ＳＤ48	ＢⅣ－ｉ10	南－北	逆台形	20	2	黄褐色粘質シルト	
ＳＤ49	ＢⅣ－ｉ10	南－北	逆台形	30	6	黄褐色粘質シルト	
ＳＤ50	ＢⅣ－ｉ10	南－北	逆台形	45	12	黄褐色粘質シルト	
ＳＤ51	ＢⅤ－ｉ１	南－北	逆台形	45	15	黄褐色粘質シルト	

２）遺構に伴わない出土遺物

第３～５層内から出土している。出土量は、土器片22点を数える。時期は、鎌倉時代～江戸時代に至るものである。以下、図示できたものについて記す。第３層内から出土した鎌倉時代～室町時代に比定される三脚のある鉢形土器（１）・陶磁器の椀（２）である（第157図）。



第157図　遺構に伴なわない出土遺物実測図

第6節　第5調査区

今回の調査区（区画整理事業区域内）でもっとも北部に位置するもので、南北方向に長い調査区（幅1.5m×長さ82m）である。この調査区は既往道路があるため、調査幅が半部となっている。調査面積約123㎡を測る。

Ⅰ基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1mまでに存在する土層内から普遍的にみられる7層を摘出して基本層序とした（第158図）。現地表面は、標高8.0mを測る。以下、各土層について記す。

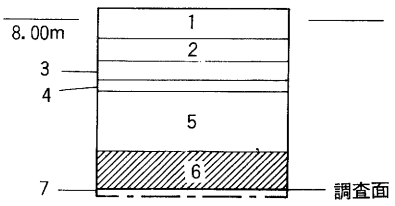
第1層　耕土：層厚10～15cm。調査前まで耕作していた土層である。

第2層　床土：層厚10cm。耕土の床土である。

第3層　淡茶色細砂：層厚10cm。

第4層　茶灰色～灰白色微砂：層厚5cm。氾濫による堆積である。

第5層　暗灰褐色粘土：層厚20～25cm。鎌倉時代～室町時代の耕作土と考えられ、上面には足跡状の窪みが僅かにみられる。この土層は粘性が高い。



第158図　基本層序柱状図（S＝1／40）

第6層　暗灰青色シルト混粘土：層厚15～20cm。古墳時代～鎌倉時代に比定される遺物が少量含まれる土層（包含層）で、調査区北部へ行くに従い堆積する。

第7層　青灰色シルト：層厚10cm以上。この上面から切り込む平安時代中期～鎌倉時代初頭に比定される遺構を検出した。標高は7.1mを測る。

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

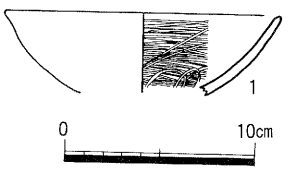
第7層上面を調査面とした。その結果、平安時代中期に比定される溝2条、鎌倉時代に比定される溝4条を検出した（第162図）。出土遺物は、第6層内から少量出土している。

溝（SD）

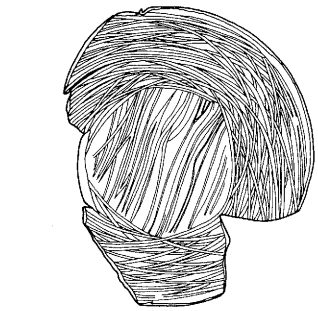
SD52～SD57

当調査区から6条を検出した。平安時代に比定される溝2条（SD55・SD56）と鎌倉時代

に比定される溝４条（ＳＤ52～ＳＤ54・ＳＤ57）を検出した。前者では、方向が南北方向を示し、幅0.3～0.5ｍ、深さ10～46㎝を測る。後者では、方向が東西方向（３条）、南東－北西方向（１条）を示すものがある。規模は検出部で、幅0.6～４ｍ、深さ５～60㎝を測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は平安時代のもの黒灰色シルト、鎌倉時代のもの黒灰色粘土及び茶褐色細砂である。遺物は、内部から平安時代後期に比定される黒色土器（１・６・７）、土師質の杯（２～５）小片をごく少量出土している。ＳＤ56から出土している黒色土器の椀（８）には、口縁端部の周辺の四方に円孔（径８㎜）が開けられている（第159～161図）。以下、各溝の法量などについて第14表に記す。



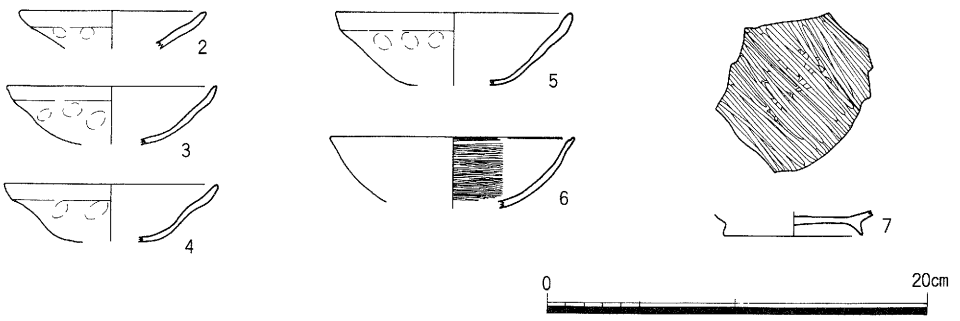
第159図　ＳＰ54出土遺物実測図



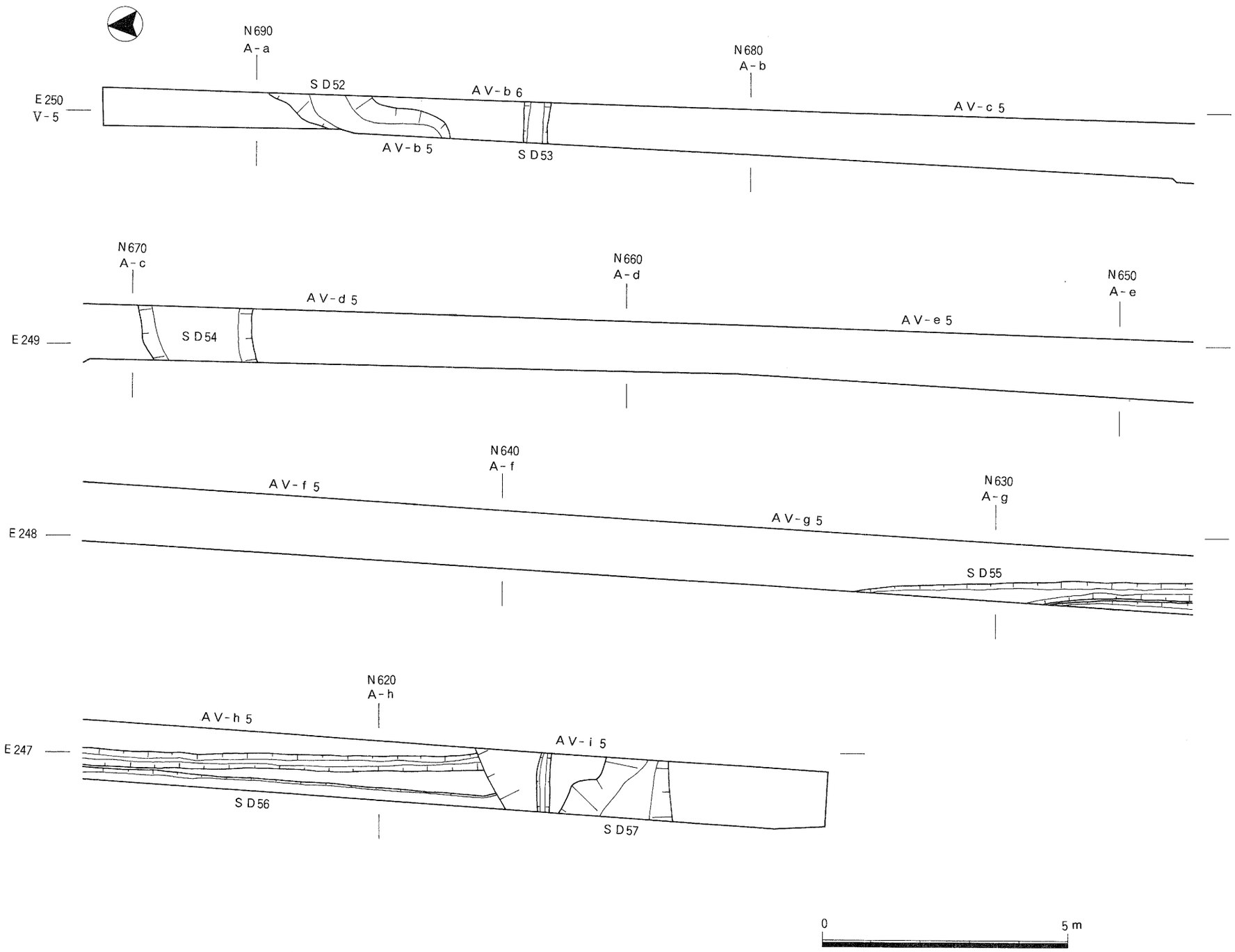
第160図　ＳＤ56出土遺物実測図

第14表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＤ52	ＡＶ－ｂ６	南西－北東	逆台形	110	15	茶褐色細砂	
ＳＤ53	ＡＶ－ｂ６	東－西	逆台形	50	23	茶褐色細砂	
ＳＤ54	ＡＶ－ｄ６	東－西	逆台形	220	5	茶褐色細砂	土器片を出土。
ＳＤ55	ＡＶ－ｈ６	東－西	逆台形	35	27～46	黒灰色シルト	土器片を出土。
ＳＤ56	ＡＶ－ｈ６	東－西	逆台形	30	９～12	黒灰色シルト	土器片を出土。
ＳＤ57	ＡＶ－ｉ６	東－西	逆台形	340	23～41	黒灰色粘土	



第161図　ＳＤ55出土遺物実測図



第162図　第5調査区遺構平面図

第７節　第６調査区

区画整理事業区域内の中央に位置する調査区で、今回の調査区でも中央に当たる。調査区は、調査の都合上２分して実施した。調査面積は100㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表面約3.6ｍまでに存在する土層で普遍的にみられる８層を摘出して基本層序とした（第163図）。現地表面は、標高10.2ｍを測る。以下、各土層について記す。

第１層　盛土：層厚1.6ｍ。水田を畑とするため、地上げした盛土で、現在区画整理事業事務所の駐車場となっている。

第２層　旧耕土：層厚15～20㎝。整地するまでの耕作土である。

第３層　床土：層厚15～20㎝。耕土の床土である。

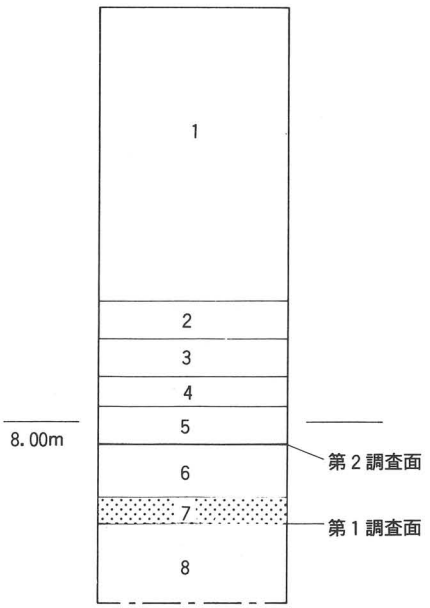
第４層　茶灰色細砂混シルト：層厚10～15㎝。

第５層　黄茶色細砂家層厚20～25㎝。鎌倉時代～室町時代に氾濫して堆積した土層である。

第６層　暗灰色粘土：層厚25～30㎝。この上面を調査面とした。標高は7.8ｍを測る。

第７層　灰黒色粘土：層厚15～20㎝。古墳時代前期～中期に至る遺物がごく少量含まれている。

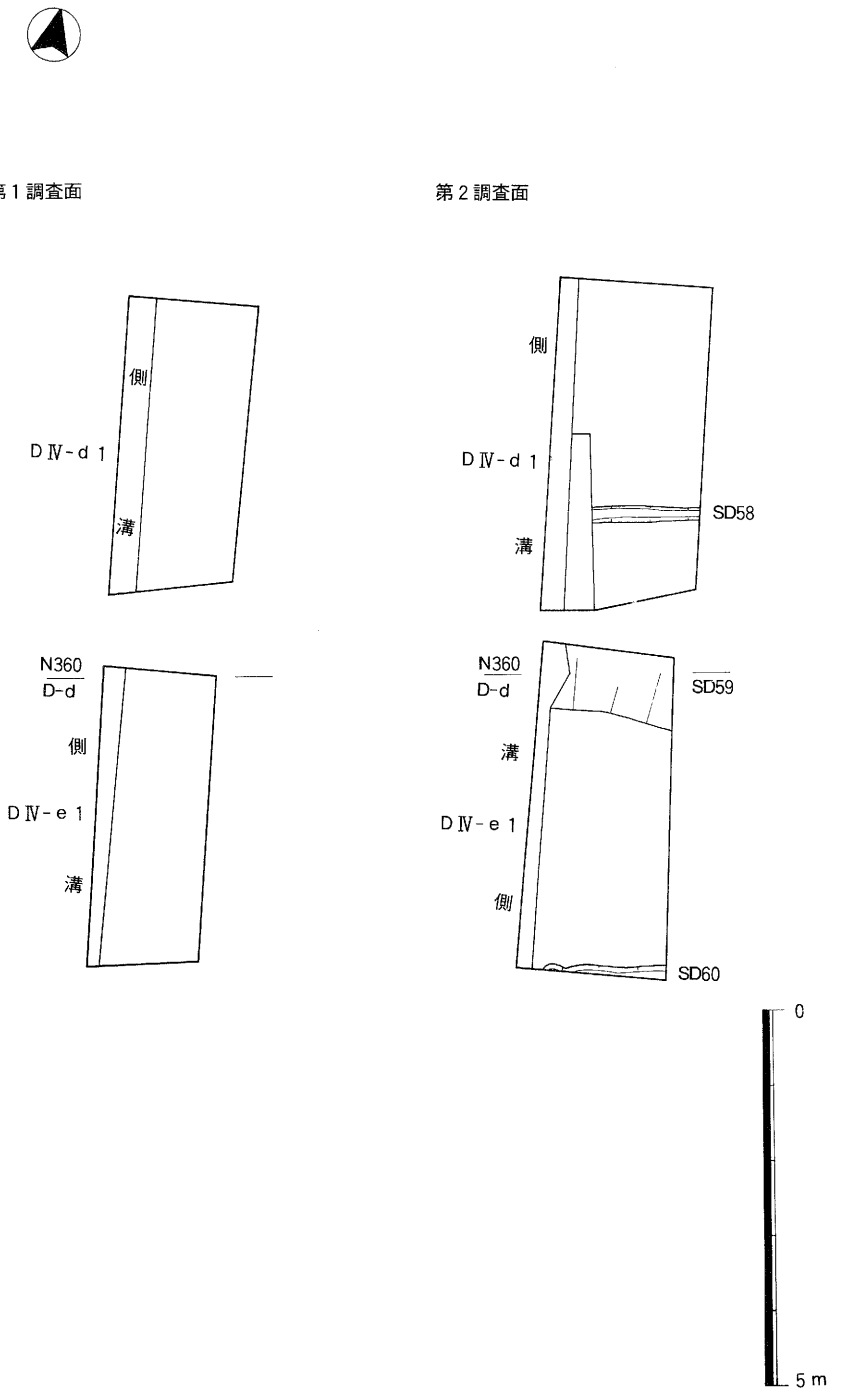
第８層　青灰色粘土：層厚50㎝。この上面を調査面としたが、遺構は検出されなかった。



第163図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

第６層（第２調査面）と第８層上面（第１調査面）の２面を調査面とした。その結果、第１調査面では、遺構は検出しなかった。第２調査面では、鎌倉時代～室町時代に比定される水田面と溝３条・水田面を検出した（第164図）。出土遺物は、第５層と第７層内からごく少量出土



第164図　第６調査区遺構平面図

している。第5層内からは鎌倉時代に比定される瓦器の椀を中心として、第7層内からは古墳時代前期～中期に比定される土師器・須恵器を出土した。以下、検出した各遺構について記す。なお、第1調査面では遺構が検出していないので、除外している。

1）第2調査面（鎌倉時代～室町時代）

水田

水田は、調査区の南部と北部では溝（ＳＤ59）を境にして水田面に若干の高低差がみられる。これは、2筆の水田があることが考えられる。

溝（ＳＤ）

ＳＤ58

ＤⅣ－ｄ1区で検出した。方向は東西方向を示し、東西はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅18～21ｍ、深さ8㎝を測る。断面は半円形を呈し、内部には第5層の土層が混入している。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。

ＳＤ59

ＤⅣ－ｅ1区で検出した。方向は南北方向を示し、規模は検出部で、幅0.6ｍ以上1ｍ未満、深さ15㎝を測る。断面は、半円形を呈する。内部にはＳＤ58と同様、第5層の土層と同一のものが堆積している。遺物は、内部から古墳時代前期～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。

ＳＤ60

ＤⅣ－ｅ1区で検出した。方向は東西方向を示すが、南肩は調査区外に至る。規模は検出部で、幅15㎝以上、深さ10㎝を測る。堆積土は、ＳＤ59と同様である。遺物は出土していない。

2）遺構に伴わない出土遺物

第3～5層内から出土している。出土量はコンテナ箱して約1/5箱分程度を数える。時期は、古墳時代中期から鎌倉時代に至る遺物で、小片のため図示できなかったが器種の判定されるものは壷・甕である。

第８節　第７調査区

区画整理事業区域内の南東部に設定した南北に長い調査区（幅2.5ｍ×長さ83ｍ）で、当調査研究会が実施した第６次調査の第２調査区の西部へ約50ｍに位置する。調査面積は207.5㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.2ｍまでに存在する土層内から普遍的にみられる６層を摘出して基本層序とした（第165図）。現地表面は、標高8.6ｍを測る。以下、各土層について記す。

第１層　耕土：層厚10～15㎝。調査前までの耕作土である。

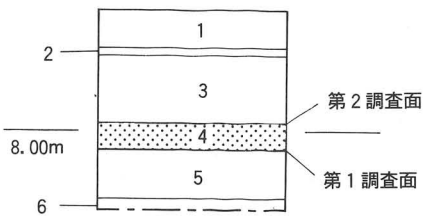
第２層　灰褐色砂礫混細砂：層厚５～10㎝。近世の時期に一時的な氾濫（東側に隣接する楠根川からと考えられる）よって堆積した土層である。

第３層　淡灰褐色粘質シルト：層厚30～40㎝。古墳時代～中世の土器の小片をごく少量含む土層である。

第４層　暗灰色粘質土：層厚15～20㎝。古墳時代前期に比定される土器の小片が少量含まれている。上面では、中世ごろの溝が切り込んでいる。上面は、標高8.0ｍを測る。

第５層　淡灰黄色シルト：層厚20～25㎝。この条面を調査面とした結果、弥生時代後期末～古墳時代前期に比定される遺構が切り込まれている。標高は7.9ｍを測る。

第６層　淡青灰色粘質シルト：層厚10㎝以上。

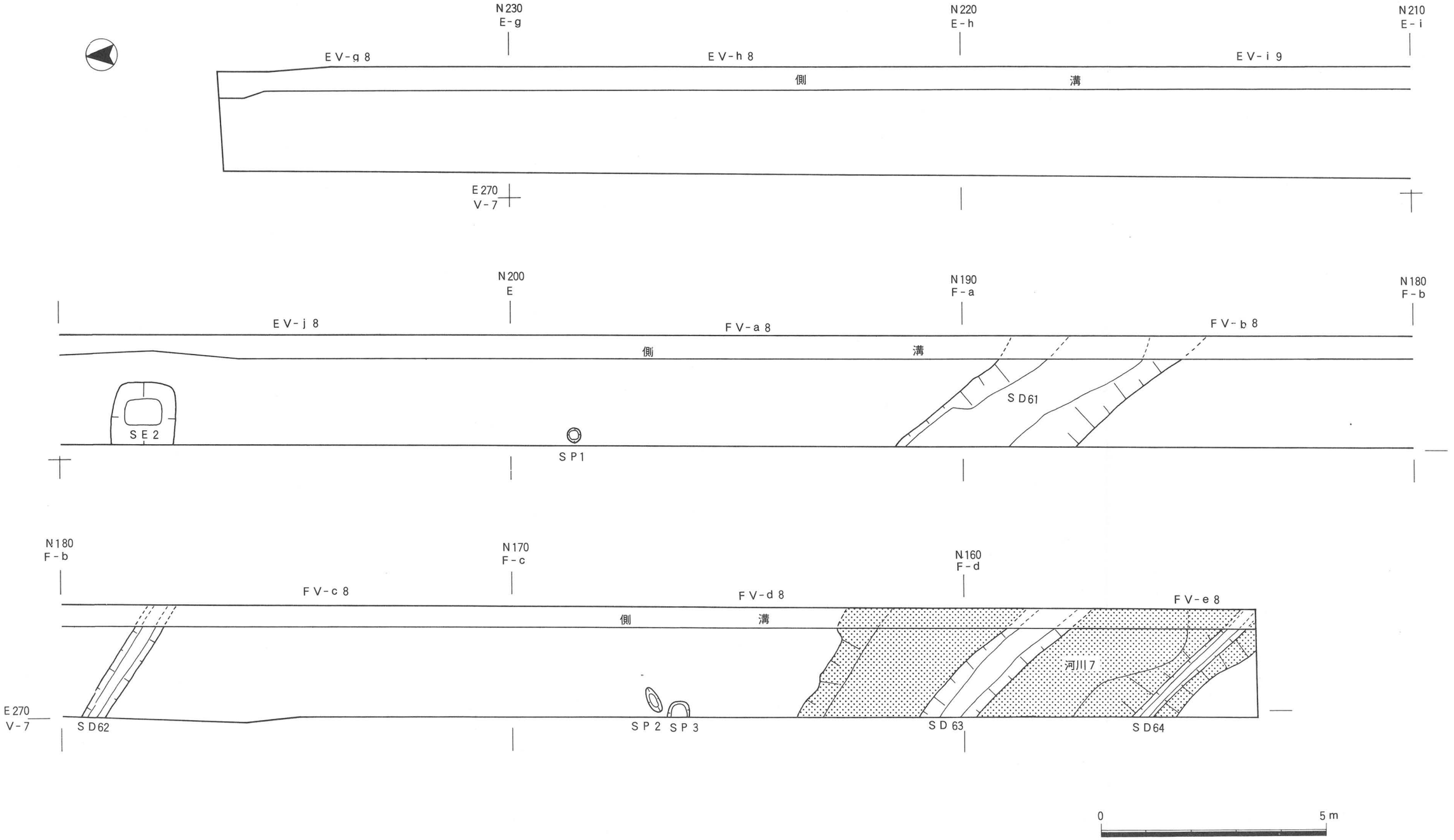


第165図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）

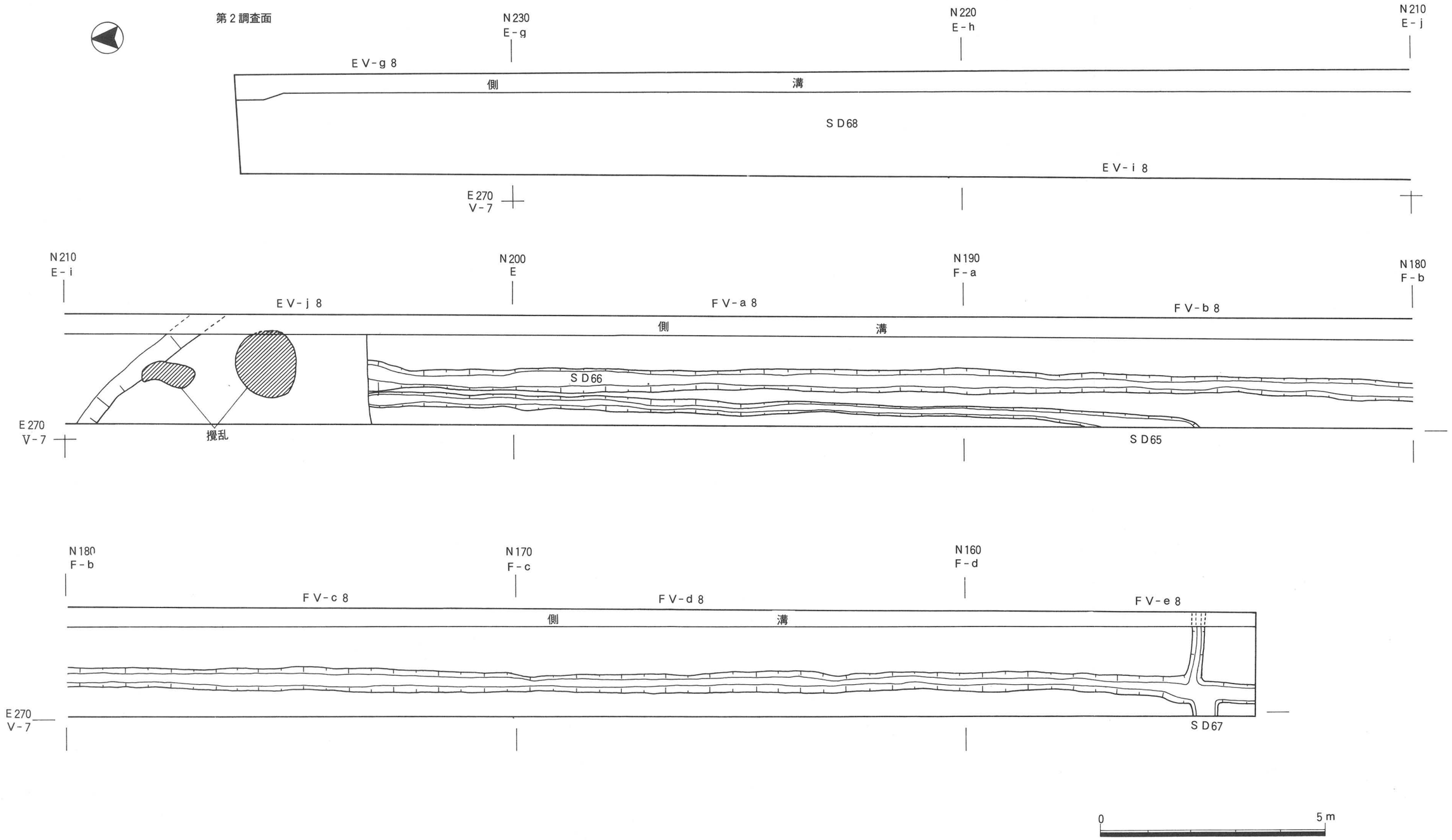
Ⅱ　検出遺構・出土遺物

第４層（第２調査面）と第５層上面（第１調査面）の２面を調査面とした。その結果、第１調査面では、弥生時代中期に比定される自然河川１条（河川７）、古墳時代前期に比定される井戸１基（ＳＥ２）・小穴３個（ＳＰ１～ＳＰ３）・溝３条（ＳＤ61～ＳＤ64）を検出した。第２調査面では、鎌倉時代に比定される溝３条（ＳＤ65～ＳＤ67）、江戸時代に比定される溝１（ＳＤ68）条を検出した（第166・167図）。以下、検出した各遺構について記す。

第１調査面



第166図　第７調査区遺構平面図



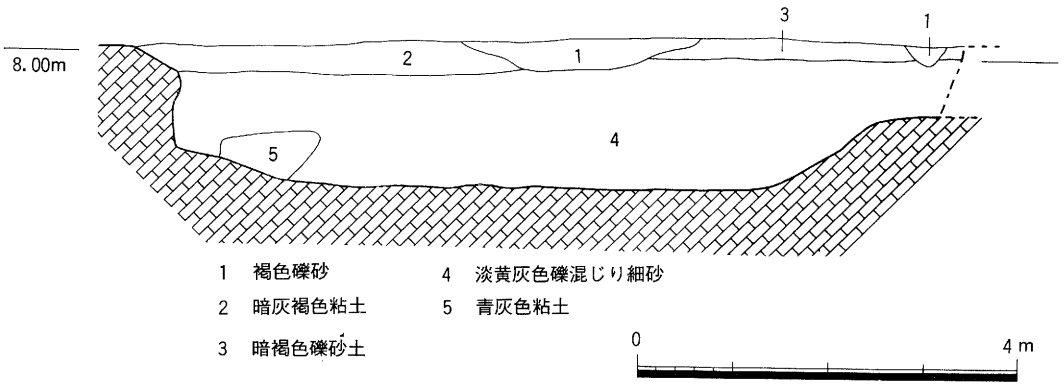
第167図　第7調査区遺構平面図

１）第１調査面（弥生時代中期・古墳時代前期）

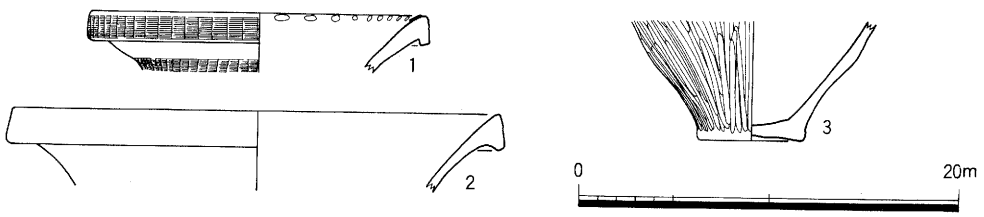
自然河川（河川）

河川７

ＦＶ－ｄ８・ｅ９区で検出した自然河川である。方向は南東－北西方向を示す。規模は検出部で、幅約６ｍ、深さ２ｍを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、褐色礫砂・暗灰褐色粘土・暗褐色礫砂土・淡黄灰色礫混細砂・青灰色粘土の５層に分けれる（第168図）が、上層部は、酸化鉄の上昇により色調が濃厚で堅くなっている。上面では弥生時代後期の南東－北西方向に伸びるＳＤ63・ＳＤ64が河川と同じ方向で切り込んでいる。遺物は、内部から畿内第Ⅳ様式の壷（１・２）・畿内第Ⅴ様式の壷（３）などの小片が少量出土している（第169図）。



第168図　河川７断面図

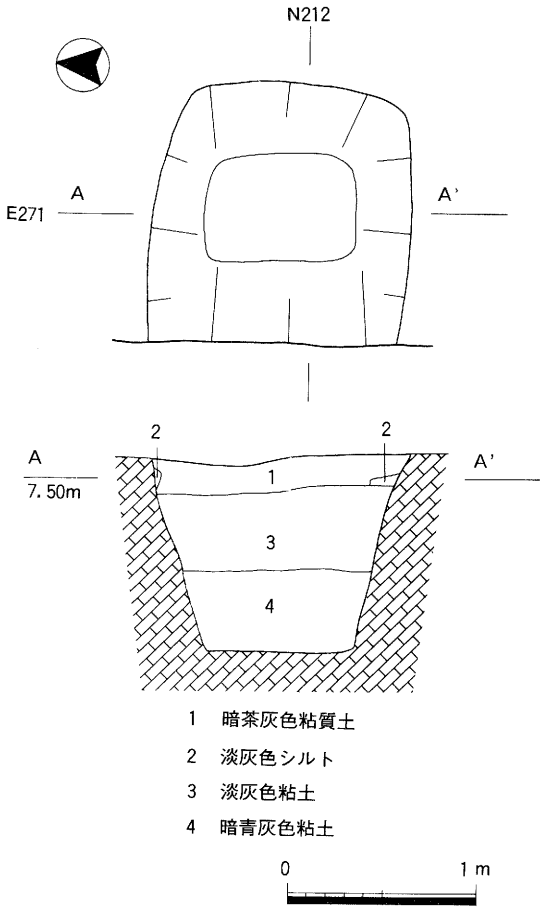


第169図　河川７出土遺物実測図

井戸（ＳＥ）

ＳＥ２

ＥＶ－ｊ８区で検出した。平面は、隅丸方形を呈する。規模は検出先で、東西1.4ｍ、南北1.35ｍ、深さ1.05ｍを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、上方から暗茶灰色粘土・淡灰色シルト・淡灰色粘土・暗青灰色粘土の４層で、第２層以外は水平な堆積である。(第170図)。遺物は、検出していない。



第170図　ＳＥ２平断面図

溝（ＳＤ61～ＳＤ64）

４条を検出した。方向はすべて南東－北西方向を示す。規模は検出部で、幅36～260㎝、深さ９～36㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗褐灰色粘質シルト・暗褐灰色細砂混粘質土である。遺物は、出土していない。以下、各溝については第15表に記す。

小穴（ＳＰ）

ＳＰ１～ＳＰ３

３個を検出した。平面の形状には円形のもの１個（ＳＰ１）、楕円形のもの２個（ＳＰ２・ＳＰ３）がある。規模は検出部で、径20～56㎝、深さ４～25㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗茶褐色細砂混シルトである。遺物は出土していない。個々の法量については第16表に記す。

第15表　溝（ＳＤ）一覧表

＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
ＳＤ61	ＦＶ－ｄ８	南東－北西	半円形	260	11～36	暗褐灰色シルト	
ＳＤ62	ＦＶ－ｃ８	南東－北西	半円形	56	９～14	暗褐灰色シルト	
ＳＤ63	ＦＶ－ｅ８	南東－北西	半円形	116	24～33	暗褐灰色細砂混粘質土	
ＳＤ64	ＦＶ－ｅ８	南東－北西	半円形	36	11	暗褐灰色細砂混粘質土	

第16表　小穴（ＳＰ）一覧表

＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
ＳＰ１	ＦＶ－ａ８	円　形	Ｕ字形	20	４	暗茶褐色細砂混シルト	
ＳＰ２	ＦＶ－ｄ８	楕円形	Ｕ字形	56	15	暗茶褐色細砂混シルト	
ＳＰ３	ＦＶ－ｄ８	楕円形	Ｕ字形	30	25	暗茶褐色細砂混シルト	

２）第２調査面（鎌倉時代・江戸時代）

溝（ＳＤ65～ＳＤ67）

４条を検出した。方向は東西方向のもの（１条）、南北方向のもの（２条）である。規模は検出部で、幅20～42ｍ、深さ７～16㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色粘質シルトである。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る土師器・須恵器・瓦器などの小片がごく少量出土している。以下、個々の溝の法量などについては第17表に記す。

第17表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＤ65	ＥＶ－ｊ８～ＦＶ－ｂ８	南－北	逆台形	20～42	７～16	淡灰褐色粘質シルト	
ＳＤ66	ＥＶ－ｊ８～ＦＶ－ｅ８	南－北	逆台形	70	14	淡灰褐色粘質シルト	
ＳＤ67	ＦＶ－ｅ８	南－北	逆台形	25～38	９	淡灰褐色粘質シルト	

ＳＤ68

ＥＶ－ｇ８～ｊ８区で検出した。方向・規模など詳細は、不明である。調査区内で確認された部分について記す。方向としては南側で溝の肩が確認されており、これを見ると、南東－北西方向で楠根川の方向と平行する。規模は調査区内で27ｍ、深さ80㎝を測る。堆積土は、淡灰褐色細砂混シルト・暗灰褐色細砂混粘質土・暗緑灰色粘質土である。遺物は、内部から古墳時代前期～江戸時代に至る土器の小片がごく少量出土している。

第９節　第８調査区

第７調査区の南部から東部へ約30ｍに設定した東西に長い調査区（幅2.5ｍ×長さ19ｍ）である。調査面積は42.5㎡を測る。なお、調査区の南部には既設のヒューム管が東西方向に埋設されており、西側へ行くに従いやや狭くなっている。

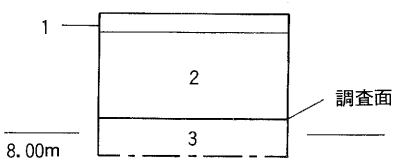
Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表面から約１ｍまでに存在する土層内から普遍的にみられる３層を摘出して基本層序とした（第171図）。現地表面は、標高8.5ｍを測る。以下、各土層について記す。

第１層　耕土：調査前までの耕作土である。

第２層　淡灰褐色細砂混粘質土：江戸時代ごろの条里制の坪境の溝の堆積である。

第３層　淡灰黄色シルト：弥生時代後期～古墳時代前期の遺構面で、上部は第２層の江戸時代に削平されている。



第171図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

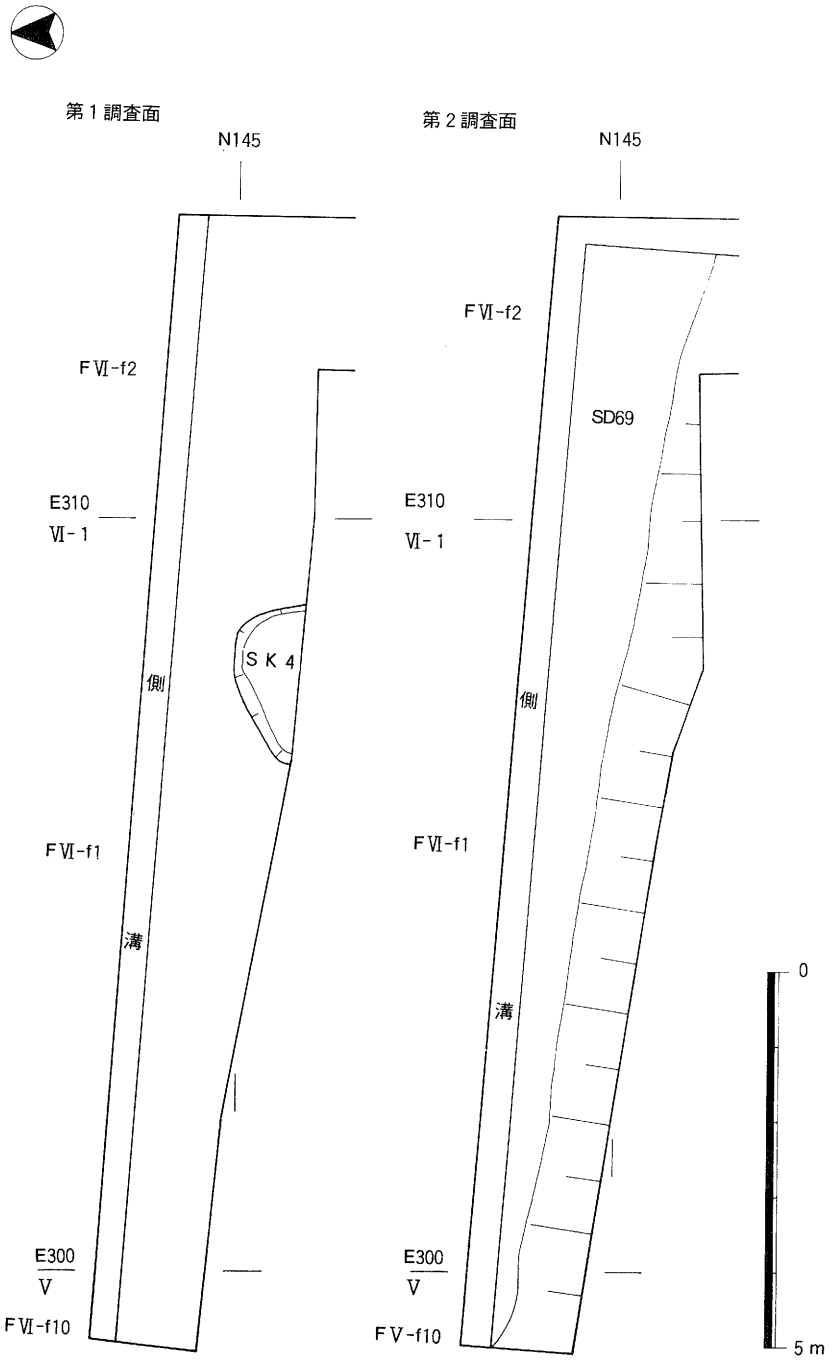
第３層上面を調査面とした。その結果、江戸時代に比定される溝１条（ＳＤ69）を検出した。その溝の底部から弥生時代後期に比定される土坑１基（ＳＫ４）を検出した（第172図）。

１）第１調査面（弥生時代後期）

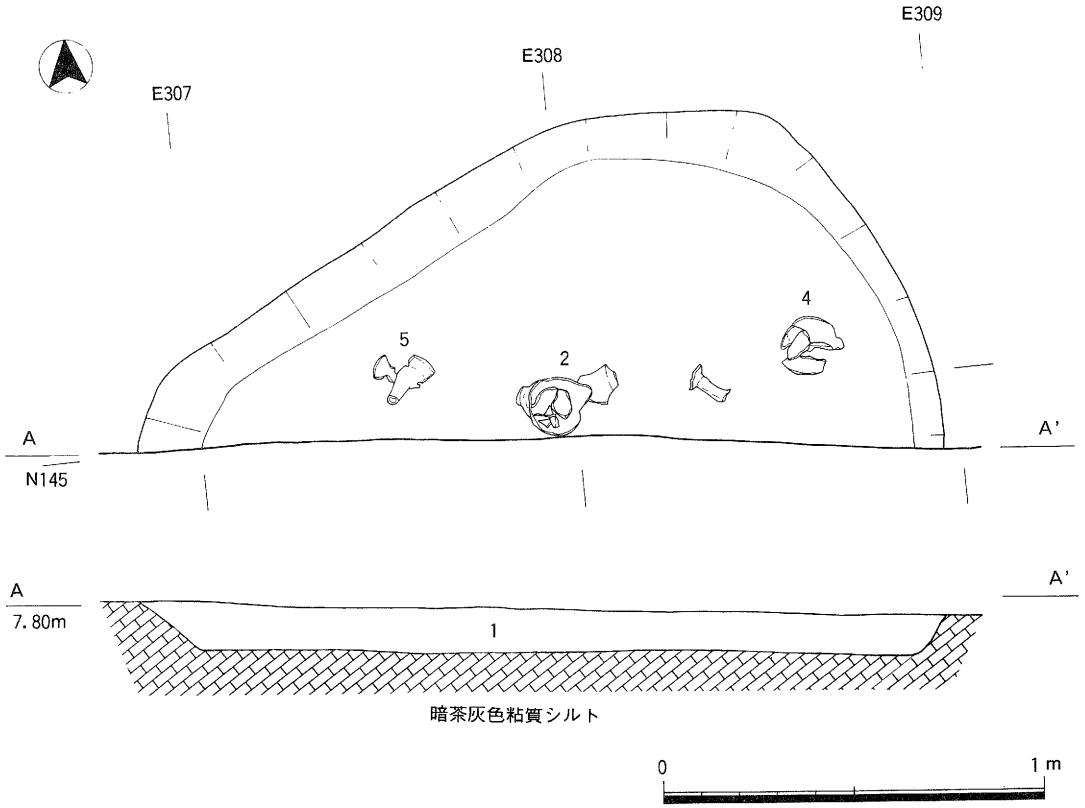
土坑（ＳＫ）

ＳＫ４

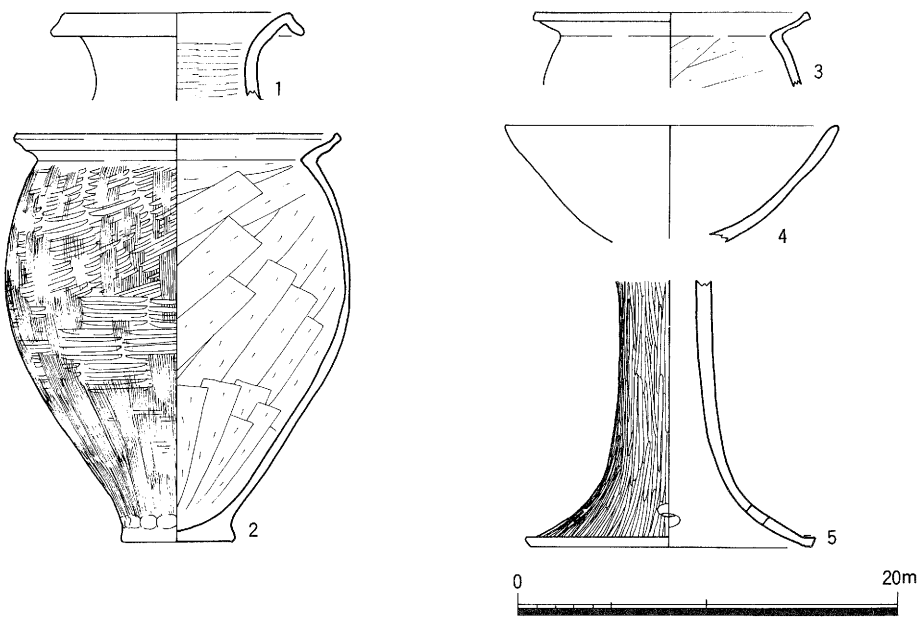
ＦⅣ－ｆ１区で検出した土坑で、ＳＤ69の底面から削平された状態で検出している。南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西2.18ｍ、南北0.86ｍ以上、深さ13㎝を測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗茶灰色粘質シルトの１層である（第173図）。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される壷（１）・甕（２・３）・高杯（４・５）の破片が出土している（第174図）。



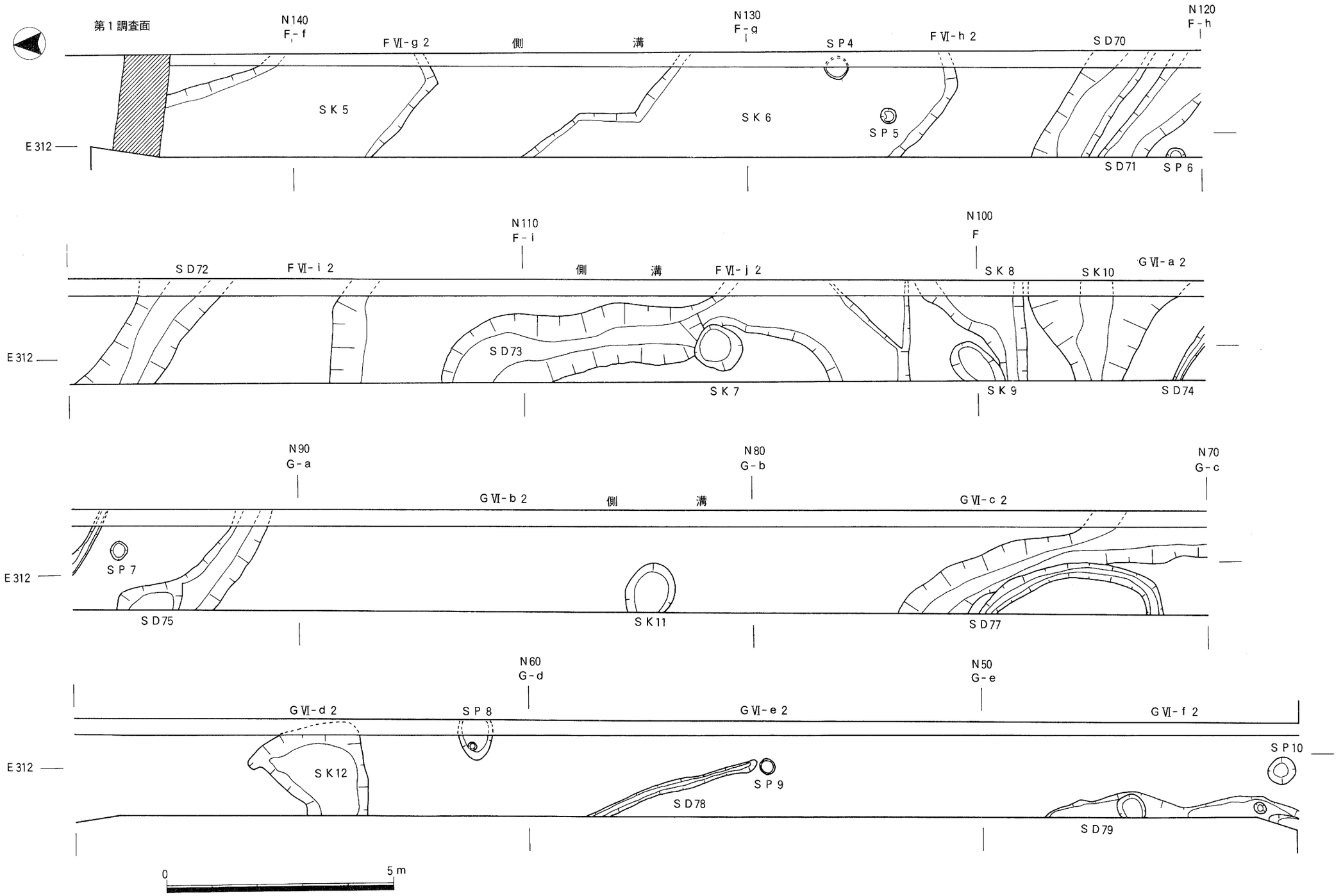
第172図　第８調査区遺構平面図



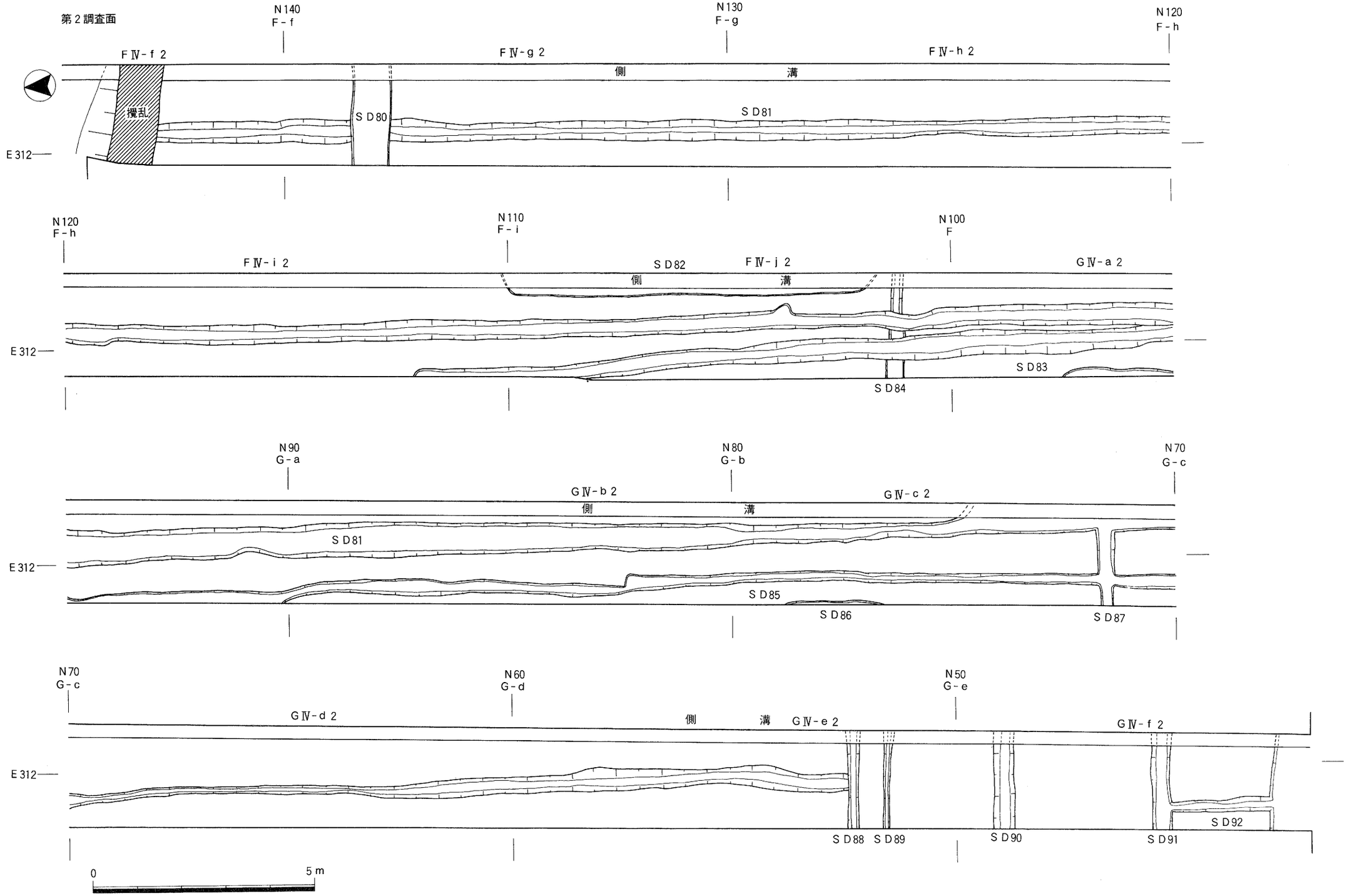
第173図　ＳＫ４検出遺物平面図及び断面図



第174図　ＳＫ４出土遺物実測図



第175図　第９調査区遺構平面図



第176図　第9調査区遺構平面図

２）第２調査面（江戸時代）

溝（ＳＤ）

ＳＤ69

調査区全体で検出した。方向は東西方向を呈するが、南側と北側の溝肩は調査区外に至っており、溝幅などの大きさは不明である。ただ、南側の溝肩の一部が第９調査区の北部で検出されている。堆積土は基本層序の第３層に当たるものである。遺物は、内部から古墳時代～江戸時代に至る土師器・須恵器・瓦器・瓦などの小片がごく少量出土している。

第10節　第９調査区

第８調査区の東端部から南へ伸びる南北方向に長い調査区（幅2.5ｍ×長さ104ｍ）である。調査面積は206㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表面から約１ｍまでに存在する土層内から普遍的にみられる５層を摘出して基本層序とした(第175図)。現地表面は、標高8.6ｍを測る。以下、各土層について記す。

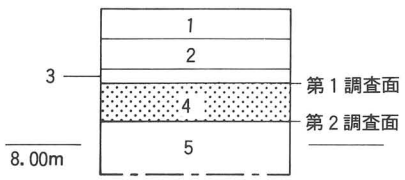
第１層　耕土：層厚10～15㎝。調査前までの耕作土である。

第２層　淡灰褐色細砂混粘質土：層厚10～15㎝。耕土の床土である。

第３層　淡灰黄色細砂混シルト：層厚10㎝。古墳時代～鎌倉時代に至る遺物がごく少量含まれる。この上面から江戸時代の遺構が切り込まれている。

第４層　茶灰色細砂混粘質シルト：層厚15～20㎝。弥生時代後期末に比定される遺物が少量含まれており、上面では鎌倉時代の遺構が切り込まれている。この面を調査面とした。

第５層　茶灰色～淡灰黄色シルト：層厚20㎝以上。弥生時代後期末の遺構が切り込まれており、この上面を調査面とした。



第177図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

第４層（第２調査面）と第５層上面（第１調査面）の２面を調査面とした。その結果、第１調査面では、弥生時代後期末に比定される土坑８基（ＳＫ５～ＳＫ12）・小穴７個（ＳＰ４～

ＳＰ10）・溝10条（ＳＤ70～ＳＤ79）・土器集積２箇所を検出した（第176図）。第２調査面では、鎌倉時代～室町時代に比定される溝13条（ＳＤ80～ＳＤ91）と、第３層上面から切り込む江戸時代以降の溝１条（ＳＤ92）を検出した（第177図）。以下、各遺構についてに記す。

第１調査面（弥生時代後期末）

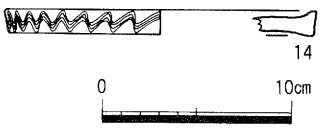
土坑（ＳＫ）

ＳＫ５

ＦⅣ－ｆ２・ｇ２区で検出した。平面の形状は東西ともに調査区外に至り、不明である。北部は撹乱している。規模は検出部で、東西2.3ｍ以上、南北6.1ｍ、深さ10～15㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、暗茶灰色シルトである（第180図）。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される壷（１）・甕（２～６）・鉢（７・８）・器台（９）・高杯（10～13）などの破片が少量出土している（第181図）。

ＳＫ６

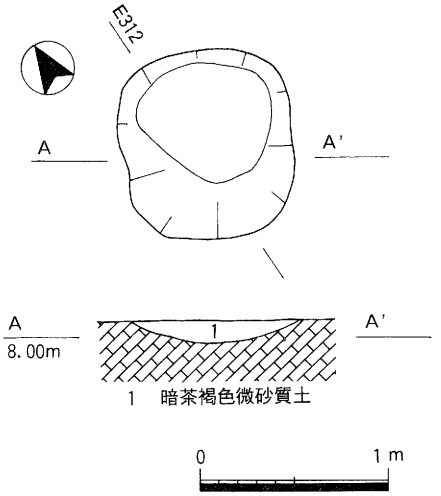
ＦⅣ－ｇ２・ｈ２で検出した。平面の形状は東西ともに調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西2.3ｍ以上、南北8.1ｍ、深さ16～24㎝を測る。断面は逆台形を呈し、底面には小穴２個がある。規模はＳＰ４が径54㎝、深さ12㎝、ＳＰ５が径34㎝、深さ38㎝をそれぞれ測る。堆積土は、灰茶褐色細砂混シルトである。遺物は、内部から畿内Ⅴ様式に比定される壷（14）・甕などの小片が少量出土している（第178図）。



第178図　ＳＫ６出土遺物実測図

ＳＫ７

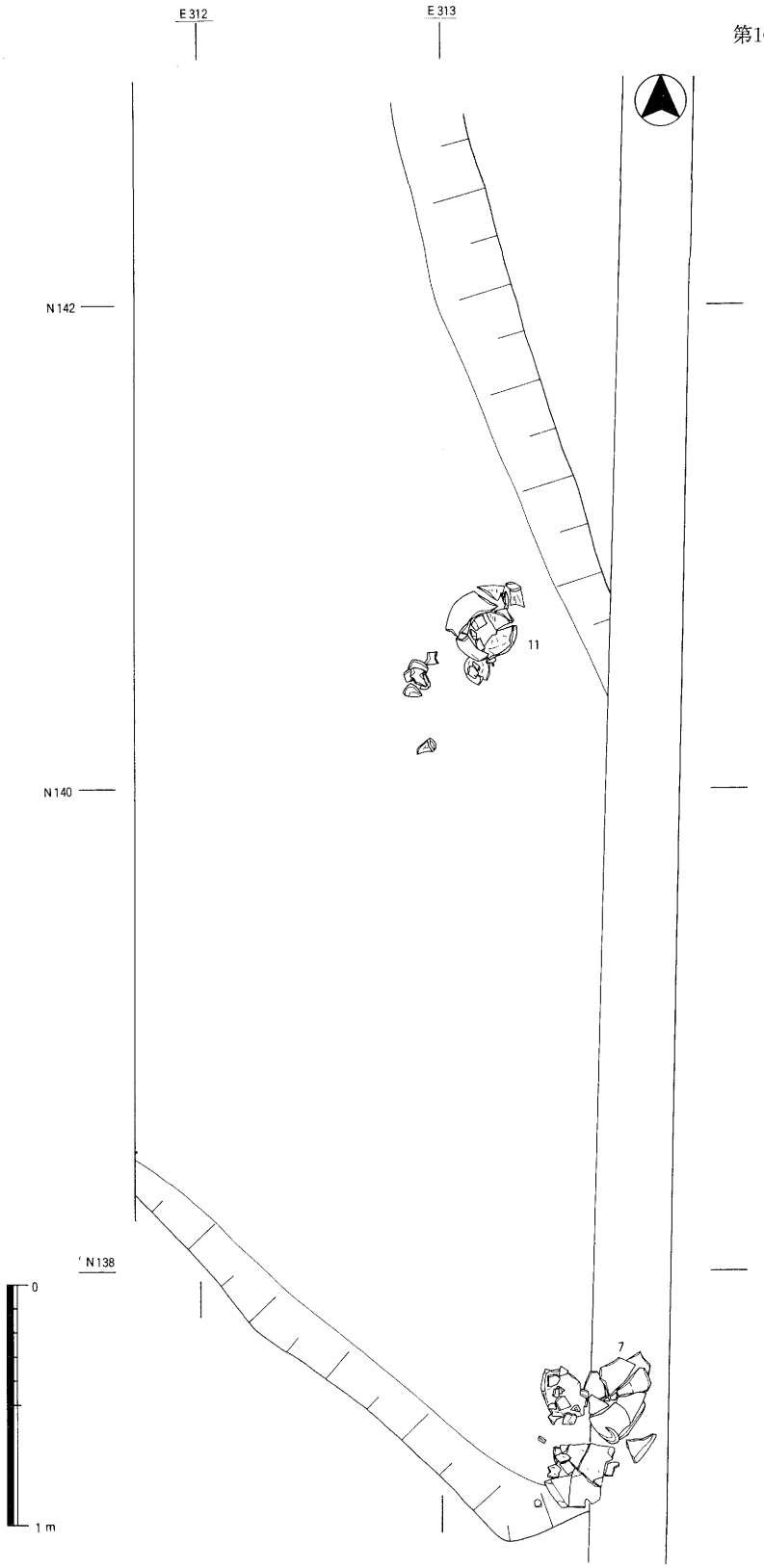
ＦⅣ－ｊ２区で検出した。平面はほぼ円形を呈し、ＳＤ73を切っている。規模は検出部で、径1.8ｍ、深さ34㎝を測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗茶褐色微砂質土である（第179図）。遺物は、内部から畿内Ⅴ様式に比定される甕などの小片がごく少量出土している。



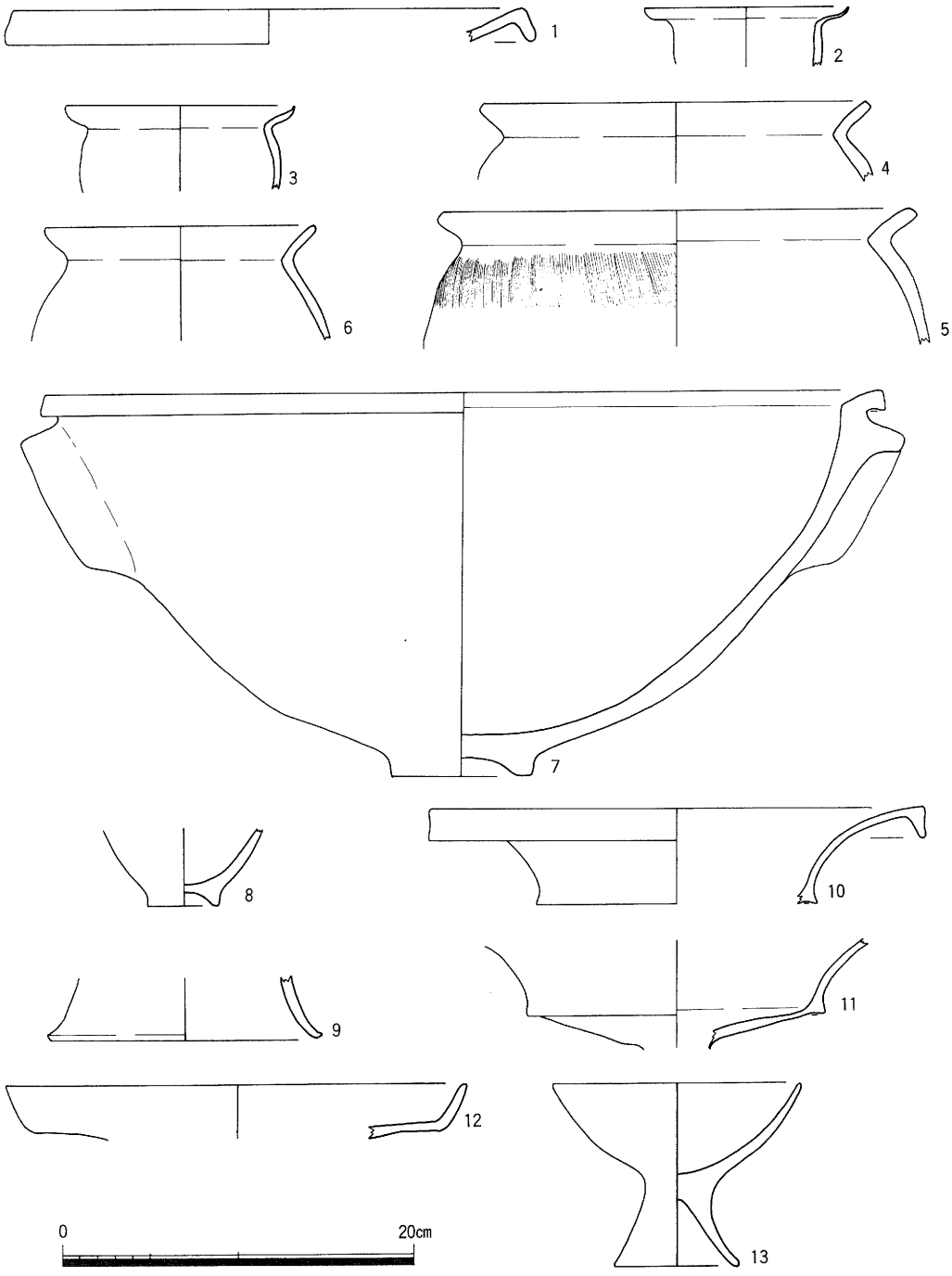
第179図　ＳＫ７平断面図

ＳＫ８

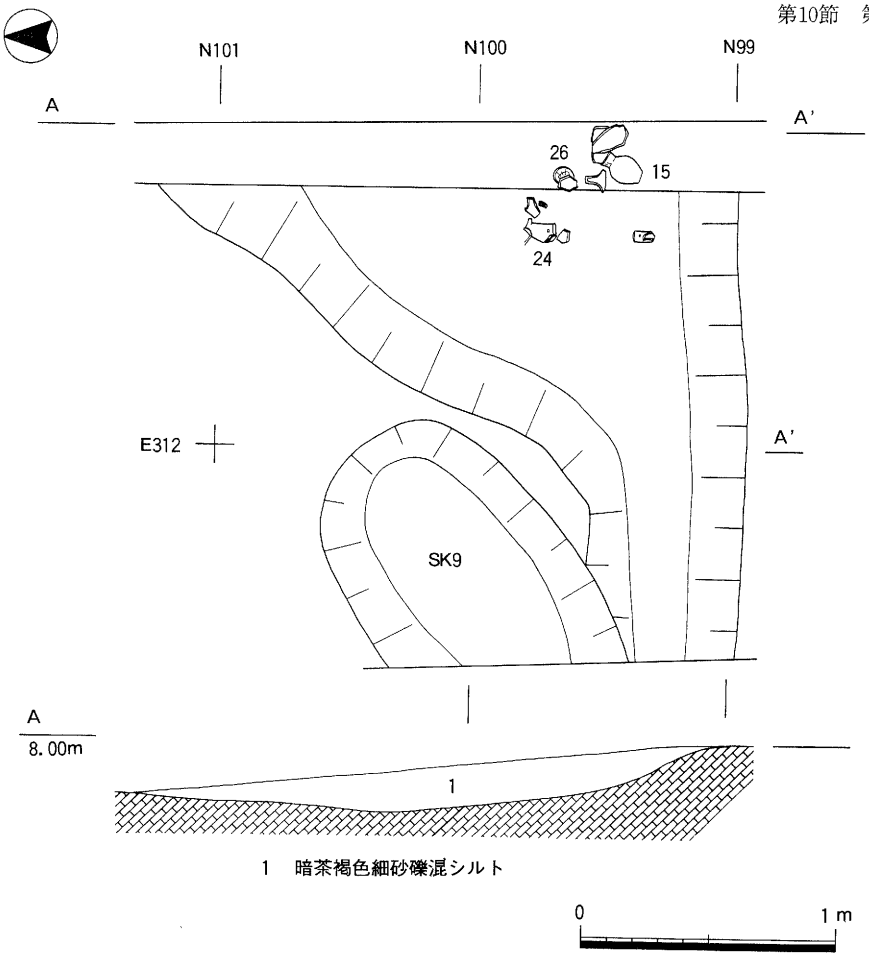
ＦⅣ－ｊ２・ＧⅥ－ａ２区で検出した。平面の形状は東西ともに調査区外に至り、不明である。西部ではＳＫ９によって一部切られ



第180図　ＳＫ５検出遺物平面図



第181図　ＳＫ５出土遺物実測図



第182図　ＳＫ８検出遺物平面図及び断面図

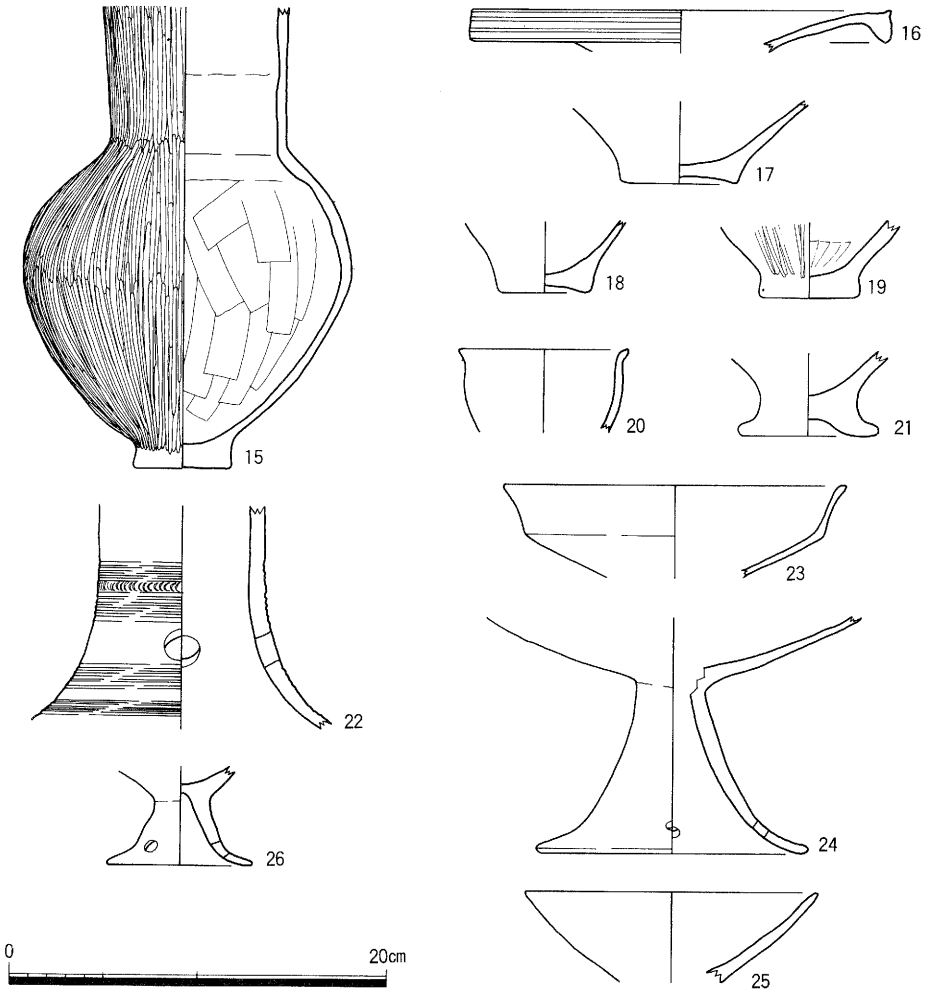
ている。規模は検出部で、東西2.3ｍ以上、南北1.1ｍ、深さ８㎝を測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗茶褐色細砂礫混シルトである（第182図）。遺物は内部の東側底部で集積した土器を検出した。土器は弥生時代後期末に比定される長頸壷（15）・壷（16～19）・鉢（20・21）・器台（23～26）など小片である（第183図）。

ＳＫ９

ＧⅥ－ａ２区で検出した。平面の形状は西部が調査区外に至り、不明である。南部はＳＫ８を切っている。規模は検出部で、東西1.1ｍ、南北0.6ｍ、深さ17.8㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡青灰色シルトである（第184図）。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される甕などの小片が少量出土している。

ＳＫ10

ＧⅥ－ａ２区で検出した。平面の形状は東西ともに調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西2.2ｍ、南北１（西）～3.1ｍ（東）、深さ18～28㎝を測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、淡灰黄色細砂混シルトである（第186図）。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様



第183図　ＳＫ８出土遺物実測図

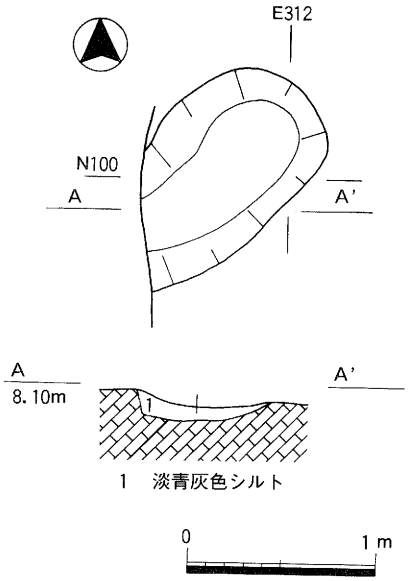
式に比定される土器の小片が少量出土している。

ＳＫ11

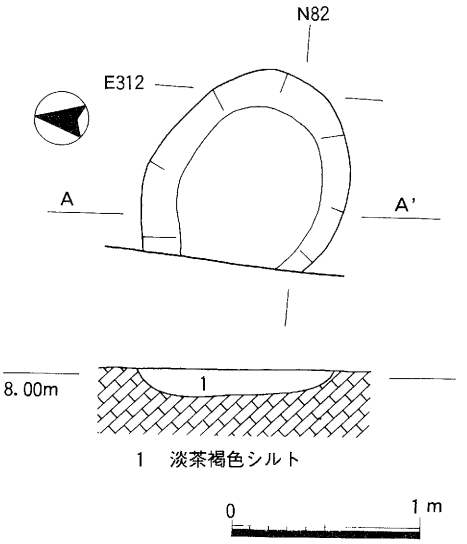
ＧⅥ－ｂ２区で検出した。平面の形状は西部の一部が調査区外に至っているが、楕円形を呈する。規模は検出部で、東西１ｍ以上、南北1.1ｍ、深さ15㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡茶褐色シルトである（第185図）。遺物は出土していない。

ＳＫ12

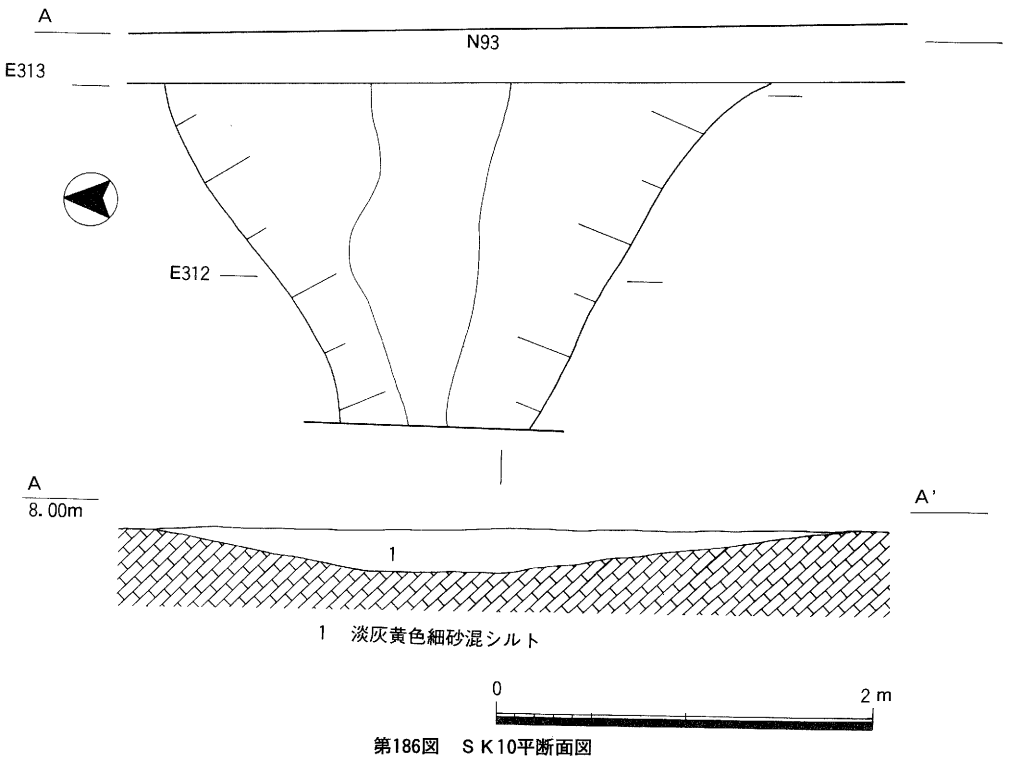
ＧⅥ－ｄ２区で検出した。平面の形状は西部が調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西２ｍ以上、南北2.2ｍ、深さ50㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰褐色粘質シルト・暗茶褐色シルト混粘土（炭を少量含む）である（第187図）。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される壷（27）・甕（28・29）・鉢（30）・高杯（31）土器の小片が少量出土している（第188図）。



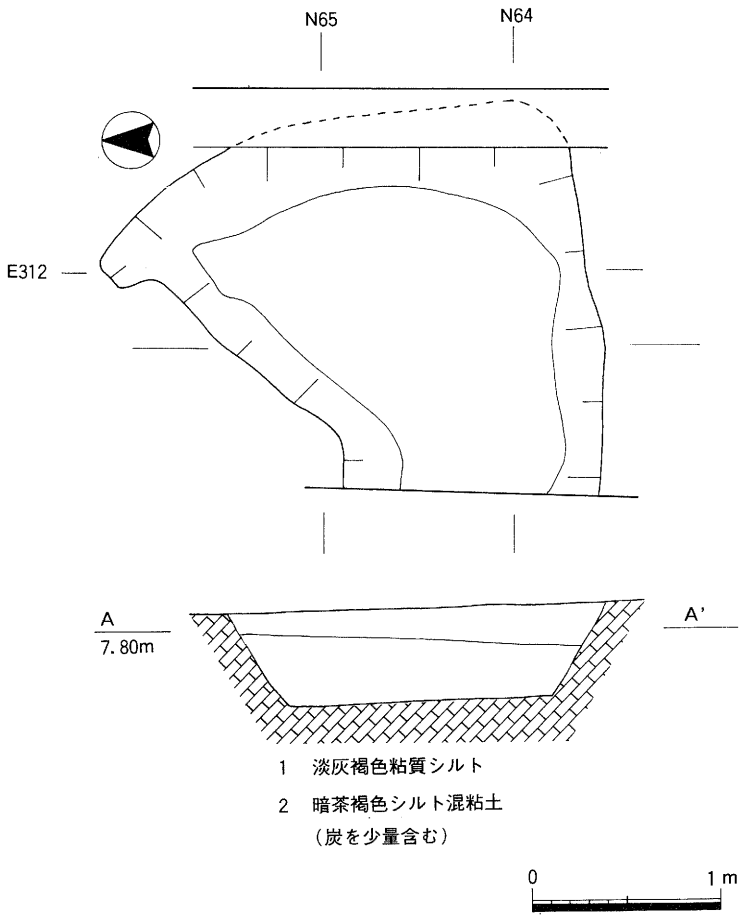
第184図　ＳＫ９平断面図



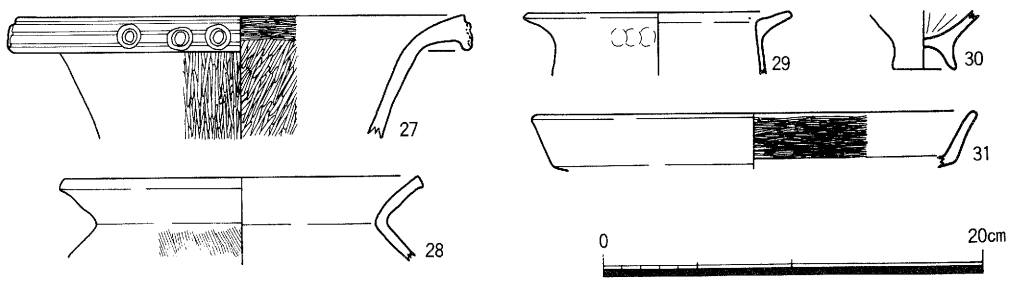
第185図　ＳＫ11平断面図



第186図　ＳＫ10平断面図



第187図　ＳＫ12平断面図



第188図　ＳＫ12出土遺物実測図

溝（ＳＤ）

ＳＤ69

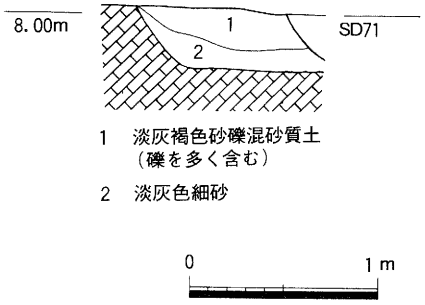
ＦⅣ－ｈ２区で検出した。方向は南東－北西方向を示す。規模は検出部で、幅1.12ｍ、深さ25～37㎝を測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、淡黄茶色細砂混シルト・暗茶橙色細砂混シルトである（第189図）。遺物は、内部から壷などの小片がごく少量出土している。

ＳＤ70

ＦⅥ－ｈ２区で検出した。ＳＤ71に切られ、方向はＳＤ69・ＳＤ71と同じである。規模は検出部で、幅0.8～1.06ｍ、深さ25～35㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰褐色砂礫混砂質土・淡灰色細砂である（第189図）。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される壷（32・33）・甕などの破片が少量出土している（第190図）。

ＳＤ71

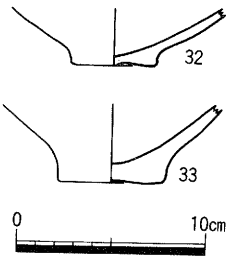
ＦⅥ－ｈ２区で検出した。方向はＳＤ69・ＳＤ70と同じで、ＳＤ70を切る。規模は検出部で、幅1.3ｍ、深さ40～44㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰茶色砂礫混砂質土・淡灰褐色細砂混粘質土・淡灰色細砂である（第191図）。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される壷（34）・甕（35～39）・高杯（40～43）などの破片が少量出土している（第192図）。



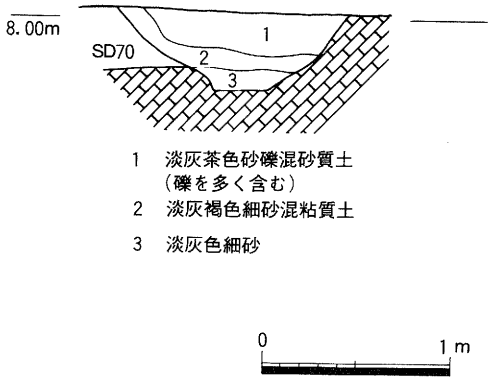
第189図　ＳＤ70断面図

ＳＤ72

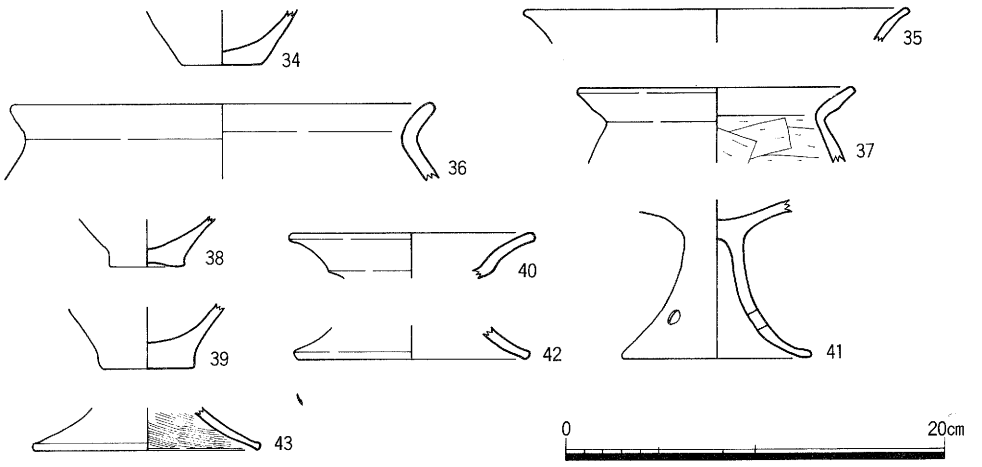
ＦⅥ－ｉ２区で検出した。方向は南東－北西方向を示す。規模は検出部で、幅0.7～1.2ｍ、



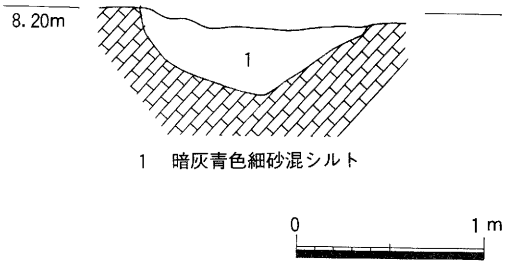
第190図　ＳＤ70出土遺物実測図



第191図　ＳＤ71断面図



第192図　ＳＤ71出土遺物実測図



1　暗灰青色細砂混シルト

第193図　ＳＤ72断面図

深さ24cmを測る。断面は、浅い楕円形を呈する。堆積土は、暗灰色微砂シルトの１層である。遺物は、内部からＶ様式の甕の小片がごく少量出土している。

ＳＤ73

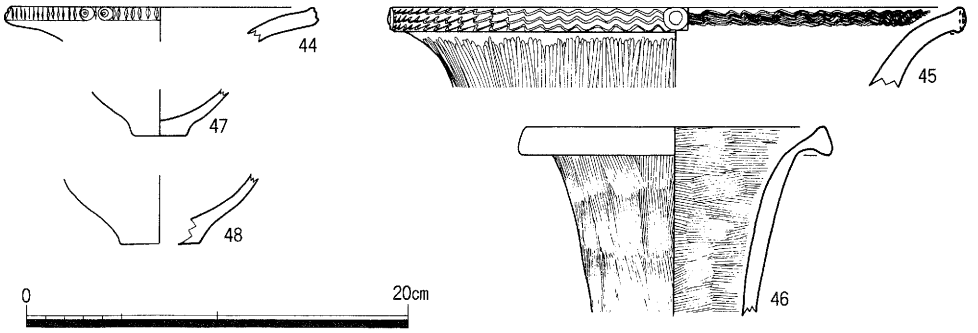
ＦⅥ－ｉ２・ｊ２区で検出した。平面の形状は「コ」の字形で、東辺がＳＫ７によって一部切られている。規模は検出部で、幅１～1.4m、深さ５～31cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗灰青色細砂混シルトである（第194図）。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される壷（44～46）・甕（47・48）などの小片がごく少量出土している（第195図）。

ＳＤ74

ＧⅥ－ａ２区で検出した。方向は、南東－北西を示す。規模は検出部で、幅22cm、深さ５cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、茶褐色シルトである。遺物は出土していない。

ＳＤ75

ＧⅥ－ａ２区で検出した。方向は、南東－北西方向を示す。規模は検出部で、幅0.75（東）～1.3m（西）、深さ14cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、茶褐色シルトである。遺物は出土していない。



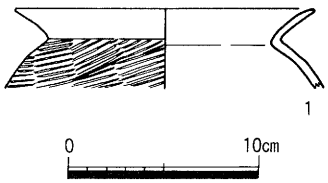
第194図　ＳＤ73出土遺物実測図

ＳＤ76

ＧⅥ－ｃ２区で検出した。方向は南東－北西方向を示し、西部の一部はＳＤ77に切られている。規模は検出部で、幅0.6～１ｍ、深さ14～35㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡茶褐色粘質土である。遺物は出土していない。

ＳＤ77

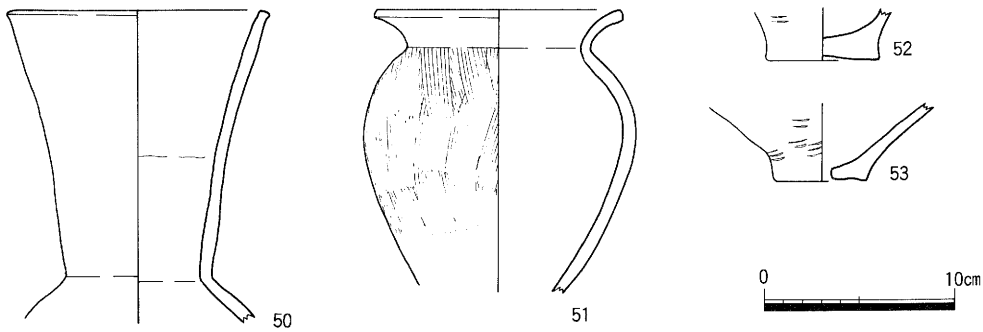
ＧⅥ－ｃ２区で検出した。平面の形状は西を主軸とした円弧を描き、西部の調査区外に至る。ＳＤ76を切っている。規模は検出部で、幅30㎝、深さ３～６㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗灰色微砂混シルトである。遺物は、庄内式中相に比定される庄内式甕（49）などの小片が少量出土している（第195図）。



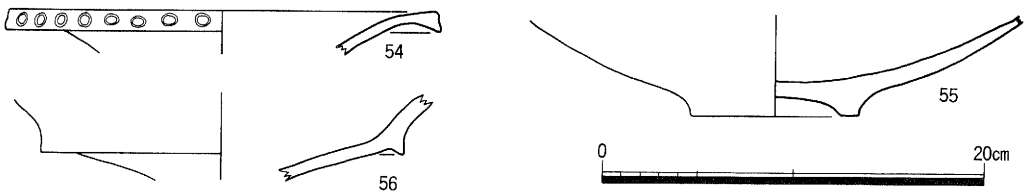
第195図　ＳＤ77出土遺物実測図

ＳＤ78

ＧⅥ－ｅ２区で検出した。方向は南東－北西方向を示し、南東部は調査区内で途切れ、北部



第196図　ＳＤ78出土遺物実測図



第197図　ＳＤ79出土遺物実測図

は調査区外に至る。規模は検出部で、幅20㎝、深さ３～６㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、淡灰褐色細砂混シルトである。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される長頸壷（50）・甕（51・52）・有孔鉢（53）などの破片が少量出土している（第196図）。

ＳＤ79

ＧⅥ－ｆ２区で検出した。北部・西肩は西部の調査区外に至る。南部は第10調査区に至り、南部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅50㎝（第10調査区の測定）、深さ５～14㎝を測る。断面は半円形を呈し、底面には起伏がみられる。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される壷（54・55）・高杯（56）などの破片が少量出土している（第197図）。

小穴（ＳＰ）

ＳＰ６～ＳＰ10

５個を検出した。平面の形状は、調査区外に至る小穴を除いてすべて円形を呈する。規模は検出部で、径34～70㎝、深さ12～35㎝を測る。断面の形状は、半円形及びＵ字形を呈する。堆積土は、暗灰色粘質土及び暗灰茶色細砂混粘質土である。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される弥生式土器の小片がごく少量出土している。以下、個々の小穴の法量などは第18表に記す。

第18表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ６	ＦⅥ－ｈ２	―――	半円形	44	14	暗灰茶色細砂混粘質土	
ＳＰ７	ＧⅥ－ａ２	円形	Ｕ字形	37	35	暗灰茶色細砂混粘質土	
ＳＰ８	ＧⅥ－ｄ２	円形	半円形	70	25	暗灰茶色細砂混粘質土	
ＳＰ９	ＧⅥ－ｅ２	円形	半円形	23	26	暗灰茶色細砂混粘質土	
ＳＰ10	ＧⅥ－ｆ２	円形	半円形	62	30	暗灰茶色細砂混粘質土	

２）第２調査面（鎌倉時代～江戸時代）

溝（ＳＤ）

ＳＤ69

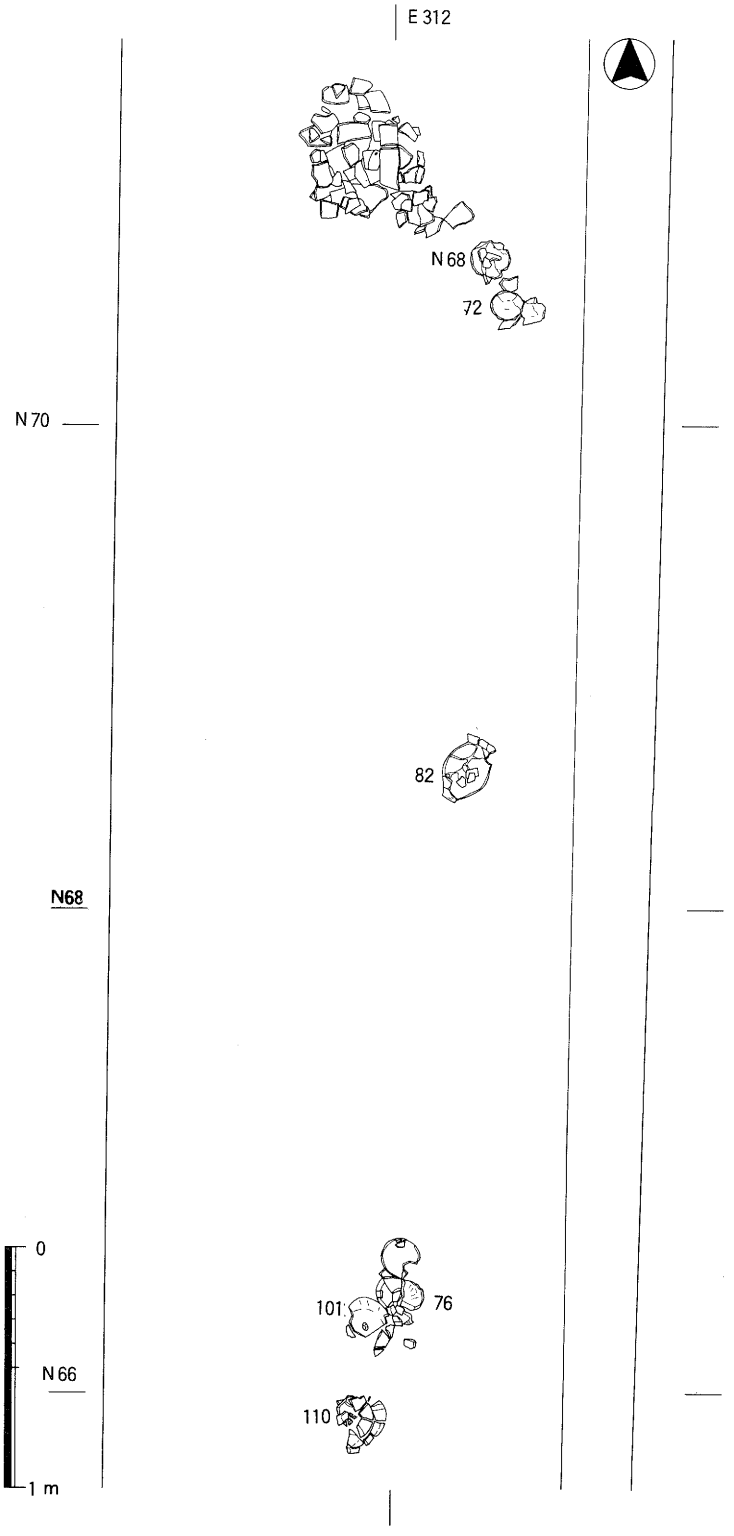
ＦⅣ－ｆ２区で検出した。方向は東西を示し、東西はともに調査区外に至る溝で、南肩の一部は撹乱し、北部では第８調査区で底面を検出している。規模は検出部で、幅４ｍ以上を測る。深さは、第８調査区の最深で約50cmを測る。堆積土は、淡褐灰色粘質土である。遺物は、弥生時代後期から江戸時代に至る遺物の小片がごく少量出土している。

ＳＤ80～ＳＤ92

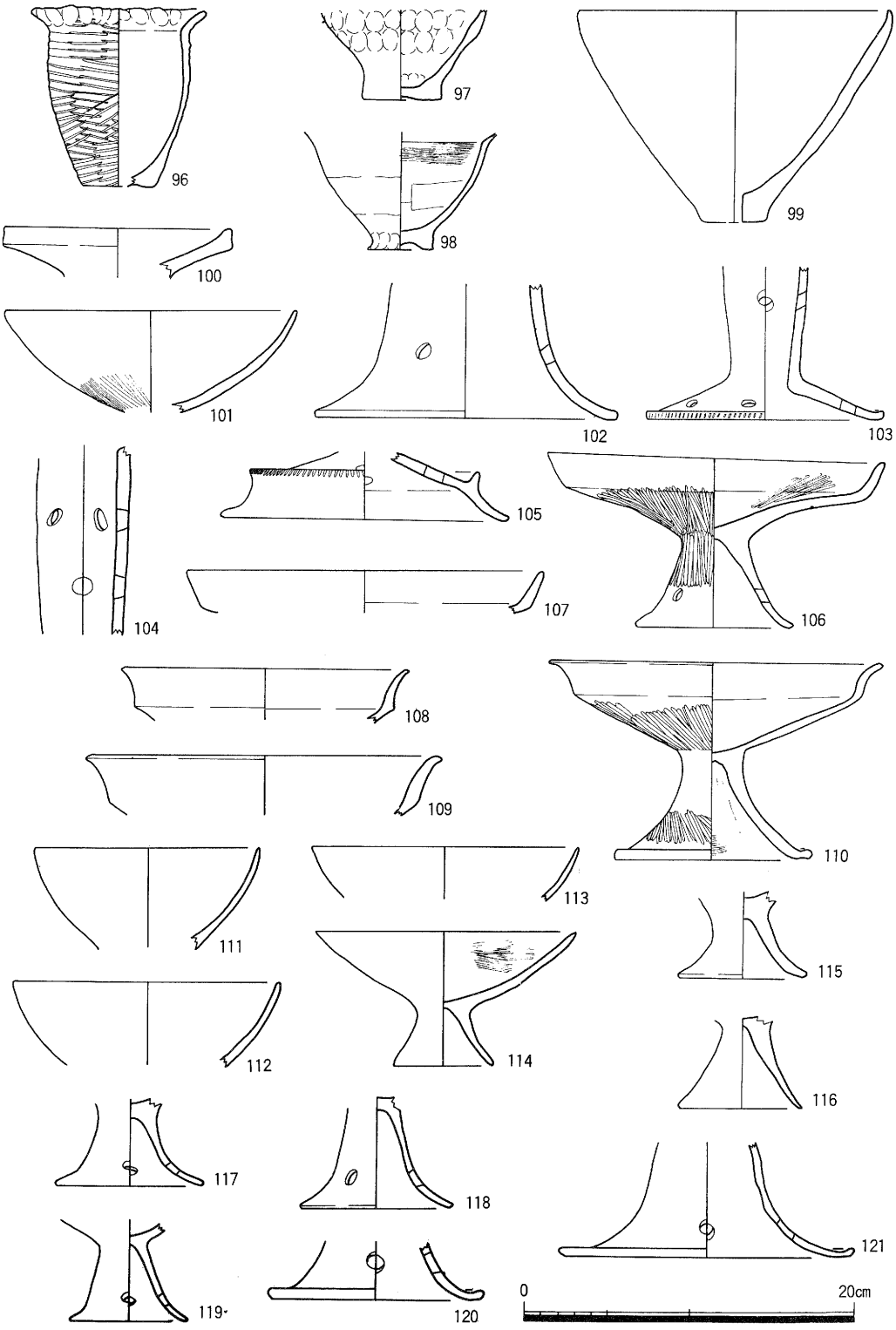
13条を検出した。方向には東西方向のもの７条、南北方向のもの６条がある。規模は検出部で、幅16～90cm、深さ６～24cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、淡灰褐色粘質土である。遺物はごく一部でしか出土していないが、数条の溝内には、古墳時代～鎌倉時代に至る遺物の小片がごく少量出土している。以下、各溝の法量は第19表に記す。

第19表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：cm

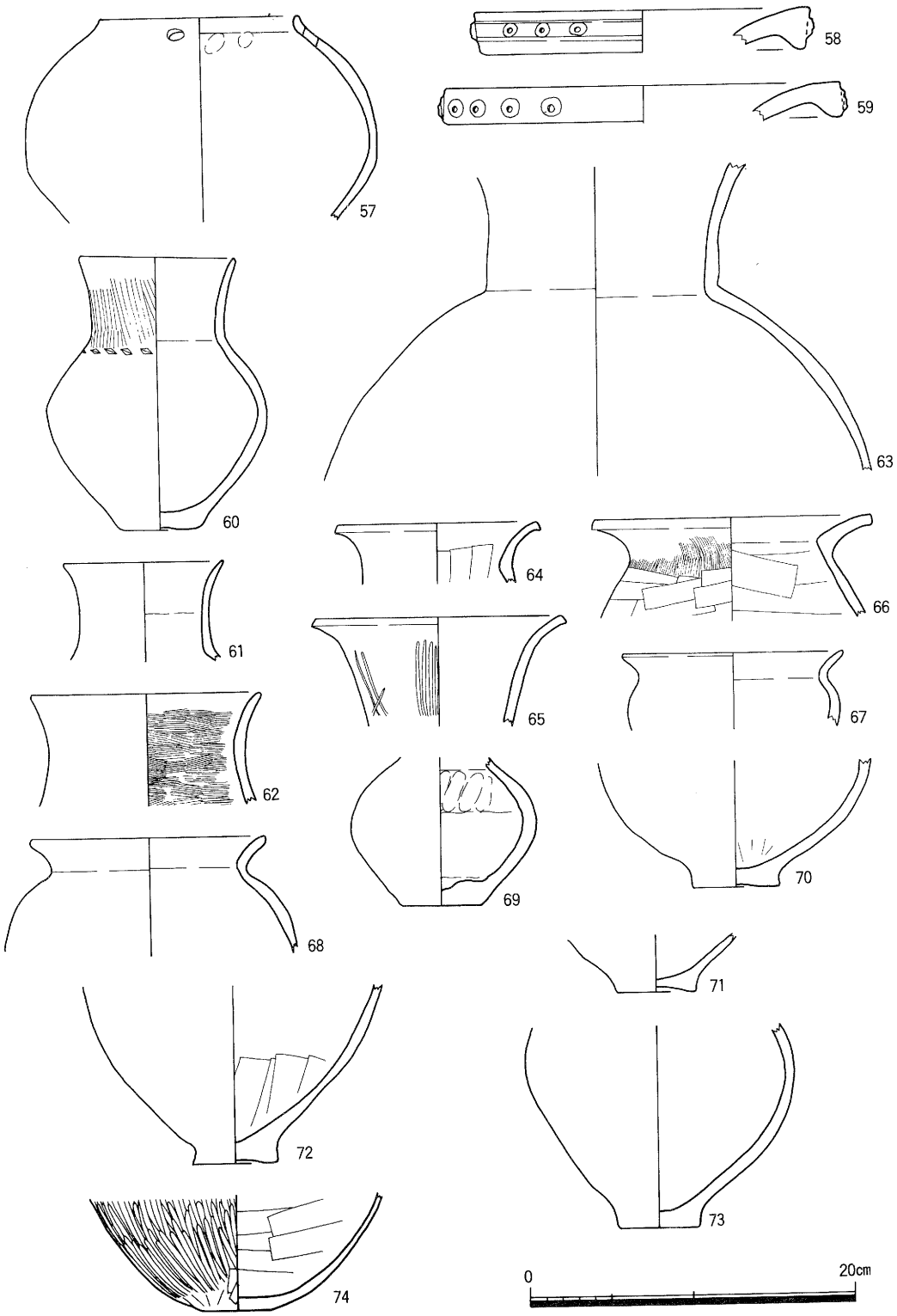
遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＤ80	ＦⅥ－ｇ２	東－西	半円形	90	6	淡灰褐色粘質土	ＳＤ81を切る。
ＳＤ81	ＦⅥ－ｆ２～ＧⅥ－ｄ２	南－北	半円形	16～84	5～24	淡灰褐色粘質土	ＳＤ80に切られ、ＳＤ83・84・87と切合う
ＳＤ82	ＦⅥ－ｊ２	南－北	半円形	16	5	淡灰褐色粘質土	
ＳＤ83	ＦⅥ－ｉ２ ＧⅥ－ａ２	南－北	半円形	30～54	3～15	淡灰褐色粘質土	ＳＤ81と切合う。
ＳＤ84	ＧⅥ－ｊ２	東－西	半円形	25～41	3～7	淡灰褐色粘質土	ＳＤ83と切れ合う。
ＳＤ85	ＧⅥ－ａ２～ｅ２	南－北	半円形	16	5	淡灰褐色粘質土	ＳＤ88に切られ、ＳＤ87と切合う。
ＳＤ86	ＧⅥ－ｃ２	南－北	半円形	13	4	淡灰褐色粘質土	
ＳＤ87	ＧⅥ－ｃ２	東－西	半円形	28～40	14	淡灰褐色粘質土	ＳＤ81と切合う
ＳＤ88	ＧⅥ－ｅ２	東－西	半円形	23	7～10	淡灰褐色粘質土	ＳＤ85を切る。
ＳＤ89	ＧⅥ－ｅ２	東－西	半円形	16	5～8	淡灰褐色粘質土	
ＳＤ90	ＧⅥ－ｆ２	東－西	半円形	46	11～15	淡灰褐色粘質土	
ＳＤ91	ＧⅥ－ｆ２	東－西	半円形	43	6～10	淡灰褐色粘質土	
ＳＤ92	ＧⅥ－ｆ２	南－北	半円形	22～34	9～13	淡灰褐色粘質土	



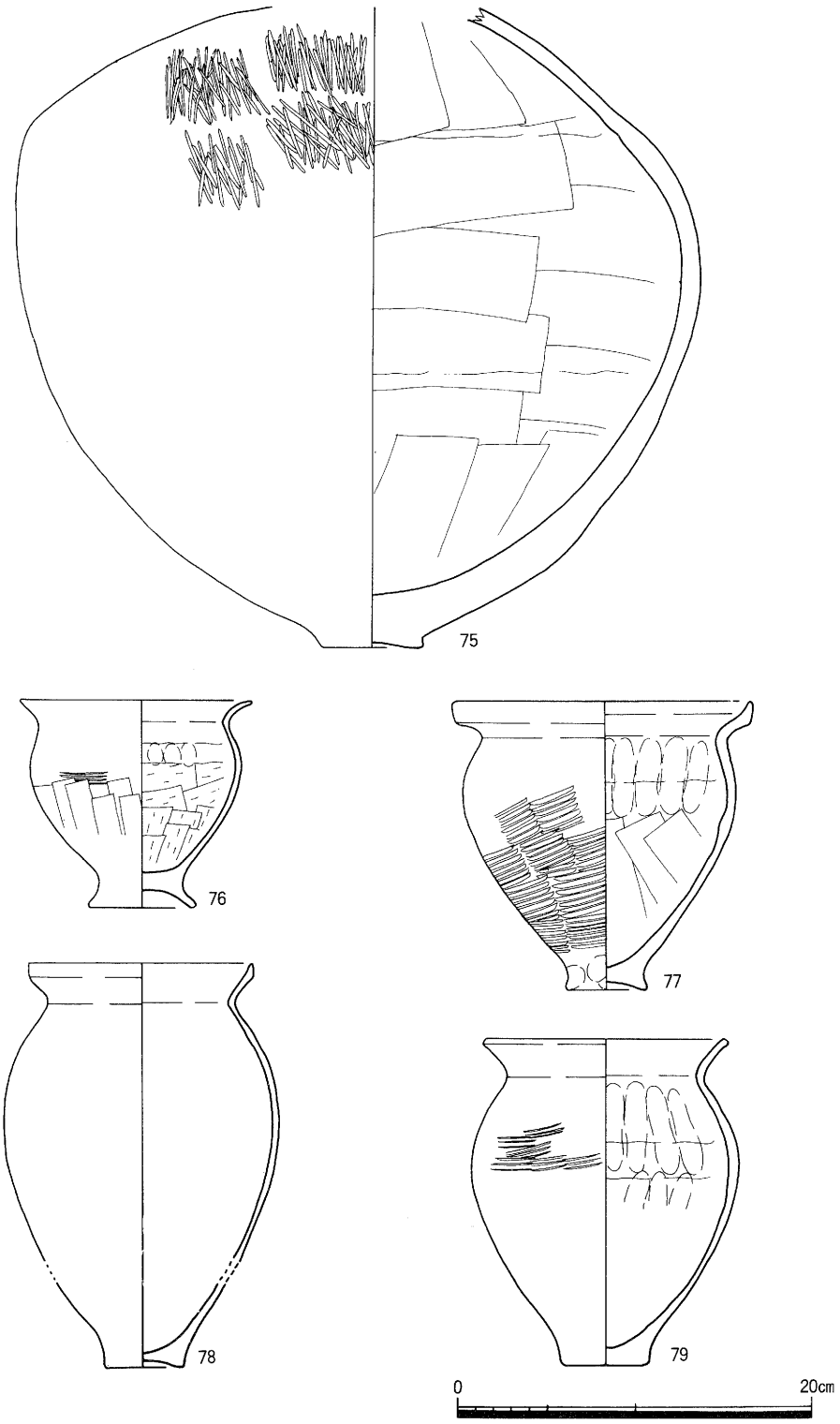
第198図　第４層土器集積平面図



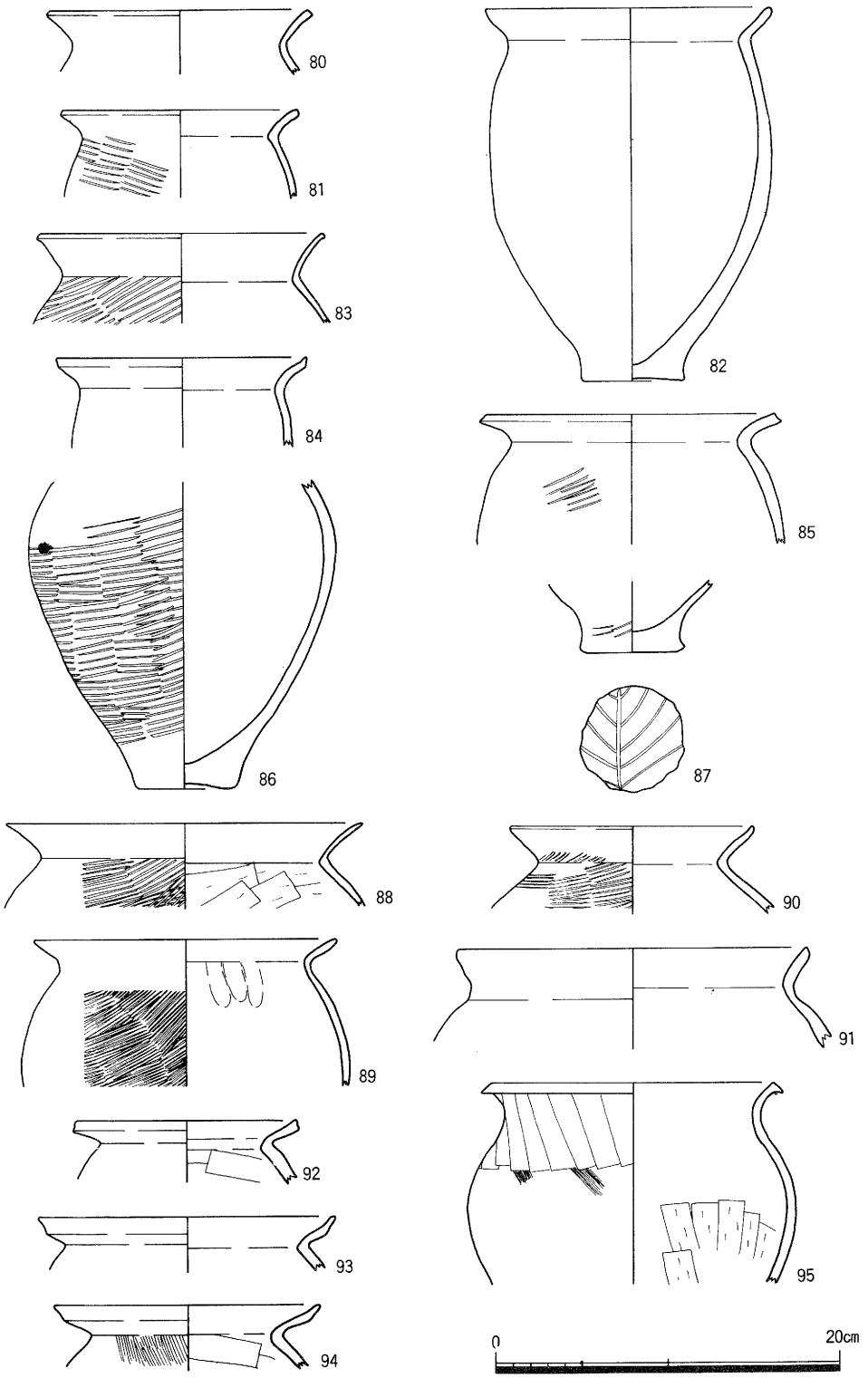
第199図　遺構に伴わない出土遺物実測図１



第200図　遺構に伴わない出土遺物実測図 2



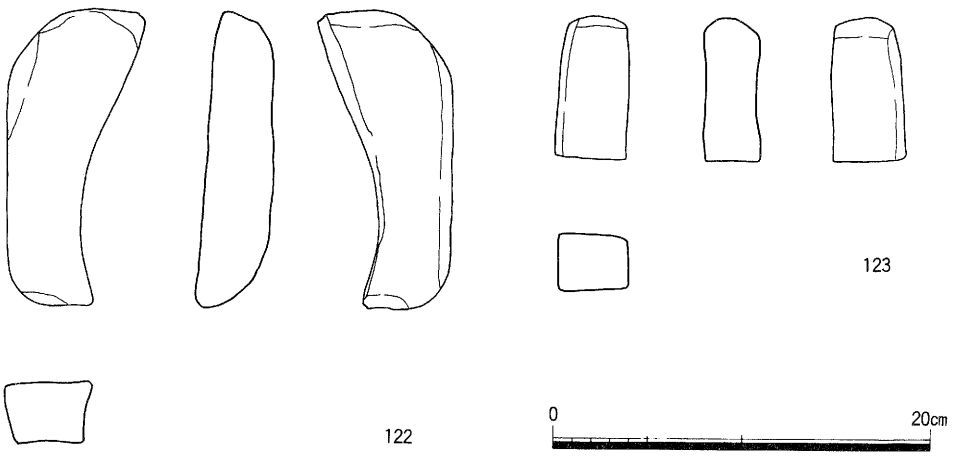
第201図　遺構に伴わない出土遺物実測図３



第202図　遺構に伴わない出土遺物実測図 4

３）遺構に伴わない出土遺物

第２～４層内から出土している。出土量は、コンテナ箱にして約４箱分である。時期は、弥生時代後期～鎌倉時代に至るもので、第２層内から鎌倉時代のもの、第３層内から古墳時代前期のもの、第４層内から弥生時代後期末を中心に出土している。特に第４層内から出土する弥生土器が大半を占める（第198図）。以下、図示できたものについて記す（第199～203図）。第４層内から出土したものは、畿内第Ⅴ様式に比定される無頸壷（57）・広口壷（58・59）・長頸壷（60・61）・壷（62～65・69～75）・甕（66・68・76～87）・鉢（67・96～98）・有孔鉢（99）・器台（100・102～105）・高杯（101・106～121）である。その他には、長方形の砥石２点がある。122は縦16cm、横６cm以上（片側欠損）、厚み３cmを測る。123は縦7.8cm、横４cm、厚み2.5cmを測る。第３層内から出土したものは、古墳時代前期（庄内式中相）に比定される庄内式甕（88～90）・その他の甕（91～95）である。



第203図　遺構に伴わない出土遺物実測図５

第11節　第11調査区

第９調査区の南端部に設定した東西に長い調査区（幅2.5ｍ×長さ45ｍ）である。調査面積は112.5㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.2ｍまでに存在する土層内から普遍的にみられる６層を摘出して基本層序とした（第204図）。現地表高は、標高8.6ｍを測る。以下、各土層について記す。

第１層　耕土：層厚10～15㎝。調査前までの耕作土である。

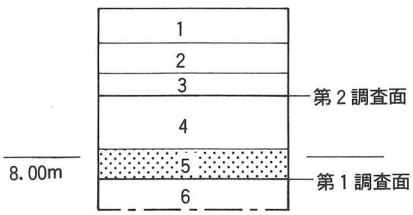
第２層　明灰茶色シルト混粘質土：層厚10～15㎝。耕土の床土で、内部には近世の遺物がごく少量含まれている。

第３層　灰茶色細砂混粘質土：層厚20～25㎝。鎌倉時代～室町時代に至る遺物を少量含む。この上面から江戸時代の遺構が切り込まれている。

第４層　灰茶色粘質土：層厚20～25㎝。古墳時代前期に比定される土器の小片が含まれ、上面では、鎌倉時代に比定される溝が切り込まれている。

第５層　暗灰色粘質土：層厚10～15㎝。弥生時代後期に比定される土器が含まれる。

第６層　淡灰色～淡灰褐色シルト：層厚15㎝以上。弥生時代後期の遺構が切り込んでおり、この上面を調査対象面とした。上面は標高7.9ｍを測る。



第204図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）

Ⅱ　検出遺構と出土遺物

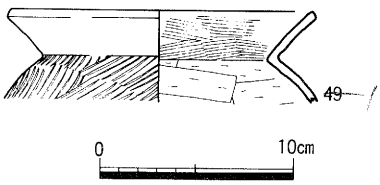
第４層（第２調査面）と第６層（第１調査面）上面の２面を調査面とした。その結果、第１調査面では、弥生時代後期末に比定される小穴１個（ＳＰ11）、溝２条（ＳＤ79・ＳＤ93）を検出した。第２調査面では、鎌倉時代ごろの溝６条（ＳＤ94～ＳＤ99）、江戸時代以降の溝１条（ＳＤ100）を検出した（第207図）。以下、各遺構について記す。

1）第1調査面

小穴（ＳＰ）

ＳＰ11

ＧⅥ－ｆ４区で検出した。上面はＳＤ100に削られている。平面の形状は、楕円形を呈する。規模は検出部で、径64～80㎝、深さ20㎝を測る。断面は、逆凸形を呈する。堆積土は、暗茶褐色粘質シルトの１層である。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される甕（１）などの小片がごく少量出土している（第205図）。



第205図　ＳＰ11出土遺物実測図

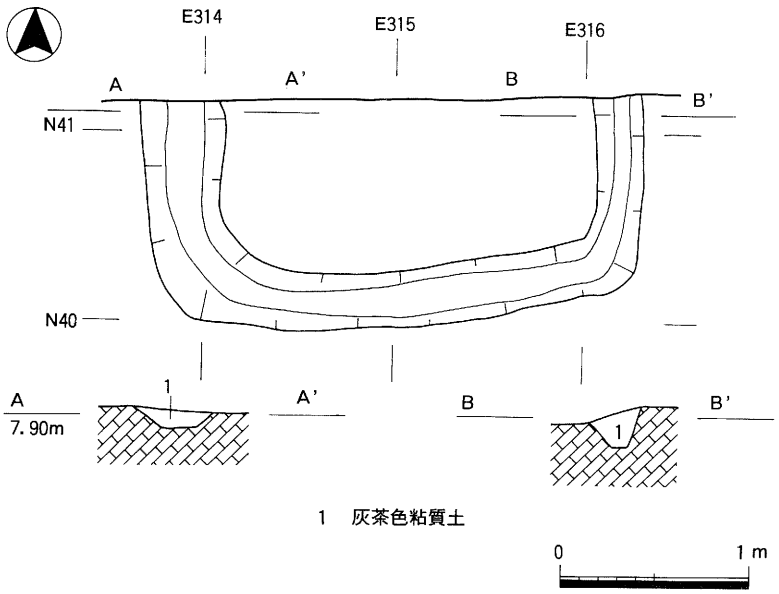
溝（ＳＤ）

ＳＤ79

ＧⅥ－ｆ２区で検出した。第９調査区から継続する溝である。詳細なことは第９調査区で記載しているので、ここでは省略する。

ＳＤ93

ＧⅥ－ｆ２区で検出した溝で、平面の形状が方形（東西辺2.6ｍ）に巡り、北側は調査区外



第206図　ＳＤ93平断面図

に至り、全体の形状は不明である。規模は検出部で、幅28～46cm、深さ５～11cmを測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、灰茶色粘質土である（第206図）。遺物は出土していない。

２）第２調査面

溝（ＳＤ）

ＳＤ94～ＳＤ99

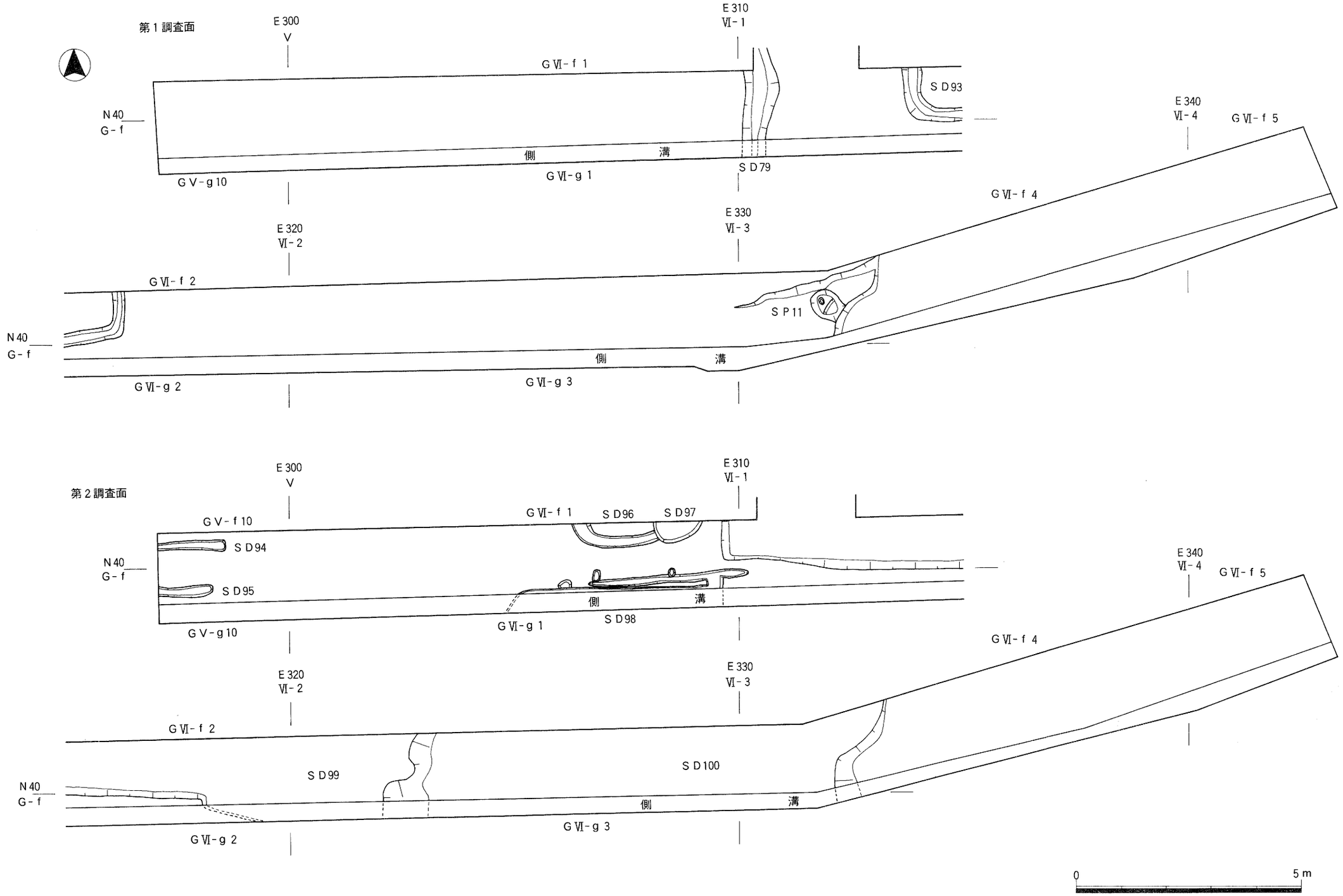
６条を検出した。方向は、ＳＤ97以外のものすべて東西方向を示す。ＳＤ97は北部に主軸のある円弧を描き、北部の調査区外に至る。規模は検出部で、幅0.1～2.68ｍ、深さ４～25cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には灰茶色粘質土が堆積している。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る遺物の小片がごく少量出土している。以下、各溝の法量などについては第20表に記す。

第20表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：cm

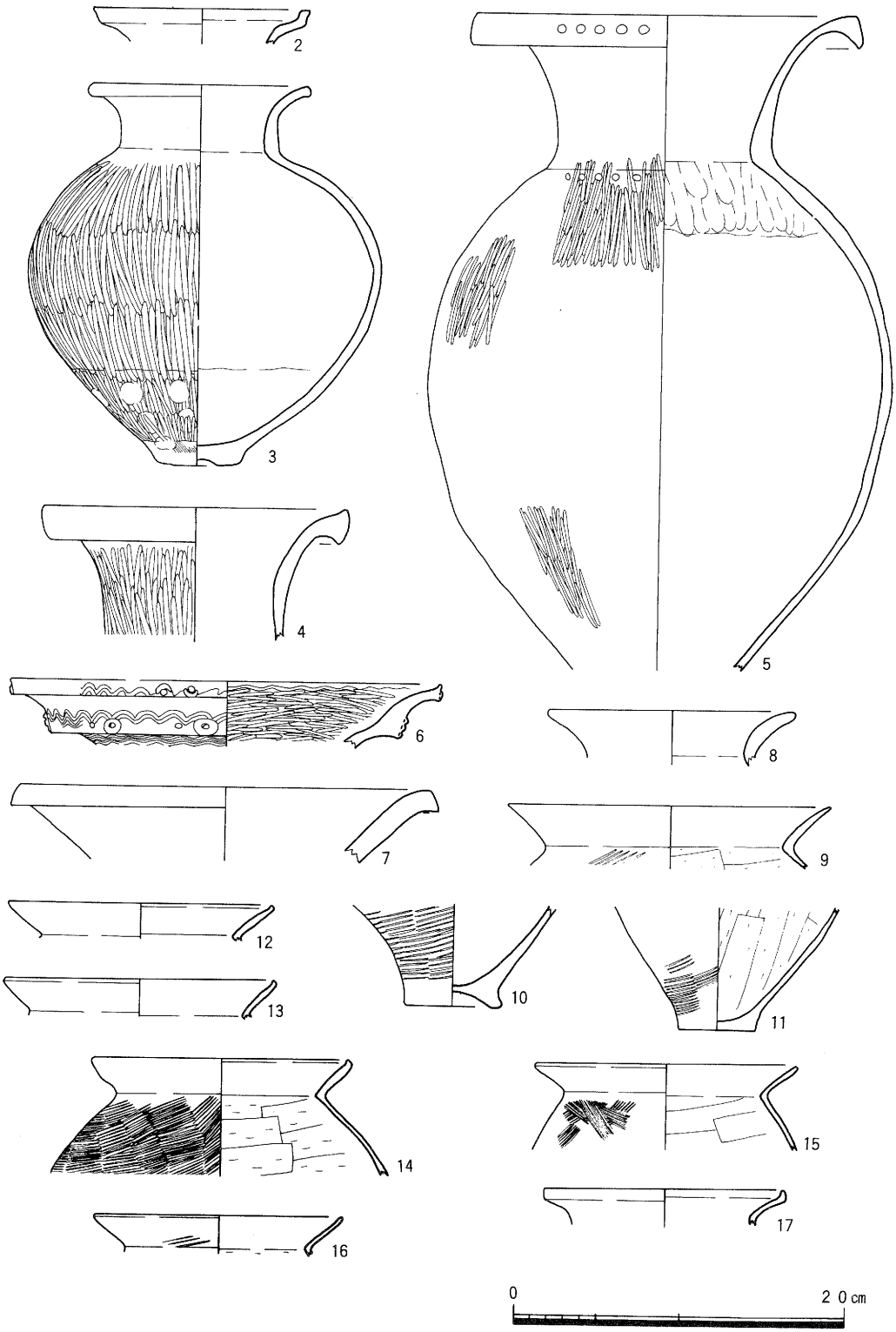
遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＤ94	ＧⅤ－f10	東－西	半円形	20	6	灰茶色粘質土	
ＳＤ95	ＧⅤ－f10	東－西	半円形	22	4	灰茶色粘質土	
ＳＤ96	ＧⅥ－f１	円弧	半円形	15	8	灰茶色粘質土	東部は撹乱している。
ＳＤ97	ＧⅥ－f１	東－西	半円形	20	6	灰茶色粘質土	ＳＤ96と切合う
ＳＤ98	ＧⅥ－f１	東－西	半円形	10以上	8	灰茶色粘質土	ＳＤ97と切合う。
ＳＤ99	ＧⅥ－f２～f３	東－西	半円形	268	25	灰茶色粘質土	ＳＤ101に切られ、西部は途切れている。

ＳＤ100

調査区の東部（ＧⅥ－ｆ３～ｆ５区）で検出した大きな溝状の遺構である。第３層上面からの切り込みで、方向は、南北方向に伸びるものと考えられる。南北ともに調査区外に至る。また、東部（楠根川が隣接）の溝肩は検出できなかった。堆積土は、灰茶褐色粘質土・暗灰色細砂混粘質土（径３～５cmの礫を含む）・灰褐色粘質土（ごく少量の細砂を含む）・淡茶灰色粗砂混シルト・灰茶色細砂混粘質土・茶灰色細砂混シルト・灰色シルトと淡灰黄色細砂の互層である。遺物は、内部から古墳時代～江戸時代に至る土師器・須恵器・瓦器・瓦・陶磁器などの小片がごく少量出土している。



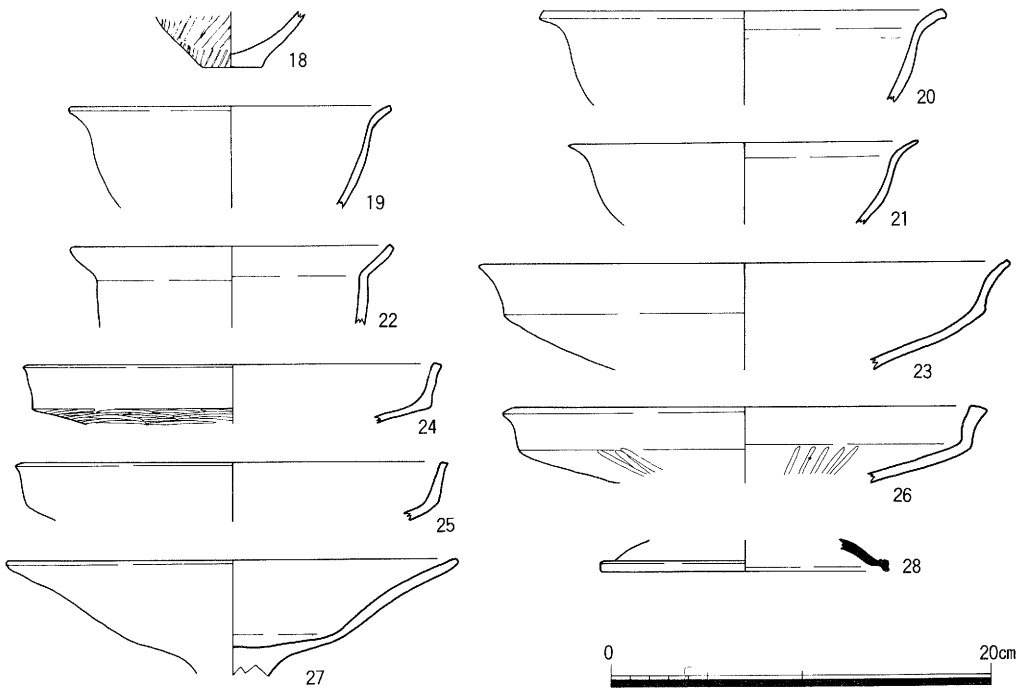
第207図　第10調査区遺構平面図



第208図　遺構に伴わない出土遺物実測図1

3）遺構に伴わない出土遺物

第２～５層内から出土している。時期は弥生時代後期～近世に至るもので、出土量はコンテナ箱にして約１箱分を数える。特に第５層と第６層内からの出土遺物が大半を占めている。以下、図示できたものについて記す（第208・209図）。第６層から出土したものとしては、弥生時代後期前半に比定される壷（２～７）・高杯（23～26）である。第５層から出土したものとしては、弥生時代後期後半に比定される壷（８）・Ｖ様式甕（10・11）・鉢（18～22）、古墳時代前期（庄内式）に比定される庄内式甕（９・12～16）・甕（17）・高杯（27）である。第３層から出土したものとしては、奈良時代に比定される須恵器の杯蓋（28）である。



第209図　遺構に伴わない出土遺物実測図２

第１調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	壺 (土師器) 包含層	最大径　18.3 底径　2.2	体部は下位に最大径をもつ偏平な球形である。底部はやや突出した小さな平底。口縁部は欠損。 外面ナデ、内面摩耗の為調整不明瞭。	外　乳茶褐色 内　暗茶褐色	３㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
2 八八	同上 包含層	口径　16.8 器高　17.5 最大径　18.4	球形の体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（４本）後ハケナデ（６本）、下位ハケナデ（６本）、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	３㎜以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	体部の外面下位に煤付着。
3 八八	同上 包含層	口径　14.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（５本）、内面ヘラナデ。	褐灰色	0.5㎜以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
4	同上 包含層	口径　17.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（５本）、内面ナデ。	褐茶色	0.5 ㎜以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
5	同上 包含層	口径　32.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。体部内面に２本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（５本）、内面ヘラ削り。	褐茶色	2.5 ㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	
6 八八	同上 包含層	口径　18.4	斜内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（６本）、内面ヘラ削り。	外　淡茶褐色 内　暗茶褐色	３㎜以下の角閃石・長石等の砂粒少量含む。	良好	体部の内面に炭化物付着。
7	同上 包含層	口径　23.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びた後屈曲して上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（５本）後ナデ、内面ナデ。	外　淡茶褐色 内　淡灰茶色	４㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
8	鉢 (土師器) 包含層	口径　18.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 端部ヨコナデ、口縁部内外面ナデ。	淡灰茶色	１㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
9	椀 (磁器) 包含層	底径　5.2	底部は平らで、断面Ｕ字形の高台が付く。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	淡緑灰色	精良。	良好	内外面に緑釉付着。

第２調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 八八	壺 (土師器) SW1	口径 15.5	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。頸部内面に１本の接合痕を有する。 端部撫面ヨコナデ、口縁部内外面ヘラミガキ。	淡茶灰色	4㎜以下の長石・雲母等の砂粒を微量含む。	良好	
2 八八	同上 SW1	口径 15.0	口縁部は上外方へ大きく外反して伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。口縁部外面に１本の接合痕を有する。 口縁部外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
3 八八	同上 SW1	最大径 11.9	体部は偏平な球形である。底部は尖り底。口縁部は欠損。体部内面下位に１本の接合痕を有する。 内外面摩耗の為不明瞭。	淡茶橙色～乳灰茶色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
4	同上 SW1	最大径 14.0	体部は球形である。底部は丸底で、焼成後の穿孔がみられる。口縁部は欠損。 外面摩耗の為不明瞭、内面指ナデ。	淡灰褐色	4㎜以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
5	同上 SW1	口径 12.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面剝離の為調整不明瞭。	淡茶灰色	3㎜以下の砂粒を多量に含む。	良	
6 八八	同上 SW1	口径 9.5 器高 15.3 最大径 13.6	球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ヘラミガキ、中位ハケナデ（７本）、下位タタキ後ヘラミガキ、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	3㎜以下の雲母・長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
7 八八	同上 SW1	口径 12.9	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ハケナデ（外６本・内７本）、体部外面ハケナデ（８本）、内面ナデ。	外 淡茶橙色 内 淡灰茶色	6㎜以下の長石・角閃石・石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良	
8 八九	同上 SW1	口径 16.6	上内方へ外反して伸びる頸部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びた後屈曲して上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、頸部内面ナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	乳灰茶色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
9 八九	同上 SW1	口径 12.8	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上方へ外反して伸びた後屈曲して外上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗の為調整不明瞭、内面指ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	4㎜以下の長石・石英雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
10	同上 SW1	頸部径 11.0 最大径 26.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる。口縁部・体部下位は欠損。体部内面上位に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（５本）、内面上位ナデ、中位ヘラ削り。	淡灰茶色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	体部外面中位に黒斑有。
11	同上 SW1	底径 5.6	体部上位・口縁部は欠損。体部は外上方へ伸びる。底部は突出した平底。 内外面ハケナデ。	淡茶灰色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面に黒斑有。
12	同上 SW1	底径 4.1	体部上位以上は欠損。底部はやや突出した上げ底。底面に葉脈痕がみられる。 外面ナデ、内面指押え後ナデ。	淡赤褐色	5.5㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
13	壺 (土師器) SW1	底径 5.4	体部は斜上方へ伸びる。底部はやや突出した上げ底。口縁部・体部は欠損。 体部外面摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラナデ、底面ナデ。	外 淡灰茶色 内 淡茶灰色	4㎜以下の長石・石英・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
14	同上 SW1	底径 7.6	体部上位以上は欠損。体部は外上方へ内湾気味に伸びる。底部は突出した上げ底。 体部外面ヘラミガキ、内面ナデ、底部外面ヨコナデ、底面ヘラナデ。	淡灰褐色	4㎜以下の石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
15	同上 SW1	底径 3.6	体部上位以上は欠損。体部は外上方へ内湾して伸びる。底部はやや突出した平底。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	淡灰褐色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	外面に黒斑有。
16	同上 SW1	底径 7.4	体部は上外方へ内湾気味に伸びる。底部は突出しない平底。 外面摩滅の為調整不明瞭、内面ヘラ削り。	外 淡灰茶色 内 暗褐灰色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
17	同上 SW1	底径 7.0	体部上位以上は欠損。体部は外上方へ内湾して伸びる。底部は突出しない平底。 内外面ナデ。	乳灰褐色	4㎜以下の角閃石・石英等の砂粒を少量含む	良	外面に黒斑有。
18	甕 (土師器) SW1	口径 15.2	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	3㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
19 八九	同上 SW1	口径 13.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面・体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
20	同上 SW1	口径 16.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗灰茶色	3㎜以下の雲母・長石角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
21	同上 SW1	口径 10.0	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り。	褐灰色	3㎜以下の角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
22	同上 SW1	口径 15.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	4㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
23 八九	同上 SW1	口径 14.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面・頸部外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	4㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面体部外面中位に煤付着。
24 八九	同上 SW1	口径 15.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(11本)、内面ヘラ削り。	外 乳灰茶色 内 淡茶灰色	4㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 器高(cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
25 八九	甕 (土師器) SW1	口径 16.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。口縁部外面に1本の接合痕を有する。 口縁部外面タタキ？、内面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	外 褐灰色 内 乳褐灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
26 八九	同上 SW1	口径 17.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面・頸部外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(4本)、中位ハケナデ(10本)、内面ナデ。	暗茶褐色	2㎜以下の雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
27	同上 SW1	口径 15.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗の為調整不明瞭、内面ナデ。	暗茶褐色	2㎜以下の雲母・長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
28	同上 SW1	口径 15.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗の為調整不明瞭、内面ナデ。	暗茶褐色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
29	同上 SW1	口径 16.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	5㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
30	同上 SW1	口径 16.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗茶褐色	1㎜以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
31 八九	同上 SW1	口径 15.0	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	2㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。
32	同上 SW1	口径 14.2	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶褐色	0.5㎜以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
33	同上 SW1	口径 16.8	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
34	同上 SW1	口径 16.2	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗灰茶色	2㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
35 九〇	同上 SW1	口径 15.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（3本）、中位摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	3㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
36	同上 SW1	口径 15.2	内上方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	4㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
37	甕 (土師器) SW1	口径 14.2	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面に煤付着。
38 九〇	同上 SW1	口径 14.4 最大径 17.4	球形に近い体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り。	茶褐色～黒褐色	4㎜以下の長石・角閃石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面に煤付着。
39	同上 SW1	口径 15.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	褐灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
40	同上 SW1	口径 15.4	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	5㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
41	同上 SW1	口径 15.5	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面摩耗の為調整不明瞭。	乳灰茶色	4㎜以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
42	同上 SW1	口径 15.0	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端み上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	外　茶赤褐色 内　淡灰褐色	3㎜以下の雲母・長石角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
43	同上 SW1	口径 16.2	口縁部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	4㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
44 九〇	同上 SW1	口径 15.3	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面タタキ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	2㎜以下の雲母・長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
45	同上 SW1	口径 15.1	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は上につまみ、外側に凹面がみられる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	1㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
46	同上 SW1	口径 12.4	口縁部は外上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳灰茶色	1㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
47 九〇	同上 SW1	口径 16.0 最大径 19.6	球形と思われる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。体部下位は欠損。体部内面上位に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(5本)、中位タタキ後ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	4.5㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
48	同上 SW1	口径 14.2	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	3㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
49 九〇	甕 (土師器) SW1	口径 15.2 器高 19.5 最大径 20.1	球形の体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部はやや尖り底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（5本）、中位ハケナデ（6本）、下位タタキ（6本）後ハケナデ（6本）、内面ヘラ削り、底部内面指頭痕。	淡茶灰色	5㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	完形。 体部外面下位に煤付着。
50 九〇	同上 SW1	口径 17.4 器高 21.0 最大径 22.4	球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。底部はやや尖り底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ（4本）、下位ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	6㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。
51 	同上 SW1	口径 18.4	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡灰褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
52 九〇	同上 SW1	口径 16.0 器高 20.1 最大径 19.6	球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	3.5 ㎜以下の角閃石・雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面中位以下に煤付着。
53 	同上 SW1	口径 14.0	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(8本)、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	2㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好ス	
54 	同上 SW1	口径 12.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（8本）、内面ヘラ削り。	外　淡茶灰色 内　淡灰茶色	2㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
55 	同上 SW1	口径 14.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)後ハケナデ（9本）、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	3㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。
56 	同上 SW1	口径 14.6	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	1㎜以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
57 	同上 SW1	口径 16.6	口縁部は上外方へ内湾して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	1㎜以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
58 	同上 SW1	口径 15.2	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	乳褐灰色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面に煤付着。
59 	同上 SW1	口径 16.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ（4本）、体部内面ヘラ削り。	灰茶色	6㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
60 九〇	同上 SW1	口径 12.9 器高 16.2 最大径 16.2	やや偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り、底部内面指押え後ヘラ削り。	淡灰茶色	3㎜以下の雲母·長石·角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
61	甕 (土師器) SW1	口径 13.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶赤色	1.5 以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
62	同上 SW1	口径 15.0	口縁部は外上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ.	乳灰茶色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
63 九一	同上 SW1	口径 13.2	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（5本）、内面ヘラ削り。	乳褐灰色	2㎜以下の雲母·長石·角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
64	同上 SW1	口径 17.4	口縁部は上方へ外反して伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	1㎜以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	
65	同上 SW1	口径 9.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩耗の為調整不明瞭。	乳灰茶色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
66 九一	同上 SW1	口径 17.6 最大径 23.1	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（7本）、内面ヘラ削り。	乳褐灰色	3㎜以下の長石·雲母等の砂粒を少量含む。	良肯	体部外面中位に煤付着。
67	同上 SW1	口径 16.0	斜上方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部中位以下は欠損。瀬戸内系の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（9本）、内面ハケナデ（9本）後指頭痕。	暗茶褐色	2㎜以下の雲母・角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
68 九一	鉢 (土師器) SW1	口径 10.4 器高 5.3 底径 2.6	半球形の体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや突出した窪み底。 外面タタキ（2本）、内面ヘラナデ、底面ナデ。	乳灰茶色	5㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面に黒斑有。
69	同上 SW1	口径 11.0	上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して短く伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗の為調整不明瞭、内面ナデ。	淡茶褐色	1㎜以下の長石·角閃石·石英·雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
70 九一	同上 SW1	口径 34.0	上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(12本)、内面摩耗の為調整不明瞭。	淡茶褐色	7㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
71 九一	高杯 (土師器) SW1	底径 16.5	杯底部は外上方へ伸びる。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。杯部は欠損。裾部に四方孔を有する。 杯底部内外面ナデ後ハケナデ、柱状部外面ヨコナデ、内面ヘラによるくりぬき・指押え、裾部内外面ハケナデ（外6本・内7本）。	淡茶灰色	1㎜以下の雲母·長石·角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
72	壺 (土師器) 河川1	口径 8.2	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	1㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
73	壺 (土師器) 河川1	口径 15.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳茶橙色	1㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
74	甕 (土師器) 河川1	口径 13.0	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	橙茶色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
75	同上 河川1	口径 11.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 褐黒色 内 灰茶色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
76	同上 河川1	口径 17.1	口縁部は外上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
77 九一	高杯 (土師器) 河川1	口径 14.4	平らに近い杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。脚部は下外方へ伸びる柱状部に至る。裾部は欠損。 杯部外面ハケナデ（16本）後ナデ、内面摩耗の為調整不明瞭、柱状部外面ナデ、内面ヘラによるくりぬき。	橙茶色	1.5㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
78 九一	同上 河川1	底径 10.6	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外方に開く裾部に至る。端部は丸い。 杯底部内面・柱状部外面ナデ、内面ヘラによるくりぬき、裾部内外面ヨコナデ。	淡橙茶色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	裾部内外面に煤付着。
79 河川1	同上	底径 10.7	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる柱状部から裾部に至る。端部は丸い。脚部中位に三方孔を有する。 外面摩耗の為調整不明瞭、柱状部内面ヘラによるくりぬき、裾部内面タタキ（5本）。	淡橙茶色	0.5㎜以下の赤褐色酸化粒・長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
80	壺 (土師器) 河川2	口径 16.2	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は外側に面をもつ。体部は欠損。 端部内外面ヨコナデ、口縁部内外面摩滅の為調整不明瞭。	淡茶灰色	1㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
81	同上 河川2	口径 17.6	口縁部は上外方へ内湾して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 外面ヘラミガキ、内面摩滅の為調整不明瞭。	外 淡茶灰色 内 灰黒色	2㎜以下の雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
82 九二	同上 河川2	口径 12.8	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。口縁部外面に2本の接合痕を有する。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)、体部外面ハケナデ（8本）、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	1㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
83	同上 河川2	口径 12.6	口縁部は上方へ外反して伸び、端部は上外方へつまみ出し、上に凹面をもつ。体部は欠損。 端部内外面ヨコナデ、口縁部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	茶灰色	1㎜以下の角閃石・雲母・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	外面にヘラ記号有。
84 九二	同上 河川2	口径 11.6	口縁部は上方へ伸びた後屈曲して外上方へ大きく開く、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面上位ヘラミガキ後放射状暗文、他はヘラミガキ。	乳茶灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
85	小型壺 (土師器) 河川2	口径 9.6	偏平な球形の体部から屈曲し、上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	乳茶橙色	1.5㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	
86	壺 (土師器) 河川2	底径 9.6	体部上位以上は欠損。体部は外上方へ伸びる。底部は突出しない平底。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ナデ。	外 暗灰褐色 内 暗茶色	2.5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	外面に煤付着。
87	甕 (土師器) 河川2	口径 17.1	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。口縁部外面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラナデ。	外 黒褐色 内 暗茶褐色	1㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
88	同上 河川2	口径 17.4	斜内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)後ハケナデ、内面ヘラ削り。	外 黒褐色 内 暗灰茶色	0.5㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
89	同上 河川2	口径 13.6	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	外 淡茶灰色 内 乳褐灰色	1㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。
90	同上 河川2	口径 16.0	口縁部は上外方へ外反して伸びる。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	灰褐色	2㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
91	同上 河川2	口径 13.4	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
92	同上 河川2	口径 16.3	口縁部は斜上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。口縁部外面に1本の接合痕を有する。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(8本)。	外 暗茶褐色 内 乳茶褐色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
93	同上 河川2	口径 14.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	0.5㎜以下の石英等の砂粒を微量に含む。	良好	外面に煤付着。
94	同上 河川2	口径 15.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は上につまみ上げ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	褐灰色	1㎜以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
95	同上 河川2	口径 13.9	口縁部は外上方へ伸び、端部は上につまみ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)。	暗茶褐色	0.5㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	外面に煤付着。
96	同上 河川2	口径 17.8	口縁部は外上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)	淡灰褐色	0.5㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	口縁部外面上位に煤付着。
97	同上 河川2	口径 27.5	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方につまみ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	暗灰褐色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
98	甕 (土師器) 河川2	口径 15.6	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	外 暗褐灰色 内 灰褐色	2㎜以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
99 九二	同上 河川2	口径 10.9	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上方へ長く拡張する。体部は欠損。吉備地方の酒津式の特徴をもつ。 端部外面櫛状ヨコナデ、体部内面ヘラ削り、他はヨコナデ。	淡褐灰色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
100	鉢 (土師器) 河川2	口径 26.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	0.5㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面に煤付着。
101	同上 河川2	口径 30.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	褐灰色	3㎜以下の石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
102 九二	器台 (土師器) 河川2	口径 9.2 器高 9.3 底径 11.1	受部は外上方へ内湾して伸び、端部は丸い。脚部は斜外方へ伸びる。端部は丸い。脚部上位に三方孔を有する。 受部外面上位ヘラミガキ、下位ヘラ削り、内面ヘラミガキ後放射状暗文、脚部外面ヘラミガキ、内面ハケナデ（6本）。	乳茶灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
103	同上 河川2	口径 9.2	受部は上外方へ内湾して伸び、端部は丸い。脚部は欠損。 受部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。	淡橙茶色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
104	同上 河川2	底径 11.8	脚部は斜外方へ伸びる。端部は丸い。受部及び脚部下位は欠損。脚部に四方孔を有する 外面ヘラミガキ、内面ハケナデ（11本）。	淡茶灰色	1㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
105	高杯 (土師器) 河川2	口径 20.6	杯底部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。	淡茶灰色	1㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
106	同上 河川2	口径 23.9	平らな杯底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面上位ヨコナデ、下位ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。	乳褐茶色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
107	同上 河川2	底径 14.8	杯部及び柱状部は欠損。裾部は外下方へ大きく開く。端部は丸い。裾部上位に穿孔を有する。 外面ヘラミガキ、内面ハケナデ（10本）。	褐橙色	0.5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	裾部外面上位に煤付着。
108	甕 (土師器) 河川4	口径 14.8	口縁部は外上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 外面ハケナデ、内面ヨコナデ。	淡灰褐色	6㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
109	同上 河川4	口径 16.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面上位ヨコナデ、下位ハケナデ（9本）、体部外面タタキ（5本）後ハケナデ（8本）、内面上位ハケナデ（8本）、中位ヘラ削り。	淡灰褐色	1.5㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
110 九二	甕 (土師器) 河川4	口径 14.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。頸部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(11本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	4㎜以下の石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
111 九二	同上 河川4	口径 16.2 最大径 2.0	球形と思われる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ハケナデ(13本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(12本)、内面ヘラ削り。	外　淡褐灰色 内　褐灰色	3㎜以下の長石・石英・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面体部外面上位に煤付着。
112 九二	同上 河川4	口径 18.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)体部外面ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	4.5㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	外面に煤付着。
113 九二	同上 河川4	口径 16.4	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げ外に面をもつ。体部は欠損。口縁部外面に1本の接合痕を有する。 外面ヨコナデ、内面ハケナデ(8本)。	淡茶褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
114 九二	同上 河川4	口径 18.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は上につまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部内面ヘラ削り。	暗茶褐色	2㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。
115 九二	同上 河川4	口径 17.8	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	3㎜以下の雲母・石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。
116 九二	同上 河川4	口径 19.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面タタキ、内面ハケナデ(9本)、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	2㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
117 九二	有孔鉢 (土師器) 河川4	最大径 15.0	断面U字形の杯体部から口縁部に至る。口縁部端部は欠損。底部は尖り底。底面中央に穿孔を有する。 外面タタキ(4本)、内面ハケナデ(7本)。	褐灰色	5㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
118 九二	壺 (土師器) 包含層	口径 16.2	体部上位が半球形の体部から屈橋し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ出す。体部下位は欠損。 口縁部内外面・体部外面上位ヨコナデ、中位ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	乳灰色	2㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
119 九二	同上 包含層	口径 12.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、他はナデ。	外　淡茶褐色 内　淡黒褐色～淡茶褐色	2㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
120 九二	同上 包含層	底径 10.2	体部上位以上は欠損。体部は斜上方へ伸びる。底部は突出しない平底。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	底部外面に黒斑有。
121 九二	甕 (土師器) 包含層	口径 18.5	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	茶褐色	2.5㎜以下の角閃石・石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
122	甕 (土師器) 包含層	口径 16.6	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	褐茶色	2.5 ㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良	
123	同上 包含層	口径 15.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り。	外 淡茶灰色 内 淡茶褐色	3㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
124	同上 包含層	口径 13.4	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は上につまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡赤褐色 内 淡灰褐色～淡黒褐色	2㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
125	同上 包含層	口径 13.0	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡黒褐色 内 淡茶灰色	3㎜以下の長石・石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
126	同上 包含層	口径 14.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	3㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
127	同上 包含層	口径 19.8	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(7本)、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	3㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
128	同上 包含層	口径 17.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	乳灰色	3㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
129	同上 包含層	口径 13.8	口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	2㎜以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
130	同上 包含層	口径 14.3	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗茶褐色	0.5 ㎜以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良	
131 九二	同上 包含層	口径 20.1	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ上げ、外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ(11本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
132	同上 包含層	口径 24.2	内上方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
133 九二	同上 包含層	口径 18.5 器高 21.1 最大径 21.2	球形の体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(8本)、内面摩耗の為調整不明瞭。	暗茶褐色	3㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	体部外面に煤付着。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
134	甕 (土師器) 包含層	最大径　17.8	口縁部は欠損。体部は偏平な球形である。底部はやや尖り気味の底。 外面タタキ（５本）、内面ヘラ削り。	外　淡茶灰色 内　淡茶褐色	１㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	体部外面中位以下に煤付着。
135	同上 包含層	口　径　13.9	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラ削り。	乳茶灰色	1.5 ㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	
136	同上 包含層	口　径　13.6	内上方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へＳ字状に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。東海地方の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（６本）、内面摩耗頷為調整不明瞭。	乳灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	口縁部外面に煤付着。
137	同上 包含層	口　径　14.6	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	灰橙色	0.5 ㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	口縁部外面に煤付着。
138	同上 包含層	口　径　27.8	口縁部は上外方へ短く外反して伸びた後屈曲して、上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部は欠損。山陰地方の特徴をもつ。 外面剝離の為調整不明瞭、内面ヨコナデ。	外　茶褐色 内　淡茶褐色	4.5 ㎜以下の長石・石英・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	
139	鉢 (土師器) 包含層	底　径　3.2	体部上位以上は欠損。底部は突出しない平底。 内外面ナデ。	淡茶褐色	４㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
140	器台 (土師器) 包含層	口　径　9.6	受部は外上方へ内湾して伸び、端部は上につまむ。脚部は欠損。 外面ヨコナデ、内面摩耗の為調整不明瞭。	橙茶色	３㎜以下の長石等の砂粒少量含む	良	
141	同上 包含層	口　径　10.6	受部は外上方へ内湾して伸び、端部は上につまむ。脚部は欠損。 外面ヨコナデ、内面摩耗の為調整不明瞭。	外　茶橙色 内　乳褐色	0.5 ㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
142 九三	同上 包含層	底　径　9.5	受部は外上方へ内湾して伸びる。端部は欠損。脚部は下外方へ伸び、端部は丸い。脚部中位に五方の円孔を有する。 受部外面ハケナデ？、内面ヨコナデ、脚部外面ハケナデ？、内面しぼり目。	乳茶橙色	0.5 ㎜以下の石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
143 九三	同上 包含層	底　径　16.1	受部は欠損。脚部は斜下方へ外反して開く。端部は面をもつ。脚部外面上位に１本のに接合痕を有する。 内外面上位ナデ、中位以下ハケナデ(9本)。	外　淡灰褐色 内　茶褐色	５㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	内面中位以下に煤付着。
144	高杯 (土師器) 包含層	口　径　23.5	平らな杯底部から屈曲し、上外方へ短く伸びた後屈曲して外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外側に凹面をもつ。脚部は欠損。杯底部外面に１本の接合痕を有する。 杯部外面ヘラミガキ、杯底部外面・杯部内面剝離の為調整不明瞭。	外　茶褐色 内　乳茶褐色	３㎜以下の長石等の砂粒少量含む。	良	
145	同上 包含層	底　径　15.3	杯部及び脚部上位は欠損。脚部下位は外下方へ開く。端部は丸い。 内外面ヨコナデ。	橙茶色	1.5 以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	

第３調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	壺 (土師器) 河川５	口径 12.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	暗赤褐色	１㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
2	甕 (土師器) 河川５	口径 15.0	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は上につまみ、外側に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	外　黒灰色 内　淡茶褐色	２㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
3	器台 (土師器) 河川５	口径 12.5	受部は欠損。脚部は外下方へ開く。端部は丸い。 外面ヘラミガキ、内面ハケナデ（８本）。	乳茶灰色	２㎜以下の長石・雲母・角閃石の砂粒を微量含む。	良好	
4	高杯 (土師器) 河川５	底径 17.0	平らな杯部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部欠損。 内外面ヘラミギキ。	暗灰褐色	３㎜以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
5	同上 河川５	口径 15.2	杯部は斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。杯底部・脚部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	乳茶褐色	２㎜以下の石英等の砂粒を少量含む。	良好	
6	同上 河川５	底径 9.7	杯部及び柱状部は欠損。裾部は外下方へ外反して開く。端部は丸い。裾部上位に四方孔を有する。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	淡茶褐色	３㎜以下の長石・雲母等の砂粒を微量含む。	良好	
7	同上 ＳＫ３	口径 14.0	杯部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。杯底部以下は欠損。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	乳茶褐色	６㎜以下の石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
8 九三	同上 ＳＫ３	口径 15.8 器高 12.2 底径 10.6	平らな杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ外反して開く裾部に至る。端部は外傾する面をもつ。柱状部下位に三方孔を有する。 杯部外面上位ヨコナデ、柱状部内面くりぬき、他はナデ。	乳茶橙色	２㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	杯部内外面上位に黒斑有。
9	壺 (須恵器) ＳＫ３	口径 14.2	口縁部は上外方へ外反して伸びた後屈曲して上方へ外反して伸びる。端部は外方に肥厚し上に面をもつ。口縁部の屈曲部外面は大きく突出た稜がみられる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳灰褐色	３㎜以下の石英・雲母等の砂粒を微量含む。	良好	
10	羽釜 (瓦質) ＳＤ39	口径 18.8	口縁部は上方へ伸び、端部は上に面をもつ。口縁部外面付近には水平に短く伸びる鍔が巡る。端部は面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面上位ヨコナデ、外面下位ヘラ削り、内面下位ハケナデ（６本）。	外　暗灰褐色 内　淡灰色	４㎜以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
11	高杯 (土師器) 包含層	底径 10.6	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。柱状部下位に四方孔を有する。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	暗茶橙色	２㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
12	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径 13.0 稜径 12.6	天井部から斜上方へ伸び、稜に至る。稜は痕跡あり。口縁部は下方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。天井部は欠損。 内外面回転ナデ。	淡灰色	２㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

第4調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 九三	鉢 (瓦質) 包含層	底径 21.0	杯部上位は欠損。杯体部は平底の底部から屈曲し、上外方へ伸びる。底部の外側付近に円柱形の高台が三方ないしは四方に付く。 体部外面上位ヘラナデ、下位ヘラ削り、内面ハケナデ（6本）、高台ナデ。	淡茶色	3㎜以下の長石・赤褐酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
2 九三	鉢 (磁器) 包含層	底径 3.1	杯体部は欠損。底部は若干丸みがみられ、底部外側に断面方形の高台が付く。 底部内面に花形の刻印がみられる。 内外面回転ナデ。	乳緑色	精良。	良好	ロクロ左方向。

第5調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	椀 (瓦器) S D54	口径 14.4	半球形の体部で、口縁部端部は僅かに外奮して丸く終わる。底部は欠損。 外面ナデ、内面ヘラミガキ。	黒灰色	1㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
2	杯 (土師器) S D55	口径 9.8	杯体部から外上方へ伸び、口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	淡茶褐色	2㎜以下の長石・雲母等の砂粒を微量含む。	良好	
3	同上 S D55	口径 11.0	上外方へ内湾する杯体部から僅かに屈曲した後、斜上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	乳茶褐色	1㎜以下の雲母・長石等の砂粒を微量に含む。	良好	
4	同上 S D55	口径 11.3	上外方へ内湾する杯体部から僅かに屈曲した後、斜上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	乳茶褐色	1㎜以下の雲母・長石等の砂粒を微量含む。	良好	
5	同上 S D55	口径 12.5	上外方へ伸びる杯体部から僅かに屈曲した後、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	淡灰茶色	2㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
6	椀 (黒色土器) S D55	口径 12.9	半球形の杯体部から僅かに斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸く、内傾には凹線が巡る。底部は欠損。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラミガキ。	外　淡茶褐色 内　黒灰色	精良。	良好	
7	同上 S D55	底径 7.2	杯体部は欠損。底部は平らで、断面逆三角形の高台が付く。 底部外面ナデ、内面ヘラナデ後ヘラミガキ。	外　乳茶灰色 内　黒色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
8 九三	同上 S D56	口径 15.6 器高 5.0 底径 9.2	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。断面逆三角形の高台が付く。口縁部には四方に円孔が穿かれている。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行状線のヘラミガキ。	外　淡茶褐色～黒灰色 内　黒灰色	0.5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

第７調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	壺 (弥生式土器) 河川７	口径 17.6	口縁部は斜上方へ伸び、端部は下方へ垂れ下がり、外傾する面をもつ。体部は欠損。端部内面に円形浮文が巡る。 外面簾状文、内面ヨコナデ。	淡赤褐色	6㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
2	同上 河川７	口径 23.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は下方へ垂れ下がり、外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	暗灰褐色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
3	同上 河川７	底径 5.4	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ外反気味に伸びる。底部は突出気味の平底。 外面ヘラミガキ、内面ナデ。	淡茶褐色	2.5 ㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	

第８調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 九三	壺 (弥生式土器) ＳＫ４	口径 11.7	口縁部は上方へ外反して伸び、端部は下方へ垂れ下がり、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内面下位ハケナデ（３本）、他はヨコナデ。	淡茶褐色	0.5 ㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	
2	甕 (弥生式土器) ＳＫ４	口径 17.0 器高 21.7 底径 5.6 最大径 18.2	楕円形の体部から屈曲し、斜上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至り、外面には稜が一条みられる端部は外傾する面をもつ。底部は突出した平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)後ハケナデ（９本）、内面ヘラ削り、底部外面ナデ後指頭痕、底面ナデ。	暗茶褐色	2.5 ㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
3	同上 ＳＫ４	口径 14.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラ削り。	茶褐色	1.5 ㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	
4	高杯 (弥生式土器) ＳＫ４	口径 17.4	上外方へ内湾して伸びる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。杯底部以下は欠損。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	茶褐色	3㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	
5 九三	同上 ＳＫ４	底径 14.8	杯部は欠損。脚部は下方へ伸びる柱状部から、外下方へ外反して伸びる裾部に至る。端部は外傾する面をもつ。裾部上位に四方孔を有する。 外面ヘラミガキ、柱状部内面しぼり目、裾部内面ヨコナデ。	褐茶色	1.5 ㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	

第９調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	壺 (弥生式土器) SK５	口径 28.8	口縁部は外上方へ伸び、端部は下方へ垂れ下がり、外傾する面をもつ。口縁部下位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶橙色～淡茶褐色	３㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
2	甕 (弥生式土器) SK５	口径 11.4	上方へ伸びる体部から屈曲し、外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外　淡茶橙色 内　暗灰茶色	３㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
3	同上 SK５	口径 13.0	上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	外　暗茶褐色 内　暗灰褐色	１㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
4	同上 SK５	口径 21.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外　淡茶褐色 内　茶褐色	３㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
5	同上 SK５	口径 26.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。体部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（５本）、内面ナデ。	外　茶褐色 内　淡茶灰色	４㎜以下の長石・石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
6	同上 SK５	口径 15.2	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	外　淡茶橙色 内　淡茶褐色	３㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
7 九四	取手付鉢 (弥生式土器) SK５	口径 47.4 器高 22.0 底径 8.0 最大径 50.2	半球形の杯体部から屈曲し、外上方へ外反気味に短く伸びる口縁部に至る。端部は下方に若干垂れ下がり、外傾する面をもつ。底部は様出した窪み底。体部外面上位に馬のひずめ状形をした取手が付く。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	外　乳茶灰色 内　淡茶褐色	５㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
8	鉢 (弥生式土器) SK５	底径 4.0	杯体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は上げ底の平底。口縁部は欠損。 内外面ナデ。	外　暗茶褐色 内　淡灰褐色	２㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
9	器台 (弥生式土器) SK５	底径 15.2	脚部上位以上は欠損。脚部下位は下外方へ外反して伸びる。端部は丸い。 内外面ヨコナデ。	外　明茶褐色 内　乳茶灰色	２㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
10 九四	高杯 (弥生式土器) SK５	口径 28.0	杯底部から屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は下方に垂れ下がり、外側に面をもつ。杯体部の屈曲部外面には鋭い稜がある。杯底部以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	外　淡茶褐色 内　乳茶褐色	３㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
11	同上 SK５	稜径 17.0	外上方へ外反気味に伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。屈曲外面に鋭い稜がある。杯部口縁端部・脚部は欠損。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	淡茶褐色～灰茶色	３㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
12	同上 SK５	口径 26.5	杯底部以下は欠損。平らな杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ヨコナデ。	外　淡茶褐色 内　茶褐色	５㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
13 九四	同上 SK５	口径 14.0 器高 10.5 底径 7.0	半球形の杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ外反気味に伸びる。端部は丸い。 杯部内面摩耗の為調整不明瞭、他はナデ。	外　淡茶灰色 内　乳灰茶色～淡茶灰色	４㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
14	壺 (弥生式土器) SK6	口径 16.6	口縁部は外方へ伸び、端部は上につまみ、外側に面をもつ。端部外面に1帯4本の波状文が巡る。口縁部下位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶灰色 内 淡茶褐色	5㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
15 九四	長頸壺 (弥生式土器) SK8	底径 5.0 最大径 17.3	偏平な球形の体部から屈曲し、上方へ長く伸びる口縁部に至る。端部は欠損。底部は突出した平底。口縁部内面・体部内面上位に1本ずつ接合痕を有する。 外面ヘラミガキ、口縁部内面ナデ、体部内面ヘラナデ。	淡灰褐色	5㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
16	壺 (弥生式土器) SK8	口径 22.0	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は下方へ垂れ下がり、外側に面をもち3本の沈線が巡る。 内外面ヨコナデ。	淡茶橙色	0.5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
17	同上 SK8	底径 6.2	体部上位以上は欠損。上外方へ外反気味に伸びる体部に、突出したやや上げ底の平底。 内外面ナデ。	外 茶赤色 内 茶灰色	4㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
18	同上 SK8	底径 4.6	体部上位以上は欠損。上外方へ伸びる。底部は突出した上げ底の平底。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	淡灰褐色	3㎜以下の石英・長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
19	同上 SK8	底径 4.9	体部上位以上は欠損。上外方へ伸びる体部に、突出した平底。 外面ヘラミガキ、内面ヘラナデ、底面ナデ。	淡茶灰色	3㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
20	鉢 (弥生式土器) SK8	口径 8.8	上方へ内湾して伸びる杯体部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ナデ。	茶褐色	2㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
21	同上 SK8	底径 7.0	杯体部以上は欠損。脚部は杯底部から外下方へ外反して短く伸びる。端部は丸い。 内外面ナデ。	淡灰褐色	3㎜以下の石英・長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
22 九四	器台 (弥生式土器) SK8		受部・脚部下位は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる。脚部中位に四方孔を有する。脚部外面上位に凹線・キザミ目を施す。 内外面ナデ。	淡茶橙色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
23	高杯 (弥生式土器) SK8	口径 18.0	外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 内外面ナデ。	淡茶赤色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
24	同上 SK8	底径 13.9	杯部口縁部は欠損。杯底部は外上方へ伸びる。脚部は下外方へ外反気味に伸びた後、下位でやや大きく外反して開く。端部は丸い。裾部に四方孔を有する。 杯部内外面・脚部外面摩耗の為調整不明瞭、内面上位くりぬき、内面下位ナデ。	褐茶色	1㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	
25	同上 SK8	口径 15.4	上外方へ内湾して伸びる杯体部から口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ナデ。	淡茶褐色	0.5㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
26 九四	高杯 (弥生式土器) SK8	底径 7.6	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びた後、下位で大きく外反して開く。端部は丸い。裾部に三方孔を有する。 内外面ナデ。	淡茶灰色	2㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
27 九四	壺 (弥生式土器) SK12	口径 23.5	口縁部は上外方へ伸びた後屈曲し、外上方へ短く伸びる。端部は下方に垂れ下がり、外傾する面をもつ。端部外面には3本の沈線が巡り、円形浮文が付く。体部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	灰茶色	4㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
28 九四	甕 (弥生式土器) SK12	口径 18.7	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。体部上位内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(8本)、内面ナデ。	灰茶色	4㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
29	同上 SK12	口径 13.7	上方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	外 乳灰色 内 淡茶褐色	2㎜以下の長石・雲母角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
30	鉢 (弥生式土器) SK12	底径 3.1	杯部上位は欠損。体部は斜上方へ内湾気味に伸びる。底部には外下方へ短く伸びる脚部が付く。 外面指押え、内面ヘラナデ、底面ナデ。	茶灰色	3㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
31	高杯 (弥生式土器) SK12	口径 23.1	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は外傾する面をもつ。杯底部・脚部は欠損。 外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ。	外 淡茶褐色 内 黒灰色	3㎜以下の長石・雲母角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
32	壺 (弥生式土器) SD70	底径 4.4	体部上位以上は欠損。体部は外上方へ伸びる。底部は突出した平底。 外面ナデ、内面摩耗の為調整不明瞭。	外 淡茶灰色 内 黒褐色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む	良好	内面に炭化物付着。
33	同上 SD70	底径 5.6	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾気味に伸びる。底部は突出した平底。 内外面ナデ。	外 淡茶灰色 内 暗灰茶色	2㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
34	同上 SD71	底径 4.2	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出しない平底。 内外面ナデ。	外 明茶褐色 内 淡茶褐色	4㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
35	甕 (弥生式土器) SD71	口径 20.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外方に肥厚し、丸い。口縁部・体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶灰色 内 淡茶褐色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
36	同上 SD71	口径 22.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	3㎜以下の長石・石英角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
37	同上 SD71	口径 14.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面・体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰色	3㎜以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
38	甕 (弥生式土器) S D71	底径 3.8	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出したやや上げ底の平底。 内外面ナデ。	乳茶灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
39	同上 S D71	底径 4.8	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出した平底。 内外面ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡黒褐色	3㎜以下の長石・石英角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
40	高杯 (弥生式土器) S D71	口径 12.6	杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。杯底部以下は欠損。 外面ヨコナデ、内面摩耗の為調整不明瞭。	淡茶褐色	2㎜以下の雲母・長石等の砂粒を多含む。	良好	
41 九四	同上 S D71	底径 9.8	杯部は欠損。脚部は下内方へ伸び、下位で大きく外反して伸びる。端部は丸い。脚部上位に三方孔を有する。 内外面ナデ。	淡茶褐色	2㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
42	同上 S D71	底径 12.0	脚部上位以上は欠損。脚部は外下方へ外反して開く。端部は外傾する面をもつ。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	3㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
43	同上 S D71	底径 11.8	脚部上位以上は欠損。脚部は外下方へ外反気味に開く。端部は下方へつまみ、外側に面をもつ。 外面ナデ、内面ハケナデ（8本）。	外 乳茶灰色 内 暗茶褐色	1㎜以下の雲母・長石石英等の砂粒を少量含む。	良好	
44	壺 (弥生式土器) S D73	口径 15.8	口縁部は外上方へ伸び、端部はやや上につまみ、外傾する面をもつ。口縁部下位以下は欠損。端部外面にヘラキザミを施し、円形浮文が付く。 内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	2㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
45	同上 S D73	口径 29.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまむ。外傾する面をもつ。端部外面には1帯6本の波状文が巡り、円形浮文が付く、内面には1帯10本の波状文が巡る。 外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ。	乳灰褐色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
46	同上 S D73	口径 15.6	口縁部は上方へ外反して長く伸びる。端部は上下に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 端部外面ヨコナデ、口縁部内外面ハケナデ（外12本・内9本）。	淡茶灰色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
47	甕 (弥生式土器) S D73	底径 2.6	杯部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾気味に伸びる。底部は突出した平底。 内外面ナデ。	外 黒褐色 内 茶灰色	2㎜以下の長石・赤褐色酸化粒・雲母等の砂粒を少量含む。	良	外面に黒斑有。
48	同上 S D73	底径 4.0	杯部上位は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した平底と思われる。 内外面ナデ。	外 黒褐色 内 淡茶褐色	4㎜以下の長石・石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良	
49 九五	甕 (土師器) S D77	口径 15.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまみ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(3本)、体部外面タタキ（5本）、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	1㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
50 九五	長頸壺 (弥生式土器) SD78	口径 12.8	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に長く伸びる口縁部に至る。端部は外方に脹厚し、上に面をもつ。体部は欠損。口縁部内面に1本の接合痕を有する。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
51 九五	甕 (弥生式土器) SD78	口径 12.8 最大径 14.4	最大径を上位にもつ卵形の体部から緩やかに屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は欠損 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(5本)後ナデ、内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	1㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む	良好	体部外面中位以下に煤付着。
52	同上 SD78	底径 6.0	体部は欠損。底部は突出したやや上げ底気味の平底。 外面タタキ、内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰色	5㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
53	有孔鉢 (弥生式土器) SD78	底径 4.8	体部は欠損。底部は突出した平底。底面中央には円孔が穿かれている。 外面タタキ後ナデ、内面摩耗の為調整不明瞭。	外 淡茶褐色 内 明茶褐色	4㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
54	壺 (弥生式土器) SD79	口径 22.4	口縁部は外上方へ外反して伸びる。端部は下方へ脹厚して外傾する面をもつ。端部外面に円形竹管圧文が巡る。口縁部以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	1㎜以下の角閃石・雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
55	同上 SD79	底径 8.6	体部上位以上は欠損。体部は外上方へ内湾して伸びる。底部は突出した窪み底。 内外面ナデ。	淡茶灰色	4㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
56	高杯 (弥生式土器) SD79	稜径 19.0	外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。屈曲部外面には外下方へ垂れ下がる稜がある。 内外面ナデ。	乳茶灰色	5㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
57 九五	無頸壺 (弥生式土器) 包含層	口径 12.0 最大径 21.6	偏平な体部から屈曲し、上方へごく短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。口縁部には円孔が穿かれている。 外面ナデ、内面ナデ・指頭痕。	淡茶灰色	2㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
58	壺 (弥生式土器) 包含層	口径 20.4	口縁部は外上方へ外反して伸びる。端部は外側に面をもち、外面に円形の浮文が付く。口縁部下位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	茶褐色	2㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
59	同上 包含層	口径 24.0	口縁部は外上方へ外反して伸びる。端部は外側に面をもち、外面に円形浮文が付く。口縁部下位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰茶色～茶赤色	4㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
60 九五	同上 包含層	口径 9.4 器高 17.0 底径 4.8 最大径 13.5	偏平な球形の体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。頸部外面にヘラキザミを施す。 口縁部外面ハケナデ(4本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶灰色	3㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む	良好	完形。
61	同上 包含層	口径 9.6	口縁部は上方外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。内面に1本の接合痕を有する。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ナデ。	外 淡茶橙色 内 乳茶色	4㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
62	壺 (弥生式土器) 包含層	口径 14.0	口縁部は上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 外面ヨコナデ、内面ハケナデ（10本）。	淡茶灰色	0.5㎜以下の角閃石・長石・チャート等の砂粒を多量に含む。	良	
63 九五	同上 包含層	頸径 14.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる口縁部に至る。口縁部端部及び体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面摩耗の為調整不明瞭。	外　明茶褐色 内　淡茶褐色	8㎜以下の長石・石英・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
64	同上 包含層	口径 12.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 外面・内面上位ヨコナデ、下位ヘラナデ。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
65	同上 包含層	口径 15.0	口縁部は上外方へ伸びた後、緩やかに屈曲して斜上方へ短く伸びる。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ。	暗茶褐色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
66 九五	甕 (弥生式土器) 包含層	口径 16.7	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ（9本）後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部内外面ヘラナデ。	淡茶褐色	7㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
67	鉢 (弥生式土器) 包含層	口径 13.4	上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
68	甕 (弥生式土器) 包含層	口径 14.1	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗の為調整不明瞭、内面ナデ。	茶褐色	4.5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良	
69 九五	壺 (弥生式土器) 包含層	底径 4.7 最大径 11.3	口縁部は欠損。体部は偏平な球形である。底部は突出しない平底。体部内面に2本の接合痕を有する。 外面剝離の為調整不明瞭、内面上位指ナデ、下位ナデ。	外　淡灰褐色～茶橙色 内　灰褐色	3㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	体部外面下位に黒斑有。
70	同上 包含層	底径 5.4	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した平底。 底部内面ヘラナデ、他はナデ。	外　淡茶橙色 内　乳灰茶色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面中位に黒斑有。
71	同上 包含層	底径 4.8	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出した窪み底。 内外面ナデ。	淡茶褐色	5㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
72	同上 包含層	底径 5.2	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した窪み底。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラナデ、底面ナデ。	外　茶褐色 内　淡茶褐色	4㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
73	同上 包含層	底径 4.6	体部上位以上は欠損。体部は偏平な球形と思われる。底部は突出した平底。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ナデ。	外　茶褐色 内　暗灰茶色	4㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	体部内面下位に炭化物付着。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
74	壺 (弥生式土器) 包含層	底径 4.1	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出しない平底。 外面ヘラミガキ、内面ヘラナデ,底面ナデ。	外 茶褐色 内 乳灰茶色	5.5 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	外面に煤付着。
75 九六	同上 包含像	底径 5.6 最大径 38.5	口縁部は欠損。体部は最大径をやや上位にもつ球形である。底部は突出した浅い窪み底。 体部外面上位ヘラミガキ、中位以下摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラナデ。	淡茶褐色	3 mm以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
76 九六	甕 (弥生式土器) 包含層	口径 6.2 器高 11.8 底径 5.8	上位に張りをもつ体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出したあげ底。体部内面上位に2本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ヘラナデ、内面指頭痕ヘラ削り。	外 明茶灰色 内 茶褐色	4 mm以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
77 九六	同上 包含層	口径 16.4 器高 16.5 底径 4.4	上位に張りをもつ体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びた後屈曲して上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出した上げ底。体部内面上位に1本を接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位剝離の為調整不明瞭、中位以下タタキ（4本）、内面上位指ナデ、中位以下ヘラナデ、底部外面指頭痕。	褐灰色	7 mm以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	内面に煤付着。
78	同上 包含層	口径 12.6 底径 4.6 最大径 15.6	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外側に面をもつ。底部は突出したあげ底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳茶灰色	3 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面中位に煤付着。体部内面下位に炭化物付着。
79	同上 包含層	口径 13.4 器高 18.6 底径 4.8 最大径 15.0	最大径を上位にもつ卵形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は突出した平底。体部外面中位に1本、内面上位に2本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)後ナデ、内面上位指ナデ、底面ナデ。	茶褐色	4 mm以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	体部外面下位に煤付着。
80	同上 包含層	口径 14.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶灰色 内 淡茶褐色	2 mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
81	同上 包含層	口径 13.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	外 淡茶橙色 内 淡茶褐色～淡灰茶色	3 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
82 九六	同上 包含層	口径 16.2 器高 21.8 底径 6.0 最大径 16.2	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出した平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩耗の為調整不明瞭。	外 淡茶褐色 内 暗灰茶色	7 mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
83	同上 包含層	口径 16.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面タタキ（2本）、内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰色	3 mm以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
84	同上 包含層	口径 14.4	上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面摩耗の為調整不明瞭。	褐橙色	0.5 mm以下の砂粒を多量に含む。	良	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
85 九六	甕 (弥生式土器) 包含層	口径 16.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰色	6㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
86	同上 包含層	底径 5.4	口縁部は欠損。体部は最大径を上位にもつ。底部は突出したややあげ底。 体部外面タタキ（3本）、内面・底部外面ナデ。	外 暗茶褐色～茶褐色 内 淡茶褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
87	同上 包含層	底径 6.0	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出した平底。底面には葉脈跡がみられる。 外面タタキ（3本）、内面ナデ。	外 乳黄茶色 内 淡灰茶色	4.5 ㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	
88	同上 包含層	口径 20.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
89 九六	同上 包含層	口径 17.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面上位指ナデ、中位ナデ。	外 明茶褐色 内 乳茶色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面に煤付着。
90	同上 包含層	口径 14.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（6本）、内面ナデ。	外 淡茶灰色 内 暗灰茶色	3㎜以下の石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内面に煤付着。
91	同上 包含層	口径 20.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上方に鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面剝離の為調整不明瞭、内面ナデ。	褐茶色	3㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
92	同上 包含層	口径 12.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外側に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 暗茶褐色 内 淡茶灰色	0.5 ㎜以下の石英等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部内面に煤付着。
93	同上 包含層	口径 17.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びた後屈曲して上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	茶褐色	3㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
94	同上 包含層	口径 15.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びた後屈曲して上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（7本）後ナデ、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	6㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
95 九六	同上 包含層	口径 16.4	上内方へ内湾して伸びる体部から、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は下方に肥厚し、外傾する面をもつ。底部は欠損。 端部外面ヨコナデ、口縁部・体部外面ハケナデ後ヘラナデ、口縁部内面・体部内面上位ナデ、下位ヘラ削り。	乳茶灰色	4㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
96 九六	鉢 (弥生式土器) 包含層	口径 10.2 器高 10.8 底径 4.4	断面U字形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。 口縁部内外面指押え、体部外面タタキ（3本）、内面・底面ナデ。	外 暗茶褐色 内 淡茶褐色	2㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	体部内面下位に炭化物付着。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
97	鉢 (弥生式土器) 包含層	底径　4.6	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した窪み底。口縁部は欠損。体部内面に１本を接合痕を有する。	外　淡茶灰色 内　明茶褐色	４㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
98	同上 包含層	底径　4.0	半球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は欠損。底部は突出した上げ底。体部外面に２本の接合痕を有する。 体部外面ナデ、内面上位ハケナデ（10本）中位以下ヘラナデ、底部外面指頭痕。	外　淡茶灰色 内　暗茶灰色	４㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	外面に煤付着。
99 九七	有孔鉢 (弥生式土器) 包含層	口径　18.6 器高　12.9 底径　4.0	断面Ｖ字形の体部から口縁部に至る。端部付近でやや内湾し、丸く終わる。底部はやや突出した平底。底面中央には円孔が穿かれている。 内外面ナデ。	淡茶灰色	２㎜以下の長石・雲母角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
100	器台 (弥生式土器) 包含層	口径　13.6	受部は外上方へ伸び、端部は外側に面をもつ。脚部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外　淡茶褐色 内　乳茶灰色	５㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
101	高杯 (弥生式土器) 包含層	口径　17.4	浅い半球形の受部から口縁部に至る。端部は丸い。底部には穿孔がみられる。脚部は欠損。 外面ヘラミガキ？、内面摩耗の為調整不明瞭。	外　乳褐灰色 内　淡茶色～淡茶褐色	４㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	口縁部外面上位に煤付着。
102	器台 (弥生式土器) 包含層	底径　18.0	脚部上位以上は欠損。脚部は下外方へ伸びた後外下方へ外反して開く。端部は丸い。脚部には三方孔が穿かれている。 内外面ナデ。	淡茶褐色	２㎜以下の長石・雲母角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	裾部内外面下位に煤付着。
103 九七	同上 包含層	底径　14.2	受部は欠損。脚部は下内方へ伸びる柱状部から屈曲し、外上方へ大きく開く裾部に至る。端部は丸い。脚部には四方孔が２段に穿かれている。端部面にはキザミ目が施されている。	淡茶橙色～淡灰茶色	２㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
104 九七	同上 包含層		受部と裾部は欠損。柱状部は下方へ伸び、四方孔が２段に穿かれている。受部・裾部は欠損。 内外面ナデ。	外　淡茶褐色 内　暗茶褐色	３㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
105 九七	同上 包含層	底径　16.8	受部と柱状部は欠損。裾部は外下方へ伸びた後僅かに屈曲し、斜下方へ外反して開く。端部は丸い。屈曲部外面には上方へ突出た稜がみられる。裾部上位には四方孔が穿かれている。屈曲部外面にキザミ面を施す。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	淡褐灰色	５㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	裾部外面に煤付着。
106 九七	高杯 (弥生式土器) 包含層	口径　20.2 器高　10.6 底径　9.4	外上方へ外反気味に伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸び、端部付近で外反する。端部は丸い。脚部には三方孔が穿かれている。 口縁部内外面ヨコナデ、杯体部内外面・柱状部外面ヘラミガキ、裾部外面・脚部内面ナデ。	外　淡茶灰色 内　淡茶褐色	６㎜以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
107	同上 包含層	口径　21.4	杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。杯底部・脚部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	３㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
108	同上 包含層	口径　17.0	外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。杯底部・脚部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外　乳茶橙等の砂 内　淡茶褐色	３㎜以下の粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
109	高杯 (弥生式土器) 包含層	口径 20.8	杯部は上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。杯底部・脚部は欠損。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 茶褐色	4㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
110 九七	同上 包含層	口径 19.4 器高 17.0 底径 11.8	外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ外反気味に伸び、端部付近で外方へ開く。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、杯体部・脚部外面ヘラミガキ、杯部内面摩耗の為調整不明瞭、脚部内面上位しぼり目、下位ハケナデ（11本）。	乳茶色～茶橙色	3.5 以下の長石・石英角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
111	同上 包含層	口径 13.6	半球形の杯部から口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯体部内外面ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰橙色	3㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
112	同上 包含層	口径 16.0	杯部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。杯底部・脚部は欠損。 内外面ナデ。	暗茶褐色	1.5 ㎜以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
113	同上 包含層	口径 16.0	杯部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。杯底部・脚部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 暗茶褐色 内 淡茶灰色	2㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
114 九七	同上 包含層	口径 15.6 器高 8.2 底径 6.0	浅い半球形の杯部から口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ開く。端部は丸い。 外面摩耗の為調整不明瞭、杯部内面ハケナデ（10本）、脚部内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳茶橙色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
115	同上 包含層	底径 7.6	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びた後、端部付近で外上方へ開く。端部は外傾する面をもつ。 外面ナデ、内面くりぬき。	茶褐色	2㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
116	同上 包含層	底径 7.4	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反気味に開く。端部は丸い。 内外面ナデ。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
117 九七	同上 包含層	底径 8.8	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して開く。端部は丸い。脚部には四方孔が穿かれている。 内外面ナデ。	淡茶橙色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
118 九七	同上 包含層	底径 9.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して開く。端部は丸い。脚部には三方孔が穿かれている。 内外面ナデ。	外 淡灰橙色 内 淡灰色	3㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
119 九八	同上 包含層	底径 7.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸び、端部付近で外下方へ外反して開く。端部は丸い。脚部には四方孔が穿かれている。 内外面ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡茶褐色	2㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
120	同上 包含層	底径 12.6	脚部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸び、端部付近で外方へ大きく開く。端部は丸い。脚部には四方孔が穿かれている。 内外面剝離の為調整不明瞭。	明茶色	1.5 ㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	
121 九八	同上 包含層	底径 17.2	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して大きく開く。端部は丸い。脚部には四方孔が穿かれている。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	外 乳茶赤色 内 淡灰茶色	4㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	

第10調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	甕 (弥生式土器) SP11	口径 15.6	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面摩耗の為調整不明瞭。	外 淡茶褐色 内 淡茶橙色	7㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面に煤付着。
2	壺 (弥生式土器) 包含層	口径 12.8	口縁部は外上方へ外反して伸びた後屈曲して上方へ短く伸びる。端部は上に面をもつ。口縁部下位・体部は欠損。口縁部外面上位には刺突文が巡る。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
3 九八	同上 包含層	口径 12.8 器高 23.2 底径 4.9 最大径 21.3	球形の体部から屈曲し、上方へ伸びた後外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出した窪み底。体部内外面下位に1本ずつの接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上中位ヘラミガキ、下位指頭圧痕後ヘラミガキ、内面ナデ。	外 茶褐色～乳茶褐色 内 茶褐色～淡灰色	4㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。 体部外面中位に黒斑有。
4 九八	同上 包含層	口径 18.2	口縁部は上方へ外反して伸び、端部は上下に脂厚し、外側に面をもつ。体部は欠損。 端部内外面ヨコナデ、口縁部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	茶褐色	3㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
5 九八	同上 包含層	口径 23.0 最大径 28.2	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸び、口縁部端部付近で大きく外方する。端部は下方に垂れ下がり、外側に面をもつ。底部は欠損。 体部内面上位に1本の接合痕を有し、端部外面・頸部外面に円形竹管圧文が巡る。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面上位指ナデ、中位以下ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰色	6㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面中位に煤付着。
6 九八	壺 (弥生式土器) 包含層	口径 26.0	口縁部は外上方へ伸びた後屈曲し、上外方へ外反して伸びる。端部はつまみ上げ、外側に面をもつ。口縁部下位・体部は欠損。端部外面に1帯3本・内面に1帯2本・口縁部外面に1帯5本及び6本の波状文と、端部外面・口縁部外面の2ヵ所に円形浮文が巡る。 外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	内面に煤付着。
7	同上 包含層	口径 24.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 茶褐色 内 茶灰色	5㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
8	同上 包含層	口径 14.7	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡褐灰色	2.5㎜以下の雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
9	甕 (土師器) 包含層	口径 19.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
10	同上 包含層	口径 6.0	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾気味に伸びる。底部は突出した上げ底。 体部外面タタキ（4本）、内面ナデ、底部外面ヨコナデ。	淡茶褐色	1㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	底部内面に炭化物付着。
11	同上 包含層	底径 4.6	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した平底。 体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り、底部外面ナデ。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面に煤付着。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
12	甕 (土師器) 包含層	口径 15.8	口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	茶褐色	4㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	外面に煤付着。
13	同上 包含層	口径 16.2	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 暗茶灰色 内 淡茶灰色	4㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
14 九九	同上 包含層	口径 15.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(8本)、内面ヘラ削り。	褐茶色	1.5㎜以下の角閃石・雲母・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
15 九九	同上 包含層	口径 15.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	2㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面に煤付着。
16	同上 包含層	口径 14.8	口縁部は斜上方へ伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠忙。 口縁部外面タタキ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗灰褐色	1.5㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	外面に煤付着。
17	同上 包含層	口径 14.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上に長くつまみ、外側に面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 暗茶褐色	4㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
18	鉢 (土師器) 包含層	底径 3.2	杯部上位は欠損。杯部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出気味の平底。 外面タタキ　3本)、内面ヘラナデ。	淡茶褐色	3㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
19	同上 包含層	口径 16.8	上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は欠損。 体部内面ナデ、他はヨコナデ。	外 淡茶灰色 内 淡茶褐色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
20 九九	同上 包含層	口径 21.0	上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は欠損。体部内面上位に1本の接合痕を有する。 内外面ナデ。	淡茶褐色	5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
21	同上 包含層	口径 18.4	上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 体部内面ナデ、他はヨコナデ。	乳茶褐色	2㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
22	同上 包含層	口径 16.6	上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面剝離の為調整不明瞭、内面ナデ。	外 茶褐色 内 淡茶褐色	4㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	
23	高杯 (弥生式土器) 包含層	口径 27.8	外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 乳灰茶色 内 乳茶色	2㎜以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
24	高杯 (弥生式土器) 包含層	口径 21.2	杯部は外上方へ伸びた後屈曲して、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。杯底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯体部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	灰褐色	3.5 ㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	口縁部外面に煤付着。
25	同上 包含層	口径 22.0	杯部は斜上方へ伸びた後屈曲して、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、外傾する面をもつ。杯底部・脚部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外　乳茶橙色 内　淡黒灰色	1㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
26	同上 包含層	口径 24.0	外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内外方に肥厚し、外傾する面をもつ。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯底部内外面ヘラミガキ。	乳茶灰色	3.5 ㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
27	同上 (土師器) 包含層	口径 23.6	平らな杯底部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 内外面剝離の為調整不明瞭。	淡灰褐色	4㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
28	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径 15.0	口縁部は外下方へ内湾して伸び、端部は下方につまみ上げる。天井部は欠損。 内外面回転ナデ。	乳灰青色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。

第５章　第１３次調査

第１節　調査の概要

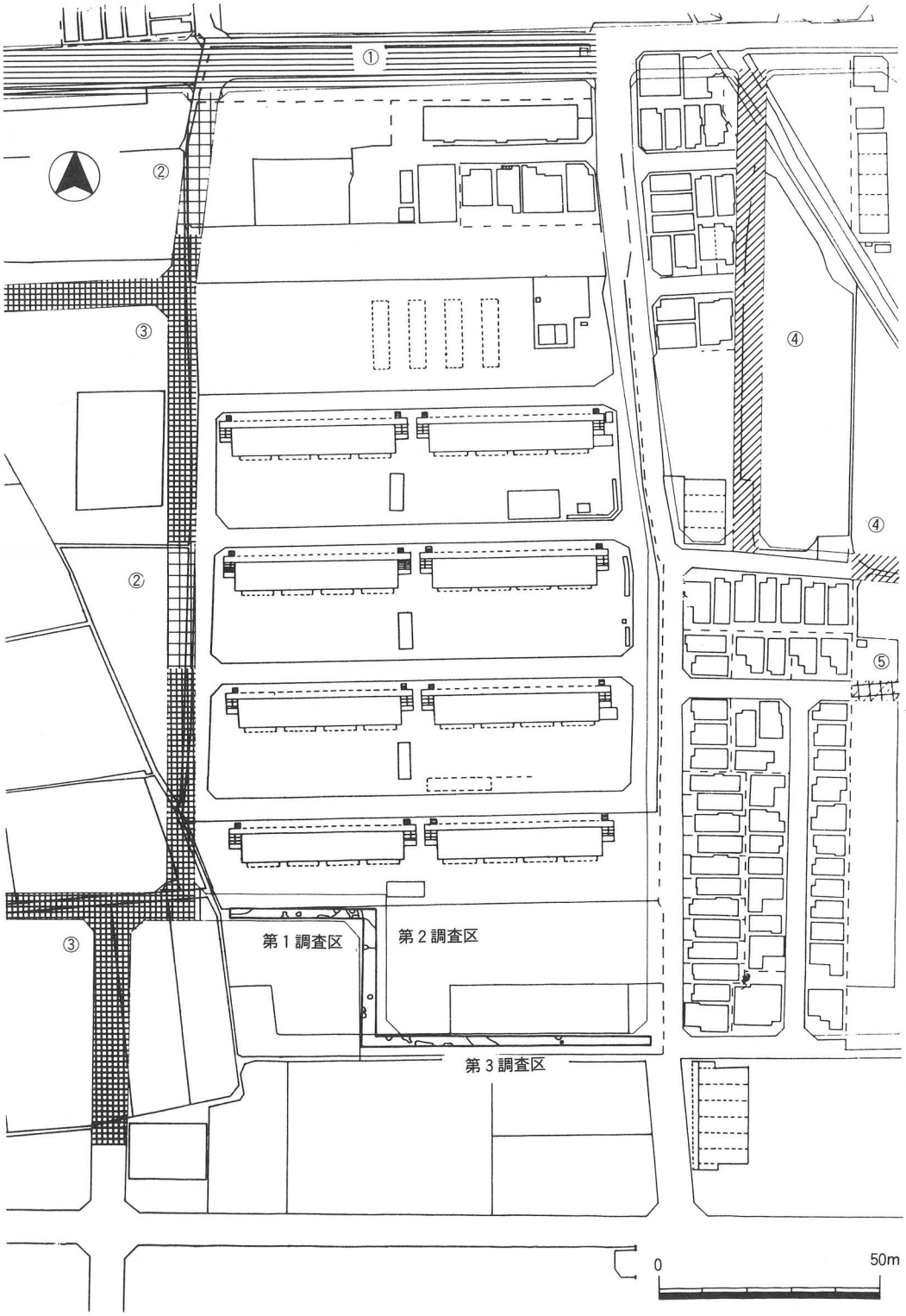
今回の発掘調査は、八尾都市整備事業南小阪合土地区画整理事業に伴うもので、昭和57年度から当調査研究会が継続して実施している。この調査は、当調査研究会が当遺跡内で実施した第13次調査に当たる（第210図）。

調査地は、当遺跡範囲内の南部に位置する区画街路予定地（28号線の東部）に当たる部分で、この道路予定地内の中央に幅2.5ｍのトレンチ（調査区）を設定して調査した。総調査面積は約320㎡を測る。この調査区は屈曲しており、西部に設定した東西方向に伸びるトレンチ（長さ33ｍ）を第１調査区、その第１調査区の東端部から南方に伸びる南北トレンチ（長さ29ｍ）を第２調査区とし、さらに第２調査区の南端部から東方に伸びる東西トレンチ（長さ60ｍ）を第３調査区とした。なお、第２調査区では西側沿いに幅約１ｍの拡張調査を実施した。

掘削に際しては、既往調査の結果を参照にし、現地表下0.3～0.5ｍ前後迄の土層を機械で掘削を実施し、以下0.4～0.5ｍまでの土層を人力で掘削とした。地区割は、既往調査で実施した基準線を使用した。

凡　　例（第212図）

① 第１次調査地（昭和57年度）
② 第３次調査地（昭和58年度）
③ 第４次調査地（昭和59年度）
④ 第10次調査地（昭和62年度）
⑤ 第16次調査地（昭和63年度）



第210図　遺構配置図

第２節　調査の結果

調査の結果、弥生時代後期・古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）・古墳時代中期・平安時代・鎌倉時代～室町時代・近世の概ね６時期の遺構を検出した。遺物では、弥生時代後期から近世に至る土器（弥生式土器・土師器・須恵器）・石製品・木製品などが出土した。出土量は、コンテナ箱にして約25箱分を数える。以下、基本層序と各調査区ごとについて記す。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表面から約1.5ｍに存在する土層内から普遍的にみられる９層を基本層序とした（第211図）。以下、各土層について記す。

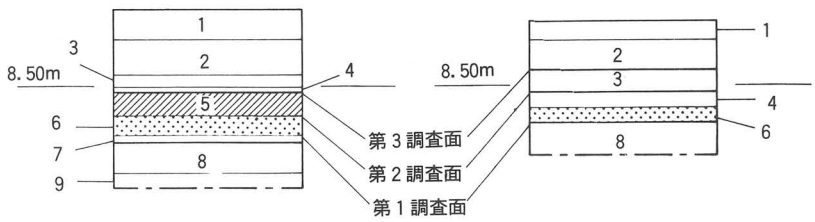
第１層　耕土：層厚20～25㎝。調査前までの畑の耕作土であった。

第２層　淡灰褐色シルト（第１・２調査区）～淡褐灰色シルト（第３調査区）：層厚20～28㎝。耕土の床土である。

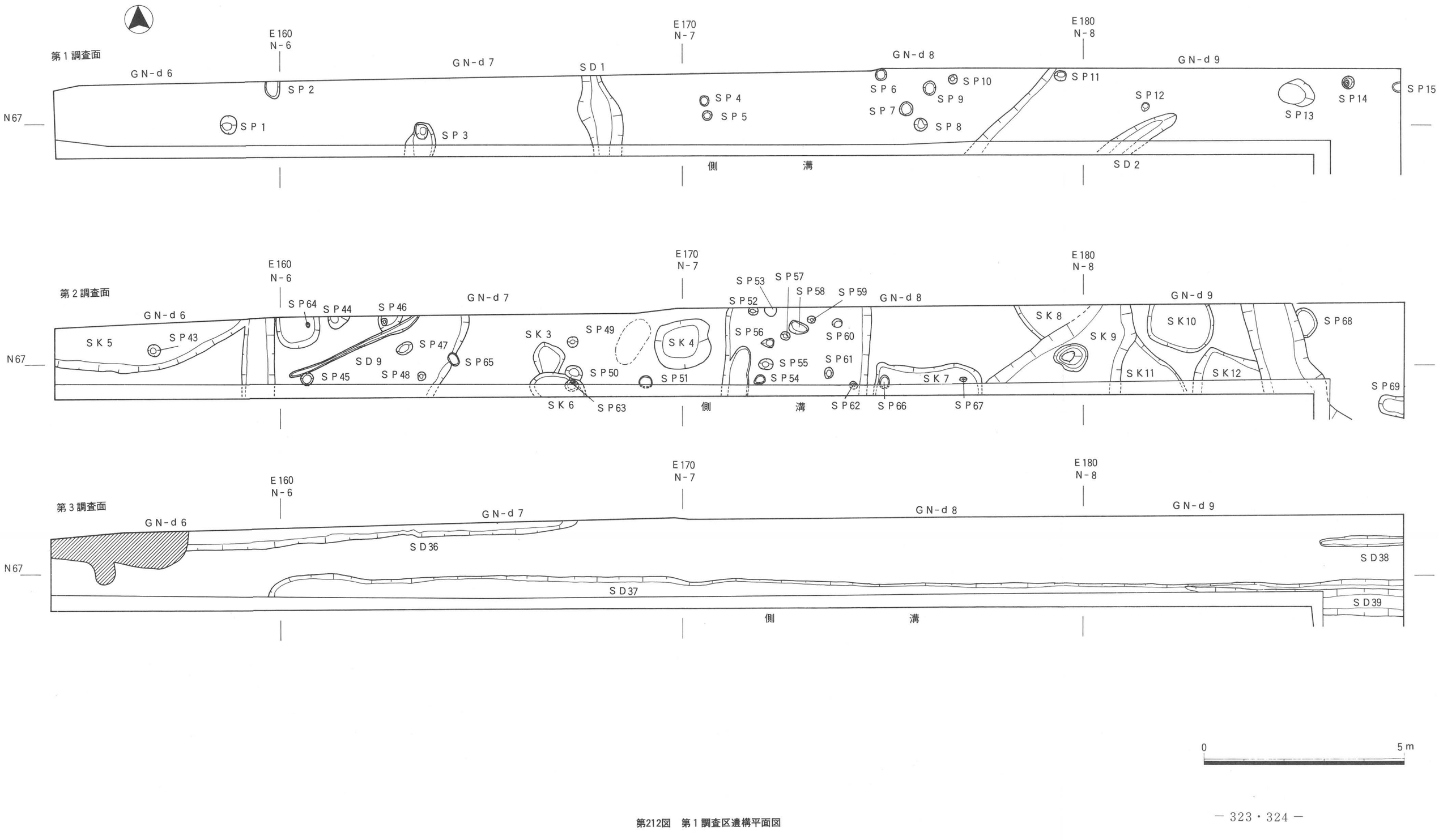
第３層　乳灰茶色シルト：層厚10～15㎝。第１・２調査区で存在する土層で、第３調査区では存在しない。

第４層　淡灰茶色シルト：層厚４㎝。この上面には耕作に関連する近世の溝が切り込まれている。この土層も第３層と同様、第３調査区では存在しない。

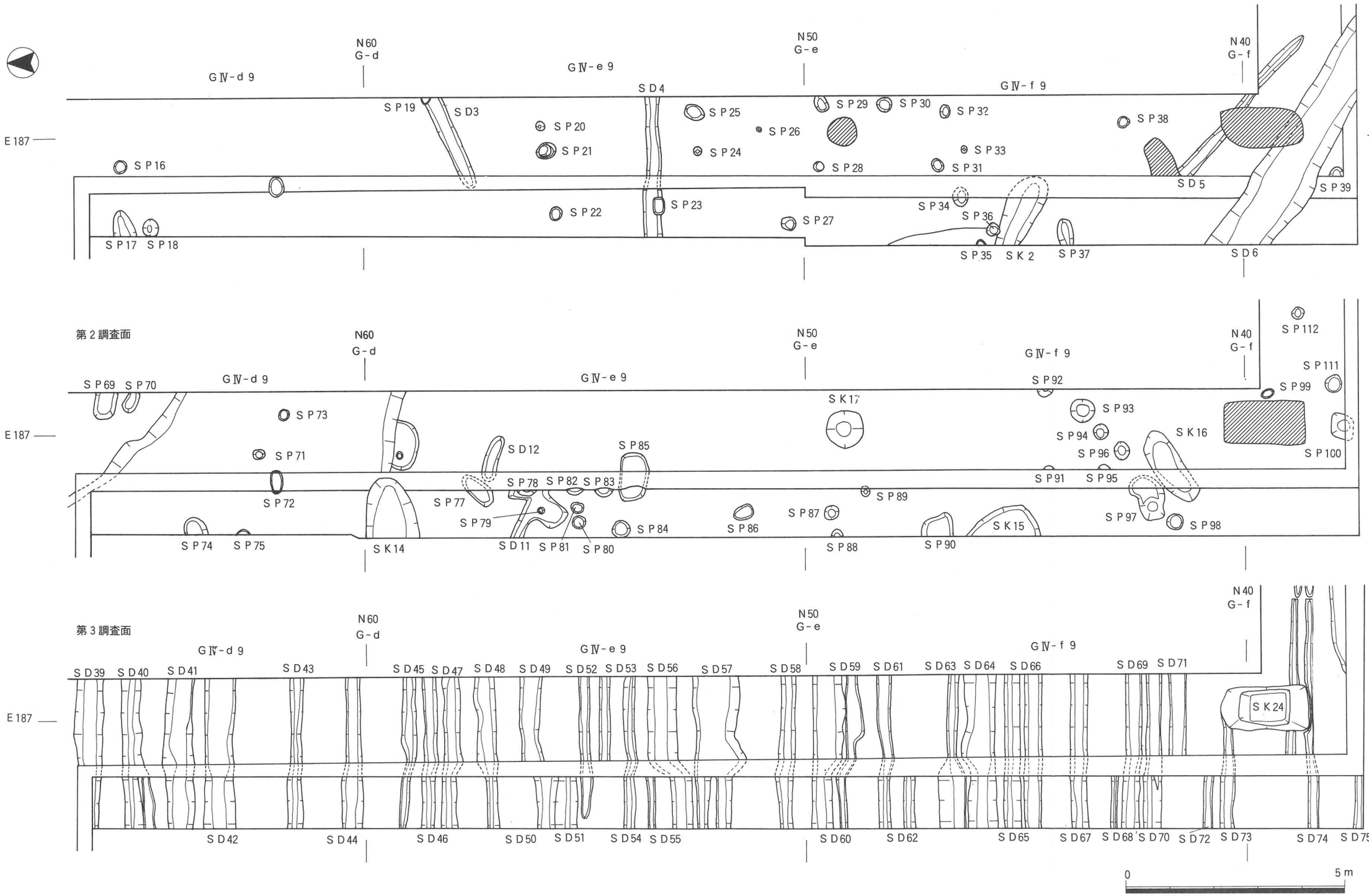
第５層　淡灰色細砂混シルト：層厚20～25㎝。土層内から古墳時代中期に比定される土器を中心とした遺物が出土しており、この時期の包含層と考えられるが、第３調査区では出土していない。また、上面（標高8.5ｍ）では耕作に関連する鎌倉時代ごろの鋤溝・畝溝などの溝が東西・南北方向に切り込まれている。



第211図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40）



第212図　第１調査区遺構平面図



第213図　第２調査区遺構平面図

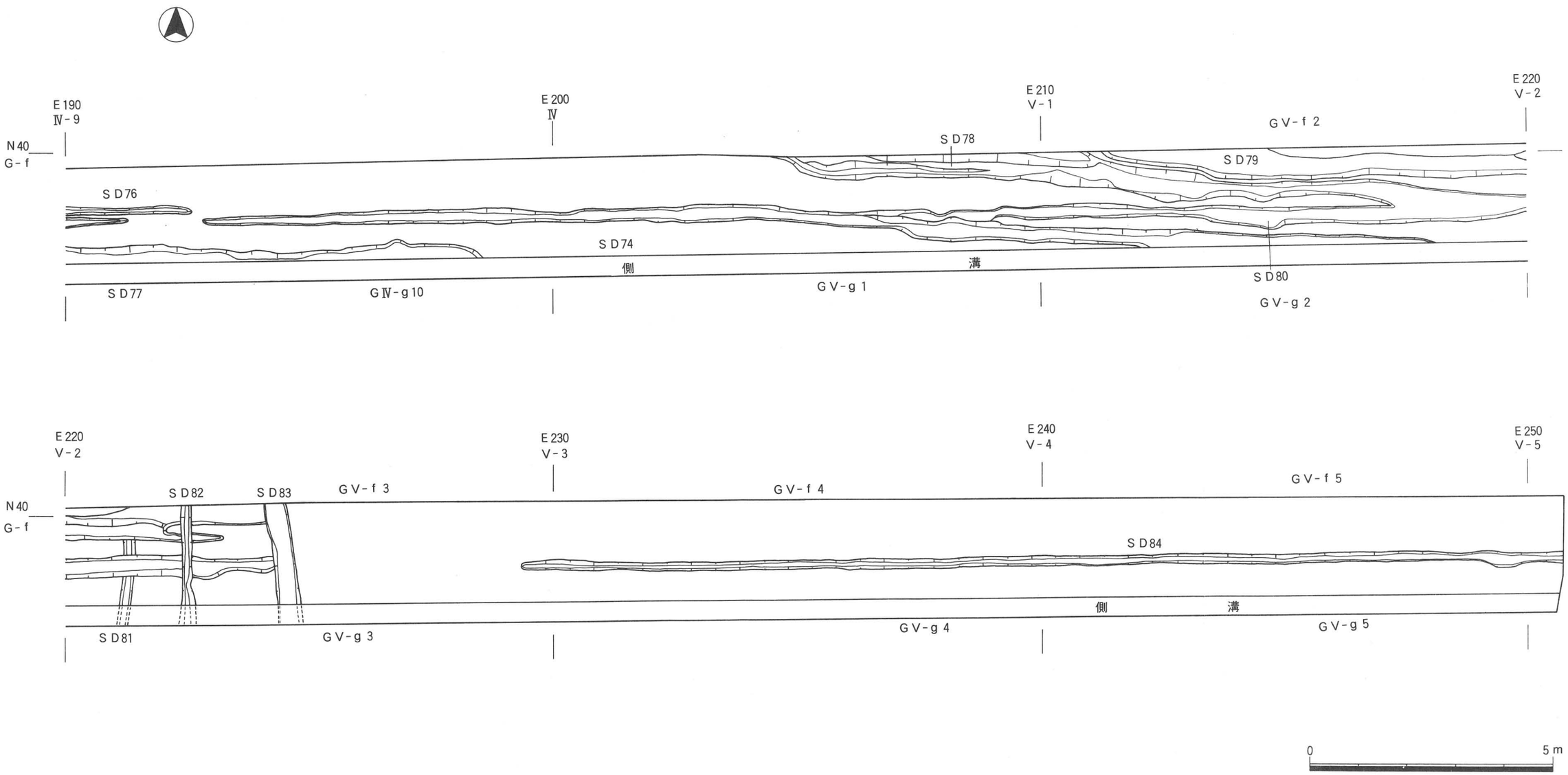
第１調査面

E190
Ⅳ-9
E200
Ⅳ
E210
V-1
E220
V-1
GV-f2
SP40
SP41
SP42
SD8
SD7
側
溝
GV-g10
GV-g1
GV-g2
E220
V-2
E230
V-3
E240
V-4
E250
N40
G-f
GV-f3
GV-f4
GV-f5
GV-g3
GV-g4
GV-g5

第２調査面

E190
E200
E210
E220
V-2
N40
G-f
SK22
SD34
SD14
GV-f2
SP113
SP114
SP115
SP116
SP118
SP101
SP117
SP102
SK18
SP119
SP103
SK19
SP120
SD15
SP121
河川1
SD35
SD13
SK23
GV-g2
E220
V-2
E230
V-3
E240
V-4
E250
V-5
GV-f3
GV-f4
GV-f5
SP104
SD16
SD19
SD17
SD21
SK20
SD22
SD23
SP105
SP107
SP122
SP108
SD18
SP106
SD20
SK21
SD24
SP109
SD25
SD26
SP110
SD27
SD28
SD29
SD31
SD33
SD32
SD30
GV-g3
GV-g4
GV-g5
0
5m

第214図　第３調査区遺構平面図１



第215図　第３調査区遺構平面図２

第６層　暗茶灰色細砂混シルト：層厚15～20㎝。土層内から古墳時代前期に比定される遺物が出土しており、上面（標高8.3ｍ）では古墳時代中期に比定される遺構が切り込まれている。

第７層　灰色粗砂：層厚５㎝。３～５㎜の砂粒が主であるが、１～３㎝ぐらいの丸みのある小石が少量含まれる。西側だけの堆積で、東側の第３調査区では検出していない。

第８層　淡灰茶色シルト～淡褐灰色シルト：層厚20～25㎝。上面（標高8.0ｍ）から弥生時代後期（畿内第Ⅴ様式）～古墳時代初頭（庄内式古相）の遺構が切り込まれている。

第９層　淡灰茶色粘土：層厚20㎝以上。やや粘性がある。

Ⅱ　第１調査区

最も東側に設定した東西に長い調査区（幅2.5ｍ×長さ33ｍ）である。調査区の東部では、既往調査（昭和58年度第３次調査）で実施しており、古墳時代前期から鎌倉時代に至る遺構が検出されている。特に古墳時代前期の遺構が密に存在していることが明らかになっている。

当調査区では、第５層上面（第３調査面）・第６層上面（第２調査面）・第８層上面（第１調査面）の３面を調査面とした。その結果、第１調査面では、弥生時代後期～古墳時代前期に比定される小穴15個（ＳＰ１～ＳＰ15）・溝２条（ＳＤ１・ＳＤ２）を検出した。第２調査面では、古墳時代前期に比定される土坑２基（ＳＫ３・ＳＫ４）・小穴19個（ＳＰ43～ＳＰ60・ＳＰ68）・土器集積（ＳＷ１）、古墳時代中期に比定される土坑８基（ＳＫ５～ＳＫ12）・小穴７個（ＳＰ61～ＳＰ67）・溝２条（ＳＤ９～ＳＤ10）を検出した。第３調査面では、鎌倉時代～室町時代に比定される溝３条（ＳＤ36～ＳＤ38）を検出した。これらの溝は農耕に関連するもので、すべて東西方向に伸びている（第212図）。

遺構に伴わないものとしては、第５層内から古墳時代中期に比定される土器（土師器・須恵器）などを中心とする破片、第６層内からは古墳時代前期に比定される土師器を中心とする破片がコンテナ箱にして約５箱分を出土している。以下、各調査区について記す。

１）第１調査面（弥生時代後期から古墳時代前期）

小穴（ＳＰ）

ＳＰ１～ＳＰ15

第１調査区から15個の小穴を検出した。平面の形状には円形のもの９個、楕円形のもの３個、不明のもの３個がある。小穴の規模はＳＰ３（径73㎝）・ＳＰ13（径68～88㎝）を除いて、径20～47㎝を測る小さいものがほとんどである。断面の形状には、Ｕ字形（８個）と逆台形（４個）逆凸形（３個）がある。堆積土は、暗灰色細砂混シルトである。以下、各小穴の法量などは第21表に記す。

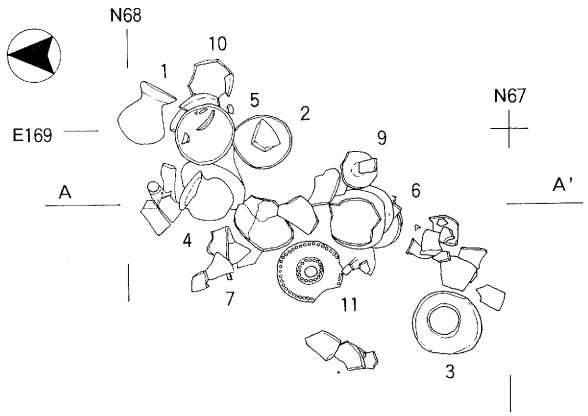
第21表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ１	ＧⅣ－ｃ６	楕円形	Ｕ字形	40～47	50	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ２	ＧⅣ－ｃ６	―――	逆台形	36	12	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ３	ＧⅣ－ｃ７	―――	逆凸形	73	22	灰褐色シルト	柱痕有り。
ＳＰ４	ＧⅣ－ｃ８	円形	Ｕ字形	26	22	暗灰茶色細砂混シルト	
ＳＰ５	ＧⅣ－ｃ８	円形	Ｕ字形	24	24	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ６	ＧⅣ－ｃ８	円形	Ｕ字形	28	23	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ７	ＧⅣ－ｃ８	円形	Ｕ字形	34	25	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ８	ＧⅣ－ｃ８	円形	Ｕ字形	33	34	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ９	ＧⅣ－ｃ８	円形	Ｕ字形	32	48	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ10	ＧⅣ－ｃ８	円形	Ｕ字形	20	24	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ11	ＧⅣ－ｃ８	楕円形	逆台形	23～30	10	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ12	ＧⅣ－ｃ９	円形	逆台形	29	15	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ13	ＧⅣ－ｃ９	楕円形	逆台形	68～88	45	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ14	ＧⅣ－ｃ９	円形	逆凸形	30	11	暗灰色細砂混シルト	柱痕有り。
ＳＰ15	ＧⅣ－ｃ９	―――	逆凸形	23	16	暗灰色細砂混シルト	

溝（ＳＤ）

ＳＤ１

ＧⅣ－ｄ７区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅0.47～1.08ｍ、深さ13cmを測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、灰色粗砂である。遺物は出土していない。

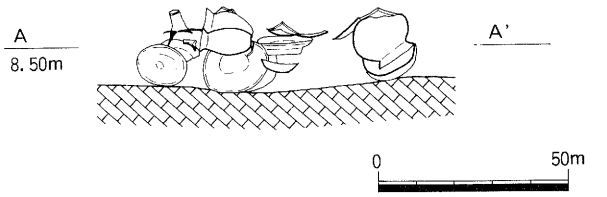


２）第２調査面

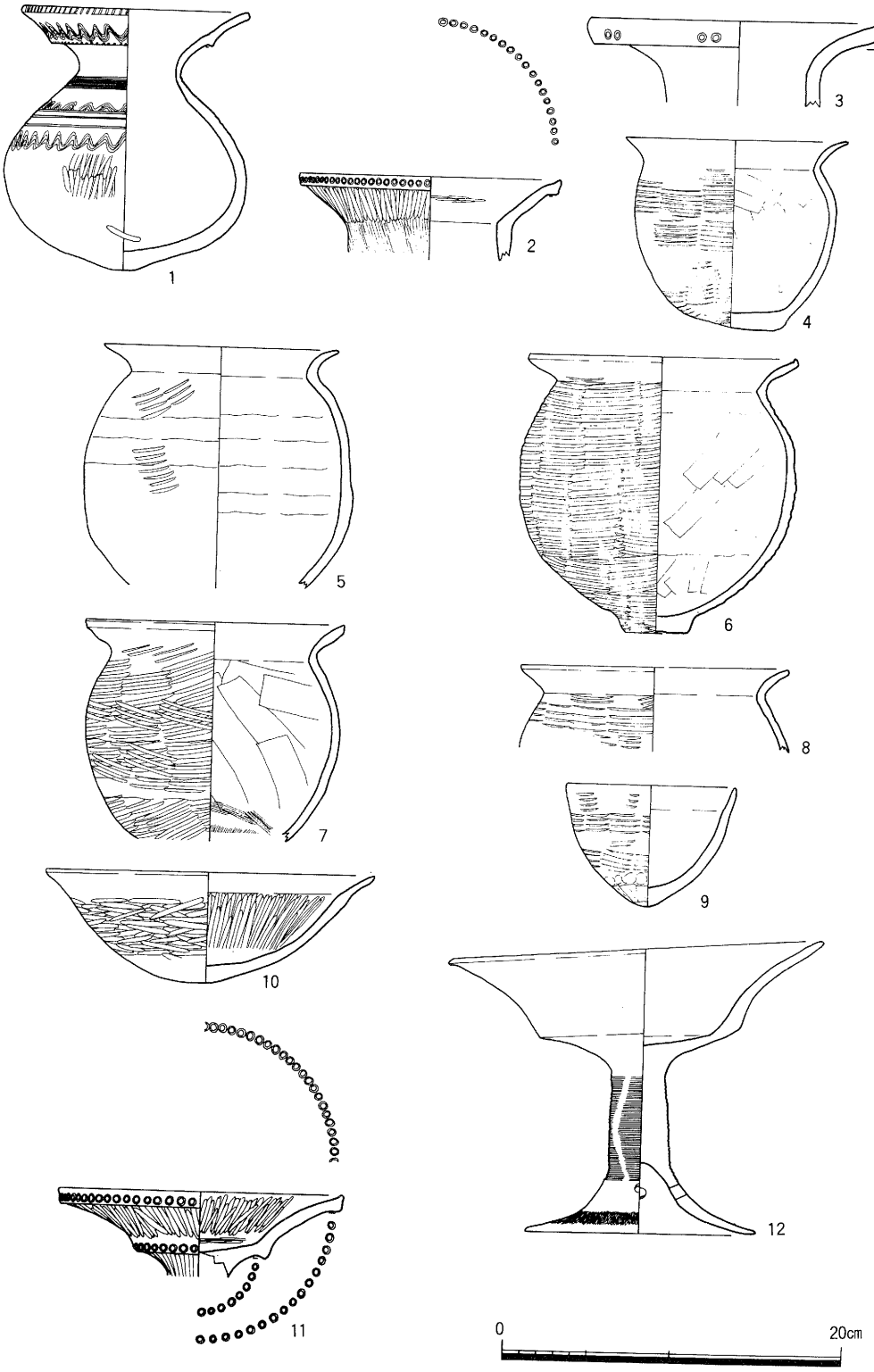
土器集積（ＳＷ）

ＳＷ１

ＧⅣ－ｄ７区の東部で検出した土器集積である。基本層序では第６層上面（標高8.4ｍ）にあたり、掘形の形状がなく、土器を置いたような状況で埋没していた。集積した土器の平面形状は、南西－南東方向に長い楕円形で、長径1.2ｍ、短径0.6ｍを測る（第216図）。土器の時期は、庄内式古



第216図　ＳＷ１平断面図



第217図　ＳＷ１出土遺物実測図

相に比定されるものである。個体数は、15個を数え、器種別の比率は、甕5.5：壷２：鉢1.5：器台0.5：高杯0.5の割合である。壷（１～３）・Ｖ様式系甕（４～８）・鉢（９・10）・器台（11）・高杯（12）である（第217図）。

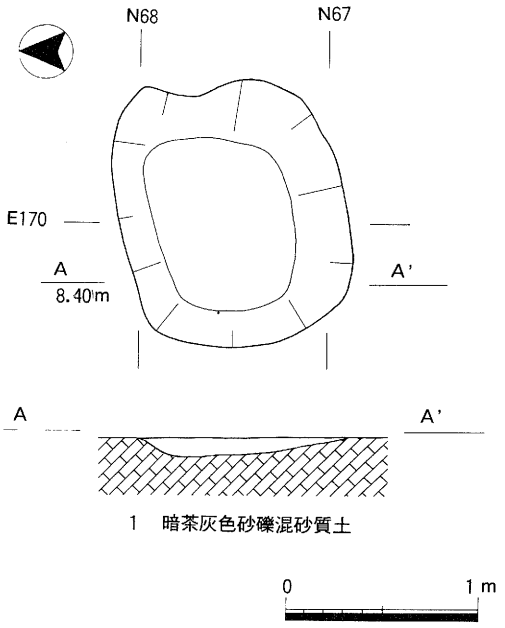
土坑（ＳＫ）

ＳＫ３

ＧⅣ－ｄ７区で検出した。南部はＳＫ６に切られている。平面は、楕円形を呈するであろう。規模は検出部で、東西0.8ｍ、南北0.7ｍ以上、深さ８㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗茶褐色砂礫混砂質土である。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

ＳＫ４

ＧⅣ－ｄ７・ｄ８区で検出した土坑である。平面は隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西1.4ｍ、南北1.15ｍ、深さ13㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗茶灰色砂礫混砂質土である。、遺物は、内部から古墳時代前期（庄内式古相）に比定される土師器の壷・甕など小片がごく少量出土している（第218図）。



第218図　ＳＫ４平断面図

ＳＫ５

ＧⅣ－ｄ６区で検出した。西・北部ともに調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西4.76ｍ、南北1.24ｍ、深さ23㎝を測る。堆積土は、暗茶褐色粗砂混砂質土・淡茶灰色砂礫混砂質土である。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

ＳＫ６

ＧⅣ－ｄ７区で検出した。北部はＳＫ３を切り、南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.34ｍ、南北0.6ｍ、深さ10㎝を測る。堆積土は、黒褐色シルトである。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

ＳＫ７

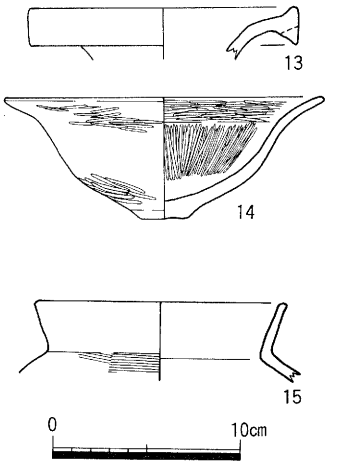
ＧⅣ－ｄ８区で検出した。南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西2.58ｍ、南北0.85ｍ、深さ６㎝を測る。堆積土は、淡茶灰色細砂である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片が少量出土している。

ＳＫ８

ＧⅣ－ｄ８区で検出した。南部はＳＫ９に切られ、北部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.45ｍ以上、南北0.75ｍ以上、深さ８㎝を測る。堆積土は、黒灰色シルトである。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の小片が少量出土している。

ＳＫ９

ＧⅣ－ｄ８・ｄ９区で検出した。ＳＫ８・ＳＫ11を切り、南・北部ともに調査区外に至る。規模は検出部で、東西4.1ｍ、南北1.9ｍ、深さ16㎝を測る。堆積土は、黒灰色細砂・暗灰褐色粗砂混シルトである。遺物は、内部から弥生時代後期に比定される壷（13）・鉢（14）と、古墳時代中期に比定される土師器（15）が出土している（第219図）。



第219図　ＳＫ９出土遺物実測図

ＳＫ10

ＧⅣ－ｄ９区で検出した。北部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.7ｍ、南北1.9ｍ、深さ６㎝を測る。堆積土は、淡茶灰色細砂混砂質土である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の小片が少量出土している。

ＳＫ11

ＧⅣ－ｄ９区で検出した。西部はＳＫ９に切られ、南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.7ｍ、南北1.2ｍ、深さ15㎝を測る。堆積土は、茶灰色細砂混シルトの１層である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の小片が少量出土している。

ＳＫ12

ＧⅣ－ｄ９区で検出した。東部はＳＤ10に切られ、南部は調査区外に至り、平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.7ｍ以上、南北１ｍ以上、深さ19㎝を測る。堆積土は、茶灰色細砂・暗灰茶色砂礫混砂質土である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の小片が少量出土している。

小穴（ＳＰ）

ＳＰ43～ＳＰ68

第２調査面から26個を検出した。平面の形状には、円形を呈するもの12個、楕円形を呈するもの６個、逆台形を呈するもの１個、不定形を呈するもの２個、不明のもの５個がある。規模は検出部で、大きいもの50～84㎝、小さいもの10～43㎝を測る。断面はＳＰ58の楕円形、ＳＰ64の逆凸形を除き、すべて逆台形を呈する。堆積土は暗灰色シルトと黒茶灰色細砂混シルトの２種類に分かれる。遺物は、ごく一部の小穴内部から土師器の小片がごく少量出土している。以下、各小穴の法量などについては第22表に記す。

第22表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ43	ＧⅣ－ｄ６	円形	逆台形	30	26	黒灰色シルト	
ＳＰ44	ＧⅣ－ｄ７	―――	逆台形	53	11	黒灰色シルト	
ＳＰ45	ＧⅣ－ｄ７	円形	逆台形	30	10	黒灰色シルト	
ＳＰ46	ＧⅣ－ｄ７	不定形	逆台形	35	11	黒灰色シルト	
ＳＰ47	ＧⅣ－ｄ７	楕円形	逆台形	28～45	5	黒灰色シルト	
ＳＰ48	ＧⅣ－ｄ７	円形	逆台形	20	23	黒灰色シルト	
ＳＰ49	ＧⅣ－ｄ７	円形	逆台形	25	9	黒灰色シルト	
ＳＰ50	ＧⅣ－ｄ７	不定形	逆台形	43	10	黒灰色シルト	
ＳＰ51	ＧⅣ－ｄ７	円形	逆台形	34	11	黒灰色シルト	
ＳＰ52	ＧⅣ－ｄ８	―――	逆台形	24	8	黒灰色シルト	
ＳＰ53	ＧⅣ－ｄ８	―――	逆台形	30	28	黒灰色シルト	
ＳＰ54	ＧⅣ－ｄ８	楕円形	逆台形	23～28	9	黒灰色シルト	
ＳＰ55	ＧⅣ－ｄ８	楕円形	逆台形	28～35	30	黒灰色シルト	
ＳＰ56	ＧⅣ－ｄ８	楕円形	逆台形	21～33	8	黒灰色シルト	
ＳＰ57	ＧⅣ－ｄ８	円形	逆台形	23	10	黒灰色シルト	
ＳＰ58	ＧⅣ－ｄ８	逆台形	楕円形	33～50	14	黒灰色シルト	
ＳＰ59	ＧⅣ－ｄ８	円形	逆台形	20	21	黒灰色シルト	
ＳＰ60	ＧⅣ－ｄ８	円形	逆台形	23	25	黒灰色シルト	
ＳＰ61	ＧⅣ－ｄ８	楕円形	逆台形	27	32	黒灰色シルト	
ＳＰ62	ＧⅣ－ｄ８	円形	逆台形	20	18	黒灰色シルト	
ＳＰ63	ＧⅣ－ｄ７	円形	逆台形	10	9	黒灰色シルト	
ＳＰ64	ＧⅣ－ｄ７	―――	逆凸形	84	25	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ65	ＧⅣ－ｄ７	楕円形	逆台形	24～34	15	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ66	ＧⅣ－ｄ８	円形	逆台形	26	21	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ67	ＧⅣ－ｄ８	円形	逆台形	18	7	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ68	ＧⅣ－ｄ９	―――	逆台形	73	8	暗茶灰色細砂混シルト	

溝（ＳＤ）

ＳＤ36～39

４条を検出した。方向は、すべて東西方向を示す。これらの溝は耕作に関連する鍬溝・畝溝で、古墳時代中期の包含層（第５層）を切り込んでいる。規模は検出部で、幅40～90cm、深さ８～12cmを測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、乳灰褐色粘質シルト又は明淡灰色シルトの単一層である。遺物は出土していない。以下、各溝の法量などについては第23表に記す。

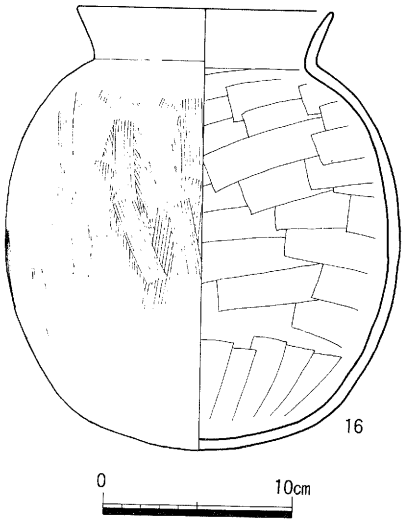
第23表　溝（ＳＤ）一覧表

＊　単位：cm

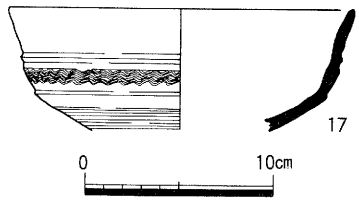
遺構番号	地　区	方　向	断面形	径	深さ	堆　積　土	備　考
ＳＤ36	GⅣ－ｄ６～ｄ７	東－西	逆台形	40以上	8	乳灰褐色粘質シルト	
ＳＤ37	GⅣ－ｄ６～ｄ９	東－西	逆台形	90以上	10	明淡灰色シルト（粗砂を少量含む）	
ＳＤ38	GⅣ－ｄ９	東－西	逆台形	15～24	12	乳灰褐色粘質シルト	
ＳＤ39	GⅣ－ｄ９	東－西	逆台形	68	12	明淡灰色シルト（粗砂を少量含む）	

３）遺構に伴わない出土遺物

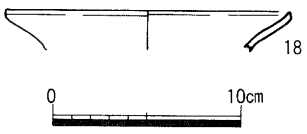
第５・６層から出土している。出土量はコンテナ箱にして約１箱分である。時期は、弥生時代後期から古墳時代中期に比定されるものである。図示できたものについて記す（第224・225図）。古墳時代前期に比定されるものは、壷（21）・Ｖ様式系甕（23～30）・庄内式甕（31～34）・布留式甕（35）鉢（43～48）・高杯（49～52）である。古墳時代中期に比定されるものは、土師器の甕（36～42）・高杯（49～52）須恵器の杯蓋（53～57）・坏身（58・59）・高杯（60～62）・壷（63・64）である。



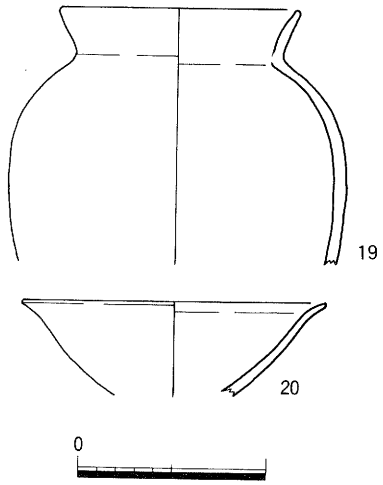
第220図　ＳＰ68出土遺物実測図



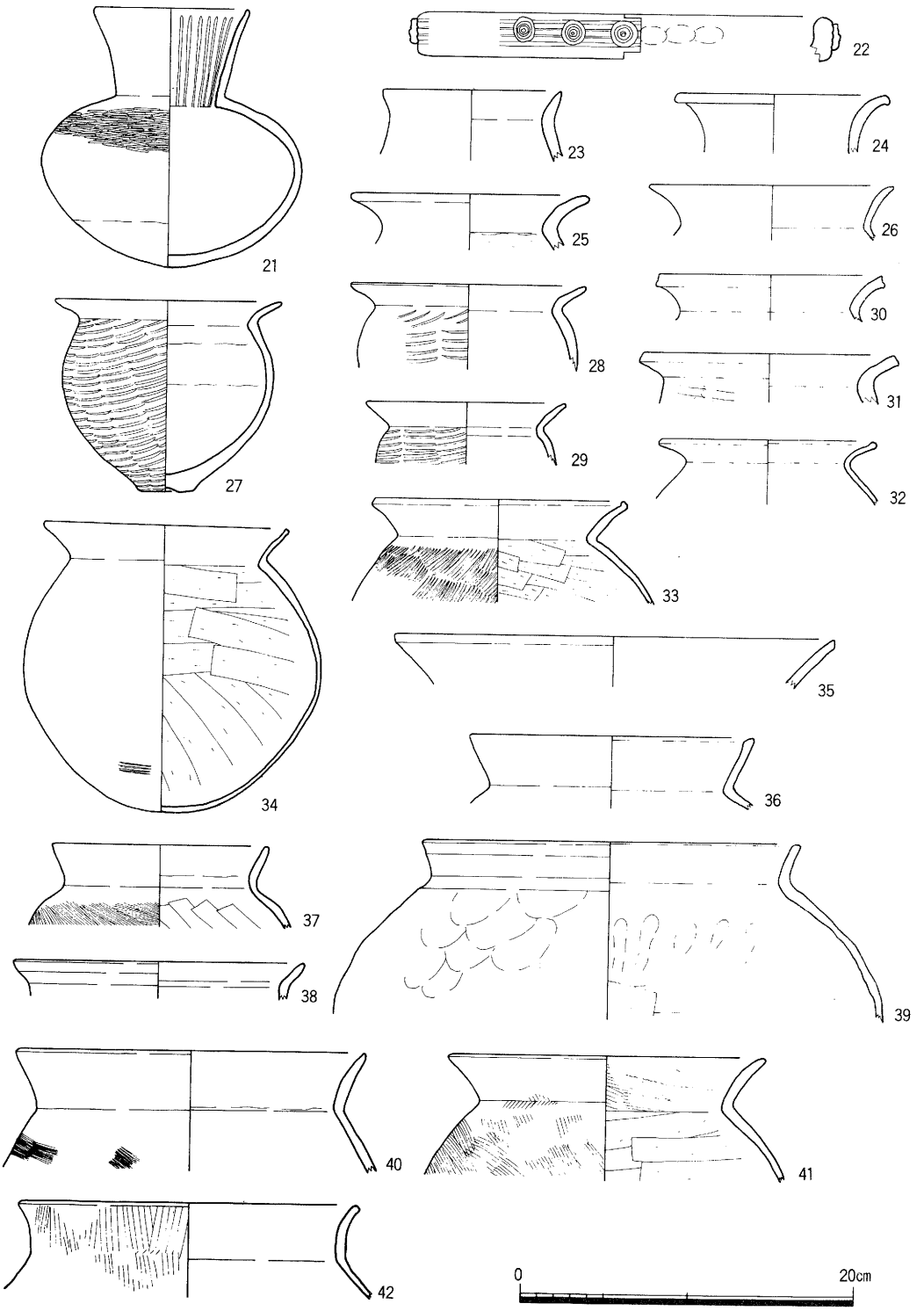
第221図　ＳＤ９出土遺物実測図



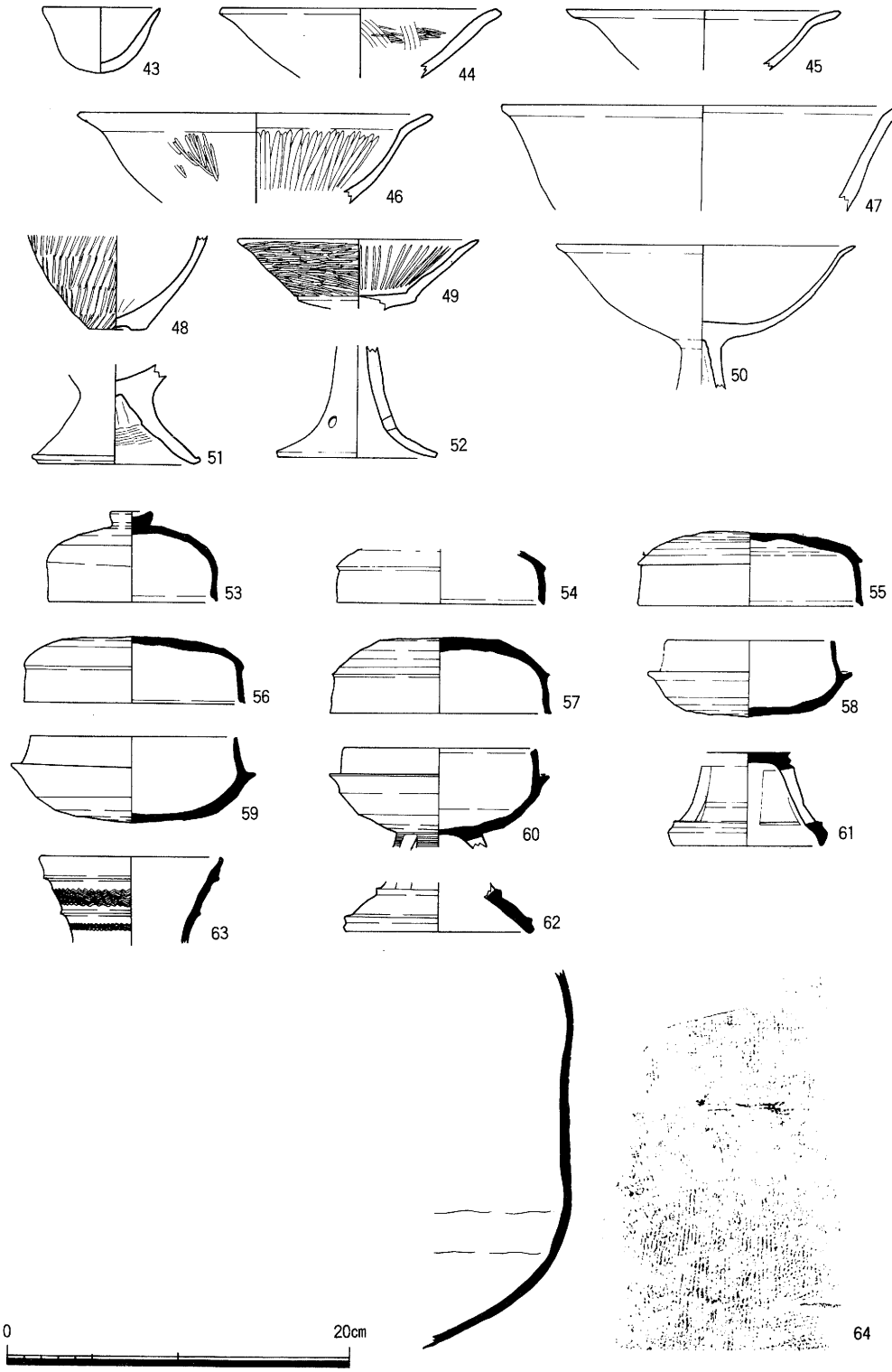
第222図　ＳＰ10出土遺物実測図



第223図　ＳＤ10出土遺物実測図



第224図　遺構に伴わない出土遺物実測図１



第225図　遺構に伴わない出土遺物実測図 2

Ⅲ　第２調査区

当調査区は、第１調査区の東端部から南方へ延びる南北に長い調査区(長さ33ｍ)である。この調査区では、西側に約１ｍの拡張を実施し、幅3.5ｍとなる。調査面積は115.5㎡を測る。第４層(第３調査面)・第５層(第２調査面)・第６層(第１調査面)の上面の３面を調査対象面とした(第213図)。その結果、第１調査面では、弥生時代後期に比定される溝１条(ＳＤ６)、古墳時代前期に比定される土坑２基(ＳＫ１・ＳＫ２)・小穴24個(ＳＰ16～ＳＰ39)・溝３条(ＳＤ３～ＳＤ５)を検出した。第２調査面では、古墳時代中期に比定される土坑４基(ＳＫ13～ＳＫ16)・小穴32個(ＳＰ69～ＳＰ100)・溝１条(ＳＤ11・12)、平安時代中期に比定される土坑１基(ＳＫ17)を検出した。第３調査面では、鎌倉時代～江戸時代に比定される土坑１基(ＳＫ18)・溝32条(ＳＤ39～ＳＤ75)を検出した。以下、各調査区ごとの遺構について記す。

１）第１調査面（弥生時代後期～古墳時代前期）

土坑（ＳＫ）

ＳＫ１

ＧⅣ－ｆ９区の拡張部で検出した。南部はＳＫ２・ＳＰ35・ＳＰ36に切られ、西部は調査区外に至るため、全容の形状は不明である。規模は検出部で、東西0.4ｍ、南北2.2ｍ、深さ14㎝を測る。堆積土は、暗茶灰色粘質シルトである。遺物は出土していない。

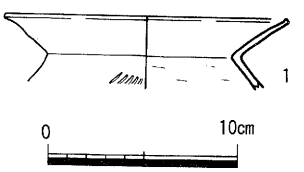
ＳＫ２

ＧⅣ－ｆ９区で検出した。ＳＫ１を切り、ＳＰ36に切られ、西部は調査区外に至る。平面の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.2ｍ、南北0.8ｍ、深さ10㎝を測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰褐色細砂混シルトである。遺物は、内部から庄内式中相に比定される庄内式甕などの小片がごく少量出土している。

小穴（ＳＰ）

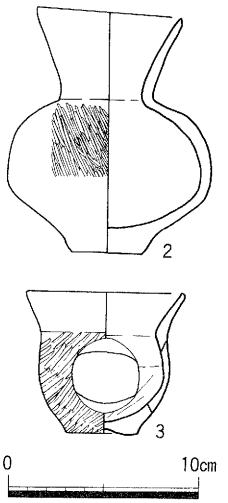
ＳＰ16～ＳＰ39

当調査区で24個を検出した。平面の形状は、円形を呈するもの12個、楕円形を呈するもの７個、長方形のもの１個、不明のもの４個がある。規模は検出部で、径15～52㎝、深さ10～38㎝を測る。断面は、Ｕ字形及び逆凸形・逆台形を呈する。堆積土は、暗灰褐色細砂混シルトである。遺物は、内部からほとんど出土していないが、若干の小穴内から土師器の小片がご



第226図　ＳＰ34出土遺物実測図

く少量出土している。遺物を出土している小穴で図示できたものについて記す。ＳＰ34が庄内式甕(１)、ＳＰ39が小型壷(２)、鉢(３)である(第226・227図)。これらの小穴であるが、住居に伴う柱穴と考えられるものが半数以上見られる。しかし、査区の面積が狭く、限定された調査区であり、規則性をもって配列するものをみいだすには至らなかった。以下、個々の小穴の法量などについては第21表に記す。



第227図　ＳＰ39出土遺物実測図

溝(ＳＤ)

ＳＤ３

ＧⅣ－ｅ９区で検出した。方向は東西を主軸にした東から北へ35°を示し、西部は途切れ、東部は調査区外に至る。

第24表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ16	ＧⅣ－ｄ９	楕円形	逆凸形	33	25	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ17	ＧⅣ－ｄ９	―――	逆台形	15以上	15	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ18	ＧⅣ－ｄ９	円　形	逆台形	37～46	23	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ19	ＧⅣ－ｅ９	―――	逆台形	20	10	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ20	ＧⅣ－ｅ９	円　形	逆凸形	21	15	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ21	ＧⅣ－ｅ９	円　形	逆凸形	36～48	26	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ22	ＧⅣ－ｅ９	円　形	逆凸形	28～32	22	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ23	ＧⅣ－ｅ９	楕円形	逆凸形	25～40	8	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ24	ＧⅣ－ｅ９	円　形	Ｕ字形	20	9	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ25	ＧⅣ－ｅ９	楕円形	Ｕ字形	33～42	30	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ26	ＧⅣ－ｅ９	円　形	逆凸形	26	31	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ27	ＧⅣ－ｅ９	楕円形	Ｕ字形	30～35	14	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ28	ＧⅣ－ｆ９	楕円形	Ｕ字形	24	22	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ29	ＧⅣ－ｆ９	長方形	Ｕ字形	28～42	34	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ30	ＧⅣ－ｆ９	円　形	逆凸形	36	19	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ31	ＧⅣ－ｆ９	円　形	逆凸形	28～33	27	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ32	ＧⅣ－ｆ９	楕円形	Ｕ字形	24～31	16	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ33	ＧⅣ－ｆ９	円　形	Ｕ字形	15	14	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ34	ＧⅣ－ｆ９	円　形	逆台形	37	12	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ35	ＧⅣ－ｆ９	―――	Ｕ字形	28	38	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ36	ＧⅣ－ｆ９	楕円形	Ｕ字形	30	24	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ37	ＧⅣ－ｆ９	―――	Ｕ字形	52	20	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ38	ＧⅣ－ｆ９	円　形	Ｕ字形	28	27	暗灰褐色細砂混シルト	
ＳＰ39	ＧⅣ－ｆ９	円　形	Ｕ字形	30	4	暗灰褐色細砂混シルト	

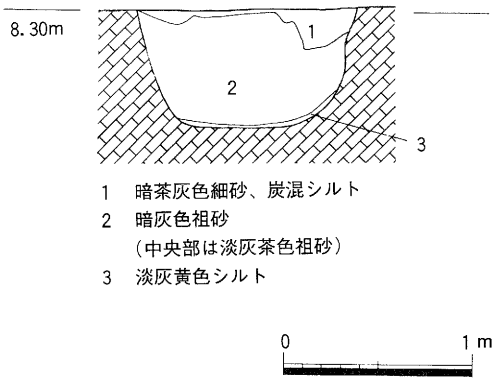
規模は検出部で、幅40cm、深さ14cmを測る。断面は半円形を呈する。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗灰茶色粗砂混シルトである。遺物は出土していない。

ＳＤ４

ＧⅣ－ｅ９区で検出した。方向は東西方向を示し、東西はともに調査区外に居たる。規模は検出部で、幅40cm、深さ14cmを測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は、暗灰茶色粗砂混シルトである。遺物は出土していない。

ＳＤ５

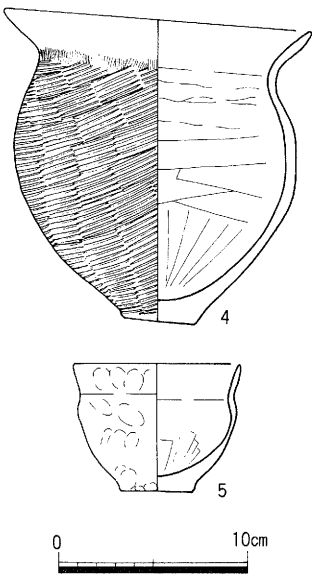
ＧⅣ－ｆ９区で検出した。方向は南東－北西方向を示す。南東部は第３調査区に至り、途切れ、北東部は攪乱で切られている。規模は検出部で、幅24cm、深さ５～７cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗褐灰色粘質土の１層である。遺物は出土していない。



第228図　ＳＤ６断面図

ＳＤ６

ＧⅣ－ｆ９区で検出した。方向は南東－北西方向を示し、調査区外に至る。規模は検出部で、幅1.2m、深さ62cmを測る。断面はＵ字形を呈する。堆積土は、暗茶灰色細砂混シルト・暗灰色粗砂（中央部は淡灰茶色粗砂）・淡灰黄色シルトの３層に分かれる（第228図）。遺物は、内部から弥生時代後期（畿内第Ⅴ様式）に比定される甕（４）・鉢（５）などの小片がごく少量出土している（第229図）。



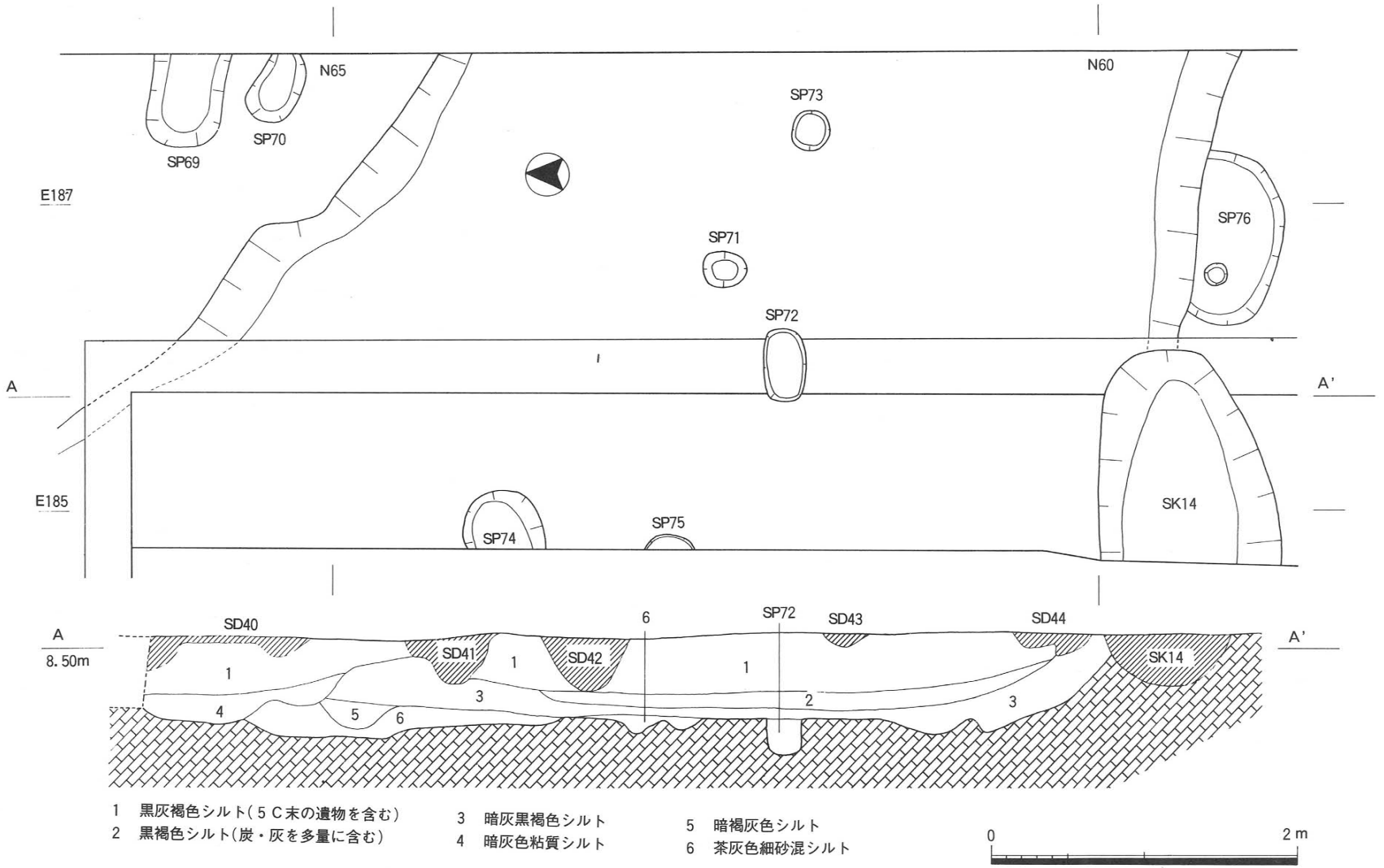
第229図　ＳＤ６出土遺物実測図

２）第２調査面（古墳時代中期・平安時代中期）

土坑（ＳＫ）

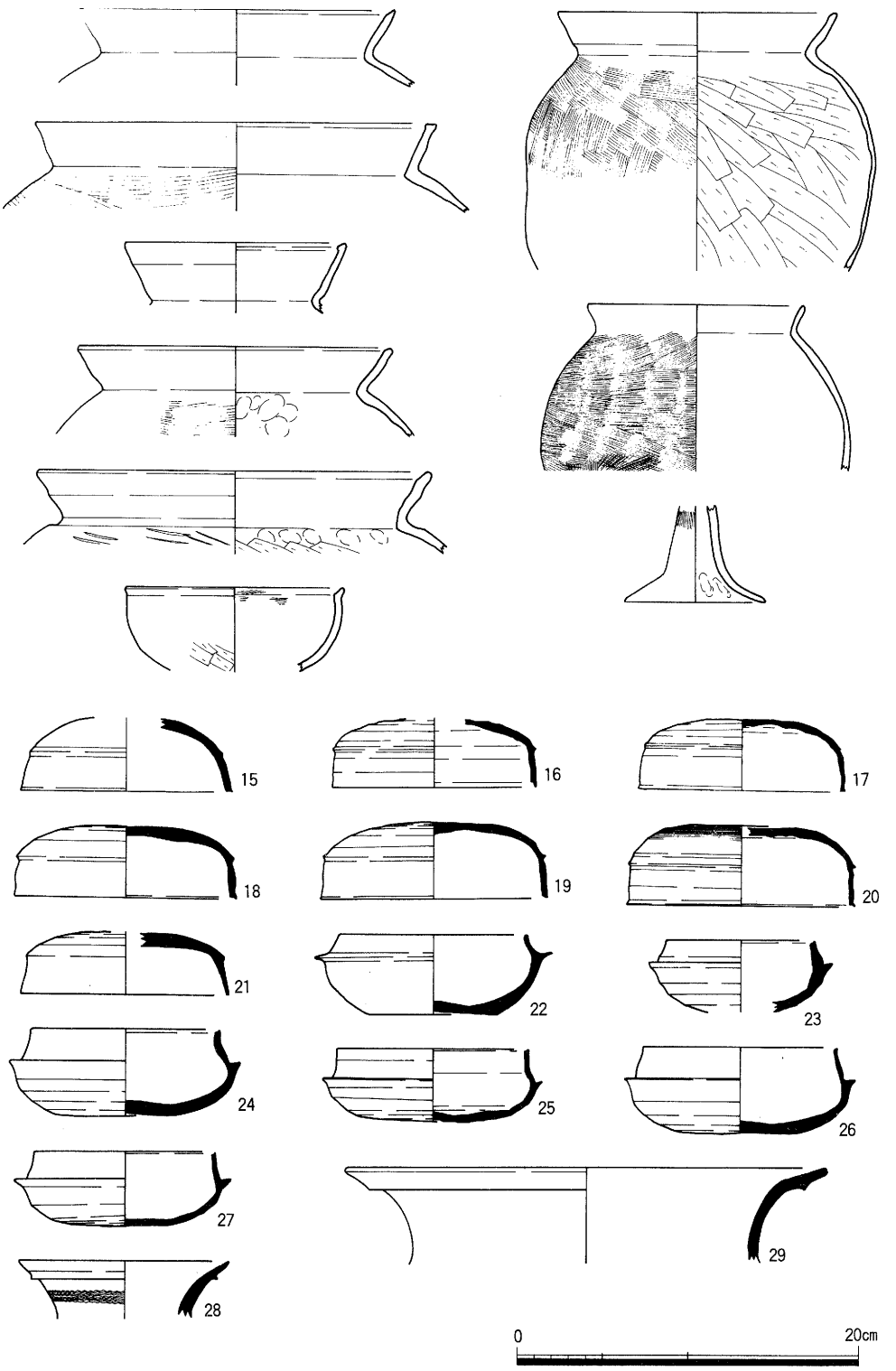
ＳＫ13

ＧⅣ－ｄ９区で検出した土坑で、東西ともに調査区外に至り、平面の形状は不明である。南部ではＳＫ14に切られ、ＳＰ76を切り、北部ではＳＤ10が合流している関係にある。規模は検出部で、東西3.5m以上、南北6.6m以上、深さ27cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には黒灰色シルト（土器を多

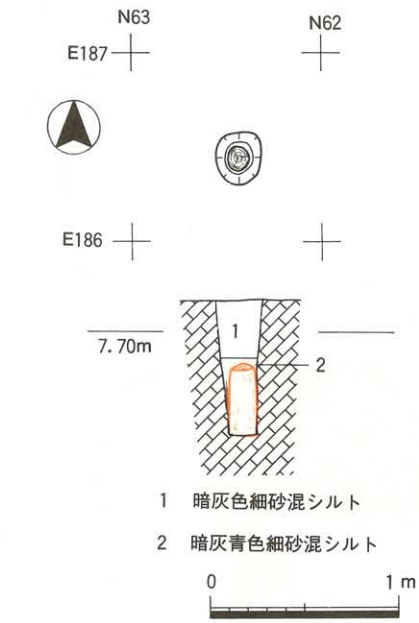


1　黒灰褐色シルト(５Ｃ末の遺物を含む)
2　黒褐色シルト(炭・灰を多量に含む)
3　暗灰黒褐色シルト
4　暗灰色粘質シルト
5　暗褐灰色シルト
6　茶灰色細砂混シルト

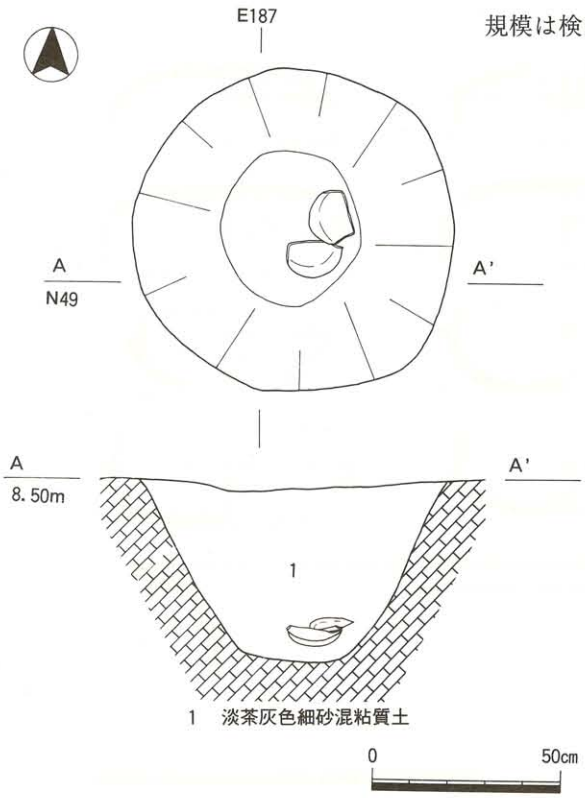
第230図　ＳＫ13平断面図



第231図　ＳＫ13出土遺物実測図２



第232図　ＳＰ71平断面図



第233図　ＳＫ17平断面図

く含む)・黒褐色シルト(炭・灰を多量に含む)・暗灰黒褐色シルト・暗灰色粘質シルト・暗褐灰色シルト・茶灰色細砂混シルトが堆積している(第230図)。底面では平面円形の小穴５個が見られ、径15～30㎝の規模を測る。これらの小穴は規則的な配列もなかったが、土坑の中心に位置するＳＰ72(第233図)では径15㎝、長さ50㎝の柱根が遺存しており、竪穴式住居が考えられる。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の壷・甕(６～12)・杯(13)・高杯(14)、製塩土器、須恵器の杯蓋(15～21)・杯身(22～27)・甕(28・29)などの破片がコンテナ箱にして約２箱分出土している(第231図)。

ＳＫ14

ＧⅣ－ｅ９区で検出した。北部はＳＫ13を切り、西部は調査区外に至り、全容の形状は、不明である。規模は検出部で、東西1.2ｍ以上、南北1.05ｍ以上、深さ21㎝を測る。堆積土は、暗灰黒色粗砂混シルトである。遺物は、内部から古墳時代に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ15

ＧⅣ－ｆ９区の拡張部で検出した。西部は調査区外に至り、全容は不明である。規模は検出部で、東西0.6ｍ以上、南北1.7ｍ以上、深さ19㎝を測る。堆積土は、暗灰茶色細砂混粘質土である。遺物は出土していない。

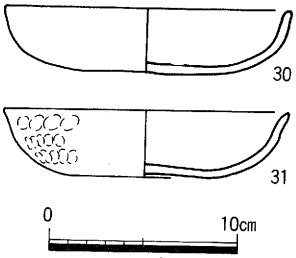
ＳＫ16

ＧⅣ－ｆ９区で検出した。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、長径1.84ｍ、短径0.68ｍ、深さ43㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、

灰黒色シルトである。遺物は出土していない。

ＳＫ17

ＧⅣ－ｆ９区で検出した。平面は円形を呈し、径0.84cm、深さ50cmを測る。断面は、Ｕ字形を呈する。堆積土は、淡茶灰色細砂混粘質土である。遺物は、底部付近から平安時代中期に比定される土師質皿２点(30・31)が出土している(第234図)。他に堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。

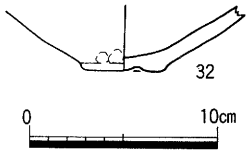


第234図　ＳＫ17出土遺物実測図

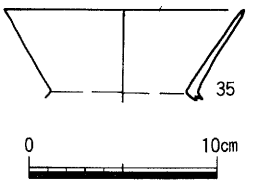
小穴（ＳＰ）

ＳＰ69～ＳＰ100

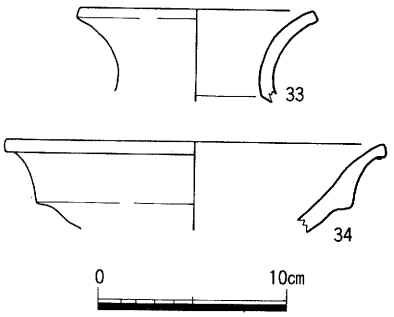
32個（うちＳＫ13底面で検出した小穴５個が含まれる）を検出した。平面の形状には、円形のもの（12個）、楕円形のもの（３個）、不定形のもの（１個）があり、全容が不明のものは（16個）を数える。規模は検出部で、径14～57cmの小さいもの（16個）と径40～72cmの比較的大きいもの（16個）に分けられる。断面の形状には小穴の大小に関係なく逆凸形のもの、Ｕ字形のものがある。深さは15～50cmを測る。逆凸形のものには柱根や柱痕が見られ、建物の柱穴に相当するものと考えられる。しかし、限定された調査区であるため、規則性のある配列が見出せなかった。これらの小穴の時期は、内部に堆積する暗茶灰色細砂混シルト内から古墳時



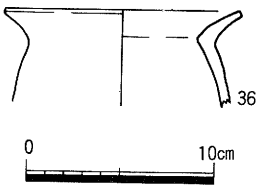
第235図　ＳＰ69出土遺物実測図



第236図　ＳＰ98出土遺物実測図



第237図　ＳＰ79出土遺物実測図



第238図　ＳＤ12出土遺物実測図

代中期に比定される土器を中心とする土師器・須恵器などの小穴がごく少量出土しており、5世紀代のものであろう。図示できたものは、ＳＰ69がＶ様式系の壷（32）、ＳＰ79・ＳＰ98が庄内式の壷（33～35）である（第235～237図）。以下、個々の小穴の法量などについて第25表に記す。

第25表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ69	ＧⅣ－ｄ9	―――	Ｕ字形	48	12	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ70	ＧⅣ－ｄ9	―――	Ｕ字形	35	5～10	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ71	ＧⅣ－ｄ9	円形	Ｕ字形	29	33	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
ＳＰ72	ＧⅣ－ｄ9	円形	Ｕ字形	28	29	暗黒褐色シルト	
ＳＰ73	ＧⅣ－ｄ9	円形	Ｕ字形	26	25	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ74	ＧⅣ－ｄ9	―――	Ｕ字形	53	45	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ75	ＧⅣ－ｄ9	―――	Ｕ字形	35	10	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ76	ＧⅣ－ｅ9	―――	逆凸形	50	20	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
ＳＰ77	ＧⅣ－ｅ9	―――	Ｕ字形	60	29	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ78	ＧⅣ－ｅ9	―――	Ｕ字形	48	16	暗黒褐色シルト	
ＳＰ79	ＧⅣ－ｅ9	―――	Ｕ字形	50	17	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
ＳＰ80	ＧⅣ－ｅ9	円形	Ｕ字形	30	8	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
ＳＰ81	ＧⅣ－ｅ9	円形	Ｕ字形	25	7	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
ＳＰ82	ＧⅣ－ｅ9	―――	Ｕ字形	40	31	暗黒褐色シルト	
ＳＰ83	ＧⅣ－ｅ9	―――	Ｕ字形	40	22～27	暗黒褐色シルト	柱痕有り。
ＳＰ84	ＧⅣ－ｅ9	円形	Ｕ字形	40	22～23	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
ＳＰ85	ＧⅣ－ｅ9	楕円形	Ｕ字形	14～57	25～50	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ86	ＧⅣ－ｅ9	楕円形	Ｕ字形	26～66	17～36	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
ＳＰ87	ＧⅣ－ｆ9	円形	Ｕ字形	33	7	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ88	ＧⅣ－ｆ9	―――	Ｕ字形	32	32	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ89	ＧⅣ－ｆ9	円形	Ｕ字形	27	31	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ90	ＧⅣ－ｆ9	―――	Ｕ字形	20	18	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ91	ＧⅣ－ｆ9	―――	Ｕ字形	72	29	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ92	ＧⅣ－ｆ9	―――	Ｕ字形	31	9	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ93	ＧⅣ－ｆ9	円形	Ｕ字形	37	2	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ94	ＧⅣ－ｆ9	円形	Ｕ字形	56	23	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ95	ＧⅣ－ｆ9	―――	Ｕ字形	34	38	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ96	ＧⅣ－ｆ9	円形	Ｕ字形	32	11	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ97	ＧⅣ－ｆ9	不定形	Ｕ字形	37～43	10	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
ＳＰ98	ＧⅣ－ｆ9	円形	Ｕ字形	53	32	暗茶灰色細砂混シルト	柱痕有り。
ＳＰ99	ＧⅣ－ｆ9	楕円形	Ｕ字形	20～37	12	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ100	ＧⅣ－ｆ9	―――	Ｕ字形	65	14	暗茶灰色細砂混シルト	

溝（ＳＤ）

ＳＤ11

ＧⅣ－ｅ９区で検出した。方向は東西を軸にすると西より北へ10度振っている。東部はＳＰ78・79と切り合う関係にある。検出長1.5ｍ、幅25～30㎝、深さ８㎝を測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗茶灰色細砂混シルトである。遺物は出土していない。

ＳＤ12

ＧⅣ－ｅ９区で検出した。方向はほぼ東西方向を示す。上部は削平されており、検出長1.2ｍ、幅30㎝、深さ５㎝を測る。断面は、浅い半円形を呈する。堆積土は、暗茶灰色細砂混シルトである。遺物は、内部から土師器の甕（36）の小片がごく少量出土している（第238図）。

3）第３調査面（鎌倉時代・江戸時代）

溝（ＳＤ）

ＳＤ40～ＳＤ75

36条を検出した。方向はすべて東西方向を示し、耕作に関連する鋤溝・畝溝などの溝である。

第26表　小穴（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	方　向	断面形	径	深さ	堆　積　土	備　考
ＳＤ40	ＧⅣ－ｄ９	東－西	逆台形	40～70	12	明乳灰茶色シルト	
ＳＤ41	ＧⅣ－ｄ９	東－西	逆台形	54～60	23	淡灰茶色シルト	
ＳＤ42	ＧⅣ－ｄ９	東－西	逆台形	60～85	36	淡灰茶色シルト	
ＳＤ43	ＧⅣ－ｄ９	東－西	逆台形	23～36	10	乳灰褐色粘質シルト	
ＳＤ44	ＧⅣ－ｄ９	東－西	逆台形	48～67	14	乳灰褐色粘質シルト	
ＳＤ45	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	20～35	12	淡灰茶色シルト	
ＳＤ46	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	27～35	18	明乳灰茶色シルト	
ＳＤ47	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	34～41	16	乳灰褐色粘質シルト	
ＳＤ48	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	24～40	13	乳灰褐色粘質シルト	
ＳＤ49	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	38～55	8	淡灰色シルト	
ＳＤ50	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	40～55	10	明乳灰色シルト	
ＳＤ51	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	41～50	9	明乳灰茶色シルト	
ＳＤ52	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	22～30	4	淡灰茶色シルト	
ＳＤ53	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	24	7	淡灰茶色シルト	
ＳＤ54	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	20～25	8	淡灰褐色シルト	
ＳＤ55	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	22～30	8	淡灰褐色シルト	
ＳＤ56	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	66～74	18	明乳灰茶色シルト	
ＳＤ57	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	85～96	13	淡灰褐色シルト	
ＳＤ58	ＧⅣ－ｅ９	東－西	逆台形	28～40	10	明乳灰茶色シルト	
ＳＤ59	ＧⅣ－ｆ９	東－西	逆台形	58	17	明乳灰茶色シルト	

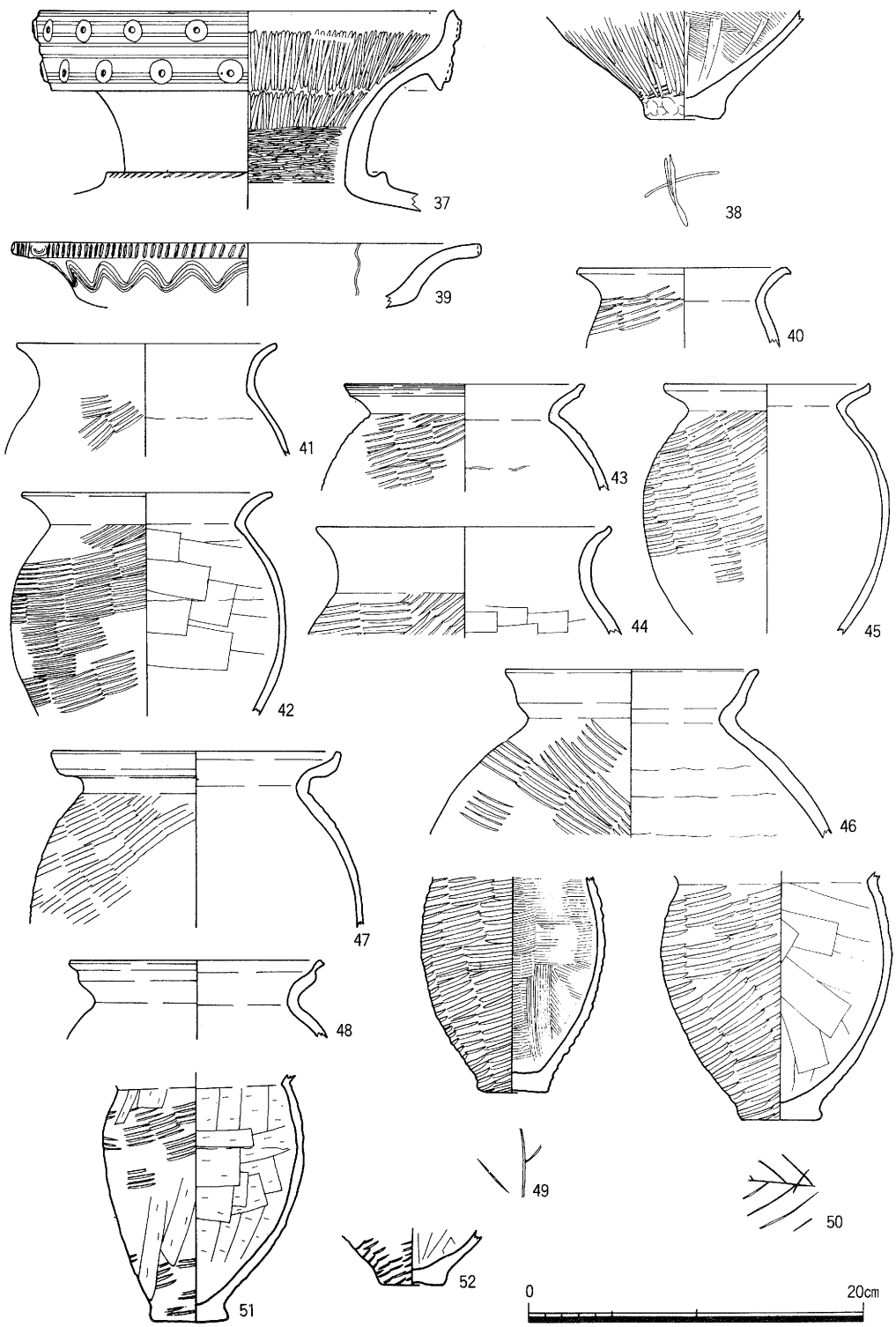
＊　単位：cm

遺構番号	地　区	方　向	断面形	径	深さ	堆　積　土	備　考
SD60	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	20～43	7	淡灰褐色シルト	
SD61	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	23～32	8	淡灰褐色シルト	
SD62	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	25	11	淡灰茶色シルト	
SD63	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	25～62	11	乳灰褐色粘質シルト	
SD64	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	57～75	9	乳灰褐色粘質シルト	
SD65	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	40	11	乳灰褐色粘質シルト	
SD66	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	38	9	乳灰褐色粘質シルト	
SD67	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	38	16	乳灰褐色粘質シルト	
SD68	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	8～15	4	乳灰褐色粘質シルト	
SD69	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	41	15	明乳灰茶色シルト	
SD70	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	31～40	20	淡灰茶色シルト	
SD71	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	40	5	乳灰褐色粘質シルト	
SD72	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	20	5	乳灰褐色粘質シルト	
SD73	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	21～32	5	乳灰褐色粘質シルト	
SD74	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	14～23	9	灰色微砂混シルト	
SD75	GⅣ－f 9	東－西	逆台形	16～76	19	灰色微砂混シルト	

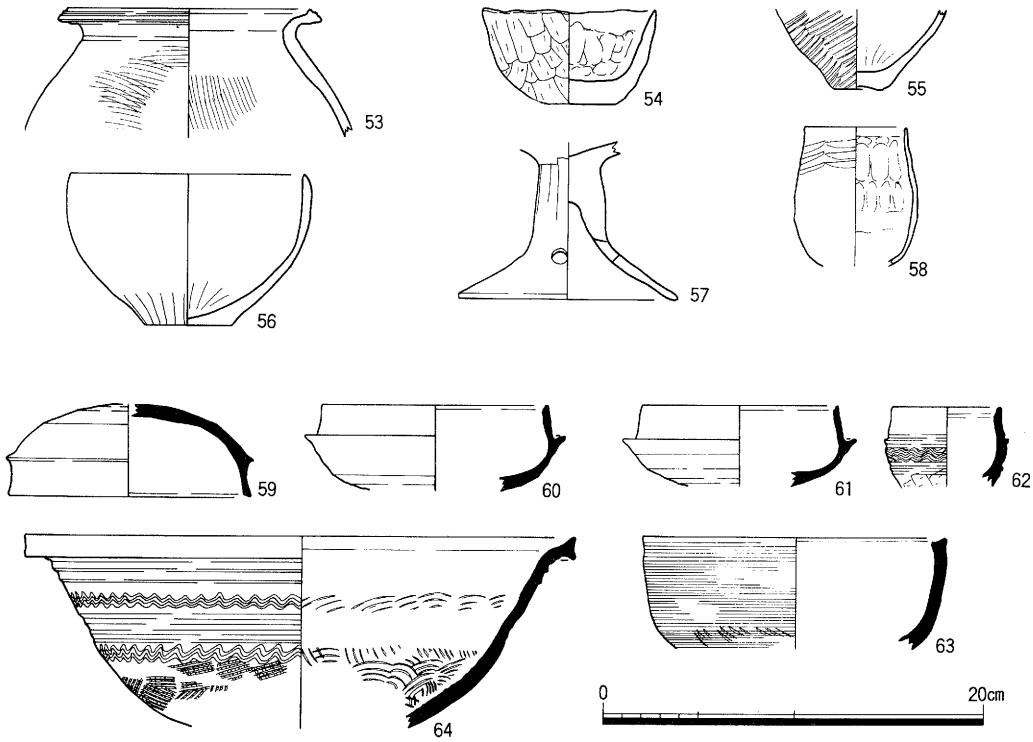
これらの溝は大きく２つに分けることができる。第３層上面から切り込む溝、第４層上面から切り込むでそれぞれ重複している。時期は、前者が江戸時代、後者が鎌倉時代に比定されるものであろう。規模は検出部で、幅14～40cmまでの狭いもの、40～96cmの広いものが見られる。断面の形状はすべて逆台形を呈し、深さ４～36cmを測る比較的浅いものが最も多い。溝内の堆積土は単一層で、鎌倉時代の溝には淡灰茶色シルト及び明乳灰茶色シルト、江戸時代の溝には乳灰褐色粘質シルト及び灰色微砂混シルトが堆積している。遺物は、内部から古墳時代前期～中期に比定される土器の小片がごく少量出土しているが、第５層（古墳時代中期の包含層）を削ったときのものである。以下、個々の小穴の法量などについて第26表に記す。

４）遺構に伴なわない出土遺物

第３・４層で出土量はコンテナ箱にして約３箱分である。特に第３調査区の西部から出土したものが大半である。時期は弥生時代後期末～鎌倉時代に至る土器である。以下、図示できたものについて記す（第239・240図）。弥生時代に比定されるものは、壷（37・38）・高杯（39）・甕（40～52）である。古墳時代前期に比定されるものは、瀬戸内系の甕（53）・鉢（54～56）・高杯（57）である。古墳時代中期に比定されるものは、製塩土器（58）・須恵器の杯蓋（59）・杯身（60・61）・鉢（62・63）・大型器台（64）である。



第239図　遺構に伴わない出土遺物実測図１



第240図　遺構に伴わない出土遺物実測図２

Ⅳ　第３調査区

第２調査区の南端部から東に設定した東西に長い調査区（幅2.5ｍ×長さ63ｍ）である。調査区の面積は、157.5㎡を測る。

当調査区では、第３層（第３調査面）・第４層（第２調査面）・第６層上面（第１調査面）の３面を調査面とした（第214・215図）。その結果、第１調査面では、弥生時代後期末に比定される小穴３個（ＳＰ40～ＳＰ42）・溝２条（ＳＤ７・ＳＤ８）を検出した。第２調査面では、古墳時代前期に比定される土坑４基（ＳＫ18～ＳＫ22）・小穴10個（ＳＰ101～ＳＰ110）・溝21条（ＳＤ13～ＳＤ33）・自然河川１条（河川１）、古墳時代中期に比定される土坑１基（ＳＫ23）・小穴12個（ＳＰ111～ＳＰ122）を検出した。第３調査面では、鎌倉時代～室町時代に比定される溝10条（ＳＤ76～ＳＤ81・ＳＤ83・ＳＤ84）、江戸時代に比定される溝１条（ＳＤ82）を検出した。

遺構に伴わない遺物は、第２層内から鎌倉時代～江戸時代に至る遺物の小穴、第４層内から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片、第５層内から弥生時代後期末に比定される土器の小片がごく少量出土している。遺物量は、コンテナ箱にして約２箱分である。以下、各調査区の各遺構について記す。

１）第１調査面（弥生時代後期末）

小穴（ＳＰ）

ＳＰ40～ＳＰ42

３個を検出した。平面の形状は調査区外に至るが、構成の遺構によって切られているため、すべての小穴は不明である。規模は検出部で、径21～78㎝、深さ９～26㎝を測り、断面の形状は、逆台形を呈する。堆積土は、暗褐灰色細砂混シルトで、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される甕などの小片がごく少量出土している。以下、個々の小穴の法量などについては第27表に記す。

第27表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ40	ＧⅣ－g10 ＧⅤ～g１	―――	逆台形	25～78	17	暗褐灰色細砂混シルト	
ＳＰ41	ＧⅤ－g１	―――	逆台形	21～30	26	暗褐灰色細砂混シルト	
ＳＰ42	ＧⅤ－g１	―――	逆台形	38～66	9	暗褐灰色細砂混シルト	

溝（ＳＤ）

ＳＤ７

ＧⅤ－ｇ１区で検出した。方向は東西方向を示し、東部はＳＤ８を切り、途切れている。西部はＳＫ19に切られている。規模は検出部で、幅18～33㎝、深さ11㎝を測る。断面は、半円形を呈する。堆積土は、暗褐灰色細砂混シルトである。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される土器の小片がごく少量出土している。

ＳＤ８

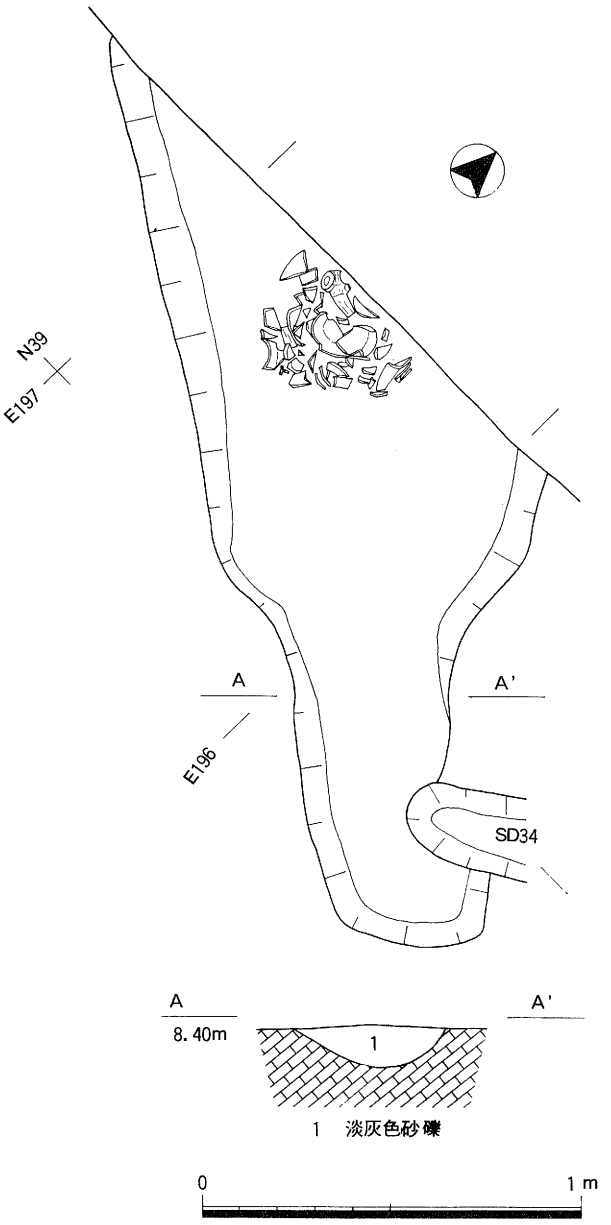
ＧⅤ－ｇ１区で検出した。方向は南北方向を示し、南部はＳＤ７に切られ、途中で切れている。北部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅36㎝、深さ14㎝を測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗褐茶色シルト混細砂である。遺物は出土していない。

２）第２調査面（古墳時代前期～中期）

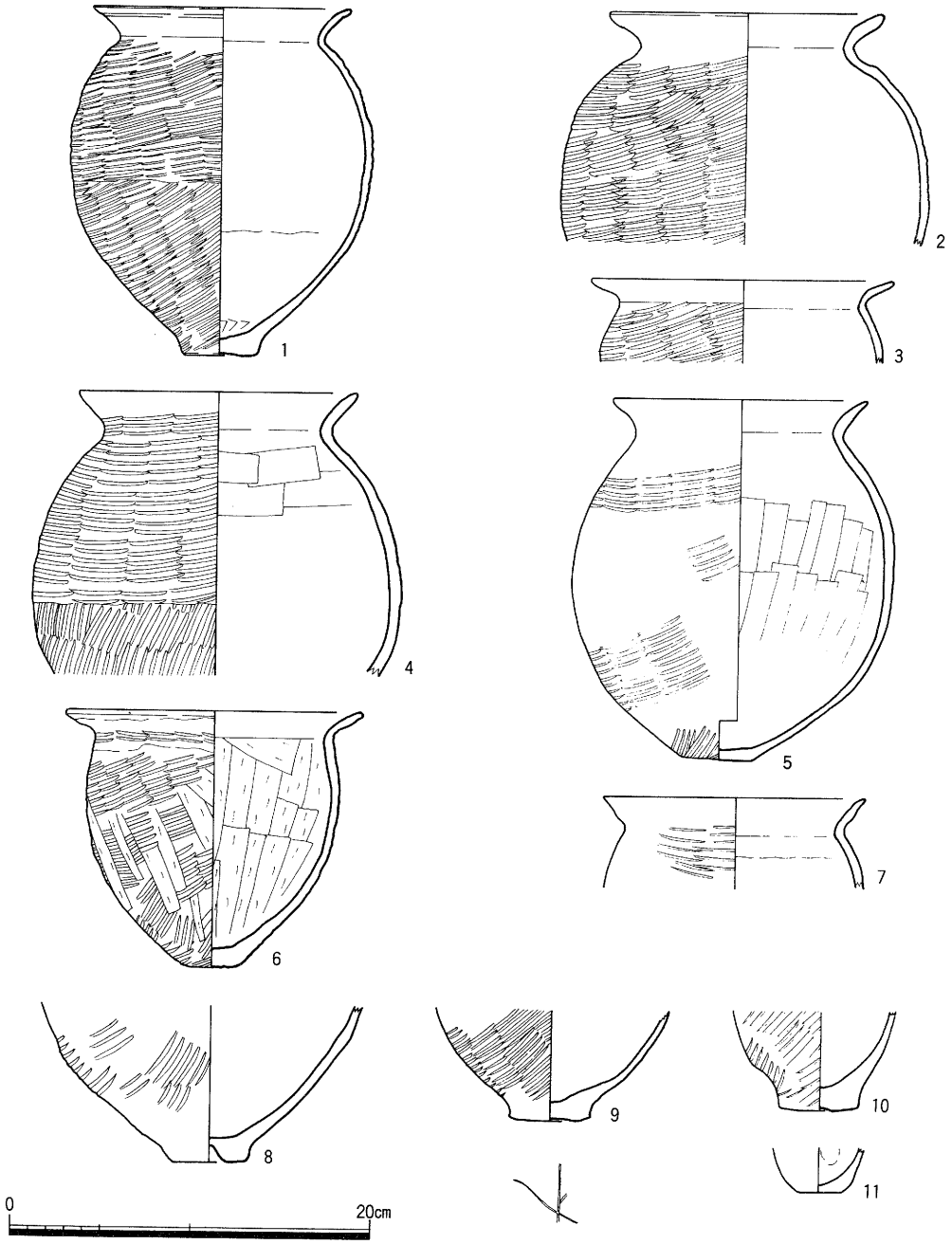
土坑（ＳＫ）

ＳＫ18

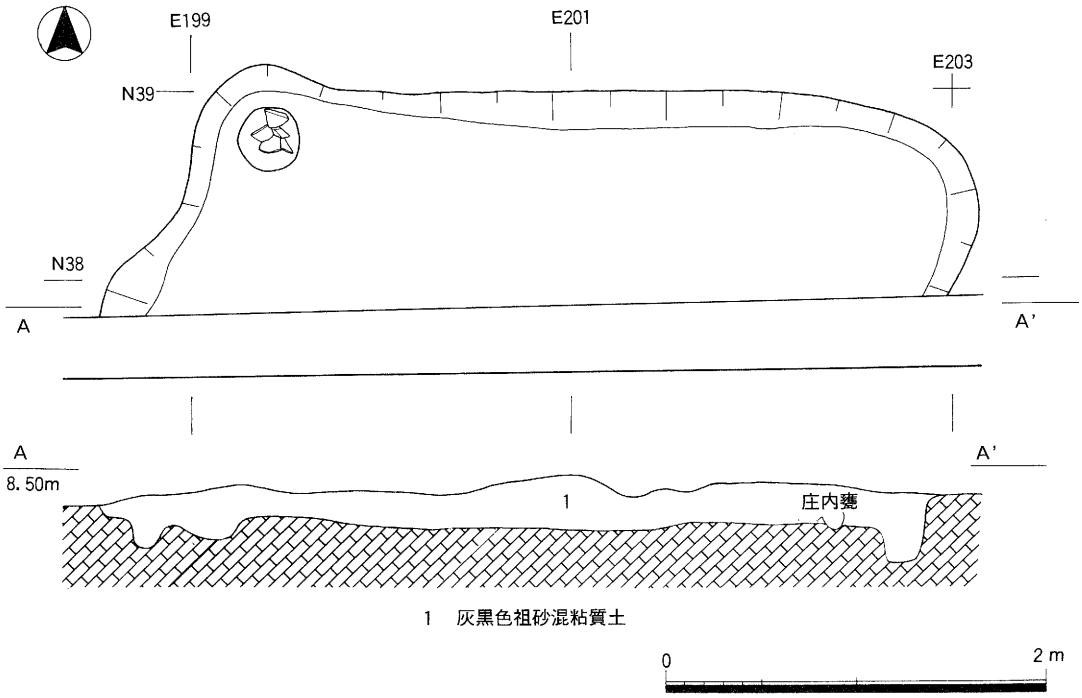
ＧⅣ－ｇ10区で検出した。北部は調査区がに至り、平面の形状は不明である。南部の一部はＳＤ34に切られている。規模は検出部で、最大幅1.4ｍ以上、東西幅0.94ｍ、深さ７㎝を測る。断面は、逆台形を呈する。堆積土は、淡灰色砂礫である。遺物は、調査区壁面付近で集積した



第241図　ＳＫ18検出遺物平面図及び断面図

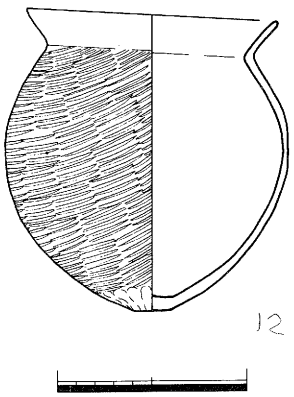


第242図　ＳＫ18出土遺物実測図



第243図　ＳＫ19平断面図

土器(コンテナ箱にして１箱分)を検出した)（第241図)。土器は小片化した集積で、径約50㎝のほぼ円形状を呈している。器種はほとんどＶ様式甕(１～10)で、その他に鉢(11)１点である(第242図)。



第244図　ＳＫ19出土遺物実測図

ＳＫ19

ＧⅣ－ｇ10・ＧＶ－ｇ１区で検出した。平面の形状は南部が調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西4.6ｍ、南北1.6ｍ、深さ20㎝を測る。断面は逆台形を呈し、底面の周辺では溝状に落ち込んでいる。また、北西の底面には平面円形の小穴(径34㎝、深さ12㎝)１個がある。堆積土は、灰黒色粗砂混粘質土である(第243図)。内部から庄内式新相に比定される鉢・庄内式甕(12)・高杯などの破片が少量出土している(第244図)。

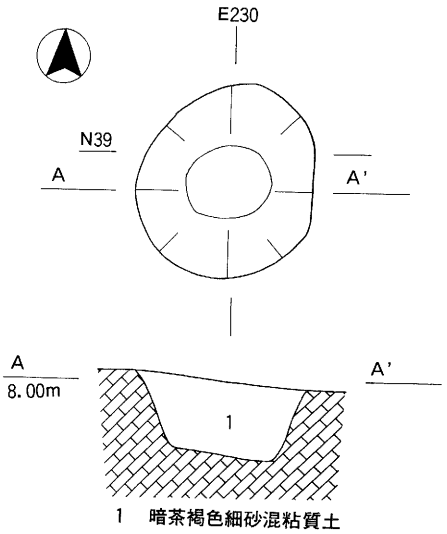
ＳＫ20

ＧＶ－ｇ３・ｇ４区で検出した。平面の形状は北部が調査区外に至り、不明である。東部はＳＤ22を切っている。規模は検出部で、東西２ｍ、南北1.2ｍ、深さ19㎝を測る。断面は逆台

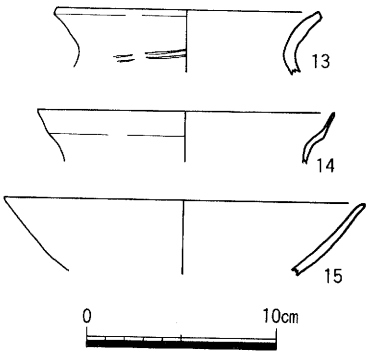
形を呈する。堆積土は、灰茶褐色細砂混粘質土である。遺物は、内部から土師器の小片が少量出土している。

ＳＫ21

ＳＫ20の南部で検出した。平面は隅丸方形を呈する。規模は検出部で、東西0.84ｍ、南北１ｍ、深さ50㎝を測る。断面はＵ字形を呈する。堆積土は、暗茶褐色細砂混粘質土の１層である（第245図）。遺物は、内部から庄内式新相に比定される壷・庄内式甕・Ｖ様式系甕（13）・甕（14）・高杯（15）などの小片が少量出土している（第246図）。



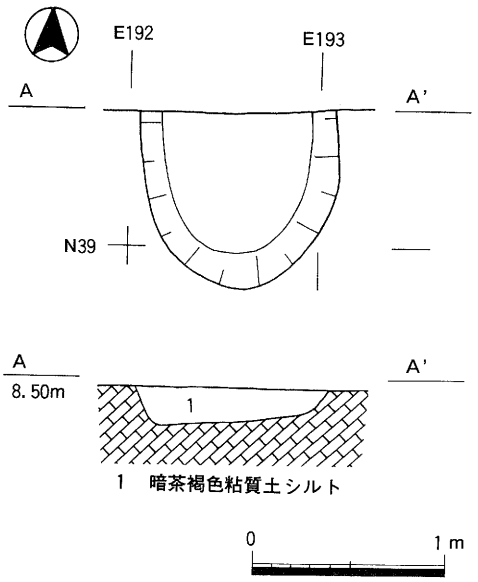
第245図　ＳＫ21平断面図



第246図　ＳＫ21出土遺物実測図

ＳＫ22

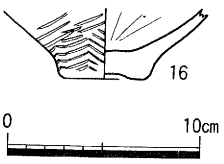
ＧⅣ－ｇ10区で検出した。平面の形状は北部が調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西1.04ｍ、南北0.94ｍ、深さ19㎝を測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗茶褐色粘質土の１層である（第247図）。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される甕（16）の小片が少量出土している（第248図）。



第247図　ＳＫ22平断面図

ＳＫ23

ＧⅤ－ｇ１区で検出した。平面の形状は南部が調査区外に至り、不明である。規模は検出部で、東西1.9ｍ、南北0.55ｍ、深さ14㎝を測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗灰色



第248図　ＳＫ22出土遺物実測図

砂礫混粘質土・灰黒色粗砂混粘質土である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

小穴（ＳＰ）

ＳＰ101～ＳＰ123

23個を検出した。平面の形状には、円形のもの（10個）、楕円形のもの（10個）がある。また、調査区外に至り、平面の形状が不明のもの（３個）もある。規模は検出部で、40～76㎝の大きいものから10～40㎝の小さいものまである。断面は逆台形及びＵ字形を呈し、古墳時代前期に比定される小穴内には暗茶灰色細砂混シルト及び暗灰褐色細砂混粘質土がそれぞれ単一で堆積している。遺物は、内部から古墳時代前期に比定されるもの、古墳時代中期に比定されるものが出土している。以下、個々の小穴の法量などについて第28表に記す。

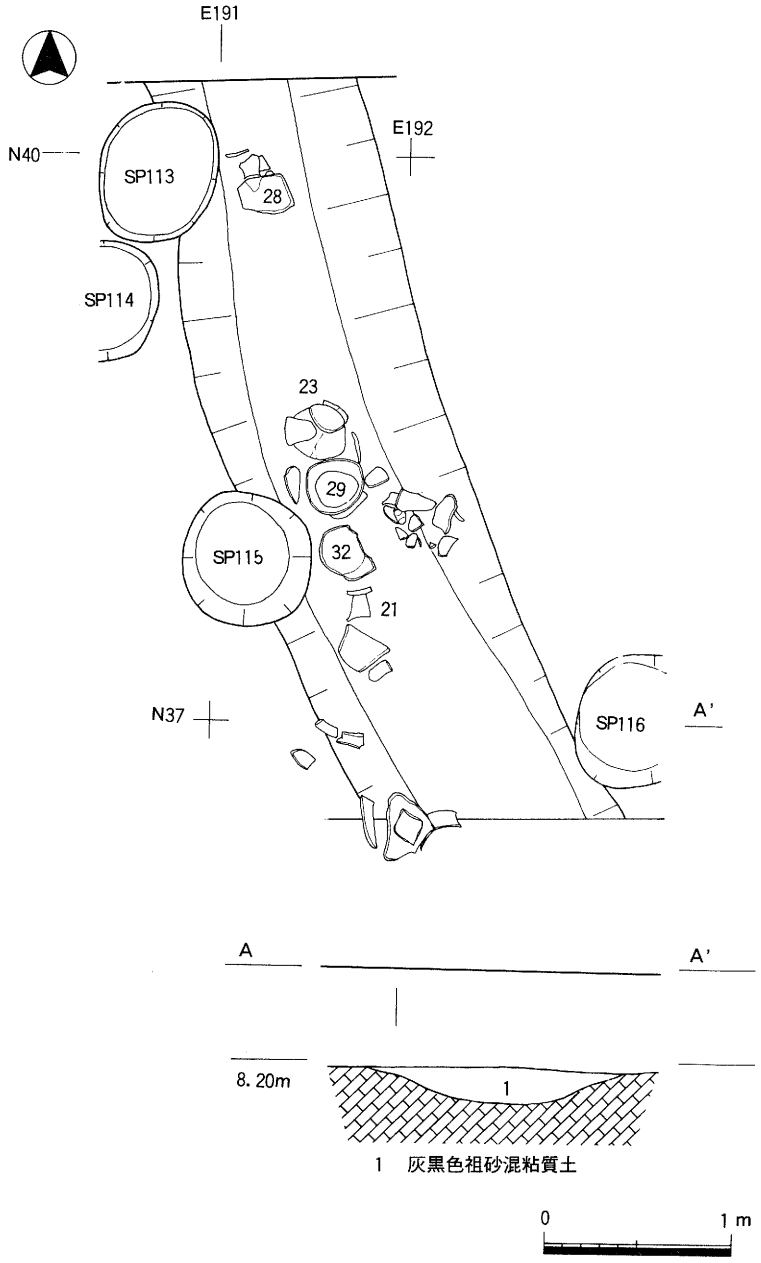
溝（ＳＤ）

ＳＤ13

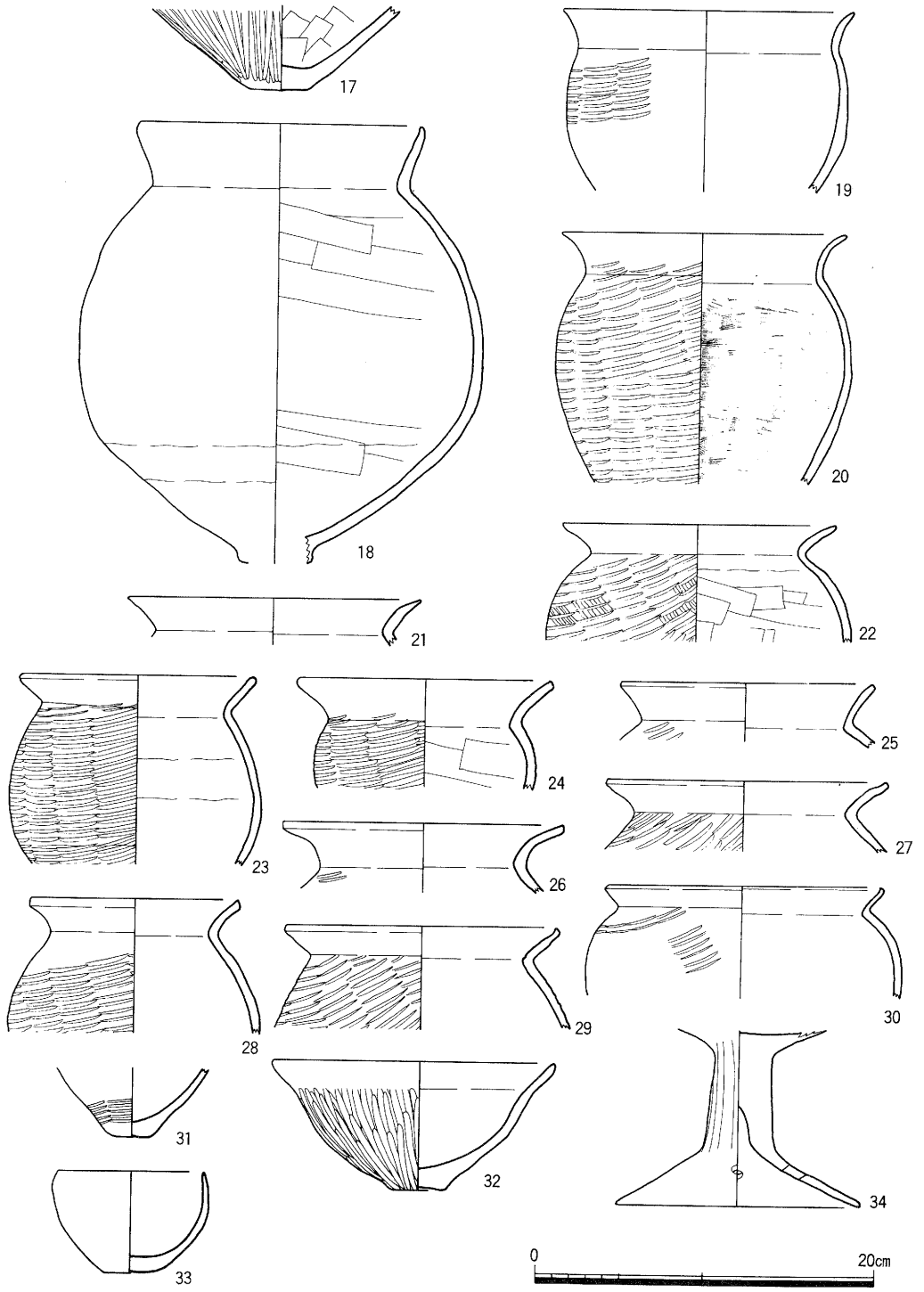
ＧⅣ－ｇ10区で検出した。方向は南南東－北北西方向に伸び、調査区外に至る。規模は検出部で、幅58㎝、深さ39㎝を測る。ＳＰ113～ＳＰ116に切られている。断面は半円形を呈し、内

第28表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備　考
ＳＰ101	ＧⅣ－g10	円　形	Ｕ字形	19	17	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ102	ＧⅣ－g10	円　形	Ｕ字形	30	10	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ103	ＧⅣ－g10	円　形	Ｕ字形	34	12	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ104	ＧⅤ－g3	―――	Ｕ字形	50	5	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＰ105	ＧⅤ－g3	楕円形	Ｕ字形	15～20	11	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ106	ＧⅤ－g3	―――	Ｕ字形	55	7	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ107	ＧⅤ－g3	円　形	Ｕ字形	20	11	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ108	ＧⅤ－g3	楕円形	逆凸形	23～28	12	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ109	ＧⅤ－g4	楕円形	Ｕ字形	22～39	12	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ110	ＧⅤ－g3	楕円形	Ｕ字形	10～20	15	暗灰色細砂混シルト	
ＳＰ111	ＧⅣ－g9	円　形	Ｕ字形	40	28	暗灰褐色細砂混粘質土	
ＳＰ112	ＧⅣ－g9	円　形	Ｕ字形	29	20	暗灰褐色細砂混粘質土	
ＳＰ113	ＧⅣ－g10	円　形	Ｕ字形	37	34	暗灰褐色細砂混粘質土	
ＳＰ114	ＧⅣ－g10	円　形	Ｕ字形	31	4	暗灰褐色細砂混粘質土	
ＳＰ115	ＧⅣ－g10	円　形	Ｕ字形	36	7	暗灰褐色細砂混粘質土	
ＳＰ116	ＧⅣ－g10	楕円形	Ｕ字形	33～36	13	暗灰褐色細砂混粘質土	
ＳＰ117	ＧⅣ－g10	楕円形	Ｕ字形	28～32	35	暗灰褐色細砂混粘質土	
ＳＰ118	ＧⅣ－g10	円　形	Ｕ字形	35	14	暗灰褐色細砂混粘質土	
ＳＰ119	ＧⅣ－g10	楕円形	Ｕ字形	35～39	12	暗灰褐色細砂混粘質土	
ＳＰ120	ＧⅤ－g1	―――	Ｕ字形	35	16	暗灰褐色細砂混粘質土	
ＳＰ121	ＧⅤ－g2	楕円形	Ｕ字形	60～72	7	暗灰褐色細砂混粘質土	
ＳＰ122	ＧⅤ－g3	楕円形	Ｕ字形	50～76	5	黒灰色細砂混シルト	
ＳＰ123	ＧⅤ－g4	楕円形	Ｕ字形	44～63	13	黒灰色細砂混シルト	



第249図　ＳＤ13検出遺物平面図及び断面図



第250図　ＳＤ13出土遺物実測図

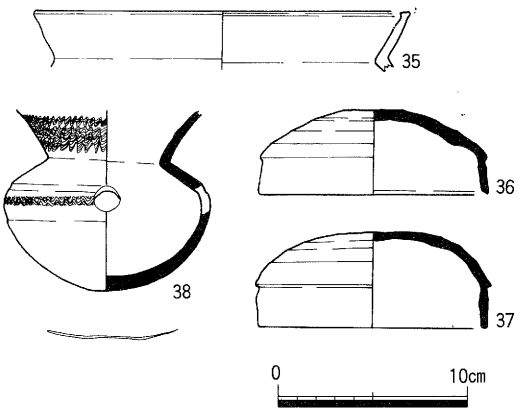
図示できたものは、壷（17・18）・第Ⅴ様式系甕（19～30）・庄内式鉢（31～33）・高杯（34）である（第250図）。

ＳＤ14

ＧⅤ－ｇ１区で検出した。方向は南北方向を示し、南部はＳＤ15に合流、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅24㎝、深さ９㎝を測る。断面は半円形を呈し、内部には淡茶灰色細砂混シルトが堆積している。遺物は出土していない。

ＳＤ15

ＧⅤ－ｇ１区で検出した。方向は東西方向を示し、両端部は調査区内で途切れている。中央の北側ではＳＤ14が合流している。規模は検出部で、検出長５ｍ、幅36～50㎝、深さ４～９㎝を測る。断面は半円形を呈し、内部には淡茶灰色細砂混シルトが堆積している。遺物は、内部から庄内式古相に比定される土師器の小片がごく少量出土している。



第251図　ＳＤ35出土遺物実測図

ＳＤ16～ＳＤ35

当調査区の東部で検出した溝である。方向には南北方向のもの（４条）、南東－北西方向のもの（３条）、南西－北東方向のもの（13条）がある。規模は検出部で、幅2.27㎝、深さ25㎝を測るＳＤ34以外は、幅

第29表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：㎝

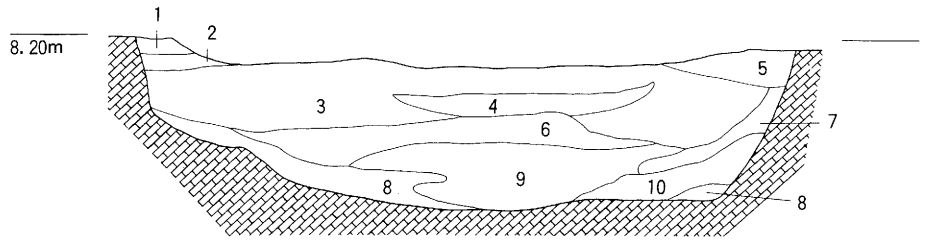
遺構番号	地　区	方　向	断面形	径	深さ	堆　積　土	備　考
ＳＤ16	ＧⅤ－ｇ３	南－北	半円形	28	11	灰黒色粗砂混粘質土	
ＳＤ17	ＧⅤ－ｇ３	南－北	半円形	55	19	淡灰色シルト	
ＳＤ18	ＧⅤ－ｇ３	南西－北東	半円形	25～37	6～11	灰黒色粗砂混粘質土	
ＳＤ19	ＧⅤ－ｇ３	南西－北東	半円形	34	21	淡茶褐色 砂質土	
ＳＤ20	ＧⅤ－ｇ３	南西－北東	半円形	18～23	4～9	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＤ21	ＧⅤ－ｇ３	南－北	半円形	32～40	18	淡灰茶色砂礫混砂質土	
ＳＤ22	ＧⅤ－ｇ４	南－北西	半円形	53～72	14～17	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＤ23	ＧⅤ－ｇ４	南－北	半円形	31	13	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＤ24	ＧⅤ－ｇ４	南東－北西	半円形	40～50	13～25	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＤ25	ＧⅤ－ｇ４	南西－北東	半円形	37～57	9～14	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＤ26	ＧⅤ－ｇ４	南西－北東	半円形	30	5～13	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＤ27	ＧⅤ－ｇ４	南西－北東	半円形	42	17	淡灰色 細砂粘質土	
ＳＤ28	ＧⅤ－ｇ５	南西－北東	半円形	37～58	8	灰色 粗砂混粘質土	
ＳＤ29	ＧⅤ－ｇ５	南西－北東	半円形	30～35	7～9	淡灰褐色粗砂混粘質土	
ＳＤ30	ＧⅤ－ｇ５	南西－北東	半円形	32	5～8	暗灰褐色粗砂混粘質土	
ＳＤ31	ＧⅤ－ｇ５	南西－北東	半円形	27～40	4～6	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ32	ＧⅤ－ｇ５	南西－北東	半円形	34	7	暗灰色粗砂混粘質土	
ＳＤ33	ＧⅤ－ｇ５	南西－北東	半円形	21～28	5～10	暗茶灰色細砂混シルト	
ＳＤ34	ＧⅣ－ｇ10	南西－北東	半円形	17～29	6～12	暗灰褐色粘質シルト	
ＳＤ35	ＧⅤ－ｇ２	南東－北西	半円形	227	25	暗灰褐色粗砂混粘質土	

10～40cm、深さ６～20cmを測る小さなものである。断面は半円形を呈し、内部には暗灰褐色砂礫混砂質土及び淡地や灰色細砂混シルトなどが堆積している。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土器、古墳時代中期に比定される土器が少量出土している溝がある。図示できたものにはＳＤ35から古墳時代中期に比定される土師器の甕（35）、須恵器の杯蓋（36・37）・𤭯（38）である（第251図）。以下、個々の溝（ＳＤ）の法量について第29表に記す。

自然河川（河川）

河川１

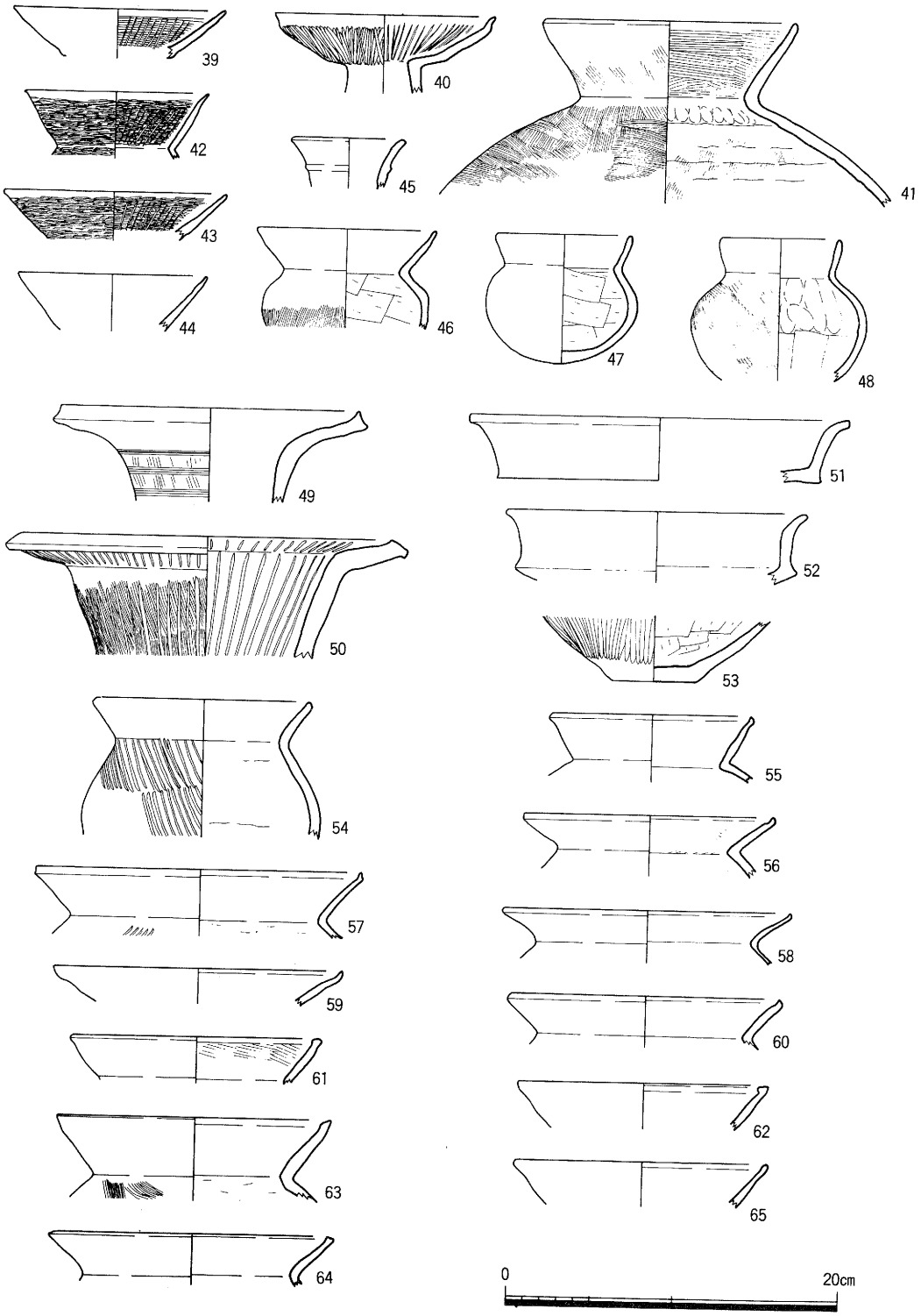
ＧＶ－ｇ２区で検出した。方向は南東－北西方向を示し、南北ともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅4.8ｍ、深さ1.2ｍを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗灰色粘質シルトと粗砂の互層・暗灰色粘土・黒灰色細砂混粘質シルト・淡灰黄色～淡灰緑色粗砂・暗灰褐色粘質シルト・暗灰青色粗砂・暗青色褐色細砂混粘土で、砂層を基調としている（第252図）。遺物は、砂層内から布留式古相に比定される土器・木製品・自然木などの破片がコンテナ箱にして約２箱分出土している。土器には壷（39～53）・Ｖ様式系甕（54）・庄内式甕（55～60）・布留式甕（61～65）・瀬戸内地方の甕（66）・甕（67）・鉢（68）・器台（69）・高杯（70～72）がある。木製品には高床式建物に使用されたと考えられるはしご片１点（73）が出土している大きさは残存長35cm、幅13cm、厚み8.5cmと３cmを測る（第253・254図）。



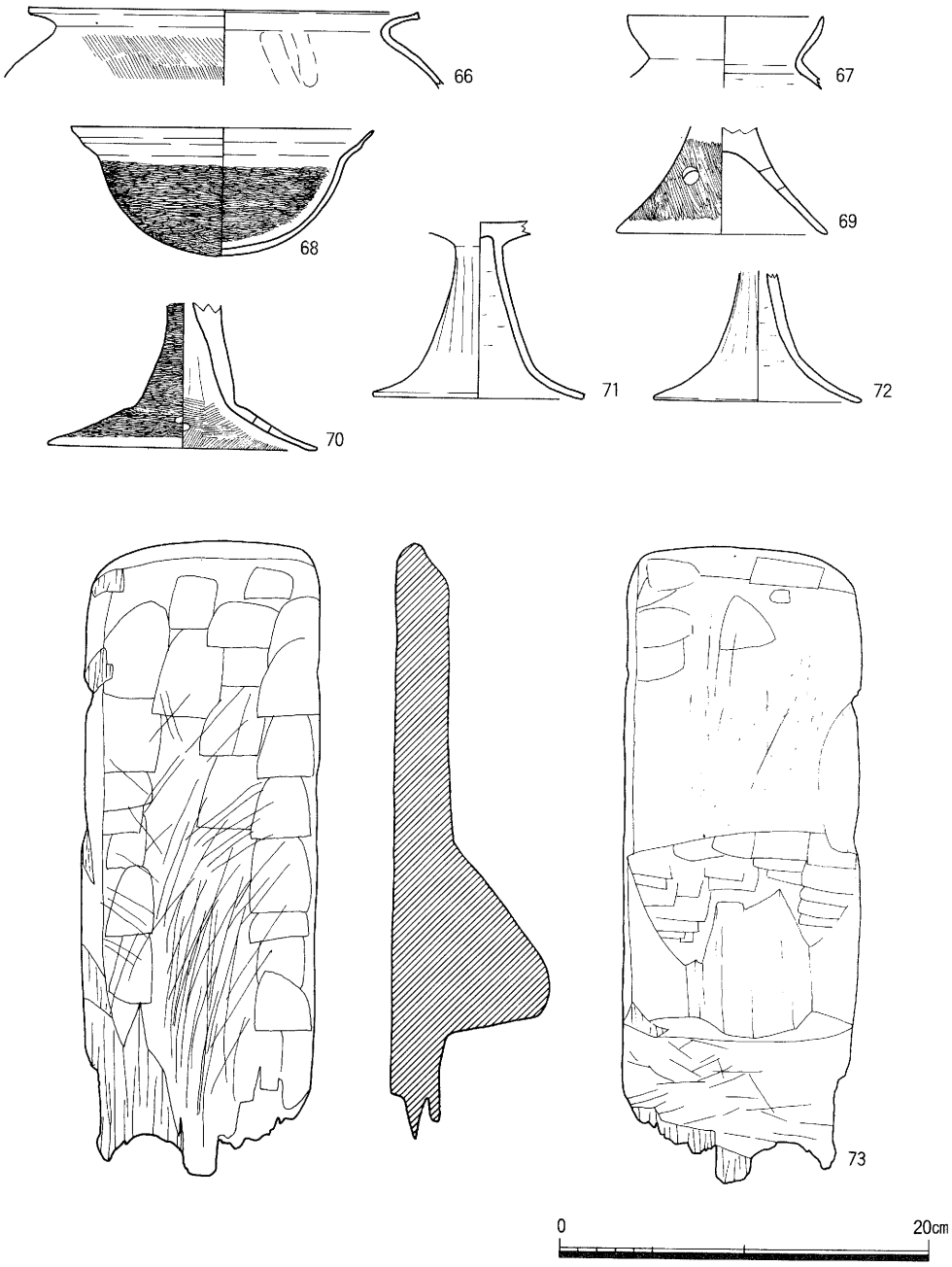
1　褐灰色粗砂混シルト
2　暗灰色シルト混粘土
3　淡灰褐色砂礫混シルト
4　暗灰色粘質シルト
　と粗砂の互層
　（木片を含む）
5　暗灰色粘土
6　黒灰色細砂混粘質シルト
　（木片を含む）
7　淡灰黄色～淡灰緑色粗砂
　（木片を多く含む）
8　暗青灰色細砂混粘土
9　暗灰色粘質シルト
　（細砂が少量混じる）
10　暗青灰色粗砂
11　９と同層

0　2 m

第252図　河川１断面図



第253図　河川１出土遺物実測図１



第254図　河川1出土遺物実測図2

３）第３調査面（鎌倉時代～室町時代）

溝（ＳＤ）

ＳＤ76～ＳＤ84

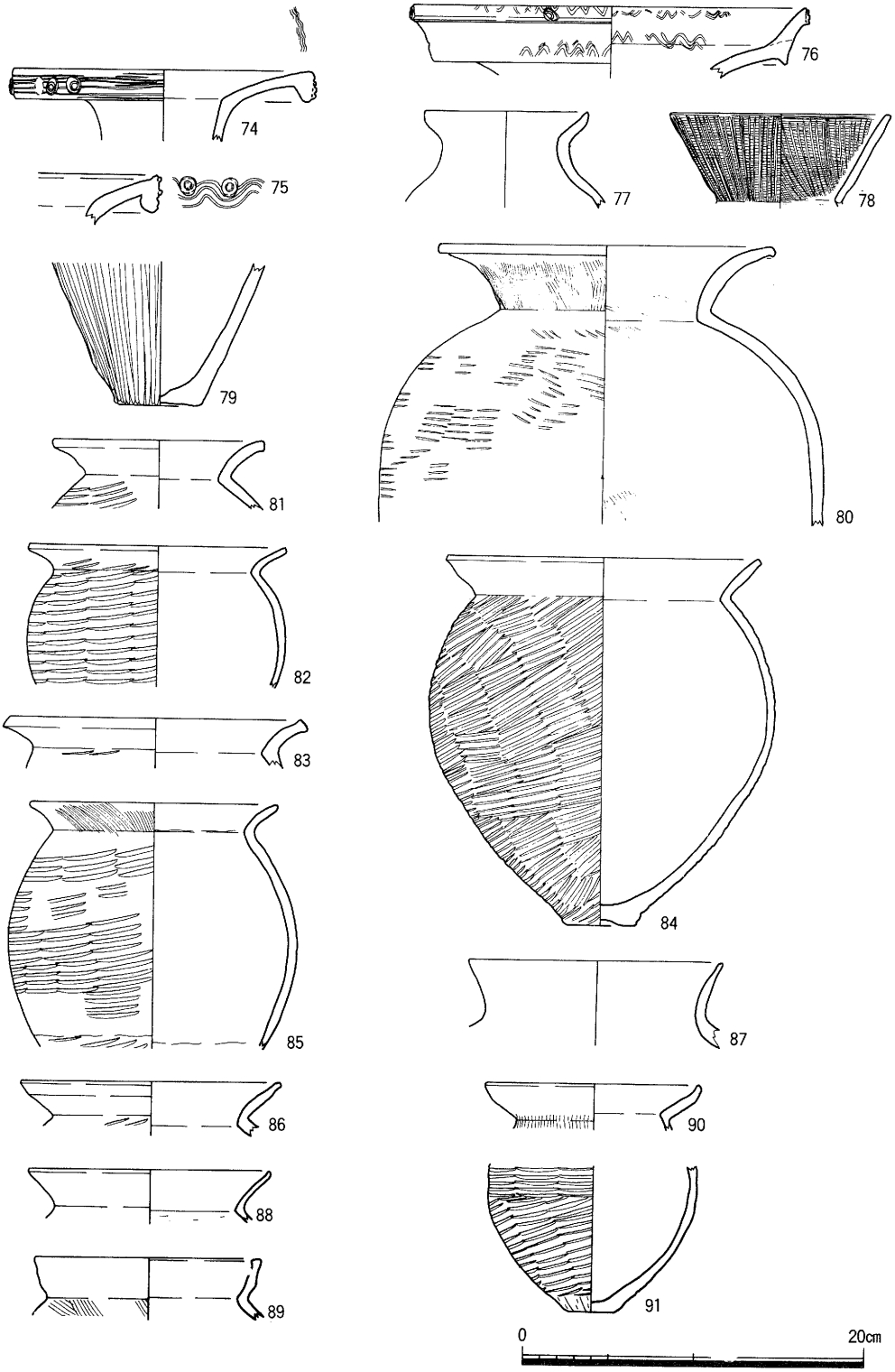
９条を検出した。これらの溝はすべて農耕に関連する鋤溝・畝溝などである。方向には東西方向のもの（６条）、南北方向のもの（３条）がある。規模は検出部で、幅13～60㎝、深さ５～19㎝を測る。断面は逆台形を呈し、内部には淡茶褐色砂礫混粘質土及び灰色微砂混シルトなどが堆積している。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る摩耗した土器の小片がごく少量出土している。以下、各溝（ＳＤ）の法量などについて第30表に記す。

４）遺構に伴わない出土遺物

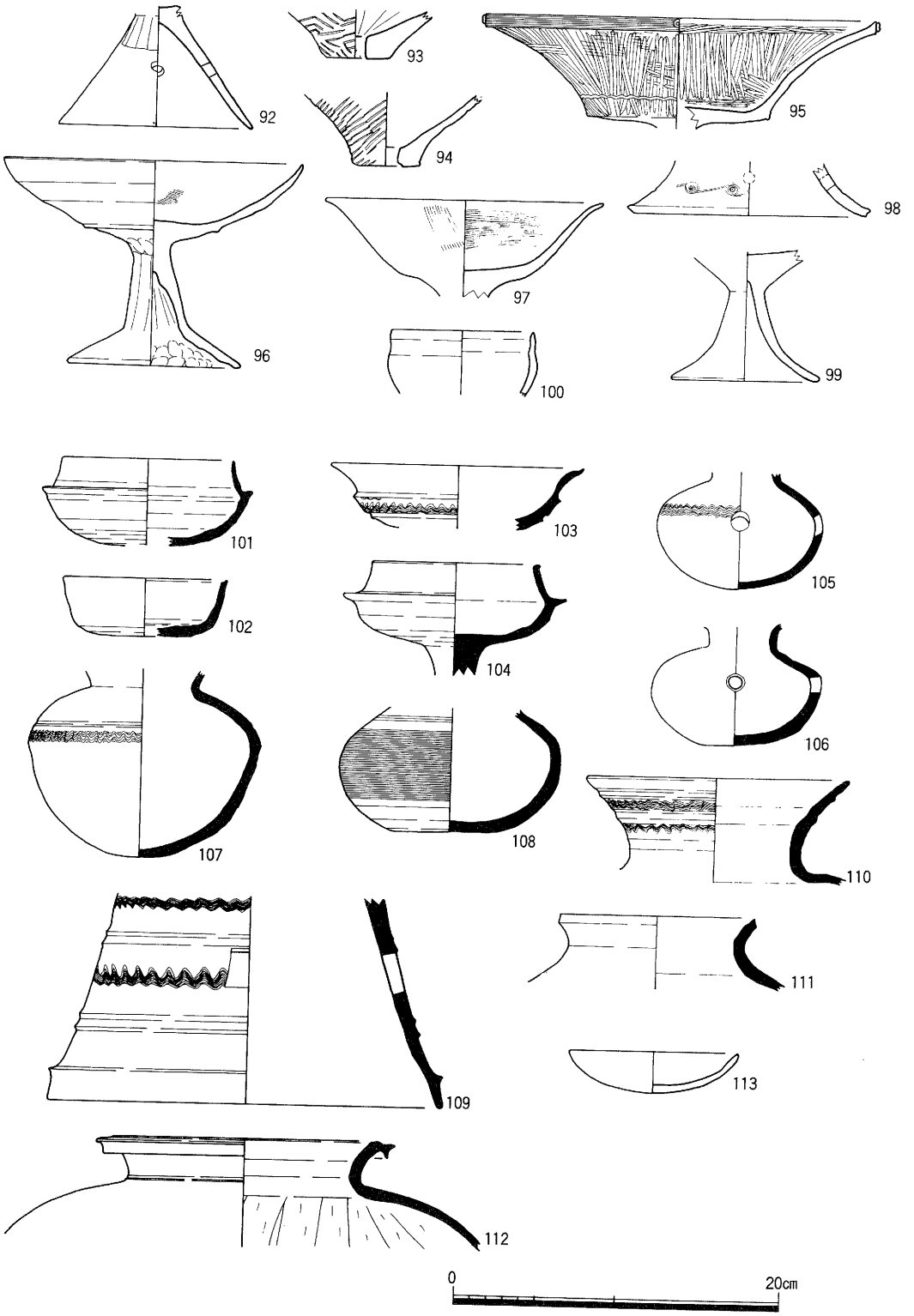
第３・４層で出土した。出土量はコンテナ箱にして約５箱分である。ほとんどが中央部から出土した。時期で弥生時代中期末～鎌倉時代に至る土器である。以下、図示できたものについて記す（第255・256図）。弥生時代中期末に比定されるものは、壷(79)である。弥生時代後期末に比定されるものは、甕(81～86)・有孔鉢(93・94)である。古墳時代前期に比定されるものは、壷(74～78)・甕(80・87・90)第Ⅴ様式系甕(84・91)。庄内式甕(88)・器台(92)・高杯(95・98・99)である。古墳時代中期に比定されるものは、甕(89)・高杯(96・97)・杯(100)・須恵器の杯身(101)・高杯(103・104)・鼓(105・106)・壷(107・108)・大型器台(109)・甕（110～112）である。古墳時代末期に比定されるものは、須恵器の杯身(102)である。鎌倉時代に比定されるものは、瓦器小皿(113)である。

第30表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	方　向	断面形	径	深さ	堆　積　土	備　考
ＳＤ76	ＧⅣ－ｇ９～ｇ10	東－西	逆台形	14～23	９	灰色微砂混シルト	
ＳＤ77	ＧⅣ－ｇ９～ｇ10	東－西	逆台形	30	16～22	淡褐色砂礫混粘質シルト	
ＳＤ78	ＧⅤ－ｇ１～ｇ３	東－西	逆台形	13～60	10	淡灰褐色シルト	ＳＤ80に切られる。
ＳＤ79	ＧⅤ－ｇ２～ｇ３	東－西	逆台形	40以上	11	淡茶褐色砂礫混砂質土	
ＳＤ80	ＧⅤ－ｇ１～ｇ３	東－西	逆台形	19～36	７	淡茶褐色砂礫混砂質土	
ＳＤ81	ＧⅣ－ｇ３	南－北	逆台形	25	５	淡茶褐色砂礫混砂質土	ＳＤ78～80に切られる。
ＳＤ82	ＧⅤ－ｇ３	南－北	逆台形	16～29	９	暗灰色砂礫混粘質土	ＳＤ78～80を切る。
ＳＤ83	ＧⅤ－ｇ３	南－北	逆台形	35～47	11	淡褐灰色砂礫混粘質シルト	ＳＤ78・79を切る。
ＳＤ84	ＧⅤ－ｇ３～ｇ５	東－西	逆台形	10～20	８	灰色微砂混シルト	



第255図　遺構に伴わない出土遺物実測図1



第256図　遺構に伴わない出土遺物実測図２

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 ——八	壺 (土師器) SW1	口径 13.3 器高 15.6 最大径 14.4	最大径を下位にもつ偏平な球形の体部から屈曲し、斜上方へのびた後、僅かに屈曲し、外上方へのびる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は尖り気味の小さな平底。口縁部外面の屈曲部には稜がみられる。端部外面・稜の外面にキザミ目を施し、口縁部外面に１帯５本・体部外面上位１帯４本・中位に１帯４本の波状文が巡り、頸部外面に５本・体部外面上位に３本の沈線が巡る。体部下位に穿孔を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	灰褐色	６㎜以下の砂粒を多量に含む。	良	完形。
2 ——八	同上 SW1	口径 15.2	口縁部は上方へ伸びた後屈曲して斜上方へ伸び、端部は上につまみ、外側に面をもつ。体部は欠損。端部内外面には円形竹管圧文が巡る。 口縁部内外面上位ヘラミガキ、外面下位ハケナデ（８本）、内面下位ナデ。	外　褐灰色 内　淡茶色	５㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
3 ——八	同上 SW1	口径 17.8	口縁部は外上方へ大きく外反して伸び、端部は下方に垂れ下がる。体部は欠損。端部外面には２つで一対の円形竹管圧文が巡る。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	淡茶褐色	４㎜以下の長石・角閃石・石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
4 ——八	甕 (土師器) SW1	口径 12.9 器高 11.4	楕円形の体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや変形した突出気味の平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（４本）、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	５㎜以下の砂粒を多量に含む。	良	
5 ——八	同上 SW1	口径 13.8 最大径 16.0	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。体部外面に３本・内面に５本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（２本）、内面ナデ。	暗灰褐色	５㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
6 ——八	同上 SW1	口径 15.8 器高 16.5 底径 3.8 最大径 16.4	球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外傾する面をもつ。底部は突出した小さな窪み底。体部内面に２本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）、内面ヘラナデ。	外　茶灰色～茶色 内　茶灰色	５㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	
7 ——八	同上 SW1	口径 15.2	球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。底部は欠損。体部外面下位に３本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）、内面上中位ヘラナデ、下位ハケナデ。	淡茶褐色	３㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	体部内面下位に炭化物付着。
8 SW1	同上	口径 15.9	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）、内面ナデ。	外　淡茶橙色 内　淡茶褐色	３㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
9 ——八	鉢 (土師器) SW1	口径 10.0 器高 7.2	半球形の体部で、口縁部端部は丸い。 体部外面タタキ（３本）、内面ナデ、底部外面指頭痕・ヘラ削り。	暗茶灰色	５㎜以下の砂粒を少量含む。	良	
10 ——九	同上 SW1	口径 19.6 器高 6.6	浅い半球形の体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ヘラミガキ。	茶褐色	５㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。

第1調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
11 一一九	高杯 (土師器) SW1	口径 16.7	外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外側に面をもつ。端部内外面・屈曲部外面（2箇所）に円形竹管圧文が巡る。脚部は欠損。 内外面ヘラミガキ。	茶灰色	5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
12 一一九	同上 SW1	口径 21.5 器高 17.5 底径 13.6	やや平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。脚部は下方へ伸びる中実の柱状部から屈曲し、外下方へ外反して開く裾部に至る。端部は丸い。裾部に四方孔を有する。 裾部外面上位ヘラミガキ、他は摩滅の為調整不明瞭。	淡茶灰色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
13 一一九	壺 (土師器) SK9	口径 14.0	口縁部は外上方へ外反して伸びる。端部は上下に肥厚し、外側に面をもつ。口縁部下位以下は欠損。端部外面に1本の接合痕を有する。 内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	3㎜以下の石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
14 一一九	鉢 (土師器) SK9	口径 16.6 器高 6.4 底径 2.4	半球形の体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや突出した平底。 内外面ヘラミガキ、底面ナデ。	乳灰色～淡橙色	3㎜以下のチャート・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面下位に黒斑有。
15 一一九	甕 (土師器) SK9上	口径 12.8	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（8本）、内面ヘラ削り。	乳灰茶色	1㎜以下の石英・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	
16 一一九	同上 SP68	口径 13.4 器高 23.5 最大径 20.8	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（7本）、内面ヘラナデ。	褐茶色	1.5㎜以下の角閃石・長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
17 一一九	高杯 (須恵器) SD9	口径 18.2	半球形に近い杯部から上外方にのびる口縁部に至る。端部は丸い。杯部外面中位に2箇所の稜があり、その間には1帯11本の波状文が巡る。杯底部以下は欠損。 杯部外面下位回転カキ目、他は回転ナデ。	暗灰色	精良。	良好	内面に自然釉・灰かぶり付着。 ロクロ方向不明。
18 一一九	甕 (土師器) SD10	口径 15.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳茶灰色	2㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
19 一一九	同上 SD10	口径 12.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
20 一一九	鉢 (土師器) SD10	口径 16.0	浅い半球形の体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	乳茶灰色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
21 一一九	壺 (土師器) 包含層	口径 9.0 器高 15.7 最大径 15.6	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。体部外面下位に1本の接合痕を有する。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ヘラミガキ、体部外面上位ヘラミガキ、中位以下摩耗の為調整不明瞭、内面ナデ。	乳茶灰色～明茶色	2.5㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。

第１調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
22	壺 (土師器) 包含層	口径 23.5	端部は上下に脂厚し、外側に面をもつ。口縁部・体部は欠損。端部外面には４本の沈線が巡り、その上に二重に円形竹管圧文を施した円形浮文を張付けている。 外面ヨコナデ、内面ヨコナデ・指頭圧痕。	茶褐色	1.5 ㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
23	甕 (土師器) 包含層	口径 10.7	上内方へ伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面上位ヨコナデ、下位ナデ。	茶褐色	２㎜以下の石英･長石･チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	
24	同上 包含層	口径 11.5	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は下方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡橙茶色	0.5 ㎜以下のチャート等の砂粒を少量含む。	良好	
25	同上 包含層	口径 13.9	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ､体部内面ヘラ削り。	茶灰色	３㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
26	同上 包含層	口径 14.6	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ､体部内面ヘラ削り。	外　淡茶橙色 内　暗茶褐色	１㎜以下のチャート・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
27	同上 包含層	口径 13.4 器高 11.6 底径 3.4	球形に近い体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや突出した窪み底。体部内面上位に２本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）、内面ナデ。	外　暗茶灰色 内　暗茶褐色	３㎜以下の長石･雲母･石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
28	同上 包含層	口径 14.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）、内面ナデ。	淡茶橙色	３㎜以下の長石･石英･雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
29	同上 包含層	口径 12.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）、内面ナデ。	淡茶橙色	４㎜以下の長石･石英･雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
30	同上 包含層	口径 13.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 内面ヨコナデ。	淡茶褐色	３㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
31	同上 包含層	口径 15.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（２本）、内面ナデ。	淡茶褐色	２㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
32	同上 包含層	口径 12.7	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗の為調整不明瞭。内面ナデ。	外　淡茶色 内　明茶色	2.5 ㎜以下の長石・角閃石・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
33 一一九	甕 (土師器) 包含層	口径 15.4	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(7本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	3㎜以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
34 一二〇	同上 包含層	口径 14.4 器高 17.5 最大径 17.8	球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面剝離の為調整不明瞭、内面ヘラ削り。	淡茶灰色～橙茶色	7㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	体部外面中位以下に煤付着。
35	同上 包含層	口径 26.4	口縁部は斜上方へ伸び、端部は外に面をもつ。体部は欠損。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	茶赤褐色	1㎜以下のチャート等の砂粒を少量含む。	良好	
36	同上 包含層	口径 17.0	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	2㎜以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
37	同上 包含層	口径 12.4	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。頸部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(8本)、内面ヘラナデ。	外　淡灰褐色 内　淡茶褐色	3㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
38	同上 包含層	口径 17.6	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ?、体部内外面ハケナデ(6本)。	暗褐茶色	1㎜以下の角閃石・雲母・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
39	同上 包含層	口径 22.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面上位指ナデ、中位ヘラ削り。	暗赤褐色	3㎜以下の長石・雲母・角閃石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面中位に黒斑有。
40	同上 包含層	口径 20.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部中位以下は欠損。頸部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ナデ。	褐茶色	3㎜以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
41 一二〇	同上 包含層	口径 18.7	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面・体部外面ハケナデ(外7本・内6本)、内面ヘラ削り。	橙茶色	1.5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
42	同上 包含層	口径 20.6	内上方へ伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや外方に肥厚して丸く終わる。体部は欠損。 外面ハケナデ(3本)、内面ヨコナデ。	外　淡茶橙色 内　乳橙色	3㎜以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
43 一二〇	小型鉢 (土師器) 包含層	口径 6.9 器高 3.9	半球形の体部から僅かに屈曲して口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ナデ。	淡橙茶色	1㎜以下の石英・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	底部外面に黒斑有。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
44	鉢 (土師器) 包含層	口径 16.0	斜上方へ内湾気味に伸びる体部から緩やかに屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ヘラミガキ後ハケナデ（5本）。	淡茶橙色	3.5 ㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
45	同上 包含層	口径 16.0	斜上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
46	同上 包含層	口径 20.4	上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヘラミガキ。	外 茶褐色 内 褐茶色	4㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	
47	同上 包含層	口径 23.2	上外方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	外 明茶褐色 内 淡茶橙色	3㎜以下の赤褐色酸化粒・長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
48	同上 包含層	底径 3.4	杯部上位以上は欠損。杯部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出しない窪み底。 外面タタキ（4本）、内面ヘラナデ、底面ナデ。	外 淡茶褐色～淡茶橙色 内 暗灰茶色	3㎜以下の長石・赤褐色酸化粒・雲母・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	底部外面に煤付着。
49 一二〇	高杯 (土師器) 包含層	口径 14.2	平らな杯底部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文、杯底部外面ナデ。	淡橙色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
50 一二〇	同上 包含層	口径 17.5	半球形に近い杯部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる。脚部は欠損。 内外面調整不明瞭。	暗橙色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
51 一二〇	同上 包含層	底径 9.9	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反気味に開く。端部は外傾する面をもつ。脚部外面上位に1本の接合痕を有する。 杯底部内面・脚部外面ナデ、内面上位しぼり目、下位ハケナデ後ナデ、端部内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	2㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	柱状部外面に黒斑有。
52	同上 包含層	底径 9.1	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から、外下方へ外反して開く裾部に至る。端部は丸い。柱状部下位に三方孔を有する。 柱状部内面くりぬき、他は剝離の為調整不明瞭。	淡茶褐色	0.5 ㎜以下のチャート等の砂粒を少量含む。	良好	
53 一二〇	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径 9.8 器高 5.3 つまみ径 2.5 つまみ高 0.8	高く丸い天井部から下外方へ内湾して伸びる。稜は痕跡を残す。口縁部は下方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。天井部中央には断面凹状のつまみが付く。 天井部外面2/5 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	精良。	良好	外面灰かぶり。 ロクロ左方向。
54	同上 包含層	口径 12.0 稜径 12.2	天井部は欠損。天井部から外下方へ伸び、稜に至る。稜は鈍い。口縁部は下方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 内外面回転ナデ。	淡灰青色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
55 一二〇	杯蓋 (須恵器) 包含層	口径 13.2 器高 4.4 稜径 13.2	やや低く丸みをもつ天井部から外下方へ伸び、稜に至る。稜は外下方へ伸び、鈍く尖る。口縁部は下方へ伸び、端部は内傾して凹面をもつ。 天井部外面約1/2 回転ヘラ削り、天井部内面約1/2 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	青灰色	0.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 天井部外面灰かぶり。
56 一二一	同上 包含層	口径 12.9 器高 3.9 稜径 12.8	やや底く平らに近い天井部から下外方へ内湾気味に伸び、稜に至る。稜は痕跡を残す。口縁部は下方へ伸び、端部は内傾して凹面をもつ。 天井部外面1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 淡灰青色 内 淡青灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	完形。 ロクロ右方向。
57 一二一	同上 包含層	口径 13.0 器高 4.4 稜径 12.8	やや高く平らな天井部から下外方へ伸び、稜に至る。稜は水平に伸び、鈍く尖る。口縁部は下方へ伸び、端部は下に面をもつ。 天井部外面6/7 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰青色	4㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
58 一二一	杯身 (須恵器) 包含層	口径 9.6 器高 4.5 受部径 12.0 立ち上がり高 2.0	やや深く丸みのある底体部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は上に面をもつ。 底体部外面1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗青灰色	2㎜以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
59 一二一	同上 包含層	口径 12.0 器高 5.0 受部径 14.2 立ち上がり高 2.2	深く丸みをもつ底体部から上外方へ内湾気味に伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳青褐色	4㎜以下の長石・石英等の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
60 一二一	高杯 (須恵器) 包含層	口径 11.4 受部径 13.0 立ち上がり高 1.6	深く丸い杯底部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、鈍く尖る。立ち上がりは上方へ伸び、端部は内傾して凹面をもつ。脚部は下外方へ伸びる。脚部は欠損。脚部に三方向の台形スカシを有する。 底体部外面約1/3 回転ヘラ削り、底体部内面3/7 ・脚部内面不定方向のナデ、脚部外面回転カキ目、他は回転ナデ。	青灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
61 一二一	同上 包含層	底径 8.6	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸び、端部は凸状面を成し、外傾する面をもつ。脚部に三方向の方形スカシを有する。 内外面回転ナデ。	淡青灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
62	同上 包含層	底径 10.8	脚部上位以上は欠損。脚部は外下方へ伸び、端部は凸状面を成す。脚部上位にスカシを有すると思われる。 内外面回転ナデ。	淡灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
63 一二一	壺 (須恵器) 包含層	口径 10.4	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。外面には2つの稜があり、その間に1帯10本とその下に5本の波状文が巡る。 内外面回転ナデ。	灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。
64 一二一	同上 包含層		底部部分の破片である。体部内面下位に2本の接合痕を有する。 外面格子タタキ、内面不定方向のナデ。	青灰色	精良。	良好	ロクロ方向不明。